

| | | | |
|----------------|------------|----------|---|
| 科目名 | 経営学 I | 科目名 (英文) | Introduction to Business Administration I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 畠山 俊宏 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS1001a0 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 本講義の目的は、経営学の各分野の基本的な知識を習得し、それらの知識に基づいて企業の活動を分析する能力を習得することである。本講義では、教員による講義と経営学検定の過去問題の演習を通じて、経営学の基本的な内容について学習する。 授業担当者は、民間企業における経理事務の経験から企業の経営活動の実践的な分析方法を教授する。 |
| 到達目標 | ①企業論、経営戦略論、経営組織論、国際経営論の基礎的な内容を説明できる。(DP 2) ②経営理論に基づいて企業の活動を分析できる。 |
| 授業方法と留意点 | 授業の前半は、パワーポイントによる解説を行う。後半は、学習内容に関連した経営学検定の過去問題の演習を行う。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------|---|--|
| | | | |
| 1 | 企業と経営 | 本講義のガイダンスと企業と経営の概要について学習する。 | 事前：シラバスと教科書の第 1 部第 1 章を読んでおくことを事前に読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間) |
| 2 | 企業・会社の概念と諸形態 | 様々な企業の形態について学習する。 | 事前：教科書の第 1 部第 2 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間) |
| 3 | 所有・経営・支配と経営目的 | 株式会社の所有と経営の関係について学習する。 | 事前：教科書の第 1 部第 3 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間) |
| 4 | 会社機関とコーポレート・ガバナンス | 株式会社の様々な機関とコーポレートガバナンスについて学習する。 | 事前：教科書の第 1 部第 4 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間) |
| 5 | 経営戦略の体系と理論 | 経営戦略の概念や経営戦略論の発展について学習する。 | 事前：教科書の第 2 部第 1 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間) |
| 6 | 全社戦略 (1) | 全社戦略の概要やドメインについて学習する。 | 事前：教科書の第 2 部第 2 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間) |
| 7 | 全社戦略 (1) | 成長のための戦略について学習する。 | 事前：教科書の第 2 部第 2 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間) |
| 8 | 事業戦略 | 事業戦略や競争戦略について学習する。 | 事前：教科書の第 2 部第 3 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間) |
| 9 | 機能別戦略 | 研究開発、生産、マーケティング、人事等の機能別の戦略について学習する。 | 事前：教科書の第 2 部第 4 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間) |
| 10 | 経営組織の基本形態 | ライン組織、ファンクショナル組織、ライン・アンド・スタッフ組織等の経営組織の基本形態について学習する。 | 事前：教科書の第 3 部第 2 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間) |
| 11 | 企業組織の諸形態 (1) | 職能部門制組織、事業部制組織等の企業組織の様々な形態について学習する。 | 事前：教科書の第 3 部第 3 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間) |
| 12 | 企業組織の諸形態 (2) | マトリックス組織等の企業組織の様々な形態について学習する。 | 事前：教科書の第 3 部第 3 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間) |
| 13 | M&A と買収防衛策 | M&A の目的・手法、買収防衛策について学習する。 | 事前：教科書の第 5 部第 1 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間) |
| 14 | 経営のグローバル化 | 経営の国際化、グローバル化について学習する。 | 事前：教科書の第 5 部第 2 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間) |
| 15 | 企業経営と情報化 | 企業経営における情報化の進展、情報ビジネスについて学習する。 | 事前：教科書の第 5 部第 3 章を読んでおくこと。小テストに解答しておくこと (1.5 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間) |

関連科目 現代企業論、経営戦略論、経営組織論、人的資源管理論、国際経営論

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----------------|--------|------------|
| | 1 | 経営学検定試験公式テキスト 1 | 経営学の基本 | 経営能力開発センター |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

評価方法 (基準) 第 14 回の講義後に Moodle で実施する小テスト 20%、期末レポート 80% で評価する。

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 予習・復習を行い、問題演習に積極的に取り組んで欲しい。 |
| 担当者の研究室等 | 11号館8階 島山研究室 |
| 備考 | ①小テストは、第14回の講義終了後から第15回の講義の前日23時まで回答しなければならない。得点は、回答終了後にMoodleで表示されるので各自で確認すること。 ②講義資料は配布しないので各自で印刷して持参すること。講義資料の保存場所は初回の講義で説明する。 ③授業に関する質問はメールで対応する。メールアドレスは講義資料に記載する。 |

| | | | |
|----------------|------------|----------|---|
| 科目名 | 経営学 I | 科目名 (英文) | Introduction to Business Administration I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 畠山 俊宏 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS1001a0 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 本講義の目的は、経営学の各分野の基本的な知識を習得し、それらの知識に基づいて企業の活動を分析する能力を習得することである。本講義では、教員による講義と経営学検定の過去問題の演習を通じて、経営学の基本的な内容について学習する。 授業担当者は、民間企業における経理業務の経験から企業の経営活動の実践的な分析方法を教授する。 |
| 到達目標 | ①企業論、経営戦略論、経営組織論、国際経営論の基礎的な内容を説明できる。(DP 2) ②経営理論に基づいて企業の活動を分析できる。 |
| 授業方法と留意点 | 授業の前半は、パワーポイントによる解説を行う。後半は、学習内容に関連した経営学検定の過去問題の演習を行う。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------|---|--|
| | | | |
| 1 | 企業と経営 | 本講義のガイダンスと企業と経営の概要について学習する。 | 事前：シラバスと教科書の第 1 部第 1 章を読んでおくことを事前に読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間) |
| 2 | 企業・会社の概念と諸形態 | 様々な企業の形態について学習する。 | 事前：教科書の第 1 部第 2 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間) |
| 3 | 所有・経営・支配と経営目的 | 株式会社の所有と経営の関係について学習する。 | 事前：教科書の第 1 部第 3 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間) |
| 4 | 会社機関とコーポレート・ガバナンス | 株式会社の様々な機関とコーポレートガバナンスについて学習する。 | 事前：教科書の第 1 部第 4 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間) |
| 5 | 経営戦略の体系と理論 | 経営戦略の概念や経営戦略論の発展について学習する。 | 事前：教科書の第 2 部第 1 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間) |
| 6 | 全社戦略 (1) | 全社戦略の概要やドメインについて学習する。 | 事前：教科書の第 2 部第 2 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間) |
| 7 | 全社戦略 (1) | 成長のための戦略について学習する。 | 事前：教科書の第 2 部第 2 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間) |
| 8 | 事業戦略 | 事業戦略や競争戦略について学習する。 | 事前：教科書の第 2 部第 3 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間) |
| 9 | 機能別戦略 | 研究開発、生産、マーケティング、人事等の機能別の戦略について学習する。 | 事前：教科書の第 2 部第 4 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間) |
| 10 | 経営組織の基本形態 | ライン組織、ファンクショナル組織、ライン・アンド・スタッフ組織等の経営組織の基本形態について学習する。 | 事前：教科書の第 3 部第 2 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間) |
| 11 | 企業組織の諸形態 (1) | 職能部門制組織、事業部制組織等の企業組織の様々な形態について学習する。 | 事前：教科書の第 3 部第 3 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間) |
| 12 | 企業組織の諸形態 (2) | マトリックス組織等の企業組織の様々な形態について学習する。 | 事前：教科書の第 3 部第 3 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間) |
| 13 | M&A と買収防衛策 | M&A の目的・手法、買収防衛策について学習する。 | 事前：教科書の第 5 部第 1 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間) |
| 14 | 経営のグローバル化 | 経営の国際化、グローバル化について学習する。 | 事前：教科書の第 5 部第 2 章を読んでおくこと (1 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間) |
| 15 | 企業経営と情報化 | 企業経営における情報化の進展、情報ビジネスについて学習する。 | 事前：教科書の第 5 部第 3 章を読んでおくこと。小テストに解答しておくこと (1.5 時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1 時間) |

関連科目 現代企業論、経営戦略論、経営組織論、人的資源管理論、国際経営論

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----------------|--------|------------|
| | 1 | 経営学検定試験公式テキスト 1 | 経営学の基本 | 経営能力開発センター |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

評価方法 (基準) 第 14 回の講義後に Moodle で実施する小テスト 20%、期末レポート 80% で評価する。

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 予習・復習を行い、問題演習に積極的に取り組んで欲しい。 |
| 担当者の研究室等 | 11号館8階 島山研究室 |
| 備考 | <p>①小テストは、第14回の講義終了後から第15回の講義の前日23時まで回答しなければならない。得点は、回答終了後にMoodleで表示されるので各自で確認すること。</p> <p>②講義資料は配布しないので各自で印刷して持参すること。講義資料の保存場所は初回の講義で説明する。</p> <p>③授業に関する質問はメールで対応する。メールアドレスは講義資料に記載する。</p> |

| | | | |
|----------------|------------|----------|--|
| 科目名 | 経営学Ⅱ | 科目名 (英文) | Introduction to Business Administration II |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 北 真収 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS1002a0 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 経営学の基本について全体を網羅して講義を行います。授業で紹介する代表的な事例を通じて、経営学への理解を深めます。企業での企画調査や海外駐在の実務経験を講義に取り入れます。 |
| 到達目標 | 経営とは何か、何が課題なのかなど、現実即して経営への疑問を広く理解し基礎知識を身につけることが目標です (DP 2)。 |
| 授業方法と留意点 | 事例を紹介しながら経営知識を講義します。理解を助けるために DVD など活用します。 学習課題への応答を求めるなど参加を重視します。 小テスト、中間テストの解答例は試験後に解説します。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 経営学検定、中小企業診断士、公務員試験 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------|-------------------------------|--|
| | | | |
| 1 | ガイダンス | 授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価について説明します | 事前：シラバスを読んでおく 事後：講義内容を復習する |
| 2 | 企業と社会 | 企業の社会的責任を中心に講義します | 事前：教科書の1章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間) |
| 3 | 企業の種類 | 私的企業、公的企業について講義します | 事前：教科書の2章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間) |
| 4 | 企業理念と企業文化 | 企業理念や企業文化の形成について講義します | 事前：教科書の3章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間) |
| 5 | 企業統治 | 経営者を規律づけるしくみ (ガバナンス) を学びます | 事前：教科書の4章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間) |
| 6 | 企業倫理 | 不祥事を未然に防ぐことについて考えます | 事前：教科書の5章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間) |
| 7 | 企業戦略、競争戦略 | 企業の成長、競争に打ち勝つ考え方を説明します | 事前：教科書の6章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間) |
| 8 | 企業財務 | 資金の調達、運用について説明します | 事前：教科書の7章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間) |
| 9 | 合併・買収 (M&A) | 合併・買収の意義や効果を考えます | 事前：教科書の8章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間) |
| 10 | イノベーション | 新しい事業の創出、そのプロセスについて講義します | 事前：教科書の9章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間) |
| 11 | マーケティング | 製品やサービスの販売 (対象や価値伝達) に関して学びます | 事前：教科書の10章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間) |
| 12 | 組織の構造 | 企業が活動できるしくみを学びます | 事前：教科書の11章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間) |
| 13 | ものづくり | 多品種少量生産を中心にものづくりの発展について学びます | 事前：教科書の12章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間) |
| 14 | 仕事と生活の調和 | ワークライフバランスの必要性、多様な働き方について考えます | 事前：教科書の13章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間) |
| 15 | 国際経営 | グローバルな経営組織や経営の現地化について講義します | 事前：教科書の14章を読んでおく (2時間) 事後：講義内容を復習する (2時間) |

| | |
|------|------------------------------------|
| 関連科目 | 経営組織論、経営管理論、人的資源管理論、経営戦略論、グローバル経営論 |
|------|------------------------------------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|----------------|------------|------|
| | 1 | 実践に学ぶ経営学 (改訂版) | 風間信隆・松田健編著 | 文真堂 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|------------|--|
| 評価方法 (基準) | 複数回行う小テスト (合計100%) で評価します。 |
| 学生へのメッセージ | 代表的な事例を使って経営知識を解説します。事例に興味を持って取り組んでください。 |
| 担当者の研究室等備考 | 寝屋川 11 号館 8 階 北 真収研究室 (相談時は事前に連絡してください) |

| | | | |
|----------------|------------|----------|---------------------|
| 科目名 | 経営管理論 | 科目名 (英文) | Business Management |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 島山 俊宏 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS1003a0 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 本講義の目的は、経営管理の中心となる環境・組織・戦略の関係や理論を理解して企業のマネジメントを分析する能力を習得することである。教員による講義と学生同士のグループワークを通じて経営環境・経営戦略・経営組織の理論を学習する。経営管理論は、経営環境の分析、経営戦略の立案と実行、経営組織の編成などの企業のマネジメントを研究する学問として発展してきた。企業で活躍するためには経営環境・経営戦略・経営組織などの経営管理に関する主要な知識を習得することが不可欠となっている。授業担当者は、民間企業における経理業務の経験から企業のマネジメントの実践的な分析方法を教授する。 |
| 到達目標 | ①経営環境・経営戦略・経営組織の理論に関する基本的な内容を説明できる。(DP 2) ②経営環境・経営戦略・経営組織の理論に基づいて企業のマネジメントを分析できる。 |
| 授業方法と留意点 | パワーポイントによる解説を中心に授業を行う。学習内容に関連したグループワークを適宜実施する。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------|--|--|
| | | | |
| 1 | 戦略とは | 本講義のガイダンスと経営環境、経営戦略、経営組織の関係について学習する。 | 事前：シラバスと教科書の序章を事前に読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間) |
| 2 | 業界の構造 | 5つの競争要因、戦略グループ、移動障壁について学習する。 | 事前：教科書の第1章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間) |
| 3 | 取り巻く環境 | PEST分析、3C分析、SWOT分析について学習する。 | 事前：教科書の第2章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間) |
| 4 | 基本戦略 | コスト・リーダーシップ戦略、差別化戦略、集中戦略について学習する。 | 事前：教科書の第3章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間) |
| 5 | 製品ライフサイクル別戦略 | 製品ライフサイクルの4段階 (導入期・成長期・成熟期・衰退期) について学習する。 | 事前：教科書の第4章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間) |
| 6 | 市場地位別戦略 | 市場における4つの地位 (リーダー・チャレンジャー・ニッチャー・フォロワー) について学習する。 | 事前：教科書の第5章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間) |
| 7 | リソース・ベースト・ビュー | 経営資源、VRIO分析、コア・コンピタンスについて学習する。 | 事前：教科書の第6章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間) |
| 8 | 事業システム | 価値連鎖、価値システムについて学習する。 | 事前：教科書の第7章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間) |
| 9 | 事業領域 | 企業成長とドメイン、ドメインの物理的定義と機能的定義について学習する。 | 事前：教科書の第8章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間) |
| 10 | 成長戦略 | 成長マトリックス、多角化の種類、シナジー効果について学習する。 | 事前：教科書の第9章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間) |
| 11 | 資源展開 | プロダクトポートフォリオマネジメントについて学習する。 | 事前：教科書の第10章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間) |
| 12 | 戦略の社会的側面 | CSR (企業の社会的責任) とCSV (共有価値の創造) について学習する。 | 事前：教科書の第11章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間) |
| 13 | 組織構造 | 経営組織の種類、コンティンジェンシー理論について学習する。 | 事前：教科書の第12章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間) |
| 14 | 組織文化 | 組織文化の機能、組織文化のマネジメントについて学習する。 | 事前：教科書の第13章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間) |
| 15 | 企業変革 | 変革型リーダー、組織開発、人材マネジメントについて学習する。 | 事前：教科書の第14章を読んでおくこと。小テストに解答しておくこと (1.5時間) 事後：教科書と講義資料を読み返しておくこと (1時間) |

関連科目 経営学 I・II、経営組織論、経営戦略論、人的資源管理論

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-------------|--------------------|------|
| 1 | 1からの戦略論 第2版 | 嶋口充輝・内田和成・黒岩健一郎 編著 | 碩学舎 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

評価方法 (基準) 第14回の講義後にMoodleで実施する小テスト20%、期末レポート80%で評価する。

学生へのメッセージ 予習・復習を行い、グループワークに積極的に参加して欲しい。

担当者の研究室等 11号館8階 島山研究室

備考 ①小テストは、第14回の講義終了後から第15回の講義の前日23時までには回答しなければならない。得点は、回答終了後にMoodleで表示されるので各自で確認すること。
②講義資料は配布しないので各自で印刷して持参すること。講義資料の保存場所は初回の講義で説明する。

③授業に関する質問はメールで対応する。メールアドレスは講義資料に記載する。

| | | | |
|----------------|------------|----------|----------------------------|
| 科目名 | 財務諸表論入門 | 科目名 (英文) | Introduction to Accounting |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 佐井 英子 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS1005a0 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | <p>会計情報は、債権者や投資家など特定の人々にのみ有用なものではない。今日の経済社会においては、すべての人々が企業活動と何らかの関係を持っている。企業は、地域社会をはじめ多くの関係者と利害関係を有しており、会計情報は、誰にとっても必要で有用な情報である。また、会計はビジネスの言語といわれ、知的職業人として活躍するために不可欠な知識である。会計を知らずして、経済社会を理解することはできないといえる。</p> <p>本講義では、会計の意義、目的、規範、会計情報開示制度等に関する基礎的知識・用語を初心者向けに分かり易く解説し、公表されている会計情報、財務諸表をから企業の経営内容を読み取り、理解できるようになり、また、2年生以降に履修することになる上級科目のより円滑な理解に結びつくことを目的とする。</p> |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・会計の目的、役割を理解する。(DP2) ・我が国の会計制度、会計情報開示制度の概要を理解する。(DP2) ・自ら必要な会計情報を収集し、簡単な分析ができるようになる。 ・主用財務諸表である、貸借対照表、損益計算書を作成することができる。 ・財務諸表の内容、作成ルールを理解し、会計情報から企業内容を推察することができる。 |
| 授業方法と留意点 | <p>原則として、対面授業を実施する。</p> <p>教材、課題の提出は、WebFolder を利用する。</p> |
| 科目学習の効果 (資格) | <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスマンとして必要なビジネス言語である会計リテラシーが修得できる。 ・組織 (主として企業) に関する会計情報を読み取る力を修得することにより2年次以降の学びに有用である。 ・経営学部に関連する一連の各種資格取得のための受験準備スタートのよい契機になる。 ・会計と資格、職業についての理解が得られる。(公認会計士、税理士、国税専門官、不動産鑑定士、中小企業診断士等) |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------|------------------------------------|---|
| | | | |
| 1 | 会計の意義と目的 | 会計の意義、財務会計と管理会計、会計の役割・機能 | 配布資料の復讐と整理 (1時間) |
| 2 | わが国の会計制度 | トライアングル体制、会社法会計、金融商品取引法会計、税務会計 | 事前学習 (30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習 (1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し |
| 3 | 会計情報開示制度 | ディスクロージャーとは、電子開示システム | 事前学習 (30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習 (1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し |
| 4 | 会計基準 | 企業会計原則、会計基準の国際的統合 | 事前学習 (30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習 (1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し |
| 5 | 会計情報の内容 (1) | 会計情報の入手方法、個別財務諸表と連結財務諸表 | 事前学習 (30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習 (90分) 当日の配布資料の見直しと提示された課題レポートの作成 |
| 6 | 会計情報の内容 (2) | 貸借対照表 様式、基本原則、分類基準 | 事前学習 (30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習 (1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し |
| 7 | 会計情報の内容 (3) | 貸借対照表 資産について | 事前学習 (30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習 (90分) 当日の配布資料の見直しと提示された課題レポートの作成 |
| 8 | 会計情報の内容 (4) | 貸借対照表 負債について | 事前学習 (30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習 (1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し |
| 9 | 会計情報の内容 (5) | 貸借対照表 純資産について | 事前学習 (30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習 (1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し |
| 10 | まとめと確認テスト | まとめと小テスト | 事前学習 (90分) 今までの配布資料、練習問題の復習 事後学習 (30分) まとめテストの見直し |
| 11 | 会計情報の内容 (6) | 損益計算書 収益の認識と測定 | 事前学習 (30分) まとめテストで理解できないところを調べる 事後学習 (1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し |
| 12 | 会計情報の内容 (7) | 損益計算書 費用の認識と測定 営業損益、経常損益、純損益 | 事前学習 (30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習 (1時間) |

| | | | | |
|---------------|---------------------------------|------------|--|---|
| | | | | 当日の配布資料、練習問題の見直し |
| | 13 | 会計情報の利用・分析 | 安全性分析、収益性分析 | 事前学習(30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(90分) 当日の配布資料の見直しと提示された課題レポートの作成 |
| | 14 | 会計と職業・資格 | 日商簿記検定、ビジネス会計検定試験、BATIC、公認会計士、税理士、国税専門官、不動産鑑定士、中小企業診断士 | 事前学習(30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し |
| | 15 | まとめ | 講義の復習とまとめ 質問の受付 | 事前学習(1時間) 今までの講義でどこが理解できていないか箇条書きにする。 事後学習(5時間) 試験に備え、今までの復習 |
| 関連科目 | 経営学、企業簿記 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | アカウンティング | 笹倉 淳史他 | 同文館出版 |
| | 2 | 1からの会計 | 桜井 久勝 | 中央経済社 |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 授業への(参加)と課題の提出(40%)、定期テスト(60%)、 | | | |
| 学生への メッセージ | 毎回授業に出席して、練習問題を自分で解いて下さい。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 佐井研究室(11号館8階) | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|------------|----------|--------------------------------------|
| 科目名 | マーケティング概論 | 科目名 (英文) | Introduction to Marketing Management |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 鶴坂 貴恵 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS1006a0 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 現在、いかなる組織においても、マネジメントを効果的に行い、目標を達成するにはマーケティング発想が不可欠である。本授業では、事例を交えながらマーケティングの基礎知識を身につけることを目的とする。知的専門職業人として活躍するため必要なマーケティングの視点で物事をとらえる事ができるようになることを到達目標とする。 中小企業等の組織におけるマネジメントのコンサルティングの実践経験から、製品開発や販売など実践事例を紹介しながら解説を行う。 |
| 到達目標 | 1) マーケティング論の基礎的な知識を習得する。(DP 2) 2) マーケティング論的な視点で物事をとらえ問題を発見できるようになる。(DP 2) |
| 授業方法と留意点 | 講義が中心だが、学生同士で議論をし、発表する機会もある。 教科書にそって授業は進めるが、毎回、プリントを用意する。また小テスト等を行う。授業中、練習問題を考察・検討・発表してもらう。 |
| 科目学習の効果 (資格) | マーケティングの基礎知識を学習し、現実の問題について考えることで、世の中で行われているマーケティング活動を身近に理解できるようになる。マーケティング論的発想ができるようになる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------|---|---|
| | | | |
| 1 | マーケティングの本質とは | マーケティングとは何か、基本的な用語について解説する。 | 【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える (1時間) |
| 2 | マーケティングの4P | マーケティングを考えたときの基本となる4Pについて学ぶ。 | 【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える (1時間) |
| 3 | STP | セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングについて学ぶ。 | 【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える (1時間) |
| 4 | 顧客満足とは | 顧客満足とは何か。満足を得るための組織とはどのようなものかを考える。 | 【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える (1時間) |
| 5 | 市場での競争と自社の存在意義 | 戦略構築のために自社の置かれている状況を把握する意義、手法について学ぶ。 | 【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える (1時間) |
| 6 | 競合他社について考える | 競合他社と自社との関係から戦略構築を考える。 | 【事前学習】 教科書の該当部分を予習する (1時間)。 【事後学習】 回次の中間テストに備える (1時間) |
| 7 | 中間テスト 製品のマネジメント | 製品開発プロセスやライフサイクルからマネジメントを考える | 【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。 【事後学習】 次回の小テストに備える |
| 8 | ブランドとは | ブランドの意義を考える。 | 【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える (1時間) |
| 9 | ブランドのマネジメント | 強いブランドを構築するための戦略について考える | 【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える (1時間) |
| 10 | 流通チャネルとは | 製品を顧客が手にするまでの流通チャネルの果たす役割について解説する。 | 【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える (1時間) |
| 11 | 流通チャネルのマネジメント | 流通チャネルをいかにコントロールしていくのかなど戦略について学ぶ。 | 【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える (1時間) |
| 12 | 営業とは | 日本特有の人的販売である営業の果たす役割や、理想の営業とは何かを考える。 | 【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える (1時間) |
| 13 | 価格設定の考え方 | 価格設定の基本的な考え方を学ぶ。 | 【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える (1時間) |
| 14 | 価格のマネジメント | 価格に関する戦略について学ぶ。 | 【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える (1時間) |
| 15 | 顧客とのコミュニケーション | 顧客との双方方向のコミュニケーションによって関係を構築する意義やそれを活用した戦略について考える。 | 【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 これまでの復習をし期末テストに備える (6時間) |

| | | | | |
|---------------|--|------------------|-------|------|
| 関連科目 | 経営学、マーケティング戦略論、リテール・マーケティング、消費者行動論、マーケティング演習などマーケティングコース科目 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | マーケティング【第2版】 | 恩蔵直人 | 日経文庫 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | マーケティングをつかむ【新版】 | 黒岩健一郎 | 有斐閣 |
| | 2 | 1からのマーケティング【第4版】 | 石井淳蔵他 | 碩学舎 |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 講義内課題の提出や小テスト及び期末試験にて判断する。 平常点(講義内課題と小テスト等)40%、期末試験60%。 | | | |
| 学生への メッセージ | 日常生活において企業がどのような製品をどのような手段で告知し、それをどのような価格でどのような方法で販売しているのかに関心を持って講義に臨んでもらいたい。 教科書は必ず購入すること。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 11号館7階 鶴坂教授室 | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|------------|----------|---------------------------|
| 科目名 | 経済学入門 | 科目名 (英文) | Introduction to Economics |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 岩坪 加紋 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS1007a0 | | |

授業概要・目的

本講義では経済に関する基礎的専門知識を学んでいただきます。大まかに言えば、財やサービスを生産し、売ったり買ったりして、儲けたり消費したりすることを経済と言います。例えば皆さんも通学には電車やバスという交通サービスを購入（消費）し、学食の定食にもお金を払って定食という財を消費しています。また、そのお金は皆さんのお父さん、お母さん、ないしは皆さんが自らの労働力を仕事先（バイト先）に売って入手しています。一方、電車やバス、学食や定食はある日忽然と現れたわけではなく、原材料の生産・販売や運転手さんや食堂の方々の労働を経て、私たちの手元に届いている。そして不思議なことに多少差異はあれど、私たちは、まあまあ満足できる生活をしているわけです。それだけ経済は、私たちのごく身近にある不思議な現象なのです。

問題は、経済を通して私たちの生活が私たちの目の届きにくい世界と密接に繋がっているということです。例えば 10 年以上前に太平洋を挟んだアメリカ合衆国の住宅ローン市場に問題が発生し、これが原因で多くの先輩達が就職に難儀しました。また、コロナ感染症後の世界はどうなるのか、これも私たちの経済活動と直結します。したがって、私たちは経済を積極的に理解し、自力で判断するための基礎的専門知識が必要なのです。もちろん、経営学を専攻するためにも必須な知識です。

本講義では基礎的ながらも経済に関する重要な専門知識を学生の理解度を重視しながら進める予定です。

到達目標

1. 経済に関する基礎的専門知識を理解できるようになる。(DP2)
 2. 経済問題を初歩的ながら読み解くことができるようになる。(DP2)

授業方法と留意点

講義は対面式で進めます。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みて、オンライン式に切り替える場合もあります。

毎回の構成は、①事前学習（予習、小テスト）、②対面式で受講（含む演習）、③事後学習（復習と小テスト）です。資料の配布は、Microsoft Teams 経由で OneNote のクラスノートブック（大学支給の Office365 の機能の一つ）で行い、クラスノートブックにしたがって学習を進めていきます。クラスノートブックへのアクセスの仕方や使い方については第 1 回目講義で説明します（動画を準備します）。なお、OneNote はペーパーレス化に向け格段に進化しており、非常に便利です（可能ならばタブレットやノート PC を持参してください）。

講義は極力教科書に沿って行いますので、必ず教科書を購入してください。

また、漠然と出席するのではなく、予習・復習を行い、疑問点は迷うことなく質問し解決してください。講義中でも良いし、Teams のチャネル「質問箱」に書き込んで結構です。質問など積極的姿勢は高い学習意欲の表れとして評価の対象でもあります。

科目学習の効果（資格）

日々の暮らしの中で遭遇する経営・経済問題を深く理解し、対処するスキルを身につけることができる。また多くの社会科学系専門科目をより深く理解するための基礎となり、資格取得・公務員試験などにも役立つ。

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------|---|--|
| 1 | イントロダクション | 経済現象と日々の暮らしとの結びつきについて概説し、本講義で何を考え学ぶのかを解説する。 | 事前：特になし、事後：復習と小テスト |
| 2 | 分業の利益 | 分業、比較優位、機会費用について解説する。 | 事前：教科書（第 1 章、pp. 19-32）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計 1 時間） |
| 3 | 需要と供給 | 需要曲線、供給曲線について解説する。 | 事前：教科書（第 2 章、pp. 33-48）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計 1 時間） |
| 4 | 価格メカニズム | 市場取引や価格決定のメカニズムについて解説する。 | 事前：教科書（第 3 章、pp. 49-64）と配布資料による予習、事後：復習と小テスト（計 1.5 時間） |
| 5 | 市場の効率性 | 望ましい経済の基準として効率性について解説する。 | 事前：教科書（第 4 章、pp. 65-81）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計 1 時間） |
| 6 | 市場の失敗 | 市場は万能ではない。市場の失敗について解説する。 | 事前：教科書（第 5 章、pp. 83-98）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計 1 時間） |
| 7 | 市場の限界 | 市場の失敗の原因の一つである情報の非対称性や市場の限界について解説する。 | 事前：教科書（第 6 章、pp. 99-113）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計 1 時間） |
| 8 | 中間試験 | 前回までの内容について試験を行う。 | これまでの内容について復習しておくこと |
| 9 | 労働市場 | 学生にとって最も身近な労働市場について解説する。 | 事前：教科書（第 7 章、pp. 115-132）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計 1 時間） |
| 10 | GDP について | 国の豊かさを測る GDP について解説する。 | 事前：教科書（第 8, 9 章、pp. 137-163）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計 1.5 時間） |
| 11 | 消費需要と投資需要 | GDP 構成要素の消費と投資について解説する。 | 事前：教科書（第 10 章、pp. 165-178）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計 1 時間） |
| 12 | 貨幣と金融 | 経済取引に欠かせない貨幣と経済取引の大半を占める金融について解説する。 | 事前：教科書（第 11 章、pp. 179-194）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計 1.5 時間） |
| 13 | 政府の役割 | 市場は万能ではなく、政府の存在意義の一つもそこにある。政府の経済的な役割について解説する。 | 事前：教科書（第 12 章、pp. 195-212）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計 1 時間） |
| 14 | 外国貿易と為替レート | 資源小国かつ技術立国日本は海外諸国との貿易で生計を立てている。日本の貿易の状況や為替レートの決定について解説する。 | 事前：教科書（第 13 章、pp. 213-227）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計 1 時間） |
| 15 | 経済成長と国民生活 | 経済の成長は豊かさの維持と密接に関わる。経済成長率の表し方やその分析方法について解説する。 | 事前：教科書（第 14 章、pp. 229-244）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計 1 時間） |

関連科目 ミクロ経済学、マクロ経済学、ファイナンスⅠ・Ⅱなど

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|---------|------------|-----------|
| | 1 | 1からの経済学 | 中谷武、中村保 編著 | 碩学舎・中央経済社 |

| | | | | |
|---------------|--|-----|-----|------|
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 原則、事前学習小テスト(20%)+事後学習小テスト(20%)+中間試験(30%)+期末試験(30%)で評価します。単位取得に係る最終評価には中間試験と期末試験(両方とも Moodle で実施)の受験が必須です。ただし、学習意欲(注意:出席率ではありません)の顕著な学生には加点します。詳細は初回講義で説明します。 | | | |
| 学生への メッセージ | 単位取得のためではなく、自身の能力向上のために受講するんだ、という姿勢で臨んでください。疑問点は積極的に質問して、一歩ずつ着実に前進してください。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 1 1 号館 8 階(岩坪教授室) | | | |
| 備考 | 事前学習小テストの解説は講義中に、事後学習小テストや中間試験の解説は Moodle 経由で行います。特に間違えた点については何故違ったのかを確認してください。 | | | |

| | | | |
|----------------|------------|----------|-----------------|
| 科目名 | ミクロ経済学 | 科目名 (英文) | Micro Economics |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 岩坪 加紋 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS1008a0 | | |

授業概要・目的
現代経済学の理論は体系化された科学としてミクロ経済学とマクロ経済学に大別されます。そのうちミクロ経済学は、皆が納得しうる仮定を起点とした論理に基づく消費者と企業の行動原理を説明する理論です。本講義ではミクロ経済学を現実の経済事象と照らし合わせながら解説し、基礎的専門知識としての使えるミクロ経済学を学んでいただきます。

到達目標
1. 経済主体の意思決定や市場について理解できるようになる。(DP2)
2. 現実の経済事象を初歩的ながら論理的に解明することができるようになる。(DP2)

授業方法と留意点
講義は対面式で進めます。ただし、新型コロナ感染状況を鑑みて、オンライン式に切り替える場合もあります。
毎回の構成は、①事前学習(予習、小テスト)、②対面式で受講(含む演習)、③事後学習(復習と小テスト)です。資料の配布は、Microsoft Teams 経由で OneNote のクラスノートブック (大学支給の Office365 の機能の一つ)で行い、クラスノートブックにしたがって学習を進めていきます。クラスノートブックへのアクセスの仕方や使い方等については第1回目講義で説明します(ビデオを準備します)。なお、OneNote はペーパーレス化に向け格段に進化しており、非常に便利です(可能ならばタブレットやノートPCを持参してください)。
講義は極力教科書に沿って行いますので、必ず教科書を購入してください。
また、漠然と出席するのではなく、予習・復習を行い、疑問点は迷うことなく質問し解決してください。講義中でも良いし、Teams のチャネル「質問箱」に書き込んで結構です。質問など積極的姿勢は高い学習意欲の表れとして評価の対象でもあります。

科目学習の効果(資格)
TV や新聞、インターネットから無造作に流される経済事象を自らで整理し、自らで判断するための基礎的知識が身につく。さらに、教員免許状取得・公務員試験・中小企業診断士試験など資格取得に役立つ。

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------|--|--|
| | | | |
| 1 | ミクロ経済学で学ぶこと | 経済学を学ぶ理由、ミクロ経済学とマクロ経済学の違い、価格メカニズムの働き、図とグラフ | 事前：特になし、事後：復習と小テスト(計0.5時間) |
| 2 | 需要の理論 | 市場需要曲線、曲線のシフト要因、消費者余剰 | 事前：教科書(第2章, pp.31-36)と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト(計1時間) |
| 3 | 消費者行動の理論(1) | 最適消費点 | 事前：教科書(第3章, pp.36-46)と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト(計1時間) |
| 4 | 消費者行動の理論(2) | 需要曲線の導出、曲線のシフト要因再考 | 事前：教科書(第3章, pp.51-52)と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト(計1時間) |
| 5 | 供給の理論(1) | 限界費用、供給量の決定、供給曲線、生産者余剰 | 事前：教科書(第3章, pp.49-51, 53-58)と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト(計1.5時間) |
| 6 | 供給の理論(2) | 右上がりの限界費用曲線、市場供給曲線、供給曲線のシフト要因 | 事前：教科書(pp.59-72)と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト(計1.5時間) |
| 7 | 限界概念と微分 | 限界概念と微分との関係について説明する。 | 事前：配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト(計1時間) |
| 8 | 需給曲線と弾力性 | 需要と供給の弾力性、弾力性を左右する要因 | 事前：教科書(第5章, pp.73-88)と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト(計1.5時間) |
| 9 | ここまでのまとめと中間テスト | これまでのまとめと中間試験を行う | 復習しておくこと |
| 10 | 市場の理論 | さまざまな市場構造、社会的余剰、効率性、分配の公正性、市場の失敗 | 事前：教科書(第6章, pp.89-102)と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト(計1.5時間) |
| 11 | 需要と供給で解く経済問題 | 需給曲線を用い経済問題を考える | 事前：教科書(第7章, pp.103-118)と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト(計1.5時間) |
| 12 | 余剰分析で解く経済問題 | 余剰を用い経済問題を考える | 事前：教科書(第8章, pp.119-137)と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト(計1.5時間) |
| 13 | 市場の失敗(1) | 外部効果、公共財 | 事前：教科書(第9章, pp.139-156)と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト(計1.5時間) |
| 14 | 市場の失敗(2) | 情報の非対称性 | 事前：教科書(第10,11章, pp.157-179)と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト(計1.5時間) |
| 15 | 市場の失敗(3) | 独占市場 | 事前：教科書(第11章, pp.179-186)と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト(計1.5時間) |

関連科目 マクロ経済学、ファイナンス、コーポレート・ファイナンス 等

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|--------------------|----------|-------|
| | 1 | ミクロ経済学の基礎 ベーシックプラス | 小川光、家森信善 | 中央経済社 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|---------------|---|
| 評価方法 (基準) | 原則、事前学習小テスト(20%)+事後学習小テスト(20%)+中間試験(30%)+期末試験(30%)で評価します。単位取得に係る最終評価には中間試験と期末試験(両試験とも Moodle で実施)の受験が必須です。ただし、学習意欲(注意:出席率ではありません)の顕著な学生には加点します。詳細は初回講義で説明します。 |
| 学生への メッセージ | 経済の基本的な考え方を身につけておくことは、社会人としてだけでなく日常生活においても“身を守る”という意味で極めて重要です。疑問点は積極的に質問して、一歩ずつ着実に前進してください。 |
| 担当者の 研究室等 | 11号館8階岩坪研究室 |
| 備考 | 事前学習小テストの解説は講義中に、事後学習小テストや中間試験の解説は Moodle 経由で行います。特に間違えた点については何故違ったのかを確認してください。 |

| | | | |
|----------------|------------|----------|------------------|
| 科目名 | 経営史 | 科目名 (英文) | Business History |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 佐藤 秀昭 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS1009a0 | | |

| | |
|----------|---|
| 授業概要・目的 | 江戸時代より平成初期にいたる企業経営の発展過程を振り返ります。 本講義では、いわゆる「財閥」の生成・発展や「日本的経営」の特徴に焦点を当てます。受講生は、日本経営史研究が蓄積してきた経済・経営の分析手法を身につけることができます。 講義担当者は、民間企業における研修業務担当の経験から、講義内容の実践的な活用方法を教授します。 |
| 到達目標 | 1. 経営史に関する基礎的専門知識を理解できるようになる。(DP2) 2. 経営史分野の図表を初歩的ながら読み解くことができるようになる。(DP2) |
| 授業方法と留意点 | 講義形式で授業を進めます。 講義内容の理解を深めるために、毎回の講義終了後に小レポートの提出を求めます。 |

| | |
|--------------|--|
| 科目学習の効果 (資格) | |
|--------------|--|

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------|---|--|
| | | | |
| 1 | 江戸時代の経営 | 近代的な経済成長の前提となった江戸時代の商家経営を学びます | 事前：シラパスを読んでおく (10分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分) |
| 2 | 明治の企業家たち | 明治の企業家の5つのタイプを理解し、その企業家精神を学びます | 事前：前回の配布資料に目を通して復習を行う (10分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分) |
| 3 | 近代産業経営の成立 | 後発工業国日本が、いかにして国際競争力を高めたのかを学びます | 事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (10分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分) |
| 4 | 財閥の多角化と組織 | いわゆる「財閥」がどのように誕生したのかを学びます | 事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (15分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分) |
| 5 | 重化学工業化と新興財閥 | 重化学工業を担った「三大財閥」と「新興財閥」を学びます | 事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (20分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分) |
| 6 | 技術経営の誕生 | 電機企業における研究開発を可能にした組織能力の形成を学びます | 事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (25分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分) |
| 7 | 「日本的」人事管理とサラリーマンの誕生 | 新卒採用・終身雇用制度がいかにして誕生したのかを学びます | 事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (30分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分) |
| 8 | 都市型ビジネスの成立 | 都市化の発展に伴う新しい市場をターゲットにした諸企業の商品開発を学びます | 事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (35分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分) |
| 9 | 経済民主化と企業変革 | 企業集団の形成と、労使協調・企業特殊熟練の形成を学びます | 事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (40分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分) |
| 10 | 大衆消費社会の到来と家電メーカーの発展 | 家電製品の急速な普及をもたらした家電メーカーの経営を学びます | 事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (45分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分) |
| 11 | 企業集団とメインバンク | 戦後日本のメインバンク・システムの形成と、同システムによる企業救済の具体的な事例を学びます | 事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (50分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分) |
| 12 | 日本的生産システムの形成 | トヨタの事例から日本的生産システム・「ものづくり」を学びます | 事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (55分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分) |
| 13 | 流通のイノベーション | スーパーとコンビニエンス・ストアの事例から流通革命を学びます | 事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (60分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分) |
| 14 | 変貌する総合商社 | 三菱商事の事例を通じて総合商社の発展を学びます | 事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (60分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分) |
| 15 | 日本的経営とその変容 | 日本企業の3つのタイプを理解し、日本的経営の課題を探ります | 事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う (60分) 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する (60分) |

| | |
|------|--|
| 関連科目 | |
|------|--|

| | | | | |
|---------------|--|---------|-----------------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 1からの経営史 | 宮本又郎・岡部桂史・平野恭平編 | 碩学舎 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 小レポート(毎回の講義終了後に提出)40%、期末レポート(全講義終了後に提出)60%で評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 佐藤秀昭講師室(11号館8階) | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|------------|----------|-----------------------------------|
| 科目名 | ビジネス情報処理 I | 科目名 (英文) | Business Information Processing I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | ABC |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 栢木 紀哉 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS1010a0 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 企業社会で活躍・貢献できる幅広い教養をもつビジネス・パーソンとしてのスキルを身につけるため、コンピュータとネットワークを利用して、課題やレポートを作成するために必要となる情報活用能力を修得する。 本科目では、Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信する能力や情報セキュリティに関するさまざまな知識・技術を学び、ビジネスの場面で求められる情報・データの活用を通じた表現力など、情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。 |
| 到達目標 | コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、知的専門職業人として活躍するための基盤となる、コンピュータを目的に応じて利用できる基礎的な知識と技術を修得することができる。(DP 2) 本授業では、コンピュータの機能を知るとともに、情報セキュリティ、Word を用いた文書作成、Excel を用いた表計算、PowerPoint を用いたプレゼンテーション資料作成に関する技能を身につけることができる。 |
| 授業方法と留意点 | パソコンによる課題作成を通じた学習が中心となる。履修に際してパソコン活用に関する予備知識は特に必要としないが、習熟度にはかなりの個人差があるので、授業時間外の予・復習等、主体的な学修が求められる。 教材の配布、課題の提出等は、Moodle を使用する。 |
| 科目学習の効果 (資格) | IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------------|--------------------------------------|--|
| | | | |
| 1 | イントロダクション | 基礎的な技術の確認、パソコン、OS の概要と日本語変換 | タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分) |
| 2 | インターネットの活用とセキュリティ (1) | インターネット環境と情報検索 | タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分) |
| 3 | インターネットの活用とセキュリティ (2) | インターネットの光と影 | タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分) |
| 4 | パソコンの活用 | ファイルとフォルダーの操作、Windows アプリケーションの利用 | タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分) |
| 5 | 文書作成 (1) | Word の基礎知識、文字の書式設定・保存 | タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分) |
| 6 | 文書作成 (2) | 文書の作成、箇条書き、タブとインデント | タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分) |
| 7 | 文書作成 (3) | 表の作成、画像、図形の挿入と編集 | タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分) |
| 8 | 文書作成 (4) | 表現力アップのための応用技術、アウトライン、レポート作成に活用できる機能 | タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分) |
| 9 | 前半のまとめ、中間レポート課題 | 前半のまとめと振り返り、中間レポート課題 | タイピング練習 (5分) 前半の内容を復習しておく (90分) |
| 10 | 表計算 (1) | 表の作成と編集、セルの書式設定、集計表の作成 | タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分) |
| 11 | 表計算 (2) | グラフの種類と作成 | タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分) |
| 12 | プレゼンテーション (1) | PowerPoint の概要、スライド作成の基本 | タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分) |
| 13 | プレゼンテーション (2) | 図表の活用、スライドの視覚効果 | タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分) |
| 14 | プレゼンテーション応用 | 表計算で作成したグラフの活用、テーマ別スライド作成 | タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分) |
| 15 | 後半のまとめ、最終レポート課題 | 後半のまとめと振り返り、最終レポート課題 | タイピング練習 (5分) 後半の内容を復習しておく (90分) |

関連科目 ICT 概論、ビジネス情報処理 II

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|---------------------------|-------|------|
| | 1 | Office2019 で学ぶコンピュータリテラシー | 小野目如快 | 実教出版 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|---------------|---|
| 評価方法 (基準) | 授業中の演習課題 (50%)、レポート課題 (50%) をもとに総合的に評価します。 この授業は演習中心であるため、単位修得には8割以上の課題提出が必要となります。 |
| 学生への メッセージ | 質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に出席して下さい。 授業内容や成績評価の方法について、第1回の授業で説明しますので確認するようにして下さい。 |
| 担当者の 研究室等 | 11号館6階 (経営学部非常勤講師室) |
| 備考 | レポート課題は回収後、解説を行います。また、授業中の課題は適宜コメントを返します。 |

| | | | |
|----------------|------------|----------|-----------------------------------|
| 科目名 | ビジネス情報処理 I | 科目名 (英文) | Business Information Processing I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | DEFGH |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 橋本 はる美 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS1010a0 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 企業社会で活躍・貢献できる幅広い教養をもつビジネス・パーソンとしてのスキルを身につけるため、コンピュータとネットワークを利用して、課題やレポートを作成するために必要となる情報活用能力を修得する。 本科目では、Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信する能力や情報セキュリティに関するさまざまな知識・技術を学び、ビジネスの場面で求められる情報・データの活用を通じた表現力など、情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。 |
| 到達目標 | コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、知的専門職業人として活躍するための基盤となる、コンピュータを目的に応じて利用できる基礎的な知識と技術を修得することができる。(DP 2) 本授業では、コンピュータの機能を知るとともに、情報セキュリティ、Word を用いた文書作成、Excel を用いた表計算、PowerPoint を用いたプレゼンテーション資料作成に関する技能を身につけることができる。 |
| 授業方法と留意点 | パソコンによる課題作成を通じた学習が中心となる。履修に際してパソコン活用に関する予備知識は特に必要としないが、習熟度にはかなりの個人差があるので、授業時間外の予・復習等、主体的な学修が求められる。 教材の配布、課題の提出等は、Moodle を使用する。 |
| 科目学習の効果 (資格) | IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------------|--------------------------------------|--|
| | | | |
| 1 | イントロダクション | 基礎的な技術の確認、パソコン、OS の概要と日本語変換 | タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分) |
| 2 | インターネットの活用とセキュリティ (1) | インターネット環境と情報検索 | タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分) |
| 3 | インターネットの活用とセキュリティ (2) | インターネットの光と影 | タイピング練習 (5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分) |
| 4 | パソコンの活用 | ファイルとフォルダーの操作、Windows アプリケーションの利用 | タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分) |
| 5 | 文書作成 (1) | Word の基礎知識、文字の書式設定・保存 | タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分) |
| 6 | 文書作成 (2) | 文書の作成、箇条書き、タブとインデント | タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分) |
| 7 | 文書作成 (3) | 表の作成、画像、図形の挿入と編集 | タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分) |
| 8 | 文書作成 (4) | 表現力アップのための応用技術、アウトライン、レポート作成に活用できる機能 | タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分) |
| 9 | 前半のまとめ、中間レポート課題 | 前半のまとめと振り返り、中間レポート課題 | タイピング練習 (5分) 前半の内容を復習しておく (90分) |
| 10 | 表計算 (1) | 表の作成と編集、セルの書式設定、集計表の作成 | タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分) |
| 11 | 表計算 (2) | グラフの種類と作成 | タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分) |
| 12 | プレゼンテーション (1) | PowerPoint の概要、スライド作成の基本 | タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分) |
| 13 | プレゼンテーション (2) | 図表の活用、スライドの視覚効果 | タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分) |
| 14 | プレゼンテーション応用 | 表計算で作成したグラフの活用、テーマ別スライド作成 | タイピング練習 (5分) 授業中に課した課題を進めておく (60分) テキストの該当箇所を読んでおく (30分) |
| 15 | 後半のまとめ、最終レポート課題 | 後半のまとめと振り返り、最終レポート課題 | タイピング練習 (5分) 後半の内容を復習しておく (90分) |

関連科目 ICT 概論、ビジネス情報処理 II

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|---------------------------|-------|------|
| | 1 | Office2019 で学ぶコンピュータリテラシー | 小野目如快 | 実教出版 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|---------------|---|
| 評価方法 (基準) | 授業中の演習課題 (50%)、レポート課題 (50%) をもとに総合的に評価します。 この授業は演習中心であるため、単位修得には8割以上の課題提出が必要となります。 |
| 学生への メッセージ | 質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に出席して下さい。 授業内容や成績評価の方法について、第1回の授業で説明しますので確認するようにして下さい。 |
| 担当者の 研究室等 | 11号館8階(橋本講師室) |
| 備考 | レポート課題は回収後、解説を行います。また、授業中の課題は適宜コメントを返します。 |

| | | | |
|---------------|------------|----------|------------------------------------|
| 科目名 | ビジネス情報処理Ⅱ | 科目名 (英文) | Business Information Processing II |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | ABC |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 橋本 はる美 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS1011a0 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 企業社会で活躍・貢献できる幅広い教養をもつビジネス・パーソンとしてのスキルを身につけるため、コンピュータとネットワークを利用して、課題やレポートを作成するために必要となる情報活用能力を修得する。 本科目では、Excelを用いたデータ処理とデータ分析の基礎となる演習を通して、ビジネスの場面で求められる情報・データの活用を通じた表現力を身につけることを目指す。 また、プログラミングの入門部分の演習を通して、論理的思考を身につけることを目指す。 |
| 到達目標 | Excelを用いた表計算の応用的な使い方から実践に活用できるデータ分析、プログラミング入門の知識と技術を修得することができる。知的専門職業人として活躍するための基盤となる、コンピュータを目的に応じて利用できる基礎的な知識と技術を修得することができる。(DP2) 本授業では、Excelの演習を通して、実践的技能を修得し、ビジュアルプログラミングを通して論理的思考の手続きを理解することができる。 |
| 授業方法と留意点 | ビジネス情報処理Ⅰ受講後の履修が望ましい。パソコンによる課題作成を通じた学習が中心となる。 習熟度にはかなりの個人差があるので、授業時間外の予・復習等、主体的な学修が求められる。 |
| 科目学習の効果(資格) | ITパスポート試験、基本情報処理技術者試験などのIT系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------|----------------------------------|--|
| | | | |
| 1 | イントロダクション | 授業の進め方、評価方法、Excelの基礎知識、データの入力・編集 | タイピング練習(5分) 授業の内容を復習しておく(30分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分) |
| 2 | 表計算(1) | 様々な関数の利用、相対参照と絶対参照 | タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分) |
| 3 | 表計算(2) | 様々な関数を使ったデータ処理 | タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分) |
| 4 | 表計算(3) | データの並べ替えと抽出、検索と置換 | タイピング練習(5分) 授業中に課した課題を進めておく(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分) |
| 5 | 表計算(4) | ピボットテーブル | タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) ピボットテーブルを使ってどのような集計が可能か調べる(30分) |
| 6 | データ分析(1) | 代表値について、度数分布とヒストグラム | タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) 代表値、度数分布、ヒストグラムについて予習する(30分) |
| 7 | データ分析(2) | 相関と相関係数 | タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) 相関、相関係数について予習する(30分) |
| 8 | データ分析(3) | 回帰分析の方法 | タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) 相関、相関係数について予習する(30分) |
| 9 | データ分析応用 | 統計データを使った分析 | タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) 総務省統計局のサイトにどのようなデータがあるか調べる(30分) |
| 10 | 前半のまとめ、確認テスト | 確認テストと解説 | 後半の内容を復習しておく(60分) タイピング練習(5分) |
| 11 | ビジュアルプログラミング(1) | 言語の概要と特徴、プログラミング環境 | タイピング練習(5分) 授業中に課した課題を進めておく(60分) Scratchについて調べる(30分) |
| 12 | ビジュアルプログラミング(2) | 繰り返し、分岐を使った処理 | タイピング練習(5分) 授業中に課した課題を進めておく(60分) 前回授業の振り返り(30分) |
| 13 | ビジュアルプログラミング(3) | 変数、イベントの処理 | タイピング練習(5分) 授業中に課した課題を進めておく(60分) 前回授業の振り返り(30分) |
| 14 | ビジュアルプログラミング(4) | オリジナル作品の制作 | タイピング練習(5分) 授業中に課した課題を進めておく(60分) 前回授業の振り返り(30分) |
| 15 | 後半のまとめ、確認テスト | 確認テストと解説 | 後半の内容を復習しておく(60分) タイピング練習(5分) |

関連科目 ICT概論、ビジネス情報処理Ⅰ

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|--------------------------|-------|------|
| | 1 | Office2019で学ぶコンピュータリテラシー | 小野目如快 | 実教出版 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |

| | | | |
|---------------|---|--|--|
| | 3 | | |
| 評価方法 (基準) | 授業中の演習課題 (50%)、確認テスト (50%) をもとに総合的に評価する。 この授業は演習中心であるため、単位修得には8割以上の課題提出が必要となります。 | | |
| 学生への メッセージ | 質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。 | | |
| 担当者の 研究室等 | 11号館8階(橋本講師室) | | |
| 備考 | 確認テストは回収後、解答の解説を行います。また、授業中の課題は適宜コメントを返します。 | | |

| | | | |
|---------------|------------|----------|------------------------------------|
| 科目名 | ビジネス情報処理Ⅱ | 科目名 (英文) | Business Information Processing II |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | DEFGH |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 梅原 喜政 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS1011a0 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 企業社会で活躍・貢献できる幅広い教養をもつビジネス・パーソンとしてのスキルを身につけるため、コンピュータとネットワークを利用して、課題やレポートを作成するために必要となる情報活用能力を修得する。 本科目では、Excelを用いたデータ処理とデータ分析の基礎となる演習を通して、ビジネスの場面で求められる情報・データの活用を通じた表現力を身につけることを目指す。 また、プログラミングの入門部分の演習を通して、論理的思考を身につけることを目指す。 |
| 到達目標 | Excelを用いた表計算の応用的な使い方から実践に活用できるデータ分析、プログラミング入門の知識と技術を修得することができる。知的専門職業人として活躍するための基盤となる、コンピュータを目的に応じて利用できる基礎的な知識と技術を修得することができる。(DP2) 本授業では、Excelの演習を通して、実践的技能を修得し、ビジュアルプログラミングを通して論理的思考の手続きを理解することができる。 |
| 授業方法と留意点 | ビジネス情報処理Ⅰ受講後の履修が望ましい。パソコンによる課題作成を通じた学習が中心となる。 習熟度にはかなりの個人差があるので、授業時間外の予・復習等、主体的な学修が求められる。 |
| 科目学習の効果(資格) | ITパスポート試験、基本情報処理技術者試験などのIT系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------|----------------------------------|--|
| | | | |
| 1 | イントロダクション | 授業の進め方、評価方法、Excelの基礎知識、データの入力・編集 | タイピング練習(5分) 授業の内容を復習しておく(30分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分) |
| 2 | 表計算(1) | 様々な関数の利用、相対参照と絶対参照 | タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分) |
| 3 | 表計算(2) | 様々な関数を使ったデータ処理 | タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分) |
| 4 | 表計算(3) | データの並べ替えと抽出、検索と置換 | タイピング練習(5分) 授業中に課した課題を進めておく(60分) テキストの該当箇所を読んでおく(30分) |
| 5 | 表計算(4) | ピボットテーブル | タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) ピボットテーブルを使ってどのような集計が可能か調べる(30分) |
| 6 | データ分析(1) | 代表値について、度数分布とヒストグラム | タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) 代表値、度数分布、ヒストグラムについて予習する(30分) |
| 7 | データ分析(2) | 相関と相関係数 | タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) 相関、相関係数について予習する(30分) |
| 8 | データ分析(3) | 回帰分析の方法 | タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) 相関、相関係数について予習する(30分) |
| 9 | データ分析応用 | 統計データを使った分析 | タイピング練習(5分) 授業の内容をまとめた演習問題に解答する(60分) 総務省統計局のサイトにどのようなデータがあるか調べる(30分) |
| 10 | 前半のまとめ、確認テスト | 確認テストと解説 | 後半の内容を復習しておく(60分) タイピング練習(5分) |
| 11 | ビジュアルプログラミング(1) | 言語の概要と特徴、プログラミング環境 | タイピング練習(5分) 授業中に課した課題を進めておく(60分) Scratchについて調べる(30分) |
| 12 | ビジュアルプログラミング(2) | 繰り返し、分岐を使った処理 | タイピング練習(5分) 授業中に課した課題を進めておく(60分) 前回授業の振り返り(30分) |
| 13 | ビジュアルプログラミング(3) | 変数、イベントの処理 | タイピング練習(5分) 授業中に課した課題を進めておく(60分) 前回授業の振り返り(30分) |
| 14 | ビジュアルプログラミング(4) | オリジナル作品の制作 | タイピング練習(5分) 授業中に課した課題を進めておく(60分) 前回授業の振り返り(30分) |
| 15 | 後半のまとめ、確認テスト | 確認テストと解説 | 後半の内容を復習しておく(60分) タイピング練習(5分) |

関連科目 ICT概論、ビジネス情報処理Ⅰ

| | | | | |
|-----|----|--------------------------|-------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | Office2019で学ぶコンピュータリテラシー | 小野目如快 | 実教出版 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |

| | | | |
|---------------|---|--|--|
| | 3 | | |
| 評価方法 (基準) | 授業中の演習課題 (50%)、確認テスト (50%) をもとに総合的に評価する。 この授業は演習中心であるため、単位修得には 8 割以上の課題提出が必要となります。 | | |
| 学生への メッセージ | 質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。 | | |
| 担当者の 研究室等 | 11 号館 7 階(梅原講師室) | | |
| 備考 | 確認テストは回収後、解答の解説を行います。また、授業中の課題は適宜コメントを返します。 | | |

| | | | |
|---------------|------------|---------|---|
| 科目名 | ICT概論 | 科目名(英文) | Introduction to Information and Communications Technology |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 塚田 義典 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS1012a0 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | インターネットやソーシャルメディアの利活用が、組織や個人の活動に浸透する今日において、ICT(情報通信技術)がどのような社会課題の解決を支援するのかを考察する。ICTの効果的な適用により、企業の経営や個人の活動が、いかに変化し、どのような価値創造が可能になるかを、主要業界の事例を通して学習する。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 経営課題の解決を支援するICTの役割と位置づけを理解する(DP2) インターネットを中心とするICTの利活用について、自主学習を進め、課題・視点を発見する ICTの役割と組織・個人との関係について自分の『気づき』を表現し、自ら発信できる |
| 授業方法と留意点 | <p>授業資料(PDF)は、各回の授業日までにWeb Folderにアップロードする。</p> <p>毎回の授業でテーマに関する演習課題を課す。提出期限が設定されているため、毎週必ず取り組むこと。</p> <p>また、ランダムに指名し各自の意見を求めた際には、積極的・建設的な発言等で授業への参画に励むよう努めること。</p> <p>適宜、最新の業界トピック、適用されているテクノロジーを取り上げる。</p> <p>民間企業の経営者を招いて講演を行う場合もある。</p> |
| 科目学習の効果(資格) | <ul style="list-style-type: none"> 新聞やWebが提供するICT関連テーマの記事の骨格を理解することができる。 同僚・先輩学生と意見交換を図るための基礎知識や素養を身につけることができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------|--|-----------------------------------|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション | 授業の進め方、ICT(情報通信技術)とは何か | シラバスの確認(10分) 配布資料の指定頁の予復習(30分) |
| 2 | コンピュータと情報化社会 | データと情報、コンピュータの歴史と仕組み | 配布資料の指定頁の予復習(40分) |
| 3 | ハードウェアとソフトウェア | ハードウェアとソフトウェアの種類と役割、データの種類 | 配布資料の指定頁の予復習(40分) |
| 4 | ハードウェアとソフトウェア2 | ソフトウェアの台頭、プラットフォームの誕生 | 配布資料の指定頁の予復習(40分) |
| 5 | コンピュータの未来 | コンピュータとデータ通信技術の進化と未来 | 配布資料の指定頁の予復習(40分) |
| 6 | e-commerce(電子商取引) | B2C(Business to Consumer)企業対消費者間の取引、B2B(Business to Business)企業対企業間の取引 | 配布資料の指定頁の予復習(40分) |
| 7 | 顧客インターフェースのICT | フロントオフィス(Front Office)、バックオフィス(Back Office)、サービス業(金融、観光等)情報化 | 配布資料の指定頁の予復習(40分) |
| 8 | 仲介機能のICT | ミドルオフィス(Middle Office)、ソフトウェア・エージェント、流通業(小売り、物流等)情報化 | 配布資料の指定頁の予復習(40分) |
| 9 | AI(人工知能)が変える社会 | 人工知能の歴史と種類、ディープラーニング、AIと経営 | 配布資料の指定頁の予復習(40分) |
| 10 | クラウドコンピューティングとIoT | クラウドコンピューティングサービス、グローバル企業のICT事例(Google/Amazon/Uber/Airbnb/Walmart等) ・グループワーク・発表 | 配布資料の指定頁の予復習(40分) |
| 11 | シェアリングエコノミー | 経済効果、既存産業や市場に与える影響、サービス事例 | 配布資料の指定頁の予復習(40分) |
| 12 | ビッグデータ | ビッグデータを取り巻くICTの進展、ビッグデータの質的側面、量的側面、 | 配布資料の指定頁の予復習(40分) |
| 13 | オープンデータ | オープンデータの意義と目的、日本と世界の相違点、事例紹介 | 配布資料の指定頁の予復習(40分) |
| 14 | ICTとマネジメント | 社会や企業が求める人材、ICTを用いた問題解決のプロセス、実践 | 配布資料の指定頁の予復習(40分) |
| 15 | まとめ | 総括 | 授業内容の見直し(90分) |

関連科目

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|--|----------------|------|
| 1 | 教養としてのコンピューターサイエンス講義 今こそ知っておくべき「デジタル世界」の基礎知識 | ブライアン・W. カーニハン | 日経BP |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

評価方法(基準) レポートの提出(40%)、定期試験(60%)による総合評価を行う。

学生へのメッセージ 教科書は使用しません。教員作成のスライドを使用します。欠席した場合は、必ずWeb Folderから授業資料を取得し、自習により追いついてください。友達同士で教え合って、それでも解決できなければ遠慮なく質問に来てください。

担当者の 11号館8階 塚田准教授室

| | |
|------|--|
| 研究室等 | |
| 備考 | 初回の授業ガイダンスでは、シラバス説明、成績評価基準の説明を説明するので、必ず出席すること。 |

| | | | |
|----------------|------------|----------|------------------------|
| 科目名 | 情報倫理 | 科目名 (英文) | Information and Morals |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 堀井 千夏 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS1013a0 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 社会における情報化は非常に速いスピードで浸透し、情報技術は我々の生活の中で欠かせないものとなっている。その一方で、インターネットを使用した犯罪や事件は後を絶たず、利用者は被害者となるだけでなく、巧妙な手口から意図しないまま加害者となってしまうことさえある。こうした情報化社会における影の部分の部分を踏まえて、さまざまなトラブル事例から組織や個人としてどのように情報倫理を考えるかを学び、インターネット犯罪に対して防止・対応できる能力を養っていく。 |
| 到達目標 | インターネットやソーシャルメディアなどを使用するなかで、情報に接する際の倫理的な思考を養い、組織や個人としての行動規範を修得する (DP 2)。 |
| 授業方法と留意点 | この授業では、ICT を活用しながら講義とワークをセットで行う。講義を受けた後に事例研究を行い、ワークで課題を発見する。更に、この課題に対する倫理観、防止・対応策を考え、レポートとしてまとめる。授業のなかでは、この内容を発表し、全体討論を行う。また、最終回には、情報倫理についての理解度を確認するテストを実施する。 |
| 科目学習の効果 (資格) | IT パスポート試験、基本情報技術者試験 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------|---|--|
| | | | |
| 1 | 情報セキュリティとサイバー犯罪 | <ul style="list-style-type: none"> 情報倫理の必要性 不正アクセス・なりすまし 情報の改ざん クラウドサービスのリスク ネットウィルス・マルウェア レポート課題 (講義内容穴埋め) | 事前学習：なし 事後学習：レポート課題を完成する (1 時間) |
| 2 | 事例研究 (1) | <ul style="list-style-type: none"> 課題発見、防止・対応策の調査 レポート課題 (討論・まとめ) | 事前学習：要点を整理しておく (30 分) 事後学習：レポート課題を完成する (1 時間) |
| 3 | ソーシャルメディアと情報 | <ul style="list-style-type: none"> ネット時代のコミュニケーション ブログ・SNS・電子メール 拡散と炎上 ネット依存・誹謗・中傷 ソーシャルゲーム レポート課題 (講義内容穴埋め) | 事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30 分) 事後学習：レポート課題を完成する (1 時間) |
| 4 | 事例研究 (2) | <ul style="list-style-type: none"> 課題発見、防止・対応策の調査 レポート課題 (討論・まとめ) | 事前学習：要点を整理しておく (30 分) 事後学習：レポート課題を完成する (1 時間) |
| 5 | 個人情報管理とプライバシー保護 | <ul style="list-style-type: none"> 個人情報の漏えい プライバシー侵害 組織と個人の守秘義務 レポート課題 (講義内容穴埋め) | 事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30 分) 事後学習：レポート課題を完成する (1 時間) |
| 6 | 事例研究 (3) | <ul style="list-style-type: none"> 課題発見、防止・対応策の調査 レポート課題 (討論・まとめ) | 事前学習：要点を整理しておく (30 分) 事後学習：レポート課題を完成する (1 時間) |
| 7 | 発表と全体討論 | <ul style="list-style-type: none"> 提示テーマの資料作成および発表 | 事前学習：発表準備 (2 時間) 事後学習：なし |
| 8 | E-commerce (電子商取引) | <ul style="list-style-type: none"> 電子決済・取引 個人情報のためのネット認証 ネット広告 ネットオークション・ショッピング 売買トラブル (悪徳商法・詐欺) レポート課題 (講義内容穴埋め) | 事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30 分) 事後学習：レポート課題を完成する (1 時間) |
| 9 | 事例研究 (4) | <ul style="list-style-type: none"> 課題発見、防止・対応策の調査 レポート課題 (討論・まとめ) | 事前学習：要点を整理しておく (30 分) 事後学習：レポート課題を完成する (1 時間) |
| 10 | 企業における情報倫理 | <ul style="list-style-type: none"> コンプライアンスと法令遵守 事業と内部統制の高立 IT システムと企業倫理 レポート課題 (講義内容穴埋め) | 事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30 分) 事後学習：レポート課題を完成する (1 時間) |
| 11 | 事例研究 (5) | <ul style="list-style-type: none"> 課題発見、防止・対応策の調査 レポート課題 (討論・まとめ) | 事前学習：要点を整理しておく (30 分) 事後学習：レポート課題を完成する (1 時間) |
| 12 | 科学技術と情報倫理・知的財産権 | <ul style="list-style-type: none"> 知的財産の侵害 著作物と著作権 参考文献と引用 マルチメディアコンテンツの複製 レポート課題 (講義内容穴埋め) | 事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30 分) 事後学習：レポート課題を完成する (1 時間) |
| 13 | 事例研究 (6) | <ul style="list-style-type: none"> 課題発見、防止・対応策の調査 レポート課題 (討論・まとめ) | 事前学習：要点を整理しておく (30 分) 事後学習：レポート課題を完成する (1 時間) |
| 14 | 発表と全体討論 | <ul style="list-style-type: none"> 提示テーマの資料作成および発表 | 事前学習：発表準備 (2 時間) 事後学習：なし |
| 15 | まとめと理解の確認テスト | <ul style="list-style-type: none"> 総括 確認テスト | 事前学習：レポート課題の復習 (2 時間) 事後学習：なし |

関連科目 情報処理関連の基礎科目

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-------------------------|---------|---------|
| | 1 | 2022 事例でわかる情報モラル&セキュリティ | 実教出版編修部 | 実教出版(株) |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-------------|-------|---------|
| | 1 | ネット炎上対策の教科書 | 小林 直樹 | 日経 BP 社 |

| | | | | |
|---------------|---|------------------------|-------------|-------|
| | 2 | 情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー | 高橋慈子、原田隆史ほか | 技術評論社 |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 平常点(出席態度、レポート課題)40%、発表(レジユメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容)40%、理解の確認テスト20%を総合的に評価する。ただし、遠隔授業に切り替わった場合は、発表および確認テストは課題に変更する。詳細についてはMoodleにて説明する。 | | | |
| 学生への メッセージ | この授業では、提出課題の作成、発表など出席しなければ達成できないことが非常に多い。必ず、毎回授業に参加すること。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 11号館8階 堀井教授室 | | | |
| 備考 | 課題やレポートについては、実施した次の授業で講評する。 | | | |

| | | | |
|----------------|------------|----------|---------------------|
| 科目名 | 経営統計学 | 科目名 (英文) | Business Statistics |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 栢木 紀哉 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1⑩, DP2② | | |
| 科目ナンバリング | IDS1014a0 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 「統計学」という言葉を聞くと、多くの学生は難しいのではないかという印象を持つであろうが、手元にあるデータからその特徴を見つけ出すために必要となる学問である。統計学の考え方は、企業における意思決定支援のためのデータ解析手法として多くの場面で利用されている。本科目では、初めて統計学を学ぶ学生を対象に、統計学の基本的な考え方を学び、統計データの解析に必要な基礎的知識を身につける。 |
| 到達目標 | 統計データの整理の仕方や表・グラフでの表し方、基本統計量の求め方とその意味について理解し、実際のデータを客観的に解釈して活用するための基礎的な知識と技術を身につけることができる。 |
| 授業方法と留意点 | 配布資料をもとに説明を行い、パソコン等を使った演習を取り入れつつ授業を進める。配布資料に含まれる演習問題を、表計算ソフトのExcelを使って解くことで理解を深める。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 実用的な学問であるため、将来様々な分野の仕事で生かすことができる。社会調査士資格の取得に必要な科目である。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------|---------------------------|-------------------------------------|
| | | | |
| 1 | イントロダクション | 授業の進め方、評価方法、統計学とはどのような学問か | 配付資料を読んでおく (30分) |
| 2 | 統計学の基礎的発想 (1) | 変数、尺度水準 | 事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分) |
| 3 | 統計学の基礎的発想 (2) | 標本空間と事象、確率分布 | 事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分) |
| 4 | 統計資料の整理 (1) | 統計資料の収集と読み方 | 事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分) |
| 5 | 統計資料の整理 (2) | 統計資料のまとめ方、提示の方法 | 事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分) |
| 6 | データの集計 (1) | 代表値について、平均値、分散、標準偏差 | 事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分) |
| 7 | データの集計 (2) | 度数分布、ヒストグラム、標準化 | 事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分) |
| 8 | 前半のまとめ、学力診断テスト1 | 前半部分の振り返り、確認テストと解説 | 前半部分の内容を見直しておく (90分) |
| 9 | データの集約 (1) | クロス表とクロス集計 | 事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分) |
| 10 | データの集約 (2) | クロス集計の実践 | 事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分) |
| 11 | データの相関関係 (1) | 散布図と相関関係、相関関係と因果関係 | 事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分) |
| 12 | データの相関関係 (2) | 共分散と相関係数、相関係数の解釈、擬似相関 | 事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分) |
| 13 | 経営における統計学 | 経営分野で用いられる統計学的手法 | 事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分) |
| 14 | 後半のまとめ、学力診断テスト2 | 後半部分の振り返り、確認テストと解説 | 後半部分の内容を見直しておく (120分) |
| 15 | 統計学の応用 | 統計的検定・推定について | 事後課題に取り組む (60分) 配布資料を読んでおく (30分) |

| | |
|------|--------------------------------------|
| 関連科目 | 数学基礎 I、数学基礎 II、ビジネス情報処理 II、ビジネスデータ分析 |
|------|--------------------------------------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|--|
| 評価方法 (基準) | 課題の提出状況 (10%)、課題に基づく学修到達度 (50%)、確認テスト (40%) をもとに総合的に評価します。私語、スマートフォンの使用など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。 |
|-----------|--|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 経営統計学は、数学的な思考が必要となる学問ですので、数学が苦手な学生については、予習・復習が不可欠となります。積極的な取り組みを期待します。情報処理室でのパソコンを利用した講義になります。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|---------------------|
| 担当者の研究室等 | 11号館6階 (経営学部非常勤講師室) |
|----------|---------------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 必要に応じて資料を配布します。確認テストは回収後、解説を行います。また、授業中の課題は適宜コメントを返します。資料配布、課題提出はMoodleで行いますので、事前に登録して下さい。実習が必要ですので、対面を予定しています。 |
|----|---|

| | | | |
|----------------|------------|----------|------------------------------------|
| 科目名 | 市場調査入門 | 科目名 (英文) | Introduction to Marketing Research |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 牧野 幸志 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS1015a0 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 社会調査(市場調査)の意義やその歴史、調査倫理、調査類型など、社会調査全般に関して講義を行う。さまざまな種類の社会調査によってなされた代表的研究を紹介しつつ、それぞれの調査の特徴や相違点について学んでいく。 情報・データの収集・分析の能力を身につける。 SDGs-8, 9 |
| 到達目標 | 社会調査(市場調査)の基礎知識を得ることができる。社会調査(市場調査)の基礎を知り、簡単な調査をすることができる。問題発見能力、問題解決能力、分析力を身につける(DP2) |
| 授業方法と留意点 | 授業は予習をもとに、毎回の課題を教科書を見ながら各自で調べてもらうことから始める。その後、グループワークによって知識を深める。予習と課題を提出した後、担当者がパワーポイントによるプレゼンテーション形式で解説する。資料は事前にDLし、ノートを必ず取る。対面授業ではあるが、新型コロナウイルス感染拡大している場合には、学生同士の話し合いなどは行わない。新型コロナウイルスが完全に終息している場合には、学生同士の話し合いなどを行う。教科書を持参すること、忘れた場合、自己責任でどうにかすること(事前にコピーするなど)。資料はmoodleで配布する、毎週必ずチェックすること。また、小テスト、課題の提出はすべてMoodleで行うのでスマホを持参すること。 |
| 科目学習の効果(資格) | 社会調査士資格の取得に履修が必要な科目のうち【A】社会調査の基本的事項に関する科目に対応。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------|--------------------------------------|---|
| | | | |
| 1 | ガイダンス 市場調査とは? | 授業の概要について | 事前学習課題:市場調査とは何か?事前に調べておくこと(1時間) 事後学習課題:授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間) |
| 2 | 社会調査とは | 社会調査とは何か。なぜ社会調査が必要なのか。 | 事前学習課題:社会調査の必要性について事前に調べておくこと(1時間) 事後学習課題:授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間) |
| 3 | 社会調査の歴史 | 社会調査はいつからおこなわれ、どのように発展してきたか。 | 事前学習課題:社会調査の歴史について調べまとめておくこと(1時間) 事後学習課題:授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間) |
| 4 | 社会調査の種類 | さまざまな社会調査の種類について。市場調査、世論調査など。 | 事前学習課題:社会調査の種類とその内容について調べておくこと(1時間) 事後学習課題:授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間) |
| 5 | 調査倫理 | 調査をおこなう際の心得について。ラポールなど。 | 事前学習課題:ラポールとは何か?事前に調べておくこと(1時間) 事後学習課題:授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間) |
| 6 | 量的調査と質的調査—それぞれの特徴 | 量的調査と質的調査の特徴と違いについて。 | 事前学習課題:量的調査と質的調査の違いについてまとめておくこと(1時間) 事後学習課題:授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間) |
| 7 | 官庁統計 1—官庁統計の利用と統計法 | 行政機関がおこなう社会調査には何かがあるか。統計法とは何か。 | 事前学習課題:官庁統計とは何か?事前に調べておくこと(1時間) 事後学習課題:授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間) |
| 8 | 官庁統計 2—官庁統計による諸研究 | 官庁統計のデータを用いた研究の紹介。 | 事前学習課題:官庁統計を使った研究の事例を調べておくこと(1時間) 事後学習課題:授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間) |
| 9 | 量的調査 1—統計学と質問紙調査(1) | 質問紙調査の概要について。統計学との関係。 | 事前学習課題:質問紙調査とは何か?事前に調べておくこと(1時間) 事後学習課題:授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間) |
| 10 | 量的調査 2—統計学と質問紙調査(2) | 質問紙調査の方法について。統計的手法 | 事前学習課題:調査で使う統計の知識について調べておくこと(1時間) 事後学習課題:授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間) |
| 11 | 量的調査 3—質問紙調査による諸研究 | 質問紙調査のデータを用いた研究を紹介する。 | 事前学習課題:質問紙調査を利用した研究を見つけて読むこと(1時間) 事後学習課題:授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間) |
| 12 | 質的調査 1—聞き取り調査 | 聞き取り調査の方法について。聞き取り調査をおこなった研究の紹介。 | 事前学習課題:聞き取り調査とは何か?事前に調べておくこと(1時間) 事後学習課題:授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間) |
| 13 | 質的調査 2—参与観察 | 参与観察の方法について。参与観察をおこなった研究の紹介。 | 事前学習課題:参与観察とは何か?事前に調べておくこと(1時間) 事後学習課題:授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2時間) |
| 14 | 質的調査 3—ドキュメント分析 | ドキュメント分析の方法について。ドキュメント分析をおこなった研究の紹介。 | 事前学習課題:ドキュメント分析の研究論文を探して読んでおくこと(1時間) 事後学習課題:授業終了時に出す課題についてレポ |

| | | | | |
|---------------|--|------------------------|----------------------------------|---|
| | 15 | まとめ | 社会調査の基礎的な知識を身につける ことができたかを確認。 | ートを作成すること(2時間) 事前学習課題:社会調査の基礎について総復習して おくこと(1時間) 事後学習課題:授業終了時に出す課題について最終 レポートを作成すること(2時間) |
| 関連科目 | 「市場調査法」,「市場調査実習Ⅰ・Ⅱ」 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 入門・社会調査法-2 ステップで基礎から学ぶ | 轟亮・杉野勇 | 法律文化社 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 毎回の小テストの結果と授業課題の提出(最大10%)、最終試験(90%)の割合で、総合的に判断する。 遅刻(10分まで)は減点の対象となる。 出席点などはない。 | | | |
| 学生への メッセージ | <p>市場調査を含む社会調査全般について学ぶ基礎的な講義です。 アクティブ・ラーニングを取り入れているので、課題に対しては積極的・主体的に取り組むこと。 他人の迷惑となる行為(遅刻, 私語, 居眠り, 内職, 不必要な教室への出入り, 不必要なスマホなどの使用など)はすべて禁止とします。遅刻は減点(10分まで)の対象となります。 このことを承知したうえで受講すること。</p> <p>授業内に課した課題については、授業中あるいは次週の授業で解説してフィードバックを行う。 小テスト、課題の配布、提出などはすべてMood</p> | | | |
| 担当者の 研究室等 | 11号館7階(牧野(幸)准教授室) | | | |
| 備考 | <p>授業に参加した学生のみ、小テスト、授業課題を実施することができます。 小テスト、授業課題には締切があります。 必ず厳守してください。 締切以降の受験、提出はいついっさい認めません。 事前学習には毎回1時間以上、事後学習には毎回1時間以上をかけること。 授業内で課された課題については、授業内、または、次週以降の授業で解説してフィードバックを行う。</p> | | | |

| | | | |
|----------------|-------------|----------|--------------------|
| 科目名 | マネジメントサイエンス | 科目名 (英文) | Management Science |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 寺島 和夫 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS1016a0 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | マネジメントサイエンス (経営科学、オペレーションズ・リサーチ) とは、経営活動にかかわる種々の課題をモデル化して数学的に解析を行うことにより、経営の意思決定を科学的な方法で支援するための知識の体系です。本科目では、日程計画、線形計画法、待ち行列や意思決定理論を中心とした基本的な知識と技法 (解法) について修得することを目的としています。 |
| 到達目標 | 数式、あるいはワークシート形式で定義された経営の諸問題についてのモデルを理解し、電卓等を使った数値計算などで最適な答えを導き出すことをめざします。 知的専門職人として活躍するための基盤となる経営諸科学に関する基礎知識を身につけることができます。(DP2) |
| 授業方法と留意点 | 配布資料を中心に手法や理論を解説し、ゲームやシミュレーション形式の例題を用いた課題を解くことで理解を深めていきます。課題に取り組む中で、経営における問題の発見やその構造のあらましを把握する能力を養って下さい。 |
| 科目学習の効果 (資格) | ITパスポート、基本情報技術者などの情報系の資格試験をはじめ、販売士や中小企業診断士などの経営関係の資格試験にも関連します。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------|---|--|
| | | | |
| 1 | イントロダクション | 授業の進め方、評価方法、マネジメントサイエンスの概要 | 次回の内容を確認し、配布資料の該当箇所を読んでおく (60分) |
| 2 | 在庫管理 (1) | 在庫管理の考え方、最適発注量 | 事後課題に取り組む (30分) 事前配布資料の該当箇所を読んでおく (60分) |
| 3 | 在庫管理 (2) | 需要が不確定の場合 | 事後課題に取り組む (30分) 事前配布資料の該当箇所を読んでおく (60分) |
| 4 | 在庫管理 (3) | 在庫管理方式、ABC分析 | 事後課題に取り組む (30分) 事前配布資料の該当箇所を読んでおく (60分) |
| 5 | 日程計画 (1) | 日程計画の考え方、PERTによる日程計画 | 事後課題に取り組む (30分) 事前配布資料の該当箇所を読んでおく (60分) |
| 6 | 日程計画 (2) | 作業の進捗管理 | 事後課題に取り組む (30分) 事前配布資料の該当箇所を読んでおく (60分) |
| 7 | 待ち行列理論 | 待ち行列の基礎、到着時間とサービス時間の分布 | 事後課題に取り組む (30分) 事前配布資料の該当箇所を読んでおく (60分) |
| 8 | 前半のまとめ、確認テスト | 前半のまとめ 確認テストと解説 | 前半の内容を復習しておく (60分) |
| 9 | 線形計画法 (1) | 線形計画法の考え方、問題の定式化と図式解法 | 事後課題に取り組む (30分) 事前配布資料の該当箇所を読んでおく (60分) |
| 10 | 線形計画法 (2) | シンプレックス法による最適解法 | 事後課題に取り組む (30分) 事前配布資料の該当箇所を読んでおく (60分) |
| 11 | 線形計画法 (3) | 代表的な最適化問題 | 事後課題に取り組む (30分) 事前配布資料の該当箇所を読んでおく (60分) |
| 12 | 決定理論 (1) | 決定理論の考え方、リスクや不確実性がある場合の意思決定 | 事後課題に取り組む (30分) 事前配布資料の該当箇所を読んでおく (60分) |
| 13 | 決定理論 (2) | 階層化意思決定法 (AHP) | 事後課題に取り組む (30分) 事前配布資料の該当箇所を読んでおく (60分) |
| 14 | 経済計算 | 経済計算の考え方、金利計算 | 事後課題に取り組む (30分) 事前配布資料の該当箇所を読んでおく (60分) |
| 15 | 全体のまとめ、最終レポート課題 | 全体のまとめ、最終レポート課題、経営学分野における実用例、デジタル化の進展とマネジメントサイエンス | 全体の学習内容を復習しておく (60分) |

関連科目 数学基礎 I、数学基礎 II、経営統計学

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-------------|-------|----------|
| | 1 | 入門 経営科学 改訂版 | 宮川公男他 | 実教出版株式会社 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 授業中の課題 (50%)、中間・最終レポート課題 (40%)、授業への取組姿勢 (10%) により総合的に評価します。授業中の課題提出状況が単位取得に大きく影響しますので、計画的に受講してください。 |
| 学生へのメッセージ | 高度な数学は使いませんが、演習を中心とした授業を行いますので、単位修得には8割以上の課題提出が必要です。毎回、数値を扱うので電卓 (関数電卓でなくてよい) を準備してください。 |
| 担当者の研究室等 | 経営学部非常勤講師室 (11号館6階) |
| 備考 | 必要に応じて補助教材を配布します。 |

| | | | |
|----------------|------------|----------|-------------------|
| 科目名 | 消費者行動論 | 科目名 (英文) | Consumer Behavior |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 武居 奈緒子 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS2017a0 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 近年、マーケティングの中で、消費行動研究の重要性が高まっています。この講義では、マーケティングの視点から、消費行動について基本的知識を身につけて体系的な理解を与えることを目的としています。日常の消費行動も、マーケティング的にみると新しい発見があるかもしれません。 |
| 到達目標 | 消費者行動論に関する基本的知識を、幅広く修得することができる。(DP2) 消費者行動論やマーケティングのスキルを理解し、活用することができる。(DP2) |
| 授業方法と留意点 | 講義形式 『消費行動』のテキストは、第3版を準備して下さい。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 消費行動をマーケティングの発想で考えることができます。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------|--------------------------------------|--|
| | | | |
| 1 | イントロダクション | 消費者行動論の全体像を示します。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 2 | マーケティングとは | マーケティングの内容について、説明していきます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 3 | マーケティング志向 | 企業のマーケティング志向について、説明していきます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティング志向に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 4 | マーケティングと消費行動 | マーケティングにおける消費行動の位置づけについて、説明していきます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと消費行動に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 5 | 消費行動の心理学的アプローチ | 消費行動を心理学的に考察していきます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動の心理学的アプローチに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 6 | 消費行動の社会的アプローチ | 消費行動を社会的に考察していきます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動の社会的アプローチに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 7 | 消費行動とプロセス | 消費者の購買意思決定過程について、考えていきます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動とプロセスに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 8 | マーケティング・リサーチ | マーケティング・リサーチから、消費者のニーズを探る方策を考えていきます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティング・リサーチに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 9 | 顧客満足 | 企業の顧客満足への対応について取り上げます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、顧客満足に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 10 | STPアプローチと消費行動 | 消費者のニーズと STP アプローチについて、考察していきます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、STPアプローチに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 11 | 高付加価値化と消費行動 | 高付加価値化と消費行動の関連について取り上げます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、高付加価値商品と消費行動に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 12 | 市場細分化と消費行動 | 市場細分化と消費行動の関係について取り上げます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、市場細分化に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 13 | 製品ライフサイクルと消費行動 | 製品ライフサイクルと消費行動の関係について考えます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品ライフサイクルに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 14 | 消費行動の歴史の変遷 | 消費行動の歴史の変遷過程をマクロの視点から考察していきます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動の歴史の変遷に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 15 | まとめ | 全体のまとめをします。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動全般に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |

関連科目

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|----------|--------|------|
| | 1 | 消費行動 第3版 | 武居 奈緒子 | 晃洋書房 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |

| | | | |
|---------------|---------------------------|--|--|
| | 3 | | |
| 評価方法 (基準) | 期末レポート (80%)、中間レポート (20%) | | |
| 学生への メッセージ | | | |
| 担当者の 研究室等 | 11号館8階 武居教授室 | | |
| 備考 | | | |

| | | | |
|----------------|-------------|----------|------------------|
| 科目名 | リテールマーケティング | 科目名 (英文) | Retail Marketing |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 武居 奈緒子 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS2018a0 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | マーケティングとは、企業の対市場活動です。このようにマーケティングを捉えると、マーケティングの領域は幅広くなります。この講義では、その中でも、小売業に焦点を当て、リテールマーケティングの基本的知識を身に付け、基本的概念・分析枠組みについて理解を深めることを目的とします。 |
| 到達目標 | リテールマーケティングの基本的知識を修得し、基本的フレームワークや概念を理解できる。(DP2) |
| 授業方法と留意点 | 対面授業 |
| 科目学習の効果 (資格) | 小売業をマーケティングの視点から考察することができます。 リテールマーケティング (販売士) 検定 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------------|--|---|
| | | | |
| 1 | イントロダクション | リテールマーケティングの全体像を示します。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 2 | マーケティングとは? | マーケティングについて、説明していきます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングについて関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 3 | 流通とは (1) | 流通の役割について、考察していきます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通の役割に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 4 | 流通とは (2) | 流通の役割について、企業の具体的事例を取り上げて考えていきます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通の役割に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 5 | 小売業とは (1) | 小売業の内容と役割について考えていきます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、小売業の内容と役割に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 6 | 小売業とは (2) | 小売業の役割について、企業の具体的事例を取り上げて考えていきます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、小売業の役割に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 7 | 小売業の革新 | 小売業の革新的行動について、考えていきます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、小売業の革新的行動に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 8 | 百貨店のマーケティング | 百貨店のマーケティング戦略について考えていきます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店のマーケティング戦略に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 9 | スーパーマーケットのマーケティング (1) | スーパーマーケットのマーケティング戦略について、取り上げます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、スーパーマーケットの戦略に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 10 | スーパーマーケットのマーケティング (2) | スーパーマーケットのマーケティング戦略の具体的な事例を取り上げて、検討していきます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、スーパーマーケットの取り組みに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 11 | コンビニエンス・ストアのマーケティング | コンビニエンス・ストアのマーケティング戦略について、考察していきます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、コンビニエンス・ストアのマーケティング戦略に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 12 | 中小小売商問題 | 中小小売商問題について、考察していきます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、中小小売商問題に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 13 | ナショナルブランドとプライベートブランド | ナショナルブランドとプライベートブランドの相違点について、考えていきます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、ナショナルブランドやプライベートブランドに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 14 | 流通系列化 | 流通系列化の現実的問題について考えていきます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通系列化に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 15 | まとめ | 全体のまとめをします。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、リテールマーケティングの総復習をしておきましょう。(所要時間1時間) |

関連科目

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|----------|------|------|
| | 1 | 現代商業学 新版 | 高嶋克義 | 有斐閣 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |

| | | | |
|---------------|---------------------------|--|--|
| | 3 | | |
| 評価方法 (基準) | 期末レポート (80%)、中間レポート (20%) | | |
| 学生への メッセージ | | | |
| 担当者の 研究室等 | 11号館8階 武居教授室 | | |
| 備考 | | | |

| | | | |
|----------------|------------|----------|----------------------------------|
| 科目名 | 流通情報システム論 | 科目名 (英文) | Distribution Information Systems |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 久保 貞也 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS2019a0 | | |

| | |
|---------|--|
| 授業概要・目的 | <p>流通は消費と生産を結びつける活動であり、流通によって社会経済の動きが活性化される。以前は企業の生産活動と販売活動の周辺にある物流活動は支援的な業務と見られていた。しかし、情報社会の進展と合わせて物流活動の重要性が高まり、現在ではモノやサービスを届ける活動や戦略が経営活動で大きな意味を持つようになった。</p> <p>本講義では重要性を増している流通システムとそれを支える情報システムについて、基礎的な理論から実際の実例までを取り扱う。そして、地域活性化や情報社会でのモノ以外の流通についても解説を行う。</p> <p>SDGs-8, 9, 12</p> |
|---------|--|

| | |
|------|--|
| 到達目標 | <p>(1) 身近にある流通システムの概要を説明できる</p> <p>(2) 経営戦略としての流通の重要性を理解できる (DP3)</p> <p>(3) 物流システムの要素を説明できる</p> <p>(4) 流通システムにおける情報技術の必要性を理解できる (DP3)</p> |
|------|--|

| | |
|----------|--|
| 授業方法と留意点 | <p>授業では受講生が主体的に学ぶために質問力の養成を図る。サブテーマ3回のうち1回を反転授業として受講生の予習を前提としたグループディスカッションを計画している。積極的な授業参加と主体的な学習を期待する。</p> <p>企業、公的団体の実務者による情報提供も行う場合がある。</p> <p>なお、大学構内での対面授業が困難な場合は、課題提供型授業とオンライン型授業 (一方向・双方向) などを組み合わせて実施する。</p> |
|----------|--|

| | |
|--------------|---------------------------|
| 科目学習の効果 (資格) | <p>・販売士検定3級試験の流通関連の知識</p> |
|--------------|---------------------------|

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------|--|--|
| | | | |
| 1 | イントロダクション | <ul style="list-style-type: none"> 授業の進め方 受講者の自己紹介 | 事前：シラバスを読んでくる (30分) 事後：課題提出日の確認 (30分) |
| 2 | 身近にある流通 (1) | <ul style="list-style-type: none"> コンビニエンスストア ファーストフード | 事前：授業内容に関連するストアを調べる (1時間) 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す (30分) |
| 3 | 身近にある流通 (2) | <ul style="list-style-type: none"> ショッピングセンター アウトレットパーク | 事前：授業内容に関連するショッピングセンターを調べる (1時間) 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す (30分) |
| 4 | 身近にある流通 (3) | <ul style="list-style-type: none"> 反転授業 グループディスカッション | 事前：事例報告の準備 (2時間) 事後：前回授業で提案した質問に対する回答を作る (1時間) |
| 5 | 人が動く流通 (1) | <ul style="list-style-type: none"> 購買行動 出店計画 | 事前：授業内容のキーワードについて調べる (1時間) 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す (30分) |
| 6 | 人が動く流通 (2) | <ul style="list-style-type: none"> 町おこし (観光政策) 都市計画 | 事前：授業内容のキーワードについて調べる (1時間) 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す (30分) |
| 7 | 人が動く流通 (3) | <ul style="list-style-type: none"> 反転授業 グループディスカッション | 事前：事例報告の準備 (2時間) 事後：前回授業で提案した質問に対する回答を作る (1時間) |
| 8 | 物流システム (1) | <ul style="list-style-type: none"> 物流センタ 配送計画 | 事前：授業内容のキーワードについて調べる (1時間) 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す (30分) |
| 9 | 物流システム (2) | <ul style="list-style-type: none"> 共同配送 個別配送 | 事前：授業内容のキーワードについて調べる (1時間) 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す (30分) |
| 10 | 物流システム (3) | <ul style="list-style-type: none"> 反転授業 グループディスカッション | 事前：事例報告の準備 (2時間) 事後：前回授業で提案した質問に対する回答を作る (1時間) |
| 11 | 情報と流通システム (1) | <ul style="list-style-type: none"> 情報技術と流通システム 流通システムの情報インフラ | 事前：授業内容のキーワードについて調べる (1時間) 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す (30分) |
| 12 | 情報と流通システム (2) | <ul style="list-style-type: none"> ロジスティクスシステム Web 流通システム | 事前：授業内容のキーワードについて調べる (1時間) 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す (30分) |
| 13 | 情報と流通システム (3) | <ul style="list-style-type: none"> 反転授業 グループディスカッション | 事前：事例報告の準備 (2時間) 事後：前回授業で提案した質問に対する回答を作る (1時間) |
| 14 | ケーススタディ | <ul style="list-style-type: none"> 事例紹介 外部講師 (調整によって変更あり) | 事前：事例に関する予習 (1時間) 事後：事例に関する復習 (30分) |
| 15 | 本講義のまとめ | 総復習 | 事前：ノートのまとめ (2時間) 事後：必要な部分の復習 (1時間) |

| | |
|------|--|
| 関連科目 | 「経営情報システムⅠ」、「経営情報システムⅡ」、「ビジネスシミュレーション」 |
|------|--|

| | | | | |
|---------------|---|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 定期試験またはレポート (50%)、授業中の課題やミニレポート (20%)、反転授業やグループディスカッションでの発表 (30%) | | | |
| 学生への メッセージ | 流通情報システムは「経営情報」によって大きく飛躍した分野です。身近にもたくさんの事例がありますから、興味を持って楽しみながら学びましょう。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 11号館7階 久保准教授室 | | | |
| 備考 | 事前・事後学習課題について授業の冒頭にMoodleやミニツッペーパーなどで確認を行うので、遅刻せずに出席すること。 | | | |

| | | | |
|----------------|------------|----------|--------------------|
| 科目名 | マーケティング戦略論 | 科目名 (英文) | Marketing Strategy |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 鶴坂 貴恵 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS2020a0 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | マーケティング概論で学んだことをさらに発展させ、「戦略」という視点からマーケティングを捉え、学んでいきます。知的専門職業人として活躍するために必要なマーケティング戦略論の考え方や基礎知識について学びます。中小企業の経営革新や創業の支援を行った担当教員の経験を活かして、事例を使った実践的教育を行います。 |
| 到達目標 | ・知的専門職業人として活躍するために必要なマーケティング戦略の考え方について理解する。(DP3) ・身近な事例をマーケティング戦略に結び付けて考えることができる。(DP3) |
| 授業方法と留意点 | 講義が中心です。教科書を利用し毎回プリントを配布します。また授業内容から小テストを行います。 |
| 科目学習の効果 (資格) | リテール・マーケティング (販売士) |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------|--|---|
| | | | |
| 1 | 競争環境をとらえる | 競争環境とは何か。いかに対処すべきかを考察します | 【事前学習】マーケティング論の復習、教科書第1章の読解 (2時間) 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする (1時間) |
| 2 | 市場環境をとらえる | 消費者行動の理解を図ります。 | 【事前学習】教科書第2章の読解 (1時間) 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする (1時間) |
| 3 | 流通環境をとらえる | 小売業者や卸売業者の役割、インターネットの影響などを考えます。 | 【事前学習】教科書第3章の読解 (1時間) 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする (1時間) |
| 4 | 市場機会の探索と評価 | 事業機会を探し出し、評価するための枠組みを紹介します。 | 【事前学習】教科書第4章の読解 (1時間) 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする (1時間) |
| 5 | 需要多様性への対応 | 探された市場機会への対応方法について考察します。 | 【事前学習】教科書第5章の読解 (1時間) 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする (1時間) |
| 6 | 価値提供と競争優位 | 競争相手に対して有利な立場に立てるようなやり方で顧客に価値を提供するための枠組みについて考察します。 | 【事前学習】教科書第6章の読解 (1時間) 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする (1時間) |
| 7 | 新製品開発戦略 | 新製品開発課程とマーケティング戦略構築とを関連づけて考察します。 | 【事前学習】教科書第7章の読解 (1時間) 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする (1時間) |
| 8 | 製品ライフサイクルとマーケティング戦略 | 製品ライフサイクルの各段階でどのようなマーケティング施策を必要とするかを考えます。 | 【事前学習】教科書第8章の読解 (1時間) 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする (1時間) |
| 9 | 製品戦略 | 提供価値と提供方法をどのような製品で実現し、どのようなサービスを付加するのかを考えます。 | 【事前学習】教科書第9章の読解 (1時間) 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする (1時間) |
| 10 | ブランド戦略 | ブランディングについて考えます。 | 【事前学習】教科書第10章の読解 (1時間) 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする (1時間) |
| 11 | 価格戦略 | 価格設定に影響を与える要因や価格の使い分けなどについて考えます。 | 【事前学習】教科書第11章の読解 (1時間) 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする (1時間) |
| 12 | プロモーション戦略 | 消費者とのコミュニケーションを図る方法であるプロモーション手段の組み合わせなどを考察します。 | 【事前学習】教科書第12章の読解 (1時間) 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする (1時間) |
| 13 | 流通チャネル戦略 | 標的市場に提供価値を届けるための最適な流通チャネルの選択と管理について考察します。 | 【事前学習】教科書第13章の読解 (1時間) 【事後学習】教科書を読み直し、次回小テストに備える (1時間) |
| 14 | 事例研究 1 | 企業事例を通じて、マーケティング戦略の実際を学びます。 | 【事前学習】事例の読解 (1時間) 【事後学習】事例を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする (1時間) |
| 15 | 事例研究 2 | 企業事例を通じて、マーケティング戦略の実際を学びます。 | 【事前学習】事例の読解 (1時間) 【事後学習】学習範囲を復習し期末テストに備える (2時間) |

| | |
|------|--|
| 関連科目 | マーケティング概論、消費者行動論、リテールマーケティング、マーケティング演習等マーケティング関連科目 |
| 教科書 | |

| | | | | |
|---------------|--|---------------------|------|------|
| | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 入門マーケティング戦略 | 池尾恭一 | 有斐閣 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | わかりやすいマーケティング戦略【新版】 | 沼上幹 | 有斐閣 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 提出物や小テスト、期末試験から成績を出す。 平常点(提出物、小テスト等)40%、期末試験60% | | | |
| 学生への メッセージ | 教科書の予習、復習を図ることで、マーケティング知識の定着が図れます。将来、仕事でマーケティングを活かしたい人はしっかりと学んでください。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 11号館7階(鶴坂研究室) | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|------------|----------|-------------------|
| 科目名 | メディアと社会 | 科目名 (英文) | Media and Society |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 横山 孝文 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS2021a0 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 本講義では、マスメディアからインターネットに代表されるメディアと情報通信技術の発展が近代社会の成り立ちにどのように影響を及ぼしてきたかについて、メディア研究の理論及びケース事例を参照しつつ多角的に考察する。 |
| 到達目標 | マスメディアの機能、社会的役割を説明できる。 インターネットがつながる仕組みと問題について説明できる。 メディアリテラシーを身につけ、メディアが発するメッセージに対して客観性を持った評価を行うことができるようになる。(DP3) |
| 授業方法と留意点 | ・授業は講義と、個人授業課題またはグループ等の実習・討議を組み合わせる ・講義・グループワークにおいて Web フォームやチャットを利用します ・質問は、対面に加え、指定する Web フォーム・質問共有システム (初回授業でガイド予定、締切厳守で毎回運用する) を利用し適宜回答します |
| 科目学習の効果 (資格) | ・メディア変遷と産業および文化としてのメディアを理解できる ・情報メディアを介して、潜在するネット事象への関心を高め、社会的な課題が理解できる ・Web/SNS 等デジタルな手段が提供する役割・特性の相違にもとづき、デバイスやネットを使い分ける判断力が養成できる ・同僚・先輩学生と意見交換を図るためのメディアリテラシーの基礎的な素養を身につけることができる |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------|---------------------------------------|---|
| | | | |
| 1 | イントロダクション | 授業ガイダンス 「コミュニケーション」とは何か 情報とメディア | 事後学習：イントロダクション内容から質問を Web フォーム入力する。(標準学習時間：0.5 時間) |
| 2 | 情報社会 | 情報社会論 マスメディア論 マクルーハン | 事前学習：情報化と社会の変化についてネット、参考図書などから調べてまとめておく (標準学習時間：1 時間) |
| 3 | 情報通信ネットワーク | 情報通信の歴史 モバイル通信の仕組み | 事前学習：情報通信の歴史をネットなどからまとめておく (標準学習時間：1 時間) |
| 4 | 情報通信と関連法 | 著作権法 個人情報保護法 一般データ保護規制 | 事前学習：ニュースになった著作権侵害の一事例について検索・調査、要約する。その内容をもとに議論する (標準学習時間：1 時間) |
| 5 | メディア | テレビ 新聞 ラジオ インターネット | 事前学習：日常接するメディアを列挙し、役割と特徴を、要約する (標準学習時間：1 時間) |
| 6 | インターネット広告 | バナー広告 検索連動型広告 行動ターゲティング広告 | 事前学習：ホームページ、けんくさいと、動画サイト、SNS など日ごろ目にするインターネット広告はどんなものがあるかまとめてみる (標準学習時間：1.5 時間) |
| 7 | 政治 | 政治とインターネット 選挙活動とソーシャルメディア アラブの春 | 事前学習：政治家によるホームページ、ブログ、SNS などの情報発信について検索・調査、要約する。その内容をもとに議論する (標準学習時間：1.5 時間) |
| 8 | キャンペーン | 広報 パブリックリレーション | 事前学習：新聞、テレビ、ネットで現在どのようなキャンペーンが行われているか調査、箇条書きでまとめる。その内容をもとに議論する (標準学習時間：1 時間) |
| 9 | 仮想と現実 | バーチャル空間 リアル空間 サイバー空間 | 事前学習：仮想現実テクノロジーがどのような分野で利用されているか調べておく (標準学習時間：1 時間) |
| 10 | IoT 社会 | IoT と社会 IoT 製品 | 事前学習：IoT とは何か？をその活用事例をネットや参考図書から調べておく (標準学習時間：1 時間) |
| 11 | ビッグデータと AI | ビッグデータの活用 人工知能 | 事前学習：ビッグデータの活用事例をネット、参考図書から調べておく (標準学習時間：1 時間) |
| 12 | 権利 | 自由とプライバシー 監視社会 通信傍受法 | 事前学習：権利とは何かを調べ、その分類をまとめておく (標準学習時間：1 時間) |
| 13 | 規範と秩序 | 炎上 法規制 情報リテラシー | 事前学習：SNS などニュースになった炎上事例について検索・調査、要約する。その内容をもとに議論する (標準学習時間：1 時間) |
| 14 | セキュリティ | サイバー犯罪 コンピュータウイルス セキュリティ対策 | 事前学習：サイバー犯罪の事例について検索・調査、要約する。各自の要約内容をもとに議論する (標準学習時間：1 時間) |
| 15 | 総括 | 総括 | 事前学習：総括と小テストの内容から質問を Web フォーム入力する。(標準学習時間：0.5 時間) |

関連科目

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|---------|--------------|-----------|------|
| | 1 | ソーシャルメディア論 | 藤代裕之 | 青弓社 |
| 2 | メディア社会論 | 辻泉・南田勝也・土橋臣吾 | 有斐閣ストゥディア | |
| 3 | | | | |

| | |
|---------------|---|
| 評価方法 (基準) | 定期試験 (70%) レポート (30%) |
| 学生への メッセージ | デジタルメディアの登場によりメディアが個人の活動や社会とどのように変化したか、今後どのように進化していくか私たちの生活にどのような効果と影響を及ぼすのかを学習します。 またメディアの変遷として新聞・放送といったマスメディアから学ぶことで、その違いを多様な視点から考察します。 さらにグループワークでは主体的に参画し、コミュニケーションを通じてメディアとは何かを体験していくことを期待します。 |
| 担当者の 研究室等 | |
| 備考 | 初回授業で、講義および課題の進め方の詳細の説明、ケーススタディ (グループ・個人)、課題発表 (プレゼンテーション) の実施要領、学習支援ツール (Web フォーム・質問共有システムなど) の使用方法を説明するので、必ず出席してください。 |

| | | | |
|----------------|------------|----------|----------------|
| 科目名 | メディア戦略論 | 科目名 (英文) | Media Strategy |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 針尾 大嗣 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS2022a0 | | |

| | |
|-----------|--|
| 授業概要・目的 | 本講義では、企業のマーケティング政策における IT 導入戦略（メディア戦略）の立案・策定から導入・評価に取り組むうえで必要となる概念、フレームワーク、戦術的手法およびテクノロジーについて学ぶ。これまで IT 導入戦略の立案・策定においては、様々なアプローチや方法論が提唱されているが、ここでは企業価値及び競争優位性の向上を図ることを目指した中長期的な IT 導入戦略を重視し、主に競争戦略論で取り上げられる概念、フレームワークを中心に解説する。また IT 導入戦略の導入・評価においては、情報通信技術を導入した先進的な企業のマーケティング取り組み事例のほか、当該技術の導入効果を評価する際に用いられている評価モデルや指標についても取り上げる。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・競争戦略論の代表的な概念、フレームワークについて説明ができる。 ・近年のマーケティング政策で導入されている代表的な情報通信技術・サービス、その動作原理について説明ができる。 ・企業のメディア戦略の概要を説明できる。 ・企業が直面する問題に関心をもち、それらの問題解決に主体的に取り組む姿勢を身につける。(DP2・DP3) |
| 授業方法及び留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業は、教材を用いた「講義」形式で進める。 ・教材は、配布資料を使用する。 ・教材は、講義開始1週間前に WebFolder にアップロードしておく。 ・授業は、以下のように進める予定である。 通常：対面開講（時間配分：解説70分、ディスカッション・質疑20分） 対面実施が困難な場合：Teams 上でのオンライン開講（同上） ・オンライン授業に切り替える場合 連絡方法：WebFolder 上で配布する利用 その他：グループワーク時は Web カメラを On して下さい。 ・レポート等については、提出確認及び採点結果について知らせる。 ・新型コロナ事情によっては取り上げるテーマを一部変更する。 |

| | |
|--------------|---|
| 科目学習の効果 (資格) | 身近な情報サービスを例に、それらがビジネスとして成り立つ仕組みについて理解することができる。 IT パスポート試験・基本情報技術者試験など IT 系の資格を取得するのに関連する科目である。 |
|--------------|---|

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------|---|--|
| | | | |
| 1 | 企業の競争環境と経営戦略 (1) | 主に以下について取り上げる。 ・本講義の進め方 ・経営戦略の考え方 ・マーケティング戦略 ・経営戦略の構造と策定 ・経営戦略のフレームワーク | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度) |
| 2 | 企業の競争環境と経営戦略 (2) | 主に以下について取り上げる。 ・プロダクトライフサイクル ・イノベータ理論 ・価格戦略 | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度) |
| 3 | 企業の競争環境と経営戦略 (3) | 主に以下について取り上げる。 ・戦略策定のパターン ・フォロワー戦略 | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度) |
| 4 | 企業の競争環境と経営戦略 (4) | 主に以下について取り上げる。 ・レポート1 ・「企業の競争環境と経営戦略」に関する質疑 | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度) |
| 5 | メディア戦略の理論 (1) | 主に以下について取り上げる。 ・顧客とは ・顧客戦略 ・顧客分析のフレームワーク ・グループワーク | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度) |
| 6 | メディア戦略の理論 (2) | 主に以下について解説する。 ・現代マーケティングとテクノロジー ・メディア戦略のフレームワーク ・パーチェイス・ファンネル | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度) |
| 7 | メディア戦略の理論 (3) | 主に以下について取り上げる。 ・ソーシャルメディア導入戦略 ・顧客接点 ・ロコミ | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度) |
| 8 | メディア戦略の理論 (4) | 主に以下について取り上げる。 ・レポート2 ・「メディア戦略の理論」に関する質疑 | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度) |
| 9 | メディア戦略を支える技術 (1) | 主に以下について取り上げる。 ・インターネット広告 | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 |

| | | | | |
|----|------------------|--|---|---|
| | | | <ul style="list-style-type: none"> インターネット広告と配信の仕組み 広告の評価指標 | <p>復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)</p> |
| 10 | メディア戦略を支える技術 (2) | | <p>主に以下について取り上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ターゲティング広告の種類と方法 ターゲティング広告を支える技術 ビッグデータ・AI の活用 ディスカッション | <p>予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)</p> |
| 11 | メディア戦略を支える技術 (3) | | <p>主に以下について取り上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> レポート 3 「メディア戦略を支える技術」に関する質疑 | <p>予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)</p> |
| 12 | メディア戦略の設計と立案 (1) | | <p>主に以下について取り上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境分析と戦略立案 外部環境分析 内部環境分析 | <p>予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)</p> |
| 13 | メディア戦略の設計と立案 (2) | | <p>主に以下について取り上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 顧客分析 カスタマージャーニーマップ ディスカッション | <p>予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)</p> |
| 14 | メディア戦略の設計と立案 (3) | | <p>主に以下について取り上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> レポート 4 「メディア戦略の設計と立案」に関する質疑 | <p>予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)</p> |
| 15 | 総括 | | <p>主に以下について取り上げる</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 1-14 回のまとめ テスト | <p>予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)</p> |

関連科目 ICT 概論、経営情報システム、コンテンツビジネスなど

| | | | | |
|-----|----|------|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 配布資料 | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-------------|-----|----------------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | ウェブ解析士 2020 | | 一般社団法人ウェブ解析士協会 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

評価方法 (基準) テスト (60%)、レポート (40%) で評価する。
講義中の質疑内容、ディスカッション報告についても加点する。

学生へのメッセージ ウィルスの感染被害状況がどの程度のものになるか全く予想が付きませんが、おそらく健康不安を抱えたままの大学生活になることでしょう。そうした不安からくる負担を少しでも解消できるようこの授業では出来る限り策を講じて進めていきたいと思っています。そのためには受講生の協力も必要です。お互いに協力しあって進めていきましょう。

担当者の研究室等 11 号館 7 階 (針尾教授室)

備考

| | | | |
|----------------|------------|----------|--------------------|
| 科目名 | 市場調査法 | 科目名 (英文) | Marketing Research |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 山本 圭三 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS2023a0 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | ひとくちに社会調査といっても、その方法はさまざまである。この講義では調査目的にあわせて調査方法を決定し、調査を設計、実施し、分析しうる形にまで整理していく具体的な手法を学ぶ。調査対象者の選定、全数調査と標本調査、標本調査に際してのさまざまな手法、調査票の作り方、調査の配布回収方法、調査データの整理方法などについて、実践的な例をとりあげつつ解説していく。 |
| 到達目標 | 調査研究の全体的な流れが説明できる。 質問紙調査をおこなう際の諸問題について説明できる。 標本調査の方法について、目的に応じた使い分けができる (DP3)。 |
| 授業方法と留意点 | 講義形式を基本とするが、学生同士のディスカッションやグループワークも適宜取り入れる。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 社会調査の全体的な流れが理解できる。 「社会調査士」資格取得に必要な科目 (B科目) である。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------|----------------------|---|
| | | | |
| 1 | 社会調査の目的と意義 | 社会調査とは何か、なぜ調査が必要なのか。 | 配布資料を用いた復習 |
| 2 | 社会調査の全体的な流れ | 研究の企画から報告書の執筆までの流れ | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする |
| 3 | 調査を始める (1) | 問いと仮説の設定、概念の明確化 | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする |
| 4 | 調査を始める (2) | 調査方法の種類 | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする |
| 5 | 調査票を作成する (1) | ワーディング | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする |
| 6 | 調査票を作成する (2) | 回答選択肢の作成 | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする |
| 7 | 調査票を作成する (3) | 調査票全体の設計 | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする |
| 8 | 調査の実施 (1) | 調査票の配布と回収の方法 | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする |
| 9 | 調査の実施 (2) | 全数調査と標本調査、標本数の決定 | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする |
| 10 | 調査の実施 (3) | サンプリングの諸方法 | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする |
| 11 | データの作成 (1) | コードブックの作成と入力作業 | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする |

| | 12 | データの作成 (2) | コーディング・エディティング・データ クリーニング | る (事前) 事前に指示されている内容について下調べ をしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との 整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とす る | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|--|--------------|------------------------------|--|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| | 13 | データ分析の基礎 (1) | 度数分布、代表値 | (事前) 事前に指示されている内容について下調べ をしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との 整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とす る | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 14 | データ分析の基礎 (2) | 変数間の関係の分析 | (事前) 事前に指示されている内容について下調べ をしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との 整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とす る | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15 | 結果の報告 | 報告書作成に関する注意事項 | (事前) 事前に指示されている内容について下調べ をしておく (0.5時間) (事後) 配布資料全体の精読をする (2時間) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 社会学Ⅰ、社会学Ⅱ、市場調査入門、経営統計学、ビジネスデータ分析、マーケティング情報解析、市場調査実習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 受講態度 10%、課題及び試験 90% ※授業実施形態の変更があった場合は、それに伴って評価方法が変わることもある。その場合は、授業内で事前に周知する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | 社会調査の知識は、今やどこに行っても必要とされるものです。関心のある学生はぜひ受講して下さい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 11号館7階 山本准教授室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 授業の実施と運営の方法について、詳細は Teams 内で指示する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|------------|----------|------------------------|
| 科目名 | ビジネスデータ分析 | 科目名 (英文) | Business Data Analysis |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 針尾 大嗣 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS2024a0 | | |

授業概要・目的
 統計学は、入手したデータから有用な情報を得るために量的データを要約する方法を学ぶ学問である。経営分野では、企業経営におけるリスクの評価や意思決定を支援するためのデータ解析の手法として用いられており、生産、財務、マーケティングなど、その応用範囲は広い。本講義では、統計学の基礎的知識を持つ学生を対象に、統計学の応用としてコンピュータを用いた統計解析に重点を置き学んでいく。授業担当者は、かつて民間企業及び情報通信分野の研究所に勤務し、そこでは顧客・消費者の行動・心理をとらえるための各種データの多角的な分析技術を身につけてきた。講義では、これらの経験から経営学部生にとって有用と思われる分析メソッドについて丁寧に解説をしていくつもりである。

到達目標
 ・基本統計量の意味を十分理解し、実際の統計分析において利用できる。(DP6)
 ・SPSS/Excel を使用して基本的な統計処理・分析ができる。具体的には、基本統計量の出力、散布図等グラフ類の作表、相関分析について
 ・検定・推定の基本的な考え方を理解し、SPSS/Excel および手計算にて算出できる。
 ・ビジネス・パーソンとして活躍するための前提となる ICT 活用能力を身につける。(DP6)
 ・問題発見能力、情報の収集・選別・分析力を身につける。(DP2・DP3)

授業方法と留意点
 ・授業は、「演習」形式で進める。
 ・教材は、指定教科書および配布資料を使用する。
 ・指定教科書は、受講前に購入しておくこと。
 ・配布資料は、講義開始1週間前にWebFolderに上げておく。
 ・授業は、以下のように進める予定である。
 通常：対面開講（時間配分：解説30分、実習50分、質疑10分）
 対面実施が困難な場合：Teamsで開講（同上）
 ・オンライン授業に切り替える場合
 連絡方法：WebFolderにてアナウンスする。
 準備：「Excel」(Windows版)を利用し開講回テーマの順番を入れ替える。自宅端末にMicrosoft Excelを入れておくこと。
 カメラ：原則オフ。ただしグループ作業の際はオン。
 ・レポート等については、提出確認及び採点結果について知らせる。
 ・新型コロナ事情によっては取り上げるテーマを一部変更する。

科目学習の効果 (資格)
 社会調査士

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------|--|--|
| | | | |
| 1 | イントロダクション | 講義の進め方、評価について説明 | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習60分、復習30分程度) |
| 2 | データの構造① | 主に以下について取り上げる ・ヒストグラム ・平均 ・中央値等 | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習60分、復習30分程度) |
| 3 | データの構造② | 主に以下について取り上げる ・分散 ・標準偏差 ・基本統計量等 | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習60分、復習30分程度) |
| 4 | データの関連性① | 主に以下について取り上げる ・相関関係 ・相関係数等 | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習60分、復習30分程度) |
| 5 | データの関連性② | 主に以下について取り上げる ・回帰直線 ・単回帰分析等 | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習60分、復習30分程度) |
| 6 | 第2-5回のまとめと確認テスト | 主に以下について取り上げる ・第2-5回のまとめ ・確認テスト1 | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習60分、復習30分程度) |
| 7 | データの関連性③ | 主に以下について取り上げる ・重回帰分析 ・決定係数 ・多重共線性等 | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習60分、復習30分程度) |
| 8 | 差の意味① | 主に以下について取り上げる ・確率変数 ・分布(正規分布、F分布等) ・検定・推定の考え方 | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 |

| | | | | |
|----|--------------------|---|--|--|
| | | | | る。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度) |
| 9 | 差の意味② | 主に以下について取り上げる ・検定の意味 ・t 検定他 | | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度) |
| 10 | 差の意味③ | 主に以下について取り上げる ・クロス分析 ・カイ二乗検定等 | | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度) |
| 11 | 第 8-10 回のまとめと確認テスト | 主に以下について取り上げる ・第 7-10 回のまとめ ・確認テスト 2 | | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度) |
| 12 | 応用① | 主に以下について取り上げる ・SPSS を使った基本統計量の出力 ・SPSS を使った相関分析 | | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度) |
| 13 | 応用② | 主に以下について取り上げる ・SPSS を使った回帰分析 | | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度) |
| 14 | 応用③ | 主に以下について取り上げる ・SPSS を使った検定 (平均の検定、独立性の検定) | | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度) |
| 15 | 総括と実力テスト | 主に以下について取り上げる (AB 班) ・総括 ・実力テスト | | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度) |

| | | | | |
|-----------|---|---------------------|-------|------|
| 関連科目 | 経営統計学 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | EXCEL ビジネス統計分析第 3 版 | 末吉正成他 | 翔泳社 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | テスト (75%)、レポート (25%) | | | |
| 学生へのメッセージ | ウイルスの感染被害状況がどの程度のものになるか全く予想が付きませんが、おそらく健康不安を抱えたままの大学生活になることでしょう。そうした不安からくる負担を少しでも解消できるようこの授業では出来る限り策を講じて進めていきたいと思っています。そのためには受講生の協力も必要です。お互いに協力しあって進めていきましょう。 | | | |
| 担当者の研究室等 | 11 号館 7 階 (針尾教授室) | | | |
| 備考 | 新型コロナの感染被害状況により、対面からオンラインに切り替える場合もあります。その場合、在宅での受講条件として Excel を必要としますので、履修登録前に確認をしておいてください。 | | | |

| | | | |
|----------------|-------------|----------|--------------------------------|
| 科目名 | マーケティング情報解析 | 科目名 (英文) | Marketing Information Analysis |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 樋口 友紀 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1⑨, DP2② | | |
| 科目ナンバリング | IDS2025a0 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 近年、マーケティング戦略の立案などに際し、市場調査が頻りに利用されている。市場調査により収集されたマーケティング・データは、企業の意味決定において様々な形で利用される。ただし、これらのデータはそのままの形では有効に利用することが難しい。よって、種々の分析手法をもって、まずは有益な情報に変換されることとなる。本講義では、このようなマーケティング・データを扱うためのデータ分析手法について、多変量解析を中心に学習する。 |
| 到達目標 | 1. 経営諸科学に関する統計データに対し、統計的仮説検定の考え方や2変量および多変量解析の手法を学習することで、情報の収集・分析の能力を身につける。(DP 3) 2. 企業社会における諸問題に対し、データを分析することで得られた客観的な事実をもって対処する、問題解決力を身につける。 3. データの特徴を理解し、適切な分析手法の適用から得られた結果や情報を、正しく相手に伝える表現力を身につける。 |
| 授業方法と留意点 | 本講義ではExcel およびSPSSを使用します。 毎回の講義時に、講義内容に関連する課題を課します (Moodle からの提出)。 また、授業の連絡等にはTeams を利用します。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 「社会調査士」の資格取得のため必須科目 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------|------------------------------|---|
| | | | |
| 1 | イントロダクション | マーケティング・リサーチとデータ分析の関係について | 事後学習：配布レジюмеの見直し |
| 2 | リサーチの流れとデータの役割 | マーケティング・リサーチの基本知識、実行手順などについて | 事前学習：前回配布レジюмеの見直し 事後学習：配布レジюмеを見直し、課題を解くこと |
| 3 | 基礎統計 | 記述統計、グラフなど | 事前学習：前回配布レジюмеの見直し 事後学習：配布レジюмеを見直し、課題を解くこと |
| 4 | 仮説検定(1) | 無相関検定 | 事前学習：前回配布レジюмеの見直し 事後学習：配布レジюмеを見直し、課題を解くこと |
| 5 | 仮説検定(2) | カイ二乗検定 | 事前学習：前回配布レジюмеの見直し 事後学習：配布レジюмеを見直し、課題を解くこと |
| 6 | 仮説検定(3) | 平均値の差による検定 | 事前学習：前回配布レジюмеの見直し 事後学習：配布レジюмеを見直し、課題を解くこと |
| 7 | 多変量解析(1) | 回帰・重回帰分析 | 事前学習：前回配布レジюмеの見直し 事後学習：配布レジюмеを見直し、課題を解くこと |
| 8 | 多変量解析(2) | 重回帰分析を使用した需要予測 | 事前学習：前回配布レジюмеの見直し 事後学習：配布レジюмеを見直し、課題を解くこと 8回目以降対面での授業実施 |
| 9 | 多変量解析(3) | 時系列解析手法 | 事前学習：前回配布レジюмеの見直し 事後学習：配布レジюмеを見直し、課題を解くこと |
| 10 | 多変量解析(4) | 分散分析・数量化理論Ⅰ類 | 事前学習：前回配布レジюмеの見直し 事後学習：配布レジюмеを見直し、課題を解くこと |
| 11 | 多変量解析(5) | SPSSを使用した多変量解析の計算手法 | 事前学習：前回配布レジюмеの見直し 事後学習：配布レジюмеを見直し、課題を解くこと |
| 12 | 多変量解析(6) | 判別分析・数量化理論Ⅱ類 | 事前学習：前回配布レジюмеの見直し 事後学習：配布レジюмеを見直し、課題を解くこと |
| 13 | 多変量解析(7) | クラスター分析・コレスポンデンス分析 | 事前学習：前回配布レジюмеの見直し 事後学習：配布レジюмеを見直し、課題を解くこと |
| 14 | 多変量解析(8) | 主成分分析・因子分析 | 事前学習：前回配布レジюмеの見直し 事後学習：配布レジюмеを見直し、課題を解くこと |
| 15 | 講義まとめ | 半年間の講義のまとめと復習、質問への対応など | 講義で扱った内容を見直し、しっかりと理解すること。これまでの課題を解きなおす。質問したい事項があればまとめておく。 |

| | |
|------|-------------------------------------|
| 関連科目 | 市場調査入門、市場調査法、経営統計学、ビジネスデータ分析、市場調査実習 |
|------|-------------------------------------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|-----------------------|
| 評価方法 (基準) | 講義時の課題 70%、期末レポート 30% |
|-----------|-----------------------|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 理解できないところを、理解できないままにしておかないこと。 わからないところは、遠慮なく質問してください。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|--------------|
| 担当者の研究室等 | 11号館8階、樋口研究室 |
|----------|--------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 毎回の課題 (演習問題) については次週の講義で解説を行う。 毎週の事前・事後学習にかかる時間の目安は4~5時間程度とする。 |
|----|---|

| | | | |
|----------------|--------------|----------|---------------------|
| 科目名 | ビジネスシミュレーション | 科目名 (英文) | Business Simulation |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 久保 貞也 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS2026a0 | | |

| | | | | |
|--------------|---|----------------------------------|---|--|
| 授業概要・目的 | シミュレーションとはコンピュータを用いて現象をモデル化して実験する方法です。コンピュータの発展にともなって地球規模のシミュレーションも行えるようになってきました。この授業ではシミュレーションの基礎を学び、その上でビジネスの現場でシミュレーションがどのように使えるかについて学びます。 | | | |
| 到達目標 | この授業での到達目標は次のとおりです。 (1) シミュレーションを構成する要素が説明できる (DP3) (2) シミュレーションの有効性と限界を説明できる (DP3) (3) ビジネスにおけるシミュレーションモデルの提案ができる (DP3) SDGs-9, 11, 12, 15 | | | |
| 授業方法と留意点 | 毎回、コンピュータを用いた体験を含めた学習を行う。課題を多く出すため、授業への出席は必須である。授業内ではシミュレーションの活用についてのグループディスカッションやシミュレーション自体を製作する演習なども行う。企業・団体等の実務者によるレクチャーも検討している。なお、大学構内での対面授業が困難な場合は、課題提供型授業とオンライン型授業 (一方向・双方向) などを組み合わせて実施する。 | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | 基本情報処理技術者や中小企業診断士などの情報技術と経営の実践に関する知識 | | | |
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション | この授業の進め方、必要とする関連知識の説明 | 事前：シラバスを読む (30分) 事後：関連知識のキーワードを調べる (1時間) |
| | 2 | 身近なシミュレーション (1) 意思決定のプロセス | 分枝限定法による場合分けの手順を知る 決定や行動のデータベース化 (FileMaker の実習) | 事前：意思決定について過去に習った内容を見直す (1時間) 事後：購買行動について分枝限定法を試す (30分) |
| | 3 | 身近なシミュレーション (2) 顧客行動のシミュレーション | 顧客の購買を意思決定と確率でモデル化する | 事前：顧客行動のパターン化の例を調べる (1時間) 事後：データ分析からモデルを作る方法を考える (30分) |
| | 4 | 身近なシミュレーション (3) | 反転授業 グループディスカッション | 事前：事例報告の準備 (2時間) 事後：事例に関する復習 (30分) |
| | 5 | シミュレーションの理論 (1) 確率分布とシミュレーション | 事象を確率分布で表す利点を知る | 事前：確率分布の例を探す (1時間) 事後：他の授業で習った確率分布を確認する (30分) |
| | 6 | シミュレーションの理論 (2) 人工知能は賢いのか? | 人工知能の仕組みを知る エージェントモデル | 事前：人工知能に関連するニュースを調べる (1時間) 事後：AI 機能を実装しているものを試す (30分) |
| | 7 | シミュレーションの理論 (3) | 反転授業 グループディスカッション | 事前：事例報告の準備 (2時間) 事後：事例に関する復習 (30分) |
| | 8 | シミュレーションのモデリング (1) 社会のシミュレーション | 社会の動きをモデル化する方法を知り、分析できる限界について考える システムダイナミクス | 事前：社会の動きに関連する研究例を調べる (1時間) 事後：社会科学が対象としているものを確認する (30分) |
| | 9 | シミュレーションのモデリング (2) 自然現象のシミュレーション | 複雑系シミュレーションのグラフィックスを体験する | 事前：複雑系の意味を調べる (1時間) 事後：自然の世界に存在する複雑系モデルを探す (30分) |
| | 10 | シミュレーションのモデリング (3) | 反転授業 グループディスカッション | 事前：事例報告の準備 (2時間) 事後：事例に関する復習 (30分) |
| | 11 | モデリング演習 (1) | 任意の方法でシミュレーションを作る | 事前：シミュレートしたいものを複数用意する (2時間) 事後：シミュレーションを試す (1時間) |
| | 12 | モデリング演習 (2) | 任意の方法でシミュレーションを作る | 事前：シミュレーションの作成 (2時間) 事後：発表のポイントをまとめる (30分) |
| | 13 | モデリング演習 (3) | グループ発表 作成したシミュレーションの説明 | 事前：プレゼンテーションの準備を行う (1時間) 事後：聴講した発表についてまとめる (30分) |
| | 14 | この世はシミュレーションなのか? | この世の法則がなぜ数学で表されてしまうのかについてディスカッション | 事前：ディスカッションのための資料を読む (30分) 事後：ディスカッションで出てきた他者の意見をまとめる (1時間) |
| | 15 | 本授業のまとめ | 授業で習ったことの体系化を行う | 事前：これまで習ったことの確認 (2時間) 事後：ノートをまとめる (1時間) |
| 関連科目 | 経営統計学、マネジメントサイエンス、経営情報システム I | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|---------------|---|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 定期試験またはレポート 40% 授業中の課題 40% 発表などの成果物 20% | | | |
| 学生への メッセージ | シミュレーションはビジネスでも日常生活でも使える有用な手法です。コンピュータの利便性を活かせるシミュレーションについて理解して、経営情報学の面白さに触れて下さい。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 11号館7階 久保准教授室 | | | |
| 備考 | 事前・事後の学習課題については授業冒頭に Moodle やミニペーパーなどで提出する場合がありますので授業に遅刻しないこと。 | | | |

| | | | |
|----------------|--------------|----------|-------------------|
| 科目名 | マーケティングサイエンス | 科目名 (英文) | Marketing Science |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 樋口 友紀 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS2027a0 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 近年、ビジネスにおいてマーケティングは欠かすことのできないツールとなった。商品を生産すれば売れた時代とは違い、現在では多様化する消費者ニーズに的確に対応することが、企業にとって市場で生き残っていくためのカギとなっている。 本講義では、マーケティング戦略を立案する上で必要不可欠となるデータの扱い方および分析手法を学習する。 各種分析手法について、実際にデータを扱いながら、より実践的に学んでゆく。 また、講義内容についてより理解を深めるため、各自で分析テーマを計画し、分析を実行してもらう。 市場の動向を読むための技術を身につけることは非常に重要である。 |
| 到達目標 | 1. 経営諸科学に関する統計データに対し、2変量および多変量解析の手法について統計ソフトを用いて学習することで、情報の収集・分析の能力を身につける。(DP3) 2. 企業社会における諸問題に対し、データを分析することで得られた客観的な事実をもって対処する、問題解決力を身につける。 3. 情報・データの活用を通して得られた結果について、適切な表現力を身につけ、正しく相手に伝えるためのコミュニケーション能力を培う。 |
| 授業方法と留意点 | 講義では、SPSS (大学でのみ利用可) およびExcelを使用します。 毎回の講義内容に関して理解を深めるため、演習問題を課します (提出は Moodle から)。 連絡事項の伝達には Teams を利用します。 |
| 科目学習の効果 (資格) | マーケティング意思決定を支えるデータ分析の手法を学習するため、これらの知識を生かして様々な角度からマーケティング上の諸問題を考えることができるようになる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------|------------------------------------|---|
| | | | |
| 1 | ガイダンス 解析手法について | 授業の進め方など 様々な分析手法の概説 | 事前学習：事前に配布する講義用のレジュメを読む。 事後学習：講義で使用したレジュメの内容を見直ししておくこと。 |
| 2 | データ分析(1) | 二次データの整理方法とデータ読み取り エクセルによる基礎分析 | 事前学習：事前に配布する講義用のレジュメを読む。 事後学習：講義で使用したレジュメの内容を見直し、演習問題についてよく考えること。 |
| 3 | データ分析(2) | 相関分析 無相関検定 独立性の検定 | 事前学習：事前に配布する講義用のレジュメを読む。 事後学習：講義で使用したレジュメの内容を見直し、演習問題についてよく考えること。 |
| 4 | データ分析(3) | 平均値差による検定 分散分析 | 事前学習：事前に配布する講義用のレジュメを読む。 事後学習：講義で使用したレジュメの内容を見直し、演習問題についてよく考えること。 |
| 5 | データ分析(4) | 回帰分析 重回帰分析 | 事前学習：事前に配布する講義用のレジュメを読む。 事後学習：講義で使用したレジュメの内容を見直し、演習問題についてよく考えること。 |
| 6 | データ分析(5) | 重回帰分析 要因分析 数量化Ⅰ類 | 事前学習：事前に配布する講義用のレジュメを読む。 事後学習：講義で使用したレジュメの内容を見直し、演習問題についてよく考えること。 |
| 7 | これまでの復習 | SPSS 課題の作成とこれまでの復習 | 事前学習：事前に配布する講義用のレジュメを読む。 事後学習：講義で使用したレジュメの内容を見直し、演習問題についてよく考えること。 |
| 8 | データ分析(6) | 判別分析 数量化Ⅱ類 | 事前学習：事前に配布する講義用のレジュメを読む。 事後学習：講義で使用したレジュメの内容を見直し、演習問題についてよく考えること。 8回目以降対面での授業実施 |
| 9 | データ分析(7) | クラスター分析 | 事前学習：事前に配布する講義用のレジュメを読む。 事後学習：講義で使用したレジュメの内容を見直し、演習問題についてよく考えること。 |
| 10 | データ分析(8) | 様々な多変量データの分析(1) | 事前学習：事前に配布する講義用のレジュメを読む。 事後学習：講義で使用したレジュメの内容を見直し、演習問題についてよく考えること。 |
| 11 | データ分析(9) | 様々な多変量データの分析(2) | 事前学習：事前に配布する講義用のレジュメを読む。 事後学習：講義で使用したレジュメの内容を見直し、演習問題についてよく考えること。 |
| 12 | データ分析(10) | 最終レポートの提示 分析テーマの設定と仮説および分析案の明確化 | 事前学習：事前に配布する講義用のレジュメを読む。 事後学習：講義で使用したレジュメの内容を見直し、演習問題についてよく考えること。 |
| 13 | データ分析(11) | 適切な分析データの収集 | 事前学習：事前に配布する講義用のレジュメを読む。 事後学習：講義で使用したレジュメの内容を見直し、演習問題についてよく考えること。 |
| 14 | データ分析(12) | データのクリーニングとコーディング 分析手法の立案・実行 | 事前学習：事前に配布する講義用のレジュメを読む。 事後学習：講義で使用したレジュメの内容を見直し、演習問題についてよく考えること。 |

| | | | | |
|---------------|--|-----------|-----------------------|--|
| | 15 | データ分析(13) | 分析結果をプレゼンテーション資料として報告 | し、演習問題についてよく考えること。 事前学習：事前に配布する講義用のレジメを読む。 事後学習：講義で使用したレジメの内容を見直し、演習問題についてよく考えること。 |
| 関連科目 | 経営統計学、ビジネスデータ分析、マーケティング情報解析 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 毎回の課題(演習問題)70%、期末課題(最終レポート)30%で評価 | | | |
| 学生への メッセージ | 各回の授業中に資料を配布する。講義にはパワーポイントを使用。 課題作成にパソコンを使用する(WORD、Excel、SPSSなど)。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 11号館8階(樋口研究室) | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|------------|----------|---------------|
| 科目名 | プログラミング I | 科目名 (英文) | Programming I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 塚田 義典 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS2028a0 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 当授業では、プログラミングに必要な基礎知識とC言語を用いたプログラムの書き方について学習します。授業内容や課題の難易度は、プログラミングの初学者を対象としています。アルゴリズムを考えて、フローチャートを理解し、C言語で簡単なプログラムが作成できる能力の獲得を目的とします。 |
| 到達目標 | (1) アルゴリズムを考えてフローチャートを書くことができる (DP3) (2) C言語の文法が理解できる (3) プログラミング言語を独習できる知識が身につく (DP3) |
| 授業方法と留意点 | 授業資料 (PDF) は、各回の授業日までに Web Folder のプログラミング I またはプログラミング II のクラスにアップロードします。毎回の授業でテーマに関する演習課題を課します。提出期限が設定されているため、毎週必ず取り組みましょう。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 基本情報技術者試験 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------------|---------------------------------|---|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション | 経営学部でプログラミングを学ぶ意義、授業の進め方、評価について | 事前：シラバスを確認 (20分) 事後：授業内容見直し (30分) |
| 2 | プログラミングの理解 (1) | ビジュアルプログラミング | 事前：「ビジュアルプログラミング」について調べる (20分) 事後：授業内容見直し (30分) |
| 3 | プログラミングの理解 (2) | アルゴリズム、制御構造 | 事前：「アルゴリズム、制御構造」について調べる (20分) 事後：授業内容見直し (30分) |
| 4 | プログラミングの理解 (3) | フローチャート、変数 | 事前：「フローチャート、変数」について調べる (20分) 事後：授業内容見直し (30分) |
| 5 | ゲーム制作を通してプログラミングを学ぶ (1) | 特定倍数の判定、素数の判定 | 事前：「倍数判定、素数判定」について調べる (20分) 事後：授業内容見直し (30分) |
| 6 | ゲーム制作を通してプログラミングを学ぶ (2) | 接触ゲームの作成 | 事前：ビジュアルプログラミングを用いたゲームデザインについて調べる (20分) 事後：授業内容見直し (30分) |
| 7 | C言語によるプログラミング (1) | プログラミングの基本ルール、画面出力 | 事前：C言語の「画面出力」について調べる (20分) 事後：授業内容見直し (30分) |
| 8 | C言語によるプログラミング (2) | 整数の表示、小数の表示、文字の表示 | 事前：C言語の「整数、小数、文字の表示」について調べる (30分) 事後：授業内容見直し (30分) |
| 9 | C言語によるプログラミング (3) | 変数、代入演算子 | 事前：C言語の「変数、代入演算子」について調べる (20分) 事後：授業内容見直し (30分) |
| 10 | C言語によるプログラミング (4) | 算術演算子、キャスト演算子 | 事前：C言語の「算術演算子、キャスト演算子」について調べる (20分) 事後：授業内容見直し (30分) |
| 11 | C言語によるプログラミング (5) | 分岐処理、条件式、真偽値 | 事前：C言語の「条件分岐、条件式、真偽値」について調べる (20分) 事後：授業内容見直し (30分) |
| 12 | C言語によるプログラミング (6) | 反復処理 | 事前：C言語の「反復処理」について調べる (20分) 事後：授業内容見直し (30分) |
| 13 | C言語によるプログラミング (7) | 分岐処理と反復処理の組み合わせ | 事前：C言語の「条件分岐、反復処理の組み合わせ」について調べる (20分) 事後：授業内容見直し (30分) |
| 14 | 総括 | 総復習、テスト対策 | 事前：これまでの内容の確認 (60分) 事後：テスト勉強 (60分) |
| 15 | 期末テスト | 期末テスト | 事前：これまでの内容の確認 (60分) 事後：テストの振り返り (60分) |

関連科目

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----------------|-------|-----------|
| | 1 | 新・明解C言語 入門編 第2版 | 柴田 望洋 | SBクリエイティブ |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-------|-------|-----------|
| | 1 | やさしいC | 高橋 麻奈 | SBクリエイティブ |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

評価方法 (基準) 期末試験 50%、授業中の課題 50%をもとに総合的に評価します。この授業は演習中心であるため、出席が単位取得の必要条件となります。

学生へのメッセージ 事前学習については、授業計画を確認して予習に努めましょう。事後学習では、わからないところの理解に努めましょう。欠席した場合は、必ず Web Folder から授業資料を取得し、自習により追いついてください。友達同士で教え合って、それでも解決できなければ遠慮なく質問に来てください。

担当者の 11号館8階 塚田研究室

| | |
|------|---|
| 研究室等 | |
| 備考 | Windows 操作（キーボード入力、テキストのコピー&ペースト、ファイルの扱い）がスムーズにできると、授業に取り組みやすいのでパソコンに慣れていない人は、「ミカタイプ」や「すし打」等でタイピング練習をしておいてください。 |

| | | | |
|----------------|------------|----------|----------------|
| 科目名 | プログラミングⅡ | 科目名 (英文) | Programming II |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 塚田 義典 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS2029a0 | | |

| | | | | |
|--------------|--|------------------|----------------------------|--|
| 授業概要・目的 | 当授業では、C言語の基礎知識を持っていることを前提にして、経営分析に役立つプログラミング処理を学びます。企業の財務統計データを読み込み、収益性分析、安全性分析、生産性分析、成長性分析等の計算をプログラムで実装できる能力の獲得を目的とします。 | | | |
| 到達目標 | (1) プログラミングの構成要素を説明できる (2) ファイルの入出力処理を理解できる (3) 実務に応用できるプログラミング能力が身につく (DP3) | | | |
| 授業方法と留意点 | 対面授業とする。教材配布及び課題提出にはWeb Folderを使用する。毎回の授業でテーマに関する演習課題を課します。提出期限が設定されているため、毎週必ず取り組みましょう。 | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | 基本情報技術者試験 | | | |
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション | 授業の進め方、統合開発環境 | 事前学習：シラバスを読む (30分) 事後学習：プログラミング環境の構築手順の復習 (40分) |
| | 2 | プログラミングの基礎知識 (1) | プログラミングの考え方、画面出力 | 事前学習：C言語の「画面出力」について調べる (20分) 事後学習：授業内容見直し (30分) |
| | 3 | プログラミングの基礎知識 (2) | キーボードからの数値の読み取り、四則演算 | 事前学習：C言語の「キーボードからの数値の読み取り」、「四則演算」について調べる (20分) 事後学習：授業内容見直し (30分) |
| | 4 | プログラミングの基礎知識 (3) | 分岐処理 | 事前学習：C言語の「分岐処理」について調べる (20分) 事後学習：授業内容見直し (30分) |
| | 5 | プログラミングの基礎知識 (4) | 反復処理 | 事前学習：C言語の「反復処理」について調べる (20分) 事後学習：授業内容見直し (30分) |
| | 6 | プログラミングの基礎知識 (5) | 分岐処理、反復処理、乱数を組み合わせたプログラミング | 事前学習：乱数について調べる (20分) 事後学習：授業内容見直し (60分) |
| | 7 | 中間テスト | 中間テスト | 事前学習：これまでのおさらい (120分) 事後学習：中間テストの振り返り (40分) |
| | 8 | 中間テストの復習 | 中間テストの復習 | 事前学習：これまでのおさらい (60分) 事後学習：授業内容見直し (40分) |
| | 9 | プログラミングの応用 (1) | 配列 | 事前学習：C言語の「配列」について調べる (30分) 事後学習：授業内容見直し (30分) |
| | 10 | プログラミングの応用 (2) | 構造体 | 事前学習：C言語の「構造体」について調べる (60分) 事後学習：授業内容見直し (30分) |
| | 11 | プログラミングの応用 (3) | ファイル入出力 | 事前学習：「ファイル入出力」について調べる (120分) 事後学習：授業内容見直し (60分) |
| | 12 | プログラミングの応用 (4) | 財務統計データ処理 1 | 事前学習：財務統計データの計算方法とその実装方法について調べる (120分) 事後学習：授業内容見直し (60分) |
| | 13 | プログラミングの応用 (5) | 財務統計データ処理 2 | 事前学習：財務統計データの計算方法とその実装方法について調べる (120分) 事後学習：授業内容見直し (60分) |
| | 14 | 総復習 | これまでのおさらい | 事前学習：これまでのおさらい (120分) 事後学習：授業内容見直し (60分) |
| | 15 | 期末テスト | 期末テスト | 事前学習：これまでの内容の確認 (120分) 事後学習：テストの振り返り (60分) |
| 関連科目 | プログラミングⅠ | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 新・明解C言語 入門編 第2版 | 柴田 望洋 | SBクリエイティブ |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 期末試験 50%、授業中の課題 50%をもとに総合的に評価します。課題を期限内に提出できなかった場合は、大幅に減点されます。 | | | |
| 学生へのメッセージ | プログラムは数をこなさなければ身につけません。皆さん一人一人がプログラムを学ぶ目的を見出し、積極的に予習・復習することを期待します。 | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館8階 塚田准教授室 | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|------------|----------|----------------------|
| 科目名 | 情報ネットワーク | 科目名 (英文) | Information Networks |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 針尾 大嗣 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS2030a0 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 本講義では、社会、産業の重要なインフラストラクチャーであり、さまざまな分野で欠かせないコンピュータネットワークについて学習する。特に、ネットワークを構成する基本的な技術を整理し、どのようにして相互にデータのやりとりができるのか、それらの技術がどのように活用されているのかについて平易に解説する。また、LANやインターネットはもとより、モバイル通信およびネットワークセキュリティの基本的考え方についても、最新の技術動向やトピックスを交えて講義する。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ネットワークを構成する基本的な技術とその活用について学ぶことができる。 セキュリティ・インシデントと基本対策について学ぶことができる。(DP5) 企業が直面する問題に関心を持ち、それらの問題解決に主体的に取り組む姿勢を身につける。(DP2・DP3) |
| 授業方法と留意点 | <ul style="list-style-type: none"> 授業は、教材を用いた「講義」形式で進める。 教材は、配布資料を使用する。 教材は、講義開始1週間前にWebFolderにアップロードしておく。 授業は、以下のように進める予定である。 <p>通常：対面開講（時間配分：解説70分、ディスカッション・質疑20分） 対面実施が困難な場合：Teams上でのオンライン開講（同上）</p> <ul style="list-style-type: none"> オンライン授業に切り替える場合 <p>連絡方法：WebFolder上で配布する利用 その他：グループワーク時はWebカメラをOnして下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> レポート等については、提出確認及び採点結果について知らせる。 新型コロナ事情によっては取り上げるテーマを一部変更する。 |
| 科目学習の効果（資格） | 身近な情報サービスを例に、それらがビジネスとして成り立つ仕組みについて理解することができる。 ITパスポート、基本情報技術者、情報セキュリティマネジメントなどIT系の資格を取得するのに関連する科目である。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------|---|--|
| | | | |
| 1 | 情報ネットワークとは | 主に以下について取り上げる。 ・進め方 ・ネットワークの分類 ・プロトコル ・OSI参照モデル ・通信方式等 | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習60分、復習30分程度) |
| 2 | TCP/IPの基礎(1) | 主に以下について取り上げる。 ・TCP/IP ・IP、TCP、UDP ・IPアドレス ・サブネットなど | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習60分、復習30分程度) |
| 3 | TCP/IPの基礎(2) | 主に以下について取り上げる。 ・ポート ・IPパケット ・ARP ・ルータ、デフォルトゲートウェイ等 | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習60分、復習30分程度) |
| 4 | 有線・無線LANの基礎 | 主に以下について取り上げる。 ・イーサネット ・無線通信の構成、方式 ・周波数、帯域 ・無線LANの規格等 | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習60分、復習30分程度) |
| 5 | インターネットとサービス(1) | 主に以下について取り上げる。 ・インターネットの構成と接続 ・アクセス回線 ・ドメイン ・DNS等 | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習60分、復習30分程度) |
| 6 | インターネットとサービス(2) | 主に以下について取り上げる。 ・Web、HTTP ・認証 ・Cookie ・メール配送の仕組み等 | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習60分、復習30分程度) |
| 7 | インターネットとサービス(3) | 主に以下について取り上げる。 ・DHCP ・IP到達性 ・ネットワークコマンド ・ルーティングテーブル等 | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習60分、復習30分程度) |
| 8 | セキュリティの概念と対策 | 主に以下について取り上げる。 ・情報セキュリティの定義と要素 ・各種セキュリティガイドライン ・情報資産 ・不正のメカニズム等 | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習60分、復習30分程度) |
| 9 | サイバー攻撃(1) | 主に以下について取り上げる。 ・代表的なサイバー攻撃 ・攻撃者のタイプ ・サイバー攻撃のプロセス | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 |

| | | | | |
|---------------|--|---------------|---|--|
| | | | ・サイバー攻撃ツール等 | る。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度) |
| | 10 | サイバー攻撃 (2) | 主に以下について取り上げる。 ・前回の続き | 予習: 事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習: 講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度) |
| | 11 | サイバー攻撃 (3) | 主に以下について取り上げる。 ・前回の続き | 予習: 事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習: 講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度) |
| | 12 | 情報セキュリティの基礎技術 | 主に以下について取り上げる。 ・暗号化の考え方 ・暗号化の技術 ・暗号化の種類 ・認証等 | 予習: 事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習: 講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度) |
| | 13 | 情報セキュリティ対策 | 主に以下について取り上げる。 ・内部不正防止 ・多層防御 ・プロキシサーバ ・DMZ 等 | 予習: 事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習: 講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度) |
| | 14 | 情報セキュリティの管理 | 主に以下について取り上げる。 ・情報セキュリティポリシー ・リスクアセスメント ・情報基本台帳 ・情報セキュリティガバナンス等 | 予習: 事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習: 講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度) |
| | 15 | 総括 | 主に以下について取り上げる。 ・第 1-14 回のまとめ ・テスト | 予習: 事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習: 講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度) |
| 関連科目 | 情報処理関連の基礎科目 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | ネットワークがよくわかる本 | 福永勇二 | SBクリエイティブ |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | テスト (60%)、レポート (40%) で評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | ウイルスの感染被害状況がどの程度のものになるか全く予想つきませんが、おそらく健康不安を抱えたままの大学生活になることでしょう。そうした不安からくる負担を少しでも解消できるようこの授業では出来る限り策を講じて進めていきたいと思っています。そのためには受講生の協力も必要です。お互いに協力しあって進めていきましょう。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 11 号館 7 階 (針尾教授室) | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|-------------|----------|-------------------------|
| 科目名 | マルチメディア処理 I | 科目名 (英文) | Multimedia Processing I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 堀井 千夏 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS2031a0 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | マルチメディア技術は、教育、医療、経営など、我々の生活に関わるさまざまな分野で活用されている。本講義では、マルチメディアの基礎技術となる「デジタル画像処理」と「コンピュータグラフィックス」をとりあげ、その利用技術と生成手法について学んでいく。さらに、プログラミング演習を行うことで授業内容の理解を深める。 |
| 到達目標 | 「デジタル画像処理」と「コンピュータグラフィックス」の利用技術と生成手法について学び、情報技術を駆使した多彩な表現力について修得する (DP3)。 |
| 授業方法と留意点 | 初回到授業の説明を行うので、必ず出席すること。理由無く欠席した場合は受講する意思がないとみなす。私語等で授業の邪魔となる場合は退場並びにそれ以降の受講を遠慮してもらうので注意すること。また、この授業では、ICTを活用しながら実施する。講義資料はすべて Moodle を通じて配布する。配布期間以外の再配布はないので、必ずダウンロードして授業を受けるように。マルチメディア処理 I I はマルチメディア処理 I を履修していないと合格しない。マルチメディア処理 I I の履修を予定している者は、必ずこの科目を履修すること。 |
| 科目学習の効果 (資格) | CG 検定、画像処理検定、マルチメディア検定のための基礎知識を習得する。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------|--|--|
| | | | |
| 1 | マルチメディアを用いた応用技術 | ガイダンス、CG 映画、ビデオゲーム、マルチメディア通信応用システム、仮想現実感 | 事前学習：なし 事後学習：練習課題(1)を解く(1時間) |
| 2 | 基本的なシーンファイルの設定 | 座標系、カメラと照明の設定 | 事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(2)を解く(1時間) |
| 3 | CG の基本演習 | CG 作成手順、簡単な立体形状の作成、CG 画像の実例紹介 | 事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(3)を解く(1時間) |
| 4 | マルチメディアと人間の知覚特性 | 恒常現象、図の認識、錯覚、図と地 | 事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(4)を解く(1時間) |
| 5 | 視覚特性と聴覚特性 | 両眼立体視、図の動き、色の見え、聴覚効果 | 事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(5)を解く(1時間) |
| 6 | 物体の移動・回転・縮小・拡大 | 移動・回転・縮小・拡大の設定と見え方 | 事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(6)を解く(1時間) |
| 7 | 色彩表現 | 加法混色、減法混色、RGB/XYZ 表示系、マンセル表色系 | 事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(7)を解く(1時間) |
| 8 | 講義のまとめと小テスト | 講義前半のまとめと小テスト | 事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(8)を解く(1時間) |
| 9 | 色彩演習 | 立体の色彩表現 | 事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(9)を解く(1時間) |
| 10 | 2次元画像処理の基礎 | 画像の標本化と量子化、2値化処理、濃淡、陰線・陰面消去 | 事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(10)を解く(1時間) |
| 11 | 合成と変換 | 平滑化、鮮鋭化、モザイク処理、コントラストの変換、特殊効果 | 事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(11)を解く(1時間) |
| 12 | 立体の表現方法 | ステレオ画像処理、時分割メガネ方式、ステレオペア方式 | 事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(12)を解く(1時間) |
| 13 | 基本的な立体形状の作成 | 基本的な立体形状の作成方法 | 事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(13)を解く(1時間) |
| 14 | 物体の質感 | さまざまな物体の質感 | 事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(14)を解く(1時間) |
| 15 | 講義のまとめと小テスト | 講義後半のまとめと小テスト | 事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく(30分) 事後学習：練習課題(15)を解く(1時間) |

関連科目 マルチメディア処理 II、情報処理関連の基礎科目

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|---------------|---|
| 評価方法 (基準) | 授業中の課題 (20%)、小テスト (20%)、期末試験 (60%) により評価する。ただし、欠席または遅刻回数が全授業数の 1/3 回を超える場合は、期末試験の点数に関わらず単位を得ることはできない。また、授業に参加しない者 (寝る、喋る等) は欠席扱いとする。遠隔授業に切り替わった場合は、小テストおよび期末試験は課題に変更する。詳細については Moodle にて説明する。 |
| 学生への メッセージ | この授業は、情報関連分野の専門科目として情報処理の基礎科目やプログラミング演習を習得した中級者向けに講義を行っていく。このため、コンピュータの基本的な利用が困難な者は、授業の内容をよく確認してから受講して欲しい。また、マルチメディア処理 I I の履修を考えている者は、必ずこの科目を履修すること。 |
| 担当者の 研究室等 | 11 号館 8 階 堀井教授室 |
| 備考 | 課題やレポートについては、実施した次の授業で講評する。 |

| | | | |
|---------------|-------------|----------|------------------|
| 科目名 | コンピュータサイエンス | 科目名 (英文) | Computer Science |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 梅原 喜政 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS2032a0 | | |

| | |
|---------|--|
| 授業概要・目的 | ソフトウェアの基本的な仕組みとデータベースについて理解し、ノンプログラミングツールを用いたアプリケーションの要件定義・設計・開発・検証・評価までの一連のソフトウェア開発工程をグループワークで体験する。 |
| 到達目標 | 本授業は、コンピュータ・ソフトウェアに関する理解を深め、ノンプログラミングツールを用いて日常生活の不便や地域課題の解決に役立つアプリケーションを実装する考え方や手順を習得する。 (1) ソフトウェアの種類と仕組み、データ表現について理解する (2) データベースの基本的な仕組みと操作方法について理解する (3) ノンプログラミングツールを用いてアプリケーションを実装する (4) ソフトウェアの開発を通して論理的思考を身につけ、問題を発見する能力の基礎を構築する (DP3) |

| | |
|----------|--|
| 授業方法と留意点 | 本授業は、前半を講義形式、後半を実習形式として実施する。講義資料は、各回の授業日までに Web Folder にアップロードする。また、授業内にてテーマに関する演習課題を課す。提出期限が設定されているため、必ず取り組むこと。実習は、グループワークにて取り組むものとし、成果物を授業内にて発表する。 |
|----------|--|

| | |
|--------------|---|
| 科目学習の効果 (資格) | <ul style="list-style-type: none"> 世の中で活躍するソフトウェアの仕組みが理解できる。 ノンプログラミングツールによるソフトウェアの開発技術が身につく。 一連のソフトウェア開発手順を理解できる。 |
|--------------|---|

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------------|-----------------------------|--|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション | 授業の進め方、コンピュータサイエンスとは | <ul style="list-style-type: none"> シラバスの確認 (15分) 配布資料の予復習 (1時間) |
| 2 | ソフトウェア (1) | OS、ファイルシステム、アプリケーション、ソフトウェア | <ul style="list-style-type: none"> 配布資料の予復習 (1時間) 授業内容の見直し (1時間) |
| 3 | ソフトウェア (2) | データと情報、検索システム、広告、クラウドシステム | <ul style="list-style-type: none"> 配布資料の予復習 (1時間) 授業内容の見直し (1時間) |
| 4 | ソフトウェア (3) | 開発方法、ライブラリ、API、知的財産、オープンソース | <ul style="list-style-type: none"> 配布資料の予復習 (1時間) 授業内容の見直し (1時間) |
| 5 | データベース (1) | 関係データベース、正規化、SQL | <ul style="list-style-type: none"> 配布資料の予復習 (1時間) 授業内容の見直し (1時間) |
| 6 | データベース (2) | SQLを用いたデータ検索、データ結合 | <ul style="list-style-type: none"> 配布資料の予復習 (1時間) 授業内容の見直し (1時間) |
| 7 | データベース (3) | SQLを用いたデータ集計 | <ul style="list-style-type: none"> 配布資料の予復習 (1時間) 授業内容の見直し (1時間) |
| 8 | データベース (4) | NoSQL データベース、CAP 定理、データモデル | <ul style="list-style-type: none"> 配布資料の予復習 (1時間) 授業内容の見直し (1時間) |
| 9 | ノンプログラミングツールを用いたアプリ開発 (1) | 開発環境の準備、使い方、作業分担 | <ul style="list-style-type: none"> 配布資料の予復習 (1時間) 授業内容の見直し (1時間) |
| 10 | ノンプログラミングツールを用いたアプリ開発 (2) | 要件定義 (グループワーク) | <ul style="list-style-type: none"> 要件定義書の作成 (1時間) |
| 11 | ノンプログラミングツールを用いたアプリ開発 (3) | アプリ設計 (グループワーク) | <ul style="list-style-type: none"> 設計書類の作成 (1時間) |
| 12 | ノンプログラミングツールを用いたアプリ開発 (4) | アプリ開発 (グループワーク) | <ul style="list-style-type: none"> アプリケーションの実装 (1時間) |
| 13 | ノンプログラミングツールを用いたアプリ開発 (5) | アプリ検証 (グループワーク) | <ul style="list-style-type: none"> 検証シートの作成 (1時間) 発表資料の作成 (1時間) |
| 14 | ノンプログラミングツールを用いたアプリ開発 (6) | アプリ発表会、相互評価 | <ul style="list-style-type: none"> 授業内容の振り返り (1時間) |
| 15 | 総括 | 総復習 | <ul style="list-style-type: none"> 授業内容の振り返り (1時間) |

| | |
|------|--|
| 関連科目 | |
|------|--|

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-------------------|-------------|-------|
| 1 | 教養としてのコンピュータサイエンス | ブライアン・カーニハン | 日経 BP |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 授業中の課題 (50%)、グループワークとアプリの出来栄 (50%) をもとに総合的に評価する。この授業は演習中心であるため、出席が単位取得の必要条件となる。 |
|-----------|---|

| | |
|-----------|-------------------------------------|
| 学生へのメッセージ | 質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。 |
|-----------|-------------------------------------|

| | |
|----------|-------------------|
| 担当者の研究室等 | 11 号館 7 階 (梅原研究室) |
|----------|-------------------|

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | |
|----------------|------------|----------|----------------------------------|
| 科目名 | 経営情報システム I | 科目名 (英文) | Management Information Systems I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 久保 貞也 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1⑩, DP2② | | |
| 科目ナンバリング | IDS2033a0 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | <p>組織の経営において、経営情報システムはもつとも重要な要素の一つである。現在の情報社会を構築し、また、発展させ続けているのは情報システムを効果的に活用している組織や団体などである。</p> <p>本講義では、経営情報システムの利点に関する基本的な知識や発展の経緯を学ぶとともに、最新の技術動向についても紹介する。</p> <p>SDGs-9, 12</p> |
| 到達目標 | <p>(1) 経営情報システムの重要性を説明できる (DP3)</p> <p>(2) 経営情報システムを支える技術について知識を持っている (DP4)</p> <p>(3) 経営情報システムの構築と運用における課題について説明できる (DP5)</p> |
| 授業方法と留意点 | <p>スライド資料を使いながら、事例や理論について説明する。学生が講義中に最新動向を調べたり、グループによるディスカッション、ディベートなども行う。</p> <p>なお、大学構内での対面授業が困難な場合は、課題提供型授業とオンライン型授業 (一方向・双方向)などを組み合わせて実施する。</p> |
| 科目学習の効果 (資格) | <p>企業経営において情報技術がどのように活用されているかについての理解が深まる。</p> <p>ITパスポートをはじめとする情報処理技術者試験を受験する援助となる。</p> <p>中小企業診断士試験を受験する援助となる。</p> |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|-------------------------------------|---|
| | | | |
| 1 | イントロダクション | 授業の進め方、評価方法、情報社会と経営情報システム | <p>予習：シラバスを読んでおく (30分)</p> <p>復習：ディスカッションの準備 (1時間)</p> |
| 2 | 経営情報システムの知名度 | ディスカッション テーマ「情報システムを見たことがありますか？」 | <p>予習：ディスカッションの準備 (1時間)</p> <p>復習：ディスカッションで出た意見のまとめ (30分)</p> |
| 3 | 企業の経営情報システム (1) ものづくりと経営情報システム | 生産情報、生産管理システム、品質管理 | <p>予習：なし</p> <p>復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す (30分)</p> |
| 4 | 企業の経営情報システム (2) 「最強」の販売員と経営情報システム | POS、需要予測、在庫管理 | <p>予習：最近の購買行動を振り返る (30分)</p> <p>復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す (30分)</p> |
| 5 | 企業の経営情報システム (3) 身近にある経営情報システム | 反転授業 グループディスカッション | <p>予習：ディスカッションの準備 (1時間)</p> <p>復習：ディスカッションで出た意見の分類 (1時間)</p> |
| 6 | 経営情報システムの技術 (1) 経営情報システムの科学 | シミュレーション、モデリング | <p>予習：シミュレーション、モデリングと名のつくものを調べる (1時間)</p> <p>復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す (30分)</p> |
| 7 | 経営情報システムの技術 (2) 経営情報システムの限界 | 集合知、人工知能、ビッグデータ | <p>予習：ITの負の面を調べる (1時間)</p> <p>復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す (30分)</p> |
| 8 | 経営情報システムの技術 (3) 経営情報システムの最新トピック | 反転授業 グループディスカッション | <p>予習：ディスカッションの準備 (1時間)</p> <p>復習：ディスカッションで出た意見の分類 (1時間)</p> |
| 9 | 経営情報システムと組織 (1) 経営情報システムを活性化させる組織 | ナレッジマネジメント、BPR、SNS、プロジェクト管理 | <p>予習：組織的なIT利用の例を調べる (1時間)</p> <p>復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す (30分)</p> |
| 10 | 経営情報システムと組織 (2) サイバー犯罪と経営情報システム | サイバーテロ、情報セキュリティ、クラウド | <p>予習：サイバー犯罪について調べる (1時間)</p> <p>復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す (30分)</p> |
| 11 | 経営情報システムと組織 (3) 経営情報システムは必要か否か？ | 反転授業 グループディスカッション | <p>予習：ディスカッションの準備 (1時間)</p> <p>復習：ディスカッションで出た意見の分類 (1時間)</p> |
| 12 | これからの経営情報システム (1) 経営情報システムを駆使できる人材へ | CIO、e-ラーニング、資格情報、国の方針など | <p>予習：経営情報に関する資格や職業を調べる (1時間)</p> <p>復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す (30分)</p> |
| 13 | これからの経営情報システム (2) 生活の豊かさと経営情報システム | RESAS 医療情報、自治体情報システム | <p>予習：RESASを触る (1時間)</p> <p>復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す (30分)</p> |
| 14 | これからの経営情報システム (3) 経営情報システムのこれからの価値 | 反転授業 グループディスカッション | <p>予習：ディスカッションの準備 (1時間)</p> <p>復習：ディスカッションで出た意見の分類 (1時間)</p> |

| | | | | |
|---------------|--|-----|--------------|------------------------|
| | 15 | まとめ | 講義に関する質問への回答 | 予習：これまでの授業内容をまとめる（2時間） |
| 関連科目 | 経営情報システムⅡ、プログラミング、ビジネスデータ分析、ビジネス IT 演習、ビジネスシミュレーション、流通情報システム | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 定期試験またはレポート（50%）、課題やミニレポート（30%）、授業への参加度（20%）により総合的に評価する。 私語、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく対処するので注意すること。 | | | |
| 学生への メッセージ | 学科の名称である「経営情報」が入った科目です。経営情報システムの重要性や面白さ、奥深さに触れて、多様な科目に興味を持ってもらいたいと思っています。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 11号館7階（久保准教授室） | | | |
| 備考 | 事前・事後の学習課題については授業冒頭に Moodle やミニペーパーなどで提出する場合がありますので授業に遅刻しないこと。 授業では受講生が主体的に学ぶために質問力の養成を図る。サブテーマ3回のうち1回を反転授業として受講生の予習を前提としたグループディスカッションを計画している。積極的な授業参加と主体的な学習を期待する。 | | | |

| | | | |
|---------------|------------|---------|-----------------------------------|
| 科目名 | 経営情報システムⅡ | 科目名(英文) | Management Information Systems II |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 野間 圭介 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS2034a0 | | |

授業概要・目的

今日、情報通信技術(ICT, Information and Communication Technology)が企業や組織の活動に大きな影響を与えています。企業や組織の経営においてコンピュータの活用は不可欠となっており、その応用分野は定型業務にとどまらず企画立案など非定型の処理にまで及んでいます。その活用の巧拙が直接業績に影響することさえあります。

またインターネットを前提とした商品開発、物流、販売など経営の基盤そのものが変わりつつあります。そのような環境では情報通信技術、情報ネットワークの知識なしに企業や組織の活動全体を理解することは困難と言えます。

本講義では、経営の場で用いられている情報通信技術、その活用方法を中小企業診断士試験の試験科目「経営情報システム」で取り上げる内容に沿って学修します。

到達目標

1. 中小企業診断士試験科目「経営情報システム」に必要な基礎知識を修得することが目標です。
2. 専門分野の諸課題を解決するための、情報収集力・分析力を修得することが目標です。(DP3)

授業方法と留意点

テキストを事前学習して、講義では質問とその回答、加えて要点を解説します。
補足説明、事例紹介、今日的な話題などをPDFファイルにして、Microsoft Teams を用いて配布します。
コンピュータ(情報処理)技術を取り上げる講義科目ですが、実習を伴いません。

科目学習の効果(資格)

企業経営で情報技術がどのように活用されているかについての理解が深まると共に、情報システムの設計、開発に関する知識を身につけることができます。
中小企業診断士試験を受験する援助となります。

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------------------------|--|---|
| | | | |
| 1 | 第1章 情報技術に関する基礎的知識 1 ハードウェア | コンピュータの5大装置 | テキスト, 配付資料を読んでおく(60分) |
| 2 | 第1章 情報技術に関する基礎的知識 2 ソフトウェア | ファイル, データ形式, 文字コード | 事後課題(30分) 事前学習(30分) 疑問・質問の提出(30分) |
| 3 | 第1章 情報技術に関する基礎的知識 3 データベース | データモデル, DBMS | 事後課題(30分) 事前学習(30分) 疑問・質問の提出(30分) |
| 4 | 第1章 情報技術に関する基礎的知識 4 ネットワーク | トポロジー | 事後課題(30分) 事前学習(30分) 疑問・質問の提出(30分) |
| 5 | 第1章 情報技術に関する基礎的知識 5 インターネットの概要 | パケット, OSI (Open Systems Interconnection) 参照モデル | 事後課題(30分) 事前学習(30分) 疑問・質問の提出(30分) |
| 6 | 第1章 情報技術に関する基礎的知識 6 セキュリティ対策 | セキュリティポリシー | 事後課題(30分) 事前学習(30分) 疑問・質問の提出(30分) |
| 7 | 第1章 情報技術に関する基礎的知識 7 システム構成技術 | システムの処理形態 | 事後課題(30分) 事前学習(30分) 疑問・質問の提出(30分) |
| 8 | 第1章 情報技術に関する基礎的知識 8 プログラム言語 | アルゴリズム | 事後課題(30分) 事前学習(30分) 疑問・質問の提出(30分) |
| 9 | 第2章 システム・ソフトウェア開発 1 開発方法論 | システム開発アプローチ | 事後課題(30分) 事前学習(30分) 疑問・質問の提出(30分) |
| 10 | 第2章 システム・ソフトウェア開発 2 開発に関するガイドライン | プロジェクト管理 | 事後課題(30分) 事前学習(30分) 疑問・質問の提出(30分) |
| 11 | 第3章 経営情報管理 1 経営とIT | ICT戦略 | 事後課題(30分) 事前学習(30分) 疑問・質問の提出(30分) |
| 12 | 第3章 経営情報管理 2 IT資産管理 | ICTサービスマネジメント | 事後課題(30分) 事前学習(30分) 疑問・質問の提出(30分) |
| 13 | 第3章 経営情報管理 3 ITトレンドと関連用語 | ICTトレンド | 事後課題(30分) 事前学習(30分) 疑問・質問の提出(30分) |
| 14 | 第4章 統計解析 1 統計解析 | 基本統計量, 検定 | 事後課題(30分) 事前学習(30分) 疑問・質問の提出(30分) |
| 15 | 総合 | 総合学修, 質疑応答 | 事後課題(30分) 総合学修(30分) 疑問・質問の提出(30分) |

関連科目 経営情報システムⅠ, プログラミング, ビジネスデータ分析

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|--|---------------------|---------|
| 1 | 中小企業診断士 2022 年度版 最速合格のためのスピードテキスト 5 経営情報システム | TAC 株式会社(中小企業診断士講座) | TAC 出版 |
| 2 | 人間さまお断り 人工知能時代の経済と労働の手引き | ジェリー カブラン | 株式会社三省堂 |
| 3 | | | |

| | | | | |
|---------------|---|---|---------------------|---------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | ビジネスデータの分析リテラシーと活用 Excelによる実用データサイエンス入門 | 寺島和夫他 | 同文館出版 |
| | 2 | 文系AI人材になるー統計・プログラム知識は不要 Kindle版 | 野口竜司 | 東洋経済新報社 |
| | 3 | 中小企業診断士 2022 年度版 最速合格のための スピードテキスト | TAC 株式会社(中小企業診断士講座) | TAC 出版 |
| 評価方法 (基準) | 授業中の課題・成果物 (50%), 定期試験(50%) | | | |
| 学生への メッセージ | 知的好奇心が学問の原点です。何事にも興味関心を持ち、素朴な疑問を抱くようにしましょう。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 経営学部非常勤講師室 (11号館6階) | | | |
| 備考 | 講義資料(PDF ファイル)を毎回配布します。 | | | |

| | | | |
|----------------|--------------|----------|--------------------|
| 科目名 | プロジェクトマネジメント | 科目名 (英文) | Project Management |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 梅原 喜政 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS2035a0 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 企業等の組織が取り組むプロジェクトのマネジメント手法として、管理標準 (PMBOK) の示す方法論を学習する。プロジェクトマネジメントの実例として、特に、IT システムの設計から導入までの流れに注目し、ケーススタディに取り組み、グループワークをとって実践する視点から学習する。グループワークにより、課題の発掘、資料作成、プレゼンテーションを行うことで、ステークホルダーの視点から、効果的なプロジェクトマネジメントについて考察する。 |
| 到達目標 | プロジェクトマネジメントの管理標準 (PMBOK) のうち、初歩的なプロジェクトの提案に必要な計画の骨子、管理項目、実行可能なスケジュール等が理解できる。IT システムの設計から導入までの流れが理解でき、システム導入の際の適切なマネジメントについて理解できる。また、プロジェクトに関する情報を収集・分析し、生じうる問題を未然もしくは早期に対応できる。(DP3) |
| 授業方法と留意点 | 本授業は、前半を講義形式、後半を実習形式として実施する。講義資料は、各回の授業日までに Web Folder にアップロードする。また、授業内にてテーマに関する演習課題を課す。提出期限が設定されているため、必ず取り組むこと。実習は、グループワークにて取り組むものとし、成果物を授業内にて発表する。 |
| 科目学習の効果 (資格) | <ul style="list-style-type: none"> 企業経営において、IT システムを導入する際の流れを理解し、その際のマネジメントにおける留意点を把握できる。 プロジェクトマネジメント知識体系標準 PMBOK (Project Management Body of Knowledge) の概観・基本が理解できる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------|--|--|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション | 授業の進め方、プロジェクトマネジメントとは | <ul style="list-style-type: none"> シラバスの確認 (15分) 配布資料の予復習 (1時間) |
| 2 | IT システム導入プロジェクト (1) | 企業経営と IT システムの導入、要求分析と要件定義 | <ul style="list-style-type: none"> 配布資料の予復習 (1時間) 授業内容の見直し (1時間) |
| 3 | IT システム導入プロジェクト (2) | システム開発の流れ、失敗事例とその留意点 | <ul style="list-style-type: none"> 配布資料の予復習 (1時間) 授業内容の見直し (1時間) |
| 4 | プロジェクトマネジメントの体系・標準 | PMBOK (Project Management Body of Knowledge) の基礎、マネジメント体系の標準 | <ul style="list-style-type: none"> 配布資料の予復習 (1時間) 授業内容の見直し (1時間) |
| 5 | プロジェクトマネジメントの知識 (1) | 統合管理及びスコープ管理 | <ul style="list-style-type: none"> 配布資料の予復習 (1時間) 授業内容の見直し (1時間) |
| 6 | プロジェクトマネジメントの知識 (2) | スケジュール及びコスト管理 | <ul style="list-style-type: none"> 配布資料の予復習 (1時間) 授業内容の見直し (1時間) |
| 7 | プロジェクトマネジメントの知識 (3) | 品質及び資源、コミュニケーション管理 | <ul style="list-style-type: none"> 配布資料の予復習 (1時間) 授業内容の見直し (1時間) |
| 8 | プロジェクトマネジメントの知識 (4) | リスク及び調達、ステークホルダー管理 | <ul style="list-style-type: none"> 配布資料の予復習 (1時間) 授業内容の見直し (1時間) |
| 9 | プロジェクトマネジメントの実践 (1) | 計画フェーズ、WBS | <ul style="list-style-type: none"> 配布資料の予復習 (1時間) 授業内容の見直し (1時間) |
| 10 | プロジェクトマネジメントの実践 (2) | 要件定義フェーズ | <ul style="list-style-type: none"> 配布資料の予復習 (1時間) 授業内容の見直し (1時間) |
| 11 | プロジェクトマネジメントの実践 (3) | 設計・開発フェーズ | <ul style="list-style-type: none"> 配布資料の予復習 (1時間) 授業内容の見直し (1時間) |
| 12 | プロジェクトマネジメントの実践 (4) | テスト・移行フェーズ | <ul style="list-style-type: none"> 配布資料の予復習 (1時間) 授業内容の見直し (1時間) |
| 13 | プロジェクトマネジメントの実践 (5) | 運用・保守フェーズ | <ul style="list-style-type: none"> 配布資料の予復習 (1時間) 授業内容の見直し (1時間) |
| 14 | プロジェクトマネジメントの実践 (6) | 失敗事例から学ぶプロジェクトマネジメント | <ul style="list-style-type: none"> 授業内容の振り返り (1時間) |
| 15 | まとめ | 総括 | <ul style="list-style-type: none"> 授業内容の振り返り (1時間) |

関連科目

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|--------------------------------|------|------|
| 1 | プロジェクトマネジメント標準 PMBOK 入門 第6版対応版 | 広兼 修 | オーム社 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

評価方法 (基準) 授業中の課題 (50%)、グループワークの成果物 (50%) をもとに総合的に評価する。

学生へのメッセージ 質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。

担当者の研究室等 11 号館 7 階 (梅原研究室)

備考

| | | | |
|----------------|------------|----------|------------------|
| 科目名 | コンテンツビジネス | 科目名 (英文) | Content Business |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 針尾 大嗣 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS2036a0 | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業概要・目的 | 本講義では、ITの急速な進展を背景として、今後高い成長が見込まれるコンテンツ（クリエイティブ）産業について学ぶ。コンテンツ産業とは、映像、音楽、ゲーム、書籍などのコンテンツの制作や流通に携わる産業の総称であり、近年、これらコンテンツ流通のグローバル化が加速する中で、その潜在力と波及効果の大きさから、我が国の主要な成長分野として強化・育成に取り組まれている。そこで、この講義では、代表的なコンテンツ業界（放送、映画、広告、出版、音楽）の産業構造、市場動向、関連法、ビジネスモデル、コンテンツ制作・流通、イノベーションについて解説する。また後半は、非コンテンツ業界（主にメーカー）によるコンテンツビジネスに向けた取り組みの最新情勢について取り上げる。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 代表的なコンテンツ（クリエイティブ）業界の構造とビジネスモデルを説明できる。（DP2） 日米のコンテンツ産業政策の違いについて説明できる。 製造業、サービス業で取り組まれているコンテンツ開発の事例を取り上げ説明できる。 企業が直面する問題に関心をもち、それらの問題解決に主体的に取り組む姿勢を身につける。（DP2・DP3） |
| 授業方法及び留意点 | <ul style="list-style-type: none"> 授業は、「講義中心」形式で進める。 教材は、配布資料を使用する。 教材は、講義開始1週間前にWebFolderにアップロードしておく。 授業は、以下のように進める予定である。 通常：対面開講（時間配分：解説70分、ディスカッション・質疑20分） 対面実施が困難な場合：Teams上でのオンライン開講（同上） オンライン授業に切り替える場合 連絡方法：WebFolder上で配布する利用 その他：グループワーク時はWebカメラをOnして下さい。 レポート等については、提出確認及び採点結果について知らせる。 新型コロナウイルスによっては取り上げるテーマを一部変更する。 |

| | |
|-------------|--|
| 科目学習の効果（資格） | 身近な情報サービスを例に、それらがビジネスとして成り立つ仕組みについて理解することができる。 |
|-------------|--|

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------|---|--|
| | | | |
| 1 | イントロダクション | 主に以下について取り上げる ・コンテンツビジネスとは ・本講義で取り上げるコンテンツ産業について | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習60分、復習30分程度) |
| 2 | 放送業界（1） | 主に以下について取り上げる ・産業構造 ・市場動向 ・ビジネスモデル ・放送法等 | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習60分、復習30分程度) |
| 3 | 放送業界（2）+レポート | 主に以下について取り上げる ・放送業界（1）の続き ・レポート | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習60分、復習30分程度) |
| 4 | 映画業界（1） | 主に以下について取り上げる ・産業構造 ・市場動向 ・ビジネスモデル ・映画製作等 | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習60分、復習30分程度) |
| 5 | 映画業界（2）+レポート | 主に以下について取り上げる ・映画業界（1）の続き ・レポート | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習60分、復習30分程度) |
| 6 | 広告業界（1） | 主に以下について取り上げる ・産業構造 ・市場動向 ・マス広告とインターネット広告 ・ネット広告の仕組み等 | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習60分、復習30分程度) |
| 7 | 広告業界（2）+ディスカッション | 主に以下について取り上げる ・広告業界（1）の続き ・グループディスカッション | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習60分、復習30分程度) |
| 8 | 出版業界（1） | 主に以下について取り上げる ・産業構造 ・市場動向 ・関連法 ・電子書籍流通等 | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習60分、復習30分程度) |
| 9 | 出版業界（2）+レポート | 主に以下について取り上げる ・出版業界（1）の続き | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 |

| | | | | |
|----|-----------------|--|---|--|
| | | | ・グループディスカッション | 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度) |
| 10 | 音楽業界 (1) | | 主に以下について取り上げる ・産業構造 ・市場動向 ・関連法 ・音楽 SNS 等 | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度) |
| 11 | 音楽業界 (2) + レポート | | 主に以下について取り上げる ・音楽業界 (1) の続き ・レポート | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度) |
| 12 | 製造業界 (1) | | 主に以下について取り上げる ・自動車業界を取り巻く IT 環境 ・日米中の自動車市場 ・MaaS ・スマートカー等 | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度) |
| 13 | 製造業界 (2) | | 主に以下について取り上げる ・時計業界を取り巻く IT 環境 ・時計のイノベーション史 ・スマートウォッチ等 | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度) |
| 14 | 製造業界 (3) | | 主に以下について取り上げる ・飲料食品業界を取り巻く IT 環境 ・飲料食品メーカーによるコンテンツ開発と目的等 | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度) |
| 15 | 総括 | | 以下を行う ・全体のまとめ ・テスト | 予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度) |

関連科目

ICT 概論、メディア戦略論

教科書

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|------|-----|------|
| 1 | 配布資料 | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

参考書

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|----------|-----|------|
| 1 | 初回講義にて指定 | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

評価方法
(基準)

テスト (60%)、レポート (40%) で評価する。
講義中の質疑内容についても加点する場合もあり。

学生への
メッセージ

ウイルスの感染被害状況がどの程度のものになるか全く予想が付きませんが、おそらく健康不安を抱えたままの大学生活になることでしょう。そうした不安からくる負担を少しでも解消できるようこの授業では出来る限り策を講じて進めていきたいと思っています。そのためには受講生の協力も必要です。お互いに協力しあって進めていきましょう。

担当者の
研究室等

11 号館 7 階 (針尾教授室)

備考

講義で取り扱う業界と実施回については、受講生の関心や情勢にあわせて変更する場合があります。

| | | | |
|----------------|------------|----------|------------------------------------|
| 科目名 | 知的財産管理論 | 科目名 (英文) | Intellectual Properties Management |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 林 正浩 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1⑥, DP2② | | |
| 科目ナンバリング | IDS2037a0 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | <p>近年、知的財産の戦略的な創造と活用が企業経営の機能として占める意義がますます高まっています。効率的な企画・開発プロセスにより高収益体質のビジネスモデルを作り上げるためには、知的財産を成長戦略の軸として活用することが必要不可欠となっています。戦略的且つ、組織的な研究開発の推進により創出される企業の新たな価値（知の潜在成長力）である知的財産権の活用方法、管理体系について学びます。</p> <p>【SDGs-9】（産業と技術革新の基盤をつくろう）</p> <p>【担当教員実務経歴】</p> <p>①地域金融機関（本店営業部 ベンチャー新規事業融資審査担当） ②新日本監査法人（ベンチャー等、事業会社の無形資産価値評価） ③ベンチャー投資財団（株式公開準備企業における特許等無形資産の戦略的管理指導） ④静岡大学（知的財産本部副本部長 研究シーズ、特許等の出願、管理に係る指導業務）</p> |
| 到達目標 | <p>知的財産の代表格である特許権の他、著作権、製品企画・販売戦略に必要な商標権、コンテンツビジネスに係わる価値（知財権）の戦略的活用法の基礎的知識を会得し、将来、企業における無形資産管理専門人材としての育成を目指します。（DP4）</p> <p>社会活動における知的財産権の法的効力を理解した企業人を目指します。（DP4）</p> |
| 授業方法と留意点 | <p>当該授業内容に関する資料をTeamsのチャンネル「日付」のファイルに、授業回の前週金曜日に格納しておきますので、各自、印刷準備の上、授業に参加して下さい。</p> <p>毎回、講義内容に関する質問（アンケート表）を提示します。指定時間までに提出してもらいます。</p> <p>毎回授業の最終で次の学習項目を提示しますので、各自、事前に学習して下さい。</p> |
| 科目学習の効果（資格） | <p>文科系分野の人材であっても、技術、発明等による製品、商品の活用手法、および法令遵守による事業遂行に係る留意すべき点を認識し、将来の企業での業務に役立てることが出来ます。</p> <p>特に、身の回りにある製品や商品の販売戦略、海外への進出等に必要なる管理手法を会得できます。</p> |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------------|---|--|
| | | | |
| 1 | 講座ガイダンス 知的財産とは？ | 講座ガイダンス（勉強方法・評価方法） 社会で活躍する知財人材とは？ アンケート設問による授業内容の再確認。 | <事後>Stream 聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（30分） |
| 2 | 知的財産制度 知的財産の種類と機能 | 制度としての必要性和消費生活における知的財産の役割 アンケート設問による授業内容の再確認。 | <事前> 次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30分）。 <事後>Stream 聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。 |
| 3 | 知的財産制度 知財権の法的保護 | 企業における知的財産の活用手法と企業内戦略組織の組立 アンケート設問による授業内容の再確認。 | <事前> 次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30分）。 <事後>Stream 聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。 |
| 4 | 知的資産の流出防止と企業戦略 | ニーズ志向での知財戦略 知的活用での知財戦略 アンケート設問による授業内容の再確認。 | <事前> 次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30分）。 <事後>Stream 聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。 |
| 5 | 文科系色の知的財産権創出の考え方 | ビジネスモデルと差別化知財戦略における留意点 アンケート設問による授業内容の再確認。 | <事前> 次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30分）。 <事後>Stream 聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。 |
| 6 | ノウハウの管理手法と企業内知財の取扱法務 | 営業秘密（不正競争防止法）と職務発明（事例研究）の考え方。 アンケート設問による授業内容の再確認。 | <事前> 次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30分）。 <事後>Stream 聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。 |
| 7 | 知的財産権の法的効力と活用 | 独占禁止法と知的財産法との関係性 アンケート設問による授業内容の再確認。 | <事前> 次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30分）。 <事後>Stream 聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。 |
| 8 | 知的財産権創出における知財市場調査手法 | 知的財産権調査の考え方 知的財産権調査の実践（目的別） アンケート設問による授業内容の再確認。 | <事前> 次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30分）。 <事後>Stream 聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。 |
| 9 | 企業財務における知的財産権の位置づけ | 知財価値評価説明のための財務基礎知識 アンケート設問による授業内容の再確認。 | <事前> 次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30分）。 <事後>Stream 聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。 |
| 10 | 知的財産の経済的価値評価 | 知財価値評価のための考え方とその必要意義 アンケート設問による授業内容の再確認。 | <事前> 次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30分）。 <事後>Stream 聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。 |
| 11 | 知財ファイナンスのための金融投資手法の基礎 | 金融投資基礎知識と知財ファイナンスの基礎 アンケート設問による授業内容の再確認。 | <事前> 次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30分）。 <事後>Stream 聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。 |
| 12 | 知的財産権の侵害行為と防御手法 | 侵害訴訟の考え方と法的対応策 アンケート設問による授業内容の再確認。 | <事前> 次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30分）。 <事後>Stream 聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。 |
| 13 | 知財出願実務と契約手法 | 出願実務および契約実務の留意点 アンケート設問による授業内容の再確認。 | <事前> 次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30分）。 |

| | | | 認 | <事後>Strea 聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習 (30分)。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|---|----------------------------|--|--|----|-----|-----|------|---|-------------|-------------|-------------|---|--|--|--|---|--|--|--|
| | 14 | 国際ライセンス手法と法務 国際標準規格の考え方 | 国際ライセンス条約と国際標準化 アンケート設問による授業内容の再確認 | <事前>次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習 (30分)。 <事後>Strea 聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習 (30分)。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15 | 総論 知財立国としての考え方 | 知財立国としての知財の考え方 (まとめ) アンケート設問による授業内容の再確認 | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得 (30分)。 <事後>事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習 (30分)。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>知的創造活動と知的財産</td> <td>工業所有権情報・研修館</td> <td>工業所有権情報・研修館</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 知的創造活動と知的財産 | 工業所有権情報・研修館 | 工業所有権情報・研修館 | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 知的創造活動と知的財産 | 工業所有権情報・研修館 | 工業所有権情報・研修館 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | <p>①毎回のアンケート内の [設問 1] に対する回答評価 (評価割合: 50%) 授業内容のお復習いとして設定してある設問について、授業から学んだ手法を用いた自身の考え方を評価します。またアンケート内の [設問 2] (授業内容に関する質問および要望) について、積極的に質問または提案した場合、および予習項目について事前に調べてきた方は加点評価とします。なお、当該質問や要望については、次回授業時に解説文を付けて一覧表にして学習者全員に資料配付します。</p> <p>②期末試験 (評価割合: 50%) 知的財産権の基</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | 将来企業人の一員となるために必要な産業界 (実務) の知識を習得してください。 知的財産に関する政策や企業活動等の記事は、日々、新聞等に掲載されていますので、普段より新聞を読む習慣を身に付けてください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 11号館7階 林研究室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 工業所有権情報・研修館のホームページ「知的財産人材の育成」カテゴリーにある「知的創造活動と知的財産」のテキスト (無料) をダウンロードし、参考資料として活用してください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|------------|----------|------------------------|
| 科目名 | 情報と職業 | 科目名 (英文) | Information and Career |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 梅原 喜政 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1⑩, DP2② | | |
| 科目ナンバリング | IDS2038a0 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 情報と職業の関係について、国の政策、企業の戦略、個人の職業観の変化などの視点をもとに学修する。情報技術を専門とする職業だけでなく、一般的な職業において、情報通信技術がいかに活用されているのか、導入する際に考慮すべき点などについて考える。そして、情報化の進展に伴うビジネス構造の変化、変化しつつある人間の役割の変化について考え、情報化社会における情報と職業の関係を見直す。 |
| 到達目標 | 社会において、コンピュータやインターネットなどの情報通信技術の活用が不可欠となっている。これまでとは異なる新たなビジネスが登場し、ビジネスの構造も変化してきている。そのため、情報処理技術を用いて情報・データを収集・分析し、論理的思考のもとに様々な問題に対応する力が求められている。そこで、情報通信技術の進展が、社会にどのような影響を及ぼしているのか、ビジネスの構造がどのように変化しているのかについて理解する。また、職業観や仕事に対する価値観の変化、社会で求められる職務能力、職業倫理や社会的責任について知り |
| 授業方法と留意点 | 授業は、前半を講義形式、後半を個人授業課題または、グループワークにて実施する。講義資料は、各回の授業日までに Web Folder にアップロードする。また、グループワークは、ディスカッションやプレゼンテーションの課題を指示する。 |
| 科目学習の効果 (資格) | ・情報と職業に関する課題や業界・企業等への関心を高め、より容易に理解できる。 ・情報と職業に関する理解を深め、関連したニュースの基礎的な思考力・判断力が養成できる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------------|--|------------------------------------|
| | | | |
| 1 | イントロダクション | 授業の進め方、情報技術の進展と役割 | ・シラバスの確認 (15分) ・配布資料の予復習 (1時間) |
| 2 | 情報化社会の進展とビジネス人材の変化 | 情報化社会のビジネス人材の要件、ビジネス人材に期待されるスキル | ・配布資料の予復習 (1時間) ・授業内容の見直し (1時間) |
| 3 | 経営資源としての情報 | 経営資源としての情報の収集、分析、活用のプロセス | ・配布資料の予復習 (1時間) ・授業内容の見直し (1時間) |
| 4 | 企業における情報の活用 (1) | 製造業における情報化 | ・配布資料の予復習 (1時間) ・授業内容の見直し (1時間) |
| 5 | 企業における情報の活用 (2) | 小売業における情報化 | ・配布資料の予復習 (1時間) ・授業内容の見直し (1時間) |
| 6 | 企業における情報の活用 (3) | 流通業における情報化 | ・配布資料の予復習 (1時間) ・授業内容の見直し (1時間) |
| 7 | 企業における情報の活用 (4) | その他の業種における情報化 | ・配布資料の予復習 (1時間) ・授業内容の見直し (1時間) |
| 8 | インターネットビジネス | インターネットの進展、インターネットによる新たなビジネスモデル | ・配布資料の予復習 (1時間) ・授業内容の見直し (1時間) |
| 9 | 情報産業の発展と社会的責任 | 情報通信技術を活用する企業の社会的責任 | ・配布資料の予復習 (1時間) ・授業内容の見直し (1時間) |
| 10 | 情報化社会におけるリスクマネジメント (1) | 情報化社会における犯罪、職業人としての情報倫理 | ・配布資料の予復習 (1時間) ・授業内容の見直し (1時間) |
| 11 | 情報化社会におけるリスクマネジメント (2) | 企業の情報セキュリティ、リスク管理とその手法 | ・配布資料の予復習 (1時間) ・授業内容の見直し (1時間) |
| 12 | 情報化社会における職業観や価値観の変化 | 情報化社会の進展に伴う職業観、価値観の変化 | ・配布資料の予復習 (1時間) ・授業内容の見直し (1時間) |
| 13 | 人間と情報システムの関わり (1) | 仕事の量・質の変化、人間とシステムの関係、企業内の情報化と求められる資質・職務能力の変化 | ・配布資料の予復習 (1時間) ・授業内容の見直し (1時間) |
| 14 | 人間と情報システムの関わり (2) | AI/サービスロボットの浸透に伴う人材市場の動向、ヒトとシステムの共創モデル | ・配布資料の予復習 (1時間) ・授業内容の見直し (1時間) |
| 15 | まとめ | 総括 | ・授業内容の見直し (1時間) |

関連科目

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|------------------------------|-----------|-----------|
| 1 | 情報と職業 | 駒谷昇一、辰巳丈夫 | オーム社 |
| 2 | 超 AI 入門—ディープラーニングはどこまで進化するのか | 松尾豊 | NHK 出版 |
| 3 | コンピュータが仕事を奪う | 新井紀子 | 日本経済新聞出版社 |

評価方法 (基準) 授業で課す小レポート (50%)、定期試験 (50%) をもとに総合的に評価する。

学生へのメッセージ 質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。

担当者の研究室等 11 号館 7 階 (梅原研究室)

備考

| | | | |
|----------------|------------|----------|------------------|
| 科目名 | ベンチャービジネス論 | 科目名 (英文) | Venture Business |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 林 正浩 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS3039a0 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | <p>新規事業の着想から、ビジネスモデルの構築、そして実際の起業に至るまでの諸課題や実務についての講義、並びに各界における起業経験者の体験談を聞き、起業の実際、事業の維持・継続と発展に不可欠な諸要素について学びます。</p> <p>【担当教員実務経歴】</p> <p>①金融機関（本部企画部経営企画・本店営業部融資与信審査業務） ②ベンチャー投資財団（企業への投資業務） ③監査法人（株式上場コンサルティング） ④ベンチャー企業監査役兼務（複数社）</p> |
| 到達目標 | <p>「起業」そのものを自身の将来の照準として身近に捉えられるよう、新規ビジネスの必要性について学び、将来の選択肢として自身のアイデアをビジネスに転換するための知恵を習得する起業家育成の講義をします。（DP4）</p> <p>将来、企業内人材となっても、社内での商品・製品企画、プロジェクト参加に必要な企画能力を身に付けてもらいます。（DP4）</p> |
| 授業方法と留意点 | <p>毎回の講義資料は、Teamsの「日付」チャンネル内の「ファイル」に、講義週の月曜日に格納しておきますので、事前にダウンロード等準備の上、講義に参加して下さい。</p> <p>毎回、講義内容に関する質問（アンケート表）をWebFolderにて配布します。当日の24時までに提出してもらいます。</p> <p>講義内容に関する質問については、一覧表にして次回授業時に配布すると共に解説します。</p> <p>毎回授業の最後に提示する次回の予習項目について各自調べてきてもらいます。</p> |
| 科目学習の効果（資格） | <p>「起業」に必要な挑戦意欲の醸成と、起業アイデアの創出</p> <p>企業就職後における製品企画、商品アイデアなどの創出ノウハウ</p> <p>中小企業、ベンチャー企業の実態把握と自らの将来像の分析</p> |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|--|--|
| | | | |
| 1 | 講座ガイダンス 起業家とは？ | 講座ガイダンス（勉強方法・評価方法） 起業家教育を受ける理由 | <事後>Stream 聴講による授業で学んだキーワードの再認識と事例等の検索学習（1時間） |
| 2 | 起業家の目指すべき方向性とその役割 | 事業化に至るまでの指針 事前予習による専門用語の確認。 設問による授業内容の再確認 | <事前>次回授業の予習項目についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>Stream 聴講による授業で学んだキーワードの再認識と事例等の検索学習（1時間） |
| 3 | 起業家としての経営的視点と意思決定 | トラブルシューターとしての起業家の役割 事前予習による専門用語の確認。 設問による授業内容の再確認 | <事前>次回授業の予習項目についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>Stream 聴講による授業で学んだキーワードの再認識と事例等の検索学習（1時間） |
| 4 | 参入市場の環境分析能力 | 大手企業との関係と目指すべき市場の選定 事前予習による専門用語の確認。 設問による授業内容の再確認 | <事前>次回授業の予習項目についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>Stream 聴講による授業で学んだキーワードの再認識と事例等の検索学習（1時間） |
| 5 | ベンチャー企業における組織体制 | 起業から成熟企業に至るまでのガバナンス体制の維持 事前予習による専門用語の確認。 設問による授業内容の再確認 | <事前>次回授業の予習項目についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>Stream 聴講による授業で学んだキーワードの再認識と事例等の検索学習（1時間） |
| 6 | 事業ドメインの設定と知財戦略 | 事業コアコンピタンスの重要性と科学的見地での探索 事前予習による専門用語の確認。 設問による授業内容の再確認 | <事前>次回授業の予習項目についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>Stream 聴講による授業で学んだキーワードの再認識と事例等の検索学習（1時間） |
| 7 | 起業成長に必要な収益モデリング | 起業家としての管理会計の考え方と株主対応 事前予習による専門用語の確認。 設問による授業内容の再確認 | <事前>次回授業の予習項目についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>Stream 聴講による授業で学んだキーワードの再認識と事例等の検索学習（1時間） |
| 8 | 起業家実体験談① 【外部講師】 株式会社 KANDATA （元仮想通貨リサーチ企業代表取締役） 代表取締役 福島 健太氏 | 新規事業（海外起業経験・事業承継） 授業聴講でのポイントをメモ。 | <事前>講師企業についてネット等を活用した質問事項の用意（30分）。 <事後>Stream 聴講によるキーワードの再認識（1時間） |
| 9 | 起業家実体験談② 【外部講師】 CHRONOGIST 株式会社 代表取締役 CEO 古田 紀之氏 | 起業経験（IT系調査企業） 授業聴講でのポイントをメモ。 | <事前>講師企業についてネット等を活用した質問事項の用意（30分）。 <事後>Stream 聴講によるキーワードの再認識（1時間） |
| 10 | 起業家支援実体験談③ 【外部講師】 大阪産業創造館 おおさかなレッジ・フロンティア推進機構 チーフプランナー 長谷川 新氏 | 起業支援事業（コンサルティング） 授業聴講でのポイントをメモ。 | <事前>講師企業についてネット等を活用した質問事項の用意（30分）。 <事後>Stream 聴講によるキーワードの再認識（1時間） |
| 11 | 起業家実体験談④ 【外部講師】 株式会社アंकシステムズ 代表取締役 金 明淑氏 | 起業経験（IT 受託開発型）企業。 授業聴講でのポイントをメモ。 | <事前>講師企業についてネット等を活用した質問事項の用意（30分）。 <事後>Stream 聴講によるキーワードの再認識（1時間） |
| 12 | 起業家実体験談⑤ 【外部講師】 大化物流開発合同会社 代表社員 入江 徹氏 | 事業形態（LLC）企業 授業聴講でのポイントをメモ。 | <事前>講師企業についてネット等を活用した質問事項の用意（30分）。 <事後>Stream 聴講によるキーワードの再認識（1時間） |

| | | | | |
|---------------|--|----------|---|--|
| | 13 | 事業プランニング | 新規創業、事業プランニングの考え方 設問による授業内容の再確認 | <事前>次回授業の予習項目についてネットや新聞等を活用した用語等の習得 (30分)。 <事後>Stream 聴講による授業で学んだキーワードの再認識と事例等の検索学習 (1時間) |
| | 14 | 生産管理の考え方 | 品質管理、原価管理、納期管理 事前予習による専門用語の確認。 設問による授業内容の再確認 | <事前>次回授業の予習項目についてネットや新聞等を活用した用語等の習得 (30分)。 <事後>Stream 聴講による授業で学んだキーワードの再認識と事例等の検索学習 (1時間) |
| | 15 | 事業継続ノウハウ | 起業から成長段階に至るまでの事業継続措置の考え方 講義のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認 | <事後>Stream 聴講による授業で学んだキーワードの再認識と事例等の検索学習 (各自) (1時間) |
| 関連科目 | 経営管理論 ビジネスプランニング | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | <p>①毎回のアンケートに対する回答評価 (評価割合: 50%) 授業内容のお復習いとして設定してある設問について、授業から学んだ手法を用いた自身の考え方を評価します。またアンケート内の [設問2] (授業内容に関する質問および要望) について、積極的に質問または提案した場合、および予習項目について事前に自身で調べてきた方は加点評価とします。なお、質問や要望については、次回以降の授業時に解説文を付けて一覧表にして学習者全員に資料配付します</p> <p>②期末試験 (評価割合: 50%) 授業全般にわたって</p> | | | |
| 学生への メッセージ | <p>自身の将来 (やりたい事) が実現できるのか、自己分析を含め授業により認識してください。</p> <p>【注意: 外部講師の授業回について】 外部講師の授業については、講師の都合等により開講回が変更となることがあります。 また外部講師に失礼の無い姿勢で授業に臨んでください。</p> | | | |
| 担当者の 研究室等 | 11号館7階 林研究室 | | | |
| 備考 | <p>学生のうちに起業を目指したいと考えている学生は、自身のアイデアについて個別に相談してください。 <連絡先>masahiro.hayashi@kjo.setsunan.ac.jp</p> | | | |

| | | | |
|----------------|------------|----------|-------------------|
| 科目名 | ビジネスプランニング | 科目名 (英文) | Business Planning |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 林 正浩 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS3040a0 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | <p>企業における戦略的経営手法、事業成長施策の基本的プロセスの考え方を学ぶと共に、チーム制による起業化シミュレーションを行います。シミュレーション (成果物) は、「創業事業計画書」と「資金繰り計画表 (4期分) の作成です。最終回にて各チームのプレゼン発表を開催します。</p> <p>【担当教員実務経歴】</p> <p>①金融機関 (本部企画部経営企画・本店営業部融資と信審査業務)</p> <p>②ベンチャー投資財団 (企業投資業務)</p> <p>③監査法人 (株式上場コンサルティング)</p> <p>④ベンチャー企業監査役兼務 (複数社)</p> <p>【SDGs-.9】 (産業と技術革新の基盤を作る)</p> <p>⑤ベンチャービジネスプラン審査員 (複数機関)</p> <p>⑥文部科学省「EDGE-NEXT (ベンチャー創出) 事業 実務担当者</p> |
| 到達目標 | <p>将来、企業におけるプロジェクトリーダー、プロジェクトデベロッパーを目指します。特に、昨今多く見られる企業内ベンチャーの創出、または新規事業プロジェクトの企画業務、製品企画等のノウハウとして役立ちます。(DP4)</p> |
| 授業方法と留意点 | <p>【授業形態】 演習講座 (チームディスカッション)</p> <p>チームを編成し、チーム別にベンチャー企業設立シミュレーション (演習) を行います。各自、チーム内での役割に従い、チーム自治でディスカッションによる演習作業を進めてもらいます。したがって、欠席が事前に見込まれる学生は、チームメンバーへ負荷が掛かりますので履修は避けて下さい (全回出席を原則とします)。</p> |
| 科目学習の効果 (資格) | <p>ニーズ嗜好での製品・商品企画力の養成。</p> <p>販売市場分析能力。</p> <p>組織の一員としての役割認識と遂行能力。</p> |

| | | | | |
|------|----------------------|-----------------------------|---|---|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | 講座ガイダンス 事業プランニングとは? | 講座ガイダンス (演習方法・評価方法) 事業計画策定の留意点および考え方。 授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認 | <事後>ビジネスアイデアの提示 (身の回りにある不具合を改善するための提案等) (1時間) |
| | 2 | ビジネスアイデア、コアコンピタンスの選定 | チーム単位で検討するビジネスアイデア、コアコンピタンスの決定とチーム編成。 チーム内での各自役割分担。 | <事前>ビジネスアイデアの提示 (身の回りにある不具合を改善するための提案等) (1時間) <事後>チーム内での自身の役割に基づく考え方の整理 (30分) |
| | 3 | 事業プランニングシミュレーション演習実施 | チーム単位での事業化ディスカッション。 | <事前>ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査 (30分)。 <事後>ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業 (1時間)。 |
| | 4 | 事業プランニングシミュレーション演習実施 | チーム単位での事業化ディスカッション。 | <事前>ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査 (30分)。 <事後>ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業 (1時間)。 |
| | 5 | 事業プランニングシミュレーション演習実施 | チーム単位での事業化ディスカッション。 | <事前>ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査 (30分)。 <事後>ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業 (1時間)。 |
| | 6 | 事業プランニングシミュレーション演習実施 | チーム単位での事業化ディスカッション。 | <事前>ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査 (30分)。 <事後>ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業 (1時間)。 |
| | 7 | 事業プランニングシミュレーション演習実施 | チーム単位での事業化ディスカッション。 | <事前>ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査 (30分)。 <事後>ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業 (1時間)。 |
| | 8 | 事業プランニングシミュレーション演習実施 | チーム単位での事業化ディスカッション。 | <事前>ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査 (30分)。 <事後>ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業 (1時間)。 |
| | 9 | 事業プランニングシミュレーション演習実施 | チーム単位での事業化ディスカッション。 | <事前>ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査 (30分)。 <事後>ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業 (1時間)。 |
| | 10 | 事業プランニングシミュレーション演習実施 | チーム単位での事業化ディスカッション。 | <事前>ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査 (30分)。 <事後>ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業 (1時間)。 |
| | 11 | 事業プランニングシミュレーション演習実施 | チーム単位での事業化ディスカッション。 | <事前>ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査 (30分)。 <事後>ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業 (1時間)。 |
| | 12 | 事業プランニングシミュレーション演習実施 | チーム単位での事業化ディスカッション。 「創業事業計画書」・「資金繰り計画表」の提出・修正 | <事前>チームでの成果物 (創業事業計画書、資金繰り表) の提出 (1時間: チーム単位) <事後>プレゼンテーションデータの作成 (1時間: チーム単位) |
| 13 | 事業プランニングシミュレーション演習実施 | チーム単位でのプレゼンテーションデータの作成および修正 | <事前>プレゼンデータの確認 (1時間) <事後>プレゼン発表練習 (各自担当部分) (1時間) | |

| | | プレゼンテーション事前練習 | | 間) | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|--|-----------------------|--|---|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| | 14 | プレゼン発表(1) (2~3チーム) | 各チーム単位でのベンチャー企業の事業プレゼンを実施 他チームプレゼン発表に対する質疑および相互評価 | <事前>プレゼン練習(1時間)。 <事後>審査による指摘点の検討(1時間)。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15 | プレゼン発表(2) (2~3チーム) | 各チーム単位でのベンチャー企業の事業プレゼンを実施 他チームプレゼン発表に対する質疑および相互評価 | <事前>プレゼン練習(1時間)。 <事後>審査による指摘点の検討(1時間)。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | ベンチャービジネス論 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | <p>①プレゼン発表によるチーム単位での評価(評価割合:80%) 「事業計画書」「資金繰り表」「プレゼンデータ」等の提出期限厳守を基準として評価します。 なお、他チームの発表後、積極的に質問し自らも理解を深める者は加点評価とします。</p> <p>②期末レポート(評価割合:20%) チーム単位での自身における役割の遂行度の自己評価、および当該演習(シミュレーション)により企業内人材として何を得られたのか、など授業習得度に対する評価。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | <p>通常の大学講義では得られない貴重な体験をしてもらいたい。 就活の面接時における有効な武器(履修実績)として活用してもらいたい。 なお、欠席が事前に見込まれる学生については、チーム単位での演習に付き、チームメンバーに迷惑等が生じますので、履修は避けて下さい(全回出席が原則)。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 11号館7階 林研究室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 自身のパソコンでの履修が可能な学生。 「簿記」を履修した学生の参加を多く望みます。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|------------|----------|----------------------------------|
| 科目名 | 市場調査実習 I | 科目名 (英文) | Practice in Marketing Research I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 山本 圭三, 西岡 暁廣, 樋口 友紀 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS3041a0 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | <p>本講義は、量的な社会調査の企画から報告書作成までの全過程を経験し、社会調査を実施する際に必要となる知識・技能を学習するものである。受講生は、各自の関心に基づいた仮説を設定して質問項目を考え、質問項目をまとめて調査票を構成し、データの収集とデータセットの作成をおこなう。その後、各自の仮説をもとにデータ分析をおこない、分析結果を報告書にまとめる。以上の作業を経験して受講生が独力で社会調査を実施できるようになることが、本講義の目標である。調査のテーマは「大学生の社会生活と職業意識」を予定している。</p> <p>市場調査実習 I では、各自の関心に基づいて仮説を設定し、調査票・コードブックを完成させるまでの作業が中心になる。</p> |
| 到達目標 | <p>計量的調査をおこなう際に必要となる知識を獲得する。</p> <p>データ分析をおこなうためのスキルを獲得する。</p> <p>計量的なデータを用いた論文が書ける (DP4)。</p> |
| 授業方法と留意点 | <p>本講義は、以下の2つの形態で実施される。</p> <p>1) 講義形式 2) 学生が作業をおこなう実習形式</p> |
| 科目学習の効果 (資格) | <p>社会調査を実施する際の全過程を体験する。</p> <p>「社会調査士」資格取得に必要な科目 (G科目) である。</p> |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------|------------------------|---|
| | | | |
| 1 | イントロダクション | 授業の全体的な流れ、授業の進め方など | 配布資料に基づく予習 |
| 2 | 基本的な統計量 | 平均値・中央値・分散・標準偏差 | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5時間) (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく (0.5時間) |
| 3 | 2変数間の関係を探る | 相関係数・クロス表・平均の差 | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5時間) (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく (0.5時間) |
| 4 | 推測統計の考え方 | 推測統計の基本的な発想 | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5時間) (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく (0.5時間) |
| 5 | 統計的仮説検定 | カイ2乗検定、相関係数の検定、T検定 | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5時間) (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく (0.5時間) |
| 6 | 多変量解析 1 | 分散分析、重回帰分析 | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5時間) (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく (0.5時間) |
| 7 | 多変量解析 2 | 主成分分析 | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5時間) (事後) 授業内容について、自分なりの説明をまとめておく (0.5時間) |
| 8 | 調査テーマ・サブテーマの検討 1 | 問いと仮説の設定 | (事前・事後) 各自で問いや仮説を検討する (1時間) |
| 9 | 調査テーマ・サブテーマの検討 2 | 問いと仮説の設定 | (事前・事後) 各自で問いや仮説を検討する (1時間) |
| 10 | 調査項目・質問文案の検討 1 | 各自の仮説に対応した質問項目、質問文案の作成 | (事前・事後) 各自で質問項目・質問文案を検討する (1時間) |
| 11 | 調査項目・質問文案の検討 2 | 各自の仮説に対応した質問項目、質問文案の作成 | (事前・事後) 各自で質問項目・質問文案を検討する (1時間) |
| 12 | 調査項目・質問文案の検討 3 | 質問項目、質問文案の全体での調整 | (事前・事後) 各自で質問項目・質問文案を検討する (1時間) |
| 13 | データ収集方法・作業分担の検討 | 調査対象者・サンプリング方法の選定 | (事前) 各自で実施案を検討する (0.5時間) (事後) 検討の経緯についてまとめておく (0.5時間) |
| 14 | プリテスト | 仮調査票を用いたプリテストと調査票の修正 | (事前) 各自で調査票の問題点を確認しておく (0.5時間) (事後) 検討の経緯についてまとめておく (0.5時間) |
| 15 | 調査票・コードブックの作成 | 調査票・コードブックを完成させる | (事前) 各自で調査票の問題点を確認しておく (0.5時間) (事後) 検討の経緯についてまとめておく (0.5時間) |

| | |
|------|---|
| 関連科目 | 市場調査入門、市場調査法、経営統計学、ビジネスデータ分析、マーケティング情報解析、社会学 I、社会学 II、情報社会論 |
|------|---|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |

| | | | |
|---------------|---|--|--|
| | 3 | | |
| 評価方法 (基準) | 授業への取り組み度 20%、課題等 80% | | |
| 学生への メッセージ | 特定の単位を取得していないと履修できませんので注意してください。また、出席が大前提になるので、よほどの事情がない限り欠席は認めません。 | | |
| 担当者の 研究室等 | 山本：11号館7階 山本准教授室 樋口：11号館8階 樋口准教授室 西岡：11号館6階 非常勤講師控室 | | |
| 備考 | 授業実施と運営の方法について、詳しくは Teams 内で指示する。 | | |

| | | | |
|----------------|------------|----------|-----------------------------------|
| 科目名 | 市場調査実習Ⅱ | 科目名 (英文) | Practice in Marketing Research II |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 山本 圭三, 西岡 暁廣, 樋口 友紀 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS3042a0 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 本講義は、量的な社会調査の企画から報告書作成までの全過程を経験し、社会調査を実施する際に必要となる知識・技能を学習するものである。受講生は、各自の関心に基づいた仮説を設定して質問項目を考え、質問項目をまとめて調査票を構成し、データの収集とデータセットの作成をおこなう。その後、各自の仮説をもとにデータ分析をおこない、分析結果を報告書にまとめる。以上の作業を経験して受講生が独力で社会調査を実施できるようになることが、本講義の目標である。調査のテーマは「大学生の社会生活と職業意識」を予定している。 市場調査実習Ⅱでは、調査票の配布・回収、データセットの作成、データ分析、報告書の執筆といった作業が中心になる。 |
| 到達目標 | 計量的調査をおこなう際に必要となる知識を獲得する。 データ分析をおこなうためのスキルを獲得する。 計量的なデータを用いた論文が書けるようになる (DP4)。 |
| 授業方法と留意点 | 授業は、学生が実際に作業をおこなう実習形式でおこなわれる。成果物に関して、学生相互にディスカッションを行い問題点の把握と改善をおこなう。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 社会調査を実施する際の全過程を体験する。 「社会調査士」資格取得に必要な科目 (G科目) である。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------------|----------------------------------|---|
| | | | |
| 1 | 実査 | 調査票の配布・回収 | (事前) 各自で調査票配布時の注意点を確認しておく (0.5時間) (事後) 実施時の問題点についてまとめておく (0.5時間) |
| 2 | データ入力・コーディング 1 | データの入力とコーディング | (事前) 各自でデータ入力方法について復習しておく (1時間) (事後) 入力時の不具合について問題点をまとめておく (0.5時間) |
| 3 | データ入力・コーディング 2 | データの入力とコーディング | (事前) 各自でデータ入力に関する作業の確認をしておく (0.5時間) (事後) 入力時の不具合について問題点をまとめておく (0.5時間) |
| 4 | エラーチェック | 入力ミスのチェック、ロジカルエラーチェック | (事前) 各自でエラーチェックの方法について復習しておく (1時間) (事後) 作業時の不具合について問題点をまとめておく (0.5時間) |
| 5 | 統計処理ソフトを用いたデータ分析方法 1 | SPSS を用いて単純集計、クロス表、カイ 2 乗検定をおこなう | (事前) 各自で分析方法について復習しておく (1時間) (事後) 分析をおこない、結果をまとめておく (1.5時間) |
| 6 | 統計処理ソフトを用いたデータ分析方法 2 | SPSS を用いて相関係数の検定、T検定をおこなう | (事前) 各自で分析をおこなっておく (1時間) (事後) 分析と結果まとめ、次回の方針について確認しておく (1.5時間) |
| 7 | 統計処理ソフトを用いたデータ分析方法 3 | SPSS を用いて分散分析、重回帰分析をおこなう | (事前) 各自で分析をおこなっておく (1時間) (事後) 分析と結果まとめ、次回の方針について確認しておく (1.5時間) |
| 8 | 統計処理ソフトを用いたデータ分析方法 4 | SPSS を用いて主成分分析、尺度構成をおこなう | (事前) 各自で分析をおこなっておく (1時間) (事後) 分析と結果まとめ、次回の方針について確認しておく (1.5時間) |
| 9 | 基礎集計 | 基礎集計項目の検討、基礎集計表の作成 | 基礎集計表の作成 |
| 10 | データ分析と仮説の再検討 1 | データ分析と仮説検証、その結果をふまえた仮説の再検討 | (事前) 各自で分析をおこなっておく (1時間) (事後) 分析と結果まとめ、次回の方針について確認しておく (1.5時間) |
| 11 | データ分析と仮説の再検討 2 | データ分析と仮説検証、その結果をふまえた仮説の再検討 | (事前) 各自で分析をおこなっておく (1時間) (事後) 分析と結果まとめ、次回の方針について確認しておく (1.5時間) |
| 12 | データ分析と仮説の再検討 3 | データ分析と仮説検証、その結果をふまえた仮説の再検討 | (事前) 各自で分析をおこなっておく (1時間) (事後) 分析と結果まとめ、次回の方針について確認しておく (1.5時間) |
| 13 | データ分析と仮説の再検討 4 | データ分析と仮説検証、その結果をふまえた仮説の再検討 | (事前) 各自で分析をおこなっておく (1時間) (事後) 分析と結果まとめ、次回の方針について確認しておく (1.5時間) |
| 14 | 報告書執筆 1 | 分析結果をまとめた報告書の作成 | (事前) 報告書執筆に関する問題点を確認しておく (0.5時間) (事後) 報告書を執筆しておく (1.5時間) |
| 15 | 報告書執筆 2 | 報告書の完成 | (事前) 報告書執筆に関する問題点を確認しておく (0.5時間) (事後) 報告書を執筆しておく (1.5時間) |

| | |
|------|--|
| 関連科目 | 市場調査入門、市場調査法、経営統計学、ビジネスデータ分析、マーケティング情報解析、社会学Ⅰ、社会学Ⅱ、情報社会論 |
|------|--|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |

| | | | | |
|---------------|--|--|--|--|
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 作業の進捗 (20%)・成果報告書 (80%) | | | |
| 学生への メッセージ | <p>特定の単位を取得していないと履修できませんので注意してください。また、実習科目という性格上出席が大前提になるので、よほどの事情がない限り欠席は認めません。</p> <p>※本科目は「市場調査実習Ⅰ」とセットで履修することを前提としています。「市場調査実習Ⅰ」を履修せず「市場調査実習Ⅱ」のみ履修することは原則として認めていません。</p> | | | |
| 担当者の 研究室等 | <p>山本：11号館7階 山本准教授室 樋口：11号館8階 樋口准教授室 西岡：11号館6階 講師控室</p> | | | |
| 備考 | 授業運営方法の詳細については、Teams内で指示する。 | | | |

| | | | |
|----------------|------------|----------|-----------------------|
| 科目名 | マーケティング演習 | 科目名 (英文) | Practice in Marketing |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 田中 祥司 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS3043a0 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 企業が直面する問題に関心をもち、その問題を解決するために必要な知識を身につけます。 とりわけ、ケース課題に取り組むことで実践的なマーケティングを身に付けることを目的とします。 グループでケース課題に取り組み、議論や発表を通してマーケティングへの理解を深めます。 なお、授業担当者の旅行会社での経験から、「モノ」だけでなく「サービス」に関するマーケティングについても解説します。 |
| 到達目標 | ・企業あるいは消費者を中心とした複数のケースに取り組むことで、企業のマーケティング活動についてマーケティング・マネジメントの視点だけでなく、消費者の視点で説明することができる。 ・複数のケース課題に取り組むことで、企業間のマーケティング戦略を比較・分析することができる。 ・自らマーケティング戦略を策定できる問題解決力、実践力を身につける。(DP4) |
| 授業方法と留意点 | ・グループワークを中心に授業を進めます(毎回の出席は必須条件です。欠席は3回まで認めます。欠席が4回以上の場合、採点の対象になりません)。 ・グループは初回の授業時に決定します。初回は必ず出席してください。 ・1つのケースにつき、2回の授業(180分)で準備を行います。その後、各グループによる発表を行います。 ・授業時間外にグループ発表の準備等を行っていただきます。グループのメンバーと協力して取り組んでください。 ・受講人数によっては、進め方を変更する可能性があります。具体的な進め方等については、授業時にお伝えします。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 実践的なマーケティングを遂行する知識が身につきます。 |

| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|------|--------------------------|--|--|--|
| | 1 | 講義 I | マーケティングの概要についての復習を行う。 | 【事前学習】(30分) マーケティング戦略論の復習を行うこと。 【事後学習】(30分) マーケティング戦略構築から実行までの流れを説明できるようにする。 グループのメンバー間で連絡がとれるようにしておくこと。 |
| 2 | 講義 II | 消費者行動の概要について復習を行う。 | 【事前学習】(30分) 消費者行動論の復習を行うこと。 【事後学習】(30分) 消費者の視点からマーケティング戦略について説明できるようにする。 | |
| 3 | 事例研究 I 問題読解とグループワーク | ケースを考察する上で必要な理論の解説を行う。その後、ケースについてグループのメンバーと協力しながら理解を深める。 | 【事前学習】(30分) 前回授業で示した事例について書籍や HP を用いてその概要について理解する。 【事後学習】(30分) 議論の整理を個人で行う。 | |
| 4 | 事例研究 I 議論とグループ案の検討 | ケースで求められている間についてグループで議論し、パワーポイントにまとめる。 | 【事前学習】(30分) ケース課題について自分の意見をまとめる。 【事後学習】(30分) グループ案をパワーポイントでまとめ、完成させる。 | |
| 5 | 事例研究 I グループ案の発表 | グループ毎に発表し、それについて議論を行います。 | 【事前学習】(30分) グループ発表の準備を行う。 【事後学習】(30分) 他のグループとの比較を通して、自グループの発表を振り返る。 | |
| 6 | 事例研究 II 問題読解とグループワーク | ケースを考察する上で必要な理論の解説を行う。その後、ケースについてグループのメンバーと協力しながら理解を深める。 | 【事前学習】(30分) 前回授業で示した事例について書籍や HP を用いてその概要について理解する。 【事後学習】(30分) 議論の整理を個人で行う。 | |
| 7 | 事例研究 II 議論とグループ案の検討 | ケースで求められている間についてグループで議論し、パワーポイントにまとめる。 | 【事前学習】(30分) ケース課題について自分の意見をまとめる。 【事後学習】(30分) グループ案をパワーポイントでまとめ、完成させる。 | |
| 8 | 事例研究 II グループ案の発表 | グループ毎に発表し、それについて議論を行います。 | 【事前学習】(30分) グループ発表の準備を行う。 【事後学習】(30分) 他のグループとの比較を通して、自グループの発表を振り返る。 | |
| 9 | 事例研究 III 問題読解とグループワーク | ケースを考察する上で必要な理論の解説を行う。その後、ケースについてグループのメンバーと協力しながら理解を深める。 | 【事前学習】(30分) 前回授業で示した事例について書籍や HP を用いてその概要について理解する。 【事後学習】(30分) 議論の整理を個人で行う。 | |
| 10 | 事例研究 III 議論とグループ案の検討 | ケースで求められている間についてグループで議論し、パワーポイントにまとめる。 | 【事前学習】(30分) ケース課題について自分の意見をまとめる。 【事後学習】(30分) グループ案をパワーポイントでまとめ、完成させる。 | |
| 11 | 事例研究 III グループ案の発表 | グループ毎に発表し、それについて議論を行います。 | 【事前学習】(30分) グループ発表の準備を行う。 【事後学習】(30分) | |

| | | | | |
|---------------|---|------------------------|--|--|
| | | | | 他のグループとの比較を通して、自グループの発表を振り返る。 |
| | 12 | 事例研究IV 問題読解とグループワーク | ケースを考察する上で必要な理論の解説を行う。その後、ケースについてグループのメンバーと協力しながら理解を深める。 | 【事前学習】(30分) 前回授業で示した事例について書籍やHPを用いてその概要について理解する。 【事後学習】(30分) 議論の整理を個人で行う。 |
| | 13 | 事例研究IV 議論とグループ案の検討 | ケースで求められている間についてグループで議論し、パワーポイントにまとめる。 | 【事前学習】(30分) ケース課題について自分の意見をまとめる。 【事後学習】(30分) グループ案をパワーポイントでまとめ、完成させる。 |
| | 14 | 事例研究IV グループ案の発表 | グループ毎に発表し、それについて議論を行います。 | 【事前学習】(30分) グループ発表の準備を行う。 【事後学習】(30分) 他のグループとの比較を通して、自グループの発表を振り返る。 |
| | 15 | まとめ | これまでのグループ発表を振り返りながら、企業のマーケティングについて企業視点・消費者視点で全体的なまとめを行う。 | 【事前学習】(30分) これまでのグループの発表を振り返る。 【事後学習】(30分) 全体を通しての成果と反省についてまとめる。 |
| 関連科目 | マーケティング、消費者行動論、リテールマーケティングなどマーケティングコース科目 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | その都度指示します。 | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | その都度指示します。 | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | グループワークの成果物(60%) 発表(40%) | | | |
| 学生への メッセージ | 授業時間外のグループワークは、オンラインを用いるなど工夫してください。 毎回の出席が必須です。遅刻は認めておりません。欠席が4回以上の場合、採点の対象になりません。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 田中祥司研究室 11号館8階 | | | |
| 備考 | 予習・復習に少なくとも1時間はかけてください。 また発表の準備にはそれ以上の時間がかかります。スケジュールを予め調整してください。 | | | |

| | | | |
|----------------|------------|----------|-----------------------------------|
| 科目名 | ネットワーク運用管理 | 科目名 (英文) | Network Operations and Management |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 堀井 千夏 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS3044a0 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | ネットワークの運用・管理に関する基礎知識を学び、情報化社会に必要なインターネットを用いたコミュニケーションを題材として、クライアント/サーバシステムの仕組みやプロトコルなどについて理解を深めていく。更には、プログラミング演習を行い、動的なネットワークコミュニケーションを実現するための技術を習得する。 |
| 到達目標 | ネットワークを構成する基本的な技術とその活用について学ぶ (DP4)。 |
| 授業方法と留意点 | 「ネットワーク運用管理」は「情報ネットワーク」の科目を修得していなければならない。この科目を履修する際には、「情報ネットワーク」を受講したかを確認すること。また、この授業は、情報関連分野の専門科目として情報処理の基礎科目やプログラミング演習を習得した中級者向けに講義を行っていく。このため、経営情報学科の主要な情報処理科目を履修していない者は受講しないように。授業方法としては、ICTを活用しながら実施する。講義資料はすべてMoodleを通じて配布する。配布期間以外の再配布はないので、必ずダウンロードして授業を受けるように。 |
| 科目学習の効果 (資格) | ITパスポート試験や基本情報技術者試験 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------------|---|---|
| | | | |
| 1 | ネットワーク管理の基本 | ネットワークコミュニケーション、クライアント/サーバシステム、ネットワークの運用と管理の基本事項 | 事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(1)を解く(1時間) |
| 2 | TCPの特徴と役割(1) | プロトコルフォーマット、コネクションの確立、TCPヘッダ、3WAYハンドシェイク、シーケンス番号と応答番号 | 事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(2)を解く(1時間) |
| 3 | TCPの特徴と役割(2) | ウィンドウ制御、再送制御、輻輳制御、アプリケーションとの仲介、TCPとUDP | 事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(3)を解く(1時間) |
| 4 | IPの特徴と役割(1) | 転送先、IPパケット、IPヘッダ、IPアドレス、IPヘッダの破棄と分割 | 事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(4)を解く(1時間) |
| 5 | IPの特徴と役割(2) | 経路MTU探索、チェックサム、動的ルーティング、ICMP | 事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(5)を解く(1時間) |
| 6 | Webブラウザの仕組み | Webクライアント/サーバシステム、DNSサーバ、HTTP、FQDN、リクエストとレスポンスメッセージ | 事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(6)を解く(1時間) |
| 7 | Webブラウザの拡張機能、Web解析 | プラグイン・インタフェース、Cookie管理、プロキシサーバ暗号化・認証、Webコンサルティング | 事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(7)を解く(1時間) |
| 8 | 講義のまとめと小テスト | 講義前半の復習と小テスト | 事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(8)を解く(1時間) |
| 9 | Webデザイン、HTMLファイルの基本事項(1) | ユーザビリティ、アクセシビリティ、ライカビリティ、ホワイトスペースとグレースペース | 事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(9)を解く(1時間) |
| 10 | Webデザイン、HTMLファイルの基本事項(2) | HTMLによるホームページ作成の基本技術 | 事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(10)を解く(1時間) |
| 11 | JavaScriptプログラミング(1) | プログラミング環境の設定、操作手順、イベントハンドラ | 事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(11)を解く(1時間) |
| 12 | JavaScriptプログラミング(2) | 関数、条件分岐 | 事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(12)を解く(1時間) |
| 13 | JavaScriptプログラミング(3) | 繰り返し処理、クッキー情報の活用 | 事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(13)を解く(1時間) |
| 14 | PHPプログラミング | PHPプログラミングの基本、フォーム | 事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(14)を解く(1時間) |
| 15 | 講義のまとめと小テスト | 講義後半の復習と小テスト | 事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(15)を解く(1時間) |

| | |
|------|----------------------|
| 関連科目 | 情報ネットワーク、情報処理関連の基礎科目 |
|------|----------------------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|------|---|
| 評価方法 | 授業中の課題 (20%)、小テスト (20%)、期末試験 (60%) により評価する。ただし、欠席または遅刻回数が全授業数の 1/3 回を超える場合は、期 |
|------|---|

| | |
|-----------|---|
| (基準) | 末試験の点数に関わらず単位を得ることはできない。授業に参加しない者（寝る、喋る等）は欠席扱いとする。また、「情報ネットワーク」を履修していない者は単位を得ることができない。遠隔授業に切り替わった場合は、小テストおよび期末試験は課題に変更する。詳細についてはMoodleにて説明する。 |
| 学生へのメッセージ | 「ネットワーク運用管理」を履修する場合は、必ず事前に「情報ネットワーク」を履修していること。「ネットワーク運用管理」だけを受講することはできない。また、この授業は、情報関連分野の専門科目として情報処理の基礎科目やプログラミング演習を習得した中級者向けに講義を行っていくため、他学科の学生は授業の内容をよく確認してから受講すること。 |
| 担当者の研究室等 | 11号館8階 堀井教授室 |
| 備考 | 課題やレポートについては、実施した次の授業で講評する。 |

| | | | |
|----------------|------------|----------|--------------------------|
| 科目名 | マルチメディア処理Ⅱ | 科目名 (英文) | Multimedia Processing II |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 堀井 千夏 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS3045a0 | | |

| | |
|----------|--|
| 授業概要・目的 | マルチメディア技術は、教育、医療、経営など、我々の生活に関わるさまざまな分野で活用されている。本講義では、マルチメディアの基礎技術となる「デジタル画像処理」と「コンピュータグラフィックス」をとりあげ、その利用技術と生成手法について学んでいく。更に、プログラミング演習を行うことで授業内容の理解を深める。 |
| 到達目標 | 「デジタル画像処理」と「コンピュータグラフィックス」の利用技術と生成手法について学び、情報技術を駆使した多彩な表現力について修得する (DP4)。 |
| 授業方法と留意点 | この授業では、ICT を活用しながら実施する。講義資料はすべて Moodle を通じて配布する。配布期間以外の再配布はないので、必ずダウンロードして授業を受けるように。マルチメディア処理ⅠⅡを履修する場合は、必ず事前にマルチメディア処理ⅠⅡを履修していること。マルチメディア処理ⅠⅡだけを受講することはできない。また、この授業は、情報関連分野の専門科目として情報処理の基礎科目やプログラミング演習を習得した中級者向けに講義を行っていくため、他学科の学生は授業の内容をよく確認してから受講すること。 |

| | |
|------------------|-------------------------------------|
| 科目学習の 効果 (資格) | CG検定、画像処理検定、マルチメディア検定のための基礎知識を習得する。 |
|------------------|-------------------------------------|

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------|----------------------------------|--|
| | | | |
| 1 | 模様と凹凸表現 | 質感とテクスチャ | 事前学習：なし 事後学習：練習課題(1)を解く(1時間) |
| 2 | CG 演習 (1) | 質感の変更、テクスチャマッピング、バンプマッピング | 事前学習：次の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(2)を解く(1時間) |
| 3 | カメラとライティング | ワールド座標とローカル座標、座標変換、透視変換 | 事前学習：次の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(3)を解く(1時間) |
| 4 | CG 演習 (2) | カメラや光源の種類の設定 | 事前学習：次の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(4)を解く(1時間) |
| 5 | モデリング | モデリング手法 | 事前学習：次の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(5)を解く(1時間) |
| 6 | レンダリング | レンダリング手法 | 事前学習：次の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(6)を解く(1時間) |
| 7 | 講義のまとめと小テスト | 講義前半のまとめと小テスト | 事前学習：次の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(7)を解く(1時間)、小テストの復習(30分) |
| 8 | CG 演習 (3) | 複雑な立体形状の作成 | 事前学習：次の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(8)を解く(1時間) |
| 9 | 立体表現の応用 | スイープ表現、曲線表現 (スプライン曲線、ベジェ曲線) | 事前学習：次の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(9)を解く(1時間) |
| 10 | CG 演習 (4) | 正多面体、半多面体、トーラス図形、CG文字の作成 | 事前学習：次の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(10)を解く(1時間) |
| 11 | CG アニメーション | アニメーションの原理、映画などで利用されている CG の実例紹介 | 事前学習：次の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(11)を解く(1時間) |
| 12 | CG 演習 (5) | CG アニメーションの作成 | 事前学習：次の指定教材を通読し、要点を整理しておく (30分) 事後学習：練習課題(12)を解く(1時間) |
| 13 | 講義のまとめと小テスト | 講義後半のまとめと小テスト | 事前学習：作品制作に必要な準備をしておく (30分) 事後学習：小テストの復習(30分) |
| 14 | 作品制作 (1) | 作品制作とまとめ | 事前学習：作品制作に必要な準備をしておく (30分) 事後学習：最終課題の制作(2時間) |
| 15 | 作品制作 (2) | 作品制作とまとめ | 事前学習：作品制作に必要な準備をしておく (30分) 事後学習：最終課題の制作(1時間) |

| | |
|------|------------------------|
| 関連科目 | マルチメディア処理Ⅰ、情報処理関連の基礎科目 |
|------|------------------------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|---------------|--|
| 評価方法 (基準) | 授業中の課題 (20%)、小テスト (20%)、期末試験 (60%) により評価する。ただし、欠席または遅刻回数が全授業数の 1/3 回を超える場合は、期末試験の点数に関わらず単位を得ることはできない。また、授業に参加しない者 (寝る、喋る等) は欠席扱いとする。遠隔授業に切り替わった場合は、小テストおよび期末試験は課題に変更する。詳細については Moodle で説明する。 |
| 学生への メッセージ | マルチメディア処理 I I を履修する場合は、必ず事前にマルチメディア処理 I を履修していること。マルチメディア処理 I I だけを受講することはできない。また、この授業は、情報関連分野の専門科目として情報処理の基礎科目やプログラミング演習を習得した中級者向けに講義を行っていくため、他学科の学生は授業の内容をよく確認してから受講すること。 |
| 担当者の 研究室等 | 11 号館 8 階 堀井教授室 |
| 備考 | 課題やレポートについては、実施した次の授業で講評する。 |

| | | | |
|----------------|------------|----------|-------------------------|
| 科目名 | ビジネス IT 演習 | 科目名 (英文) | Practice in Business IT |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 久保 貞也 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS3046a0 | | |

| | |
|---------|--|
| 授業概要・目的 | <p>情報社会の重要なビジネススタイルである IT を駆使したビジネスについて、前半はネットショップに着目して、その設計、構築、さらに運用に関する演習を行う。具体的には、実際のネットショップの分析をデータベースソフトや統計ソフトウェアを用いて行い、次に、仮想店舗のコンセプトの提案、商品ページの設計、ウェブサイト全体のデザインを実習する。後半はデータベースソフトウェアを利用して各自で設計するアプリケーションの制作を行う。</p> <p>SDGs-12</p> |
|---------|--|

| | |
|------|---|
| 到達目標 | <p>この講義によって以下の事柄を達成することが目標です。</p> <p>(1) ネットショップを構成する技術の説明ができる</p> <p>(2) 経営情報化戦略から現場の情報活用の連携について理解する</p> <p>(3) 自分がイメージする効率化を IT の活用で実現する方法を見つけ出せる (DP4)</p> |
|------|---|

| | |
|----------|--|
| 授業方法と留意点 | <p>演習は毎時間、情報処理室に導入されているソフトウェアを前提として行う。ただし、状況によって自宅において無料で導入できるものだけで演習課題を実施できるように調整する。演習課題を実行しながら、現在の ICT 環境の理解を進める。実践的な調査活動や分析、および提案や発表を行うため、積極的な授業参加を心がけて欲しい。</p> <p>実務者による講演、情報提供を入れる予定である。</p> <p>なお、大学構内での対面授業が困難な場合は、課題提供型授業とオンライン型授業 (一方向・双方向) などを組み合わせて実施する。自宅で PC を利用できる状況が望ましい。</p> |
|----------|--|

| | |
|--------------|--------------------|
| 科目学習の効果 (資格) | 情報技術を活用した経営の総合的な理解 |
|--------------|--------------------|

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------|---|---|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション | 本演習の狙い、評価方法についてなど 自習課題 (データベースソフトウェア) の説明 | 事前: シラバスを読んでおくこと (30分) 事後: 学修環境のセットアップ (1時間) |
| 2 | 調査の設計 | 実在するネットショップの調査項目を 検討する。 FileMaker Pro (データベースソフトウ ェア) を用いた調査ノートを作成する。 | 事前: データベースソフトウェアに関する自習 (1 時間) 事後: 調査候補となる事例を集める (1時間) |
| 3 | 調査の実施 | ネットショップの必要事項を把握する。 調査ノートの機能を向上させる。 | 事前: データベースソフトウェアに関する自習 (1 時間) 事後: 調査ノートの更新 (1時間) |
| 4 | 調査の実施、報告内容の検討 | 調査結果を整理し、報告書の構成を検討 する。 構築するネットショップのコンセプト を明確にする。 | 事前: データベースソフトウェアに関する自習 (1 時間) 事後: 既存のネットショップに対する位置付けを確 認する (30分) |
| 5 | 調査報告 | 調査報告書を作成する。 全体発表もしくはグループ内発表を行 う。 | 事前: データベースソフトウェアに関する自習 (1 時間) 事後: 他者の発表内容を利用して学修過程を見直す (1時間) |
| 6 | 分析の方向検討 | エビデンスベースドの考え方を実践す るために収集データに整合する分析方 法を確認する。 データベースのエクスポート機能の活 用方法を知る。 | 事前: データベースソフトウェアに関する自習 (1 時間) 事後: 統計分析の手法確認 (1時間) |
| 7 | 統計分析 | 統計ソフトウェアを利用して、収集した データの分析を行う。 | 事前: データベースソフトウェアに関する自習 (1 時間) 事後: 分析結果の妥当性の検討 (1時間) |
| 8 | 分析結果の報告 | 分析結果の共有を行う。 調査対象の関係を図示化する。 | 事前: データベースソフトウェアに関する自習 (1 時間) 事後: 経営戦略関連の学び直し (1時間) |
| 9 | 戦略の立案 | 分析結果から経営情報化に向けた戦略 を立案する。 戦略の実現のために必要なデータベ ース技術を検討し、学修計画を見直す。 | 事前: データベースソフトウェアに関する自習 (1 時間) 事後: 他の経営戦略を用いた検討 (1時間) |
| 10 | 構築実習 (1) | データベースの設計 (正規化) を行う。 | 事前: データベースソフトウェアに関する自習 (1 時間) 事後: 設計内容の見直し (1時間) |
| 11 | 構築実習 (2) | 画面遷移を設計する。 自動化機能を実装する。 | 事前: データベースソフトウェアに関する自習 (1 時間) 事後: 画面機能の修正 (1時間) |
| 12 | 構築実習 (3) | ユーザーインターフェースの検討を行う。 ユーザーテストの有効性を知る。 | 事前: データベースソフトウェアに関する自習 (1 時間) 事後: 構築実習内容のデバッグ (1時間) |
| 13 | 構築実習 (4) | デバッグの実践を行う。 | 事前: データベースソフトウェアに関する自習 (3 0分) 事後: 構築実習の仕上げ (1時間) |
| 14 | 全体発表会 | 構築したアプリに関するプレゼンテー ション (選抜者) を実施する。 | 事前: 構築実習の報告資料作成 (1時間) 事後: 技術動向の調査 (1時間) |
| 15 | 個別報告会、最新動向の把握 | 学修成果の報告 (全員) を行う。 実務者の講演を実施する (予定)。 | 事前: 学修成果の報告資料作成 (1時間) 事後: 学修成果を振り返る (1時間) |

| | | | | |
|---------------|---|-----|-----|------|
| 関連科目 | プログラミング、マルチメディア処理 I・II、情報ネットワーク | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 定期テストまたは、学修レポート 50%、提出物や発表等 50%で評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | この演習では、情報技術をいかに効果的に活用して新しいビジネスを立ち上げるかを体験しようと思っています。プログラミングが苦手でも大丈夫ですので、楽しく受講してください。 今年度は、FileMaker Pro を活用した個人利用のデータベースと企業の現場でも利用できるデータベースシステム（仮想店舗や社内アプリ）の製作を導入します。国内でも珍しい取り組みです。積極的に学んで成果を上げてください。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 1 1 号館 7 階久保准教授室 | | | |
| 備考 | 事前・事後の学習課題については授業冒頭に Moodle やミニペーパーなどで提出する場合がありますので授業に遅刻しないこと。 FileMaker Pro の学修はオンライン教材を活用して行うこと。 | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-----------|
| 科目名 | 民法 | 科目名 (英文) | Civil Law |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 大川 謙蔵 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS2051a0 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 法律は、社会において生じる問題を解決するために使われるものがある。そのような法律も、いくつかの形に分類がなされる。本講義で扱う民法とは、私人の間の問題等を規律するための法律であり、特に財産問題と家族問題を扱っている。すなわち、財産と家族の問題を扱う一番基本となる法律が民法である。 本講義では、この民法を理解するために、まず概論として、法律学とはどのような学問であるのか、そして、その法律学の中で民法がどのように扱われているのかなど、法学を概観し、その後、具体的な民法の中身を簡単にではあるが把握していくことを予定している。 |
| 到達目標 | この講義を通じて、学生には民法全般および民事法と呼ばれる、私人間に問題について適用される法律の概観をつかむことができることを目的としている。また、社会における法的問題がいかなるものであるかを理解できるようになることが期待される。 |
| 授業方法と留意点 | 講義に関連する、レジュメまたは資料を配布する予定である。レジュメはTeams等でデータ配信する予定である。 講義は対面方式の教室で行う。なお、Teamsに動画を後日アップロードする予定であるが、これはあくまで復習用であり、録画の品質等は担保できない。 法律科目であるので、六法（書籍の一種）が必要となる。 |
| 科目学習の効果（資格） | 社会生活の基本法である民法の学習方法を知ることができ、民事法（民法、民事訴訟法、破産法等）が出題科目となっている各種資格試験の基礎となる知識を習得できる。 |

| | | | | |
|------|----|--------------|--|--|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | 法律学および民法 | 法律科目というもののガイダンス、法律一般および民法の概要について確認する予定です。 | 予習：新聞などから、目次も含め、教科書から興味を持つ部分を見つけ、整理すること。 復習：講義部分の教科書を確認すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。 |
| | 2 | 民法と財産法総論 | 法律というものが対象としているものなどを大きく捉え、その中で民法典の役割を確認し、さらに財産法の内容を確認していく予定です。 | 予習：1回目の内容から、自分の周りに存在する財産法と関連する問題を考えること。 復習：財産法と家族法の役割の違いを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。 |
| | 3 | 民法と契約という制度 | 契約という制度を通して、社会における法律関係を確認していく予定です。 | 予習：現実の生活の中で、どのような契約をしているのかなどを検討すること。 復習：契約成立と申し込み・承諾お関係を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。 |
| | 4 | 民法における人という存在 | 契約をすることができるのは誰なのか、また単独では契約ができない人がいるのかなどを確認する予定です。 | 予習：これまでの経験から、法的に自分が置かれてきた立場を整理すること。 復習：親の同意を必要とする契約がいかなるものであるのかを見直すこと。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。 |
| | 5 | 代理・時効 | 契約も単独でできない場合があります。その場合に、代わりに契約を行ってくれる人などの代理についてを確認し、また時効制度も確認する。 | 予習：他人が自分のために契約をしてくれる場面を確認すること。 復習：法的な意味における代理と、日常用語に言う代理の違いを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。 |
| | 6 | 契約の締結 | 契約を締結するとはどのようなことなのかを確認する予定です。 | 予習：友達との約束についての法的意味を検討・議論すること。 復習：契約内容に違反した場合における損害の意味を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。 |
| | 7 | 所有権を通しての物権 | 人が物を所持すること、すなわち支配することを、法律はどのように考えているのかを見ていく予定です。 | 予習：他人が自分の物を返さないという場合を法的に考えてみること。 復習：物的担保がいかなる意味を有し、どのような種類があるのかを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。 |
| | 8 | 不法行為① | 他人に損害を与えてしまい、賠償をしなければならないことを、法的に見ていきます。 | 予習：交通事故や約束違反によって生じた損害は、いかなる賠償により回復することができるのかを検討すること。 復習：損害の意味を、判例を通じて整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。 |
| | 9 | 不法行為② | 現代社会は進歩が激しく、法律も新しい局面に向かいあう必要が生じています。そこで、不法行為の制度をより多角的に見ていく予定です。 | 予習：他人に損害賠償を請求するために必要となる事情・要件を整理すること。 復習：特別な場合における不法行為制度を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。 |
| | 10 | 事務管理・不当利得 | 契約や不法行為とは異なった形で、他人との間で法的な関係が生じる場合をみます。 | 予習：人情を法律でとらえることや、契約終了後の関係について検討すること。 復習：不当利得の形を判例を通じて入りすること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習をすること。 |

| | | | | すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|--|-------------|--|--|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| | 11 | 婚姻 | 婚姻がどのようにすると成立し、その結果どのような義務が生じるのかなどを見ていく予定です。 | 予習：誰とでも婚姻できるのか、婚姻する意味を考えること。 復習：婚姻とそれと類似する形を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 12 | 離婚 | 離婚原因を確認し、離婚の際に生じる問題を確認していく。 | 予習：国家が認める婚姻関係を解消することの重大性を今一度確認すること。 復習：離婚の形と要件を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 13 | 親子関係 | 親子は互いにどのような権利義務関係があるのか、また、子の扱いが異なる現状を確認する。 | 予習：非嫡出子には法的にいかなる取扱いの違いがあるのかを確認すること。 復習：親子関係が形成される場面を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 14 | 相続 | 相続の意義や誰が相続できるのかについて確認する。 | 予習：法律がどのような範囲で相続を認めているのかを確認すること。 復習：相続できる範囲はいかなるものかを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15 | 遺言および講義のまとめ | 相続における被相続人の意思を遺す方法やその問題点を確認する。 | 予習：遺言の形を整理すること。 復習：全体の確認を行うこと。 予習・復習それぞれにつき、90分を確保して学習すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 憲法、商法、会社法など、法律に関連する科目。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 各回、teamsを使った小テストを行う。その合計100点満点で計算を行う予定である。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | 民事法は日常生活に関する規範である。したがって、民事法を学習することは、日常生活を法的観点から検討することでもある。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 11号館9階 大川研究室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っている。それぞれにつき、90分を確保して学習をする必要がある。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てくるため、必ず講義でそれらの対象を聞くこと。 近年、受講態度のひどい学生が散見されることから、受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外す予定である。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|---------------|
| 科目名 | 会社法 | 科目名 (英文) | Corporate Law |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 牛丸 興志夫 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS3052a0 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 会社は、企業活動の担い手であり、会社法の知識は、社会人として、当然に知っておくべき常識である。会社の種類は、会社法上、4種類ある。すなわち、合名会社、合資会社、合同会社、株式会社である。そのうち、日本の経済において最も重要な役割を果たしている形態は、株式会社である。そこで、授業では、株式会社に対する法規制を中心に講義したい。会社法について、きめの細かい講義を行う。本講義は、会社法全体を概観する入門的な講義である。 |
| 到達目標 | この授業を通じて、学生は、会社法の全体構造を理解し、かつ、基礎的知識を修得することができるようになることが期待される。 |
| 授業方法と留意点 | 授業では、できるだけ、解りやすく基本的な知識の説明を行う。新聞記事や最近の判例を紹介し、会社法の運用の現実の動きをみていく。ポケット六法は、必ず、授業中、携帯すること。授業は、講義中心であるが、ディスカッションも取り入れる。復習テストおよびレポート提出を課す。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 会社に就職する者にとって、必須の知識を身に付けることができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 | |
|----|-----------------------------|---|----------------------|----------------------|
| | | | 事前 | 事後 |
| 1 | 会社法総論・会社法総則 | 会社法の現代化、会社法の歴史、会社の意義と能力、会社の種類と分類、会社法の法源、会社法の規制理念、会社法総則について学ぶ。 | 事前に教科書2ページ～40ページを読む。 | 事後に教科書2ページ～40ページを読む。 |
| 2 | 株式会社序説・株式会社の設立 | 株式会社序説、株式会社の設立の総説、定款の作成、出資、設立時役員等の選任・解任等、募集設立の場合、株式会社の成立、発起人等の責任、設立の無効について学ぶ。 | 事前に42ページ～65ページを読む。 | 事後に42ページ～65ページを読む。 |
| 3 | 株式と株主 (1) | 株式の概念、株主の権利および義務、株券、株主名簿について学ぶ。 | 事前に66ページ～86ページを読む。 | 事後に66ページ～86ページを読む。 |
| 4 | 株式と株主 (2) | 株式の譲渡、自己株式の取得、株式の担保化、株式の消却・併合・分割・無償割当て、単元株制度について学ぶ。 | 事前に86ページ～107ページを読む。 | 事後に86ページ～107ページを読む。 |
| 5 | 募集株式の発行等・新株予約権 | 総説、募集株式の発行の態様、募集株式の発行等の手続、違法な募集株式の発行等の是正、新株予約権について学ぶ。 | 事前に105ページ～132ページを読む。 | 事後に105ページ～132ページを読む。 |
| 6 | 機関・株主総会 | 機関の意義と機関設計、株主総会の権限・招集・議事、株主の議決権、決議、決議の瑕疵、種類株主総会について学ぶ。 | 事前に133ページ～150ページを読む。 | 事後に133ページ～150ページを読む。 |
| 7 | 取締役・取締役会 (1) | 総説・取締役について学ぶ。 | 事前に150ページ～155ページを読む。 | 事後に150ページ～155ページを読む。 |
| 8 | 取締役・取締役会 (2) | 取締役会、代表取締役、取締役と会社との関係について学ぶ。 | 事前に155ページ～164ページを読む。 | 事後に155ページ～164ページを読む。 |
| 9 | 会計参与、監査役・監査役会、会計監査人、委員会・執行役 | 会計参与の権限・職務、監査役、監査役会、会計監査人の権限・職務、委員会、執行役について学ぶ。 | 事前に164ページ～180ページを読む。 | 事後に164ページ～180ページを読む。 |
| 10 | 役員等の損害賠償責任、株主による経営の監督是正 | 役員等の会社に対する責任、役員等の第三者に対する責任、違法行為の差止請求権、代表訴訟提起権について学ぶ。 | 事前に180ページ～192ページを読む。 | 事後に180ページ～192ページを読む。 |
| 11 | 計算、定款の変更、事業の譲渡等 | 計算規定の目的と原則、計算書類等の作成と承認、剰余金の配当等、資本金・準備金の額の変動、定款の変更、事業の譲渡等について学ぶ。 | 事前に193ページ～216ページを読む。 | 事後に193ページ～216ページを読む。 |
| 12 | 持分会社 | 合同会社、合名会社、合資会社について学ぶ。 | 事前に217ページ～223ページを読む。 | 事後に217ページ～223ページを読む。 |
| 13 | 社債 | 社債の意義、社債の種類、社債の発行、社債の管理について学ぶ。 | 事前に225ページ～236ページを読む。 | 事後に225ページ～236ページを読む。 |
| 14 | 組織再編行為 | 企業の結合と組織再編序説、組織変更、合併、会社分割、株式交換・株式移転の手続について学ぶ。 合併、会社分割、株式交換・株式移転の無効 | 事前に237ページ～290ページを読む。 | 事後に237ページ～290ページを読む。 |
| 15 | 会社の消滅と倒産処理、外国会社 | 更生、解散、通常清算、特別清算、外国会社について学ぶ。 | 事前に291ページ～314ページを読む。 | 事後に291ページ～314ページを読む。 |

| | |
|------|---------|
| 関連科目 | 金融商品取引法 |
|------|---------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|----------------|-----------|-------|
| | 1 | プライマリー会社法(最新版) | 藤田勝利・北村雅史 | 法律文化社 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|---------------|---|
| 評価方法 (基準) | 定期試験 80%、復習テスト 20% |
| 学生への メッセージ | 出席することが重要です。授業中は、私語をしないで下さい。ポケット六法は、授業には、必ず、携帯して下さい。会社法は比較的、他の法律の知識を前提にしておらず、完結していますので理解しやすい。 |
| 担当者の 研究室等 | 11号館9階 牛丸教授室 |
| 備考 | 予習・復習には各1時間とって下さい。 |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-----------|
| 科目名 | 労働法 | 科目名 (英文) | Labor Law |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 川谷 道郎 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS3053a0 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 労働法は労働者と使用者との契約関係を規律する「労働保護法」と労働組合の団体行動を規律する「労働団合法」の2分野に大きく分けられますが、この授業では双方の分野を含めて労働法を概観します。 |
| 到達目標 | この授業を通じて、学生は労働者の保護という法律の目的が具体的にどのような規定によって実現されているのかを理解し、低賃金労働、長時間労働、労働災害、外国人労働者問題といった現実の社会で生起している問題を法律の観点からとらえ、問題の解決の方向を見出すことができるようになることが期待されます。 |
| 授業方法と留意点 | 授業は論点を整理したレジュメその他の資料を適宜配布して行います。ただし、教科書および六法は必ず持参して手元に置くようにして下さい。授業では課題若しくは小テストを課することがあります。最終回の講義では定期試験を行う予定です。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 労働基準監督官や公務員試験での出題が考えられます。学生の多くは卒業後に就職することになるでしょうが、労働法の知識は社会生活を送るうえで極めて有用なものであるはずで |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------------------|---|--|
| | | | |
| 1 | 労働法の意義と基本構造 | ・労働法の全体像、規律構造 ・労働者の権利について | 教科書第1編 (2頁-22頁) を予め読み、事後には配布資料を検討すること (1時間) |
| 2 | 労働者保護の一般原則 労働契約 | ・労基法の適用範囲 ・労働契約の基本 | 教科書第2編第1章から第3章の2まで (24頁-79頁) を予め読み、事後には配布資料を検討すること (1時間) |
| 3 | 労働契約の当事者の権利義務 | ・労働契約の法的規制 ・労働契約における権利と義務 ・配転と使用者の業務命令権 | 教科書第2編第3章の3から6まで (79頁-109頁) を予め読み、事後には配布資料を検討すること (2時間) |
| 4 | 賃金 | ・賃金と退職金 ・賃金支払の原則 ・休業手当 | 教科書第2編第4章 (110頁-131頁) を予め読み、事後には配布資料を検討すること (1時間) |
| 5 | 労働時間 | ・労働時間の意味 ・労働時間規制の原則と例外 | 教科書第2編第5章の1から6 (132頁-154頁) を予め読み、事後には配布資料を検討すること (1時間) |
| 6 | 休憩・休日 年次有給休暇 年少者と女性労働者の保護 | ・休憩に関する規制 ・年休権の内容 ・年少者と女性労働者の労働規制 | 教科書第2編第5章の7から第7章まで (154頁-184頁) を予め読み、事後には配布資料を検討すること (1時間) |
| 7 | 安全衛生と災害補償 | ・使用者の安全配慮義務 ・労働災害の補償 | 教科書第2編第8章 (185頁-204頁) を予め読み、事後には配布資料を検討すること (1時間) |
| 8 | 就業規則 | ・就業規則の意義とその効果 | 教科書第2編第9章 (205頁-223頁) を予め読み、事後には配布資料を検討すること (1時間) |
| 9 | 懲戒 | ・使用者の懲戒権の法的根拠 ・懲戒処分の内容 | 教科書第2編第10章 (224頁-242頁) を予め読み、事後には配布資料を検討すること (1時間) |
| 10 | 解雇・定年・退職 多様な働き方 | ・解雇の法理 ・パート労働、派遣労働 | 教科書第2編第11、12章 (243頁-286頁) を予め読み、事後には配布資料を検討すること (1時間) |
| 11 | 労働組合の基本 | 労働組合の意義と目的 | 教科書第4編第1、2章 (312頁-329頁) を予め読み、事後には配布資料を検討すること (1時間) |
| 12 | 団体交渉と労働協約 | ・団体交渉権の保障とその範囲 ・労働協約の効力 | 教科書第4編第3、4章 (330頁-354頁) を予め読み、事後には配布資料を検討すること (1時間) |
| 13 | 労働争議 | ・争議行為の意義と限界 | 教科書第4編第5章 (355頁-379頁) を予め読み、事後には配布資料を検討すること (1時間) |
| 14 | 組合活動と不当労働行為 | ・就業時間中の組合活動 ・不当労働行為の意義と救済 | 教科書第4編第6、7章 (380頁-418頁) を予め読み、事後には配布資料を検討すること (1時間) |
| 15 | 試験 | 定期試験 | 今まで学んだことで自分がわかりにくかった部分などがどこかを確認しておくこと (1時間) |

| | |
|------|---------------|
| 関連科目 | 日本国憲法、民法Ⅰ、民法Ⅱ |
|------|---------------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|------------|------------|------|
| | 1 | 労働法 [第13版] | 安枝英紳・西村健一郎 | 有斐閣 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|--------------|-----|------|
| | 1 | 労働判例百選 [第9版] | | 有斐閣 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 学期末試験 (70%)、授業中の課題 (30%) により総合的に評価します。 |
| 学生へのメッセージ | 現実社会では、労働の場面において、様々な問題が生じています。そして、それは、経営者側からも、労働者側からも、問題解決の必要性があります。労働関係に関する法律を学ぶことは、企業経営に不可欠といえますので、意識的・主体的に学習に取り組んでいただければと思います。 |
| 担当者の研究室等 | 11号館9階 川谷研究室 |
| 備考 | 小テストを実施した場合、次回講義で問題の解説を行います。 |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|------------|
| 科目名 | 英語 I a | 科目名 (英文) | English Ia |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 西尾 優里 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN1301c1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。 |
| 到達目標 | (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC, 英検等 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---|---|---|
| | | | |
| 1 | Introduction | Orientation for this class | Follow orientation instructions. |
| 2 | Unit 1-1: When Do You Eat? -アフタヌーン・ティーって お茶の時間?- | Check the contents of Unit 1: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point | Follow instructions as provided in class. |
| 3 | Unit 1-2: When Do You Eat? -アフタヌーン・ティーって お茶の時間?- | Writing and Speaking Session of Unit 1: Sharing your writing and asking questions (based on HW topics). | Follow instructions as provided in class. |
| 4 | Unit 2-1: Before You Go to England -イギリスはどこにあるのか- | Check the contents of Unit 2: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point | Follow instructions as provided in class. |
| 5 | Unit 2-2: Before You Go to England -イギリスはどこにあるのか- | Writing and Speaking Session of Unit 2: Sharing your writing and asking questions (based on HW topics). | Follow instructions as provided in class. |
| 6 | Unit 3-1: Future of the Shopping Mall -なんでも買えるお店はどこにある?- | Check the contents of Unit 3: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point | Follow instructions as provided in class. |
| 7 | Unit 3-2: Future of the Shopping Mall -なんでも買えるお店はどこにある?- | Writing and Speaking Session of Unit 3: Sharing your writing and asking questions (based on HW topics). | Follow instructions as provided in class. |
| 8 | Unit 4-1: Basic of Apartment Renting -世界の借家事情- | Check the contents of Unit 4: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point | Follow assessment instructions |
| 9 | Unit 4-2: Basic of Apartment Renting -世界の借家事情- | Writing and Speaking Session of Unit 4: Sharing your writing and asking questions (based on HW topics). | Follow assessment instructions. |
| 10 | Unit 5-1: Is That Really English? -それってホントに英語なの?- | Check the contents of Unit 5: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point | Follow instructions as provided in class. |
| 11 | Unit 5-2: Is That Really English? -それってホントに英語なの?- | Writing and Speaking Session of Unit 5: Sharing your writing and asking questions (based on HW topics). | Follow instructions as provided in class. |
| 12 | Unit 6-1: Dining Out: East and West -「私がおごります」は失礼になる時もある?- | Check the contents of Unit 6: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point | Follow instructions as provided in class. |
| 13 | Unit 6-2: Dining Out: East and West -「私がおごります」は失礼になる時もある?- | Writing and Speaking Session of Unit 6: Sharing your writing and asking questions (based on HW topics). | Follow instructions as provided in class. |
| 14 | Review for All Unites for Final Test | Review by yourselves and practice for Final Test | Follow assessment instructions. |
| 15 | Final Test | | Follow assessment instructions. |

| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|---|--|------------------|-------|------|---|--|------------------|-------|---|--|-------|-----|---|--|--|--|
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Know the Differences, Broaden Your World! -Short Readings and Basic Grammar for Cultural Literacy-</td> <td>Nobumichi Kawada</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | Know the Differences, Broaden Your World! -Short Readings and Basic Grammar for Cultural Literacy- | Nobumichi Kawada | 朝日出版社 | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集) | 西谷 恒志 | 成美堂 | 3 | | | |
| | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | |
| | 1 | Know the Differences, Broaden Your World! -Short Readings and Basic Grammar for Cultural Literacy- | Nobumichi Kawada | 朝日出版社 | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集) | 西谷 恒志 | 成美堂 | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|--|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|---------------|--|
| 評価方法 (基準) | <p>全学共通英語課題 (English Central) 20%</p> <p>授業への参加、貢献 (participation, speaking and communication skills, various written activities, such as paragraphs, interaction and reflection reports) 80%</p> <p>評価の詳細は、初回授業に説明します。必ず参加すること。</p> |
| 学生への メッセージ | <p>Hi, everyone! I am Yuri Nishio and this year is my second year of teaching in Setsunan University.</p> <p>We will discuss any topics by using video materials included the textbook.</p> <p>I'm looking forward to teaching you this year.</p> <p>Please participate fully in p</p> |
| 担当者の 研究室等 | 非常勤講師室 (7号館2階) または email |
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行うこと。その他の質問等は出講時に非常勤講師室やメールにて対応する。 |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|------------|
| 科目名 | 英語 I b | 科目名 (英文) | English Ib |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 有本 好一郎 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN1302c1 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身に付けること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。 |
| 到達目標 | (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC, 英検等 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------------------------|-----------------------------|-----------------------------------|
| | | | |
| 1 | ガイダンス、TOEICの説明、英語クロスワードパズルなど | 授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明 | 教科書の予習(次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記 |
| 2 | 自己紹介についての文章を通して名詞の学習(固有名詞、複数形など) | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記 |
| 3 | 家族、ペットについての文章を通して動詞の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記 |
| 4 | 趣味についての文章を通して主語+動詞への学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記 |
| 5 | 大学生活についての文章を通して人称代名詞の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記 |
| 6 | 食物についての文章を通して疑問詞の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記 |
| 7 | コンサートについての文章を通してHow+形容詞、副詞の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記 |
| 8 | 中間試験 | 試験後、答え合わせを行い弱点を復習 | 教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記 |
| 9 | 道案内についての文章を通して助動詞の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記 |
| 10 | 日本文化についての文章を通して助動詞の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記 |
| 11 | ジェスチャーについての文章を通して前置詞の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記 |
| 12 | 観光案内についての文章を通して時制の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記 |
| 13 | ネットショッピングについての文章を通して進行形の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記 |
| 14 | E-mail についての文章を通して数字の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記 |
| 15 | 9-14回のまとめテストと復習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | まとめテストの準備 |

| | |
|------|--------|
| 関連科目 | 他の英語科目 |
|------|--------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|--|--------------------------------|----------------|------|
| | 1 | Forerunner to Power-Up English | JACET リスニング研究会 | 南雲堂 |
| 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition (指定の単語集) | 西谷 恒志 | 成美堂 | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|----------|--|
| 評価方法(基準) | 全学共通英語課題 20% まとめテスト50%、小テスト30%で評価を行う。 |
|----------|--|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。英語が得意なら未来が明るくなります。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|---------------|
| 担当者の研究室等 | 非常勤講師室(7号館2階) |
|----------|---------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |
|----|---|

| | | | |
|----------------|-----------|----------|------------|
| 科目名 | 英語 I c | 科目名 (英文) | English Ic |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 西尾 優里 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN1303c1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。 |
| 到達目標 | (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC, 英検等 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|---|---|
| | | | |
| 1 | Introduction | Orientation for this class | Follow orientation instructions. |
| 2 | Unit 7-1 : Careers and Promotions —年功序列と実力主義、どちらがいい?— | Check the contents of Unit 7: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point | Follow instructions as provided in class. |
| 3 | Unit 7-2 : Careers and Promotions —年功序列と実力主義、どちらがいい?— | Writing and Speaking Session of Unit 7 : Sharing your writing and asking questions (based on HW topics). | Follow instructions as provided in class. |
| 4 | Unit 8-1 : Bath or Shower? —あなたは風呂派?それともシャワー派?— | Check the contents of Unit 8: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point | Follow instructions as provided in class. |
| 5 | Unit 8-2 : Bath or Shower? —あなたは風呂派?それともシャワー派?— | Writing and Speaking Session of Unit 8 : Sharing your writing and asking questions (based on HW topics). | Follow instructions as provided in class. |
| 6 | Unit 9-1 : White=Right? —美白の魔力、白い肌が美しいというのは世界の共通か?— | Check the contents of Unit 9: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point | Follow instructions as provided in class. |
| 7 | Unit 9-2 : White=Right? —美白の魔力、白い肌が美しいというのは世界の共通か?— | Writing and Speaking Session of Unit 9 : Sharing your writing and asking questions (based on HW topics). | Follow instructions as provided in class. |
| 8 | Unit 10-1 : Money and Modern Weddings —経済力と結婚の厳しい現実— | Check the contents of Unit 10: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point | Follow assessment instructions |
| 9 | Unit 10-2 : Money and Modern Weddings —経済力と結婚の厳しい現実— | Writing and Speaking Session of Unit 10 : Sharing your writing and asking questions (based on HW topics). | Follow assessment instructions. |
| 10 | Unit 11-1 : Subway Around the World —世界の地下鉄を乗りこなそう— | Check the contents of Unit 11: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point | Follow instructions as provided in class. |
| 11 | Unit 11-2 : Subway Around the World —世界の地下鉄を乗りこなそう— | Writing and Speaking Session of Unit 11 : Sharing your writing and asking questions (based on HW topics). | Follow instructions as provided in class. |
| 12 | Unit 12-1 : Work Hours —生きるために働くのか、働くために生きるのか— | Check the contents of Unit 12: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point | Follow instructions as provided in class. |
| 13 | Unit 12-2 : Work Hours —生きるために働くのか、働くために生きるのか— | Writing and Speaking Session of Unit 12 : Sharing your writing and asking questions (based on HW topics). | Follow instructions as provided in class. |
| 14 | Review for All Unites for Final Test | Review by yourselves and practice for Final Test | Follow assessment instructions. |
| 15 | Final Test | | Follow assessment instructions. |

| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|---|--|------------------|-------|------|---|--|------------------|-------|---|--|-------|-----|---|--|--|--|
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Know the Differences, Broaden Your World! -Short Readings and Basic Grammar for Cultural Literacy-</td> <td>Nobumichi Kawada</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | Know the Differences, Broaden Your World! -Short Readings and Basic Grammar for Cultural Literacy- | Nobumichi Kawada | 朝日出版社 | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集) | 西谷 恒志 | 成美堂 | 3 | | | |
| | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | |
| | 1 | Know the Differences, Broaden Your World! -Short Readings and Basic Grammar for Cultural Literacy- | Nobumichi Kawada | 朝日出版社 | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集) | 西谷 恒志 | 成美堂 | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|---------------|--|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | <p>全学共通英語課題 (English Central) 20%</p> <p>授業への参加、貢献 (participation, speaking and communication skills, various written activities, such as paragraphs, interaction and reflection reports) 80%</p> <p>評価の詳細は、初回授業に説明します。必ず参加すること。</p> | | | |
| 学生への メッセージ | <p>Hi, everyone! I am Yuri Nishio and this year is my second year of teaching in Setsunan University.</p> <p>We will discuss any topics by using video materials included the textbook.</p> <p>I'm looking forward to teaching you this year.</p> <p>Please participate fully in p</p> | | | |
| 担当者の 研究室等 | 非常勤講師室 (7号館 2階) または email | | | |
| 備考 | <p>このクラスを受講希望者は必ず初回授業に参加すること。第1回目の授業に不参加の場合、特別な理由を除き、基本的に受講は認めません。</p> <p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行うこと。その他の質問等は出講時に非常勤講師室やメールにて対応します。</p> | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|------------|
| 科目名 | 英語 I d | 科目名 (英文) | English Id |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 有本 好一郎 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN1304c1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。 |
| 到達目標 | (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1. 1-A1. 2]、後期は CEFR-J [A1. 3] に英語力が到達することを目標とす |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC, 英検等 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------------------|-----------------------------|-----------------------|
| | | | |
| 1 | ガイダンス、TOEIC の説明、英語クロスワードパズルなど | 授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明 | 教科書の予習、クロスワードパズルの暗記 |
| 2 | 機内放送についての文章を通して、天候や時の表現の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 |
| 3 | 空港で放送される文章を通して接続詞の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 |
| 4 | ホテルで使われる文章を通して不定詞の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 |
| 5 | レストランで使われる文章を通して形容詞の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 |
| 6 | 買い物で使われる文章を通して頻度を表す副詞の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 |
| 7 | 野球についての文章を通して比較級の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 |
| 8 | 中間試験 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 |
| 9 | ミュージカル鑑賞についての文章を通して完了形の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 |
| 10 | 旅行案内についての文章を通して受動態の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 |
| 11 | 問題解決についての文章を通して受動態の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 |
| 12 | 体調不良についての文章を通して分詞の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 |
| 13 | 電話の会話についての文章を通して動名詞の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 |
| 14 | 別れの手紙の文章を通してセンテンスの学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 |
| 15 | 9-14 回のまとめテストと復習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | まとめテストの準備 |

| | |
|------|--------|
| 関連科目 | 他の英語科目 |
|------|--------|

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|--|----------------|------|
| 1 | Forerunner to Power-Up English | JACET リスニング研究会 | 南雲堂 |
| 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition (指定の単語集) | 西谷 恒志 | 成美堂 |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| | |
|-----------|-----------------------------|
| 評価方法 (基準) | 小テスト 40%、まとめテスト 60% で評価を行う。 |
|-----------|-----------------------------|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。英語が得意なら未来が明るくなります。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|-------------------|
| 担当者の研究室等 | 非常勤講師室 (7 号館 2 階) |
|----------|-------------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |
|----|---|

| | | | |
|---------------|-----------|----------|-------------|
| 科目名 | 英語Ⅱ a | 科目名 (英文) | English IIa |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | ① |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 山本 尚子 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN2305c1 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 |
| 到達目標 | 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC、英検等 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------|--|--------------------------------|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション | 授業についての注意事項や進め方の説明をした後プリント教材を使った授業を行う。 | テキストを購入して、目を通しておくこと。 |
| 2 | College Sports (1) | アメリカの大学スポーツについて読む。現在時制の使い方をチェックする。 | テキストの予習 予習をしながら単語帳を作る(以下同様) |
| 3 | College Sports (2) | アメリカの大学スポーツについて読む。現在時制の使い方をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| 4 | Hip Hop Music (1) | ヒップホップミュージックの成り立ちについて読む。過去時制の使い方をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| 5 | Hip Hop Music (2) | ヒップホップミュージックの成り立ちについて読む。過去時制の使い方をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| 6 | Travel (1) | 人がなぜ旅に出るのかについて読む。進行形の使い方をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| 7 | Travel (2) | 人がなぜ旅に出るのかについて読む。進行形の使い方をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| 8 | Video Games (1) | テレビゲームの功罪について読む。完了形の使い方をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| 9 | Video Games (2) | テレビゲームの功罪について読む。完了形の使い方をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| 10 | Recycling (1) | リサイクルによる環境保全について読む。冠詞、代名詞の使い方をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| 11 | Recycling (2) | リサイクルによる環境保全について読む。冠詞、代名詞の使い方をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| 12 | Fast Food (1) | ファーストフードの問題点について読む。可算名詞、不可算名詞をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| 13 | Fast Food (2) | ファーストフードの問題点について読む。可算名詞、不可算名詞をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| 14 | TOEICの練習 | プリント教材を使って、TOEICの練習問題を行う。 | テキストの復習 |
| 15 | 復習、まとめテスト | 前期の内容の復習をし、まとめテストを行う。 | 前期の復習 |

| | |
|------|--------|
| 関連科目 | 他の英語科目 |
|------|--------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|---|---------------------|----------------|------|
| | 1 | English Indicator 3 | Joshua Cohen 他 | 南雲堂 |
| 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | 西谷 恒志 | 成美堂 | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|----------|--|
| 評価方法(基準) | 全学共通英語課題 (English Central) 20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 80% |
|----------|--|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 毎回予習復習をして、積極的に授業に参加することを心がけてください。授業中はしっかりメモを取り、わからないことがあれば必ず質問するようにしてください。予習をチェックする課題提出を求めますので、長文は事前に必ず読んで内容を把握しておいてください。毎回の予定は目安であり多少の変更もあり得ますので、授業中の説明をよく聞いておいてください。皆さんの積極的な授業参加を期待しています。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|-------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階非常勤講師室 |
|----------|-------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ |
|----|---|

| | |
|--|--|
| | そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |
|--|--|

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-------------|
| 科目名 | 英語Ⅱ a | 科目名 (英文) | English IIa |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | ② |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 東野 厚子 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN2305c1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 |
| 到達目標 | 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC, 英検等 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---|---|--|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション Unit 1 Eating Out. 文法: 動詞 (1) | 授業の進め方、評価方法等の説明 単語の確認 TOEIC 問題演習 | 事前学習: テキストを準備し、Unit1 の知らない単語を確認しておく 事後学習: 知らない単語・イディオムの暗記と指示された英文の音読をする |
| 2 | Unit 2 Travel 文法: 動詞 (2) | 小テスト (Unit1) 単語の確認 TOEIC 問題演習 | 事前学習: Unit2 の知らない単語を確認し、演習問題をしておく 事後学習: 知らない単語・イディオムの暗記と指示された英文の音読をする |
| 3 | Unit 3 Amusement 文法: 品詞 | 小テスト (Unit2) 前回の小テストの解答と説明 単語の確認 TOEIC 問題演習 | 事前学習: Unit3 の知らない単語を確認し、演習問題をしておく 事後学習: 知らない単語・イディオムの暗記と指示された英文の音読をする |
| 4 | Unit 4 Meetings 文法: 分詞 | 小テスト (Unit3) 前回の小テストの解答と説明 単語の確認 TOEIC 問題演習 | 事前学習: Unit4 の知らない単語を確認し、演習問題をしておく 事後学習: 知らない単語・イディオムの暗記と指示された英文の音読をする |
| 5 | Unit 5 Personnel 文法: 不定詞と動名詞 (1) | 小テスト (Unit4) 前回の小テストの解答と説明 単語の確認 TOEIC 問題演習 | 事前学習: Unit5 の知らない単語を確認し、演習問題をしておく 事後学習: 知らない単語・イディオムの暗記と指示された英文の音読をする |
| 6 | Unit 6 Shopping 文法: 不定詞と動名詞 (2) | 小テスト (Unit5) 前回の小テストの解答と説明 単語の確認 TOEIC 問題演習 | 事前学習: Unit6 の知らない単語を確認し、演習問題をしておく 事後学習: 知らない単語・イディオムの暗記と指示された英文の音読をする |
| 7 | Unit 7 Advertisement 文法: 仮定法 | 小テスト (Unit6) 前回の小テストの解答と説明 単語の確認 TOEIC 問題演習 | 事前学習: Unit7 の知らない単語を確認し、演習問題をしておく 事後学習: 知らない単語・イディオムの暗記と指示された英文の音読をする |
| 8 | Unit 8 Daily Life 文法: 受動態 | 小テスト (Unit7) 前回の小テストの解答と説明 単語の確認 TOEIC 問題演習 | 事前学習: Unit8 の知らない単語を確認し、演習問題をしておく 事後学習: 知らない単語・イディオムの暗記と指示された英文の音読をする |
| 9 | Unit 9 Office Work 文法: 代名詞 | 小テスト (Unit8) 前回の小テストの解答と説明 単語の確認 TOEIC 問題演習 | 事前学習: Unit9 の知らない単語を確認し、演習問題をしておく 事後学習: 知らない単語・イディオムの暗記と指示された英文の音読をする |
| 10 | Unit 10 Business 文法: 数量詞・比較 | 小テスト (Unit9) 前回の小テストの解答と説明 単語の確認 TOEIC 問題演習 | 事前学習: Unit10 の知らない単語を確認し、演習問題をしておく 事後学習: 知らない単語・イディオムの暗記と指示された英文の音読をする |
| 11 | Unit 11 Traffic 文法: 接続詞 | 小テスト (Unit10) 前回の小テストの解答と説明 単語の確認 TOEIC 問題演習 | 事前学習: Unit11 の知らない単語を確認し、演習問題をしておく 事後学習: 知らない単語・イディオムの暗記と指示された英文の音読をする |
| 12 | Unit 12 Finance and Banking 文法: 前置詞 | 小テスト (Unit11) 前回の小テストの解答と説明 単語の確認 TOEIC 問題演習 | 事前学習: Unit12 の知らない単語を確認し、演習問題をしておく 事後学習: 知らない単語・イディオムの暗記と指示された英文の音読をする |
| 13 | Unit 13 Media 文法: 語彙 | 小テスト (Unit12) 前回の小テストの解答と説明 単語の確認 TOEIC 問題演習 | 事前学習: Unit13 の知らない単語を確認し、演習問題をしておく 事後学習: 知らない単語・イディオムの暗記と指示された英文の音読をする |
| 14 | Unit 14 Health and Welfare | 小テスト (Unit13) 前回の小テストの解答と説明 単語の確認 TOEIC 問題演習 | 事前学習: Unit14 の知らない単語を確認し、演習問題をしておく 事後学習: 知らない単語・イディオムの暗記と指示された英文の音読をする |
| 15 | まとめテスト | Unit1~14の単語、文法事項の確認とテスト | 事前学習: テキスト (Unit1-14)の復習, 今までの学習した単語、文法事項を整理し、小テストの間違いは必ず確認しておく |

| | | | | |
|---------------|---|--|-------|-----------------------|
| | | | | 事後学習：知らない単語、文法事項は暗記する |
| 関連科目 | | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | Step-up Skills for the TOEIC Listening and Reading Test 2 | 北尾泰幸他 | 朝日出版 |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition- | 西垣恒志 | 成美堂 |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 全学共通課題 (English Central) 20% 授業への参加、貢献(課題、小テスト、まとめテスト等を含む) 80% 原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。授業への参加・貢献とは、授業中の質問や指名に対する回答状況、授業への集中度、課題提出状況、小テストとまとめテストへの取り組みをさす。 詳しくは第1回目に授業で説明する。 | | | |
| 学生への メッセージ | <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト(教科書)を忘れた場合、また、携帯電話の使用、私語などの授業妨害行為、許可のない途中退室などの行為があった場合は、当日の授業態度における評価点をゼロとして扱います。その他の詳細は、第1回目の授業で詳しく説明します。受講予定者は必ず初回から出席してください。 ・実践的な英語力を身につけるため、TOEIC 試験などを積極的に受験しましょう。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 非常勤講師室 (7号館2階) | | | |
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。質問等は学内メールにて対応する。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画は進度によって変わる場合があります。 ・小テスト等は授業中にフィードバックする。 | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|----------|-------------|
| 科目名 | 英語Ⅱ a | 科目名 (英文) | English IIa |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | ③ |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 西谷 継治 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN2305c1 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 |
| 到達目標 | 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、ある |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC Test の得点アップにつなげる。 |

| | | | | |
|------|----|------------------------|-------------------------------|---|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | Introduction | 授業内容の詳しい解説 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 2 | 読解、文法、語彙 品詞 | TOEIC 文法・読解演習 主要品詞 | 単語小テスト No. 0001-0040 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 3 | 読解、文法、語彙 動詞の形1 | TOEIC 文法・読解演習 時制 | 単語小テスト No. 0041-0080 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 4 | 読解、文法、語彙 動詞の形2 | TOEIC 文法・読解演習 能動態と受動態 | 単語小テスト No. 0081-0120 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 5 | 読解、文法、語彙 前置詞 | TOEIC 文法・読解演習 前置詞の役割 | 単語小テスト No. 0121-0160 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 6 | 読解、文法、語彙 接続詞 | TOEIC 文法・読解演習 接続詞の役割 | 単語小テスト No. 0161-0200 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 7 | Review | 前半の復習 | 単語小テスト No. 0201-0240 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 8 | 臨時試験 | 前半の試験 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 9 | 臨時試験評価 | 臨時試験の解説及び評 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 10 | 読解、文法、語彙 可算名詞と不可算名詞 | TOEIC 文法・読解演習 名詞の数について | 単語小テスト No. 0241-0280 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 11 | 読解、文法、語彙 主語・動詞の呼応 | TOEIC 文法・読解演習 主語と動詞の一致について | 単語小テスト No. 0281-0320 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 12 | 読解、文法、語彙 関係詞 | TOEIC 文法・読解演習 関係代名詞の用法 | 単語小テスト No. 0321-0360 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 13 | 読解、文法、語彙 名詞節 | TOEIC 文法・読解演習 名詞節の用法 | 単語小テスト No. 0361-0438 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 14 | 読解、文法、語彙 副詞節 | TOEIC 文法・読解演習 副詞節の用法 | 教科書 P. 55-60 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 15 | Review | 後半の復習 | Unit 16- 20 質問準備 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |

| | |
|------|-----------------------|
| 関連科目 | TOEIC, 英検ほか、英語関連の資格一般 |
|------|-----------------------|

| | | | | |
|-----|----|---|------------------------|----------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | Seize the Essence of the TOEIC Test | Masako Yasumaru et al. | KINSEIDO |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | NISHIYA Koji | 成美堂 |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|----------|--|
| 評価方法(基準) | 全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 80% |
|----------|--|

| | |
|-----------|-----------------------------|
| 学生へのメッセージ | 図書館やPC等を利用し日頃から英語に親しんでください。 |
|-----------|-----------------------------|

| | |
|----------|-------------------------|
| 担当者の研究室等 | 非常勤講師室(前期3号館2階/後期7号館2階) |
|----------|-------------------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |
|----|---|

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-------------|
| 科目名 | 英語Ⅱ a | 科目名 (英文) | English IIa |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | ④ |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 内山 知美 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN2305c1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 |
| 到達目標 | 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、ある |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC, 英検等 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------|-----------------|-----------------------|
| | | | |
| 2 | 電話に対応する | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 3 | Eメールを読む | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 4 | 正確な情報を得る | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 5 | ビジネスレターを読む | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 6 | 受付の英語 | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 7 | ウェブサイトを閲覧する | 読解演習 (確認クイズ) | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 8 | 会社について説明する | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 9 | 仕事の英語 | 映像 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 10 | 新製品広告を読み解く | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 11 | 自分の仕事を説明する | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 12 | 製品の仕様書を確認する | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 13 | 将来の展望について話す | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 14 | 操作マニュアルを理解する | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 15 | 前期のまとめ | まとめ まとめの試験 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |

関連科目

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|--|--------|------|
| 1 | Getting Global! 将来のキャリアに活かす 大学生のためのコミュニケーション英語 | 辻本智子 他 | 金星堂 |
| 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集) | 西谷 恒志 | 成美堂 |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80% |
| 学生へのメッセージ | 図書館やPC等を利用し日頃から英語に親しんでください。 |
| 担当者の研究室等 | 非常勤講師室 (7号館2階) |
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-------------|
| 科目名 | 英語 II b | 科目名 (英文) | English IIB |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | ① |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 梅田 尋道 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | 1EN2306c1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 |
| 到達目標 | 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC、英検等 |

| | | | | |
|------|----|---|---|--|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション | 授業の進め方・評価方法などについて説明する。 | 第2週目の授業に間に合うように教科書を購入する。 |
| | 2 | New Directions first viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2、3回音読する。 |
| | 3 | New Directions second viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2、3回音読する。 |
| | 4 | What's the Other Option? first viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2、3回音読する。 |
| | 5 | What's the Other Option? second viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2、3回音読する。 |
| | 6 | You're Leaving Us? first viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2、3回音読する。 |
| | 7 | You're Leaving Us? second viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2、3回音読する。 |
| | 8 | Midterm Exam | これまでの復習を併せて行う。 | Midterm Exam の準備 |
| | 9 | Don't Stop Believing first viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2、3回音読する。 |
| | 10 | Don't Stop Believing second viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2、3回音読する。 |
| | 11 | He's Not Coming first viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2、3回音読する。 |
| | 12 | He's Not Coming second viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2、3回音読する。 |
| | 13 | I Want In first viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2、3回音読する。 |
| | 14 | I Want In second viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2、3回音読する。 |
| | 15 | まとめのテスト | これまでの復習を併せて行う。 | テストの準備 |

| | |
|------|--------|
| 関連科目 | 他の英語科目 |
|------|--------|

| | | | | |
|-----|----|---|----------------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | Communicate in English with glee 1 | Simon Capper 他 | 松柏社 |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- | 西谷 恒志 | 成美堂 |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80% |
|-----------|---|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | "Failure is instructive. The person who really thinks learns quite as much from his failures as from his successes." — John Dewey 失敗を重ねて成長してください！ |
|-----------|--|

| | |
|----------|--|
| 担当者の研究室等 | 非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階） |
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 教科書を持ってこない、居眠りをする、スマホを使う、私語をする、途中退出するなどして授業参加しない場合、各授業で 3～5 点減点します。 |

| | | | |
|---------------|-----------|----------|-------------|
| 科目名 | 英語 II b | 科目名 (英文) | English IIb |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | ② |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 関 初海 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN2306c1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 |
| 到達目標 | 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC, 英検等 |

| | | | | |
|------|----|-------------------------|---|------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション | 授業の進め方・評価方法などについて説明 | Unit 1 予習 |
| | 2 | Unit 1 Travel | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング (プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 1 復習・予習 |
| | 3 | Unit 1 Travel | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング (プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 1 復習 Unit 2 予習 |
| | 4 | Unit 2 Dining Out | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング (プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 2 復習・予習 |
| | 5 | Unit 2 Dining Out | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング (プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 2 復習 Unit 3 予習 |
| | 6 | Unit 3 Shopping | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング (プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 3 復習・予習 |
| | 7 | Unit 3 Shopping | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング (プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 3 復習 Unit 4 予習 |
| | 8 | Unit 4 Entertainment | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング (プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 4 復習・予習 |
| | 9 | Unit 4 Entertainment | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング (プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 4 復習 Unit 5 予習 |
| | 10 | Unit 5 Advertising | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング (プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 5 復習・予習 |
| | 11 | Unit 5 Advertising | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング (プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 5 復習 Unit 6 予習 |
| | 12 | Unit 6 Events | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング (プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 6 復習・予習 |
| | 13 | Unit 6 Events | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング (プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 6 復習・予習 |
| | 14 | Unit 6 Events | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング (プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 6 復習 |
| | 15 | まとめ | 総まとめ | 総復習 |

| | | | | |
|------|--------|---|-------|------|
| 関連科目 | 他の英語科目 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST BEGINNER | 早川幸治他 | 金星堂 |

| | | | | |
|---------------|---|--|-------|------|
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- | 西谷 恒志 | 成美堂 |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 全学共通英語課題 20% 定期試験 60% 授業への参加、貢献 (小テスト等を含む) 20% | | | |
| 学生への メッセージ | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 非常勤講師室 | | | |
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-------------|
| 科目名 | 英語 II b | 科目名 (英文) | English IIb |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | ③ |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 藤澤 宜広 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN2306c1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 |
| 到達目標 | 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC, 英検等 |

| | | | | |
|------|--|---|--------------------------------|---|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | シラバスの説明 Workers and the Workplaces 1. Job and Career Advancement (導入) | 授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など | 次回講義 (1. Job and Career Advancement) の予習 |
| | 2 | 1. Job and Career Advancement | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (1. Job and Career Advancement) の復習及び予習 (2. On the Job Health and Safety) |
| | 3 | 2. On the Job Health and Safety | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (2. On the Job Health and Safety) の復習及び予習 (3. Support Systems for Injured Workers) |
| | 4 | 3. Support Systems for Injured Workers | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (3. Support Systems for Injured Workers) の復習及び予習 (4. Supervisors and Teamwork) |
| | 5 | 4. Supervisors and Teamwork | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (4. Supervisors and Teamwork) の復習及び予習 (5. Managing Family Life) |
| | 6 | Housing and Family Life 5. Managing Family Life | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (5. Managing Family Life) の復習及び予習 (6. Using Information Services) |
| | 7 | 6. Using Information Services | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (6. Using Information Services) の復習及び予習 (7. Accessing Services) |
| | 8 | 7. Accessing Services | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (7. Accessing Services) の復習及び予習 (8. Men's Changing Roles) |
| | 9 | 8. Men's Changing Roles | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (8. Men's Changing Roles) の復習及び予習 (9. Dealing with Taxes) |
| | 10 | Taxes, Law and Community Issues 9. Dealing with Taxes | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (9. Dealing with Taxes) の復習及び予習 (10. Dealing with the Law) |
| | 11 | 10. Dealing with the Law | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (10. Dealing with the Law) の復習及び予習 (11. Discussing Community Issues) |
| | 12 | 11. Discussing Community Issues | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (11. Discussing Community Issues) の復習及び予習 (12. Civic Participation) |
| | 13 | 12. Civic Participation | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (12. Civic Participation) の復習及び予習 (13. Parenting in the United States) |
| | 14 | Parenting and Workplace Roles 13. Parenting in the United States | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (13. Parenting in the United States) の復習及び予習 (1. Job and Career Advancement ~13. Parenting in the United States) |
| 15 | 1. Job and Career Advancement ~ 13. Parenting in the United States | 既習範囲の総復習 課題・レポートの準備 | 課題・レポートの準備 | |

| | |
|------|--------|
| 関連科目 | 他の英語科目 |
|------|--------|

| | | | | |
|-----|----|---|-------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | プリント教材 | | |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition (改訂版) | 西谷 恒志 | 成美堂 |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|--|--|-----------------------------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | Business Partner A2+ Coursebook with Digital Resources | Margaret O'Keefe, Lewis Lansford, et al. | Pearson Education |
| | 2 | Intelligent Business Coursebook Elementary | Irene Barrall and Nikolas Barrall | Pearson Education |
| | 3 | Mastering the American Accent, 2nd. ed. | Lisa Mojsin | Barron's Educational Series |

| | |
|-----------|--|
| 評価方法 (基準) | 全学共通英語課題 (EnglishCentral) ...20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) ...80% |
|-----------|--|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし) にあるように英語学習に王道 (= easy way) などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and steady wins the race. (急がば回れ) を心に留め、ゆっくりでも着 |
|-----------|---|

| | |
|----------|---|
| | 実に学習を続けることです。予習、復習、只管筆写、英語多読を含め英語に触れる絶対量を増やせば、英語の力は必ず上達します。頑張りましょう！Keep your chin up |
| 担当者の研究室等 | 非常勤講師室（7号館2階） |
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-------------|
| 科目名 | 英語 II b | 科目名 (英文) | English IIb |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | ④ |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 土田 智佳子 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN2306c1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を |
| 到達目標 | 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC, 英検等 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------------------|--|---------------------------------|
| | | | |
| 1 | ガイダンス | 授業の進め方、注意事項の説明 | 事前：シラバスの確認。教科書に目を通しておく。 |
| 2 | Unit 1 Meeting New People | 単語テスト Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 1 を学習する。 | 事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題 |
| 3 | Unit 2 School Life | 単語テスト Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 2 を学習する。 | 事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題 |
| 4 | Unit 3 Seeing a Doctor | 単語テスト Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 3 を学習する。 | 事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題 |
| 5 | Unit 4 Expressing Yourself | 単語テスト Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 4 を学習する。 | 事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題 |
| 6 | Unit 5 Getting Around | 単語テスト Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 5 を学習する。 | 事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題 |
| 7 | Unit 6 Talking about the Time | 単語テスト Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 6 を学習する。 | 事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題・中間テスト勉強 |
| 8 | 中間テスト | Unit 1-6 | 事後：復習・課題 |
| 9 | Unit 7 Eating Out | 単語テスト Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 7 を学習する。 | 事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題 |
| 10 | Unit 8 At the Supermarket | 単語テスト Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 8 を学習する。 | 事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題 |
| 11 | Unit 9 Hobbies | 単語テスト Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 9 を学習する。 | 事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題 |
| 12 | Unit 10 Shop Till You Drop | 単語テスト Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 10 を学習する。 | 事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題 |
| 13 | Unit 11 Going on Vacation | 単語テスト Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 11 を学習する。 | 事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題 |
| 14 | Unit 12 Sports | 単語テスト Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 12 を学習する。 | 事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題 |
| 15 | まとめテスト | Unit 7-12 | 事前：まとめテストの勉強 |

| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|--|--|---------|------|------|---|--------------------------------|---------|-----|---|--|-------|-----|---|--|--|--|
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Live Escalate Book1: Base Camp</td> <td>角山 照彦 他</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition (指定の単語集)</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | Live Escalate Book1: Base Camp | 角山 照彦 他 | 成美堂 | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition (指定の単語集) | 西谷 恒志 | 成美堂 | 3 | | | |
| | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | |
| | 1 | Live Escalate Book1: Base Camp | 角山 照彦 他 | 成美堂 | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition (指定の単語集) | 西谷 恒志 | 成美堂 | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
|-----|--|-----|-----|------|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | |
| | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | |
|-----------------------------|--|----------|-----|-----------------------------|-----|
| 評価方法 (基準) | <table border="1"> <tr> <td>全学共通英語課題</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む)</td> <td>80%</td> </tr> </table> | 全学共通英語課題 | 20% | 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) | 80% |
| 全学共通英語課題 | 20% | | | | |
| 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) | 80% | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 皆さんが社会に旅立つ頃には世界はさらに多様化が進み、海外で働くことや英語を話す同僚と仕事をする機会が増えるでしょう。TOEICを学習することでビジネスシーンで使われる語彙や表現、取引の仕組みなどを学ぶことができます。さあ未来への準備を始めましょう！ |
|-----------|--|

| | |
|----------|---|
| 担当者の研究室等 | 非常勤講師室 (7号館2階) |
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-------------|
| 科目名 | 英語 II c | 科目名 (英文) | English IIc |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | ① |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 山本 尚子 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN2307c1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 |
| 到達目標 | 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC, 英検等 |

| | | | | |
|------|----|---------------------|---------------------------------------|----------------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | 前期の復習 | 前期の内容の復習の課題 | テキストの予習 |
| | 2 | Extreme Weather (1) | 異常気象について読む。形容詞、副詞の使い方をチェックする。 | テキストの予習 予習をしながら単語帳を作ること(以下同様) |
| | 3 | Extreme Weather (2) | 異常気象について読む。形容詞、副詞の使い方をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| | 4 | Medical Tourism (1) | 医療ツーリズムのリスクについて読む。比較表現の使い方をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| | 5 | Medical Tourism (2) | 医療ツーリズムのリスクについて読む。比較表現の使い方をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| | 6 | Advertising (1) | 広告の影響について読む。前置詞、接続詞をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| | 7 | Advertising (2) | 広告の影響について読む。前置詞、接続詞をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| | 8 | Business Travel (1) | 出張の準備とコツについて読む。不定詞、動名詞をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| | 9 | Business Travel (2) | 出張の準備とコツについて読む。不定詞、動名詞をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| | 10 | Coffee Shop (1) | コーヒーチェーン店について読む。受動態の使い方をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| | 11 | Coffee Shops (2) | コーヒーチェーン店について読む。受動態の使い方をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| | 12 | E-Commerce (1) | オンラインショッピングの利便性について読む。助動詞の使い方をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| | 13 | E-Commerce (2) | オンラインショッピングの利便性について読む。助動詞の使い方をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| | 14 | SNS | 様々なSNSについて読む。関係詞の使い方をチェックする。 | テキストの復習 |
| | 15 | まとめテスト、復習 | 後期の内容のまとめのテスト、復習 | 後期の内容の復習 |

| | |
|------|--------|
| 関連科目 | 他の英語科目 |
|------|--------|

| | | | | |
|-----|----|--|----------------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | English Indicator 3 | Joshua Cohen 他 | 南雲堂 |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition- | 西谷 恒志 | 成美堂 |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 全学共通英語課題 (English Central) 20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテストなども含む) 80% |
|-----------|---|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 辞書を持参して必ず毎回出席するように心がけてください。わからないことがあれば、授業中または授業後に必ず質問するようにしてください。長文は必ず事前に読んで内容を把握しておいてください。毎回の予定は目安であり多少の変更もあり得ますので、授業中の説明をよく聞いておいてください。皆さんの積極的な授業参加を期待しています。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|-------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階非常勤講師室 |
|----------|-------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |
|----|---|

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-------------|
| 科目名 | 英語 II c | 科目名 (英文) | English IIc |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | ② |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 東野 厚子 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN2307c1 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 |
| 到達目標 | 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 4回以上（正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く）授業を欠席した場合、成績評価の対象外とします（単位が取得できる見込みはありません）。 |
| 科目学習の効果（資格） | TOEIC、英検等 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|---|--|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション Unit 1 It's a pleasure to meet you. ビジネスで大切な第一印象 | 授業の進め方、評価方法等の説明 文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題 | テキストを準備し、知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく。学習後は、知らない単語・イディオムを暗記する |
| 2 | Unit 1 It's a pleasure to meet you. | 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題 | 事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する |
| 3 | Unit 3 Culture Skills 異文化理解で真の交流 | 小テスト (Unit1) 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題 | 事前学習：Unit 3 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する |
| 4 | Unit 3 Culture Skills | 前回の小テストの解答と解説 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題 | 事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する |
| 5 | Unit 4 More than Just Words インパクトのあるボディランゲージ | 小テスト (Unit3) 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題 | 事前学習：Unit4 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する |
| 6 | Unit 4 More than Just Words | 前回の小テストの解答と解説 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題 | 事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する |
| 7 | Unit 8 The Modern Workplace より良い職場環境のために | 小テスト (Unit4) 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題 | 事前学習：Unit8 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する |
| 8 | Unit 8 The Modern Workplace | 前回の小テストの解答と解説 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題 | 事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する |
| 9 | Unit 11 The Modern Office いつでもどこでも仕事 | 小テスト (Unit8) 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題 | 事前学習：Unit11 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する |
| 10 | Unit 11 The Modern Office | 前回の小テストの解答と解説 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題 | 事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する |
| 11 | Unit 12 Socializing with a Purpose 出会いから夢の実現に | 小テスト (Unit11) 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題 | 事前学習：Unit12 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する |
| 12 | Unit 12 Socializing with a Purpose | 前回の小テストの解答と解説 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題 | 事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する |
| 13 | Unit 13 The Business Trip 出張の達人 | 小テスト (Unit12) 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題 | 事前学習：Unit13 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する |
| 14 | Unit 13 The Business Trip | 前回の小テストの解答と解説 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題 | 事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する |
| 15 | 全体のまとめ 単語・文法事項の復習 | 単語、文法事項の確認 まとめテスト | 事前学習：単語、文法事項を整理し、小テストの間違いは必ず確認しておく 事後学習：知らない単語を暗記し、文法問題を確認する。 |

| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|---|--|------------------|------|------|---|---------------------|------------------|-----|---|--|------|-----|---|--|--|--|
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English Indicator 4</td> <td>Alison Kitzman 他</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-</td> <td>西垣恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | English Indicator 4 | Alison Kitzman 他 | 南雲堂 | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition- | 西垣恒志 | 成美堂 | 3 | | | |
| | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | |
| | 1 | English Indicator 4 | Alison Kitzman 他 | 南雲堂 | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition- | 西垣恒志 | 成美堂 | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | |
|---------------|---|--|--|--|
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 全学共通課題 (English Central) 20% 授業への参加、貢献 (課題、小テスト、まとめテスト等を含む) 80% 原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。授業への参加・貢献とは、授業中の質問や指名に対する回答状況、授業への集中度、課題提出状況、小テストとまとめテストへの取り組みをさす。 詳しくは第1回目に授業で説明する。 | | | |
| 学生への メッセージ | <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト (教科書) を忘れた場合、また、携帯電話の使用、私語などの授業妨害行為、許可のない途中退室などの行為があった場合は、当日の授業態度における評価点をゼロとして扱います。その他の詳細は、第1回目の授業で詳しく説明します。受講予定者は必ず初回から出席してください。 ・実践的な英語力を身につけるため、TOEIC 試験などを積極的に受験しましょう。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 非常勤講師室 (7号館2階) | | | |
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。質問等は学内メールにて対応する。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画は進度によって変わる場合があります。 ・小テスト等は授業中にフィードバックする。 | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-------------|
| 科目名 | 英語 II c | 科目名 (英文) | English IIc |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | ③ |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 西谷 継治 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN2307c1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 |
| 到達目標 | 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 理工系英語の基本を固め、専門英語と TOEIC Test の得点アップにつなげる。 |

| | | | | |
|------|----|--------------|----------------|--|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | Introduction | 授業内容の詳しい解説 | 教科書の Unit 構成を把握しておく。事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 2 | 読解、文法、語彙 | TOEIC 文法・読解演習 | 単語小テスト NO.0809-0880 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 3 | 読解、文法、語彙 | TOEIC 文法・読解演習 | 単語小テスト NO.0881-0950 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 4 | 読解、文法、語彙 | TOEIC 文法・読解演習 | 単語小テスト NO.0951-1020 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 5 | 読解、文法、語彙 | TOEIC 文法・読解演習 | 単語小テスト NO.1021-1090 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 6 | 読解、文法、語彙 | TOEIC 文法・読解演習 | 単語小テスト NO.1091-1160 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 7 | Review | 前半の復習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 8 | 前半のまとめ | 前半のまとめも文法・読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 9 | 前半試験返却及び解説 | 前半試験返却及び解説 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 10 | 読解、文法、語彙 | TOEIC 文法・読解演習 | 単語小テスト NO.1161-1230 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 11 | 読解、文法、語彙 | TOEIC 文法・読解演習 | 単語小テスト NO.1231-1300 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 12 | 読解、文法、語彙 | TOEIC 文法・読解演習 | 単語小テスト NO.1301-1370 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 13 | 読解、文法、語彙 | TOEIC 文法・読解演習 | 単語小テスト NO.1371-1440 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 14 | 読解、文法、語彙 | TOEIC 文法・読解演習 | 単語小テスト NO.1441-1500 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 15 | Review | 後半復習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |

| | |
|------|-----------------------|
| 関連科目 | TOEIC, 英検ほか、英語関連の資格一般 |
|------|-----------------------|

| | | | | |
|-----|----|--|-------------------------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | New Steps to Success in the TOEIC Test Grammar & Reading 550 | David E. Bramley / 中井弘一 | 松柏社 |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition | NISHIYA Koji | 成美堂 |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|------------------------------------|
| 評価方法 (基準) | 全学共通英語課題 20% 課題提出状況及び課題の正解率 80% |
|-----------|------------------------------------|

| | |
|-----------|-----------------------------|
| 学生へのメッセージ | 図書館やPC等を利用し日頃から英語に親しんでください。 |
|-----------|-----------------------------|

| | |
|----------|----------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 (非常勤講師室) |
|----------|----------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |
|----|---|

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-------------|
| 科目名 | 英語 II c | 科目名 (英文) | English IIc |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | ④ |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 内山 知美 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN2307c1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 |
| 到達目標 | 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC, 英検等 |

| | | | | |
|------|----|-----------------|-----------------|-----------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | Introduction | 後期授業の説明 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 2 | 時事的会話を楽しむ | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 3 | 英字新聞の構成 | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 4 | 観光地を案内する | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 5 | 標識の英語に慣れる | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 6 | 食事の席での歓談 | 読解演習 (中間クイズ) | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 7 | 仕事の英語 | 映像 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 8 | 論文アブストラクトを読む | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 9 | 会議の準備をする | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 10 | グラフを解説する | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 11 | プレゼンテーションで役立つ表現 | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 12 | スライドを活用する | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 13 | 依頼に対応する | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 14 | 特殊明細書の様式 | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | | 15 | まとめ | まとめ 後期まとめの試験 |

| | | | | |
|------|----|--|--------|------|
| 関連科目 | | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | Getting Global! 将来のキャリアに活かす 大学生のためのコミュニケーション英語 | 辻本智子 他 | 金星堂 |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集) | 西谷 恒志 | 成美堂 |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 全学共通英語課題 (EnglishCentral) ...20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) ...80% |
| 学生へのメッセージ | 図書館やPC等を利用し日頃から英語に親しんでください。 |
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 (非常勤講師室) |
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-------------|
| 科目名 | 英語 II d | 科目名 (英文) | English IId |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | ① |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 梅田 尋道 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | 1EN2308c1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 |
| 到達目標 | 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC、英検等 |

| | | | | |
|------|----|--|---|--|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション | 授業の進め方・評価方法などについて説明する。 | 後期から受講する学生は事前に教科書を購入する。 |
| | 2 | Where Is Everybody? first viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2、3回音読する。 |
| | 3 | Where Is Everybody? second viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2、3回音読する。 |
| | 4 | You Inspire People first viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2、3回音読する。 |
| | 5 | You Inspire People second viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2、3回音読する。 |
| | 6 | He Doesn't Belong Here first viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2、3回音読する。 |
| | 7 | He Doesn't Belong Here second viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2、3回音読する。 |
| | 8 | Midterm Exam | これまでの復習を併せて行う。 | Midterm Exam の準備 |
| | 9 | So Be It first viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2、3回音読する。 |
| | 10 | So Be It second viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2、3回音読する。 |
| | 11 | It's a Win-Win for Both of Us first viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2、3回音読する。 |
| | 12 | It's a Win-Win for Both of Us second viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2、3回音読する。 |
| | 13 | Thanks for Telling Me first viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2、3回音読する。 |
| | 14 | Thanks for Telling Me second viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2、3回音読する。 |
| | 15 | まとめのテスト | これまでの復習を併せて行う。 | テストの準備 |

| | |
|------|--------|
| 関連科目 | 他の英語科目 |
|------|--------|

| | | | | |
|-----|----|---|----------------|------------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | Communicate in English with glee 1 | Simon Capper 他 | Shohakusha |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- | 西谷 恒志 | 成美堂 |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80% |
|-----------|---|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | "Failure is instructive. The person who really thinks learns quite as much from his failures as from his successes." — John Dewey 失敗を重ねて成長してください！ |
|-----------|--|

| | |
|----------|--|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階非常勤講師室 |
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 対面の場合、教科書を持ってこない、居眠りをする、スマホを使う、私語をする、途中退出するなどして授業参加しない場合、各授業で3～5点減点します。 |

| | | | |
|---------------|-----------|----------|--------------|
| 科目名 | 英語 II d | 科目名 (英文) | English II d |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | ② |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 関 初海 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN2308c1 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 |
| 到達目標 | 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC、英検等 |

| | | | | |
|------|----|---------------------------------|--|--------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション | 授業の進め方・評価方法などについて説明 | Unit 7 予習 |
| | 2 | Unit 7 Daily Life | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング(プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 7 復習 Unit 8 予習 |
| | 3 | Unit 8 Media | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング(プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 8 復習 Unit 9 予習 |
| | 4 | Unit 9 Recruiting | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング(プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 9 復習 Unit 10 予習 |
| | 5 | Unit 10 Production and Sales | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング(プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 10 復習 Unit 11 予習 |
| | 6 | Unit 11 Meetings | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング(プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 11 復習 Unit 12 予習 |
| | 7 | Unit 12 Offices | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング(プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 12 復習・予習 |
| | 8 | Unit 12 Offices | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング(プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 12 復習 Unit 13 予習 |
| | 9 | Unit 13 Personnel | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング(プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 13 復習・予習 |
| | 10 | Unit 13 Personnel | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング(プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 13 復習 Unit 14 予習 |
| | 11 | Unit 14 Business Activities | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング(プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 14 復習・予習 |
| | 12 | Unit 14 Business Activities | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング(プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 14 復習 Unit 15 予習 |
| | 13 | Unit 15 Finance | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング(プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 15 復習・予習 |
| | 14 | Unit 15 Finance | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング(プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 15 復習 |
| | 15 | まとめ | 総まとめ | 総復習 |

| | | | | |
|------|--------|---|-------|------|
| 関連科目 | 他の英語科目 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST BEGINNER | 早川幸治他 | 金星堂 |

| | | | | |
|---------------|---|--|-------|------|
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- | 西谷 恒志 | 成美堂 |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 全学共通英語課題 20% 定期試験 60% 授業への参加、貢献 (小テスト等も含む) 20% | | | |
| 学生への メッセージ | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 非常勤講師室 | | | |
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|--------------|
| 科目名 | 英語 II d | 科目名 (英文) | English II d |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | ③ |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 藤澤 宜広 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN2308c1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 |
| 到達目標 | 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC, 英検等 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---|------------------------|--|
| | | | |
| 2 | 14. Women's Changing Roles | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (14. Women's Changing Roles) の復習及び予習 (15. Women's Work Issues) |
| 3 | 15. Women's Work Issues | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (15. Women's Work Issues) の復習及び予習 (16. Women in Non-Traditional Roles) |
| 4 | 16. Women in Non-Traditional Roles | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (16. Women in Non-Traditional Roles) の復習及び予習 (17. Accessing Learning Opportunities) |
| 5 | Education and Information 17. Accessing Learning Opportunities | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (17. Accessing Learning Opportunities) の復習及び予習 (18. Involvement in Children's Education) |
| 6 | 18. Involvement in Children's Education | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (18. Involvement in Children's Education) の復習及び予習 (19. Transferring Professional Degrees) |
| 7 | 19. Transferring Professional Degrees | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (19. Transferring Professional Degrees) の復習及び予習 (20. Learning to Learn) |
| 8 | 20. Learning to Learn | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (20. Learning to Learn) の復習及び予習 (21. Housing) |
| 9 | Practice English and Reading 21. Housing | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (21. Housing) の復習及び予習 (22. Renters' Rights) |
| 10 | 22. Renters' Rights | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (22. Renters' Rights) の復習及び予習 (23. Law and Government) |
| 11 | 23. Law and Government | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (23. Law and Government) の復習及び予習 (24. Officers May Be Required to Work Out) |
| 12 | 24. Officers May Be Required to Work Out | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (24. Officers May Be Required to Work Out) の復習及び予習 (25. Money) |
| 13 | 25. Money | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (25. Money) の復習及び予習 (26. Ready, Click, Spend) |
| 14 | 26. Ready, Click, Spend | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (26. Ready, Click, Spend) の復習及び予習 (14. Women's Changing Roles～26. Ready, Click, Spend) |
| 15 | 14. Women's Changing Roles～26. Ready, Click, Spend | 既習範囲の総復習 課題・レポートの準備 | 課題・レポートの準備 |

| | |
|------|--------|
| 関連科目 | 他の英語科目 |
|------|--------|

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|---|-------|------|
| | | | |
| 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (改訂版) | 西谷 恒志 | 成美堂 |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|--|-----------------------------------|-----------------------------|
| | | | |
| 2 | Intelligent Business Coursebook Elementary | Irene Barrall and Nikolas Barrall | Pearson Education |
| 3 | Mastering the American Accent, 2nd. ed. | Lisa Mojsin | Barron's Educational Series |

| | |
|-----------|--|
| 評価方法 (基準) | 全学共通英語課題 (EnglishCentral) ...20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) ...80% |
|-----------|--|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし) にあるように英語学習に王道 (= easy way) などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and steady wins the race. (急がば回れ) を心に留め、ゆっくりでも着 |
|-----------|---|

| | |
|----------|---|
| | 実に学習を続けることです。予習、復習、只管筆写、英語多読を含め英語に触れる絶対量を増やせば、英語の力は必ず上達します。頑張りましょう！Keep your chin up |
| 担当者の研究室等 | 非常勤講師室（7号館2階） |
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|--------------|
| 科目名 | 英語 II d | 科目名 (英文) | English II d |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | ④ |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 土田 智佳子 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN2308c1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 |
| 到達目標 | 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC, 英検等 |

| | | | | |
|------|----|-----------------------------------|---|-----------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | ガイダンス | 授業の進め方、評価方法、課題のやり方とその効果について | 教科書の予習 次週の単語テスト勉強 |
| | 2 | Unit 1 Occupations | 単語テスト Listening、Reading、会話、文法などをUnit 1 と通し学習する。 | 教科書の予習復習 (課題提出) 単語テスト勉強 |
| | 3 | Unit 2 At the Dinner Table | 単語テスト Listening、Reading、会話、文法などをUnit 2 と通し学習する。 | 教科書の予習復習 (課題提出) 単語テスト勉強 |
| | 4 | Unit 3 Sports | 単語テスト Listening、Reading、会話、文法などをUnit 3 と通し学習する。 | 教科書の予習復習 (課題提出) 単語テスト勉強 |
| | 5 | Unit 4 Health | 単語テスト Listening、Reading、会話、文法などをUnit 4 と通し学習する。 | 教科書の予習復習 (課題提出) 単語テスト勉強 |
| | 6 | Unit 5 What's on your Playlist? | 単語テスト Listening、Reading、会話、文法などをUnit 5 と通し学習する。 | 教科書の予習復習 (課題提出) 単語テスト勉強 |
| | 7 | Unit 6 At the Movies | 単語テスト Listening、Reading、会話、文法などをUnit 6 と通し学習する。 | 教科書の予習復習 (課題提出) 中間テスト勉強 |
| | 8 | 中間テスト | Unit 1-6の復習テスト | 教科書の予習復習 (課題提出) 単語テスト勉強 |
| | 9 | Unit 7 Technology in Daily Life | 単語テスト Listening、Reading、会話、文法などをUnit 7 と通し学習する。 | 教科書の予習復習 (課題提出) 単語テスト勉強 |
| | 10 | Unit 8 Social Network | 単語テスト Listening、Reading、会話、文法などをUnit 8 と通し学習する。 | 教科書の予習復習 (課題提出) 単語テスト勉強 |
| | 11 | Unit 9 Looking on the Bright Side | 単語テスト Listening、Reading、会話、文法などをUnit 9 と通し学習する。 | 教科書の予習復習 (課題提出) 単語テスト勉強 |
| | 12 | Unit 10 Love Affairs | 単語テスト Listening、Reading、会話、文法などをUnit 10 と通し学習する。 | 教科書の予習復習 (課題提出) 単語テスト勉強 |
| | 13 | Unit 11 Storytelling | 単語テスト Listening、Reading、会話、文法などをUnit 11 と通し学習する。 | 教科書の予習復習 (課題提出) 単語テスト勉強 |
| | 14 | Unit 12 The Power of words | 単語テスト Listening、Reading、会話、文法などをUnit 12 と通し学習する。 | 教科書の予習復習 (課題提出) まとめテスト勉強 |
| | 15 | Review Test | Unit 7-12の復習テスト | 事前学習 復習テスト勉強 |

| | |
|------|--------|
| 関連科目 | 他の英語科目 |
|------|--------|

| | | | | |
|-----|----|--|---------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | Live Escalate Book 2 : Trekking | 角山 照彦 他 | 成美堂 |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition | 西谷 恒志 | 成美堂 |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 全学共通英語課題 20% 担当教員の評価 80% |
| 学生への | 皆さんが社会に旅立つ頃には世界はさらに多様化が進み、海外で働くことや英語を話す同僚と仕事をする機会が増えるでしょう。TOEICを学習す |

| | |
|----------|--|
| メッセージ | ることでビジネスシーンで使われる語彙や表現、取引の仕組みなどを学ぶ事ができます。さあ未来への準備を始めましょう！ |
| 担当者の研究室等 | 7号館2階非常勤講師室 |
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 *授業で使用する教科書、ノートは毎回必ず持参すること。教科書未購入の場合単位認定されないことがあります、気をつけましょう。 |

| | | | |
|----------------|---------------|----------|--------------------|
| 科目名 | ビジネスイングリッシュ I | 科目名 (英文) | Business English I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | ジュリア クネグアイチ |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | 1EN3331c1 | | |

授業概要・目的

ビジネス分野で必要となるような専門性の高い単語や表現を学ぶ。また、様々なビジネスシーンを想定した文書や会話などを教材とし、実践的な英語力を養う。

経済は決して専門分野ではなく、日常生活と密接に結びついているのです。企業の海外進出、海外企業との合弁、海外での子会社設立などビジネス英語のニーズも高まっています。この授業では面白いエピソードを交えた文章を読むことによって、お金の役割から経済のシステムまでのビジネス英語の基本的知識を得られ、役に立つ英語表現も無理なく学習できます。授業計画は進度によって変わる場合があります。

到達目標

(1) 日本のビジネスシーンに留まらず、国際ビジネスの現状にも触れることで多角的な視点を養う。
(2) 前期は CEFR-J[B1.1]、後期は CEFR-J[B1.2] に英語力が到達することを目標とする。

この授業を通して短い文章を読解する能力と文法の基礎を習得できます。毎回行う英単語の小テストによって大学生にとって必要不可欠な英語の語彙力が強化されます。リスニングとライティングを中心に日常生活に必要な英語の語彙力、表現力、理解力をつける事を目標とする。又、並行して英語の資格、検定の練習問題

授業方法と留意点

演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。

授業を効果的に遂行するため、学生の予習を期待しています。

科目学習の効果 (資格)

基本的文法の復習、リスニング、語彙力、英検や TOEIC 等の検定・資格試験にも役立つ。

授業計画

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|--|--|
| 1 | 導入。コース全体の組み立て。授業の進め方。成績のつけ方。出席・欠席への注意など。 | どうしてこのコースを選択したか。キャリアデザインとの関係。英語はどう役立つか。 | Chapter I: Money: The Basics の Chapter I: Money: The Basics を読んでくる。 |
| 2 | お金の機能について | I-1 Money has three functions. | Chapter I: Money: The Basics の When you borrow money, you have to pay interest. を読んでくる。 |
| 3 | お金を借りたら利息がつく。 | When you borrow money, you have to pay interest. | Chapter I: Money: The Basics の What happens to money you deposit in a bank? を読んでくる。 |
| 4 | 銀行に預けたお金はどうなるのか。 | What happens to money you deposit in a bank? | Chapter I: Money: The Basics の Banks aren't the only financial institutions. |
| 5 | 銀行が唯一の金融機関ではない。 | Banks aren't the only financial institutions. | Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Prices are set according to the principle of supply and demand. を読んでくる。 |
| 6 | 価格は需要と供給によって決まる。 | Prices are set according to the principle of supply and demand. | Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Foreign trade is a two-way street. を読んでくる。 |
| 7 | 海外貿易は二方向。 | Foreign trade is a two-way street. | Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Exchange rates also vary according to supply and demand. を読んでくる。 |
| 8 | 為替レートも需要と供給。 | Exchange rates also vary according to supply and demand. | Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Currencies continuously strengthen and weaken against one another. を読んでくる。 |
| 9 | 通貨の強弱。 | Currencies continuously strengthen and weaken against one another. | Chapter III: How Companies Work の Joint-stock companies: how they came about を読んでくる。 |
| 10 | 株式会社はどう生まれたか。 | Joint-stock companies: how they came about? | Chapter III: How Companies Work の Companies share their profits among their shareholders. を読んでくる。 |
| 11 | 企業は株主と利益を分配する。 | Companies share their profits among their shareholders. | Chapter III: How Companies Work の Trading in Stocks has become a full-fledged market. を読んでくる。 |
| 12 | 株式の取引は本物の市場になった。 | Trading in Stocks has become a full-fledged market. | Chapter III: How Companies Work の E-trading has changed the nature of stock trading dramatically. を読んでくる。 |
| 13 | E-trading は株式の取引を根本的に変えた。 | E-trading has changed the nature of stock trading dramatically. | Chapter III: How Companies Work の A company doesn't belong only to its shareholders. を読んでくる。 |
| 14 | 企業は株主のものだけではない。 | A company doesn't belong only to its shareholders. | これまでのまとめ。 |
| 15 | 総復習。テスト | これまでのまとめ。 | |

関連科目 他の英語関係科目

教科書

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|---------------------------------|------|-------|
| 1 | All About Money and the Economy | 池上 彰 | 朝日出版社 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

参考書

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|--|------|------|
| 1 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD | 西谷恒志 | 成美堂 |

| | | | | |
|---------------|---|--------------------------|--|--|
| | | BOOK (学校語彙で学ぶ TOEIC テスト) | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 終了テスト30%、毎回授業の課題・姿勢など70%で評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 課題を重視する。一緒に楽しく勉強しましょう。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 非常勤講師室 (前期3号館2階/後期7号館2階) | | | |
| 備考 | <p>【事前事後学習について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に単語はe-learning 学習など、毎日、平均1時間は学習してください。 ・授業の13回目までに、単語番号201~400までを最低一巡は終わるようにしてください。 <p>【授業中の注意点について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・辞書を必ず持参してください。 <p>「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」</p> | | | |

| | | | |
|----------------|--------------|----------|---------------------|
| 科目名 | ビジネスイングリッシュⅡ | 科目名 (英文) | Business English II |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | ジュリア クネグアイツ |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN3332c1 | | |

授業概要・目的

ビジネス分野で必要となるような専門性の高い単語や表現を学ぶ。また、様々なビジネスシーンを想定した文書や会話などを教材とし、実践的な英語力を養う。

この授業では面白いエピソードを交えた文章を読むことによって、お金の役割から経済のシステムまでのビジネス英語の基本的知識を得られ、役に立つ英語表現も無理なく学習できます。大学生にとって必要不可欠な英語の語彙力が強化されます。これらの能力を習得することによってコミュニケーションスキルに念頭を置いた実用的な英語基礎能力が期待されます。

到達目標

(1) 日本のビジネスシーンに留まらず、国際ビジネスの現状にも触れることで多角的な視点を養う。
(2) 前期はCEFR-J[B1.1]、後期はCEFR-J[B1.2]に英語力が到達することを目標とする。

この授業ではリスニングとライティングを中心に、英語の4技能の強化を図ります。
到達目標：日常生活で必要とする基礎的な英語の理解力・表現力を身につける。
ビジネスの場で必要とされる読解力、語彙力をつけ、TOEICのスコアアップを目指します。

授業方法と留意点

演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。

授業を効果的に遂行するため、学生の予習を期待しています。また、学生同士が教え教えられることで active learning にしていきたいと考えています。
テキスト(教科書)を忘れた場合、また私語などの授業妨害行為、許可のない途中退室などの行為があった場合は、当該の授業を欠席したものと扱います。
その他の詳細は、第1回目の授業で詳しく説明します。受講予定者は必ず出席してください。

科目学習の効果(資格)

リスニング・ライティングの訓練を継続的に行えば、半年でかなりの実力が付きます。
最初は難しいと感じても、根気よく続けてください。

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------------------|---|--|
| | | | |
| 1 | 後期にあたって、新たな気持ちで英語に取り組む姿勢を喚起する。 | 各レッスンの訳、要約。自発的で積極的な授業への取り組み方を考える。 | Chapter III: The State of the Economy の The economy fluctuates in cycle. を読んでくる。 指定単語の学習 |
| 2 | 経済は周期的に変動する。 | The economy fluctuates in cycle. | Chapter III: The State of the Economy の There are two basic ways countries can stimulate their economics. を読んでくる。 指定単語の学習 |
| 3 | 経済を活性化させる2方法。 | There are two basic ways countries can stimulate their economics. | Chapter III: The State of the Economy の Sometimes an economy can become too robust. を読んでくる。 指定単語の学習 |
| 4 | 経済はときには強すぎる。 | Sometimes an economy can become too robust. | Chapter III: The State of the Economy の In extrem casus, the economy can grow like a bubble. を読んでくる。 指定単語の学習 |
| 5 | 経済は泡のように膨らむ。 | In extrem casus, the economy can grow like a bubble. | Chapter v: Economic Systems の There are two main economic systems in operation today. を読んでくる。 指定単語の学習 |
| 6 | 今日の2つの経済システム。 | There are two main economic systems in operation today. | これまでの復習。 |
| 7 | In-class Short Presentations | 個別の5分発表 | ビジネス英語の語彙をなるべく多く活用 |
| 8 | 社会主義の失敗。 | Socialism largely ended in failure. | Chapter v: Economic Systems の Globalization has its good points and its bad. を読んでくる。 指定単語の学習 |
| 9 | グローバリゼーションの良い点と悪い点。 | Globalization has its good points and its bad. | Chapter v: Economic Systems の Neo-liberalism is changing the way business done. を読んでくる。 指定単語の学習 |
| 10 | 新自由主義はビジネスを変える。 | Neo-liberalism is changing the way business done. | Chapter v: Economic Systems の Economic policies can serve to protect the natural environment. を読んでくる。 指定単語の学習 |
| 11 | 経済政策は自然環境の保護に役立つ。 | Economic policies can serve to protect the natural environment. | プリントを用意する。 指定単語の学習 |
| 12 | 食物アレルギー | Food allergies | Food allergies を読んでくる。 指定単語の学習 |
| 13 | 食物アレルギー | Food allergies | プリントを用意する。 指定単語の学習 |
| 14 | Blue LED | Blue LED | Blue LED を読んでくる。 指定単語の学習 |
| 15 | 終了テスト | | |

関連科目 英語関連科目
教科書

| | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>All About Money and the Economy</td> <td>池上 彰</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | All About Money and the Economy | 池上 彰 | 朝日出版社 | 2 | | | | 3 | | | |
|---------------|--|------|-------|-----|------|---|---|------|-------|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | All About Money and the Economy | 池上 彰 | 朝日出版社 | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD BOOK (学校語彙で学ぶ TOEIC テスト)</td> <td>西谷恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD BOOK (学校語彙で学ぶ TOEIC テスト) | 西谷恒志 | 成美堂 | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD BOOK (学校語彙で学ぶ TOEIC テスト) | 西谷恒志 | 成美堂 | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | <p>終了テスト 30%、TOEIC の語彙・聴解・長文を意識した小テスト 40%、 授業姿勢・積極性に参加 20% (発表を含む)、出席 10%の割合で評価する。</p> <p>※授業態度に問題のある場合 (遅刻、居眠り、飲食、私語、携帯電話の使用など) は、教室に来ていても「欠席」扱いとします。課題の全て、メールにて提出願います。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | <p>英語を効果的にマスターしたい人は、少しずつでも必ず毎日英語に触れましょう。 週に一日だけ 1 時間勉強するよりも、毎日 15 分勉強するほうがはるかに効果が上がります。 英語の力は学習時間に比例して伸びてゆきます。 授業以外にも、自分の興味ある分野の英文をどんどん読んでみましょう。 全員参加で活気ある授業を創り上げましょう。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7 号館 2 階 (非常勤講師室) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | <p>【事前事後学習について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に単語は e-learning 学習など、毎日、平均 1 時間は学習してください。 ・授業の 13 回目までに、単語番号 600~800 までを最低一巡は終わるようにしてください。 <p>【授業中の注意点について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・辞書を必ず持参してください。 <p>「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|---------------|----------|------------------------|
| 科目名 | 英語コミュニケーション I | 科目名 (英文) | English Conversation I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | アサヒ ロソグス |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN3333c1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につけるためのトレーニングを行う。 |
| 到達目標 | (1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J[A2.1]、後期はCEFR-J[A2.2]に英語力が到達することを目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 総合的な英語力の向上 |

| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|------|----|---------------------|--------------|-----------|
| | 1 | Class introduction | ガイダンス | 課題、小テスト対策 |
| | 2 | Cerf Topic #1 | リーディング、英作文演習 | 課題、小テスト対策 |
| | 3 | Cerf Topic #2 | リーディング、英作文演習 | 課題、小テスト対策 |
| | 4 | Cerf Topic #3 | リーディング、英作文演習 | 課題、小テスト対策 |
| | 5 | Cerf Topic #4 | リーディング、英作文演習 | 課題、小テスト対策 |
| | 6 | Presentation Prep | リーディング、英作文演習 | 課題、小テスト対策 |
| | 7 | Cerf Topic #5 | リーディング、英作文演習 | 課題、小テスト対策 |
| | 8 | Presentation | Presentation | 課題、小テスト対策 |
| | 9 | Group Game Activity | リーディング、英作文演習 | 課題、小テスト対策 |
| | 10 | Cerf Topic #6 | リーディング、英作文演習 | 課題、小テスト対策 |
| | 11 | Cerf Topic #7 | リーディング、英作文演習 | 課題、小テスト対策 |
| | 12 | Cerf Topic #8 | リーディング、英作文演習 | 課題、小テスト対策 |
| | 13 | Presentation Prep | prep | 課題、小テスト対策 |
| | 14 | Cerf Topic #9 | リーディング、英作文演習 | 課題、小テスト対策 |
| | 15 | Presentation | presentation | 試験対策 |

| | |
|------|--------|
| 関連科目 | 英語科目全般 |
|------|--------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | Presentations 30 Attendance 50 Participation 20 |
|-----------|---|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 語学学習は「継続は力なり」です。苦手な人も多いかもしれませんが、就職活動の際にも英語は重要な科目です。こつこつ続けることによって徐々にスコアアップを狙いましょう。また、授業には辞書を持参するようにして下さい。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|----------------------------------|
| 担当者の研究室等 | 非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階) |
|----------|----------------------------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |
|----|---|

| | | | |
|----------------|--------------|----------|-------------------------|
| 科目名 | 英語コミュニケーションⅡ | 科目名 (英文) | English Conversation II |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | アサヒ ロンガス |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN3334c1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につけるためのトレーニングを行う。 |
| 到達目標 | (1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J[A2.1]、後期はCEFR-J[A2.2]に英語力が到達することを目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 総合的な英語力の向上 |

| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|------|----|---------------------|--------------|-----------|
| | 1 | Class introduction | ガイダンス | 課題、小テスト対策 |
| | 2 | Cerf Topic #1 | リーディング、英作文演習 | 課題、小テスト対策 |
| | 3 | Cerf Topic #2 | リーディング、英作文演習 | 課題、小テスト対策 |
| | 4 | Cerf Topic #3 | リーディング、英作文演習 | 課題、小テスト対策 |
| | 5 | Cerf Topic #4 | リーディング、英作文演習 | 課題、小テスト対策 |
| | 6 | Presentation Prep | リーディング、英作文演習 | 課題、小テスト対策 |
| | 7 | Cerf Topic #5 | リーディング、英作文演習 | 課題、小テスト対策 |
| | 8 | Presentation | Presentation | 課題、小テスト対策 |
| | 9 | Group Game Activity | リーディング、英作文演習 | 課題、小テスト対策 |
| | 10 | Cerf Topic #6 | リーディング、英作文演習 | 課題、小テスト対策 |
| | 11 | Cerf Topic #7 | リーディング、英作文演習 | 課題、小テスト対策 |
| | 12 | Cerf Topic #8 | リーディング、英作文演習 | 課題、小テスト対策 |
| | 13 | Presentation Prep | prep | 課題、小テスト対策 |
| | 14 | Cerf Topic #9 | リーディング、英作文演習 | 課題、小テスト対策 |
| | 15 | Presentation | presentation | 試験対策 |

| | |
|------|--------|
| 関連科目 | 英語科目全般 |
|------|--------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | Presentations 30 Attendance 50 Participation 20 |
|-----------|---|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 語学学習は「継続は力なり」です。苦手な人も多いかもしれませんが、就職活動の際にも英語は重要な科目です。こつこつ続けることによって徐々にスコアアップを狙いましょう。また、授業には辞書を持参するようにして下さい。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|----------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 (非常勤講師室) |
|----------|----------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |
|----|---|

| | | | |
|----------------|-------------|----------|------------------------------|
| 科目名 | ビジネス中国語基礎 a | 科目名 (英文) | Basic Chinese for Business a |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 段 飛虹 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | ICH1336e1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。 |
| 到達目標 | 単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。 |
| 授業方法と留意点 | 中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視し、中国語の発音、フレーズに慣れてもらう。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 中国語検定試験準 4 級受験可能。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------|------------------------------------|--|
| | | | |
| 1 | 発音編 第1課 発音 1 | ピンインと四声, 単母音, 子音①, 複母音①。 | 事前にテキストを目を通す。 授業後、習った発音を練習し、ピンインを書く、復習をすること。 |
| 2 | 第2課 発音 2 | 複母音②, 鼻母音, 子音②。 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、習った発音を練習し、ピンインを書く、復習をすること。 |
| 3 | 第3課 発音 3 | 複母音③④, 子音③。 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、習った発音を練習し、ピンインを書く、復習をすること。 |
| 4 | 第4課 発音 4 | 子音④⑤。 あいさつ言葉の復習。 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、習った発音を練習し、ピンインを書く、復習をすること。 |
| 5 | 本文編 第1課 お名前は? | 人称代名詞, 形容詞述語文, 疑問文, 副詞「也」、「都」、「很」。 | 事前に、テスト (第2~4課のあいさつ) の準備。 授業後、練習問題を解答し、会話文を繰り返して読むこと。 |
| 6 | 第1課 お名前は? | 副詞「不」、疑問詞疑問文, 名前の言い方。 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、会話文を繰り返して読むこと。 |
| 7 | 第2課 僕は日本人だ | 「是」構文, 疑問詞「?」、副詞「都」。 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、会話文を繰り返して読むこと。 |
| 8 | 第2課 僕は日本人だ | 助詞「的」、反復疑問文, 疑問詞「誰」、指示代名詞。 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、会話文を繰り返して読むこと。 |
| 9 | 第3課 君は大阪人だよ ね? | 動詞述語文, 終助詞「?」、省略疑問文。 | 事前に、テスト (第1~2課) の準備。 授業後、練習問題を解答し、会話文を繰り返して読むこと。 |
| 10 | 第3課 君は大阪人だよ ね? | 同時進行の表現, 二重目的語。 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、会話文を繰り返して読むこと。 |
| 11 | 第4課 おいくら? | 単位の言葉「張」「個」、動詞の重ね型, お金の言い方。 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、会話文を繰り返して読むこと。 |
| 12 | 第4課 おいくら? | 「二」と「両」、「不太〜」、所有の「有」。 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、会話文を繰り返して読むこと。 |
| 13 | 第5課 どの先生が好き? | 前置詞「和」、名詞述語文。 | 事前に、テスト (第3~4課) の準備をすること。 授業後、練習問題を解答し、会話文を繰り返して読むこと。 |
| 14 | 第5課 どの先生が好き? | 時間の言い方, 前置詞「跟」。 | 練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。 テスト (第5課) の準備をすること。 |
| 15 | おさらい | 第1~5課までの復習 | 事前にテスト (第5課) の準備。 授業後、前期の総復習をすること。 |

| | |
|------|-------------------------------------|
| 関連科目 | 「ビジネス中国語基礎 b」(前期)、「ビジネス中国語基礎 c」(後期) |
|------|-------------------------------------|

| | | | | |
|-----|----|------------|------------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 摂南大学 中国語入門 | 摂南大学外国語学部編 | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|------|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 中日辞典 | | |
| | 2 | 日中辞典 | | |

| | | | |
|---------------|---|--|--|
| | 3 | | |
| 評価方法 (基準) | 出席・課題提出：50% テスト：50% | | |
| 学生への メッセージ | 教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。 教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。 事前・事後学習に1時間ずつ要します。 | | |
| 担当者の 研究室等 | | | |
| 備考 | | | |

| | | | |
|----------------|-------------|----------|------------------------------|
| 科目名 | ビジネス中国語基礎 b | 科目名 (英文) | Basic Chinese for Business b |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 曹 櫻 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | ICH1337e1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。一年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。 |
| 到達目標 | 単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。 |
| 授業方法と留意点 | 毎回出席し、課題を提出すること。 テストを受けること。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 中国語検定試験準 4 級受験可能。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------------|---|--|
| | | | |
| 1 | 発音篇 | 発音 1 中国語の音節, 声調 2 単母音 | 事前にテキストを目を通す、授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。 |
| 2 | 発音篇 | 発音 3 複母音 4 鼻母音 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。 |
| 3 | 発音篇 | 発音 5 子音 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。 |
| 4 | 発音篇 | 発音復習・練習 発音テスト | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。 |
| 5 | 第 1 課 お名前は何ですか | 動詞「是」の使い方。 姓の言い方と尋ね方, フルネームの言い方と尋ね方。 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。 |
| 6 | 第 2 課 これは私のパソコンです | 指示代名詞 疑問詞・副詞「也」 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。 |
| 7 | 第 3 課 こちらの冬は寒い です」 | 場所代名詞 形容詞述語文 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。 |
| 8 | 第 4 課 私は毎日七時に起きます | ★単元テスト① 動詞述語文 | 事前に、テスト 1 の準備をする。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。 |
| 9 | 第 5 課 私の家は学校から遠いです | 動詞「在」・介詞「離 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。 |
| 10 | 第 6 課 あなたは週に何コマの授業がありますか | 量詞・動詞「有」 疑問詞「几」「多少」 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。 |
| 11 | 第 7 課 あなたは今年いくつですか | ★単元テスト② 年齢の聞き方・親族の名称 | 事前に、テスト 2 の準備をする。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。 |
| 12 | 第 8 課 私たちは図書館で勉強しています | 連動文 1 疑問詞「怎 me」 介詞「在」 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。 |
| 13 | 第 9 課 あなたは昨日どこに行きましたか | 完了の「了」・原因の「怎 me」 「A 跟 B 一樣」 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。 |
| 14 | 第 10 課 私はパンを食べたいです | ★単元テスト③ 助動詞「想」 選択疑問文 | 事前に、テスト 3 の準備をする。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。 |
| 15 | おさらい | 第 1~10 課の復習 ★単元テスト④ | 授業後、いまままで習った部分の総復習をすること。 |

| | | | | |
|------|----|---------------|------------|------|
| 関連科目 | | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | やさしい中国語 (基礎編) | 張慧娟 王武雲 朱藝 | 郁文堂 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | | | | |

| | | | | |
|---------------|---|--|--|--|
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 出席・課題 50% テスト 50% | | | |
| 学生への メッセージ | 教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。 事前・事後学習に1時間ずつ要します。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 非常勤講師室（前期3号館2階/後期7号館2階） | | | |
| 備考 | 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。 不在の場合は専任教員を通じて問い合わせることもできる。 | | | |

| | | | |
|----------------|-------------|----------|------------------------------|
| 科目名 | ビジネス中国語基礎 c | 科目名 (英文) | Basic Chinese for Business c |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 薬 玉璽 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | ICH1338e1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。 |
| 到達目標 | 単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。 |
| 授業方法と留意点 | 新出単語や文法を詳しく解説すると共に、対話文を繰り返し練習することによって、中国語の活用や表現能力を習得する。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 中国語検定試験準 4 級受験可能。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------------|---|---|
| | | | |
| 1 | 第6課 今は3時5分前だ | 「有」と「在」、時間詞の語順。 | 練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること (事前と事後にそれぞれ1時間の学習を行う)。 |
| 2 | 第6課 今は3時5分前だ | 不定の数量を表す「些」、時刻の言い方、意見を求める言い方。 | 練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること (事前と事後にそれぞれ1時間の学習を行う)。 |
| 3 | 第7課 この前の土曜日映画を見に行った | 時間に使う「上/下」、連動文、前置詞「在」。 | 練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること (事前と事後にそれぞれ1時間の学習を行う)。 |
| 4 | 第7課 この前の土曜日映画を見に行った | 標点符号「,」と「、」、文型「是・・・還是・・・」。 | 練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること (事前と事後にそれぞれ1時間の学習を行う)。 テスト (第6-7課) の準備をすること。 |
| 5 | 第8課 小説は好きなの? | ★単元テスト 前置詞「從」と「到」、時量補語とその語順、文型「快～了」。 | 練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること (事前と事後にそれぞれ1時間の学習を行う)。 |
| 6 | 第8課 小説は好きなの? | 前置詞「離」、強調の「是」、副詞「又」。 | 練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること (事前と事後にそれぞれ1時間の学習を行う)。 |
| 7 | 第9課 ファーストフード店は家から近い | 副詞「就」、副詞「才」、動詞の「要」、前置詞「給」。 | 練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること (事前と事後にそれぞれ1時間の学習を行う)。 |
| 8 | 第9課 ファーストフード店は家から近い | 結果補語「完」、文型「一・・・就・・・」、未完成の「没有～」。 | 練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること (事前と事後にそれぞれ1時間の学習を行う)。 テスト (第8-9課) の準備をすること。 本日 (11/08 (月)) から対面授業に切り替えた。 |
| 9 | 第10課 北京ダックを食べたことある? | ★単元テスト 助詞「過」、助動詞「要」、「想」、「得」。 | 練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること (事前と事後にそれぞれ1時間の学習を行う)。 |
| 10 | 第10課 北京ダックを食べたことある? | 助動詞「應該」、副詞「別」、「再」。 | 練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること (事前と事後にそれぞれ1時間の学習を行う)。 |
| 11 | 第11課 一緒に中国語を勉強した方がいいね | 「把」構文、助動詞「会」、構造助詞「得」。 | 練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること (事前と事後にそれぞれ1時間の学習を行う)。 |
| 12 | 第11課 一緒に中国語を勉強した方がいいね | 助動詞「可以」、比較の「没有」、禁止表現「不要」。 | 練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること (事前と事後にそれぞれ1時間の学習を行う)。 テスト (第10-11課) の準備をすること。 |
| 13 | 第12課 もし彼と知り合いになりたいなら | 仮定表現「要是～」、助動詞「能」、可能性の「会」、比較表現「比」。 | 練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること (事前と事後にそれぞれ1時間の学習を行う)。 |
| 14 | 第12課 もし彼と知り合いになりたいなら | 使役動詞「叫」、方向補語「～来/去」、複合補語「～進來/進去」。 | 練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること (事前と事後にそれぞれ1時間の学習を行う)。 テスト (第12課) の準備をすること。 |
| 15 | おさらい | ★単元テスト 第6～12課の全体的復習 | 練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること (事前と事後にそれぞれ1時間の学習を行う)。 |

関連科目 「ビジネス中国語基礎 a」 (前期)、「ビジネス中国語基礎 b」 (後期)

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|------------|------------|------|
| | 1 | 撰南大学 中国語入門 | 撰南大学外国語学部編 | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|------|------|-----|------|
| | 1 | 中日辞典 | | |
| 2 | 日中辞典 | | | |
| 3 | | | | |

評価方法 (基準) 授業への参加度・課題提出: 50%
単元テスト: 50%

学生へのメッセージ 教科書は必ず購入してください。
事前・事後学習に1時間ずつ要します。
教室でも家でも声を出して読みましょう。

担当者の研究室等 非常勤講師室 (7号館2階)

備考 「ビジネス中国語基礎 a」を履修したうえ、「ビジネス中国語基礎 c」を履修するのが望ましい。
「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

| | | | |
|----------------|-------------|----------|------------------------------|
| 科目名 | ビジネス中国語基礎 d | 科目名 (英文) | Basic Chinese for Business d |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 曹 櫻 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | ICH1339e1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。一年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。 |
| 到達目標 | 単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。 |
| 授業方法と留意点 | 毎回課題を提出すること。 テストを必ず受けること。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 中国語検定試験準 4 級受験可能。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------------------------|--------------------------------------|--|
| | | | |
| 1 | 前期文法復習 | 第 1～10 課文法 | 事前にテキストを目を通す、授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。 |
| 2 | 第 11 課 母は私より背が高い | 比較表現 「越 A 越 B」 | 事前にテキストを目を通す、授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。 |
| 3 | 第 12 課 彼女は中国に行ったことがある | 過去の経験を表す表現 助動詞「打算」 変化の「了」 | 事前にテキストを目を通す、授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。 |
| 4 | 第 13 課 私は手紙を書いている | 進行形「在」 連動文 2 | 事前にテキストを目を通す、授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。 |
| 5 | 筆記小テスト① 発音テスト | 第 11～13 課 | 事前に第 11～13 課を復習する。 発音を練習すること。 |
| 6 | 第 14 課 私は英語を話せます | 助動詞「会」「能」「可以」 動詞の重ね方 | 事前にテキストを目を通す、授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。 |
| 7 | 第 15 課 あなたはいつ来たのですか | 「是……的」の構文 人民元の教え方 | 事前にテキストを目を通す、授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。 |
| 8 | 第 16 課 十五課を習い終えました | 兼語文・結果補語 介詞「用」 | 事前にテキストを目を通す、授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。 |
| 9 | 筆記小テスト② 発音テスト | 第 14～16 課 | 事前に第 11～13 課を復習する。 発音を練習すること。 |
| 10 | 第 17 課 母が私に生活用品を送ってくれました | 方向補語・介詞「給」 「从 A 到 B」の使い方 | 事前にテキストを目を通す、授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。 |
| 11 | 第 18 課 私は中国語を聞いて分かります | 可能補語 「先 A, 然后 B」の使い方 | 事前にテキストを目を通す、授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。 |
| 12 | 第 19 課 兄が走るのが早い | 完了の「了」・原因を表す表現 様態補語・時量の表現 数量表現 | 事前にテキストを目を通す、授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。 |
| 13 | 第 20 課 鈴木先生は私たちにフランス語を教えてください | 二重目的語の構文 助動詞「得」の使い方 | 事前にテキストを目を通す、授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。 |
| 14 | 筆記小テスト③ 発音テスト | 第 17～20 課 | 事前に第 17～20 課を復習する。 発音を練習すること。 |
| 15 | まとめ | 第 11～20 課 | 前回まで習った部分を復習する。 |

関連科目

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|---------------|------------|------|
| 1 | やさしい中国語 (基礎編) | 張慧娟 王武雲 朱藝 | 郁文堂 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

評価方法 (基準) 出席・課題 50% テスト 50%

学生へのメッセージ 教科書は必ず買ってください。

担当者の研究室等 事前・事後学習に 1 時間ずつ要します。

| | | | |
|----------------|-----------|----------|---------------------|
| 科目名 | 中国語を聞く a | 科目名 (英文) | Chinese Listening a |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 俞 鳴蒙 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | ICH2340e1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | これまでに学んだ中国語を基礎に、読む・聞く・話す・書くの四つの力をさらに総合的にバランスよく学習する。中国語の運用能力の準中級レベル、中国語検定試験4級レベルに達することを旨とする。 |
| 到達目標 | 中国語の基礎的な能力を身につけ、正しい発音で簡単な日常会話ができるようになる。 |
| 授業方法と留意点 | 授業は学生と教師のインタラクティブな活動を中心に進め、聞く・話すの練習に力を入れる。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 中国語検定試験4級レベル。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------------------|--|--|
| | | | |
| 1 | 導入 | 授業方法のガイダンス、1年生の文法の復習 | 初級の文法を復習する。 |
| 2 | 第1課 五百年前は同じ祖先だ | 本文、単語 動詞述語文、名前の紹介 ドリル | 事前に本文と学習事項を予習 (日本語訳) し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。 |
| 3 | 第2課 遅れを気に病むな、しかし立ち止まってはいけない | 本文、単語 感嘆詞「哦」、動詞「給」、同時進行の言い方 ドリル | 事前に学習事項を予習 (日本語訳) し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。 |
| 4 | 第3課 笑えばその分若くなる | 本文、単語 「愛+動詞句」、形容詞述語文、動詞の重ね方 ドリル | 事前に本文と学習事項を予習 (日本語訳) し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。 |
| 5 | 第4課 君子は話し合いで解決しよう | 本文、単語 終助詞「嘛」、禁止表現「別・・・了」、強調「是」 ドリル | 事前に学習事項を予習 (日本語訳) し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。 |
| 6 | 第5課 我が才能は世に役立つ | 本文、単語 比較表現「比・・・還・・・」、様態補語、介詞「对」 ドリル | 事前に本文と学習事項を予習 (日本語訳) し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。 |
| 7 | 第6課 にわか仕込みであっても役立つ | 本文、単語 進行形「正在+動詞」、変化「就要・・・了」、やめる表現「不・・・了」 ドリル | 事前に学習事項を予習 (日本語訳) し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。 |
| 8 | まとめと単元テスト | 文法・語彙・表現の復習 第1回単元テスト | テスト範囲の語句・構文を復習し、しっかりと習得する。 |
| 9 | 第7課 家を離れてからは友達を頼りにする | 本文、単語 可能性を表す「会・・・的」、副詞「挺・・・的」、結果補語 ドリル | 事前に本文と学習事項を予習 (日本語訳) し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。 |
| 10 | 第8課 口は禍の元 | 本文、単語 伝聞表現「聽說」、説明的「是・・・的」、どうして「為什麼」 ドリル | 事前に学習事項を予習 (日本語訳) し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。 |
| 11 | 第9課 人知れぬ努力があってこそその成功がある | 本文、単語 程度を表す「這 me、那 me」、経験を表す「動詞+過」、副詞「就」 ドリル | 事前に本文と学習事項を予習 (日本語訳) し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。 |
| 12 | 第10課 熟慮して行動に移す | 本文、単語 程度補語、副詞「不要」、前後を表す「先・・・再・・・」 ドリル | 事前に学習事項を予習 (日本語訳) し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。 |
| 13 | 第11課 古いものが去らなければ新しいものはやっばい | 本文、単語 処置を表す「把」、文末表現「得了」、連体修飾表現 ドリル | 事前に本文と学習事項を予習 (日本語訳) し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。 |
| 14 | 第12課 借りたものを返せばまた借りられる | 本文、単語 方向補語、確認の表現「是不是・・・」、副詞「又」 ドリル | 事前に学習事項を予習 (日本語訳) し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。 |
| 15 | まとめと単元テスト | 文法・語彙・表現の復習、第2回単元テスト | テスト範囲の語句・構文を復習し、しっかりと習得する。 |

関連科目 「中国語を話す a」

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-------|--------|-------|
| | 1 | 中国の智慧 | 相原茂・蘇紅 | 朝日出版社 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|------|-----|------|
| | 1 | 中日辞典 | | |

| | | | | |
|---------------|---|--|--|--|
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 授業および課題への取り組み：50% 単元テスト：50% | | | |
| 学生への メッセージ | 日本語訳や語句・構文・表現を覚えるなど、予習と復習を行ってください。事前・事後に各 60 分の学習を要します。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7 号館 3 階 (愈研究室) | | | |
| 備考 | 授業は、1 年生の「ビジネス中国語基礎 a c」または「ビジネス中国語基礎 b d」を履修しているか、これと同等レベルの中国語能力を備えていることを前提として進める。 単元テストは返却時、あるいは実施後に、間違いの多かったところを復習するなどし、必ずフィードバックを行う。 | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|---------------------|
| 科目名 | 中国語を聞く b | 科目名 (英文) | Chinese Listening b |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 左 虹 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | ICH2341e1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | これまでに学んだ中国語を基礎に、読む・聞く・話す・書くの四つの力をさらに総合的にバランスよく学習する。中国語の運用能力の準中級レベル、中国語検定試験4級レベルに達することを旨とする。 |
| 到達目標 | 中国語の基礎的な能力を身につけ、正しい発音で簡単な日常会話ができるようになる。 |
| 授業方法と留意点 | 授業は学生と教師のインタラクティブな活動を中心に進め、聞く・話すの練習に力を入れる。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 中国語検定試験4級レベル。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------------------------|---|--|
| | | | |
| 1 | 導入 | 授業方法のガイダンス、前期のことわざの復習 | 初級の文法と表現を復習する。 |
| 2 | 第13課 災難に遭っても生き延びたのだから、将来幸せが待っている | 本文、単語 「動詞+了」、時量補語・動量補語、副詞「差点兒」 ドリル | 事前に本文と学習事項を予習（日本語訳）し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。 |
| 3 | 第14課 趣味や好みは人それぞれ | 本文、単語 任指用法「動詞+疑問詞」、可能補語①、副詞「倒」 ドリル | 事前に学習事項を予習（日本語訳）し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。 |
| 4 | 第15課 春には厚着、秋には薄着 | 本文、単語 「動詞+了」II、恐れるのを表す動詞、副詞「本来」 ドリル | 事前に本文と学習事項を予習（日本語訳）し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。 |
| 5 | 第16課 人は容赦なく老いていく | 本文、単語 存現文、助動詞「可以」、反語文I ドリル | 事前に学習事項を予習（日本語訳）し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。 |
| 6 | 第17課 値段相応 | 本文、単語 ただ「就是」、お金に関する言い方、お金に関することわざ ドリル | 事前に本文と学習事項を予習（日本語訳）し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。 |
| 7 | 第18課 好調な時期は長く続くものではない | 本文、単語 副詞「多・・・」、接続詞「所以」、兼語文 ドリル | 事前に学習事項を予習（日本語訳）し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。 |
| 8 | まとめと単元テスト | 文法・語彙・表現の復習 第1回単元テスト | テスト範囲の語句・構文を復習し、しっかりと習得する。 |
| 9 | 第19課 人間万事塞翁が馬 | 本文、単語 選択疑問文、副詞「終于」、受身文 ドリル | 事前に本文と学習事項を予習（日本語訳）し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。 |
| 10 | 第20課 計画は変化に追いつけない | 本文、単語 副詞「好好兒」、動詞「過去」、可能補語II ドリル | 事前に学習事項を予習（日本語訳）し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。 |
| 11 | 第21課 出る杭は打たれる | 本文、単語 知る内容を表す文、反語文II、副詞「也」II ドリル | 事前に本文と学習事項を予習（日本語訳）し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。 |
| 12 | 第22課 子供が成長すると親の言うことを聞かなくなる | 本文、単語 どうしたかの表現、副詞「非」、「動詞・形容詞+点兒」 ドリル | 事前に学習事項を予習（日本語訳）し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。 |
| 13 | 第23課 能力のあるものは頼られるもの | 本文、単語 副詞「還是」、動詞「来」、動詞「不如」 ドリル | 事前に本文と学習事項を予習（日本語訳）し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。 |
| 14 | 第24課 命あつてのもの種 | 本文、単語 助詞「着」、及ばない「差得遠」、副詞「才」 ドリル | 事前に学習事項を予習（日本語訳）し、事後に語句と構文を復習してしっかり覚える。 |
| 15 | まとめと単元テスト | 文法・語彙・表現の復習、第2回単元テスト | テスト範囲の語句・構文を復習し、しっかりと習得する。 |

| | |
|------|------------|
| 関連科目 | 「中国語を話す a」 |
|------|------------|

| | | | | |
|-----|----|-------|--------|-------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 中国の智慧 | 相原茂・蘇紅 | 朝日出版社 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|------|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 中日辞典 | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|---------------|---|
| 評価方法 (基準) | 授業および課題への取り組み：50% 単元テスト：50% |
| 学生への メッセージ | 日本語訳や語句・構文・表現を覚えるなど、予習と復習を行ってください。事前・事後に各 60 分の学習を要します。 |
| 担当者の 研究室等 | 7号館 2階 (非常勤講師室) |
| 備考 | 授業は、1年生の「ビジネス中国語基礎 ac」または「ビジネス中国語基礎 b d」を履修しているか、これと同等レベルの中国語能力を備えていることを前提として進める。 単元テストは返却時、あるいは実施後に、間違いの多かったところを復習するなどし、必ずフィードバックを行う。 |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|--------------------|
| 科目名 | 中国語を話す a | 科目名 (英文) | Chinese Speaking a |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 段 飛虹 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | ICH2342e1 | | |

| | |
|----------|---|
| 授業概要・目的 | 基礎中国語科目で学習した内容を復習しつつ、日頃の会話でよく見られるワンランク上の表現を習得する。読む、聴く、書くと言う総合的な学習をバランスよく行います。 |
| 到達目標 | 中国語を使って日常会話ができるレベルを目指します。 |
| 授業方法と留意点 | 中国語を「話す」、「使う」ことを重視する。大体、前の週に新しい文法と語彙を習い、次の週に完全に覚えるように指導する。 |

| | |
|--------------|--|
| 科目学習の効果 (資格) | |
|--------------|--|

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------|---------------------------------------|---|
| | | | |
| 1 | 第1課 再会する | 文法 ①反語文の表現 ②積極的な姿勢を示す「来」 | 事前に、第1課の単語を覚える。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。 |
| 2 | 第2課 入学する手続き | 文法 ①兼語文 ②介詞「跟～」 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。 |
| 3 | 第3課 リスニング授業 | 文法 ①形容詞の重ね型 ②助動詞「会」 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。 |
| 4 | 第4課 朝市を見物する | 文法 ①存現文 (場所詞+動詞+名詞) ②複文「除了A～選B」 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。 |
| 5 | 第5課 動物園 | 文法 ①様態補語「得」 ②副詞「再」と「又」 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。 |
| 6 | 第6課 中秋の名月 | 文法 ①「快要～了」 ②複文「一边A～一边B」 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。 |
| 7 | 復習課 単元テスト1 | ・第1課～第6課の復習 ・単元テスト1 | 第1課～第6課の復習すること。 |
| 8 | 第7課 国慶節 | 文法 ①複文「因為A～所以B」 ②可能補語 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと |
| 9 | 第8課 京劇を見る | 文法 ①「没想到～」 ②動詞「像」 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと |
| 10 | 第9課 本を借りる | 文法 ①副詞「剛剛」 ②複文「一A～就B」 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと |
| 11 | 第10課 助け合い | 文法 ①動詞「覺得」 ②指示代名詞 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと |
| 12 | 第11課 ホテルを探す | 文法 ①量詞「～宿」 ②複合方向補語「～出来」 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと |
| 13 | 第12課 端午の節句 | 文法 ①複文「雖然A～但是B」 ②助詞「什麼的」 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと |
| 14 | 第13課 日の出を見る | 文法 ①動詞「打算」 ②複文「即使A, 也B」 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文をじょ繰り返して読むこと |
| 15 | 復習課 単元テスト2 | 単元テスト2 | 事前に、第7課～第13課の復習すること。 |

| | |
|------|------------|
| 関連科目 | 「中国語を聞く a」 |
|------|------------|

| | | | | |
|-----|----|------------|------|-------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | We Can 中国語 | 徐 送迎 | 朝日出版社 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----|--|
| 参考書 | |
|-----|--|

| | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|---------------|---|----------|-------------|------|
| | 1 | 中日辞典 第3版 | 北京商務印書館・小学館 | 小学館 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 参加度と課題：60% テスト：40%で評価する | | | |
| 学生への メッセージ | 教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。 前・事後の学習に1時間ずつ要します。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 非常勤講師室 | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|--------------------|
| 科目名 | 中国語を話す b | 科目名 (英文) | Chinese Speaking b |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 段 飛虹 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | ICH2343e1 | | |

| | |
|----------|---|
| 授業概要・目的 | 基礎中国語科目で学習した内容を復習しつつ、日頃の会話でよく見られるワンランク上の表現を習得する。読む、聴く、書くと言う総合的な学習をバランスよく行います。 |
| 到達目標 | 中国語を使って日常会話ができるレベルを目指します。 |
| 授業方法と留意点 | 中国語を「話す」、「使う」ことを重視する。大体、前の週に新しい文法と語彙を習い、次の週に完全に覚えるように指導する。 |

| | |
|--------------|--|
| 科目学習の効果 (資格) | |
|--------------|--|

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------|---------------------------------|---|
| | | | |
| 1 | 第14課 ボランティア | 文法 ①複文「如果A, 就B」 ②助動詞「願意」 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと |
| 2 | 第15課 運動会 | 文法 ①介詞「為了〜」「為〜」 ②助動詞「應該」 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと |
| 3 | 第16課 孔子廟を参拝する | 文法 ①複文「既是A〜又是B」 ②挿入語「据說〜」 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと |
| 4 | 第17課 スピーチコンクール | 文法 ①受身文「被〜」 ②接続詞「可是」 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと |
| 5 | 第18課 農家を訪問する | 文法 ①「把」構文 ②「連A都(也)B」 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと |
| 6 | 第19課 試験 | 文法 ①複合方向補語「〜起来」 ②助詞「地」 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと |
| 7 | 復習課 単元テスト1 | ・第14課〜第19課の復習 ・単元テスト1 | 事前に、第14課〜第19課を復習すること |
| 8 | 第20課 コートを買う | 文法 ①複文「既A、又B」 ②動量補語「一下兒」 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと |
| 9 | 第21課 懇親会 | 文法 ①副詞「早就」 ②介詞「向〜」 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと |
| 10 | 第22課道を尋ねる | 文法 ①「去〜怎麼走？」 ②介詞「往〜」 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと |
| 11 | 第23課 九寨溝 | 文法 ①「就像〜一樣」 ②助動詞「得」 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと |
| 12 | 第24課 兵馬俑 | 文法 ①動詞「建議」 ②介詞「通過〜」 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと |
| 13 | 第25課 仕事を探す | 文法 ①指示代名詞「這樣」 ②「不知道〜」 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと |
| 14 | 第26課 見送り | 文法 ①可能補語 ②「对〜來說」 | 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと |
| 15 | 復習課 単元テスト2 | ・第20課〜第26課の復習 ・単元テスト2 | 事前に、第20課〜第26課の復習すること。 |

| | |
|------|------------|
| 関連科目 | 「中国語を聞く a」 |
|------|------------|

| | | | | |
|-----|----|------------|------|-------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | We Can 中国語 | 徐 送迎 | 朝日出版社 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|--------------------|---|----------|-------------|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 中日辞典 第3版 | 北京商務印書館・小学館 | 小学館 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 出席と課題の提出 60% テスト 40%で評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。 前・事後の学習に1時間ずつ要します。 | | | |
| 担当者の 研究室等 備考 | 非常勤講師室 | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|--------------------------------|
| 科目名 | 日本語表現法 I | 科目名 (英文) | Japanese Reading and Writing I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 上島 誠司 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IJA1322a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | <p>まだまだコロナ禍の影響は否めませんが、学びの歩みを止めてはいけません。コロナなんかには負けず頑張りましょう。</p> <p>文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。</p> |
| 到達目標 | <p>大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章 (特にレポート・論文) の書き方を習得する。 適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。</p> |
| 授業方法と留意点 | <p>講義に基づいて、練習問題や課題に取り組む。 原則毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。 毎回の授業は教科書に沿って講義を進める。</p> |
| 科目学習の効果 (資格) | 授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。 |

| | | | | |
|------|----|------------------------------|--------------------------------------|----------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | 導入 文章の書き方 1 | 授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ | 1 時間 |
| | 2 | 文章の書き方 2 | わかりやすい文章の書き方を学ぶ | 前回の復習 事前事後あわせて 1 時間 |
| | 3 | 事実と意見 | 事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ | 前回の復習 事前事後あわせて 1 時間 |
| | 4 | 【課題 1】 説明文 | ある事物について、論理的に説明する文章を書く | 前回の復習 事前事後あわせて 1 時間 |
| | 5 | 構成 | レポートなどの文章構成を学ぶ | これまでの復習 事前事後あわせて 1 時間 |
| | 6 | 要約 | 要旨の要約の作成方法を学ぶ | 前回の復習 事前事後あわせて 1 時間 |
| | 7 | フィードバック | 課題 1 のフィードバック | 課題 1 を見直す 事前事後あわせて 1 時間 |
| | 8 | 文章を引用する | 文章を引用する方法を学ぶ | 前回の復習 事前事後あわせて 1 時間 |
| | 9 | 図表を引用する 意見を述べる | 図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ | 前回の復習 事前事後あわせて 1 時間 |
| | 10 | 【課題 2】 論説文 | 資料を引用して意見を述べる文章を書く | 前回の復習 事前事後あわせて 1 時間 |
| | 11 | レポートの書き方 1 | レポート作成の方法と体裁について学ぶ 【課題 3】 レポートの説明 | これまでの復習 事前事後あわせて 1 時間 |
| | 12 | フィードバック | 課題 2 のフィードバック | 前回の復習 事前事後あわせて 1 時間 |
| | 13 | レポートの書き方 2 | レポート作成の方法と体裁について学ぶ | 課題 2 を見直す 事前事後あわせて 1 時間 |
| | 14 | 【課題 3】 レポートの提出 小テストの復習テスト | 提出レポートのチェック 小テスト全体の講評 | 小テストの復習 事前事後あわせて 1 時間 |
| | 15 | レポートの講評 | 【課題 3】 レポートについて具体的にフィードバック | 課題レポートの復習 事前事後あわせて 1 時間 |

| | |
|------|-------------------|
| 関連科目 | すべての授業の日本語による課題作成 |
|------|-------------------|

| | | | | |
|-----|----|-------------|--------------------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 大学生の日本語文章表現 | 摂南大学教育イノベーションセンター編 | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | <p>課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。</p> <p>課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。</p> |
|-----------|---|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | <p>コロナ禍はまだまだ終息する気配がありません。希望に胸膨らませて入学してこられた皆さんにとっては戸惑うことが多いと思います。しかしながら、憂いていても事態は好転しません。しっかり学び、将来に備えましょう。我々教員はそんな皆さんを応援します。</p> <p>日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。</p> <p>※授業中は教員を含む他人に迷惑をかける行為はやめてください。たとえば、私語や携帯電話は厳禁、寝る</p> |
|-----------|---|

| | |
|----------|---|
| 担当者の研究室等 | 非常勤講師室 学習支援センター |
| 備考 | 事前事後学習の総時間の目安は15時間。 課題提出については、授業中にフィードバックをします。 |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|---------------------------------|
| 科目名 | 日本語表現法Ⅱ | 科目名 (英文) | Japanese Reading and Writing II |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 長谷川 雄高 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IJA1323a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会生活で必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。 |
| 到達目標 | 適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。 |
| 授業方法と留意点 | 講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------------|-----------------------------------|--|
| | | | |
| 1 | はじめに | 講義の説明 | 教科書を読み返す (60分) |
| 2 | プリント資料の解説と前期の復習 (前半) | 前期の内容を復習する | プリント資料を読む (60分) |
| 3 | プリント資料の解説と前期の復習 (後半) | 課題①のテキスト (プリント資料) の解説を行う | プリント資料を読み、課題①を作成する準備を行う (150分) |
| 4 | 課題①「論説文」の作成 | 各人で、ディスカッションの素材となる課題①論説文を作成する | — |
| 5 | ディスカッションとは | ディスカッションの技法・類型などについて | ディスカッションの準備を行う (60分) |
| 6 | ディスカッションについて | 本授業におけるディスカッションのやり方についての説明、グループ分け | ディスカッションの準備を行う (60分) |
| 7 | ディスカッション① | グループ・ディスカッションを行う | 【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する (60分) 【それ以外】 ディスカッションの準備をする (60分) |
| 8 | ディスカッション② | グループ・ディスカッションを行う | 【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する (60分) 【それ以外】 ディスカッションの準備をする (60分) |
| 9 | ディスカッション③ | グループ・ディスカッションを行う | 【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する (60分) 【それ以外】 ディスカッションの準備をする (60分) |
| 10 | プレゼンテーションとは | プレゼンテーションの技法・類型などについて | プレゼンテーション資料の作成準備を行う (60分) |
| 11 | プレゼンテーションについて | 本授業におけるプレゼンテーションのやり方や資料作成について | プレゼンテーション資料の作成・推敲やリハーサルを行う (150分) |
| 12 | プレゼンテーション① | グループによる発表・質疑を行う | 【発表者】 質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う (60分) 【それ以外】 プレゼンテーション時の当番役の準備を行う (60分) |
| 13 | プレゼンテーション② | グループによる発表・質疑を行う | 【発表者】 質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う (60分) 【それ以外】 プレゼンテーション時の当番役の準備を行う (60分) |
| 14 | 課題③「プレゼンテーション要旨」の作成 | 各人で発表内容をまとめた文章 (要旨) を作成する | — |
| 15 | おわりに | 課題③の返却・講評など | — |

| | |
|------|-------------------|
| 関連科目 | すべての授業の日本語による課題作成 |
|------|-------------------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-------------|--------------------|------|
| | 1 | 大学生の日本語文章表現 | 摂南大学教育イノベーションセンター編 | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|------|---|
| 評価方法 | 課題3回 (20%、20%、30%)、授業態度 (呼应状態・積極性)・小テスト (30%) により評価する。課題を一度でも提出しない場合は不合格と |
|------|---|

| | |
|-----------|---|
| (基準) | なる。 |
| 学生へのメッセージ | 前期の内容に加え、ディスカッションやプレゼンテーションという新たな日本語表現に挑戦してみましょう。 |
| 担当者の研究室等 | 7号館2階（非常勤講師室） |
| 備考 | 事前事後学習の総時間の目安は15時間となる。 提出課題については、添削および授業中のコメントを通して、フィードバックを行う。 質問等は、出講時および非常勤講師室において対応する。 |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|---------------------|
| 科目名 | 数学基礎 I | 科目名 (英文) | Basic Mathematics I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 早石 典史 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IMA1347a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。 |
| 到達目標 | 基礎的な問題、具体的には指定教科書に掲載されている程度の難易度の問題を、自力で解けるようになること。 |
| 授業方法と留意点 | テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------|-------------------------|--|
| | | | |
| 1 | 整式の計算 (1) | ・計算の法則 ・因数分解 | 事前に第 1 章の間に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。 |
| 2 | 整式の計算 (2) | ・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理 | 事前に第 1 章の間に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。 |
| 3 | 分数式・無理式 (1) | ・通分の規則 | 事前に第 2 章の間に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。 |
| 4 | 分数式・無理式 (2) | ・平方根, 立方根 ・有理化の計算 | 事前に第 2 章の間に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。 |
| 5 | 1 次方程式 (1) | ・等式の基本法則 | 事前に第 3 章の間に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。 |
| 6 | 1 次方程式 (2) | ・方程式の導き方 ・解き方 | 事前に第 3 章の間に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。 |
| 7 | 1 次不等式 (1) | ・不等式の基本法則 | 事前に第 3 章の間に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。 |
| 8 | 1 次不等式 (2) | ・不等式の導き方 ・解き方 | 事前に第 3 章の間に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。 |
| 9 | 連立 1 次方程式 (1) | ・連立方程式の導き方 | 事前に第 4 章の間に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。 |
| 10 | 連立 1 次方程式 (2) | ・解き方 ・基本法則 | 事前に第 4 章の間に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。 |
| 11 | 連立 1 次方程式 (3) | ・消去法 | 事前に第 4 章の間に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。 |
| 12 | 場合の数 (1) | ・数え上げの原則 | 事前に第 5 章の間に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。 |
| 13 | 場合の数 (2) | ・並べ方, 選び方 ・順列, 組み合わせ | 事前に第 5 章の間に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。 |
| 14 | 確率 (1) | ・確率の計算 | 事前に第 6 章の間に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。 |
| 15 | 確率 (2) | ・くりかえす試行の確率 | 事前に第 6 章の間に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。 |

| | |
|------|------------------------|
| 関連科目 | 数学基礎 II、経営統計学、ビジネス数学基礎 |
|------|------------------------|

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|------|----------|---------|
| | | | |
| 1 | 数学基礎 | 摂南大学数学教室 | 学術図書出版社 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| | | | |
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 各回の課題 (演習) および期末試験期間中に課す定期試験から総合的に判断して成績評価する。 |
| 学生へのメッセージ | 数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。 |
| 担当者の研究室等 | 3 号館 3 階 (数学準備室) |
| 備考 | 事前事後学習は毎回 30 分以上の時間をかけてください。課題は採点して、重要な箇所は講義中に解説します。 |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|----------------------|
| 科目名 | 数学基礎Ⅱ | 科目名(英文) | Basic Mathematics II |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 早石 典史 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IMA1348a1 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。具体的には、1次関数、2次関数のグラフの復習を出発点として、様々な関数の変化の様子をとらえられることを目標とする。 |
| 到達目標 | 基礎的な問題、具体的には指定教科書に掲載されている程度の難易度の問題を、自力で解けるようになること。 |
| 授業方法と留意点 | テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。 |
| 科目学習の効果(資格) | 数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算量を習得する。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------|----------------------|---|
| | | | |
| 1 | 関数とグラフ | ・座標平面 ・点の表し方 | 事前に第7章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。 |
| 2 | 1次関数 | ・グラフの書き方 ・傾き、切片 | 事前に第7章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。 |
| 3 | 2次関数(1) | ・グラフの書き方 ・頂点、対称軸 | 事前に第7章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。 |
| 4 | 2次関数(2) | ・最大値、最小値 ・応用例 | 事前に第7章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。 |
| 5 | 無理関数 | ・逆関数 ・定義域 | 事前に第7章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。 |
| 6 | 数列(1) | ・等差数列 ・和の公式 | 事前に第8章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。 |
| 7 | 数列(2) | ・等比数列 ・和の公式 | 事前に第8章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。 |
| 8 | 整関数の微分(1) | ・変化率 ・微分係数、接線 | 事前に第9章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。 |
| 9 | 整関数の微分(2) | ・導関数 ・極大値、極小値 | 事前に第9章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。 |
| 10 | 整関数の微分(3) | ・関数の増加、減少 ・関数のグラフ | 事前に第9章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。 |
| 11 | 整関数の微分(4) | ・最大値、最小値 ・応用問題 | 事前に第9章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。 |
| 12 | 積分(1) | ・不定積分 ・原始関数 | 事前に第10章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。 |
| 13 | 積分(2) | ・区分求積法 ・定積分 | 事前に第10章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。 |
| 14 | 積分(3) | ・微積分の基本定理 ・定積分の計算 | 事前に第10章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。 |
| 15 | 積分(4) | ・面積、体積 ・応用問題 | 事前に第10章の間に30分以上目を通し、課題レポート返却後に30分以上その復習をする。 |

| | |
|------|----------------|
| 関連科目 | 数学基礎Ⅰ、統計学、経営数学 |
|------|----------------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|------|----------|---------|
| | 1 | 数学基礎 | 摂南大学数学教室 | 学術図書出版社 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|----------|---|
| 評価方法(基準) | 各回の課題(演習)および期末試験期間中に課す定期試験から総合的に判断して成績評価する。 |
|----------|---|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|--------------|
| 担当者の研究室等 | 5号館1階(数学準備室) |
|----------|--------------|

| | |
|----|--|
| 備考 | 事前事後学習は毎回30分以上かけてください。重要な項目は講義中に解説します。 |
|----|--|

| | | | |
|----------------|------------|----------|-------------------------------|
| 科目名 | スポーツ科学実習 I | 科目名 (英文) | Practicum in Sports Science I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 横山 喬之 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IPH1357a1 | | |

| | |
|---------|--|
| 授業概要・目的 | 生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5 |
| 到達目標 | この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。 |

| | |
|----------|---|
| 授業方法と留意点 | 実技形式で行う（雨天の場合、講義形式を行う場合がある）。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。感染症対策の観点から、更衣中は三密を避け私語を慎むこと。 |
|----------|---|

| | |
|--------------|--------------------------------|
| 科目学習の効果 (資格) | 基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。 |
|--------------|--------------------------------|

| | | | | |
|------|----|-------------------------|--|---|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | ・ガイダンス | ・ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け) | 事前：授業概要・目的などを学習する (30分) 事後：本実習の理解を深める (30分) |
| | 2 | ・軽運動 | ストレッチ、軽度のエクササイズ | 事前：ストレッチ等を行い授業の準備を行う (30分) 事後：内容の振り返り (30分) |
| | 3 | ・体力測定① | ・屋外種目 | 事前：運動を行い体力測定に備える (30分) 事後：自身の体力についての振り返り (30分) |
| | 4 | ・体力測定② | ・屋内種目 | 事前：運動を行い体力測定に備える (30分) 事後：自身の体力についての振り返り (30分) |
| | 5 | ・種目の概要 ・基礎知識について | ・種目の概要、基礎知識の説明 | 事前：基礎知識を学習しておく (30分) 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る (30分) |
| | 6 | ・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム | ・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム | 事前：ルールについて学習しておく (30分) 事後：内容の振り返り (30分) |
| | 7 | ・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム | ・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム | 事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分) |
| | 8 | ・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム | ・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム | 事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分) |
| | 9 | ・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム | ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム | 事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分) |
| | 10 | ・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム | ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム | 事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分) |
| | 11 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分) |
| | 12 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分) |
| | 13 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分) |
| | 14 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分) |
| | 15 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：全授業の総括 (30分) |

| | |
|------|---|
| 関連科目 | 生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際 |
|------|---|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25% ※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。 |
|-----------|---|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 感染予防の観点から予定通りに開講できない種目もあり得ますので、ご了承ください。 |
|-----------|--|

| | |
|--------------|--|
| | 1回目のガイダンス時に感染症対策に関する内容もお伝えしますので、1回目の授業に必ず出席してください。 実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可) |
| 担当者の 研究室等 | 総合体育館1F 体育館事務室 |
| 備考 | トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの) |

| | | | |
|---------------|-----------|----------|--------------------------------|
| 科目名 | スポーツ科学実習Ⅱ | 科目名 (英文) | Practicum in Sports Science II |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 横山 喬之 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IPH1358a1 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 本科目では、スポーツ科学実習Ⅰで培った基礎的な技術を応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 |
| 到達目標 | この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。 |
| 授業方法と留意点 | 実技形式で行う（雨天の場合、講義形式を行う場合がある）。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。感染症対策の観点から、更衣中は三密を避け私語を慎むこと。 |
| 科目学習の効果（資格） | 基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------------|---|---|
| | | | |
| 1 | ・ガイダンス | ・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け） | 事前：授業概要・目的などを学習する(30分) 事後：本実習の理解を深める(30分) |
| 2 | ・種目の概要 ・基礎知識について | ・種目の概要、基礎知識の説明 | 事前：基礎知識を学習しておく(30分) 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る(30分) |
| 3 | ・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム | ・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム | 事前：ルールについて学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分) |
| 4 | ・基本技術（基礎編1） ・簡易ゲーム | ・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム | 事前：基礎技術に関する情報収集をする(30分) 事後：内容の振り返り(30分) |
| 5 | ・基本技術（基礎編2） ・簡易ゲーム | ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム | 事前：基礎技術に関する情報収集をする(30分) 事後：内容の振り返り(30分) |
| 6 | ・基本技術（応用編1） ・簡易ゲーム | ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム | 事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする(30分) 事後：内容の振り返り(30分) |
| 7 | ・基本技術（応用編2） ・簡易ゲーム | ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム | 事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする(30分) 事後：内容の振り返り(30分) |
| 8 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理(30分) 事後：内容の振り返り(30分) |
| 9 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理(30分) 事後：内容の振り返り(30分) |
| 10 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理(30分) 事後：内容の振り返り(30分) |
| 11 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理(30分) 事後：内容の振り返り(30分) |
| 12 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理(30分) 事後：内容の振り返り(30分) |
| 13 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理(30分) 事後：内容の振り返り(30分) |
| 14 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理(30分) 事後：内容の振り返り(30分) |
| 15 | ・ゲーム ・2年次ガイダンス等 | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2年次ガイダンス等を行う | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理(30分) 事後：全授業の総括(30分) |

| | |
|------|--|
| 関連科目 | 生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際 |
|------|--|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|----------|--|
| 評価方法（基準） | 対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25% ※ なお、活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。 |
|----------|--|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 感染予防の観点から予定通りに開講できない種目もあり得ますので、ご了承ください。 |
|-----------|--|

| | |
|--------------|--|
| | 1回目のガイダンス時に感染症対策に関する内容もお伝えしますので、1回目の授業に必ず出席してください。 実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可) |
| 担当者の 研究室等 | 総合体育館 1F 体育館事務室 |
| 備考 | トレーニングウェア、スポーツシューズ (コースに適したもの) |

| | | | |
|---------------|---------------|---------|-----------------|
| 科目名 | 生涯スポーツ実習（ゴルフ） | 科目名（英文） | Lifetime Sports |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期集中 | 授業担当者 | 近藤 潤 |
| ディプロマポリシー（DP） | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IPH1359a1 | | |

授業概要・目的
 ゴルフというスポーツを通して生涯スポーツへの参加意識向上と自信を深めることを目的とする。
 短期間の練習で最後に実際にコースに出てラウンドするという、ハードスケジュールではあるが、コースでラウンドする経験は、テレビなどで見るだけのゴルフとは違う楽しさや、難しさを体験できる。
 また、社会人になってもコミュニケーションツールとしてゴルフをするための基礎となる。
 ゴルフを通じて、打つ技術だけではなく、人と人とのコミュニケーションや社会人としてのルール・マナーを身につける。
 SDGs-3, 4, 5

到達目標
 ①健康の保持増進ができる
 ②運動技能を向上させることができる
 ③競技ルール、ラウンドマナーを理解することができる
 ④学生相互のコミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
 学科の学習・教育目標との対応：[A]

授業方法と留意点
 事前ガイダンス（90分）と集中授業4日間（午前、午後、最終日は午後のみ）合わせて5日間で行う。
 日程は、オンラインで事前ガイダンスを予定（詳細はポータルで連絡）、9月5日（月）～8日（木）5日間すべて受講できること。
 コロナ感染症対策を事前ガイダンスで周知し、実施する。
 事前の申し込みが受け付けられることが必要。
 申込用紙は履修ガイダンス時に配布。

科目学習の効果（資格）
 ゴルフを実践する最低限の打球技術、ルール、マナーを習得できる。
 ゴルフを通じて人と人のコミュニケーションを図ることができる。

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------|------------------------|---|
| 1 | 事前ガイダンス | 目的、内容、準備について ゴルフの概要 | 事後：ゴルフの概要を確認（1時間） |
| 2 | ゴルフの基礎知識 | ゴルフのルール、マナーについて | 事前：ルールの再確認（1時間） 事後：授業内容を実習ノートにまとめる（1時間） |
| 3 | ゴルフの基礎技術（1） | グリップ、スウィング | 事前：午前中のルール・マナーについて確認（1時間） 事後：技術の反復練習 タオルスイングなど 授業内容を実習ノートにまとめる（1時間） |
| 4 | ゴルフの基礎技術（2） | 打球練習場での練習 アイアン | 事前：前日の技術練習のポイント再確認（1時間） 事後：授業内容を実習ノートにまとめる（1時間） |
| 5 | ゴルフの基礎技術（3） | アプローチ、パター練習 | 事前：前日の技術練習のポイント再確認（1時間） 事後：技術の反復練習 ルールの再確認（1時間） |
| 6 | ゴルフの応用技術（1） | 打球練習場での練習 ドライバー | 事前：前日までの技術練習のポイント再確認（1時間） 事後：技術の反復練習 ルールの再確認（1時間） |
| 7 | ゴルフの応用技術（2） | ミニラウンド | 事前：前日までの技術練習のポイント再確認（1時間） 事後：ラウンド時のルール・マナーの再確認 授業内容を実習ノートにまとめる（1時間） |
| 8 | ゴルフの実践 | ラウンド（9H） | 事前：ラウンドのイメージトレーニング（1時間） 事後：授業内容を実習ノートにまとめる（1時間） |
| 9 | | | |
| 10 | | | |
| 11 | | | |
| 12 | | | |
| 13 | | | |
| 14 | | | |
| 15 | | | |

関連科目
 スポーツ科学実習Ⅰ、Ⅱ

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

評価方法（基準）
 活動点（態度点含む）50%、技能点25%および実習ノート25%を総合評価する。

学生へのメッセージ
 履修までの質問は、総合体育館のスポーツ振興センター事務室に来てください。
 コロナの影響で、実施について変更することがあります。
 事前ガイダンスは7月に行う予定です。ガイダンスの連絡はポータルを通して行います。

担当者の研究室等
 総合体育館1階 近藤研究室

備考
 ラウンド時の服装は襟付きポロシャツ、スラックス（半ズボンの場合はハイソックス着用）、運動靴（スパイク類は禁止）

| |
|--|
| <p>ゴルフクラブは大学が用意しますが、ラウンド用のボール、ゴルフ用手袋は各自で用意してください。 雨天でも行いますので、着替えは多めに準備すること、体育館内でも行うことがあるので体育館シューズも用意してください。 本学東グラウンドに移動する際は、交通量の多い公道を横断する必要があります。事故防止のため、また自動車・バイクや近隣住人の迷惑にならないために、必ず正門前の横断歩道を使用してください</p> |
|--|

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-----------------|
| 科目名 | 生涯スポーツ実習 | 科目名 (英文) | Lifetime Sports |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 近藤 潤 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IPH1359a1 | | |

| 授業概要・目的 | <p>スポーツの基礎知識をベースに、より応用的な内容に発展させ、スポーツライフ形成の大切さを学ぶ。スポーツ活動の楽しさや身体活動の重要性を自覚するとともに、生涯スポーツ参加への意識向上と自信を深めることを目的とする。</p> <p>本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。</p> <p>SDGs-3、4、5</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|--|---|---|----|-------|---------|-----------|---|--------|-------------------------|--|---|---------------------|----------------|---|---|-----------------------|--|--|---|------------------------|-----------------------------|--|---|------------------------|--|--|---|------------------------|--|---|---|------------------------|--|---|---|------|--------------------------------|--|---|------|--------------------------------|--|----|------|--------------------------------|--|----|------|--------------------------------|--|----|------|--------------------------------|--|----|------|--------------------------------|--|----|------|--------------------------------|--|----|--------------------|---|---|
| 到達目標 | <p>この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法及び留意点 | <p>実技形式で行う（雨天の場合、講義形式を行う場合がある）。</p> <p>開講種目は、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋内種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど） <p>※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡すること。感染症対策の観点から、更衣中は三密を避け私語を慎むこと。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | <p>基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>・ガイダンス</td> <td>・ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)</td> <td>事前：授業概要・目的などを学習する (30分) 事後：本実習の理解を深める (30分)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>・種目の概要 ・基礎知識について</td> <td>・種目の概要、基礎知識の説明</td> <td>事前：基礎知識を学習しておく (30分) 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る (30分)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム</td> <td>・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム</td> <td>事前：ルールについて学習しておく (30分) 事後：内容の振り返り (30分)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>・基本技術 (基礎編1) ・簡易ゲーム</td> <td>・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム</td> <td>事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>・基本技術 (基礎編2) ・簡易ゲーム</td> <td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td> <td>事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>・基本技術 (応用編1) ・簡易ゲーム</td> <td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td> <td>事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>・基本技術 (応用編2) ・簡易ゲーム</td> <td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td> <td>事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>・ゲーム ・2年次ガイダンス等</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2年次ガイダンス等を行う</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：全授業の総括 (30分)</td> </tr> </tbody> </table> | | | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | 1 | ・ガイダンス | ・ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け) | 事前：授業概要・目的などを学習する (30分) 事後：本実習の理解を深める (30分) | 2 | ・種目の概要 ・基礎知識について | ・種目の概要、基礎知識の説明 | 事前：基礎知識を学習しておく (30分) 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る (30分) | 3 | ・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム | ・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム | 事前：ルールについて学習しておく (30分) 事後：内容の振り返り (30分) | 4 | ・基本技術 (基礎編1) ・簡易ゲーム | ・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム | 事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分) | 5 | ・基本技術 (基礎編2) ・簡易ゲーム | ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム | 事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分) | 6 | ・基本技術 (応用編1) ・簡易ゲーム | ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム | 事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分) | 7 | ・基本技術 (応用編2) ・簡易ゲーム | ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム | 事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分) | 8 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分) | 9 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分) | 10 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分) | 11 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分) | 12 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分) | 13 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分) | 14 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分) | 15 | ・ゲーム ・2年次ガイダンス等 | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2年次ガイダンス等を行う | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：全授業の総括 (30分) |
| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | ・ガイダンス | ・ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け) | 事前：授業概要・目的などを学習する (30分) 事後：本実習の理解を深める (30分) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | ・種目の概要 ・基礎知識について | ・種目の概要、基礎知識の説明 | 事前：基礎知識を学習しておく (30分) 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る (30分) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | ・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム | ・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム | 事前：ルールについて学習しておく (30分) 事後：内容の振り返り (30分) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | ・基本技術 (基礎編1) ・簡易ゲーム | ・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム | 事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | ・基本技術 (基礎編2) ・簡易ゲーム | ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム | 事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | ・基本技術 (応用編1) ・簡易ゲーム | ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム | 事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | ・基本技術 (応用編2) ・簡易ゲーム | ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム | 事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | ・ゲーム ・2年次ガイダンス等 | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2年次ガイダンス等を行う | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：全授業の総括 (30分) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | <p>生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの実践と理論、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実践、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実践</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | <p>対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25%</p> <p>※ なお、活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|---------------|---|
| 学生への メッセージ | <p>本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 感染予防の観点から予定通りに開講できない種目もあり得ますので、ご了承ください。 1回目のガイダンス時に感染症対策に関する内容もお伝えしますので、1回目の授業に必ず出席してください。 実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)</p> |
| 担当者の 研究室等 | 総合体育館 1F 体育館事務室 |
| 備考 | トレーニングウェア、スポーツシューズ (コースに適したもの) |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|------------------|
| 科目名 | 保健論 | 科目名 (英文) | Theory of Health |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 谷 めぐみ |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IPH2329a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 人とスポーツのかかわりは、単に「する」ことだけに限らない。スポーツを「みる」ことは、人々の生活にとって欠かすことのできない楽しみの一つであり、スポーツ大会やイベントを「ささえる」ことや興味・関心のあるスポーツについて「しらべる」こと、スポーツの魅力や面白さを「つたえる」ことも大切な関わり方の一つである。講義では、現代におけるスポーツの新たな価値を多角的に捉え、様々な楽しみ方や関わり方があることを見ていく。また、健康でアクティブな人生を送るための運動・スポーツに取り組むための態度を養い、生涯スポーツの観点から自身のスポーツライフを成熟化するための基礎知識を獲得することを目的とする。 |
| 到達目標 | ①現代社会におけるスポーツの社会・文化的な意義と役割について、多角的に考察できる。 ②人々とスポーツの関係を理解し、生涯スポーツ社会に活かすことのできる教養と態度を身につける。 ③運動やスポーツ実施を通じて健康になるためのプランを作成し、実践することができる。 ④これらの知識をもとに、スポーツと健康の関わりについて他者に伝えることができる。 |
| 授業方法と留意点 | 講義形式で授業を進める。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 資料配布、パワーポイントによるスライドや板書等を用いて要点を示す講義を主とする。図表データや映像資料等を使用することで、具体的な事例を示す。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 | |
|----|------------------|--|------------------|--------------------|
| | | | 事前 | 事後 |
| 1 | ガイダンス | オリエンテーションと授業計画・授業方法の説明、スポーツと健康の関係性について学ぶ | 事前：シラバスの確認 (30分) | 事後：講義のふりかえり (30分) |
| 2 | ライフステージと生涯スポーツ | 各年代のスポーツ参加動向を概観する | 事前：事前資料の確認 (30分) | 事後：講義のふりかえり (30分) |
| 3 | スポーツ政策 | 骨格筋・脳・神経系などの構造や機能について | 事前：事前資料の確認 (30分) | 事後：講義のふりかえり (30分) |
| 4 | 国内外のスポーツイベント | スポーツイベントを通じたアクティブ人口の拡大について理解する | 事前：事前資料の確認 (30分) | 事後：講義のふりかえり (30分) |
| 5 | スポーツ産業 | 人々のスポーツ需要と経済的な活動について考察する | 事前：事前資料の確認 (30分) | 事後：講義のふりかえり (30分) |
| 6 | スポーツボランティア | ささえるスポーツの形態について学ぶ | 事前：事前資料の確認 (30分) | 事後：講義のふりかえり (30分) |
| 7 | スペクテイタースポーツ | みるスポーツの現状と関わり方を考察する | 事前：事前資料の確認 (30分) | 事後：講義のふりかえり (30分) |
| 8 | エリートスポーツ・プロスポーツ | 競技スポーツのマネジメントについて理解する | 事前：事前資料の確認 (30分) | 事後：講義のふりかえり (30分) |
| 9 | レジャー行動と生涯スポーツ | 現代の余暇活動について理解する | 事前：事前資料の確認 (30分) | 事後：講義のふりかえり (30分) |
| 10 | 青少年のスポーツ参加 | 青少年期におけるスポーツの現状と課題を考える | 事前：事前資料の確認 (30分) | 事後：講義のふりかえり (30分) |
| 11 | 成人期以降のスポーツライフ | 中高年齢期のスポーツ活動の多様性とマーケットを理解する | 事前：事前資料の確認 (30分) | 事後：講義のふりかえり (30分) |
| 12 | 障がい者のスポーツ参加 | アダプテッド・スポーツ、パラスポーツの現状を理解する | 事前：事前資料の確認 (30分) | 事後：講義のふりかえり (30分) |
| 13 | 健康づくりと運動プログラム | 運動やスポーツを習慣化するためのアプローチを学ぶ | 事前：事前資料の確認 (30分) | 事後：講義のふりかえり (30分) |
| 14 | 生涯スポーツとヘルスマーケション | アクティブなライフスタイルの創造と提供 | 事前：事前資料の確認 (30分) | 事後：講義のふりかえり (30分) |
| 15 | まとめ | 授業の総括と理解度の確認 | 事前：事前資料の確認 (30分) | 事後：今後についての検討 (30分) |

| | |
|------|-------------------------|
| 関連科目 | スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ 生涯スポーツ実習 |
|------|-------------------------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|------------------------------|----------------------------|----------|----------|
| | 1 | スポーツ白書 2020-2030年のスポーツのすがた | 笹川スポーツ財団 | 笹川スポーツ財団 |
| 2 | 生涯スポーツ実践論-生涯スポーツを学ぶ人たちに-改訂4版 | 川西正志・野川春夫 (編著) | 市村出版 | |
| 3 | これからの健康とスポーツの科学 第5版 | 安部 孝・琉子友男 (編著) | 講談社 | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 毎回の小レポート (30%) と期末レポート (30%)、小テスト (40%) で評価し、60%以上で合格とする。 |
|-----------|---|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 質問等がある場合は、事前にアポイントメントをとり、総合体育館事務室に来ること |
|-----------|--|

| | |
|----------|--|
| 担当者の研究室等 | 5号館1階 共同研究室もしくは総合体育館スポーツ振興センター事務室 メールアドレス: megumi.tani@setsunan.ac.jp |
|----------|--|

| | |
|----|---|
| 備考 | 初めのガイダンスには必ず出席のこと。 欠席を5回以上した際の単位取得は認めない。 |
|----|---|

| | | | |
|----------------|-----------|----------|--------------|
| 科目名 | 心理学 I | 科目名 (英文) | Psychology I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 山本 雅代 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IHU1301a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 心理学とは、我々が周囲のさまざまな環境とのかかわりの中で行う行動やその背景にある心を客観的に理解しようとする学問である。授業では人間の心と行動に関して科学的に認められる傾向性や法則性について検討し、心理学における専門的基礎知識を学習することを目的とする。特に心理学 I では、個人に焦点をあて、かつ社会的現実と対比した日常での問題を取り上げ人間の理解を目指す。 |
| 到達目標 | 1) 心理学についての基礎知識を習得する。2) 人間の行動を理解する。3) 社会の中の自己を確認する。4) 実生活と心理学のかかわりを理解し、日常生活に生かす。 |
| 授業方法と留意点 | 基本的に講義形式。より理解を深めるため必要に応じて VTR を使用する。簡単な心理学実験や自己分析などを行い、ディスカッション、課題の提出やレポートの提出を求める場合がある。講義資料は Moodle に提示する。講義の中で、課題の回答や、意見を求める場合は、Moodle・Google forms・QR コードを用いる。回答を回収した上で、心理学の問題について解説する。携帯を忘れたり、充電が切れている場合は、紙での回答ができるので申し出て提出すること。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 教養としての心理学を学ぶ。人間の行動を科学的に理解することによって現実社会でおこる問題に適応的に行動できるようになる。 |

| | | | | |
|------|-------------------------|-------------------|---|---|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | 心理学とはどのような学問か | 授業の進め方、注意点について説明する。心理学、心理学研究の考え方、今までの歩みについて概説する。 | 事前: 心理学の印象について自分なりの考えをまとめておくこと 学期末に向けての注意点は覚えておく (1 時間) 事後: 課題作成 (1 時間) |
| | 2 | 生物学的基礎 | 他の動物が行う行動と比較しながら、生得的行動とは何か、初期経験が人間に与える影響について説明する。 | 前回の授業での VTR について課題を提出する。 事前: 実験手続き・関連文献を紹介するので読んでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめ、ノートを作成 (1 時間) |
| | 3 | 初期学習 | 人間はいかに学ぶのか、また愛着について説明する。 | 前回の授業の課題を提出する。 事前: 実験手続き・関連文献を紹介するので読んでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成する (1 時間) |
| | 4 | 条件づけ | 条件づけとは何か、古典的条件づけ、オペラント条件づけについて説明する。 | 事前: 関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成する (1 時間) |
| | 5 | 社会的学習 (1) | 学習とは学校での勉強のことでなく、経験のことをいう。人間における経験や、環境がいかに大切であるかまた学習効果について説明する。 | 事前: 関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成する (1 時間) |
| | 6 | 社会的学習 (2) | 子どもたちは様々な社会・環境から影響を受け経験を積んでいく。事実に基づいた出来事を紹介し、社会的学習について考察する。 | 事前: 関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成する (1 時間) |
| | 7 | ポジティブな学習とネガティブな学習 | 実験結果から読み取れる問題、人間の傾向についての検討。学習全般のまとめを行なう。 | 事前: 関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成する 実験結果についてレポート作成する (2 時間) |
| | 8 | 動機づけ (1) | 人間が行動に駆り立てられる状況、様々な動機、動機の階層について説明する。 | 事前: 関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成する (1 時間) |
| | 9 | 動機づけ (2) | 生物的動機、内発的動機の違いについて説明する。 | 事前: 関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成すること 授業の中で紹介した人物の動機について自分なりの考えをまとめて提出する。(2 時間) |
| | 10 | 動機づけ (3) | 社会的動機について説明する。人間がどのような動機を持つか、社会環境に影響受ける動機について事例や実験を通して解説する。 | 事前: 関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成する (1 時間) |
| | 11 | パーソナリティ (1) | パーソナリティがどのようなものであるのか概説する。 | 事前: 関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成する (1 時間) |
| | 12 | パーソナリティ (2) | パーソナリティのとらえ方。パーソナリティの形成について説明する。 | 事前: 関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成する (1 時間) |
| | 13 | パーソナリティ (3) | 実際に使用されている様々なパーソナリティテストについて解説する。 | 事前: 関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成する (1 時間) |
| | 14 | パーソナリティ (4) | パーソナリティについて自己分析を行う。 | 事前: 関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成する (1 時間) |
| | 15 | まとめ | 授業全体のまとめを行う。 | 事前: 授業全般、分からない部分についてまとめておくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成する (1 時間) |
| 関連科目 | 心理学 II と併せて履修することが望ましい。 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |

| | | | | |
|---------------|---|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 講義内で行う確認テスト・小テスト・課題・レポート等を総合的に評価する。 【確認テスト50%、小テスト・課題・レポート等50%】 | | | |
| 学生への メッセージ | 心理学は、みなさんが大学で初めて学ぶ学問の一つです。講義では、今まで想像していた心理学へのイメージとは違う印象を持たれることでしょう。 心理学は科学であり、扱う研究対象は様々です。その中から、理解を深められるようできるだけ実例をあげて解説していきます。 講義を通じ、自己の行動を振り返り、取り巻く社会と自己を結びつけ、適応的に社会で生きていく手段について理解を深めて下さい。 私語、他の授業の勉強、授業への回答以外で携帯を触る、他の学生へ迷惑が及ぶような場合、教員がそのように判断した場合は退出を求める場 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 11号館6階(経営学部非常勤控室) | | | |
| 備考 | 提出課題等は、その都度、指示に従い回答、提出して下さい。それらの課題やレポートは評価の対象となります。 授業内で、携帯やPCを使用し課題を提出して頂きます。デバイスは十分充電を行っておいて下さい。忘れたり、充電が切れた場合は、用紙での提出も可能なので、申し出てください。 | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|---------------|
| 科目名 | 心理学Ⅱ | 科目名(英文) | Psychology II |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 山本 雅代 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IHU1302a1 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 心理学とは、我々が周囲のさまざまな環境とのかかわりの中で行う行動やその背景にある心を客観的に理解しようとする学問である。講義では人間の心と行動に関して科学的に認められる傾向性や法則性について検討し、心理学における専門的基礎知識を学習することを目的とする。特に心理学Ⅱでは、日常での問題を多く取り上げ現実社会における対人間・集団関係でおこる心理状況の理解を目指す。 |
| 到達目標 | 1) 心理学の知識を幅広く習得する。2) 社会と個人の関係を理解する。3) 集団におけるコミュニケーションの特質を理解する。4) 状況に左右される人間の心理や意思決定について理解する。 |
| 授業方法と留意点 | 基本的に講義形式。より理解を深めるため必要に応じてVTRを使用する。 簡単な心理学実験や自己分析などを行い、ディスカッション、課題の提出やレポートの提出を求める場合がある。 講義資料は Moodle に提示する。 講義の中で、課題の回答や、意見を求める場合は、Moodle・Google forms・QRコードを用いる。 回答を回収した上で、心理学の問題について解説する。携帯を忘れたり、充電が切れている場合は、紙での回答ができるので申し出て提出すること。 |
| 科目学習の効果(資格) | 教養としての心理学を学ぶ。 人間の行動を科学的に理解することによって現実社会でおこる問題に適応的に行動できるようになる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------------|--|---|
| | | | |
| 1 | 心理学とは何か、社会・集団の中の心理について | 授業の進め方、注意点について説明する。心理学、心理学研究についての考え方について説明する。後期において取り扱うトピックの概要説明。 【初回授業の実施方法】 授業は、オンライン(オンデマンド)で実施。 1回目は、Teamsにアクセスし、その後、Moodleの第1回目授業を閲覧すること。 【Teamsコード】【Moodle登録キー】は、シラバス下部に表記しています。 | 事前：心理学はどのような学問かまとめておく(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間) |
| 2 | 知覚(1) | 人間理解につながる「見えのしくみ」について説明する。 | 事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間) |
| 3 | 知覚(2) | 知覚の種類、特徴、見えに及ぼす社会的影響について説明する。 | 事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間) |
| 4 | 知覚(3) | 知覚と消費行動。見る行為と消費がどのようにつながっているのか、説明する。 | 事前：実験について事前に紹介するので関連文献を読んでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する 実験についてまとめる(2時間) |
| 5 | 対人関係(1) | 人はどのように他者を認知し自分を呈示していくものなのか、対人認知や印象形成について説明する。 | 事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間) |
| 6 | 対人関係(2) | 人はどのような事をきっかけに親しくなっていくのか、実験によって科学的に証明された「対人魅力」について説明する。 | 事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間) |
| 7 | 対人関係(3) | 「対人魅力」について説明する。親しくなっていく要因について更に解説する。 | 事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間) |
| 8 | 対人関係(4) | 「対人魅力」の分野における、好きと愛の行動パターンについての研究を紹介する。自己の愛のタイプについて実際に考えてみる。 第8回より対面授業 | 事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間) |
| 9 | 集団(1) | 「集団」についての心理学的視点・これまでの研究を紹介する。 | 事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間) |
| 10 | 集団(2) | 「集団討議」について考えてみる。 | 事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間) |
| 11 | 集団(3) | 集団のもつ持つ影響力として「同調」と「服従」について説明する。 | 事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間) |
| 12 | 集団(4) | ジンバルドが行った「監獄実験」について説明する。 | 事前：うわさの実験について紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間) |
| 13 | 集団(5) | 「情報伝搬」「うわさ」によるパニック行動、うわさの分類、社会的機能、発生、消滅のメカニズム等について、実際に世界でおきた事件を例に説明する。 | 事前：どのような援助が考えられるか考えておくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間) |
| 14 | 集団と援助行動 | 集団の中に個人が埋没すると、援助行動が行われない場合がある。援助行動が行われない状況とはどのような状況か、意 | 事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間) |

| | | | | |
|---------------|---|-----------|---|--|
| | | | 思決定はどのように行われるのか、実際のニュースなどを例に説明する。援助行動と対人ネットワークの重要性について説明する。 | |
| | 15 | まとめ・確認テスト | 授業全体のまとめ・確認テストを行う。 | 事前：疑問点がどこにあるのか考えておく（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間） |
| 関連科目 | 心理学 I | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 講義内で行う確認テストやレポート、課題提出等を総合的に評価する。 【授業内で行う小テスト・確認テスト 50% 課題・レポート提出 50%】 | | | |
| 学生への メッセージ | 心理学は、みなさんが大学で初めて学ぶ学問の一つです。講義では、今まで想像していた心理学へのイメージとは違う印象を持たれることでしょう。 心理学は科学であり、扱う研究対象は様々です。その中から、理解を深められるようできるだけ実例をあげて解説していきます。講義を通じ、自己の行動を振り返り、取り巻く社会と自己を結びつけ、適応的に社会で生きていく手段について理解を深めて下さい。 私語、他の授業の勉強、授業への回答以外で携帯を触る、他の学生へ迷惑が及ぶような場合、教員がそのように判断した場合は退出を求める場合がございます。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 11 号館 6 階(経営学部非常勤控室) | | | |
| 備考 | 提出課題等は、その都度、指示に従い回答、提出して下さい。それらの課題やレポートは評価の対象となります。 授業内で、携帯や PC を使用し課題を提出して頂きます。デバイスは十分充電を行っておいて下さい。忘れたり、充電が切れた場合は、用紙での提出も可能なので、申し出てください。 | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|--------------|
| 科目名 | 哲学 I | 科目名 (英文) | Philosophy I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 田中 俊 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IHU1303a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | ある事柄が「科学的に正しい」と言われたら、私たちはつい、それが絶対的に正しいのだと思ってしまうがちです。ところがそれにもかかわらず、私たちは日常生活の上では、「科学的に」正しいだけでなく、「将来的に」「倫理的に」「文脈的に」等々、様々な正しさの中で自分の行動を決定しなければなりません。つまり私たちは、科学を唯一絶対の基準として生活することはできないのです。しかもその一方で、複数の基準は互いに相容れないこともあります。そのため、人生においては正しいか間違っているのか、一概には言えない場面に出会うことになります。こうした割り切れない状況に向き合うために人間は「様々な見方同士がどのようにして関わり合っているのか」ということを考えてきました。この営みは「哲学」と呼ばれています。本講義では、その哲学において登場する問題と考え方のいくつかを学びます。 |
| 到達目標 | 1. 一つの物事には多様な見方が存在するということを学ぶ 2. 哲学の歴史と学説に関する基礎的な知識を学ぶ |
| 授業方法と留意点 | 配布資料を教科書として用いる。 毎回授業終わりにコメントを提出してもらい（方法は初回授業で指示する）、次回の授業冒頭でそれに対する応答を行う。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 哲学的思考を用いて物事を立体的に理解することができるようになる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------------------|---------------------|--|
| | | | |
| 1 | イントロダクション | 講義の進め方や評価基準等を確認する | 予習：シラバスに目を通しておく 復習：哲学について考える (30分) |
| 2 | なぜ「哲学」をするのか？ | 古代懐疑主義の哲学を学ぶ | 予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分) |
| 3 | 「知る」とは何か？ | プラトン『パイドン』を学ぶ | 予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分) |
| 4 | 「何のために」という見方はなぜ重要なのか？ | アリストテレスの目的論を学ぶ | 予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分) |
| 5 | 「絶対に疑えないもの」は何か？ | デカルト『省察』を学ぶ | 予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分) |
| 6 | 物事を「経験」としてはどういうことか？ | ロックの経験論を学ぶ | 予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分) |
| 7 | 世界は本当に「存在」するのか？ | バークリとヒュームの観念論を学ぶ | 予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分) |
| 8 | 「理性」はどこまで考えられるのか？ | カントの理性批判を学ぶ | 予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分) |
| 9 | 「自由」とは何か？ | 近代哲学における自由概念の変遷を学ぶ | 予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分) |
| 10 | 積極的に「悪」を成すことはできるか？ | シェリング『人間的自由の本質』を学ぶ | 予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分) |
| 11 | どうすれば「人間の生きる世界」を観察することができるのか？ | フッサールの生活世界を学ぶ | 予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分) |
| 12 | 「死」とはどのようなことか？ | ハイデガーの時間論を学ぶ | 予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分) |
| 13 | なぜ「個人」は尊重されるべきなのか？ | サルトルの実存主義を学ぶ | 予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分) |
| 14 | 「他者」とはどういうものか？ | レヴィナス『全体性と無限』を学ぶ | 予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分) |
| 15 | まとめ | 講義全体を振り返り、哲学の意義を考える | 予習・復習：講義ノートを見直す (計1時間) |

| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|--|-----|-----|------|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | |
| | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>生活世界の構造</td> <td>アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン</td> <td>ちくま学芸文庫</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>観念論ってなに？ オックスフォードより愛をこめて</td> <td>富田恭彦</td> <td>講談社現代新書</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 生活世界の構造 | アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン | ちくま学芸文庫 | 2 | 観念論ってなに？ オックスフォードより愛をこめて | 富田恭彦 | 講談社現代新書 | 3 | | | |
|-----|---|--------------------------|------------------------|---------|------|---|---------|------------------------|---------|---|--------------------------|------|---------|---|--|--|--|
| | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | |
| | 1 | 生活世界の構造 | アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン | ちくま学芸文庫 | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | 観念論ってなに？ オックスフォードより愛をこめて | 富田恭彦 | 講談社現代新書 | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|---------------|--|
| 評価方法 (基準) | 学期末のレポート80%、毎回の授業内課題(コメント)20%の割合で評価する。 |
| 学生への メッセージ | 一見して奇妙に見える意見も、必ず発言者なりの見方や考え方に基づいています。これは親しい友人でもはるか昔の哲学者でも同じことことです。見慣れない考え方に粘り強く接することによって、人生の可能性(生きている間にできること)が広がります。 |
| 担当者の 研究室等 | 非常勤講師控室 |
| 備考 | 講義に関する質問等は授業前後に教室または非常勤講師控室にて対応する。 |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|---------------|
| 科目名 | 哲学Ⅱ | 科目名 (英文) | Philosophy II |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 濱 良祐 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IHU1304a1 | | |

授業概要・目的
「哲学」と聞くとひどく難しい学問であると感じられるかもしれないし、ひとによっては役に立たない、自分には関係ない、と思うかもしれない。しかし、私たち人間は人生において誰もが必ず「私とは何か」、「他者とは何か」、「幸せとは何か」など、人間存在・人間関係に根本的に関わる難問に出会うことになる。

この授業は、そうした人生における難問に自ら向き合えるようになるための準備である。そのためにこの授業では西洋哲学の諸思想を通して人間存在や社会に関わる諸問題に取り組み、さらに現代という時代を生きる私たち自身のあり方について考察していく。

到達目標
(1) 哲学に関する基礎的な知識を習得すること。
(2) 人間存在や社会の問題に対する哲学的な洞察力と、主体的な思考力を身につけること。
(3) 自らの思考を適切に伝えるための論理的表現力を高めること。

授業方法及び留意点
講義形式
授業時に講義内容に関するプリントを配布する。参考文献は必要に応じて授業中に適宜紹介する。

受講者には、授業で紹介される哲学思想を単に学習するだけでなく、それらについて自らで思考し、批判的に吟味するように求めたい。

前の回までの内容をふまえて講義することになるので、各授業後にしっかりと復習を行い、ノートや資料の整理をしておくこと。病気などやむをえない事情で欠席した場合には、その回の資料を入手し、目を通しておくこと。

授業期間中に授業の理解度を試す小レポートを数回実施する。

小レポートと期末レポートの提出はMoodle上で行ってもらう。

科目学習の効果 (資格)
現代社会の一員として主体的に生きるための、思考力と幅広い見識と教養を身につけることができる。

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------------|--|---|
| 1 | オリエンテーションとイントロダクション | 授業の進め方、目的について説明する。「哲学」することの意義について考察する。 | 〈復習〉ノート・資料の整理。 |
| 2 | 「知」の可能性—哲学の端緒 (1) | 古代ギリシアの思想を通して「知」の可能性について考察する。 | 〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。 |
| 3 | 「知」の探求—哲学の端緒 (2) | ソクラテスの思想を通して「知」の探求の意義について考察する。 | 〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。 |
| 4 | 近代科学の方法と哲学 (1) | 西洋近代における自然観・人間観の変化と、それに基づく近代科学の発生などについて考察する。 | 〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。 |
| 5 | 近代科学の方法と哲学 (2) | 近代科学の方法論とその限界を、哲学的視点から考察する。 | 〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。 |
| 6 | 近代的自我の確立—デカルト (1) | デカルトの思想を紹介し、近代的自我の意義について考察する。 | 〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。 |
| 7 | 合理主義の世界観—デカルト (2) | デカルトの思想から、哲学における「神」と「世界」の意義について考察する。 | 〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。 ※この回以降、対面授業に移行。 |
| 8 | 経験主義の認識論 (1) | ロックの思想から、確実な「知識」と蓋然的な「信念」の違いについて考察する。 | 〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。 |
| 9 | 経験主義の認識論 (2) | ヒュームの認識論を取り上げ、人間はなぜ不確実なものを確実だと信じるのか、という問題について考察する。 | 〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。 |
| 10 | 啓蒙と理性 | 啓蒙主義における人間の理性への確信と、その限界について考察する。 | 〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。 |
| 11 | 経験主義と合理主義の総合—カント (1) | カントの認識論の基本的前提について考察する。 | 〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。 |
| 12 | 対象の構成—カント (2) | カントの認識論における構成のしくみについて考察する。 | 〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。 |
| 13 | 真理の内在主義—カント (3) | カントのコペルニクスの転回の意義について考察する。 | 〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。 |
| 14 | 理性の二律背反—カント (4) | カント哲学における自然と自由の二元論と、それに基づく人間観について考察する。 | 〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。 |
| 15 | 総括と展望 | これまでの学習内容を概観し、その成果を確認すると同時に残された課題についての展望を示唆する。 | 〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。 |

関連科目
哲学Ⅰ、社会学、社会と人権

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |

| | | | |
|---------------|--|--|--|
| | 3 | | |
| 評価方法 (基準) | 授業内での小レポート等を40%、期末レポートを60%として、総合的に評価する。 | | |
| 学生への メッセージ | | | |
| 担当者の 研究室等 | | | |
| 備考 | 提出物についての全体的な講評は授業内で行う。具体的な評価に関する問い合わせ、質問等には学内メールおよび Teams で対応することができる。 授業外学習の目安は、予習復習を合わせて毎回1時間程度とする。 | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|------------------|
| 科目名 | 日本の歴史 | 科目名 (英文) | History of Japan |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 山本 康司 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IHU1306a1 | | |

| | |
|----------|--|
| 授業概要・目的 | 歴史学とは、過去の諸事象を研究する学問である。物事を長期的な視野からみるという姿勢を持つことや、現在とは異なる政治・文化等を知ることとは、現代社会を見つめ直す際に重要な手段となる。 そのなかで、本授業では、日本の歴史の基本的な流れを理解することを目的とする。 古代から近現代まで、毎回テーマを設定し、講義を行う。 随時、最新の研究成果を紹介するとともに、歴史学的手法や考え方についても紹介する。 |
| 到達目標 | この授業を通じて学生には、日本の歴史に関する正しい知識を得るとともに、歴史学的な考え方について理解できるようになることが期待される。 |
| 授業方法と留意点 | 授業ごとにプリントを配付する。 |

| | |
|--------------|--|
| 科目学習の効果 (資格) | |
|--------------|--|

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------------|--|--|
| | | | |
| 2 | 古代 1 : 古代国家の形成 | 農耕社会の成立から、ヤマト政権の誕生、律令国家の形成までを概観する。 | 予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。 |
| 3 | 古代 2 : 摂関政治から院政へ | 摂関政治や院政について説明する。また、仏教や新たな文化の発達についても概観する。 | 予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。 |
| 4 | 古代 3 : 武士の登場 | 武士の誕生と貴族社会の関係について説明する。 | 予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。 |
| 5 | 中世 1 : 武家政権の成立と展開 | 武家政権である平氏政権や鎌倉幕府について概観する。特に、鎌倉幕府の成立過程について説明を加える。 | 予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。 |
| 6 | 中世 2 : 元寇から南北朝内乱へ | 鎌倉幕府の制度や承久の乱、元寇について概観し、鎌倉幕府の滅亡について考える。 | 予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。 |
| 7 | 中世 3 : 室町幕府の成立と展開 | 室町幕府の成立や、南北朝の動乱について概観する。 | 予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。 |
| 8 | 中世 4 : 戦国時代へ | 戦国大名の登場から天下統一までの動向を説明する。 | 予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。 |
| 9 | 近世 1 : 江戸幕府の成立と展開 | 江戸幕府の成立過程や制度、対外政策について概観する。 | 予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。 |
| 10 | 近世 2 : 江戸幕府の動揺 | 幕藩体制や江戸幕府の諸政策・改革について概観する。また、江戸時代の村についても説明をする。 | 予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。 |
| 11 | 近世 3 : 江戸幕府の終焉 | 倒幕運動の広まりや、江戸幕府の対外政策・開港について概観する。 | 予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。 |
| 12 | 近現代 1 : 明治政府の成立と近代国家への歩み | 明治政府の諸政策を概観し、近代国家への歩みについて説明する。 | 予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。 |
| 13 | 近現代 2 : 日清・日露戦争と日本 | 日清・日露戦争や国際関係、当時の日本政治について概観する。 | 予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。 |
| 14 | 近現代 3 : 第二次世界大戦 | 第二次世界大戦と日本の関わりについて概観する。 | 予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。 |
| 15 | 近現代 4 : 戦後日本と現代社会 | 敗戦後に日本の復興と現代社会への繋がりについて説明する。 | 予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。 |

| | |
|------|--|
| 関連科目 | |
|------|--|

| | | | | |
|---------------|--|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 授業ごとのコメントペーパー 30% 期末レポート 70% コメントペーパーでは、授業の内容を理解しているかを評価する。 期末レポートでは、授業全体を通じて日本の歴史の流れを理解した上で、自らの興味・関心に基づいてレポート作成ができるかを評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 積極的に学ぶ意欲を持つ学生の受講を希望します。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | | | | |
| 備考 | 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|----------|----------------------|
| 科目名 | 世界の歴史 | 科目名 (英文) | History of the World |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 村上 司樹 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IHU1307a1 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | この授業は、都市がキーワードの世界史講義です。そして歴史を学ぶとは、単に過去を暗記することではなく、現在を知り未来を見通す知恵を磨くことです。必要なのは、暗記力ではなく、知らないうちは否定から入らない態度。未知なもの(ふつう「異常」に見える)を否定したくなる感情に、理性でブレーキをかけ、自分を変えていくことです。よく学ぶことによって、単位だけではなく、単位以上のものを手に入れてほしいと思います。 |
| 到達目標 | 都市という視点から世界史(特に中国とヨーロッパの歴史)の概要を説明できるようになる。歴史的視野をもって、現在を見たり、未来を考えたりできるようになる。具体的・論理的な考え方、語り方を身につける。 |
| 授業方法と留意点 | 教科書は使わず、プリントを使って授業する。課題(レスポンス・ペーパーとレポート)の提出はオンラインで行う。試験(学期末テスト)は対面で行うが、対面が不可能になったときはレポート(オンライン提出)に代える。 |
| 科目学習の効果(資格) | 都市という視点から世界史(特に中国とヨーロッパの歴史)の概要を説明できるようになる。歴史的視野をもって、現在を見たり、未来を考えたりできるようになる。具体的・論理的な考え方、語り方を身につける。 |

| | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------|---|--|--------------------------------------|
| | 1 | 歴史を学ぶにあたって | 歴史は異文化理解 / 手で食べる文化は劣っている? / 知らないうちは否定から入るな | プリントの読み返しと先読み(1時間) / レスポンス・ペーパー(1時間) |
| 2 | 歴史を学ぶにあたって | 恋愛結婚が主流になったのは最近 200年間のこと / 赤ん坊と幼い子の半数が死ぬ日常 / 女性にとっての出産と男性にとっての戦争 | プリントの読み返しと先読み(1時間) / レスポンス・ペーパー(1時間) | |
| 3 | 歴史を学ぶにあたって | さらに社会的圧力(嘲笑や非難)がかかる / 親心が「なかった」のではなく「形が違っていた」 / 就活や通勤がない日常 | プリントの読み返しと先読み(1時間) / レスポンス・ペーパー(1時間) | |
| 4 | 歴史を学ぶにあたって | 「優しい父母」というだけでは務まらなかった / 家庭が職場だから結婚は仕事 / 恋愛結婚させるのは「残忍な親」という考え方 | プリントの読み返しと先読み(1時間) / レスポンス・ペーパー(1時間) | |
| 5 | 歴史を学ぶにあたって | 童話「長靴をはいた猫」から読み取れる男性の苦難 / 構造的に生み出される男尊女卑の状況 / それでも、一言で片づけられる人生などない | プリントの読み返しと先読み(1時間) / レスポンス・ペーパー(1時間) | |
| 6 | 歴史を学ぶにあたって | 27世紀の学生が21世紀の歴史を学んだら... / 具体性と論理性は手間暇と思いやりの問題 / 古来のマジカルナンバー3 | プリントの読み返しと先読み(1時間) / レスポンス・ペーパー(1時間) | |
| 7 | 都市を窓に世界史を見る | 都市は世界史を見通すのに有効な窓 / 首都は文字通り人体の首にあたる都市 / 世界史は前近代と近現代で大きく分かれる | プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー | |
| 8 | 都市を窓に世界史を見る | 人間の生活は都市の出現で劇的に複雑高度化した / いわゆる四大文明に共通の流れ / 良くも悪くも文明は都市とともにある | プリントの読み返しと先読み(1時間) / レスポンス・ペーパー(1時間) / レポート準備(1時間) | |
| 9 | 都市を窓に中国史を見る | 中国の歴史は政治的な都市を軸として展開 / 「中国」の原義は「中心の都市」 / 領域国家の大統合(天下統一) | プリントの読み返しと先読み(1時間) / レスポンス・ペーパー(1時間) / レポート準備(1時間) | |
| 10 | 都市を窓に中国史を見る | 多文化・多民族を統べる巨大国家、中国の歴史が本格的にスタート / 都市は大帝国の行政拠点 / 都市も大帝国の統治方針と共に変わる | プリントの読み返しと先読み(1時間) / レスポンス・ペーパー(1時間) / レポート準備(1時間) | |
| 11 | 都市を窓に中国史を見る | 巨大インフラ大運河と中国都市の変容 / ナイトライフ、ファストフード、エンターテインメント産業 / それでも、何よりまず行政拠点であった | プリントの読み返しと先読み(1時間) / レスポンス・ペーパー(1時間) / レポート準備(1時間) | |
| 12 | 都市を窓に中国史を見る | 中国全体で見れば農村的な社会が続いた / 西洋との関係、日本との違い / 始まった本格的な都市化 | プリントの読み返しと先読み(1時間) / レスポンス・ペーパー(1時間) / レポート準備(1時間) | |
| 13 | 都市を窓にヨーロッパ史を見る | ヨーロッパの歴史は小さな都市を軸として展開 / 決して豊かとは言えない自然 / ユーラシアの辺境と言う位置 | プリントの読み返しと先読み(1時間) / レスポンス・ペーパー(1時間) | |
| 14 | 都市を窓にヨーロッパ史を見る | 農業経済と宗教組織がヨーロッパ都市を育てた / 政治的分裂が都市の自治を育てた / ヨーロッパ都市が大きくなったのは近代 | プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー | |
| 15 | 都市を窓にヨーロッパ史を見る | 近代への反省が現代の出発点 / ヨーロッパで見られる小さな都市への回帰の試み / 手がかりは、ヒューマンスケールのコンパクトさ、住民自身による都市コントロールの可能性 | プリントの読み返し(1時間) / レスポンス・ペーパー(1時間) | |

| 関連科目 | | | | | | | | | |
|------|---|-----|------|-----|------|--|--|--|--|
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

| | | | | |
|---------------|--|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 成績 (100%) は以下 3 種類の課題、テスト (40%)、レポート (30%)、レスポンス・ペーパー (30%) で評価する。テストは論述 1 問で持ち込み可。レポートについては「レポートの手引き」(つまりマニュアル) を配布する。レスポンス・ペーパーは (レポートも同様だが) オンライン提出。 | | | |
| 学生への メッセージ | 毎回の授業後にレスポンス・ペーパーを提出してもらいます。が、強制ではありません。つまりこのレスポンス・ペーパーを、「毎回だるい課題を押しつけられるピンチだ」と捉えて嫌そうな顔をするか、「毎回こつこつ点数を取れるチャンスだ」と捉えて目を輝かせるか、すべてはあなた次第。大学の授業と言うのは、良くも悪くも「大人の学び」、自分次第なものだ(「自由」とも「自己責任」とも言える) と思います。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|--------------------|
| 科目名 | 地誌学 | 科目名 (英文) | Regional Geography |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 渡邊 英明 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IHU1308a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 地誌学は、地域を構成する諸要素を体系的に捉え、その特色を解明しようとする分野である。本講義では、世界各地における自然環境と人間生活との関わりを通して、地域の特色を学習する。 |
| 到達目標 | 地誌学の基本的な考え方について、具体的な事例を通して理解できるようになる。 さまざまな地域における固有の人間生活とその重要性を理解し、自らが生きる社会について相対的に捉える視点を身につける。 |
| 授業方法と留意点 | 教科書を用いて講義形式で進める。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 中学社会・高校地理歴史教員免許 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------|----------------|---|
| | | | |
| 1 | ガイダンス | 小中高の地理と大学の地誌学 | 講義ノートを確認しておくこと (事後学習 3 時間) |
| 2 | 寒帯・冷帯気候と住民生活 (1) | 冷涼地域の農業 | 教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間) |
| 3 | 寒帯・冷帯気候と住民生活 (2) | 極北の狩猟民・イヌイット | 教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間) |
| 4 | 寒帯・冷帯気候と住民生活 (3) | 山岳地帯の牧畜 | 教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間) |
| 5 | 温帯気候と住民生活 (1) | ヨーロッパの自然と住民生活 | 教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間) |
| 6 | 温帯気候と住民生活 (2) | 先進国の都市問題 | 教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間) |
| 7 | 温帯気候と住民生活 (3) | 日本の自然と住民生活 | 教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間) |
| 8 | 熱帯気候と住民生活 (1) | 熱帯雨林の変化 | 教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間) |
| 9 | 熱帯気候と住民生活 (2) | タンザニアのコーヒー生産 | 教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間) |
| 10 | 熱帯気候と住民生活 (3) | 熱帯雨林の狩猟採集民 | 教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間) |
| 11 | 熱帯気候と住民生活 (4) | 発展途上国の都市問題 | 教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間) |
| 12 | 乾燥・半乾燥気候と住民生活 (1) | 季節河川と地域住民 | 教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間) |
| 13 | 乾燥・半乾燥気候と住民生活 (2) | 乾燥地帯で生きる人々 (1) | 教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間) |
| 14 | 乾燥・半乾燥気候と住民生活 (3) | 乾燥地帯で生きる人々 (2) | 教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間) |
| 15 | まとめ | 総括と期末試験の説明 | 教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 3 時間) |

| | |
|------|--------------|
| 関連科目 | 人文地理学, 自然地理学 |
|------|--------------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|----------------------------|------|------|
| | 1 | 世界がわかる地理学入門：気候・地形・動植物と人間生活 | 水野一晴 | 筑摩書房 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 期末試験 60%, 授業内課題 30%, 中間試験 10% 授業内課題は、各回の授業内容に関する穴埋め問題等である。また、中間試験は授業内で実施し、論述形式で出題する。授業内で実施する中間試験については、翌週以降の授業で解説を行う。 |
|-----------|---|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 高校で地理 (A・B) を履修していない人も問題なく受講できます。授業内容を正しく理解するため、毎回きちんと出席し、ノートを取りながら集中して受講してください。また、簡単な質問等は授業内課題の余白部分に記入してください。翌週の授業内で回答します。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|------------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 (非常勤講師控室)。 |
|----------|------------------|

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-----------------|
| 科目名 | 人文地理学 | 科目名 (英文) | Human Geography |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 小林 基 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IHU1309a1 | | |

授業概要・目的
この授業では人文地理学という学問分野の基礎知識について学びます。
人文地理学は、空間・地域・環境といった視点から、私たち人類が住む世界の成り立ちを理解し、説明しようとする学問です。様々な学問分野の間の境界領域に位置し、研究対象も方法も多岐にわたっているという特徴を持ちます。
本講義では、こうした人文地理学の基本的な見方、考え方を身につけることを目的とします。

到達目標
・人文地理学の基本となる考え方について説明できること。
・特定の問題について人文地理学的な視点から捉えることができること。

授業方法と留意点
・主に ①人文地理学がカバーする諸領域、②現代社会を理解するうえで重要と考えられる理論・学説、③人文地理学の歴史と現代的諸課題について講義します。
・学生の皆さんには、理解度を問うための小課題（理解度チェック）とレポートに取り組んでもらいます。

科目学習の効果（資格）
担当教員は、人文地理学を学ぶことに以下のような利点があると考えています。少し難しいですが、授業を最後まで受講することで理解できるでしょう。
(1) 一つの見方や方法論に縛られない複眼的思考が身につく。
(2) さまざまな事象が地域・場所によって異なることを理解し、比較する視点を持つことができる。
(3) 個人、地域社会、都市、国家、世界とスケールを変えて物事をみることができる。
(4) 距離や空間の広がり／狭まりが社会にどんな影響を及ぼすか考えることができる。
(5) 人と

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------|--|-------------------------------------|
| | | | |
| 1 | 人文地理学とはどのような学問か？ | この授業の概要を理解し、人文地理学という分野の範囲と見方の特徴について学びます。 | 授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。 |
| 2 | 地図の発達史：古代から現代まで | 古代から現代にいたる地図の歴史、地図の製作・利用等について学びます。 | 授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。 |
| 3 | 自然環境と人類 | 自然環境と人類との関係を捉える視点について学びます。 | 授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。 |
| 4 | 人口動態を捉える | 人口の増減や人口移動のメカニズムについて学びます。 | 授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。 |
| 5 | 家族形態の地域的多様性 | 家族が地域的に多様であり、歴史的にも変動してきたことを学びます。 | 授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。 |
| 6 | 日本の農村と社会 | 日本の農村とその社会について学びます。 | 授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。 |
| 7 | 都市空間の発達と構造 | 都市の発達と構造をとらえる視点について学びます。 | 授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。 |
| 8 | 産業からみた都市の変遷 | 産業の変化に伴い、都市がどのように変遷してきたかを学びます。 | 授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。 |
| 9 | 国際貿易の発達 | 国際貿易の発達過程とその理由、そしてリスクについて理解します。 | 授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。 |
| 10 | 農と食をめぐる諸問題 | 世界の農業および食料供給の多様性と課題について学びます。 | 授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。 |
| 11 | 人口減少と日本の地域課題 | 人口減少、経済停滞期において日本の諸地域が抱える問題について学びます。 | 授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。 |
| 12 | ツーリズムの発達 | 地域・空間の視点から観光を捉えるための方法やその成果について学びます。 | 授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。 |
| 13 | 疫病の空間的拡散 | 疫病の空間的拡散パターンに関する研究を学びます。 | 授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。 |
| 14 | モビリティを考える | モビリティについての社会科学研究について解説します。 | 授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。 |
| 15 | 今後の社会を考える：地理学の活用 | 授業の総括と、今後の社会を考えるうえで必要な視点について考えます。 | 授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。 |

関連科目

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|---------|-----------|-----------|
| | 1 | 現代人文地理学 | 佐藤廉也・宮澤仁編 | 放送大学教育振興会 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|---------------|--|
| 評価方法 (基準) | レポート 70%、小テストおよびコメント 30% |
| 学生への メッセージ | <p>大学の地理学は、以下の点で高校までの地理とはまったく違います。</p> <p>(1) 扱うテーマが多岐に及ぶこと。さらに他分野との相互交流があること。</p> <p>(2) 試験のための勉強ではなく、自分の関心事について探索したり、深めるための学問であること。</p> <p>この授業をみなさん自身の学びのために活用してもらえらることを切に願います。</p> |
| 担当者の 研究室等 | <p>寝屋川キャンパス 7 号館 5 階小林研究室。</p> <p>※用事がある場合は、かならず先にメールで用件を伝えてください (hajime.kobayashi@setsunan.ac.jp)。</p> |
| 備考 | <p>提出物へのコメントや質問への回答などのフィードバックは、基本的に授業時間内に行う。それが困難な場合には休み時間や教員オフィスアワー等に、教員の研究室、またはメール等にて行う。</p> |

| | | | |
|---------------|-----------|----------|------------|
| 科目名 | 文学から学ぶ | 科目名 (英文) | Literature |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 古矢 篤史 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IHU1310a1 | | |

授業概要・目的

日本の近現代(明治時代から現代まで)の文学作品を講読し、日本文学の基本的な教養を身につけることを目的とする。単に作品を鑑賞するだけでなく、一つのテーマに基づいて体系的に文学の流れを辿り、読解・批評する力を養うことを大事にしたい。

本年度は、「私小説(わたくし・しょうせつ)」をテーマとする。近代に「私」を語ることを主眼とした小説群が誕生して以降、「私小説」は現代に至るまで日本文学の主要なジャンルとして成立し続けている。多様な「私小説」の諸相を辿りながら、履修者自身の「私」を見つめ直す機会にできればと考えている。

授業は「文学を読んでいない」「活字を読むのが苦手」の人も楽しめるよう、映像や漫画などを用いながら分かりやすく進めていく。この授業をきっかけに、本を読む習慣を身につけてほしい。

到達目標

①文学作品を読解する力を身につける
 ②日本文学の特徴や歴史について理解する
 ③文学作品を通じて自身の所属する「日本」を捉えなおす観点を養う

授業方法と留意点

講義を中心に行う。小説を読むことが中心となるが、映画化作品を鑑賞することもある。教材はプリントで配布する。

授業語、授業内容についてのコメントを記載してもらおう。次回授業時に、コメントの内容を共有し、教員からフィードバックを行う。教員が一方的に話すのではなく、履修者との対話的な授業を心がけたい。

授業計画は、履修者の関心や理解度に応じて、柔軟に変更しながら進める。

科目学習の効果(資格)

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------|---|--------------------------|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション | 本講義の概要、目標、評価方法について説明する | 配布プリントの確認 興味を持った作品を読む |
| 2 | リアリズムの形成 | 日本の近代においてリアリズムがどのように成立したかを学修する 坪内逍遙「小説神髓」、二葉亭四迷「浮雲」、森鷗外「舞姫」、島崎藤村「破戒」などの作品を解説する | 配布プリントの確認 興味を持った作品を読む |
| 3 | 私小説の起源(1) | 田山花袋「蒲団」を読む | 配布プリントの確認 興味を持った作品を読む |
| 4 | 私小説の起源(2) | 近松秋江「別れたる妻に送る手紙」を読む | 配布プリントの確認 興味を持った作品を読む |
| 5 | 私小説の起源(3) | 葛西善藏「子をつれて」を読む | 配布プリントの確認 興味を持った作品を読む |
| 6 | 私小説の流行(1) | 徳田秋声「徼」を読む | 配布プリントの確認 興味を持った作品を読む |
| 7 | 私小説の流行(2) | 志賀直哉「城之崎にて」を読む | 配布プリントの確認 興味を持った作品を読む |
| 8 | 私小説の流行(3) | 『奇跡』同人の作品、芥川龍之介、谷崎潤一郎の作品などを読む | 配布プリントの確認 興味を持った作品を読む |
| 9 | 私小説批判(1) | 横光利一「春は馬車に乗って」を読む | 配布プリントの確認 興味を持った作品を読む |
| 10 | 私小説批判(2) | 川端康成「伊豆の踊子」を読む | 配布プリントの確認 興味を持った作品を読む |
| 11 | 私小説批判(3) | 梶井基次郎「檸檬」を読む | 配布プリントの確認 興味を持った作品を読む |
| 12 | 戦後の私小説(1) | 三島由紀夫「仮面の告白」を読む | 配布プリントの確認 興味を持った作品を読む |
| 13 | 戦後の私小説(2) | 安岡章太郎「陰気な愉しみ」など(第三の新人)を読む | 配布プリントの確認 興味を持った作品を読む |
| 14 | 戦後の私小説(3) | 現代までの私小説について概括する また、この回で試験の案内をする | 配布プリントの確認 興味を持った作品を読む |
| 15 | 総括・試験(レポート) | 試験(レポート)を実施する | これまでの授業の振り返り |

関連科目

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

評価方法(基準)

平常点 100% (コメント 60%、試験 40%)

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | |
| 担当者の研究室等 | 古矢研究室（7号館4階） |
| 備考 | 提出されたコメントに対するフィードバックは、次の授業内で行う。 事前事後学習時間は60時間（事前2時間、事後2時間）を目安とする。 |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-------------|
| 科目名 | 社会学 I | 科目名 (英文) | Sociology I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 山本 圭三 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IHU1311a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 私たちの生きる社会は、どのような仕組みで動いているのか。社会にはどのような問題があり、それはなぜ生じているのか。本講義では、さまざまな社会問題を発見しそれを解決するために必要な、社会学の基本的な認識枠組みについて解説する。具体的には、知的専門職業人として必要になる社会的な考え方や基礎知識を紹介したのち教育・ジェンダーや家族、仕事とくらしといったテーマをとりあげ、それにかかわる社会学の諸研究を解説していく。これらを通して、受講生自身が上記の問いに向きあえるようになることを目的とする。 |
| 到達目標 | 授業で説明した社会学の基本的な知識・考え方が説明できる (DP1)。 社会問題を発見し、社会的な発想をもとに考察できる。 社会問題について、社会学の知識に基づいた解決策を考えることができる。 |
| 授業方法と留意点 | 講義形式を基本とするが、学生どうしでのディスカッション、映像資料の視聴なども適宜おこなう。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 社会生活を送る上で何かと直面することになるであろう「人と人」「人と集団」「集団と集団」に関わる問題に対する、幅広い視点を養う。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------|--------------------------|---|
| | | | |
| 1 | イントロダクション | 講義へのオリエンテーション | (事前) シラバスの理解 (事後) 配布された資料に基づいて内容を復習する (0.5 時間) |
| 2 | 1 社会学とは | 社会学における基礎的な知識と発想 (1) | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5 時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (0.5 時間) |
| 3 | 1 社会学とは | 社会学における基礎的な知識と発想 (2) | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5 時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (0.5 時間) |
| 4 | 1 社会学とは | 社会学における基礎的な知識と発想 (3) | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5 時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (0.5 時間) |
| 5 | 1 社会学とは | 社会学における基礎的な知識と発想 (4) | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5 時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (0.5 時間) |
| 6 | 1 社会学とは | 社会学における基礎的な知識と発想 (5) | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5 時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (0.5 時間) |
| 7 | 2 教育・ジェンダー・家族 | 学歴社会の基本メカニズム | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5 時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (0.5 時間) |
| 8 | 2 教育・ジェンダー・家族 | ジェンダーとそれに関わる諸問題 | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5 時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (0.5 時間) |
| 9 | 2 教育・ジェンダー・家族 | 現代における家族 | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5 時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (0.5 時間) |
| 10 | 3 仕事とくらし | 我々にとって仕事とは | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5 時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (0.5 時間) |
| 11 | 3 仕事とくらし | 働く場の現実 | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5 時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (0.5 時間) |
| 12 | 3 仕事とくらし | 現代における「豊かさ」の内実 | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5 時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (0.5 時間) |
| 13 | 4 現代社会の諸問題 | 我々が生きる社会の現実 (1) 資料からみる現実 | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5 時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (0.5 時間) |
| 14 | 4 現代社会の諸問題 | 我々が生きる社会の現実 (2) 資料からみる現実 | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5 時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (0.5 時間) |
| 15 | まとめ | 講義を終えるにあたって | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5 時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (0.5 時間) |

関連科目 社会学 II

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|---------------|---|
| 評価方法 (基準) | 授業態度 20%、課題 80%で評価する。 |
| 学生への メッセージ | やや厳しい授業ですが、テーマに関心をもったやる気のある学生は受講してください。大事なのは「正解のない問題」と向き合う際の姿勢です。 |
| 担当者の 研究室等 | 11号館7階 山本准教授室 |
| 備考 | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|--------------|
| 科目名 | 社会学Ⅱ | 科目名(英文) | Sociology II |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 山本 圭三 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IHU1312a1 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 私たちの生きる社会は、どのような仕組みで動いているのか。社会にはどのような問題があり、それはなぜ生じているのか。本講義では、さまざまな社会問題を発見しそれを解決するために必要な、社会学の基本的な認識枠組みについて解説する。具体的には、情報や社会意識、医療・福祉といったテーマをとりあげ、それにかかわる社会学の諸研究を解説していく。これらを通して、受講生自身が知的専門職業人として上記の問いに向きあえるようになることを目的とする。 |
| 到達目標 | 授業で説明した社会学の基本的な知識・考え方が説明できる(DP1)。社会問題を発見し、社会的な発想をもとに考察できる。社会問題について、社会学の知識に基づいた解決策を考えることができる。 |
| 授業方法と留意点 | 講義形式を基本とするが、学生どうしでのディスカッション、映像資料の視聴なども適宜おこなう。 |
| 科目学習の効果(資格) | 社会生活を送る上で何かと直面することになるであろう「人と人」「人と集団」「集団と集団」に関わる問題に対する、幅広い視点を養う。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------|------------------------|---|
| | | | |
| 1 | イントロダクション | 講義へのオリエンテーション | (事前) シラバスの理解(0.5時間) (事後) 資料に基づく内容の復習(0.5時間) |
| 2 | 1 情報の社会学 | 情報社会の基本メカニズム | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく(0.5時間) (事後) 資料に基づく内容の復習(0.5時間) |
| 3 | 1 情報の社会学 | 情報社会の光と影 | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく(0.5時間) (事後) 資料に基づく内容の復習(0.5時間) |
| 4 | 1 情報の社会学 | 情報社会における諸現実 | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく(0.5時間) (事後) 資料に基づく内容の復習(0.5時間) |
| 5 | 2 社会意識 | 社会における人間の意識と行動 | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく(0.5時間) (事後) 資料に基づく内容の復習(0.5時間) |
| 6 | 2 社会意識 | 意識の「歪み」 | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく(0.5時間) (事後) 資料に基づく内容の復習(0.5時間) |
| 7 | 2 社会意識 | おかれた状況によって生じる意識の変化 | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく(0.5時間) (事後) 資料に基づく内容の復習(0.5時間) |
| 8 | 3 医療・福祉の社会学 | 医療に関する諸視点 | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく(0.5時間) (事後) 資料に基づく内容の復習(0.5時間) |
| 9 | 3 医療・福祉の社会学 | くらしと福祉 | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく(0.5時間) (事後) 資料に基づく内容の復習(0.5時間) |
| 10 | 3 医療・福祉の社会学 | 医療・福祉に関わる諸現実 | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく(0.5時間) (事後) 資料に基づく内容の復習(0.5時間) |
| 11 | 4 日常から社会学する | 日常生活を新たな視点から眺める(1) 政治1 | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく(0.5時間) (事後) 資料に基づく内容の復習(0.5時間) |
| 12 | 4 日常から社会学する | 日常生活を新たな視点から眺める(2) 政治2 | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく(0.5時間) (事後) 資料に基づく内容の復習(0.5時間) |
| 13 | 4 日常から社会学する | 日常生活を新たな視点から眺める(3) 宗教1 | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく(0.5時間) (事後) 資料に基づく内容の復習(0.5時間) |
| 14 | 4 日常から社会学する | 日常生活を新たな視点から眺める(4) 宗教2 | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく(0.5時間) (事後) 資料に基づく内容の復習(0.5時間) |
| 15 | まとめ | 講義を終えるにあたって | (事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく(0.5時間) (事後) 資料に基づく内容の復習(0.5時間) |

| | | | | |
|------|-----------------------|-----|-----|------|
| 関連科目 | 社会学Ⅱ | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 | 授業態度 20%、課題 80%で評価する。 | | | |

| | |
|-----------|---|
| (基準) | |
| 学生へのメッセージ | やや厳しい授業ですが、テーマに関心をもったやる気のある学生は受講してください。大事なのは「正解のない問題」と向き合う際の姿勢です。 |
| 担当者の研究室等 | 11号館7階 山本准教授室 |
| 備考 | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|--------|
| 科目名 | 倫理学 | 科目名 (英文) | Ethics |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 有馬 善一 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IHU1305a1 | | |

| | |
|----------|--|
| 授業概要・目的 | 科学技術の急速な発達、宗教的権威の低下、資本主義と市場原理主義の支配を背景として、現代社会における倫理的な問題は、複雑さを増し、また、解決が難しいものとなっている。この講義では、倫理と倫理学の基本的な知識を学ぶとともに、現代の倫理的な問題に対するアプローチを試みる。 |
| 到達目標 | 倫理と倫理学の基本を学び、理解する。 倫理学のさまざまな立場の特長を理解する。 現代社会における倫理的な問題がどうして生じているのかを理解する。 倫理的な問題に対して、各自で考え、解決の方向を探っていく。 |
| 授業方法と留意点 | マイケル・サンデル著『これからの「正義」の話しよう』をテキスト（基本資料）として用いる。 事前学習はサンデルの著書の該当箇所をあらかじめ読んでおくこと。また、事前学習、レポート課題もこの著書の事例について考えてもらう。一つのテーマにつき一度は授業時間内でディスカッションをする予定。 講義そのものは、こちらの計画に沿って進める。 サンデルの扱っていない問題など、適宜資料を配付する。 |

| 科目学習の効果 (資格) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|---|---|-----------------------------------|---------|-----------|---|--------|---|----------------------|---|----------|---|-------------|---|----------|----------------------------------|-------------|---|----------|------------------------------------|---------------------------|---|---------|-------------------------|-------------|---|---------|--------------------------|-------------|---|-----------|--------------------------------------|-------------|---|-----------|--|-----------------------|---|---------|--------------------------|----------|----|---------|--------------------|---------------------|----|--------|----------------------|-----------------------------------|----|---------------|--------------------------|---------------------------------|----|---------------|------------------|--------------------------------|----|---------------|---|-------------------|----|-----|-----------|--------------------|
| 授業計画 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業への導入</td> <td>・倫理と倫理学の区別 ・倫理学の立場の違いについて ・倫理学の扱う領域について</td> <td>倫理についての自分なりの考えをまとめる。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>功利主義 (1)</td> <td>・功利主義とは何か ・最大多数の最大幸福 ・幸福とは何か ・ベンサムとミルの立場</td> <td>サンデル 第1章を参照</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>功利主義 (2)</td> <td>・選好功利主義 (ヘア) ・トロッコ問題の解決策はあるのか</td> <td>サンデル 第2章を参照</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>功利主義 (3)</td> <td>・功利主義への批判と功利主義の応答 ・幸福 (快楽) か義務か</td> <td>功利主義の問題についてまとめる レポート課題</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>義務論 (1)</td> <td>・カントの義務論 ・ヒュームのカント批判</td> <td>サンデル 第5章を参照</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>義務論 (2)</td> <td>・機会の平等をめぐる学説 ・ロールズの思想</td> <td>サンデル 第6章を参照</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>市場と道徳 (1)</td> <td>・リバタリアニズムの主張 ・リバタリアニズムとコミュニタリアニズム</td> <td>サンデル 第4章を参照</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>市場と道徳 (2)</td> <td>・金で買えるもの、買えないもの ・インセンティブの問題 ・経営の倫理</td> <td>サンデル 第7章を参照 レポート課題</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>徳倫理学の復権</td> <td>・古代ギリシアの徳倫理学 ・現代の徳倫理学</td> <td>サンデル 第8章</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>良心と悪の問題</td> <td>・良心とは何か ・根源悪の問題</td> <td>良心と悪について自分の考えをまとめる。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>自由と決定論</td> <td>・人間的自由とは何か ・自由と責任</td> <td>人間の自由と責任について自分の考えをまとめる。 レポート課題</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>現代の倫理的な問題 (1)</td> <td>・現代の倫理的状況 ・脳死と臓器移植の問題</td> <td>配付資料を参照 臓器移植についての自分の考えをまとめる。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>現代の倫理的な問題 (2)</td> <td>・安楽死・自殺の権利をめぐる問題</td> <td>配付資料を参照 安楽死についての自分の考えをまとめる。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>現代の倫理的な問題 (3)</td> <td>・自然に「権利」はあるのか ・動物に「権利」はあるのか ・地球全体主義について</td> <td>配付資料を参照 レポート課題</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>・講義全体のまとめ</td> <td>これまでの講義ノートをまとめておく。</td> </tr> </tbody> </table> | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | 1 | 授業への導入 | ・倫理と倫理学の区別 ・倫理学の立場の違いについて ・倫理学の扱う領域について | 倫理についての自分なりの考えをまとめる。 | 2 | 功利主義 (1) | ・功利主義とは何か ・最大多数の最大幸福 ・幸福とは何か ・ベンサムとミルの立場 | サンデル 第1章を参照 | 3 | 功利主義 (2) | ・選好功利主義 (ヘア) ・トロッコ問題の解決策はあるのか | サンデル 第2章を参照 | 4 | 功利主義 (3) | ・功利主義への批判と功利主義の応答 ・幸福 (快楽) か義務か | 功利主義の問題についてまとめる レポート課題 | 5 | 義務論 (1) | ・カントの義務論 ・ヒュームのカント批判 | サンデル 第5章を参照 | 6 | 義務論 (2) | ・機会の平等をめぐる学説 ・ロールズの思想 | サンデル 第6章を参照 | 7 | 市場と道徳 (1) | ・リバタリアニズムの主張 ・リバタリアニズムとコミュニタリアニズム | サンデル 第4章を参照 | 8 | 市場と道徳 (2) | ・金で買えるもの、買えないもの ・インセンティブの問題 ・経営の倫理 | サンデル 第7章を参照 レポート課題 | 9 | 徳倫理学の復権 | ・古代ギリシアの徳倫理学 ・現代の徳倫理学 | サンデル 第8章 | 10 | 良心と悪の問題 | ・良心とは何か ・根源悪の問題 | 良心と悪について自分の考えをまとめる。 | 11 | 自由と決定論 | ・人間的自由とは何か ・自由と責任 | 人間の自由と責任について自分の考えをまとめる。 レポート課題 | 12 | 現代の倫理的な問題 (1) | ・現代の倫理的状況 ・脳死と臓器移植の問題 | 配付資料を参照 臓器移植についての自分の考えをまとめる。 | 13 | 現代の倫理的な問題 (2) | ・安楽死・自殺の権利をめぐる問題 | 配付資料を参照 安楽死についての自分の考えをまとめる。 | 14 | 現代の倫理的な問題 (3) | ・自然に「権利」はあるのか ・動物に「権利」はあるのか ・地球全体主義について | 配付資料を参照 レポート課題 | 15 | まとめ | ・講義全体のまとめ | これまでの講義ノートをまとめておく。 |
| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 授業への導入 | ・倫理と倫理学の区別 ・倫理学の立場の違いについて ・倫理学の扱う領域について | 倫理についての自分なりの考えをまとめる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 功利主義 (1) | ・功利主義とは何か ・最大多数の最大幸福 ・幸福とは何か ・ベンサムとミルの立場 | サンデル 第1章を参照 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 功利主義 (2) | ・選好功利主義 (ヘア) ・トロッコ問題の解決策はあるのか | サンデル 第2章を参照 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 功利主義 (3) | ・功利主義への批判と功利主義の応答 ・幸福 (快楽) か義務か | 功利主義の問題についてまとめる レポート課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 義務論 (1) | ・カントの義務論 ・ヒュームのカント批判 | サンデル 第5章を参照 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 義務論 (2) | ・機会の平等をめぐる学説 ・ロールズの思想 | サンデル 第6章を参照 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 市場と道徳 (1) | ・リバタリアニズムの主張 ・リバタリアニズムとコミュニタリアニズム | サンデル 第4章を参照 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 市場と道徳 (2) | ・金で買えるもの、買えないもの ・インセンティブの問題 ・経営の倫理 | サンデル 第7章を参照 レポート課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 徳倫理学の復権 | ・古代ギリシアの徳倫理学 ・現代の徳倫理学 | サンデル 第8章 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 良心と悪の問題 | ・良心とは何か ・根源悪の問題 | 良心と悪について自分の考えをまとめる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 自由と決定論 | ・人間的自由とは何か ・自由と責任 | 人間の自由と責任について自分の考えをまとめる。 レポート課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | 現代の倫理的な問題 (1) | ・現代の倫理的状況 ・脳死と臓器移植の問題 | 配付資料を参照 臓器移植についての自分の考えをまとめる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 現代の倫理的な問題 (2) | ・安楽死・自殺の権利をめぐる問題 | 配付資料を参照 安楽死についての自分の考えをまとめる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 現代の倫理的な問題 (3) | ・自然に「権利」はあるのか ・動物に「権利」はあるのか ・地球全体主義について | 配付資料を参照 レポート課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | まとめ | ・講義全体のまとめ | これまでの講義ノートをまとめておく。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

関連科目

| | | | | |
|-----|----|----------------|------|--------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | これからの「正義」の話しよう | サンデル | ハヤカワ文庫 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

評価方法 (基準) 授業内のレポート・平常点 (35%)、授業後のレポート (65%)
出席は評価対象としない。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 7号館4階 (有馬研究室)

備考 事前事後学習に全部で60時間程度必要。

| | | | |
|----------------|-----------|----------|---------------|
| 科目名 | 法学入門 | 科目名 (英文) | Jurisprudence |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 小島 俊朗 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IHU1313a1 | | |

| 授業概要・目的 | 法は私たちの日常生活と密接な関係にあり、私たちが普段あまり意識しないで行動していても、その行為の裏には法律関係若しくは法律的問題のあるものが沢山あります。法を学ぶことは世の中を知ることもつながります。この講義では、現実の社会と法の世界がどのように関係しあっているかということについて理解してもらいたいと思います。法についての基本的な知識と考え方を身につけ、世の中の動きに関心を持ってもらえたらと思います。内容としては、国の基本法である憲法と私生活を規律する民法が中心となります。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|---|--------------------|---------------------------------|---------|-----------|---|-------|--------------------|-------------------|---|------|---------|-------------------|---|----------|-------------|-------------------|---|-----------|----------------|-------------------|---|------|------|------------------|---|----------|----------------|-------------------|---|-----------|----------------|-------------------|---|------|------------|-------------------|---|-------------|----------------|-------------------|----|------|------|-------------------|----|-----------|----------|-------------------|----|----------|-------|-------------------|----|-----------|--------------|-------------------|----|------|----------|-------------------|----|-----|--------|---------------------------------|
| 到達目標 | この授業を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。 ①憲法が守ろうとしているものが何であるかを概ね理解できるようになること。 ②民法の枠組みと基本事項を理解できるようになること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 原則として、対面方式による講義を行います。決まった教科書は使用しませんが、レジュメと参考資料を毎回配布します。聞きなれない用語も出てくるとは思いますが、法律の基本的な考え方を理解することが重要です。なお、感染症の状況に応じて、やむを得ず遠隔授業を行う場合があります。その場合は、Teamsを使った「教材・課題提供型授業」を行います。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | 公務員試験や教員免許の取得等に参考になると思います。また、法律や政治に関する時事問題が理解し易くなります。さらに、法律的なものの考え方が理解できるようになります。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>法とは何か</td> <td>法規範と道徳の違い、法源とは何かなど</td> <td>配布資料を見直すこと (約1時間)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>法の解釈</td> <td>法令解釈の基本</td> <td>配布資料を見直すこと (約2時間)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>国家と法 (I)</td> <td>国家と憲法、日本国憲法</td> <td>配布資料を見直すこと (約2時間)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>国家と法 (II)</td> <td>三権分立、国民主権、選挙制度</td> <td>配布資料を見直すこと (約2時間)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>平和と法</td> <td>平和主義</td> <td>配布資料を見直すこと (約1時)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>人権と法 (I)</td> <td>基本的人権の保障 (自由権)</td> <td>配布資料を見直すこと (約2時間)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>人権と法 (II)</td> <td>基本的人権の保障 (社会権)</td> <td>配布資料を見直すこと (約2時間)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>政治と法</td> <td>統治機構 (立法府)</td> <td>配布資料を見直すこと (約2時間)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>行政と法、紛争解決と法</td> <td>統治機構 (立法府、裁判所)</td> <td>配布資料を見直すこと (約2時間)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>国と地方</td> <td>地方自治</td> <td>配布資料を見直すこと (約2時間)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>民法総則、財産と法</td> <td>総則、物権法総論</td> <td>配布資料を見直すこと (約2時間)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>契約と法 (I)</td> <td>債権法総論</td> <td>配布資料を見直すこと (約1時間)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>契約と法 (II)</td> <td>契約各論、不法行為、担保</td> <td>配布資料を見直すこと (約1時間)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>家族と法</td> <td>結婚と離婚、相続</td> <td>配布資料を見直すこと (約1時間)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>全体のまとめ</td> <td>これまでの講義内容を見直し、理解を確実にすること。(約3時間)</td> </tr> </tbody> </table> | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | 1 | 法とは何か | 法規範と道徳の違い、法源とは何かなど | 配布資料を見直すこと (約1時間) | 2 | 法の解釈 | 法令解釈の基本 | 配布資料を見直すこと (約2時間) | 3 | 国家と法 (I) | 国家と憲法、日本国憲法 | 配布資料を見直すこと (約2時間) | 4 | 国家と法 (II) | 三権分立、国民主権、選挙制度 | 配布資料を見直すこと (約2時間) | 5 | 平和と法 | 平和主義 | 配布資料を見直すこと (約1時) | 6 | 人権と法 (I) | 基本的人権の保障 (自由権) | 配布資料を見直すこと (約2時間) | 7 | 人権と法 (II) | 基本的人権の保障 (社会権) | 配布資料を見直すこと (約2時間) | 8 | 政治と法 | 統治機構 (立法府) | 配布資料を見直すこと (約2時間) | 9 | 行政と法、紛争解決と法 | 統治機構 (立法府、裁判所) | 配布資料を見直すこと (約2時間) | 10 | 国と地方 | 地方自治 | 配布資料を見直すこと (約2時間) | 11 | 民法総則、財産と法 | 総則、物権法総論 | 配布資料を見直すこと (約2時間) | 12 | 契約と法 (I) | 債権法総論 | 配布資料を見直すこと (約1時間) | 13 | 契約と法 (II) | 契約各論、不法行為、担保 | 配布資料を見直すこと (約1時間) | 14 | 家族と法 | 結婚と離婚、相続 | 配布資料を見直すこと (約1時間) | 15 | まとめ | 全体のまとめ | これまでの講義内容を見直し、理解を確実にすること。(約3時間) |
| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 法とは何か | 法規範と道徳の違い、法源とは何かなど | 配布資料を見直すこと (約1時間) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 法の解釈 | 法令解釈の基本 | 配布資料を見直すこと (約2時間) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 国家と法 (I) | 国家と憲法、日本国憲法 | 配布資料を見直すこと (約2時間) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 国家と法 (II) | 三権分立、国民主権、選挙制度 | 配布資料を見直すこと (約2時間) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 平和と法 | 平和主義 | 配布資料を見直すこと (約1時) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 人権と法 (I) | 基本的人権の保障 (自由権) | 配布資料を見直すこと (約2時間) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 人権と法 (II) | 基本的人権の保障 (社会権) | 配布資料を見直すこと (約2時間) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 政治と法 | 統治機構 (立法府) | 配布資料を見直すこと (約2時間) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 行政と法、紛争解決と法 | 統治機構 (立法府、裁判所) | 配布資料を見直すこと (約2時間) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 国と地方 | 地方自治 | 配布資料を見直すこと (約2時間) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 民法総則、財産と法 | 総則、物権法総論 | 配布資料を見直すこと (約2時間) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | 契約と法 (I) | 債権法総論 | 配布資料を見直すこと (約1時間) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 契約と法 (II) | 契約各論、不法行為、担保 | 配布資料を見直すこと (約1時間) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 家族と法 | 結婚と離婚、相続 | 配布資料を見直すこと (約1時間) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | まとめ | 全体のまとめ | これまでの講義内容を見直し、理解を確実にすること。(約3時間) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 憲法、民法など | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>民事法入門</td> <td>野村豊弘</td> <td>有斐閣アルマ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 民事法入門 | 野村豊弘 | 有斐閣アルマ | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 民事法入門 | 野村豊弘 | 有斐閣アルマ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 定期試験の結果で評価しますが、期中に小テスト又は理解度テストを行う場合は、期末試験の点数 (60%) と小テスト及び理解度テストの点数 (40%) の合計点で評価します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 学生時代には、いろいろなことに興味を持ち、専門分野以外の勉強をすることも、将来何かの役に立つと思います。法の世界もその一つです。授業が進めば新たな世界が見えてくると思います。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館10階 小島研究室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 講義の内容は、憲法と民法を中心とする基本的なものですから、ご自分に合った入門書を適宜選んで、講義内容に相当するところを講義の前後に読み、予習・復習を心がけるようにして下さい。これらに要する時間は通算20時間を目安として下さい。ただし、講義は入門書に書いていない事柄も少なからず含まれますので、特に講義内容の復習を欠かさずに行ってください。レジュメには比較的重要な用語の一部を穴あきにしてありますので、講義に使用するスライドに記載してある用語で埋めて下さい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-----------------------|
| 科目名 | 日本国憲法 | 科目名 (英文) | Japanese Constitution |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 大仲 淳介 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IHU1314a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 日本国憲法をおおまかに理解できるように、基本的人権を中心に、授業テーマと関連する憲法に関わる問題を取りあげ、これに関わる基本的な事項、判例、学説を説明していきます。この授業の目的は、身近に生じる憲法に関わる問題を通して、憲法の基本的な内容と考え方を理解してもらうことです。 |
| 到達目標 | この授業を通じて学生には、憲法の基本的な知識を習得し、「民法の夫婦同氏強制規定の合憲性」や「一票の格差」などの身近で話題になっている問題を憲法を通して考え説明できるようになることが期待される。 |
| 授業方法と留意点 | 毎回、授業の始めに資料を配布します。この資料に記載してある設題に関連する学説・判例などを講義形式で説明していきます。受講生は授業終了後、配布資料中の確認問題をしてください。この問題についての解答・解説は次回の授業で行います。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 各種公的資格試験の法学科目の基礎知識の取得になると思います。 |

| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|------|----|------------|---|--|
| | 1 | 憲法とは | 憲法の意味、憲法の最高法規性、違憲審査制などについて説明します。 | 事前に教科書11頁から20頁を読んでください。事後においては、配付プリントの確認問題を解いて下さい。(1時間程度) |
| | 2 | 国民主権 | 国民主権の意味、国民主権を具体化する制度、国民主権が人権の解釈にどのように関わるかなどについて説明します。 | 事前に教科書263頁から270頁を読んでください。事後においては、配付プリントの確認問題を解いて下さい。(1時間程度) |
| | 3 | 基本的人権の保障 | 人権の歴史、人権の分類、人権の限界、人権の享有主体について説明します。 | 事前に教科書21頁から30頁を読んで下さい。事後においては、配付プリントの確認問題を解いて下さい。(1時間程度) |
| | 4 | 外国人の人権 | 外国人にも日本国憲法が保障する人権の享有が認められるか、認められるとして外国人の享有できる人権は何か、その保障の程度はどうかについて説明します。 | 事前に教科書31頁から40頁を読んで下さい。事後においては、配付プリントの確認問題を解いて下さい。(1時間程度) |
| | 5 | 人権規定の私人間効力 | 人権規定が私人と私人の間にも適用されるかについての学説・判例などを説明します。 | 事前に教科書41頁から48頁を読んでください。事後においては、配付プリントの確認問題を解いて下さい。(1時間程度) |
| | 6 | 幸福追求権 | 幸福追求権とはどのような権利なのか、その性格と範囲をどのように考えるのか、また、プライバシー権とはどのような内容の権利かについて説明します。 | 事前に教科書49頁から58頁を読んでください。事後においては、配付プリントの確認問題を解いて下さい。(1時間程度) |
| | 7 | 法の下での平等 | 法の下での平等とはどのような意味か、不平等な内容のある法律が憲法に違反するかどうかをどのような審査基準で判断されるのかについて説明します。 | 事前に教科書59頁から70頁を読んでください。事後においては、配付プリントの確認問題を解いて下さい。(1時間程度) |
| | 8 | 家族と憲法 | 民法の再婚禁止規定、夫婦同氏強制の規定、夫婦別産制の規定などの実質的に女性に不利と考えられる規定が憲法が保障する平等原則に違反しないかどうかについて説明します。 | 事前に教科書71頁から80頁を読んでください。事後においては、配付プリントの確認問題を解いて下さい。(1時間程度) |
| | 9 | 思想良心の自由 | 思想良心が自由であるとはどのような意味なのか、またどのような国家の措置が思想良心の自由を侵害することになるかについて説明します。 | 事前に教科書81頁から90頁を読んでください。事後においては、配付プリントの確認問題を解いて下さい。(1時間程度) |
| | 10 | 信教の自由 | 信教の自由の内容と限界、国家と宗教の憲法上の関係について説明します。 | 事前に教科書91頁から102頁を読んでください。事後においては、配付プリントの確認問題を解いて下さい。(1時間程度) |
| | 11 | 表現の自由 | 表現の自由はなぜ優越性をもつのか何に対して優越性をもつのか、知る権利、報道の自由、取材の自由は憲法上の権利として認められるのか、表現の自由を制約する法律の合憲性の審査基準について説明します。 | 事前に教科書103頁から1114頁を読んでください。事後においては、配付プリントの確認問題を解いて下さい。(1時間程度) |
| | 12 | 検閲と事前抑制 | 事前抑制禁止の理論とはどのような考えか、判例・学説は検閲の意義をどのように考えているか、裁判所による表現行為も事前抑制は許されるのかについて説明します。 | 事前に教科書の115頁から124頁を読んでください。事後においては、配付プリントの確認問題を解いて下さい。(1時間程度) |
| | 13 | 経済的自由 | 職業選択の自由が営業の自由が含まれるか、職業選択の自由を制約する法律の合憲性はどのような審査基準で判断されるのか、侵してはならない財産権とは何を意味するかなどについて説明します。 | 事前に教科書125頁から134頁を読んでください。事後においては、配付プリントの確認問題を解いて下さい。(1時間程度) |
| | 14 | 生存権 | 生存権とはどのような法的性格の権利か、社会保障における差別的扱いなどについて説明します。 | 事前に教科書135頁から144頁を読んでください。事後においては、配付プリントの確認問題を解いて下さい。(1時間程度) |
| | 15 | 平和主義 | 戦争の放棄の意義、放棄された戦争の範囲、戦力の不保持の意味について説明します。 | 事前に教科書239頁から250頁を読んでください。事後においては、配付プリントの確認問題を解いて下さい。(1時間程度) |

| | | | | |
|---------------|---|---------------|---|------|
| 関連科目 | 法学入門 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | はじめての憲法学（第4版） | 中村睦男・佐々木雅寿・寺島壽一 編・岩本一郎・大島佳代子・木下 和朗・齊藤正彰執筆 | 三省堂 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 小テスト2回(40点)と定期試験(60点)の獲得点数で評価します。 | | | |
| 学生への メッセージ | 授業で生じた疑問は必ず質問して下さい。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室) | | | |
| 備考 | ①小テストの実施日は、授業中に連絡します。 ②また、小テストの追試験・再試験は行いませんので、注意してください。 | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|----------------------------|
| 科目名 | 政治学概論 I | 科目名 (英文) | Introduction to Politics I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 和田 泰一 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IS02415a2 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 政治の主要な領域としては、①予算の決定・執行という配分に関わる領域と、②法の制定・施行という立法に関わる領域の二つがあります。これら二つの領域は、紀元前の政治学者アリストテレスの正義の区分に由来するものです。アリストテレスは、配分的正義・矯正的正義という二つの正義を実現するために政治活動は行われなければならないと考えました。 現代の日本の政治でも、配分的正義を実現するために予算の決定・執行を行い、矯正的正義を実現するために法の制定・執行を行っていることに変わりはありません。主権者である私たちは、デモクラシーに参加すべき市民の一人として、また法の下での平等のもとに一票を与えられた有権者の一人として、こうした正義を実現してより良い日本を創造するために政治に関与し続けねばなりません。 しかし主権者である私たちが一市民・一有権者として正しい政治的選択を行うためには、日本の政治の仕組みや歴史について基本的な知識・教養をあらかじめ知っておくことが必要不可欠です。したがってこの授業では、政治学原論、日本の政治体制論、日本政治史にあたる内容を授業します。また時間があれば、学生の皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治・社会に関わる時事問題についても紹介し、解説します。 |
| 到達目標 | この授業を通じて学生の皆さんは、日本の政治の仕組み・歴史について基本的な知識・教養を獲得することができます。またそうした知識・教養に基づき、実際の政治活動において①正しい政治的配分や法とは何かを思考することができ、②支持すべきより正しい政治的アクターや政策・法を判断することができ、③投票など政治活動を通じて自分の政治的意見を正しく表現することができます。 |
| 授業方法と留意点 | レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーにある政治問題について自問自答・議論した上で自分の意見を論理的に書いてもらったり、小テストに答えてもらったりすることもあります。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 公務員試験や就職活動において、日本の政治の知識・教養が一般常識として問われる場合があります。また一主権者として実際に政治活動するときには、そうした知識・教養について知っておく必要があります。そうした状況に上手に対応するために、日本の政治について正しい知識・教養を獲得し、個々の具体的な政策・法のメリット・デメリットを正しく判断し、最終的に自分の意見を政治活動を通じて正しく表現することができます。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---|--|---|
| | | | |
| 1 | イントロダクション—政治とは何か? | イントロダクションとして、本講義の内容と政治—国家の必要性について授業します。 | 事前学習：政治・政治学について文献を収集し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 2 | 政治と権力①政治の条件とは何か? | 身近な日常生活で現れる政治について授業します。 | 事前学習：教科書の該当箇所 (第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 3 | 政治と権力②正当な権力とは何か? | マックス・ウェーバーの権力観を理解し、政治・経済における近代性について授業します。 | 事前学習：教科書の該当箇所 (第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 4 | 日本の政治システム①民主主義 (デモクラシー) | 日本の政治が現在採用している民主主義 (デモクラシー) について授業します。 | 事前学習：教科書の該当箇所 (第十八章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 5 | 日本の政治システム②選挙制度と国会 | 日本の選挙制度や国会について授業します。 | 事前学習：教科書の該当箇所 (第二十二章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 6 | 日本の政治システム③内閣 | 日本の内閣と今世紀の行政改革について授業します。 | 事前学習：教科書の該当箇所 (第十一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 7 | 戦前の日本の政治システム | 戦前の日本の政治システムについて授業します。 | 事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第七回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 8 | 戦後の日本政治①GHQ占領下の日本政治 | 戦後の GHQ 占領下である 1940 年代後半の日本政治について授業します。 | 事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第八回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 9 | 戦後の日本政治②サンフランシスコ平和条約、日米安全保障条約、55 年体制の成立 | 日本独立期である 1950 年代の日本政治について授業します。 | 事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第九回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 10 | 戦後の日本政治③日米安保闘争、高度経済成長、沖縄返還 | 安保闘争から高度経済成長へと入っていく 1960 年代の日本政治について授業します。 | 事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第十回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 11 | 戦後の日本政治④自民党の派閥の興隆 | 自民党の中で田中派支配が行われていた 1970 年代、80 年代の日本政治について | 事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第十一回) を読み、マスメディアのニュースから政治の |

| | | | て授業します。 | 知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|--|--------------------------|---|---|----|-----|-----|------|---|---------------|-------------|-------|---|--|--|--|---|--|--|--|
| | 12 | 戦後の日本政治⑤政治改革と55年体制の終焉 | 日本で政治改革が吹き荒れた1980年代末から1990年代前半にかけての日本政治について授業します。 | 事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所(第十二回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く(30分)。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 13 | 戦後の日本政治⑥自民党を中心とした連立政権の展開 | 自民党が連立政権を組むようになった1990年代の日本政治について授業します。 | 事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所(第十三回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く(30分)。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 14 | 戦後の日本政治⑦小泉劇場 | 新自由主義の傾向が強くなった2000年代前半の日本政治について授業します。 | 事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所(第十四回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く(30分)。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15 | まとめ | 講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。 | 事前学習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く(30分)。試験に向けて教科書やノート、レジュメを読み直す(時間の許す限り)。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 中学・高校の公民、日本史など。大学の政治学原論、日本政治史など。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>政治学</td> <td>久米郁男・川出良枝ほか</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 政治学 | 久米郁男・川出良枝ほか | 有斐閣 | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 政治学 | 久米郁男・川出良枝ほか | 有斐閣 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>18歳から考える日本の政治</td> <td>五十嵐仁</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 18歳から考える日本の政治 | 五十嵐仁 | 法律文化社 | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 18歳から考える日本の政治 | 五十嵐仁 | 法律文化社 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 定期試験(約70%)と小テスト(約30%)で評価します。Aの取得率は、全受講者数の25%程度とします。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、政治・政治学についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 寝屋川キャンパス11号館10階 和田研究室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-----------------------------|
| 科目名 | 政治学概論Ⅱ | 科目名 (英文) | Introduction to Politics II |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 和田 泰一 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IS02416a2 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | <p>世界の政治の主要な考え方としては、リアリズム (現実主義) とイデオリズム (理想主義) という二つの対照的な考え方がよく知られています。基本的に前者は、国際関係を国家が合理的に権力を行使する場と考えており、後者は、国際関係を国家内の合理的な法秩序が拡大された場と考えています。また前者は、ときに戦争に訴えつつ、国家は物理的な力の行使・圧力によって財・利益の独占を図りがちであると、後者は、戦争を回避しつつ、国家は正しい国際法・国際秩序によって財・利益の公正な配分を行いがちであると考えています。</p> <p>現代の世界の政治でも、リアリズムとイデオリズムという二つの考え方は、例えば日本でも「対話と圧力」という言葉が用いられたように、いまだに国家という政治的アクターが活動する際の行動指針となっています。国家の主権者である私たちは、戦争という最悪の事態を避けつつも、国際法・国際秩序の合理的な枠組みのなかで、自国の財・利益を最大化しようとする政権を選ばねばなりません。</p> <p>しかし主権者である私たちが正しい外交選択を行いうる政権を選出するためには、世界の政治の仕組みや歴史について基本的な知識・教養をあらかじめ知っておくことが必要不可欠です。したがってこの授業では、国際政治、日本外交史にあたる内容だけでなく、西洋政治思想史において国家観やイデオリズム・リベラリズムの思想的基礎に関わる部分を授業します。また時間があれば、学生の皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治・社会に関わる時事問題についても紹介し、解説します。</p> |
| 到達目標 | この授業を通じて学生の皆さんは、世界の政治の仕組み・歴史、日本外交の歴史と現状、西洋政治思想史について基本的な知識・教養を獲得することができます。またそうした知識・教養に基づき、実際の政治活動において①正しい国際関係とは何かを思考することができ、②外交・政治思想の観点から支持すべきより正しい政治的アクターや政策・法を判断することができ、③投票など政治活動を通じて自分の対外的意見を正しく表現することができます。 |
| 授業方法と留意点 | レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーにある政治問題について自問自答・議論した上で自分の意見を論理的に書いてもらったり、小テストに答えてもらったりすることもあります。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 公務員試験や就職活動において、世界の政治の知識・教養が一般常識として問われる場合があります。また一主権者として実際に政治活動するときには、そうした知識・教養について知っておく必要があります。そうした状況に上手く対応するために、世界の政治について正しい知識・教養を獲得し、個々の具体的な政策・法のメリット・デメリットを正しく判断し、最終的に自分の意見を政治活動を通じて正しく表現することができます。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------------|--|---|
| | | | |
| 1 | イントロダクションー国際政治とは何か? | イントロダクションとして、講義の内容と国際政治の基本的な考え方について授業します。 | 事前学習: 今まで勉強してきた歴史の教科書などを再読し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める (30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 2 | 国際政治の歴史①主権国家の形成とイデオリズム | 主権国家の誕生から平和的な超国家機構の構築に至る国際関係の歴史をイデオリズムの観点から授業します。 | 事前学習: 教科書の該当箇所 (『国際政治学』第二章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 3 | 国際政治の歴史②冷戦の勃発 | 第二次世界大戦後の冷戦の構造と歴史について授業します。 | 事前学習: 教科書の該当箇所 (『国際政治学』第二章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 4 | 対外政策ーリアリズムの諸理論 | モーゲンソーの理論を中心に、対外政策をリアリズムの観点から授業します。 | 事前学習: 教科書の該当箇所 (『国際政治学』第三章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 5 | 日本外交の歴史①日米安全保障条約と冷戦下の日本外交 | 日米安全保障条約や新日米安全保障条約の内容、冷戦下の日本外交について授業します。 | 事前学習: 教科書の該当箇所 (『国際政治学』第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 6 | 日本外交の歴史②冷戦の終結と湾岸戦争 | 冷戦の終結と湾岸戦争の勃発によって日本外交がいかなる転換を求められたのかについて授業します。 | 事前学習: 教科書の該当箇所 (『国際政治学』第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 7 | 日本外交の歴史③今世紀の日本外交 | 米国同時多発テロ、アフガニスタン戦争、イラク戦争、安全保障関連法によって生じた日本外交の転換について授業します。 | 事前学習: 教科書の該当箇所 (『国際政治学』第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 8 | 国家観の歴史的起源ープラトン、アリストテレス | 国際政治で前提にしている国家という政治的アクターについて考えるため、国家観の起源について授業します。 | 事前学習: 事前配布したレジュメの該当箇所 (第八回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 9 | 国家理性とリアリズムーマキアヴェッリ | マキアヴェッリ『君主論』を中心に、国際政治のリアリズムの起源としての国家理性の理論について授業します。 | 事前学習: 教科書の該当箇所 (『政治思想の知恵』第一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 10 | 戦争状態と国家ーホッブズ | ホッブズ『リヴァイアサン』を中心に、国内外の戦争状態と主権国家の諸理論について授業します。 | 事前学習: 教科書の該当箇所 (『政治思想の知恵』第二章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |

| | | | |
|----|---------------------|--|--|
| | | | 一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 11 | 民主的な国家観—ロック・ルソー | ロック『統治二論』、ルソー『社会契約論』を中心に、民主的な国家観について授業します。 | 事前学習：教科書の該当箇所 (『政治思想の知恵』第三章・第四章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 12 | アイデアリズムの起源—カント | カント『永遠平和のために』を中心に、国際政治のアイデアリズムの起源としてのカントの道徳観・国際秩序観について授業します。 | 事前学習：教科書の該当箇所 (『政治思想の知恵』第六章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 13 | リベラリズムの個人観・国家観—ミル | ミル『自由論』を中心に、国際政治のリベラリズムの個人観・国家観について授業します。 | 事前学習：教科書の該当箇所 (第八章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 14 | 今世紀の新しい国際秩序—ネグリ・ハート | ネグリ・ハート『帝国』を中心に、冷戦終結後の国際秩序について授業します。 | 事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 15 | まとめ | 講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。 | 事前学習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。試験に向けて教科書やノート、レジュメを読み直す (時間の許す限り)。 |

関連科目 中学・高校の公民、日本史、世界史など。大学の日本外交史、国際政治、西洋政治思想史など。

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|------------------------|-------|-------|
| | 1 | 国際政治学 | 中西寛他 | 有斐閣 |
| | 2 | 政治思想の知恵—マキャベリからサンデルまで— | 仲正昌樹編 | 法律文化社 |
| | 3 | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

評価方法 (基準) 定期試験 (70%) と小テスト (30%) で評価します。A の取得率は、全受講者数の 25% 程度とします。

学生へのメッセージ 新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、現代の世界の政治についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。

担当者の研究室等 寝屋川キャンパス 11 号館 10 階 和田研究室

備考

| | | | |
|---------------|-----------|----------|-------------------------------|
| 科目名 | 住まいとデザイン | 科目名 (英文) | Design and Living Environment |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 大高 和香 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | INA1317a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 最も身近な空間である住居について、その歴史の中で生み出された住まいの工夫と文化を知り、快適な住生活と、特にデザインとのかかわりを考察する。また、後半に「リノベーション」に関する簡単な実習により、自らの考えを形にする体験をする。 |
| 到達目標 | 将来、住み手の立場で必要となる基礎知識を身につけることが目標である。 |
| 授業方法と留意点 | 毎回のテーマに沿った、パワーポイント資料及び板書にて講義を行なう。教科書の購入は無し、随時資料を配付する。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------------|--|--|
| | | | |
| 2 | インテリアの常識 | 身近なインテリアの用語、法規について学ぶ。 | 講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。(1時間程度) |
| 3 | インテリアの構成要素 | 住空間を構成する主な要素について学び、知識を深める。 | 講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。(1時間程度) |
| 4 | インテリアの歴史 1 | エジプト文明～ロココ時代のデザインについて学ぶ | 講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。(1時間程度) |
| 5 | インテリアの歴史 2 | ネオクラシック～20 世紀モダニズムのデザインについて学ぶ | 講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。(1時間程度) |
| 6 | 家具 1 | 家具の分類:様々な家具の種類からその機能とデザインについて学ぶ | 講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。(1時間程度) |
| 7 | 家具 2 | デザイナーズファニチュア「名作家具」に触れ、時代を超えて愛されるデザインについて学ぶ。 | 講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。(1時間程度) |
| 8 | キッチン | キッチンの、形状、素材、機能について学ぶ | 講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。(1時間程度) |
| 9 | 色彩計画 | インテリアデザインにおける、カラーコーディネート基礎を学ぶ | 講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。(1時間程度) |
| 10 | 照明計画 | 照明器具の種類、機能と、プランニングについて学ぶ | 講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。(1時間程度) |
| 11 | 「団地のリノベーション」1. 課題説明 | 中古住宅のリノベーションを、考え、簡単なプレゼンテーションを作成する。 | 講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。(1時間程度) |
| 12 | 「団地のリノベーション」2. 作成作成 | 中古住宅のリノベーションを、考え、簡単なプレゼンテーションを作成する。 | 講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。(1時間程度) |
| 13 | 「団地のリノベシ」3. 課題作成⇒提出 | 中古住宅のリノベーションを、考え、簡単なプレゼンテーションを作成する。⇒授業終了時に提出 | 講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。(1時間程度) |
| 14 | 我が国の住まいの現状と未来の住宅 | 住宅市場の現状から、これからの住まいを考えてみる | 講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。(1時間程度) |
| 15 | 「団地のリノベーション」4. 作品講評会 | 作品のコンセプト・プランを発表する。聞き手はそれについてコメントをする。 | 講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。(1時間程度) |

| | |
|------|------|
| 関連科目 | 特になし |
|------|------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 評価方法 (基準) | 期末テスト: 50%、受講態度 (出席・小課題など): 20%、実習課題: 30%を、合わせて評価する。 |
|-----------|--|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 昨年は、期の始めにコロナ禍による全学的な対策として、残りがリモートの講義となりました。その場合、「リノベーション」の実習課題の作成は出来なくなり、内容を差し替える可能性があります。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|--------------------|
| 担当者の研究室等 | 12号館7階、8号館3階 大谷教授室 |
|----------|--------------------|

| | |
|----|---------------------------------------|
| 備考 | 原則、5回以上の欠席及び実習課題未提出の場合、期末テスト受験不可とします。 |
|----|---------------------------------------|

| | | | |
|----------------|-----------|----------|--------------------|
| 科目名 | 自然地理学 | 科目名 (英文) | Physical Geography |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 手代木 功基 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | INA1318a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 自然地理学は地球環境問題や自然災害と深い関わりを持つとともに、私たちの日々の生活とも密接に関わっています。本授業では、身近な場所から辺境の地まで、さまざまな地域の自然環境を理解するための基礎を学びます。具体的には、1. プレート運動や気候といった地球規模のシステム、2. 日本や世界で観察される景観の形成要因やその形成過程、3. 自然災害や地球環境問題、といった内容を扱います。講義では各地の写真や映像などを数多く使って解説し、初学者にもイメージがつかみやすい内容にする予定です。授業を通して、自然現象を様々な時間・空間スケールに位置づけて理解する基礎を身につけ、それを将来様々な形で活かしていくことを期待します。 |
| 到達目標 | 日本・世界各地の自然環境の実態とそのシステムを学ぶことを通して自然環境の見方の基礎力を養い、日常で目にする自然景観の形成要因や災害の発生等について論理的に理解できるようになること |
| 授業方法と留意点 | 講義を中心とするが、ディスカッションやグループワーク等を実施する時間を設ける場合がある。また、講義時間内に質疑応答時間を設ける他、授業内で課された課題 (小テスト等) に対しては解説を行う。また、遠隔授業で実施する場合には、Moodle を授業時間・授業外学習時に利用するためスマートフォンやタブレット、PC等を各自用意すること。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 地震等自然災害に対する認識の強化、環境に対する意識の向上 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------|-------------------------|---|
| | | | |
| 1 | イントロダクション | 授業の進め方、テキスト、評価方法等について説明 | 事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 |
| 2 | I. 日本の自然を知る 1 | プレートテクトニクスと日本列島の形成 | 事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。 |
| 3 | I. 日本の自然を知る 2 | 地震のメカニズム | 事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。 |
| 4 | I. 日本の自然を知る 3 | 地震災害 | 事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。 |
| 5 | I. 日本の自然を知る 4 | 火山と日本列島 | 事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。 |
| 6 | II. 多様な日本の自然 1 | 気候環境 | 事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。 |
| 7 | II. 多様な日本の自然 2 | 植生 | 事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。 |
| 8 | II. 多様な日本の自然 3 | 山地の隆起と侵食 | 事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。 |
| 9 | II. 多様な日本の自然 4 | 河川と平野・海岸 | 事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。 |
| 10 | II. 多様な日本の自然 5 | 大阪の自然・関西の自然 | 事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。 |
| 11 | III. 世界の自然を知る 1 | 熱帯から極地 | 事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。 |
| 12 | III. 世界の自然を知る 2 | 砂漠や高山 | 事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。 |

| | | | | |
|---------------|--|-----------------|---------------|---|
| | 13 | III. 世界の自然を知る 3 | 自然と人々の暮らしの関係性 | 事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。 |
| | 14 | IV. 環境と私たち | 地球温暖化や砂漠化 | 事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。 |
| | 15 | まとめ | 授業全体のまとめ | 事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。 |
| 関連科目 | | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 授業期間中に実施する理解度確認テスト(60%)や期末に提出を求める課題(40%)をもとに評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 高校地理・高校地学を学んでいない人でも理解できるような内容を扱い、難しい部分はフォローアップしながら授業を進めていく予定です。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館5階 | | | |
| 備考 | 事前・事後の学習は、全体で60時間を目安とします。理解度確認テストとは、講義内容に関するテストです。毎回の授業終了後や授業開始時には不明点や質問等に関してフィードバックをおこないます。 | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|--------------------------------|
| 科目名 | 環境と現代社会 | 科目名 (英文) | Environment and Modern Society |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 井上 尚之 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | INA2319a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 日本における環境経営を歴史的に辿ると、「環境経営」⇒「CSR経営」⇒「サステナビリティ経営」という系譜である。本講義では、この歴史の流れを追うと共に、サステナビリティ経営とは何かを探る。 |
| 到達目標 | サステナビリティ経営に関して自分なりの意見が言え、プレゼンテーションするレベルを目指す。 |
| 授業方法と留意点 | 授業中に教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う双方向の授業を目指す。 |
| 科目学習の効果 (資格) | サステナビリティ経営を学ぶことによって、経営の基礎及び企業のCSR部門における必須知識の獲得を目指す。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|----------------------------|--|
| | | | |
| 1 | 第1回 日米の環境政策の歴史 | 教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。 | 予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分) |
| 2 | 第2回 日本における環境経営の本格開始—ISO14001:1996発行 | 教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。 | 予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分) |
| 3 | 第3回 トヨタの環境経営 | 教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。 | 予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分) |
| 4 | 第4回 3Rからゼロエミッションへ | 教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。 | 予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分) |
| 5 | 第5回 環境経営とサステナビリティ経営の相違 | 教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。 | 予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分) |
| 6 | 第6回 社会的な影響に配慮するとはどういうことか—トリプルボトムラインの登場 | 教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。 | 予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分) |
| 7 | 第7回 2003年は日本のCSR元年 | 教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。 | 予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分) |
| 8 | 第8回 ISO26000とサステナビリティ経営—CSRの国際規格 ISO26000の発行 | 教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。 | 予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分) |
| 9 | 第9回 ISO26000の社会的責任を果たすための7つの原則 | 教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。 | 予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分) |
| 10 | 第10回 社会的責任の7つの中核主題 | 教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。 | 予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分) |
| 11 | 第11回 組織にとってのISO26000を順守するメリットは何か? | 教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。 | 予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分) |
| 12 | 第12回 ISO26000の具体例 | 教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。 | 予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分) |
| 13 | 第13回 中小企業にISO26000を広め、定着させる企業市民制度 | 教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。 | 予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分) |
| 14 | 第14回 GRIとは何か? | 教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。 | 予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する。(90分) |
| 15 | 第15回 国連主導のCSR—SDGs | 教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。 | 予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(90分) 復習:その日の講義の板書を整理する(90分)。 |

| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|---|------|-------------|-----|------|---|------------|------|-------------|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>サステナビリティ経営</td> <td>井上尚之</td> <td>大阪公立大学共同出版会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | サステナビリティ経営 | 井上尚之 | 大阪公立大学共同出版会 | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | サステナビリティ経営 | 井上尚之 | 大阪公立大学共同出版会 | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 積極的授業参加度・発表 (45点) 定期試験 (55点)、定期試験等が実施できない時はレポートに変える場合がある。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への | サステナビリティ経営・環境経営は今や企業の常識となっています。この講義で環境経営の概要を知ることが重要です。 | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|--------------|-------------------------------------|
| メッセージ | |
| 担当者の 研究室等 | |
| 備考 | 遠隔授業となったときは、Teams でオンデマンド（録画）授業を行う。 |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-----------------------|
| 科目名 | 公衆衛生学 | 科目名 (英文) | Public Health Science |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 小堀 栄子 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | INA2320a1 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 授業では、まず基礎編として、健康の観点からみた人類史に始まり、公衆衛生の歴史、日本の人口の現在と将来、人々の健康を守るための方法論（疫学）、予防医学の考え方とその具体例（感染症、生活習慣病）について学ぶ。また応用編として、人の健康が社会から受ける影響について移民（外国人）を事例に解説する。さらに人の健康に関する研究の倫理について、過去の歴史から学ぶ。 |
| 到達目標 | 公衆衛生学が扱う内容の全体像とその方法論の概要を把握するとともに、私たちの健康が社会や環境から受ける影響について理解する。 |
| 授業方法と留意点 | 講義を中心とするが、各回の最新の話題に関する視聴覚教材や時事ニュースなどを随時活用し、身近な話題から専門的な話へとつなげていく。 |
| 科目学習の効果（資格） | |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------|----------------|---|
| | | | |
| 1 | 人口転換と疫学転換 | 人類史と健康 | ・予習をすること（教科書第1章 p8-10, 第2章 p24-25）（30分） ・わからない点をまとめておくこと（30分） |
| 2 | 公衆衛生とは | 公衆衛生の歴史と概要 | ・予習をすること（教科書第1章 p1-12）（30分） ・わからない点をまとめておくこと（30分） |
| 3 | 保健統計（1） | 日本の人口 | ・予習をすること（教科書第2章）（30分） ・わからない点をまとめておくこと（30分） |
| 4 | 保健統計（2） | 健康指標 | ・予習をすること（教科書第2章）（30分） ・わからない点をまとめておくこと（30分） |
| 5 | 疫学（1） | 疫学の歴史と指標 | ・予習をすること（教科書第3章）（30分） ・わからない点をまとめておくこと（30分） |
| 6 | 疫学（2） | 因果推論 | ・予習をすること（教科書第3章）（30分） ・わからない点をまとめておくこと（30分） |
| 7 | 疾病予防 | 予防医学の考え方 | ・予習をすること（教科書第4章 p53-58）（30分） ・わからない点をまとめておくこと（30分） |
| 8 | 感染症（1） | 感染症の疫学と予防 | ・予習をすること（教科書第5章 p83-101, 166-178）（30分） ・わからない点をまとめておくこと（30分） |
| 9 | 感染症（2） | 感染症流行拡大の事例 | ・予習をすること（教科書第5章 p83-101, 166-178）（30分） ・わからない点をまとめておくこと（30分） |
| 10 | 生活習慣病 | 生活習慣病の疫学と予防 | ・予習をすること（教科書第5章 p79-82, p101-113）（30分） ・わからない点をまとめておくこと（30分） |
| 11 | 環境保健 | 地球規模の環境問題と取り組み | ・予習をすること（教科書第6章 p139-149, p203-208）（30分） ・わからない点をまとめておくこと（30分） |
| 12 | 国際保健 | 世界の健康・日本の健康 | ・予習をすること（教科書第13章）（30分） ・わからない点をまとめておくこと（30分） |
| 13 | 移民と健康（1） | 移民の健康と社会 | ・予習をすること（前回配布の課題に取り組み提出）（30分） ・わからない点をまとめておくこと（30分） |
| 14 | 移民と健康（2） | 日本在住外国人の健康 | ・予習をすること（前回配布の課題に取り組み提出）（30分） ・わからない点をまとめておくこと（30分） |
| 15 | 研究の倫理 | 人体実験の歴史と倫理 | ・予習をすること（教科書第1章 p14-17）（30分） ・わからない点をまとめておくこと（30分） |

| | |
|------|----|
| 関連科目 | なし |
|------|----|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|------------------|------|------|
| | 1 | シンプル衛生公衆衛生学 2022 | 辻一郎他 | 南江堂 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-------------------|----------|----------|
| | 1 | 国民衛生の動向 2021/2022 | 厚生労働統計協会 | 厚生労働統計協会 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|----------|--|
| 評価方法（基準） | 課題および/または小テスト(100%)で評価する。 60%以上を合格とする。 出席は、学生便覧にある履修の規定に従う (出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります)。 |
|----------|--|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | ・授業では、公衆衛生学を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義する。教科書を用意して、毎回の授業に真剣に臨むこと。 ・授業中の私語、教室の出入りは厳禁。 ・授業中にあてられたとき教室にいなかった場合は欠席扱いとする。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|--------------------|
| 担当者の研究室等 | 枚方キャンパス 看護学部 3階 24 |
|----------|--------------------|

| | |
|----|-----------------------|
| 備考 | 提出された課題内容について授業で解説する。 |
|----|-----------------------|

| | | | |
|----------------|-------------|----------|---------------------------------------|
| 科目名 | 科学技術教養 (V1) | 科目名 (英文) | Scientific and Technological Literacy |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 居場 嘉教 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | INA3322a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 新聞やテレビが病気・くすりについてのニュースを取り上げることは珍しくないが、その内容を理解することは容易ではない。本講義では、病気・くすりの発見や原因解明の歴史、生命現象との関係などを個体レベルから遺伝子レベルにわたって幅広く平易に概説する。この講義の到達目標は、病気・くすりに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになることである。また、病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学研究の意義を理解できるようになることを目指す。 |
| 到達目標 | (1) 病気・くすりに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになる。 (2) 病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学研究の意義を理解できるようになる。 |
| 授業方法と留意点 | 一話完結型のオムニバス形式で講義を行い、配付する資料とパワーポイントなどを用いて解説する。講義ごとに講義メモの提出を求める。その他、レポート・小論文・演習問題などの課題を課す。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 生命科学に関するニュースがより身近になり、明確に理解できるようになる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------|---|---|
| | | | |
| 1 | 不妊のしくみ | 日本人夫婦 (カップル) は 10 組のうち 1 組は不妊と言われており、実際に治療を受けている人が多い。しかし、なぜ不妊になるのかはつきりしない場合も多い。本講義では受精の仕組みから考えられる不妊の原因と現在の治療法について概説する。 | 予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間) |
| 2 | 病気と遺伝子 | 我々が持つ DNA は日常生活で頻繁に「傷 (変異)」を受けている。しかしながら、ヒトの体内には傷を発見して治療する安全システムが備わっており、「がん」を未然に防いでいる。本講義では、がんの発症に密接に関わる「遺伝子の傷」と体を守る安全システムの仕組みについて概説する。 | 予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間) |
| 3 | なぜ肥満は問題なのか? | 肥満そのものは病気とは言えない。しかし、糖尿病、高脂血症、高血圧、脳血管障害など様々な「生活習慣病」と呼ばれる疾患のリスクファクターになることが知られている。なぜ肥満が様々な疾患の原因になってしまうのか、そのメカニズムと予防・治療法について解説する。 | 予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間) |
| 4 | 免疫が引き起こす病気のしくみ | 外敵や内なる敵から自らを守るためにつくられた免疫システムの概要と、がん、ウイルス感染 (インフルエンザ、HIV、肝炎)、アレルギー疾患などとの関連について紹介する。 | 予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間) |
| 5 | がんの発生とその予防法 | 死因別死亡率のトップはがんであり、約 3 人に 1 人ががんで亡くなっている。自分の意思で調節可能なはずの危険因子である喫煙が、がんの原因の 30% を占めており、単因子要因としては最大である。本講義では、がんの発生機序やその予防法について説明する。 | 予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間) |
| 6 | ミトコンドリアと病気 | 太古の昔にヒトの細胞に侵入した細菌が由来のミトコンドリアであるが、我々の生と死はそのミトコンドリアに支配されている。本講義では、ミトコンドリアの特徴、役割およびミトコンドリアに関連した病気について概説する。 | 予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間) |
| 7 | くすりと遺伝子工学 | ある生物から分離した遺伝子を別の細胞または生物体に導入して、遺伝子産物 (タンパク質) を生産したり、新しい形質を作り出すなど、遺伝子を人工的に操作する技術、遺伝子工学について紹介する。 | 予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間) |
| 8 | くすりと組換え生物 | 生物が持つ遺伝情報に改変を施した「遺伝子組換え生物」は、再生医療やヒト疾患の治療法を開発するための重要なツールとして利用されていることに加え、バイオ医薬品の開発などにも役立っている。本講義では、遺伝子組換え生物やクローン生物の作製に関する技術と応用について概説する。 | 予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間) |
| 9 | くすりとバイオインフォマティクス | 遺伝子やタンパク質の配列情報を例にバイオインフォマティクスの概要について説明し、病気と遺伝子、ゲノム創薬への応用について述べる。 | 予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間) |
| 10 | くすりとタンパク質のかたち | タンパク質構造決定の意義と構造決定法のひとつである X 線結晶構造解析の概要から、インフルエンザ治療薬を例に | 予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間) |

| | | | | |
|-----------|--|----------------|---|--|
| | | | 医薬品開発への応用について述べる。 | |
| | 11 | GPCR とくすり | Gタンパク質共役型受容体(GPCR)は様々な疾患との関連性が示されており、医薬品の主要な標的タンパク質のひとつである。GPCR とともにそれらを標的とした医薬品について概説する。 | 予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間) |
| | 12 | 薬物乱用と依存性薬物 | 社会のルールからはずれた方法や目的で、薬物を使うことを薬物乱用という。薬物依存という、その人の性格や人格の問題と思われがちであるが、脳内報酬系の異常という生物学的基盤があることを理解する必要がある。本講義では、薬物依存の形成機構および各種の依存性薬物について説明する。 | 予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間) |
| | 13 | バイオ医薬品 (抗体医薬品) | 抗体医薬品は、これまでの低分子医薬品と比較して、高い治療効果と副作用の軽減が期待できるため、近年、注目が高まっている。本講義では、抗体とは何か、そしてこれまでに開発された抗体医薬品について概説する。 | 予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間) |
| | 14 | 認知症～その原因と治療法 | 我が国は超高齢化社会へと進行し続けおり、2025年には高齢者の5人に1人が認知症患者になると推定されている。そのため、認知症の発症率の低下や進行抑制のための有効な手立てが見つからなければ、社会的な負担が著しく増加すると懸念されている。認知症の原因や治療薬の開発など最新の知見を踏まえて解説する。 | 予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間) |
| | 15 | iPS細胞研究の最前線 | 京都大学の山中伸弥教授によって作り出されたiPS細胞の基礎・臨床研究は今や国家プロジェクトであり、新聞やテレビでもたびたび登場する。本講義でiPS細胞の発見から現在までの研究状況を概説する。 | 予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間) |
| 関連科目 | 科学技術教養 V2 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 講義メモ 50%およびレポート・小論文・演習問題などの課題 50%の総合点で評価する。 | | | |
| 学生へのメッセージ | 病気やくすりはみなさんの身近な問題で、関心も大きいと思います。本講義では病気やくすりについて、生命科学の観点から具体例を挙げて分かりやすく解説します。本講義は生物・薬を中心とした幅広い分野を含んでおり、各自の専門と関連する講義内容もあります。毎回レポート・課題があるので、毎回出席して各自の専門とのつながりを見つけ、幅広い教養を身につけてください。 | | | |
| 担当者の研究室等 | 1号館9階 尾山, 西村, 中嶋, 宮崎, 船越, 井尻, 居場, 湯浅研究室 | | | |
| 備考 | レポート・課題は各教員が採点した後、適宜返却する。 | | | |

| | | | |
|----------------|-------------|----------|---------------------------------------|
| 科目名 | 科学技術教養 (V2) | 科目名 (英文) | Scientific and Technological Literacy |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 大橋 貴生 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | INA3322a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 本講義では、微生物の単離・殺菌技術や化粧品の開発、繊維加工に利用されている遺伝子組換え技術など、我々の暮らしを豊かにするバイオテクノロジーから、環境リスクの評価、ヒトの健康を守る知識や技術まで、生命科学の分野における最新の研究事例を取り上げ、幅広く解説する。また、企業で商品開発等に20年以上の実務経験を有する教員が、その経験を活かして化粧品や繊維製品のバイオテクノロジー応用に関する教育も行う (第3,4回)。 SDGs-2, 3, 12, 13 |
| 到達目標 | 醗酵・腐敗の歴史、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について説明できる。 |
| 授業方法と留意点 | Moodleでのオンデマンド動画配信型の講義を実施し、講義ごとに受講メモの提出を求める。その他、レポート、小論文、演習問題などの課題を課す。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 遺伝子組換え技術などのバイオテクノロジーと、我々の暮らしや健康との関わりが理解できる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------------|---|-----------------|
| | | | |
| 1 | 機能性糖質 | 食品や産業などに利用されている機能性の糖質の具体例を紹介し、人の健康や産業にとってどのような機能性があるのかを解説する。 | 配布資料を復習する。(1時間) |
| 2 | 糖質とバイオ医薬 | 人の体の中で、糖質はエネルギー源として利用されているだけでなく、免疫応答・代謝物の末梢組織への運搬など、多岐に渡った生命維持に必要な機能を有している。本講義では、このような糖質の生理機能について解説する。 | 配布資料を復習する。(1時間) |
| 3 | 化粧品とバイオテクノロジー | バイオテクノロジーを化粧品開発に応用した事例を紹介し、実際の商品をとり上げてバイオテクノロジーのメリットを解説する。 | 配布資料を復習する。(1時間) |
| 4 | 繊維とバイオテクノロジー | 繊維に反応する酵素を紹介し、これらを用いた繊維加工の応用例および今後の可能性について解説する。 | 配布資料を復習する。(1時間) |
| 5 | エネルギーの創生と生物・環境に及ぼす影響 | 近年、エネルギーの枯渇化問題や生物とこれを取りまく環境との共生の問題を解決する新規エネルギーの創生が強く望まれている。本講義では、これまでに使用されてきたエネルギーから最先端のエネルギーまでの特徴を、生物と環境へ及ぼす影響といった観点から解説する。 | 配布資料を復習する。(1時間) |
| 6 | バイオエネルギー技術 | 21世紀に入り、エネルギー枯渇問題、環境負荷低減の要請から、生物の持つエネルギーを新しい代替エネルギーとして利用する試みが急速に発展している。本講義では、バイオエネルギーの概要から最先端のバイオエネルギー技術まで、現在のエネルギーとの比較や生態系・環境との共生の立場から解説する。 | 配布資料を復習する。(1時間) |
| 7 | 機能性食品などの新しい食品の形態 | 食品の一次機能(栄養素)、二次機能(味、触感など)および三次機能(生体機能の調節などの新規機能)について解説し、保健機能食品制度、特定保健用食品、栄養機能食品など新しい食品の形態を講述する。 | 配布資料を復習する。(1時間) |
| 8 | 食品の健康障害リスクと対策 | 微生物、アレルギー性物質、残留農薬などの食品に存在するヒトの健康障害リスクについて具体的な事例を取り上げ、解説する。 | 配布資料を復習する。(1時間) |
| 9 | 動く分子とバイオテクノロジー | ATP合成酵素や細菌のべん毛モーターなどの動く分子を紹介し、生物がもつ運動機能を生体分子モーターなどへ応用するバイオテクノロジーについて解説する。 | 配布資料を復習する。(1時間) |
| 10 | 昆虫学を用いた、ヒトの暮らしを支える科学技術 | 地球上でもっとも繁栄した生物群である昆虫は、時にヒトの暮らしを脅かす害虫となり、時にヒトに恵みをもたらす益虫となる。害虫からヒトの財産・健康を守り、益虫をもたらす恩恵を最大化するためには、昆虫を「知る」ことが不可欠である。本講義では、昆虫学がうみだす知識が、どのように科学技術に応用されているかを紹介する。 | 配布資料を復習する。(1時間) |
| 11 | 遺伝子組換え植物とその将来 | 代表的な遺伝子組換え植物の創生方法について簡単に紹介し、世界における遺伝子組換え植物の実際、遺伝子組換え作物の環境への影響、また、日本における | 配布資料を復習する。(1時間) |

| | | | | |
|--|----|------------------|---|-----------------|
| | | | 組換え作物の安全審査について説明する。さらに、遺伝子組換え賛成派と反対派の主な意見についても触れる。 | |
| | 12 | バイオレメディエーションの可能性 | 過去、日本であった重金属汚染について簡単に復習し、特に水銀に焦点を合わせて水銀浄化法を説明する。物理化学的浄化法と微生物を用いた生物学的浄化法を対比しながら、適宜遺伝子組換え技術について補足を加え概説し、植物を用いた生物学的浄化法についても説明する。 | 配布資料を復習する。(1時間) |
| | 13 | 生体高分子の利用 | 最近、廃棄されたプラスチックにより生成されるマイクロプラスチックによる環境汚染問題が問題視されている。本講義では、今後幅広く使用されることが期待される生体高分子がどのように利用され、化学合成によりつくられる様々なマテリアルに代替されているかについて解説する。 | 配布資料を復習する。(1時間) |
| | 14 | 環境リスクの評価方法 | 環境汚染物質や食品添加物などの合成化学物質などのヒトに対する安全性評価すなわちリスクアセスメントの考え方を講述し、水道水質基準や環境基準の策定に関する基本的な考え方を述べる。 | 配布資料を復習する。(1時間) |
| | 15 | 地球規模の環境破壊と人体への影響 | 主にオゾン層の破壊、地球の温暖化および酸性雨に関して発生原因、発生機構、人への影響およびその防止対策に関して述べる。 | 配布資料を復習する。(1時間) |

関連科目 科学技術教養V1

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

評価方法 (基準) 講義メモ 50%およびレポート・小論文・演習問題などの課題 50%の総合点で評価する。動画未視聴かつ講義メモを含む課題未提出の場合は欠席1日とする。

学生へのメッセージ 本講義では、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について、具体的な事例を取り上げ、分かりやすく解説します。本講義は、生物・環境を中心とした幅広い分野を含んでおり、各自の専門と関連する講義内容もあります。毎回動画を視聴して各自の専門とのつながりを見つけ、幅広い教養を身につけてください。毎回レポート・課題があるので、毎回出席すること。出席および遅刻・欠席の扱いは、一回目の講義で説明します。

担当者の研究室等 1号館8階 大橋准教授室

備考 事前事後学習に要する総時間の目安は15時間

| | | | |
|----------------|-------------|----------|---------------------------------------|
| 科目名 | 科学技術教養 (R1) | 科目名 (英文) | Scientific and Technological Literacy |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 川上 比奈子 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | INA3322a1 | | |

授業概要・目的
古来より人間は、自然の力をかりてこの地球上に暮らし続けてきたが、祖先が自然と共生するために凝らしたさまざまな工夫は、それぞれの場所での気候風土、地形、材料を活用したものであり、そこには多くの知恵と技術の歴史を見ることができる。このような背景にもとづく、住環境の成り立ちについて、さまざまな事例を紹介しながら講義する。また、それらを踏まえて、具体的な空間やもののデザインに応用するための工夫や実践につながる知識を学ぶ。
オムニバス形式の中で、建築設計や都市計画の実務経験を持つ教員が、建築やまち・都市がどのように創られているかについて実践的な授業を行う回がある。

到達目標
住環境の成り立ち、空間やもののデザインの実践的な技法を理解し、建築都市インテリアなどの空間を対象とする住環境デザイン全般の基礎を理解できる。

授業方法と留意点
ICT ツールを使用または活用する。オムニバス形式の講義中心授業である。場合によって、担当教員の順番を入れ替えることがある。
毎回、課題を出すので、教科書、ネットで調べるなどして、自主的に学習してください。
必ず、期日までに課題を提出すること。
最終回には、まとめテストを行う。
担当者によっては、講義時間内に小テストを行う場合があるので、注意すること。
提出された課題や小テストの中で誤解や不正解が多かった点は授業内で解説する。理解できない時は疑問点を質問してほしい。

科目学習の効果 (資格)
身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------------------|--|---|
| 1 | (オリエンテーション) 自然の力をかりた住宅デザイン | (科目の内容、授業の進め方、評価基準等を説明する。) 古代より人間は自然と共生するためにさまざまな工夫をこらした。世界各地におけるそれらの住まいの事例を学ぶ。 | ・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間) |
| 2 | エコ技術と住宅デザイン-近代の住宅事例 | 新しい素材、技術、理論の進展に伴い、エコ技術を駆使した近代の住宅デザイン例を学ぶ。 | ・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間) |
| 3 | エコ技術と住宅デザイン-現代の住宅事例 | 自然の力をかりるといった古来の知恵を、最新の科学によって融合させた現代の住宅デザイン例を学ぶ。 | ・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間) |
| 4 | 環境配慮型デザインプロセス | 環境配慮型建築・設備設計のデザインプロセスと、住宅のパッシブ・アクティブ技術を学ぶ。 | ・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間) |
| 5 | 住環境における換気 | 換気の考え方の歴史や法などの基準のはなしを基に、住宅における換気的重要性について学ぶ。 | ・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間) |
| 6 | 健康で快適な生活とにおける対策 | 心身ともに健康に過ごすための、住宅内での問題や対策の考え方について学ぶ。 | ・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間) |
| 7 | 生活の中における香りの活用 | 屋内外の香りや人との関わりのはなしから、香りや人の心理生理的影響や香りの積極的な活用方法について学ぶ。 | ・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間) |
| 8 | いのちを守るあかりとサイン | 大規模災害時に避難・誘導を助けるあかりやサインの存在を知り、その有用性とデザイン上の注意点を学ぶ。 | ・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間) |
| 9 | 安全・快適な照明環境 | 照明環境のユニバーサルデザイン手法について、基礎的な知識と、最近の調査、デザイン事例を学ぶ。 | ・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間) |
| 10 | 暮らしの中のさまざまな寸法 | 身近なモノの寸法がどのように決められているかを知り、住まいや暮らしをより豊かにするデザインの視点を学ぶ。 | ・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間) |
| 11 | 地域と景観 | 地域に居住・生活する人間と景観との関係を、日本の伝統的コミュニティ、景観保護の事例を通して学ぶ。 | ・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間) |

| | 12 | 野生動物との共存のデザイン | 近年獣害が増加する獣害問題及び野生動物と人間が共存するための方策を、具体的事例を通して学ぶ。 | ・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと（1時間） ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと（1時間） | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|---|-------------------|--|---|----|-----|-----|------|---|--------------------------|-------------------|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| | 13 | 住環境における図の役割 | 身近に用いられている図の重要性とその役割について学ぶ。 | ・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと（1時間） ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと（1時間） | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 14 | 住環境と情報技術 | 私たちが毎日暮らす空間で利用されている情報技術について事例を通して学ぶ。 | ・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布テキスト等を調べて整理しておくこと（1時間） ・復習：全授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめテストの準備をしておくこと（1時間） | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15 | 解説 まとめテスト | 解説およびまとめテストを実施する。 | 予習：講義内容の復習をして、 まとめテストを受けること（1時間） | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>科学技術教養（R1） 住環境デザイン学科 教科書</td> <td>摂南大学理工学部住環境デザイン学科</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 科学技術教養（R1） 住環境デザイン学科 教科書 | 摂南大学理工学部住環境デザイン学科 | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 科学技術教養（R1） 住環境デザイン学科 教科書 | 摂南大学理工学部住環境デザイン学科 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 毎回の課題 15%、まとめテスト 85%で評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | 毎回の課題提出をもって出席とします。15 回目のまとめテストは、可能な限り、対面で行う予定です。状況によって対面が不可能な場合はオンラインに変更します。Teams の投稿欄において周知するので、注意してください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 住環境デザイン学科共通準備室 12号館7階 樋口教授室、山根講師室、川上教授室、久富教授室、稲地准教授室、榑准教授室、白鳥准教授室、竹村准教授室、大橋准教授室 12号館6階 坂本教授室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 場合によって、担当教員の順番を入れ替えることがある。講義に係る予習・復習などの学習時間は、毎回1.5時間程度を目安とする。提出された課題や小テストの中で誤解や不正解の多かった点は授業内で解説してフィードバックする。理解できない時は疑問点を質問してほしい。 各回の課題については、随時評価の上返却する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|-------------|----------|---------------------------------------|
| 科目名 | 科学技術教養 (R2) | 科目名 (英文) | Scientific and Technological Literacy |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 坂本 淳二 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | INA3322a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 日本の伝統的な住宅は、気候風土、地形、材料などに影響を受けて地方色が豊かであり、歴史的、文化的な相違からも地域性が認められる。現代の住まいや暮らしはそれらの影響を受けて、さまざまな技術の発達、社会の変化とともに、かつての住まいや暮らしの形は変容しつつある。このような身近な住まい、まち、暮らしについての知識を得て、今後の持続可能な社会の創造に関わる知識を学ぶ。 |
| 到達目標 | 到達目標：建築都市インテリアなどの空間における歴史的文化的背景による地域性を理解し、持続可能な社会を創造するためのまちづくりや住宅建築など、住環境の未来に向けたデザインの基礎を理解できる。 |
| 授業方法と留意点 | 毎回、課題を出すので、教科書、ネットで調べるなどして、自主的に学習してください。 必ず、期日までに課題を提出すること。 最終回には、まとめテストを行う。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------------|---|---|
| | | | |
| 2 | 日本の住まいの地域性 | 気候風土や歴史、文化などを背景に、地方色豊かな伝統的日本住宅について学ぶ。 | 配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。 |
| 3 | 住環境とパッシブデザイン | 住環境におけるパッシブデザインの変遷を建築家の作品を通して学ぶ。 | 配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。 |
| 4 | 住環境と考現学 | 私たちの身の回りにある住環境を観察・記録することから新しい環境デザインをつくりだす方法を学ぶ。 | 配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。 |
| 5 | 大規模災害時の避難生活環境 | 阪神淡路大震災・東日本大震災など大規模災害時の避難生活状況と支援活動を知ることから未来への備えを学ぶ。 | 配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。 |
| 6 | スマートウェルネスなまちづくり | 環境配慮型まちづくりの世界の事例、およびスマートグリッド・スマートコミュニティや健康に配慮したまちづくりに対する、日本での取り組みを知り、今後のまちづくりについて考える。 | 配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。 |
| 7 | 高齢者のための生活空間 | 高齢者の外出行動、生活環境の広がり、求められる支援の仕組みについて事例を通して学ぶ。 | 配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。 |
| 8 | 高齢者の生活環境の広がり と支援 | 高齢者の心身機能の特性を踏まえて、高齢者をめぐる住宅行政や、様々な高齢者居住について学ぶ。 | 配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。 |
| 9 | 学びと遊びの環境デザイン | 発達段階にある子どもたちが多くの時間を過ごす学校の新しいデザイン事例を知り、人と空間との密接な関係を学ぶ。 | 配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。 |
| 10 | 地球共生デザイン・ 建築・住環境のすすめ | 環境と人間活動、二つの観点からアプローチする共生デザイン・建築・住環境の考え方について学ぶ。 | 配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。 |
| 11 | バイオミメティックデザイン | 自然界における形態・構造・システムとそれらの応用デザインについて学ぶ。 | 配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。 |
| 12 | 次世代の住環境を考える | 私たちの住環境はどのように進化すべきか、地球共生から宇宙共生についてを考える。 | 配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。 |
| 13 | 省エネルギーとパッシブデザイン | 住宅、オフィスビル等の先進のパッシブデザイン技術を学ぶ。 | 配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。 |
| 14 | 省エネルギーとアクティブデザイン | 住宅、オフィスビル等の先進のアクティブデザイン技術を学ぶ。 | 配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。 |
| 15 | 解説・まとめテスト | まとめテストを実施する。 | 配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。 |

| | |
|------|----|
| 関連科目 | なし |
|------|----|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|---------------------------|---------------|------|
| | 1 | 科学技術教養 (R2) 住環境デザイン学科 教科書 | 理工学部住環境デザイン学科 | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|---------------|--|
| 評価方法 (基準) | 毎回の課題 15%、まとめテスト 85%で評価する。 |
| 学生への メッセージ | |
| 担当者の 研究室等 | 住環境デザイン学科共通準備室 12号館7階 樋口教授室、山根講師室、川上教授室、久富教授室、稲地准教授室、榑准教授室、白鳥准教授室、竹村准教授室、大橋准教授室 12号館6階 坂本教授室 |
| 備考 | 各回の課題については、随時評価します。 |

| | | | |
|----------------|-------------|----------|---------------------------------------|
| 科目名 | 科学技術教養 (A1) | 科目名 (英文) | Scientific and Technological Literacy |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 加嶋 章博 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | INA3322a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築学に関わる学問体系のおおよそについて紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。なお、本授業は建築学科専任教員全員で担当する。(SDGs-11) |
| 到達目標 | インテリアから都市空間にいたるまで、広範な建築技術、建築デザイン、建築文化における現状と課題を通して、建築がどのような影響を及ぼすものかを理解する。その上で、身近な生活環境から公共的な都市空間にいたるまで、そのあり方を的確に考察することができる基本的な教養を身につけることを目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 教科書・資料等は、Moodleに掲載あるいは各講義時に配布する。 TeamsやMoodle等を活用する授業があるため、詳細について初回授業で説明する。 各講で用意する教材や資料の理解に努め、課題を通して、建築と社会の繋がりを考えられるようになることを重視する。各講の内容に沿った演習課題を毎回実施する。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。 |

| | | | | |
|------|----|--------------|---|--------------------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | 建築の歴史 | 建築の歴史の変遷から建築における多様な「技術」について学ぶ | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| | 2 | 建築の温熱環境 | 建築空間における温熱環境を理解する視点を培います。 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| | 3 | 建築における設備 | 採光・照明・通風・熱環境・給排水・騒音・エネルギー、エレベーター、エスカレーター | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| | 4 | 建築とは何か | 建築の考え方、建築家の果たす役割 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| | 5 | 建築と人間生活 | 建築の種類と計画空間、ライフスタイルからみた多様性、民族・地域からみた多様性 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| | 6 | 建築と都市環境 | 建築と都市の関係、都市環境のデザイン | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| | 7 | 建築物のかたちと力の流れ | 目に見える建築と目に見えない力がどのように関係しているのかを理解する視点を養います。 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| | 8 | 建築の内装 | インテリア、家具・内装 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| | 9 | 建築の外装・外構 | 外装材とは、エクステリア、造園 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| | 10 | 建築のUD | こどもと建築、バリアフリー、ユニバーサルデザイン | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| | 11 | 建築の保存活用 | 建築と社会の結びつきについて、建築のストック活用事例、保存手法、コンバージョンといった建築保存の視点から見る。 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| | 12 | 建築の骨組み | 構造と力の流れ、構造材料の性能 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| | 13 | 建築の材料 | 構造と仕上げ材料 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| | 14 | 建築と防災 | 災害、避難、防災教育 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| | 15 | 建築をつくる新技術 | 構造、材料、施工の新技術 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |

| | |
|------|----|
| 関連科目 | なし |
|------|----|

| | | | | |
|-----|----|-------------------------------|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 教科書・資料等は、授業で配布あるいはMoodleに掲載予定 | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 計15回の課題(各回、課題レポート・講義メモ・小テスト・グループワーク・ディスカッション等により構成され、それぞれの割合の合計が100%となる)により評価する。期末試験は行わない。原則として、課題提出の割合が80%以上の履修者を成績評価の対象とする。 |
|-----------|---|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 授業で得た建築学に関する基礎的な知見を、日常生活や社会で起こっている様々な事象に照らして、自ら考え判断することを心がけてください。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|------------------|
| 担当者の研究室等 | 8号館3階・各授業担当者の研究室 |
|----------|------------------|

| | |
|----|--|
| 備考 | 出席および遅刻・欠席の扱いは、原則として、理工学部における出席および遅刻・欠席の扱いに準ずる(出席率80%以上を成績評価の対象/30分以上の遅刻は欠席扱いとする/遅刻は2回で欠席1回とみなす)。事前あるいは事後学習として、教科書の当該回の範囲または指定した資料等を読み、関連する情報収集を行うなどし、授業1回あたり1.5時間以内 |
|----|--|

上をかける必要がある。

| | | | |
|----------------|-------------|----------|---------------------------------------|
| 科目名 | 科学技術教養 (A2) | 科目名 (英文) | Scientific and Technological Literacy |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 加嶋 章博 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | INA3322a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築学に関わる学問体系のおおよそについて紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。なお、本授業は建築学科専任教員全員で担当する。(SDGs-11) |
| 到達目標 | 建築学に関連する科学技術についての教養を身につけることで、卒業後も社会生活を送るうえで、様々な状況において適用し、建設的な思考につなげていくことができることを目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 教科書・資料等は、配布あるいは Moodle に掲載する。 Teams や Moodle 等を活用する授業があるため、詳細について初回授業で説明する。 各講で用意する教材や資料の理解に努め、課題を通して、建築と社会の繋がりを考えられるようになることを重視する。各講の内容に沿った演習課題を毎回実施する。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------|--|--------------------------------------|
| | | | |
| 1 | 環境共生と建築 | 環境と共生する建築について考える | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 2 | 住む建築 | 住宅、住むことの工夫 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 3 | 集まって住む建築 | 集まって住む楽しさ、集まって住むカタチ | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 4 | 福祉医療の建築 | 建築と福祉医療 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 5 | 建築の公共性 | 公共の建築、パブリックスペース、公共性のある都市施設等に着目し、建築の公共性について考える。 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 6 | 商業の建築 | 商業建築、商店街の歴史と再生 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 7 | 文化の建築 | 建築に象徴された様々な文化を読み取る | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 8 | 交通の建築 | 陸・海・空の交通 交通建築の特徴 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 9 | 木造の建築 | 木匠、伝統技術と最新技術 木造建築、木材の使用 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 10 | 地下空間の建築 | 地下空間のメリット、地下空間の利用、 大深度地下、地下都市 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 11 | 高層の建築 | 五重塔と超高層、 超高層建築の性能と設計、耐震要素と構造技術 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 12 | プレハブ建築 | 種類と概要、 プレハブ化の普及、設計と生産、 災害仮設住宅 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 13 | 建築とロボット | ロボット導入の経緯、 ロボット化の現状と技術、 今後のロボット | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 14 | 街並みの建築 | ランドスケープと建築、 街並みと要素 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 15 | 建築空間と心理 | 空間条件と心理、ヒューマンスケール、 人はどこに住むか、 近代建築の問題、将来の建替 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |

| | |
|------|--------|
| 関連科目 | 専門科目全般 |
|------|--------|

| | | | | |
|-----|----|------------------------------|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 教科書・資料等は配布あるいは Moodle に掲載する。 | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 計 15 回の課題 (各回、課題レポート・講義メモ・小テスト・グループワーク・ディスカッション等により構成され、それぞれの割合の合計が 100% となる) により評価する。期末試験は行わない。原則として、課題提出の割合が 80% 以上の履修者を成績評価の対象とする。 |
|-----------|---|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 授業で得た建築学に関する基礎的な知見を、日常生活や社会で起こっている様々な事象に照らして、自ら考え判断することを心がけてください。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|----------|
| 担当者の研究室等 | 8 号館 3 階 |
|----------|----------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 出席および遅刻・欠席の扱いは、原則として、理工学部における出席および遅刻・欠席の扱いに準ずる (出席率 80% 以上を成績評価の対象/30 分以上の遅刻は欠席扱いとする/遅刻は 2 回で欠席 1 回とみなす)。ただし、出席は課題解答提出時間内の提出により判断する。 事前あるいは事後学習として、教科書の当該回の範囲または指定した資料等を読み、関連する情報収集を行うなどし、授業 1 回あたり 1.5 時間以上をかける必要がある。 |
|----|---|

| | | | |
|----------------|-------------|----------|---------------------------------------|
| 科目名 | 科学技術教養 (M1) | 科目名 (英文) | Scientific and Technological Literacy |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 岸本 直子 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | INA3322a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | <p>機械工学とは“ヒトが活動する上での効率化と合理化、自動化を図る機械”の原理、性能、製作、利用と保守を科学的に体系化した学問である。機械工学は、機械力学、材料力学、熱力学、流体力学の4力学を基軸とし、その応用分野は多岐にわたる。</p> <p>本講義は、機械工学を象徴する代表的な学問分野を科学技術教養の視点で学習することにより、機械工学の全体像を俯瞰しつつ、履修者が所属する機械工学以外の分野と機械工学のかかわりに気づき、機械工学の基本的な考え方や役割を理解することを目的とする。</p> |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・機械技術とものづくり技術の全般的な基礎知識を知り、機械工学と実社会への関わりを理解することができる。 ・機械工学と他分野の関わりに気づき、機械工学の基本的な考え方や役割を理解する。 |
| 授業方法と留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・各テーマごとにその歴史、基本原理、最先端の話題を提供する。 ・Web上で配布するテキスト (PDF) に目を通し、ポイントをまとめておく。 ・講義前に課題を配布し、スライド資料を用いた講義を行う。(60分) ・講義メモと課題を作成し、指示に従って提出する。(30分) <ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じてオンライン方式に切り替える場合がある。 ・切り替える日時や受講方法の連絡には Teams を使うので、注意しておくこと。 |
| 科目学習の効果 (資格) | <ul style="list-style-type: none"> ・機械工学科の基本的な知識を俯瞰的に知ることことができる。 ・機械工学と他分野との関わりに気づき、受講者の興味や知識の幅を広げることができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------|--|--|
| | | | |
| 1 | 機械工学の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・人類の歩みと機械の歴史 ・ものづくりの原点 ・科学技術と機械工学 ・これからの社会への機械工学の役割 | M1 テキスト第1章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間) |
| 2 | 道具と機械 | <ul style="list-style-type: none"> ・道具の歴史：ヒトの手の動作を補う道具から労働としての道具へ ・農具 漁具 大工道具 手動工具 電動工具 | M1 テキスト第2章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間) |
| 3 | いろいろな機械材料 | <ul style="list-style-type: none"> ・金属材料 ・高強度・機能性材料 ・新素材と高度産業社会 | M1 テキスト第3～5章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間) |
| 4 | ものづくりの科学と技術 | <ul style="list-style-type: none"> ・溶かして作る ・変形させて作る ・削って作る ・積み上げて作る ・工場を科学する | M1 テキスト第6～8章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間) |
| 5 | 作業を補助する機械 | <ul style="list-style-type: none"> ・人間の作業と機械 ・移動と運搬の補助 ・動力源・移動のためのメカニズム ・力を伝えるための仕組みと手段 ・シャフトとベアリング | M1 テキスト第9・10章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間) |
| 6 | 機械をかしこくする | <ul style="list-style-type: none"> ・機械の操作と知能化技術 ・知能化のための機械設計 ・パワーアシストスーツ ・人工知能技術 | M1 テキスト第11章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間) |
| 7 | ミクロの機械 | <ul style="list-style-type: none"> ・小型化への取り組み ・小さくなることで変わる物理特性 ・半導体製造技術 ・マイクロロボット | M1 テキスト第12～14章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間) |
| 8 | 流れを利用する | <ul style="list-style-type: none"> ・動力と流体機械 ・流体機械の歴史 ・発電のための流体機械 ・自然エネルギーの利用 | M2 テキスト第2・3章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間) |
| 9 | 陸上を移動する | <ul style="list-style-type: none"> ・エンジンと機械工学 ・動力機械としてのエンジン ・熱エネルギー ・旅客輸送と貨物輸送 | M2 テキスト第4・5章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間) |
| 10 | 空間を移動する (1) | <ul style="list-style-type: none"> ・空を飛ぶ原理と飛行機の機械技術 | M2 テキスト第6章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間) |
| 11 | 空間を移動する (2) | <ul style="list-style-type: none"> ・深海に潜る原理と深海艇の機械技術 ・宇宙に飛び立つ原理とロケットの機械技術 | M2 テキスト第7・8章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間) |
| 12 | 計測する | <ul style="list-style-type: none"> ・度量衡と政治 ・もの大きさや精密さ ・センサで測る ・センシング技術 | M2 テキスト第9・10章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間) |
| 13 | 制御する | <ul style="list-style-type: none"> ・制御工学の世界 ・制御の方式 ・さまざまな機械制御技術 | M2 テキスト第11・12章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間) |
| 14 | 生命・生体にならう | <ul style="list-style-type: none"> ・バイオエンジニアリングの世界 ・人間を救う・支援する機械 ・健康とスポーツのための機械 ・人間工学 | M2 テキスト第13～15章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間) |
| 15 | 工場見学 (バーチャル) | <ul style="list-style-type: none"> ・Web上で公開されている国内外の工場の動画を視聴して、バーチャルな工場見 | 工場について事前に調べておく (2時間)、レポート作成 (1時間)、関連事項について調べる (1時間) |

| | | | |
|---------------|---|-------|-----|
| | | 学とする。 | |
| 関連科目 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 |
| | 1 | | |
| | 2 | | |
| | 3 | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 |
| | 1 | | |
| | 2 | | |
| | 3 | | |
| 評価方法 (基準) | <ul style="list-style-type: none"> ・毎回提出する課題（各回 10 点満点）に基づき成績評価をする。 ・満点は 150 点（講義 15 回分）で、これを 100 点満点に換算する。 | | |
| 学生への メッセージ | 本講義を受講することにより、機械工学が対象とする学問・専門分野や、機械工学と実社会との関わりを理解することができます。現代社会では、あらゆる分野で機械が働いています。受講者それぞれの分野と機械工学の関わりを知ることで、知識や視野を広げることができます。 | | |
| 担当者の 研究室等 | 担当教員の居室 [1 号館の 3 階・4 階・5 階] | | |
| 備考 | 【フィードバック】採点済みの課題を確認することができる。 | | |

| | | | |
|----------------|-------------|----------|---------------------------------------|
| 科目名 | 科学技術教養 (M2) | 科目名 (英文) | Scientific and Technological Literacy |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 岸本 直子 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | INA3322a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 機械工学は、ヒトが活動する上での効率化、合理化、さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問体系である。本講義では、ヒトはなぜモノを作ろうとするのか、何を用いてモノを作ってきたのか、どのようにモノを作るのかに注目し、その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること、さらには産業の発展に役立ってきたさまざまな機械とその諸技術について学ぶ。 |
| 到達目標 | 人の活動に貢献し生活を豊かにする機械技術を理解するとともに、機械システムと社会や経済活動、生活・生命との関わりを理解できる。 |
| 授業方法と留意点 | <ul style="list-style-type: none"> 各テーマごとにその歴史、基本原理、最先端の話題を提供する。 教科書を準備すること。なお、適宜、追加資料を配布する。 講義の最後に、課題を提出する。原則、次回の講義のはじめに、採点済みの課題を返却する。 時間配分の目安：講義 (約60分) → 質疑応答 (15分) → 課題 (15分) 【留意点】 担当教員や状況によって ICT ツールを活用する場合がありますので、Teams 等のアナウンスに注意すること。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 世の中に存在する工業製品、人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て、知見を広めることができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------------|--|--|
| | | | |
| 1 | 機械工学とは？ | <ul style="list-style-type: none"> 機械工学の発展の歴史を概観する。 「機械工学曼荼羅」を用いて、機械工学の役割、範囲、応用を紹介する。 | 事前：テキスト第1章 (機械工学とは) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間) |
| 2 | 活動の源(1) - 動力・エネルギーの世界 | <ul style="list-style-type: none"> 身近なエネルギー利用と動力の歴史 人力、蓄力、水力、風力、蒸気力 | 事前：テキスト第2章 (動力) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間) |
| 3 | 活動の源(2) - 発電 | <ul style="list-style-type: none"> エネルギー利用と発電 水力、風力、火力、地熱、原子力発電 | 事前：テキスト第3章 (電力) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間) |
| 4 | 乗り物(1) - エンジン | <ul style="list-style-type: none"> 熱工学とエンジンシステム 種々のエンジン (ガソリン等)、電気モータ | 事前：テキスト第4章 (エンジン) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間) |
| 5 | 乗り物(2) - 輸送する | <ul style="list-style-type: none"> 交通と物流 自動車交通、船舶、鉄道 | 事前：テキスト第5章 (輸送する) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間) |
| 6 | 空間を移動する(1) - 空を飛ぶ | <ul style="list-style-type: none"> 空中を飛ぶことができる機械の機能、種類、歴史と原理 飛行機、ヘリコプター、飛行船、揚力 | 事前：テキスト第6章 (空を飛ぶ) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間) |
| 7 | 空間を移動する(2) - 高速移動 | <ul style="list-style-type: none"> 深海に潜ることができる機械の機能、種類、歴史と原理 しんかい 6500、深海探査、水圧、チタン合金、生命維持システム | 事前：テキスト第7章 (深海に潜る) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間) |
| 8 | 空間を移動する(3) - 宇宙へ飛び立つ | <ul style="list-style-type: none"> 宇宙空間に飛んでいける機械の機能、種類、歴史と原理 ロケット、スペースシャトル、宇宙ステーション、高真空、ロケットエンジン | 事前：テキスト第8章 (宇宙へ飛び立つ) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間) |
| 9 | 物を測る | <ul style="list-style-type: none"> 測り方を共通にすることで広がる世界 度量衡と政治の関係、原器、ものさし、機械的測定 | 事前：テキスト第9章 (物を測る) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間) |
| 10 | センサで測る | <ul style="list-style-type: none"> センサの発達と誤差との戦い センサ、センシング技術、計測と誤差 | 事前：テキスト第10章 (センサで測る) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間) |
| 11 | 制御する | <ul style="list-style-type: none"> 制御の成り立ちと発展、自動制御とは？ 调速機、結果を見て制御する (フィードバック) | 事前：テキスト第11章 (制御するとは?) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間) |
| 12 | 操る・抑える | <ul style="list-style-type: none"> サーボ機構とプロセス制御 ロボットアーム、ロケット、原子力発電、鉄鋼プラント | 事前：テキスト第12章 (操る・抑える) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間) |
| 13 | 生命・生体に倣う機械(1) バイオエンジニアリング | <ul style="list-style-type: none"> バイオエンジニアリング、生体工学の世界 生体の模倣と設計、鳥と飛行機、ハコブと低燃費自動車、サソリと多足ロボット | 事前：テキスト第13章 (バイオエンジニアリング) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間) |
| 14 | 生命・生体に倣う機械(2) - 医療と健康 | <ul style="list-style-type: none"> 人間を援ける医用工学、人間を癒す福祉工学の世界 人工臓器、福祉機器、健康機器、スポーツ機器 | 事前：テキスト第14章 (医療と健康) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間) |
| 15 | 生命・生体に倣う機械(3) - ヒューマノイド | <ul style="list-style-type: none"> 人間を測る、診る、まねる世界 生体計測、生体力学、医用診断装置、ヒューマノイドロボット | 事前：テキスト第15章 (ヒューマノイド) を読んでおく (2時間) 事後：関連事項について調べる (2時間) |

| | |
|------|-------|
| 関連科目 | 産業技術史 |
|------|-------|

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| | |
|-----|--|
| 参考書 | |
|-----|--|

| | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|---------------|---|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回提出する課題（各回 10 点満点）に基づき成績評価をする。 ・ 満点は 150 点（講義 15 回分）で、これを 100 点満点に換算する。 | | | |
| 学生への メッセージ | <p>機械工学が関わる製品や技術を、大きなスケールで幅広く知ることができます。また、道具はどうやって進化してきたのか？ 日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか？ 近未来にどのような乗り物が実現されているか？ 等々、工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し、就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。</p> | | | |
| 担当者の 研究室等 | 担当教員の居室 [1 号館の 3 階・4 階・5 階] | | | |
| 備考 | <p>出席および遅刻・欠席の扱いは、次のルールを原則とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出席率（期限までの課題提出）80%以上を成績評価の対象とする。 ・ 対面講義の場合、30 分以上の遅刻は欠席扱いとする。 ・ 対面講義の場合、遅刻は 2 回で欠席 1 回とみなす。 <p>※ 詳細は、初回に配布する『M科開講「科学技術教養 M1・M2」受講の際の注意』を熟読すること。 【フィードバック】 原則、講義の初めに、前回の課題（採点済み）を返却する。ICT ツールを活用する場合はそのツール上で採点済み課題の得点を確認できる。</p> | | | |

| | | | |
|----------------|-------------|----------|---------------------------------------|
| 科目名 | 科学技術教養 (E1) | 科目名 (英文) | Scientific and Technological Literacy |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 片田 喜章 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | INA3322a1 | | |

| | |
|---------|--|
| 授業概要・目的 | 電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の簡単な基礎理論を紹介しながら、身の回りにある電気製品を題材として電気電子工学から通信情報分野までの多岐にわたる応用技術を学習させることを目的とする。 |
| 到達目標 | 電気を作る電池の話や電気を力に変えるモータ、半導体や太陽電池の構造、携帯電話やパソコン、インターネットのしくみまで、電気を使った最新技術がどの様なしくみで暮らしの中で活用されているかを理解できることを到達目標とする。 |

| | |
|----------|---|
| 授業方法と留意点 | [対面授業] 電気電子工学科の教員が各授業テーマを順番に担当する。 講義は1話完結であるが、相互につながりがある。電気を用いた科学技術の全体像を理解するように努めよう。 毎回、課題レポートが用意されている。課題レポートの提出はMoodle上で行う。課題レポートのフィードバックもMoodle上で行う。 |
|----------|---|

| | |
|--------------|--|
| 科目学習の効果 (資格) | 計測装置・電気設備など電気工学以外の分野でも電気を使った機器はいたるところで使われている。 これらの原理や特性を知ることで、その性能をフルに引き出すことができる。 また、身近な電気製品のしくみを知ることで、より有効活用することができる。 国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。 |
|--------------|--|

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------|--|--------------------------|
| | | | |
| 1 | 電気の歴史と電気回路の基礎 | 科学技術教養の意義 電磁気学の歴史、電気回路の基礎、抵抗と電気エネルギーの利用、消費電力、交流と直流 | テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間 |
| 2 | 電池の構造と応用技術 | 交流と直流、電池の種類と電圧発生原理、1次電池と2次電池 | テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間 |
| 3 | モータのしくみと応用 | 磁石と力、電磁石、直流モータと交流モータ | テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間 |
| 4 | 半導体のお話 | 半導体とは何か、p形とn形、大規模集積回路、LED照明とは | テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間 |
| 5 | 太陽電池の構造と家庭での利用 | 半導体で光エネルギーを電気に変換する。売電のしくみ。 | テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間 |
| 6 | 様々な電子回路 | 電子回路の歴史、真空管と半導体・集積回路、代表的なアナログ電子回路 | テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間 |
| 7 | 電波応用技術の変遷 | 電波と光、マクスウェル理論とヘルツの実験 変調方式、ラジオとテレビ | テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間 |
| 8 | モールス通信から携帯電話へ | モールス通信からベルの電話へ、電話機と交換機のしくみ、アナログからデジタルへ、携帯電話とネットワークのしくみ | テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間 |
| 9 | アナログからデジタルへ | アナログとデジタル、2進数とは、論理回路入門 | テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間 |
| 10 | パソコン・スマートフォンの内部構造 | 構成要素と機能、ハードウェアの構成、ソフトウェアの役割、パソコン・スマートフォンの進化 | テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間 |
| 11 | マイコンで制御される家電製品 | 電気制御の重要性、温度制御、圧力制御 電子レンジやIHのしくみ | テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間 |
| 12 | 画像表示のしくみ | 画像表示の歴史と原理、各種表示デバイスのしくみ、立体映像表示の原理と事例 | テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間 |
| 13 | インターネットのつながり | インターネットのしくみ、ルータとハブ 無線LAN、ネットワークセキュリティ | テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間 |
| 14 | 医療分野への貢献 | ガルバノの実験、義手の制御 電気工学の医療への応用 | テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間 |
| 15 | マルチメディア技術 | ICカード、公衆無線LAN、カーナビゲーションシステム、電子カルテ | テキストを復習し、課題レポートを作成する。1時間 |

| | |
|------|------|
| 関連科目 | 特になし |
|------|------|

| | | | | |
|-----|----|-----------|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | テキストを配付する | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|--|
| 評価方法 (基準) | 授業の各回で課される課題レポートの合計点で評価する。 原則として課題レポートの提出率80%以上を成績評価の対象とする。 |
|-----------|--|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 身の回りの電気製品は日々進化しています。これらを便利な道具としてブラックボックス的に使うのではなく、そのしくみを知って使うことでさらに活用することができます。そういったしくみに興味を持って受講して下さい。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|--|
| 担当者の研究室等 | 1号館4階・5階の電気電子工学科教員室 責任者：片田（1号館4階） |
| 備考 | 出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 原則として課題レポートの提出率80%以上を成績評価の対象とする。 課題提供はMoodle上で行い、課題レポート提出はすべてMoodle上で行う。 課題レポートには提出期日がある。 課題レポートの結果はMoodle上で個別に通知する。 |

| | | | |
|----------------|-------------|----------|---------------------------------------|
| 科目名 | 科学技術教養 (E2) | 科目名 (英文) | Scientific and Technological Literacy |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 片田 喜章 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | INA3322a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の歴史と簡単な基礎理論を説明した後、電気を発生する発電のしくみとその方法を手始めに、現代社会において応用されている電気電子工学、通信情報工学の最新科学技術について講述する。 |
| 到達目標 | 電車のしくみや放送技術、携帯電話やレーザー光線の原理、最新のナノテクノロジー、ロボット工学や人工知能の話などもあり、最終的には電気を使った科学技術がどの様なしくみで我々の暮らしに関わっているかを理解できることを到達目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | [対面授業] 電気電子工学科の教員が各授業テーマを順番に担当する。 講義は1話完結であるが、相互につながりがある。電気をを用いた科学技術の全体像を理解するように努めよう。 毎回、課題レポートが用意されている。課題レポートの提出はMoodle上で行う。課題レポートのフィードバックもMoodle上で行う。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 現代社会を支えている電気エネルギーとその応用について総合的に学ぶことにより、電気への理解を深め、これにより原子力発電も含めた電力供給系と節電に対する正しい考え方を身につけることができる。 また、携帯電話やスマートフォンでどこでも通信ができる社会のしくみ等も知ることができる。 国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------|--|---------------------|
| | | | |
| 1 | 電気の歴史 | 科学技術教養の意義 磁石の利用、クーロンの法則、アンペールの法則、ファラデーの電磁誘導、マクスウェル理論と電磁波の予言 | 電気に関するニュースに注意する。1時間 |
| 2 | 発電の原理と発電所 | 電気エネルギーを発生させるしくみ、発電機、水力、火力 交流発生か直流か、50Hzと60Hz | テキストを復習する。1時間 |
| 3 | 再生可能エネルギー | 太陽光発電、風力発電 地熱発電、海洋エネルギー、宇宙発電、エネルギー効率 | テキストを復習する。1時間 |
| 4 | 送電・配電 | 電気を安定に送る、交流送電か直流送電、周波数変換 送電電圧と家庭電圧への変換、スマートグリッド | テキストを復習する。1時間 |
| 5 | モータのしくみと電車 | 磁石と電流による力の発生、モータのしくみ 電車、リニア新幹線、電気ブレーキと電力回生 | テキストを復習する。1時間 |
| 6 | ネットワークセキュリティ | インターネット、サイバー攻撃、セキュリティ | テキストを復習する。1時間 |
| 7 | 電波と放送 | 電波の利用と電波法、ラジオ放送、テレビ放送、衛星放送、放送の進化 | テキストを復習する。1時間 |
| 8 | 携帯電話のしくみ | 固定電話から携帯電話へ、セルラーシステム、携帯電話のつながるしくみ、音声通信からデータ通信へ、携帯電話の進化 | テキストを復習する。1時間 |
| 9 | 私たちの生活をささえる電気照明 | エジソンによる電灯の発明、蛍光灯のしくみ、青色LEDの発明、LED照明 | テキストを復習する。1時間 |
| 10 | レーザーの発明 | 物質からの光放射、線スペクトルと誘導放射 メーザーからレーザーへ、レーザーの特徴 | テキストを復習する。1時間 |
| 11 | 光デバイス | さまざまな光デバイスの原理と応用など | テキストを復習する。1時間 |
| 12 | 進化するナノテクノロジー | 半導体の動作原理、半導体集積回路の構造、集積回路技術の歴史と現状、スマートフォンからウェアラブル計算機へ、今後の発展 | テキストを復習する。1時間 |
| 13 | プログラマブル高速計算機の発達 | チューリング機械、手回し計算機と計算尺、最初の電算機 ENIAC 弾道ミサイルの計算、金融計算から天気予報まで | テキストを復習する。1時間 |
| 14 | ロボット工学 | ロボットのシステム構成からロボット工学の過去・現在を解説 | テキストを復習する。1時間 |
| 15 | 人工知能 | 知能・人工知能とは？ 人工知能の歴史、人工知能の分類、ルールベースとエキスパートシステム、機械学習と深層学習 | テキストを復習する。1時間 |

| | |
|------|------|
| 関連科目 | 特になし |
|------|------|

| | | | | |
|-----|----|-----------|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | テキストを配付する | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |

| | | | | |
|---------------|--|--|--|--|
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 授業の各回で課される課題レポートの合計点で評価する。 原則として課題レポートの提出率 80%以上を成績評価の対象とする。 | | | |
| 学生への メッセージ | 我々の暮らしに電気は不可欠です。しかも原子力発電の問題が出てきて、エネルギー問題への関心は節電対策も含め高まっていると思います。しかし、単純に噂などを鵜呑みにするのではなく、電気の発生から伝達までのしくみを詳しく知れば、風評に惑わされることなく、対策を考えることができます。常に様々な電気関連のニュースに注意を払いながら受講して下さい。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 1号館4階・5階電気電子工学科教員室 責任者：片田（1号館4階） | | | |
| 備考 | 原則として課題レポートの提出率 80%以上を成績評価の対象とする。 課題提供はMoodle 上で行い、課題レポート提出はすべて Moodle 上で行う。 課題レポートには提出期日がある。 課題レポートの結果は Moodle 上で個別に通知する。 テキストは Moodle からダウンロードできますが、電気電子工学科準備室(1号館5階)で印刷したものを配布します。大学に来たときに受取りに来てください。 | | | |

| | | | |
|----------------|-------------|----------|---------------------------------------|
| 科目名 | 科学技術教養 (C1) | 科目名 (英文) | Scientific and Technological Literacy |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 伊藤 謙 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | INA3322a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 授業の目的は、受講者に私たちの生活を支える土木技術に対する興味を持つとともに技術の基本原則を知ってもらうことである。第1回の授業では、身の回りの土木技術の例を取り上げ、それらが技術者によってどのように守られているのかを説明する。第2・3回は現在にまでつながる国土開発の歴史をそれに従事した人々にも注目して講義する。第4～7回は「土木」の由来となる基本的な材料、第8～11回は設計方法、第12～15回は計画と環境問題について講義する。 |
| 到達目標 | 土木技術全般の基礎知識を有し、土木技術と社会や経済活動、生活との関りを理解できる。 |
| 授業方法と留意点 | <ul style="list-style-type: none"> 基本的にパワーポイントを用いた講義形式。授業中はメモを取らせ授業終了時もしくは終了後に提出する。 歴史と人物と基本原則をセットとして取り扱う。第4回以降は材料や設計の基本原則を扱う。基本的に古くからの基礎的な技術と現在の技術をセットで取り扱う。 講義だけではイメージを伝えることが困難な場合には、サンプルや簡単な実験を併用する。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設に関する基礎的な知識が得られ、安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------------------|--|----------------|
| | | | |
| 1 | 私たちの日常生活と土木技術 | 私たちの身の回りの土木技術：・鉄道・道路網、上下水道、エネルギー施設、防災施設、憩い。・私たちの生活にどう関わっているのか？・技術を支える人たち（建設会社、設計コンサルタント、公務員、メーカー・・・） | 配布資料講義部分の予習と復習 |
| 2 | 国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか① | 国土建設の歴史 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降 | 配布資料講義部分の予習と復習 |
| 3 | 国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか② | 国土建設を行った人々 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降 | 配布資料講義部分の予習と復習 |
| 4 | 都市をつくる材料の話① -土木技術は土から始まった- | 最も古い材料、土と人類、土と木 締固めて使う、事例1(古くからの技術)、事例2(近代以降の技術) | 配布資料講義部分の予習と復習 |
| 5 | 都市をつくる材料の話② -セメントコンクリートの発明- | セメントの発見・発明 耐久性、品質管理 | 配布資料講義部分の予習と復習 |
| 6 | 都市をつくる材料の話③ -鋼は文明を支える- | 産業革命による鉄利用の拡大 鋼構造 | 配布資料講義部分の予習と復習 |
| 7 | 都市をつくる材料の話④ -循環型社会と土木材料- | 新材料、リサイクル材料 産業廃棄物の利用 | 配布資料講義部分の予習と復習 |
| 8 | 国土を測る技術 | 広い国土をどうやって測るのか、歩測からGPSまで、原理、応用 | 配布資料講義部分の予習と復習 |
| 9 | 都市の造り方① -橋を設計する- | 橋はなぜ必要か？橋はどうやって重力に抵抗しているのか、構造力学の基礎 | 配布資料講義部分の予習と復習 |
| 10 | 都市の造り方② -川を設計する- | 治水は国を治める。水と波の力を計算する。川、ダムと港の設計へ。水理学の基礎 | 配布資料講義部分の予習と復習 |
| 11 | 都市の造り方③ -地盤とトンネルを設計する- | 都市を支える地盤の役割、地下空間。地盤力学の基礎 | 配布資料講義部分の予習と復習 |
| 12 | 安全で安心な都市へ① -未来の都市を計画する- | 都市地域計画 (計画学の基礎) | 配布資料講義部分の予習と復習 |
| 13 | 安全で安心な都市へ② -命の水を守る- | 衛生工学 (上下水道学の基礎) | 配布資料講義部分の予習と復習 |
| 14 | 安全で安心な都市へ③ -持続可能な都市を- | 地球規模環境問題、循環型社会 (環境工学) | 配布資料講義部分の予習と復習 |
| 15 | 安全で安心な都市へ④ -水害から守る- | 防災・減災、流域治水 | 配布資料講義部分の予習と復習 |

関連科目 特になし

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|----------------|------------|------|
| | 1 | 配布資料：科学技術教養 C1 | 都市環境工学科全教員 | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|------|-----|------|
| | 1 | 特になし | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

評価方法 (基準) 受講メモ 50%，レポート 50%の総合点で評価する。※レポートは、授業のまとめとして毎回提出すること。期末試験は行わない。

学生へのメッセージ 豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動を支える社会基盤施設に関する基礎知識を身につけていただければ幸いです。

| | |
|----------|--|
| 担当者の研究室等 | 講義担当者居室 1号館3階および4階 |
| 備考 | 事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含めは、毎回1時間程度としてください。 |

| | | | |
|---------------|-------------|----------|---------------------------------------|
| 科目名 | 科学技術教養 (C2) | 科目名 (英文) | Scientific and Technological Literacy |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 伊藤 謙 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | INA3322a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 概要：いくつかのプロジェクトを例に、建設事業の流れに沿って、社会的な位置づけ、市民生活との関わりを解説する。第1回の授業では、事業主体別にプロジェクトの流れを説明する。第2～3回は、高速道路建設を例に地形の調査・土質の調査、環境の調査を解説する。第4～7回は高速道路を構成する橋、トンネル、道路の設計と施工の考え方を解説する。第8～15回は、安全で潤いのある社会を築く観点からダム・堰、堤防、浸水対策、ライフライン、公園・まちづくり、地震防災など身近なテーマを概説する。 |
| 到達目標 | 土木構造物の計画から施工管理までの流れの概要を理解し土木構造物と社会や経済活動、生活との関わりを理解できる。 |
| 授業方法と留意点 | 授業はパワーポイントを用いた講義形式とする。私たちの生活を支える社会基盤がどのようにして計画され、設計・施工されているかを事業の流れに沿って解説する。代表的な構造物や身近なテーマを取り上げ、安全で安心な社会を築くため、何が重要かを理解できるように講義を進める。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設がどのように計画設計され施工されているかなどの知識が得られ、安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------------|---|----------------------|
| | | | |
| 1 | 社会基盤をつくる建設事業の流れ | 国家プロジェクト、地域プロジェクト、民間主導プロジェクトなど事業主体別の建設の流れ、計画(意思決定)～調査～設計～施工の概要 | 配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。 |
| 2 | 高速道路建設の計画・調査・設計 | 国土開発や都市計画・地域計画との関連、一般道路や鉄道との関連、需要予測、予算、資本回収の考え方 | 配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。 |
| 3 | 建設に必要な調査①(地形の調査・土質の調査) | 測量計測技術(地形測量・平板測量・水準測量・写真測量・GPS測量)、地盤の調査 | 配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。 |
| 4 | 建設に必要な調査②(環境の調査) | 生態系・環境への影響、負荷の軽減策、排ガス規制と大気汚染など環境アセスメント | 配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。 |
| 5 | 橋の設計と施工 | コンクリート橋と鋼橋、橋の形式と適用支間長、景観設計、施工法 | 配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。 |
| 6 | トンネル、半地下開削工法 | 山岳トンネル・都市地下トンネルの設計と施工、地山の強度と工法、半地下開削工法 | 配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。 |
| 7 | 道路の設計と施工 | 盛土形式と高架形式、道路の構造、道路舗装 | 配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。 |
| 8 | ダム・堰の計画と施工 | 洪水への備え(治水、防災)、発電・灌漑・上水などの多目的ダム、ダムの構造と種類 | 配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。 |
| 9 | 堰・堤防の計画と設計・施工 | 洪水・土砂災害への備え(治山・治水、防災)、計画雨量、遊水池、親水施設 | 配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。 |
| 10 | 都市型洪水への備え | 透水性舗装、都市大型地下貯槽、屋上緑化、排水と下水道設計、地下道・地下鉄の浸水対策 | 配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。 |
| 11 | 市民の日常生活を支えるライフライン | 上下水道、水質管理、水質浄化、下水処理、電気、通信設備 | 配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。 |
| 12 | 市民の生活に潤いを与える公園・まちづくり | まちづくりとは、実現するものは、人とのかかわり、技術とのかかわり | 配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。 |
| 13 | 市民の生活環境を守る | 地球環境と生態系、人口増加と都市化・食糧生産、自然エネルギーの問題点、火力発電所と大気汚染・温暖化、原子力発電と放射能問題、温排水問題 | 配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。 |
| 14 | 震災から市民を守る | 地震の種類と特性、地震に備える構造とは?制震構造と免震構造、ライフラインの耐震、避難体制、緊急地震速報 | 配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。 |
| 15 | 津波や台風・高潮から市民を守る | 港湾施設・防波堤、津波、避難施設、避難誘導 | 配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。 |

関連科目 特になし

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|----------------|------------|------|
| | 1 | 配布資料：科学技術教養 C2 | 都市環境工学科全教員 | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|------|-----|------|
| | 1 | 特になし | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

評価方法(基準) 受講メモ50%、レポート50%の総合点で評価する。※レポートは、授業のまとめとして毎回提出すること。期末試験は行わない。

学生へのメッセージ 豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動を支える社会基盤施設がどのように計画設計され施工されているか知り理解を深めていただければ幸いです。

担当者の研究室等 講義担当者居室 1号館3階および4階

| | |
|----|---|
| 備考 | 事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、毎回1時間程度としてください。 |
|----|---|

| | | | |
|----------------|-------------|----------|---------------------------------------|
| 科目名 | 科学技術教養 (T1) | 科目名 (英文) | Scientific and Technological Literacy |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 東 武大 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | INA3322a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 「信念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すごくたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を発明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。数や形状を正確に記述するためのさまざまな手法を概観し、それが最新技術にどのように用いられているかを知る。 SDGs-9 |
| 到達目標 | 科学の歴史的な流れを、基礎的事項を踏まえながら説明できる。 科学という学問の背景にある考え方について、各自が意見を持つことができる。 |
| 授業方法と留意点 | テキスト及び毎回の配布資料に基づく講義主体の授業とする。講義ごとに講義メモの提出を求めるとともに、レポート等の課題を課す。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 数学・物理の発展に関する幅広い知識を得て知見を広めることができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------|---|-------------------------------|
| | | | |
| 2 | 人類にとっての数(2) | 「小数」、「無理数」、「ゼロの数」、「負の数」と数の世界は更に広がっていった。これらの歴史を当時の文化や考え方を交えながら紹介する。 | 教科書 1 章の予習復習 (1 時間) |
| 3 | 人類にとっての数(3) | 更に「実数」から「虚数」、「複素数」へと広がった数の世界。ガウス平面、オイラーの公式など「複素数」に関する先人たちの功績。また「複素数」の登場によって発展した科学について紹介する。 | 教科書 1 章の予習復習、レポート課題 (1 時間) |
| 4 | 三角形から始める幾何学 | ピタゴラスの定理や三角形の合同と相似、三角比について振り返ることから始め、それらを用いて、私達の身の回りのものを測ってみる。 | 教科書 2 章の予習復習 (1 時間) |
| 5 | 平行線の公理 | 高校までの幾何では扱われていない平行線の公理について、その内容と意義を紹介し、平面とは異なる世界はどのようなものか、想像してみる。 | 教科書 2 章の予習復習 (1 時間) |
| 6 | 身近にある曲面 | 平行線の公理を検討することにより現れてきた、平面とは異なる曲面は結構身近にある。そのような曲面を通して、曲がっている世界を体験してもらう。 | 教科書 2 章の予習復習、レポート課題 (1 時間) |
| 7 | 波の数理 (音と光の基礎) | 身近な「波」を表現するために、「振幅」、「波長」、「位相」という新たな概念を導入し、波の現象について紹介する。さらに、波の性質をもつ音波と光についても概観する。 | 教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間) |
| 8 | 波としての光 | 光は粒子の性質と波の性質をあわせ持つ。しかし、この認識は科学者達の長年の研究と論争を経て得られたものである。本講では光が波であることの根拠を示す。そして写真やホログラフィーなどの、波の性質を利用した光の記録方法について述べる。 | 教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間) |
| 9 | 電磁波 | 光は波である。弦を伝わる波は、弦の振れが大きいところと小さいところが繰り返して現れて波になっている。光が波ならば、いったい何の振動なのだろうか。マクスウェルは理論的に電磁波という波の存在を予言し、さらに光が電磁波の一種であることをつきとめた。本講では電磁波、そして光の正体について述べる。 | 教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間) |
| 10 | レーザー光 | 光を発するもの (光源) には様々なものがある。太陽は最も明るい光源である。人口の光源としては、電球、蛍光灯がある。近年では省エネルギーな発光ダイオード (LED) が急速に普及している。本講では人が創り出した「最も高機能な光」を発生するレーザーについて、発振の原理及び応用について述べる。 | 教科書 3, 4 章の予習復習、レポート課題 (1 時間) |
| 11 | X線の発見から利用 | X線の発見から発生の原理、さらにX線の利用について概観する。医療機器としてよく知られているレントゲンやX線CTがなぜ体内を見透かすことができるのかなどについても説明する。また、X | 教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間) |

| | | | 線の欠点と安全性についても簡単に紹介する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|--|--------------|--|------------------------------|------|---|-------------------------|---------|--|---|--|--|--|---|--|--|--|--|--|--|
| | 12 | 放射光と未来の光 | 科学技術の発展によりシンクロトン放射光という次世代の光を生み出した。放射光の発生原理と科学等への利用を紹介する。さらに、近年の利用されている次世代の放射光である自由電子レーザーの特性についても簡単に紹介する。 | 教科書 3, 4 章の予習復習、レポート課題(1 時間) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 13 | コペルニクス以前の天動説 | 惑星の運動の法則を考えるうえで、コペルニクス以前の天動説について概観する。 | 教科書 5 章の予習復習(1 時間) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 14 | コペルニクスの地動説 | 天動説から地動説へ、惑星運行の法則、実験で物理法則を実証する近代自然科学の萌芽を考える。 | 教科書 5 章の予習復習(1 時間) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15 | ガリレイの天文学 | 望遠鏡を発明した技術が自然観察である天体観測を精密化し宇宙を理解したい知的好奇心が科学革命を導く過程を考える。 | 教科書 5 章の予習復習、レポート課題(1 時間) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 数学・物理の全科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>科学技術教養 T1(教科書は初回講義時に配布)</td> <td>基礎理工学機構</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 科学技術教養 T1(教科書は初回講義時に配布) | 基礎理工学機構 | | 2 | | | | 3 | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 科学技術教養 T1(教科書は初回講義時に配布) | 基礎理工学機構 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 講義メモ 50%、レポート 50%の総合点で評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | 科学は現代社会で不可欠な学問の一つです。周囲を見渡せば、皆さんの生活が科学抜きには成立しないことがわかるでしょう。科学は近代になって急速に発展しましたが、古くから人々が自然現象や数に興味を持って考察を進めたことが基礎になっています。本講義で科学の歴史や重大な発見・発明の概要を学び、科学という学問をどう考えるか、さらに、これから科学や人間の活動はどう進んでいくべきか、各自で意見を持てるようになりましょう。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 担当教員の居室 [1 号館 2 階(東谷), 5 号館 1 階(友枝・小林・東), 8 号館 2 階(長島)] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。事前事後学習は、毎回 1 時間以上かけること。講義メモは毎回採点して返却する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|-------------|----------|---------------------------------------|
| 科目名 | 科学技術教養 (T2) | 科目名 (英文) | Scientific and Technological Literacy |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 島田 伸一 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | INA3322a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 「情念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すごたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を発明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。 SDGs-9 |
| 到達目標 | 時間や位置とともに変化する量をどのように表すのか、そして、その変化の割合がいったい何を意味し、現代科学につながっていくのかを、歴史的背景も込めて、知る。 |
| 授業方法と留意点 | 座学・説明中心の講義となるので、遅刻・私語は厳禁である。 状況によっては Teams・Moodle 等を用いた遠隔授業を行う場合もある。 |
| 科目学習の効果 (資格) | |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------------|--|-----------|
| | | | |
| 2 | 文字式から単位のない実数の世界へ | 微積分の厳密化の過程で、記号法・単位の問題から実数概念をどう獲得していったか振り返る。 | 課題・レポート |
| 3 | ヒルベルトのテーゼ: 無矛盾ならば存在する | 微積分学が挑んだ無限を無矛盾・選択公理をキーワードにして述べる。 | 課題・レポート |
| 4 | 現代科学は力 (ちから) F から始まった | ニュートンの運動の法則 $F=ma$ は、なんだか良くわからない力 F を使って、なんだか良くわからない質量 m を定めた。どちらもわかっていないのに、大丈夫なのだろうか。 | 課題・レポート |
| 5 | 万有引力の法則の美しいスケール不変性は偶然か | ニュートンが発見した「万有引力の法則」は、巨大なサイズをもった惑星の運動から導き出されたにもかかわらず、人工衛星や、飛行機、果ては雨粒にまで適用できることが分かった。これは、自然科学において貴重な「スケール不変性」をもつといい、人類の科学の発展にとって、計り知れないほど幸運であった。 | 課題・レポート |
| 6 | 破壊力、衝撃力はどちらも同じ意味か | 物体がもつ「運動の勢い」を考えると、2つの新しい概念が生まれた。一つを運動量といい、他方をエネルギーという。どちらの量が「運動の勢い」を正しく表している尺度なのか人々は50年間議論した。その結論はどうだったのか。 | 課題・レポート |
| 7 | 蒸気機関と熱力学の誕生 (1) | 18世紀イギリス産業革命と熱機関。蒸気機関の改良・熱効率・熱素説。 | 課題・レポート |
| 8 | 蒸気機関と熱力学の誕生 (2) | カルノー登場。カルノーサイクルとそれを用いる思考実験。カルノーの定理の発見。 | 課題・レポート |
| 9 | 蒸気機関と熱力学の誕生 (3) | カルノーからケルビン、そしてクラウジウスに至る道。エネルギー保存則 (熱力学第一法則)。熱力学第二法則とその表現。熱力学的エントロピー。 | 課題・レポート |
| 10 | 角の3等分について (1) | 歴史的背景、方程式と結びつける、ユークリッド作図、作図できる数・できない数 | 課題・レポート |
| 11 | 角の3等分について (2) | 60度は3等分できない、体の考え方 | 課題・レポート |
| 12 | 角の3等分について (3) | 体の拡大と作図できる数、定理の証明 | 課題・レポート |
| 13 | ニュートンからアインシュタインへ | 慣性系、ガリレイ変換、マイケルソン・モーレーの実験等々アインシュタイン登場前に何が謎だったのかを説明する。 | 課題・レポート |
| 14 | 特殊相対論――原理はたったの2つだけ | 2つの基本的な原理を出発点にして、従来の時間や空間に対する考え方がどのように変更されたのか、高校レベルの数学を使って解説する。 | 課題・レポート |
| 15 | 一般相対論――重力の謎 | ニュートンの万有引力の法則はアインシュタインの相対論ではどのように記述されるのか? | 課題・レポート |

| | |
|------|-----------|
| 関連科目 | 数学・物理の全科目 |
|------|-----------|

| | | | | |
|-----|----|-----------|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 科学技術教養 T2 | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | | | | |

| | | | | |
|---------------|---|--|--|--|
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 講義メモ(小テスト)50%, レポート50%で評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 講義の進め方は先生毎に異なります。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | | | | |
| 備考 | 遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。事前事後学習は毎回1時間以上かけること。 各回担当の先生によってやり方が変わる場合があります。各先生の指示に従ってください。 | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-------------------------------|
| 科目名 | キャリアデザイン | 科目名 (英文) | Introduction to Career Design |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 水野 武, 横山 孝文 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | ICA1501a3 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | <p>この授業を通じて学生には</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 <p>ようになることが期待される。 なお、講義は担当講師の人材業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p> |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考え、他者と共有できるようになる。(DP6) 3) 調べる・考える・発表するための技能及びコミュニケーションの重要性についての理解を深めることを講義目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | <p>講義には積極的な態度で受講すること。 なお、学籍番号により担当教員が異なるため、各自自身の担当教員・クラスを確認すること。 また、教員により課題の提出方法が異なることもあるので注意すること。</p> |
| 科目学習の効果 (資格) | <p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p> |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------------|---|--|
| | | | |
| 1 | ようこそ、摂南大学へ | <ul style="list-style-type: none"> ・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か? 何故必要なのか? ・公と私について考える | <ul style="list-style-type: none"> ・自分にとって「キャリアデザイン」とは何かを考えること(事前: 0.5時間) |
| 2 | さあ始めよう! 大学生活を | <ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身につける ・他者とのコミュニケーションの重要性を知る | <ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶ意味について考えること(事前: 0.5時間) |
| 3 | 摂南大学 | <ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・学生生活における目標を考える | <ul style="list-style-type: none"> ・摂南大生として、建学の精神と教育理念を理解すること(0.5時間) ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(事後: 0.5時間) ・大学生活での目標を考えること(0.5時間) |
| 4 | 自己効力感を高めよう | <ul style="list-style-type: none"> ・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション | <ul style="list-style-type: none"> ・設定された個人ワークに取り組むこと(事後: 2時間) |
| 5 | SDGsについて考えよう グループ課題の設定 | <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsに対する理解を深める ・協働行為、コミュニケーションに対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える | <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsとは何かについて予習しておくこと(事前: 0/5時間) ・グループで課題に取り組むこと(2時間) |
| 6 | 社会は君を待っている | <ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える | <ul style="list-style-type: none"> ・社会で求められる人材について考えること(事後: 0.5時間) |
| 7 | 社会の仕組み① | <ul style="list-style-type: none"> ・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える | <ul style="list-style-type: none"> ・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(事後: 0.5時間) |
| 8 | 社会の仕組み② | <ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション | <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(事後: 0.5時間) |
| 9 | 自分づくり① | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを20個挙げる ・ペアワーク | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(事前: 0.5時間) |
| 10 | 自分づくり② | <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定 | <ul style="list-style-type: none"> ・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(事後: 0.5時間) |
| 11 | スケジューリング術 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる | <ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を実践する方法を考えること(事後: 0.5時間) |
| 12 | ビブリオバトル | <ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する | <ul style="list-style-type: none"> ・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(事前: 1時間) |
| 13 | グループ課題の発表会 | グループ課題の発表会 | <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること(事前: 0.5時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後: 0.5時間) |
| 14 | グループ課題の発表会 | ・グループごとのプレゼンテーション | <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後: 0.5時間) |
| 15 | 講義のおさらい | <ul style="list-style-type: none"> ・講義4で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り | <ul style="list-style-type: none"> ・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5時間) |

| | | | | |
|---------------|---|-----|-----|-----------------------|
| | | | | ・期末レポートを作成すること(1.5時間) |
| 関連科目 | キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 平常点(30%)、グループ課題(20%)、最終レポート(50%)で総合的に評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館3階 教育イノベーションセンター(上野山) 7号館3階 教育イノベーションセンター(水野) | | | |
| 備考 | 必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 なお、課題の提出方法は教員により異なる(MoodleかWebフォルダー等)ので各教員の指示に従うこと。 | | | |

| | | | |
|----------------|------------|----------|----------------------------|
| 科目名 | インターンシップ基礎 | 科目名 (英文) | Introduction to Internship |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 上野山 裕士, 横山 孝文 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | ICA1502a3 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 SDGs. 4-4 SDGs. 8-6 |
| 到達目標 | 将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。講義内で行われるグループディスカッションを通じて、他者理解及びコミュニケーションの必要性を理解する。 |
| 授業方法と留意点 | 講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。受講クラスは学籍番号によって異なるので注意すること。 ※2021年度以前の学生は再履修クラスで受講すること。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------|---|--|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション | ・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法 | ・大学生生活1年目で経験したことを思い出しておくこと(事前:1時間) ・配布したレジユメを見直すこと(事後:0.5時間) |
| 2 | 社会を知る① | ・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ | ・人はなぜ働くのかについて仕事をしている一にインタビューしててまとめ、グループ討議の準備をしておくこと(事後:2時間) |
| 3 | 社会を知る② | ・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション | ・グループ討議の内容を振り返ること(0.5時間) |
| 4 | 社会を知る③ | ・視点/視座/視野の使い事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解 | ・配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べる(事後:0.5時間) |
| 5 | 社会を知る④ | ・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える | ・配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べる(0.5時間) |
| 6 | 自分を知る① | ・特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ | ・自身の特性について考えること(事前:0.5時間) ・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること(事後1時間) |
| 7 | 自分を知る② | ・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える | ・自身の学生生活を振り返ること(事前:0.5時間) ・配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること(0.5時間) |
| 8 | 自分を高める① | ・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する | ・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること(事後:0.5時間) |
| 9 | 自分を高める② | ・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する | ・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること(事後:0.5時間) |
| 10 | 自分を高める③ | ・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ | ・講義の内容を日常生活で実践すること(1.5時間) |
| 11 | 自分を知る③ | ・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する | ・自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える(事前:0.5時間) ・自身の「やる気の源泉」を言語化すること(0.5時間) |
| 12 | 社会を知る⑤ | ・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る | ・配付資料を見直し、自らの将来について考えること(0.5時間) |
| 13 | 自分を高める⑤ | ・講義⑩⑪⑫の実践報告の共有と発表 | ・発表及びグループ討議の準備をしておくこと(事前:1時間) |
| 14 | 社会を知る⑥ | ・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える | ・日本を取り巻く課題について調べる(事前:0.5時間) |
| 15 | 授業のおさらい | ・講義のおさらい | ・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(0.5時間) |

関連科目: キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップ

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

評価方法 (基準): グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。

学生への: 来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加す

| | |
|--------------|--------------|
| メッセージ | ること。 |
| 担当者の 研究室等 | 7号館3階 上野山研究室 |
| 備考 | |

| | | | |
|----------------|----------------|----------|---------------------|
| 科目名 | エンプロイメントデザイン I | 科目名 (英文) | Employment Design I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 石井 三恵, 水野 武 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | ICA1352a1 | | |

| | |
|----------|---|
| 授業概要・目的 | この科目は学生が「協働作業」「意思決定」「創造的志向」「探求」など、エンプロイアビリティ（将来社会に出て仕事をする際に必要な能力）の獲得の必要性を認識するための科目である。 また、大教室での多くの学生と共に話を聴き、理解しようとする態度を養い、グループに分かれて他者との意見の交換を行うことで、自分には思いつかなかった考え方に気づくようになることが期待される。 |
| 到達目標 | 講義、個人ワーク、グループワークを通じて、目標と手段、意思決定や探求に向けて試行錯誤することができるようになることが目標である。 |
| 授業方法と留意点 | 「学びを通じて学び方を学ぶ」姿勢をもつことを心がける。また、講義で出た課題を実践し、振り返ることが課題となることもあるため、メモを取る習慣を身に付ける。 この科目は1年生向けの科目で、2022年度入学生のみ履修ができる。 また、履修上限は200名とする。 |

| | |
|-----------------|--|
| 科目学習の 効果（資格） | |
|-----------------|--|

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------------------|---|---|
| | | | |
| 2 | 私がNO.1プロジェクト① | <ul style="list-style-type: none"> 今、自分が属しているコミュニティにおいて、何かで「NO.1になる」ための計画を立て、実践する | <ul style="list-style-type: none"> 設定した課題を実践すること(2時間) |
| 3 | 私がNO.1プロジェクト② 中間振り返り | <ul style="list-style-type: none"> 講義3で設定した個別の課題の経過、結果をグループで共有する | <ul style="list-style-type: none"> グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること(0.5時間) |
| 4 | 仕事で使うスキルについての解説 | <ul style="list-style-type: none"> 定量、定性分析の概説、定量分析の3つの場面の概説 自身の意見を発することの大事さを理解する | <ul style="list-style-type: none"> 講義内容を振り返ること(0.5時間) |
| 5 | 私がNO.1プロジェクト③最終 振り返り | <ul style="list-style-type: none"> 講義3で設定した個別の課題の結果の振り返り、共有 | <ul style="list-style-type: none"> グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること 第一回課題「NO.1プロジェクトの振り返り」レポートを作成すること(2時間) |
| 6 | 仕事で使うスキル① 数字を用いて意思決定を行う① | <ul style="list-style-type: none"> 損益分岐点を使った意思決定方法を学ぶ | <ul style="list-style-type: none"> 講義の内容を振り返ること(0.5時間) |
| 7 | 仕事で使うスキル② 数字を用いて意思決定を行う② | <ul style="list-style-type: none"> 機会費用と埋没費用を使った意思決定、重み付けを使った意思決定の方法を学ぶ | <ul style="list-style-type: none"> 講義の内容を振り返り、日常生活で活かせる場面を考えること(1時間) |
| 8 | 仕事で使うスキル③ 自身の意見を発信することを学ぶ | <ul style="list-style-type: none"> 意見と他者に同意する・反対することのみとの違いを理解する 自分の意見を発信するためのスキルを学ぶ | <ul style="list-style-type: none"> 講義の内容を振り返り、学生生活で活かす場面を考えること(1時間) |
| 9 | 仕事で使うスキル④ 議論を進めるファシリテーションの基本 | <ul style="list-style-type: none"> グループで議論する際の基本的なスキルを学ぶ | <ul style="list-style-type: none"> 講義の内容を振り返り、学生生活で活かす場面を考えること(1時間) |
| 10 | 仕事で使うスキル⑤ 創造的思考法を用いる | <ul style="list-style-type: none"> アサンプションスマッシングなどアイデアを出すために思考を拡散させる技法を用いてグループワークを行う | <ul style="list-style-type: none"> 講義の内容を振り返り、学生生活で活かす場面を考えること(1時間) |
| 11 | グループでリサーチプロポーザル (研究計画書)を作ろう | <ul style="list-style-type: none"> グループワーク「グループで課題研究のためのリサーチプロポーザル(研究計画書)」の作成 | <ul style="list-style-type: none"> グループで課題に取り組むこと(2時間) |
| 12 | 担当講師のキャリアについて① | <ul style="list-style-type: none"> 担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく | <ul style="list-style-type: none"> 講義の内容を振り返ること(0.5時間) |
| 13 | 担当講師のキャリアについて② | <ul style="list-style-type: none"> 担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく | <ul style="list-style-type: none"> 講義の内容を振り返ること(0.5時間) |
| 14 | グループで研究計画書を発表 | <ul style="list-style-type: none"> 講義10で取り組んだ課題をグループごとに発表する | <ul style="list-style-type: none"> 自グループ、及び他グループの発表内容を振り返ること 第二回課題「グループレポート」提出(0.5時間) |
| 15 | 講義のまとめ(担当:教育イノベーションセンター) | <ul style="list-style-type: none"> エンプロイメントデザインIの振り返り | <ul style="list-style-type: none"> 講義全体を振り返ること 第三回課題「講義の最終レポート」を作成すること(2時間) |

| | |
|------|-------------------------------------|
| 関連科目 | キャリアデザインI・キャリアデザインII・エンプロイメントデザインII |
|------|-------------------------------------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |

| | | | |
|---------------|---|--|--|
| | 3 | | |
| 評価方法 (基準) | 毎回のミニツッパーパー (15%)、グループワーク (10%)、グループレポート (10%)、個人レポート 3 回 (65%) を総合的に判断する。 | | |
| 学生への メッセージ | 自身の将来の職業選択を考えるために、様々な課題を真摯な態度で聴いてほしい。 また、自ら考え、選択し、決定していくプロセスを大切に、行動へ繋ぐ大切を学んでほしい。 | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館 5階 教育イノベーションセンター (石井) 7号館 3階 教育イノベーションセンター (水野) | | |
| 備考 | 教科書：各回、必要に応じ、プリント配布。 参考書：各回、必要に応じ、授業中に示す。 講師・内容は都合により変更することもある。 中間課題の評価基準・書き方に関する注意事項は講義内またはポータルサイト/Teams で伝達する。 | | |

| | | | |
|----------------|---------------|----------|----------------------|
| 科目名 | エンプロイメントデザインⅡ | 科目名 (英文) | Employment Design II |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 水野 武, 石井 三恵 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | ICA1353a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 外部講師 (本学卒業生を含む) をお招きし、仕事・職業観・人生経験やキャリア・パス等についてのお話を聴く。質疑応答の時間を設けているので、勇気を持って講師に質問をするだけでなく、質問時の態度や表現の仕方を学ぶ。 この科目を通じて、学生はさまざまな職業について理解し、多様な仕事術についての知識を得ること、さらには仕事観や人生観の涵養に役立てることが期待される。 |
| 到達目標 | さまざまな職業についての知識を得て、多様な仕事術を理解できるようになることを講義の目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 話を聴くことが主となるため、社会人としての真摯な態度での話の聴き方、メモの取り方、積極的に質問すること等の習慣を身に付けること。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 人や社会に関わること、仕事力の伸ばし方について考えるきっかけとなる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|--|---|
| | | | |
| 2 | 警察官として、生きていく。大阪府警察は、この街を、人を、そしてキミの人生を、全力で守り続ける。(警察官) | ・採用担当者が大阪府警察の仕事、働く上でのやりがいなどを紹介いたします。 | ・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間) |
| 3 | プログラマを目指して摂南大学に入学してから NPO 代表になるまで (摂大 OB/NPO 法人代表) | ・理系学部でプログラマーを目指しながらもスタープログラマーになれなかった男が、“公共性”を武器に NPO 法人を設立するまでのキャリア構築の過程をお話します。 | ・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間) |
| 4 | 「ビジネス創造に必要な力」を実例から学ぶ (IT/役員) | ・現役のビジネスパーソンが日々実践している「ビジネスに必要な力」を事例を通じて解説します。 | ・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間) |
| 5 | しあわせのまちづくり ～主役は地域住民！『こどもからおとしよりまで笑顔あふれる地域づくり』の支え方～ (社会福祉協議会職員) | ・地域住民にもっとも近い社会福祉法人である社会福祉協議会の仕事と理念についてお話します | ・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間) |
| 6 | お坊さんから後輩のみなさんへ (摂大 OB/住職) | ・一人の学生が僧侶として歩みだすまでの過程を自身の学生生活の経験談を交えながらお話します。 | ・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間) |
| 7 | 働くことってどんなこと？日本で働くことと SDGs、みんなで作る持続可能な働き方を探していこう！ (デジタルサービス) | ・日本を取り巻く環境、仕事に必要なスキル、SDGs との繋がり、キャリアを自分ごととして考えるという内容をお話します。 | ・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間) |
| 8 | ホームレス状態を生み出さない日本を目指して (NPO 法人事務局長) | ・大阪市で活動をする NPO 法人 Homedoor の実践を通じて、ホームレス問題や NPO の運営の方法を学ぶ。年間 1000 名以上の生活相談に対応するなかで見えてきたホームレス問題の課題や今後の展望についても触れる。 | ・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間) |
| 9 | 【業務告白】フツターのサラリーマンが PR の仕事の経験から感じたこと (グループ広報) | ・自身のキャリア・経験談など、2 社 3 職種から学んだことを中心にお話します。 | ・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間) |
| 10 | 中間まとめ | ・ここまでの講義の中間まとめを行います。 | ・事前学修: 講義全体を振り返り、ノートにまとめること (2 時間) ・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間) ・中間レポートを作成すること (2 時間) |
| 11 | ともに強いまちを創る～公務員という選択～ (摂南大学 OB / 市役所職員) | ・仕事を通して社会や地域に貢献ができる、自らが成長できる、公務員のやりがいについて熱くお話します。 | ・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間) |
| 12 | 社会人になって学んだことと、企業経営で大切にしているモノ (摂南大学 OB/経営者) | ・社会人となる学生へ、体験談を通じて企業の中で誠実に生き抜くことを伝えます。 | ・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間) |
| 13 | 信用金庫の仕事と期待される人財 (金融/人材開発) | ・仕事のやりがいとキャリアを学生の皆さんにイメージしていただけるよう、講義します。 | ・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間) |
| 14 | 社会問題と対峙する仕事 -ソーシャルワーカーについて- (摂南大学 OB・ソーシャルワーカー) | ①講師の学生生活から学んだことを伝える。グループワークを実施。 ②社会問題が他人事ではなく、自分事であることに気付く個人ワークやグループワーク、実際にあった事例を編集して | ・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間) |

| | | | | |
|---------------|---|---------------------------------|----------------------------|--|
| | | | 伝える、事例検討を行います。 | |
| | 15 | 先人(企業家)に学ぶ仕事への心構え (商工会議所/職員) | ・企業家から学ぶ、仕事の心構えについてお話しします。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間) ・事後学修：講義の全体を振り返ること(0.5時間) ・事後学修：最終課題を作成すること(1.5時間) |
| 関連科目 | キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、エンプロイメントデザインⅠ | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 毎回の感想レポート(30%)、中間レポート1回(30%)、期末レポート1回(40%)を総合的に判断する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 講師の多様な仕事に対する意識や成果の上げ方等を聴くことで、職業観の形成に役立ててほしい。また、摂大生として誠実な態度で質疑応答に臨んでほしい。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 教育イノベーションセンター(石井) 教育イノベーションセンター(水野) | | | |
| 備考 | 講師・内容は都合により変更することもある。 教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布する。 参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。 | | | |

| | | | |
|----------------|----------------|----------|-----------------------|
| 科目名 | ビジネスインターンシップ I | 科目名 (英文) | Business Internship I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 石井 三恵 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | ICA2505a3 | | |

授業概要・目的
この科目を通じて、学生は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に 1) 仕事の社会における役割 2) 仕事の成果とは 3) 仕事の責任と充実感 を直接肌で感じる事が期待される。インターンシップ I では事前学修として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。

なお、講義では担当者の民間企業、自治体、NPO 法人での業務及び海外を含む高等教育での教育ならびに経営の経験に基づいて議論を進めることもある。

SDG s 4-4
SDG s 8-6

到達目標
就職活動の流れとインターンシップの位置づけ、意義について説明することができる。
インターンシップへ意欲的に自信を持って参加するためのマナーと心がまえを身につける。

授業方法と留意点
インターンシップの現場につながる講義 (演習を含む) であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。

科目学習の効果 (資格)
インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------|---|--|
| 1 | インターンシップとは | <ul style="list-style-type: none"> ・授業オリエンテーション ・学生と社会人の違いを理解する ・インターンシップの目的を考える | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：インターンシップとは何かについて考えること (1時間) ・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること (2時間) |
| 2 | 企業組織・ビジネスの理解 | <ul style="list-style-type: none"> ・組織の形態を知る ・ビジネスへの理解を深める | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：自らの興味のあるビジネスについて調べておくこと (3時間) ・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること (1時間) |
| 3 | 実習参加企業について | <ul style="list-style-type: none"> ・産業の分類を知る ・業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：興味のある会社や自治体などの組織について調べること (1時間) ・事後学修：インターン受入企業等の組織のリストに目を通し、希望する実習先を吟味すること (3時間) |
| 4 | 効果的なプレゼンテーションとは | <ul style="list-style-type: none"> ・効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：効果的なプレゼンテーションについて考えること (1時間) ・事後学修：配付された資料を見直し講義を振り返ること (3時間) |
| 5 | 課題のプレゼンテーション① | <ul style="list-style-type: none"> ・第4回目の課題をプレゼンテーションする | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：第4回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること (3時間) ・事後学修：プレゼンテーションのポイントをまとめる (1時間) |
| 6 | 社会人のマナー① | <ul style="list-style-type: none"> ・社会人としての心構えを知る ・身だしなみ | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：マナーがなぜ大切なのかを考えること (2時間) ・事後学修：配付されたテキストを精読すること (2時間) |
| 7 | 社会人のマナー② | <ul style="list-style-type: none"> ・文書でのコミュニケーション | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること (2時間) ・事後学修：授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること (2時間) |
| 8 | 社会人のマナー③ | <ul style="list-style-type: none"> ・口頭でのコミュニケーション | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること (2時間) ・事後学修：マナーの大切さを再度考えること (2時間) |
| 9 | 履歴書を記入する | <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ用の履歴書を記入する | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：履歴書を書く準備をしておくこと (2時間) ・事後学修：講義を振り返り、履歴書を書き直すこと (2時間) |
| 10 | グループワーク① | <ul style="list-style-type: none"> ・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：グループ内の自分の役割を考えること (2時間) ・事後学修：グループで課題に取り組むこと (2時間) |
| 11 | グループワーク② | <ul style="list-style-type: none"> ・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：グループでプレゼンテーションを行う準備をすること (2時間) ・事後学修：自グループ及び他グループのプレゼンテーションを振り返ること (2時間) |
| 12 | 事前訪問について | <ul style="list-style-type: none"> ・事前訪問のマナーと準備について | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べる (2時間) ・事後学修：訪問時のマナーについておさらいをすること (2時間) |
| 13 | 課題のプレゼンテーション② | <ul style="list-style-type: none"> ・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること (2時間) ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること (2時間) |
| 14 | 課題のプレゼンテーション③ | <ul style="list-style-type: none"> ・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること (2時間) ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること (2時間) |

| | 15 | 振り返りとまとめ | <ul style="list-style-type: none"> ・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する | こと(2時間) <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: インターンシップ I で学んだことをまとめること (2時間) ・事後学修: インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること (3時間) | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|--|----------|---|---|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 関連科目 | この科目を履修する学生は、「インターンシップ II (企業等の組織での就業体験)」を履修することが望まれる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 各課題 55%とレポート 45% (企業研究の PPT と企業研究レポート 25%、最終レポート 20%) を総合的に評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | <p>インターンシップの流れは以下のとおりである。 ※ 4 月下旬にリスト公開 → 5 月上旬に希望企業等の組織の絞り込み → 5 月下旬に就職部から受け入れ可否の回答 → 6 月末頃に事前訪問 → 8 月上旬からインターンシップ開始 (予定)</p> <p>※インターンシップ先の都合により、流れの日程等が変更する場合もある。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7 号館 5 階 教育イノベーションセンター (石井) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | <p>教科書・・・必要に応じてレジュメを配布 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示 服 装・・・立ち居振る舞いを学ぶために、原則、スーツ着用が好ましい。</p> <p>予習・復習に毎回 2 時間以上取り組むこと。グループワーク、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 6 0 時間程度を目安とする。</p> <p>※インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|---------------|----------|------------------------|
| 科目名 | ビジネスインターンシップⅡ | 科目名 (英文) | Business Internship II |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 石井 三恵 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | ICA3506a3 | | |

| | |
|----------|---|
| 授業概要・目的 | インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。 |
| 到達目標 | インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性について主体的に考えることができる。講義での学び、経験を通じて、職業観を涵養し、それを他者に伝えることができる。 |
| 授業方法と留意点 | 「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。 なお、直前学修および実習の有無・形態に関してはインターンシップⅠで伝達する。 Covid-19の影響により、実習が中止になることもある。 |

| | |
|--------------|-------------------------------------|
| 科目学習の効果 (資格) | 就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。 |
|--------------|-------------------------------------|

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------------|---|--|
| | | | |
| 1 | 直前学修① 6月18日(土) 3限目(予定) | ・インターンシップの心構え ・今後のスケジュールの確認 *スーツ着用のこと | ・事前学習：社会人を意識したスーツ着用し、身だしなみを自分なりに整えてくること(1時間) |
| 2 | 直前学修② 6月18日(土) 4限目(予定) | ・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション | ・事前学習：マナーについて考えること(0.5時間) ・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間) |
| 3 | インターンシップ実習 | ・夏季休暇中に10日間以上(原則) | ・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間) |
| 4 | インターンシップ実習 | ・夏季休暇中に10日間以上(原則) | ・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間) |
| 5 | インターンシップ実習 | ・夏季休暇中に10日間以上(原則) | ・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間) |
| 6 | インターンシップ実習 | ・夏季休暇中に10日間以上(原則) | ・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間) |
| 7 | インターンシップ実習 | ・夏季休暇中に10日間以上(原則) | ・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間) |
| 8 | インターンシップ実習 | ・夏季休暇中に10日間以上(原則) | ・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間) |
| 9 | 体験報告書の作成・提出・指導 | ・報告書提出 ・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導 (担当教員への提出と教務課へ電子データを提出) | ・事後学修：事前学修②の通りに報告書を作成するが、提出前に必ず推敲を行い、提出期限を厳守すること(2時間) |
| 10 | 事後学修① 9月17日(土) 3限目(予定) | ・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表 | ・事前学修：個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間) |
| 11 | 事後学修② 9月17日(土) 4限目(予定) | ・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表 | ・事前学修：個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間) |
| 12 | 事後学修③ 9月24日(土) 3限目(予定) | ・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表 | ・事前学習：代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修：聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間) |
| 13 | 事後学修④ 9月24日(土) 4限目(予定) | ・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表 | ・事前学修：代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修：聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間) |
| 14 | 事後学修⑤ 10月1日(土) 3限目(予定) | ・インターンシップを振り返る(実習記録簿の提出) | ・事前学習：実習記録簿を見直してこること(1時間) |
| 15 | 事後学修⑥ 10月1日(土) 4限目(予定) | ・インターンシップを振り返る | ・事後学修：インターンシップの講義の全体を振り返ること(1時間) |

| | | | | |
|---------------|---|-----|-----|------|
| 関連科目 | インターンシップ I | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 企業による報告書 (20%)、体験報告書など提出物 (40%)、発表を含む授業態度 (投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、グループワークの参加姿勢など) (40%) を総合的に評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 1. 「インターンシップ I」を必ず履修すること。 2. 「インターンシップ I」の履修には、ガイダンスに出席し、履修申し込み書を提出する必要がある。 履修希望者が多い場合は、選考することもある。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館5階 教育イノベーションセンター (石井) | | | |
| 備考 | 教科書・・・必要に応じてレジュメを配布する。 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。 なお、振り返りの課題 (体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など) は3時間以上かけて仕上げること。 ※事前事後学修に出席する際は、必ずスーツを着用してくること。 | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|----------|-------------|
| 科目名 | キャリアプラン | 科目名 (英文) | Career Plan |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 水野 武 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | ICA1507a3 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 本講義は就職活動に関する知識と実践技法も学ぶための講義である。 この科目を通じて、学生は、学生生活での学びを活かし、社会で求められ、活躍できる人材(人財)になるために何をすべきかを考えられるようになることが期待される。 なお、授業担当者の人材業界での業務経験・起業経験を講義に活かす講義の内容となる。 |
| 到達目標 | 自分を振り返り、社会をよく知り、選択肢を発見し、自分の特性や強みについて、他者に伝えられることができる。 その結果、満足のいく就職活動、進路選択ができるようになる。 |
| 授業方法と留意点 | 講義では教員と学生、学生同士で対話をしながら進行をするので、能動的な姿勢が求められる。 |
| 科目学習の効果(資格) | 授業を通して自分の成長に気づき、人に自分の意志が伝えられるようになる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------|---|---|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション | ・講義の目標、進め方、評価方法の解説 ・就職活動のスケジュールを知る | 事前学修：自身の進路について考えること(0.25時間) 事後学修：配付資料を熟読すること(0.25時間) |
| 2 | ビジネス研究① | ・業界・会社・職種を知る | 事前学修：自身の希望業種について考えること(0.25時間) 事後学修：配付資料を熟読し、どんな業界があるのかを調べること(0.25時間) |
| 3 | ビジネス研究② | ・成長企業のキーワード ・会社研究について | 事前学修：自身の興味のある企業について調べること(0.25時間) 事後学修：配付資料を熟読し、どんな会社があるのかを調べること(0.25時間) |
| 4 | ビジネス研究④ | ・会社の経営理念について考える ・ブラック企業問題について考える ・いい会社とは何かについて考える | 事前学修：自身に合った会社とはどのような組織7日について考えること(0.25時間) 事後学修：配付資料を熟読し、自分のワークスタイルを考えること(0.25時間) |
| 5 | ビジネス研究⑤ | ・事業立案のフレームを学ぶ ・グループでビジネスプランを立てる | 事前学修：自身が起業するとしたらどのような業態が良いのか考えること(0.5時間) 事後学修：配付資料を熟読し、グループワークに取り組むこと(1時間) |
| 6 | 営業思考を身につける | ・どのような仕事に従事するでも役に立つ営業思考の基本を身につける | 事前学修：営業職についてイメージすることを言語化しておくこと(0.5時間) 事後学修：7回目に向けてプレゼンテーションの準備をしておくこと(1時間) |
| 7 | ビジネス研究⑦ | ・グループでプレゼンテーションを行う | 事前学修：プレゼンテーションの準備をしておくこと(0.5時間) 事後学修：他グループのプレゼンテーションを振り返ること(0.5時間) |
| 8 | 自分を知る① | ・自分の将来を描いてみる | 事前学修：自身の将来について考えること(0.25時間) 事後学修：配付資料を熟読し、自分の未来について考えること(0.25時間) |
| 9 | 自分を知る② | ・自分の強み、学生生活を振り返る | 事前学修：自身の学生生活での取り組みについて考えること(0.5時間) 事後学修：配付資料を熟読し、自分について振り返ること(0.5時間) |
| 10 | 自分を知る③ | ・ワークシートを使って自分の特性を確認する | 事前学修：自身の強み、行動特性について考えること(0.5時間) 事後学修：配付資料を熟読し、自分の特性について考えること(0.5時間) |
| 11 | 自分のことを伝える | ・エントリーシートとは何かを知る ・読み手の着眼点を理解する | 事前学修：エントリーシートとは何かについて調べること(0.5時間) 事後学修：エントリーシートを作成する準備をしておくこと(1時間) |
| 12 | グループでのコミュニケーション① | ・グループディスカッションの種類を知る ・グループディスカッションを実際に体験してみる | 事前学修：グループディスカッションとはなにかについて調べること(0.25時間) 事後学修：配付資料を熟読し、自身のグループへの貢献の仕方を考えること(0.25時間) |
| 13 | グループでのコミュニケーション② | ・議論を進めるためのファシリテーション術を学ぶ | 事前学修：今までに経験したミーティングや会議での自身の振る舞いについて思い出しておくこと(0.5時間) 事後学修：配付資料を熟読し、グループへの貢献の仕方を考えること(0.5時間) |
| 14 | 面接における対人コミュニケーション | ・面接における対人コミュニケーションについて考える ・面接のメカニズムを知る | 事前学修：企業はなぜ面接を行うのかについて考えること(0.5時間) 事後学修：配付資料を熟読し、対面での対人コミュニケーションについて考えること(0.5時間) |
| 15 | 講義のまとめ | ・成果を上げるための行動計画立案 ・講義のまとめ | 事前学修：ここまでの講義を振り返ること(0.5時間) 事後学修：期末レポートを作成すること。提出物など、出し忘れが無い確認すること(2時間) |

| | | | | |
|---------------|--|-----|-----|------|
| 関連科目 | ・キャリアデザイン、インターンシップ基礎、ビジネスマナーⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ、教的能力開発、コミュニケーション能力開発、エンプロイメントデザインⅠ・Ⅱ | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 講義での提出物 (30%)、グループ課題 (20%)、期末レポート (50%) を総合的に評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | みなさんの将来のことを一緒に考えましょう。なお、履修人数の増減に伴うグループワーク時のグループ数により講義内容の一部に変更が生ずる可能性があるので注意すること。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館3階 教育イノベーションセンター (水野研究室) | | | |
| 備考 | 参考文献・書籍は必要に応じて適宜提示する。 | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-----------------------------|
| 科目名 | 職業能力開発 | 科目名 (英文) | Human Resources Development |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 水野 武 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | ICA1356a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | <p>この科目を通じて、学生は</p> <p>【目的】 社会生活およびビジネスに必要な社会的基礎力の向上を目指す。 社会人・職業人に求められる社会的基礎力<論理的な思考力、新しいアイデアを生み出す発想力、チームワーク力の向上を目指すことが期待される。</p> <p>【概要】 日本の産業の変遷の視点からビジネスパーソンに求められる能力の変化について理解し、その能力の獲得方法について考える。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p> |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 日本の産業の変遷を理解する ビジネスにおいて求められる力を理解し、その獲得のために行動変容を起こせるようになる チームで成果物を創出する 自らのやる気の源泉を考えられるようになる |
| 授業方法と留意点 | 配布資料とスライドに基づいて講義を行う。授業ではグループワークを多用するので能動的に自ら考えて意見を出すように心掛けること。 |
| 科目学習の効果 (資格) | ビジネス社会に必要な能力を習得し、活用することができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------------|---|---|
| | | | |
| 1 | 講義ガイダンス: 講義概要と講義の進め方 | <ul style="list-style-type: none"> 講義目的と講義内容を説明し、講義の進め方、成績評価の方法について解説する。 職業の定義を知る | 事前学習: シラバスを熟読すること (0.5 時間) 事後学修: 講義の内容、進行方法を理解すること (0.5 時間) |
| 2 | キャリア理論を学ぶ | <ul style="list-style-type: none"> キャリアに関する様々な理論を知る | <ul style="list-style-type: none"> 事前学習: 自身のキャリアについて考えておくこと (0.5 時間) 事後学修: 多数ある理論から興味を持ったものについて調べること (0.5 時間) |
| 3 | 日本の職業指導の歴史 | <ul style="list-style-type: none"> 日本の作業の変遷と求められた能力の変化を知る | 事前学習: 現在の社会で求められる能力について考えておくこと (0.5 時間) 事後学修: 配布レジュメを熟読し、日本の産業の変遷について復習すること。(0.5 時間) |
| 4 | グループワークのウォーミングアップ | <ul style="list-style-type: none"> グループ分け グループで企画を考える | 事前学習: 自らのグループを確認し、グループへの貢献の仕方を考えておくこと (0.5 時間) 事後学修: グループで課題に取り組むこと (0.5 時間) |
| 5 | グループワークの提示 | <ul style="list-style-type: none"> グループワークの提示 グループで工程管理を考える | 事前学習: リサーチプロポーザルとは何かを調べておくこと (0.5 時間) 事後学修: グループで課題に取り組むこと (2.5 時間) |
| 6 | マーケット感覚を身につける | <ul style="list-style-type: none"> 市場化する社会について考える | 事前学習: 第 5 回でやる課題に取り組むこと (0.5 時間) 事後学修: 配布資料を見直し、市場化する社会の中で自分の出来ることについて考えること (0.5 時間) |
| 7 | 営業力向上計画 | <ul style="list-style-type: none"> 「営業力とは何か」について個々で考える | 事前学習: 営業職について調べておくこと (0.5 時間) 事後学修: 「営業力とは何か」について個々で考えること (0.5 時間) |
| 8 | グループ発表 | <ul style="list-style-type: none"> 講義④の課題のグループ発表 | 事前学修: 発表の準備をしておくこと (0.5 時間) 事後学修: 自らの発表を内省すること (0.5 時間) |
| 9 | ワークモチベーション研究の歴史を学ぶ① | <ul style="list-style-type: none"> ワークモチベーション研究の歴史とその内容を知る | 事前学習: 自らのやる気の源泉について考えておくこと (0.5 時間) 事後学修: 講義の内容を踏まえ、自分のやる気の源泉について考えること (0.5 時間) |
| 10 | ワークモチベーション研究の歴史を学ぶ② | <ul style="list-style-type: none"> ワークモチベーション研究の歴史とその内容を知る | 事前学習: 他者はどんな時にやる気が出ると思うのか考えること (0.5 時間) 事後学修: 講義の内容を踏まえ、自分のやる気の源泉について考えること (0.5 時間) |
| 11 | ライフデザイン① | <ul style="list-style-type: none"> 自らのライフデザインを考える | 事前学習: 自らの学生生活を内省すること (0.5 時間) 事後学修: 講義内で出された課題を作成すること (0.5 時間) |
| 12 | ライフデザイン② | <ul style="list-style-type: none"> 自らのライフデザインを考える | 事前学習: 自らの将来について考えること (0.5 時間) 事後学修: 配布された資料を見直し、講義を振り返ること (0.5 時間) |
| 13 | 問題解決の事例を学ぶ | <ul style="list-style-type: none"> 実社会で起こった問題の解決事例とその対処について知る | 事前学習: 「問題」とは何か考えること (0.5 時間) 事後学修: 講義で扱った内容以外でも実ビジネスの事例を収集すること (0.5 時間) |
| 14 | 内省する技術 | <ul style="list-style-type: none"> 今までの学生生活を振り返って今後に活かす方法を知る | 事前学習: 今までの学生生活を振り返り、他者に伝えられるようにまとめておくこと (0.5 時間) 事後学修: 講義内容を踏まえ、自らの学生生活を内省すること (0.5 時間) |

| | | | | |
|---------------|--|--------|----------|--|
| | 15 | 講義のまとめ | ・講義の振り返り | 最終課題作成：課題を作成すること。提出物等、出し忘れが無いか確認すること(0.5時間) 事後学習：講義内容を振り返ること(0.5時間) |
| 関連科目 | キャリアデザインⅠ・Ⅱ、エンプロイメントデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップ | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 授業での提出物(40%)、グループワーク(20%)、期末レポート(40%)を総合的に評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 私語厳禁。遅刻厳禁。授業中の入退室禁止。飲食等の禁止。スマホ・携帯の使用禁止。居眠り禁止。これらに違反した学生には退室を命ずることがある。 講義では自ら考えて意見を出すこと。そのためにはまず自分の頭で考えることを心がけることで、皆さんの就業力を伸ばすの方法を共に考える。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館3階 教育イノベーションセンター 水野研究室 | | | |
| 備考 | 講義に関する質問には積極的に対応します。 | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-----------------------------------|
| 科目名 | 数的能力開発 | 科目名 (英文) | Development of Arithmetic Ability |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 山岡 亮太 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | ICA1509a3 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 数的分野 (算数・数学) を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。 |
| 到達目標 | 授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと |
| 授業方法と留意点 | まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようになっていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行うことがあります。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。 |

| | | | | |
|------|----|--------------------|-----------------|---|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション 実力テスト | 講義概要説明、実力テストの実施 | 実力テストの復習 30分以上を目安とする |
| | 2 | 計数問題① | 割合と比 | 事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする |
| | 3 | 計数問題② | 割合の応用問題 | 事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする |
| | 4 | 計数問題③ | 損益算 | 事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする |
| | 5 | 計数問題④ | 速度算① | 事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする |
| | 6 | 計数問題⑤ | 速度算② | 事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする |
| | 7 | 総復習① | 計数問題復習 | 今まで学習した問題全てを事前に復習 30分～1時間程度を目安とする |
| | 8 | 中間テスト | 中間テスト | 今まで学習した問題全てを事前に復習 30分～1時間程度を目安とする |
| | 9 | 論理問題① | 集合 | 事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする |
| | 10 | 論理問題② | 場合の数 | 事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする |
| | 11 | 論理問題③ | 確率 | 事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする |
| | 12 | 論理問題④ | 表の読み取り | 事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする |
| | 13 | 論理問題⑤ | 推論① | 事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする |
| | 14 | 論理問題⑥ | 推論② | 事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする |
| | 15 | 総復習② | 論理問題復習 | 今まで学習した問題全てを事前に復習 30分～1時間程度を目安とする |

| | |
|------|----------|
| 関連科目 | キャリアデザイン |
|------|----------|

| | | | | |
|-----|----|----------------|----------|----------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 厳選！数学的リテラシー問題集 | PS 出版事業部 | PS 出版事業部 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|---------------------------------------|
| 評価方法 (基準) | 小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10% |
|-----------|---------------------------------------|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週1時間程度の予習復習を必ず行ってください。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|----------------------------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館3階 教育イノベーションセンター |
| 備考 | Teams コードは、コピー&ペーストでの入力をオススメします。 |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-----------------------------------|
| 科目名 | 数的能力開発 | 科目名 (英文) | Development of Arithmetic Ability |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 橋本 朗子 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | ICA1509a3 | | |

授業概要・目的
 数的分野 (算数・数学) を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。前期は、数的能力の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。

到達目標
 授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと

授業方法と留意点
 まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。
 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。
 後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、応用が必要となる実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目の履修を推奨します。
 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。

科目学習の効果 (資格)
 大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------|-----------------|---|
| 1 | オリエンテーション 実力テスト | 講義概要説明、実力テストの実施 | 実力テストの復習 (1 時間) |
| 2 | 計数問題① | 割合と比 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと (10 分) 講義で取り扱った問題の復習 (1 時間) |
| 3 | 計数問題② | 割合の応用問題 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと (10 分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1 時間) |
| 4 | 計数問題③ | 損益算 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと (10 分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1 時間) |
| 5 | 計数問題④ | 速度算① | 事前にテキストの問題を読んでおくこと (10 分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1 時間) |
| 6 | 計数問題⑤ | 速度算② | 事前にテキストの問題を読んでおくこと (10 分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1 時間) |
| 7 | 総復習① | 計数問題復習 | 今まで学習した問題全てを事前に復習 (2 時間) |
| 8 | 中間テスト | 中間テスト | 今まで学習した問題全てを事前に復習 (2 時間) |
| 9 | 論理問題① | 集合 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと (10 分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1 時間) |
| 10 | 論理問題② | 場合の数 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと (10 分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1 時間) |
| 11 | 論理問題③ | 確率 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと (10 分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1 時間) |
| 12 | 論理問題④ | 表の読み取り | 事前にテキストの問題を読んでおくこと (10 分) と ・講義で取り扱った問題の復習 (1 時間) |
| 13 | 論理問題⑤ | 推論① | 事前にテキストの問題を読んでおくこと (10 分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1 時間) |
| 14 | 論理問題⑥ | 推論② | 事前にテキストの問題を読んでおくこと (10 分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1 時間) |
| 15 | 総復習② | 論理問題復習 | 全ての問題を事前に復習 (2 時間) |

関連科目
 数的能力開発Ⅱ、キャリアデザインⅡ

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|----------------|----------|----------|
| 1 | 厳選！数学的リテラシー問題集 | PS 出版事業部 | PS 出版事業部 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

評価方法 (基準)
 小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%

学生へのメッセージ
 社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週 1 時間程度の予習復習を必ず行ってください。

担当者の研究室等
 7 号館 3 階 教育イノベーションセンター

備考
 Teams コードは、コピー&ペーストでの入力をオススメします。

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-----------------------------------|
| 科目名 | 数的能力開発 | 科目名 (英文) | Development of Arithmetic Ability |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 津村 忠 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | ICA1509a3 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | <p>数的分野 (算数・数学) を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。</p> <p>前期は、数的能力の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。</p> |
| 到達目標 | 授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと |
| 授業方法と留意点 | <p>まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。</p> <p>毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。</p> <p>後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、応用力が必要となる実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目の履修を推奨します。</p> <p>なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。</p> |
| 科目学習の効果 (資格) | 大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------|-----------------|---|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション 実力テスト | 講義概要説明、実力テストの実施 | 事前：シラバスを熟読する (10分) 事後：実力テストを振り返り、自身の強化ポイントを把握する (30分) |
| 2 | 計数問題① | 割合と比 | 事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上) |
| 3 | 計数問題② | 割合の応用問題 | 事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上) |
| 4 | 計数問題③ | 損益算 | 事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上) |
| 5 | 計数問題④ | 速度算① | 事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上) |
| 6 | 計数問題⑤ | 速度算② | 事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上) |
| 7 | 総復習① | 計数問題復習 | 事前：学習範囲の問題を確認し、理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上) |
| 8 | 中間テスト | 中間テスト | 事前：今まで学習した問題全てを復習しておく (120分) 事後：自身の弱点を把握し、今後に向けての自主学習計画を立案する (60分) |
| 9 | 論理問題① | 集合 | 事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上) |
| 10 | 論理問題② | 場合の数 | 事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上) |
| 11 | 論理問題③ | 確率 | 事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上) |
| 12 | 論理問題④ | 表の読み取り | 事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上) |
| 13 | 論理問題⑤ | 推論① | 事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上) |
| 14 | 論理問題⑥ | 推論② | 事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上) |
| 15 | 総復習② | 論理問題復習 | 事前：学習範囲の問題を確認し、理解度を把握しておく (15分) |

| | | | | |
|---------------|--|----------------|----------|--------------------------------------|
| | | | | 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する（30分以上） |
| 関連科目 | 数的能力開発Ⅱ、キャリアデザインⅡ | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 厳選！数学的リテラシー問題集 | PS 出版事業部 | PS 出版事業部 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10% | | | |
| 学生への メッセージ | 社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週 1 時間程度の予習復習を必ず行ってください。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館 3階 教育イノベーションセンター | | | |
| 備考 | Teams コードは、コピー&ペーストでの入力をオススメします。 | | | |

| | | | |
|----------------|---------------|----------|--------------------------------------|
| 科目名 | コミュニケーション能力開発 | 科目名 (英文) | Development of Communication Ability |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 津村 忠 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | ICA1510a3 | | |

| | |
|----------|--|
| 授業概要・目的 | 社会に必要なコミュニケーションスキルを習得するための授業です。読む・書く・話す・聴くの4技能は常に求められるスキルですが、それらは「技術」として認識し、訓練することによってより実践的なものに高めることが可能です。この授業では毎回「こちらの意図を的確に伝える」技術や「相手の意図を十分に理解する」技術、すなわち「話す」「聴く」技術を高める練習をします。普段、ディスカッションをしたり、プレゼンテーションを練習する機会はあまりありません。講義を通じてこれら社会で求められる力を身につけたい人は受講をお勧めします。講師陣はそれぞれが、人材採用・社会人教育の frontline で長年実務を経験したり、航空業界で多種多様な価値観に触れた経験や、様々な業界で実務経験を持ち、「話す」「聴く」技術を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使えるコミュニケーション能力の獲得を目指します。 |
| 到達目標 | 高度なコミュニケーションスキルを身につけることを目標とします。具体的には社会活動において、自らが望む相応の結果を出すためのスキルを身につけることが目標です。 SDGs4 SDGs10 |
| 授業方法と留意点 | 授業は理論と実践で構成されています。コミュニケーション能力は理論を知ったうえで、アウトプットする訓練が必要です。実践については授業の性質上、ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーションになることもあります。対面時は必ずマスク着用、適度な距離を保つことに留意してください。基本はオンライン（同時双方向）、状況によっては対面になることもあります。情報は Microsoft Teams に発信しますので、必ず確認するようにしてください。 |

| | |
|--------------|--|
| 科目学習の効果 (資格) | |
|--------------|--|

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------|--|--|
| | | | |
| 1 | コミュニケーションとは | コミュニケーションの本質を考える。 | 事前：シラバスを熟読する (15分) 事後：講義を振り返り、通期受講を検証する (15分) |
| 2 | 傾聴力、質問力を高める | 聴くための技術の基本的な方法と聞いた内容を深めるための質問方法について学ぶ。 | 事前：講義資料に目を通し、講義の概要を把握しておく (15分) 事後：講義内容を復習し、社会生活で実践する (30分以上) |
| 3 | ロジカルコミュニケーション | 論理的に会話するための基礎を学ぶ。 | 事前：講義資料に目を通し、講義の概要を把握しておく (15分) 事後：講義内容を復習し、社会生活で実践する (30分以上) |
| 4 | コミュニケーションの技法 | 相手により伝わるための非言語コミュニケーションについて学ぶ。 | 事前：講義資料に目を通し、講義の概要を把握しておく (15分) 事後：講義内容を復習し、社会生活で実践する (30分以上) |
| 5 | プレゼンテーション① | プレゼンテーションの基礎について学ぶ。 | 事前：講義資料に目を通し、講義の概要を把握しておく (15分) 事後：講義内容を復習し、社会生活で実践する (30分以上) |
| 6 | プレゼンテーション② | プレゼンテーション (個人プレゼンの準備) | 事前：講義資料に目を通し、講義の概要を把握しておく (15分) 事後：講義内容を復習し、社会生活で実践する (30分以上) |
| 7 | プレゼンテーション③ | プレゼンテーション (個人プレゼン完成) ※評定あり | 事前：講義資料に目を通し、講義の概要を把握しておく (15分) 事後：講義内容を復習し、社会生活で実践する (30分以上) |
| 8 | 言語理解① | 社会で必要とされる言語理解の基礎について学ぶ。 | 事前：講義資料に目を通し、講義の概要を把握しておく (15分) 事後：講義内容を復習し、習得した知識の定着に努める (30分以上) |
| 9 | 言語理解② | 社会で必要とされる言語理解の応用について学ぶ。 | 事前：講義資料に目を通し、講義の概要を把握しておく (15分) 事後：講義内容を復習し、習得した知識の定着に努める (30分以上) |
| 10 | 言語理解③ | 社会で必要とされる言語理解の基礎と応用の演習問題を解く。 ※評定あり | 事前：講義資料に目を通し、講義の概要を把握しておく (15分) 事後：講義内容を復習し、習得した知識の定着に努める (30分以上) |
| 11 | グループディスカッション① | グループディスカッションの基礎について学ぶ。 | 事前：講義資料に目を通し、講義の概要を把握しておく (15分) 事後：講義内容を復習し、社会生活で実践する (30分以上) |
| 12 | グループディスカッション② | グループディスカッションの演習 (基本編) で学ぶ。 | 事前：講義資料に目を通し、講義の概要を把握しておく (15分) 事後：講義内容を復習し、社会生活で実践する (30分以上) |
| 13 | 面接技術 | 面接技術を学ぶ。 ※評定あり | 事前：講義資料に目を通し、講義の概要を把握しておく (15分) 事後：講義内容を復習し、社会生活で実践する (30分以上) |
| 14 | ダイバーシティ・コミュニケーション | 多様性社会の中、望まれるコミュニケーションスキルを学ぶ。 | 事前：講義資料に目を通し、講義の概要を把握しておく (15分) 事後：講義内容を復習し、社会生活で実践する (30分) |

| | 15 | 総合演習 | これまで実施した授業の内容を踏まえ、自分を的確に且つ効果的に表現すること学び、実践する。 ※評定あり | 分以上) 事前：講義資料に目を通し、講義の概要を把握しておく (15分) 事後：講義全体を復習し、社会生活で実践する (30分以上) | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------|--|------|---|--|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 関連科目 | キャリアデザインⅡ, 数的能力開発 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 毎回の小レポート 30 点、プレゼンテーション 15 点、言語理解 20 点、グループディスカッション 10 点、総合演習もしくはレポート 25 点 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | 人間は「社会的動物」です。他者との関係の中で生きていかねばなりません。他者との関係性を良好に保つことは、豊かな人生を送るための重要な条件になります。そのために求められるものが「コミュニケーション能力」と言われており、これはビジネスシーンにおいても同様です。コミュニケーションを楽しみながら、適切に行えるようになっていきましょう。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|--------------------|
| 科目名 | ビジネスマナー I | 科目名 (英文) | Business Manners I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 奥田 和子 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | ICA1511a3 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、またキャリア支援デザイナーとしての観点から人間関係について話をします。 |
| 到達目標 | クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | テキストはWeb上にアップロードするので、各自で事前に準備すること。授業は、講義中心で進めるが、ペアワーク、グループワークも実施する。毎回、学修課題の提出があるのできちんと取り組むこと。提出した課題については、授業内にてフィードバックを行う。質問等は授業中に受け付ける。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------|--|--|
| | | | |
| 2 | 仕事の進め方と組織活動 | <ul style="list-style-type: none"> 定型業務と非定型業務 コスト意識とエコ活動 仕事の基本の8つの意識 話し方と聞き方 | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 企業のエコ活動について調べる(30分) 事後学修: 仕事とは何か、まとめること(60分) |
| 3 | 目標設定とPDCAサイクル | <ul style="list-style-type: none"> 目標設定(MBO) PDCAとは チームと個人の役割 | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修: PDCAについて調べる(30分) 事後学修: あなたの日常生活におけるMBOとPDCAを考え、まとめること(60分) |
| 4 | スケジュールと出張業務 | <ul style="list-style-type: none"> スケジュールの作り方 業務としての出張-YTT方式- | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修: あなたの1週間予定表を作成すること(30分) 事後学修: あなたの予定表作成について振り返り、まとめること(60分) |
| 5 | ビジネスの場での敬語表現 | <ul style="list-style-type: none"> 基本的な敬語表現の復習 ビジネスの場での使用方法-TP0をもとに- | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 敬語プリント①をすること(30分) 事後学修: ケーススタディプリントをすること(60分) |
| 6 | 電話応対 | <ul style="list-style-type: none"> ビジネスフォンの扱い方 5W2Hから6W3Hへ 簡潔メモの作り方 不在処理と伝言 | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 電話応対プリントをすること(30分) 事後学修: ロールプレイングを繰り返すこと(60分) |
| 7 | 来客応対 | <ul style="list-style-type: none"> 組織図と対応 簡単な応対から不在処理や重複処理まで 名刺交換 ※対面授業に切り替え | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 来客応対プリント①をすること(30分) 事後学修: 来客応対プリント②をすること(60分) |
| 8 | ハウ・レン・ソウ | <ul style="list-style-type: none"> ビジネスにおける「報連相」 指示の受け方 業務の優先順位 | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 報告・連絡・相談の重要性について調べる(30分) 事後学修: ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をすること(60分) |
| 9 | ビジネス文書の基本① | <ul style="list-style-type: none"> 社外文書が基本 商取引文書と社交文書の相違 社内文書と社外文書の種類 ファイリング | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修: ビジネス文書始める前をすること(30分) 事後学修: ビジネス文書②をすること(60分) |
| 10 | ビジネス文書の基本② | <ul style="list-style-type: none"> 実践 | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修: ビジネス文書③をすること(30分) 事後学修: ビジネス文書④をすること(60分) |
| 11 | ビジネス通信の基本 | <ul style="list-style-type: none"> 通信手段(電子メール、ファックス等)の選択 作成上の注意点 郵便・宅配便の知識 | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 郵便の知識プリント①をすること(30分) 事後学修: メール文書を作成すること(60分) |
| 12 | 法的業務 | <ul style="list-style-type: none"> 押印と印鑑の意味 内容証明 個人情報保護(Pマーク) コンプライアンス | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修: コンプライアンスについて調べる(30分) 事後学修: 個人情報保護法についてレポートを作成すること(60分) |
| 13 | 設営の基本 | <ul style="list-style-type: none"> YTT方式からの業務遂行 確認の必要性 他部署とのコミュニケーションの必要性 | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめること(30分) 事後学修: 設営事例をまとめること(60分) |
| 14 | 慶弔と贈答 | <ul style="list-style-type: none"> 慶弔時の基本的マナー 「式」について 業務としての贈答 | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 慶弔・贈答プリント①をすること(30分) 事後学修: 弔・贈答プリント②をすること(60分) |
| 15 | 協働とコミュニケーション | <ul style="list-style-type: none"> 外国人同僚・異文化への対応 働き方とキャリア開発 公共の場でのマナー | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修: グローバル社会へ対応するためには何が必要かについて考えること(30分) 事後学修: 共生関係について自らの考えをまとめること(60分) |

| | | | | |
|------|-----------------------------|-----|-----|------|
| 関連科目 | キャリアデザイン I・II、インターンシップ I・II | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |

| | | | | |
|---------------|---|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 定期試験 40%、ワーク・授業内課題等 30%、複数回のレポート課題 30%を総合的に判断する。 ただし、出席不良者（欠席6回以上）は評価できないことがある。 | | | |
| 学生への メッセージ | 近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館5階 キャリア教育推進室（石井） | | | |
| 備考 | 予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。質問等は、メールやチャットにて受け付けます。 | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|----------|---------------------|
| 科目名 | ビジネスマナーⅡ | 科目名 (英文) | Business Manners II |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 4年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 奥田 和子 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | ICA1512a3 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 企業等のビジネス組織における積極的なコミュニケーションや人間関係調整の必要性をビジネスマナーの視点から考え、ビジネス実務能力とは何かを理解する。社会生活におけるマナーの重要性を認識し、社会人としての基礎であるビジネス実務能力を養う。ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、またキャリア支援デザイナーとしての観点から人間関係について話をします。 |
| 到達目標 | 社会人としてのコミュニケーション能力（非言語ならびに言語能力）とビジネス実務能力の向上を図ることである。 |
| 授業方法と留意点 | テキストはWeb上にアップロードするので、各自で事前に準備すること。授業は、講義中心で進めるが、ペアワーク、グループワークも実施する。毎回、学修課題の提出があるのできちんと取り組むこと。提出した課題については、授業内にてフィードバックを行う。質問等は授業中に受け付ける。 |
| 科目学習の効果（資格） | ビジネス実務能力が身に付く。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------------|--|--|
| | | | |
| 1 | ビジネスマナーからビジネス実務へ | <ul style="list-style-type: none"> 授業のオリエンテーション ビジネスにおける最低限のルール確認 ビジネス用語の基本 | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修：ビジネスマナーⅠを受講した学生は学んだことを復習すること。受講していない学生は自身のマナーについて考える(30分) 事後学修：オリエンテーション内容についてレポートを作成すること(60分) |
| 2 | 正しい姿勢と動作 | <ul style="list-style-type: none"> 第一印象の重要性の確認 姿勢のワンポイントアドバイス | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修：自身の第一印象の良い点、改善すべき点をメモすること(30分) 事後学修：第一印象の重要性についてレポートを作成すること(60分) |
| 3 | PDCA サイクルと YTT 方式 | <ul style="list-style-type: none"> PDCA サイクルの重要性 YTT 方式の活用法 | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修：日常において段取りが悪かった事例の内容を6W3Hでまとめること(30分) 事後学修：その改善点を考え、記録すること(60分) |
| 4 | アサーティブな自己表現、クッション言葉の重要性 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の意思を伝える方法 ロールプレイング | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修：日常において伝えたくても伝えられなかった内容を思い出し、メモすること(30分) 事後学修：相手に理解される伝え方についてレポートを作成すること(60分) |
| 5 | 敬語表現と逆説得① | <ul style="list-style-type: none"> 敬語の復習とビジネスにおける「NO」の伝え方 | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修：テキスト内の敬語に関する項目を完成すること(30分) 事後学修：逆説得をまとめ、レポートを作成すること(60分) |
| 6 | 敬語表現と逆説得② | <ul style="list-style-type: none"> 相手の適切な言動を引き出す環境づくりから、空間的及び心理的距離からみえる「誠意」とは何かの考察 | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修：「環境プロデューサー」の意味を考え、理解すること(30分) 事後学修：「誠意」の意味とコミュニケーションにおける距離を理解し、レポートを作成すること(60分) |
| 7 | クレーム対応 | <ul style="list-style-type: none"> 不満を信頼に変える対応 | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修：クレームが発生する理由を考えること(30分) 事後学修：クレーム対応のポイントをまとめること(60分) |
| 8 | 「確実・迅速・丁寧」と信頼関係処理 | <ul style="list-style-type: none"> 信頼関係の構築方法とコミュニケーションを築くキーワード | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修：日常生活において「確実・迅速・丁寧」に行動できているか振り返ること(30分) 事後学修：ビジネスにおいてなぜ「信頼関係」が必要なのか理解し、レポートを作成すること(60分) |
| 9 | 来客応対、処理業務などの基本と応用 | <ul style="list-style-type: none"> 来客応対の基本 聞き方、話し方のポイント | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修：TPOの意味を考え、来客応対にはどんな意味があるのかを考える。こと(30分) 事後学修：来客対応のポイントをレポートすること(60分) |
| 10 | 社内会議、設営の基本 | <ul style="list-style-type: none"> 会議の流れの基本 設営の基本 | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修：会議を主催する場合の手順についてかみがえること(30分) 事後学修：会議を主催する場合の手順をまとめること(60分) |
| 11 | ビジネス文書の作成① | <ul style="list-style-type: none"> 社内文書、社外文書 | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修：ビジネス文書の形式、特徴を調べておくこと(30分) 事後学修：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(60分) |
| 12 | ビジネス文書の作成② | <ul style="list-style-type: none"> 事例研究 | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修：実務処理能力を高めることを理解すること(30分) 事後学修：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(60分) |
| 13 | わかることからできることへ ケーススタディ① | <ul style="list-style-type: none"> 電話対応の基本と応用 | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修：電話の対応のポイントを考えてくること(30分) 事後学修：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(60分) |
| 14 | わかることからできることへ ケーススタディ② | <ul style="list-style-type: none"> 自分で実践するキャリア開発 必要とされるビジネスマナーおよび実務内容のまとめ | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修：キャリア開発の必要性は何を意味しているか、将来にとってどのように必要か考えること(30分) 事後学修：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(60分) |
| 15 | わかることからできることへ | <ul style="list-style-type: none"> ビジネスマナーを再考し、その必要性を頭の中で理解し、「わかる」という段 | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修：ライフプランの中のキャリアプランを立案、評価すること(30分) |

| | | | | |
|---------------|---|--|--------------------------------------|------|
| | ケーススタディ③ | 階から、身体と心の一致である行為を促し、「できる」という実践へ移行させると同時に、自信へと繋ぐ。 | ・事後学修：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(60分) | |
| 関連科目 | キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | ビジネス実務ワーク | 石井三恵、他 | 泉文堂 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 定期試験 40%、ワーク・授業内課題等 30%、複数回のレポート 30%を総合的に判断する。 ただし、出席不良者(欠席6回以上)は評価できないことがある。 | | | |
| 学生への メッセージ | ビジネスの基本は、幼いころから家庭や学校で学んだことの延長線上にあります。決して初めて学ぶことではありません。 だれもが過去に成功体験や失敗体験を数多く持っており、それを振り返ることから始まります。 まずは、TPOを考え、自分の言動を意識してみましょう。授業外での質問にはメール、チャットで対応します。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館5階 キャリア教育推進室(石井) | | | |
| 備考 | 予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。 レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。 | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-------------------|
| 科目名 | 日本の政治 | 科目名 (英文) | Japanese Politics |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 和田 泰一 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IS02315a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 政治の主要な領域としては、①予算の決定・執行という配分に関わる領域と、②法の制定・施行という立法に関わる領域の二つがあります。これら二つの領域は、紀元前の政治学者アリストテレスの正義の区分に由来するものです。アリストテレスは、配分的正義・矯正的正義という二つの正義を実現するために政治活動は行われなければならないと考えました。 現代の日本の政治でも、配分的正義を実現するために予算の決定・執行を行い、矯正的正義を実現するために法の制定・執行を行っていることに変わりはありません。主権者である私たちは、デモクラシーに参加すべき市民の一人として、また法の下での平等のもとに一票を与えられた有権者の一人として、こうした正義を実現してより良い日本を創造するために政治に関与し続けねばなりません。 しかし主権者である私たちが一市民・一有権者として正しい政治的選択を行うためには、日本の政治の仕組みや歴史について基本的な知識・教養をあらかじめ知っておくことが必要不可欠です。したがってこの授業では、政治学原論、日本の政治体制論、日本政治史にあたる内容を授業します。また時間があれば、学生の皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治・社会に関わる時事問題についても紹介し、解説します。 |
| 到達目標 | この授業を通じて学生の皆さんは、日本の政治の仕組み・歴史について基本的な知識・教養を獲得することができます。またそうした知識・教養に基づき、実際の政治活動において①正しい政治的配分や法とは何かを思考することができ、②支持すべきより正しい政治的アクターや政策・法を判断することができ、③投票など政治活動を通じて自分の政治的意見を正しく表現することができます。 |
| 授業方法と留意点 | レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーにある政治問題について自問自答・議論した上で自分の意見を論理的に書いてもらったり、小テストに答えてもらったりすることもあります。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 公務員試験や就職活動において、日本の政治の知識・教養が一般常識として問われる場合があります。また一主権者として実際に政治活動するときには、そうした知識・教養について知っておく必要があります。そうした状況に上手に対応するために、日本の政治について正しい知識・教養を獲得し、個々の具体的な政策・法のメリット・デメリットを正しく判断し、最終的に自分の意見を政治活動を通じて正しく表現することができます。 |

| | | | | |
|------|----|--|---|---|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | イントロダクション—政治とは何か? | イントロダクションとして、本講義の内容と政治—国家の必要性について授業します。 | 事前学習：政治・政治学について文献を収集し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| | 2 | 政治と権力①政治の条件とは何か? | 身近な日常生活で現れる政治について授業します。 | 事前学習：教科書の該当箇所 (第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| | 3 | 政治と権力②正当な権力とは何か? | マックス・ウェーバーの権力観を理解し、政治・経済における近代性について授業します。 | 事前学習：教科書の該当箇所 (第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| | 4 | 日本の政治システム①民主主義 (デモクラシー) | 日本の政治が現在採用している民主主義 (デモクラシー) について授業します。 | 事前学習：教科書の該当箇所 (第十八章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| | 5 | 日本の政治システム②選挙制度と国会 | 日本の選挙制度や国会について授業します。 | 事前学習：教科書の該当箇所 (第二十二章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| | 6 | 日本の政治システム③内閣 | 日本の内閣と今世紀の行政改革について授業します。 | 事前学習：教科書の該当箇所 (第十一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| | 7 | 戦前の日本の政治システム | 戦前の日本の政治システムについて授業します。 | 事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第七回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| | 8 | 戦後の日本政治①GHQ占領下の日本政治 | 戦後のGHQ占領下である1940年代後半の日本政治について授業します。 | 事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第八回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| | 9 | 戦後の日本政治②サンフランシスコ平和条約、日米安全保障条約、55年体制の成立 | 日本独立期である1950年代の日本政治について授業します。 | 事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第九回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| | 10 | 戦後の日本政治③日米安保闘争、高度経済成長、沖縄返還 | 安保闘争から高度経済成長へと入っていく1960年代の日本政治について授業します。 | 事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第十回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| | 11 | 戦後の日本政治④自民党の派閥の興隆 | 自民党の中で田中派支配が行われていた1970年代、80年代の日本政治について | 事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第十一回) を読み、マスメディアのニュースから政治の |

| | | | て授業します。 | 知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く(30分)。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|--|--------------------------|---|---|----|-----|-----|------|---|---------------|-------------|-------|---|--|--|--|---|--|--|--|
| | 12 | 戦後の日本政治⑤政治改革と55年体制の終焉 | 日本で政治改革が吹き荒れた1980年代末から1990年代前半にかけての日本政治について授業します。 | 事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所(第十二回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く(30分)。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 13 | 戦後の日本政治⑥自民党を中心とした連立政権の展開 | 自民党が連立政権を組むようになった1990年代の日本政治について授業します。 | 事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所(第十三回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く(30分)。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 14 | 戦後の日本政治⑦小泉劇場 | 新自由主義の傾向が強くなった2000年代前半の日本政治について授業します。 | 事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所(第十四回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く(30分)。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15 | まとめ | 講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。 | 事前学習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く(30分)。試験に向けて教科書やノート、レジュメを読み直す(時間の許す限り)。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 中学・高校の公民、日本史など。大学の政治学原論、日本政治史など。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>政治学</td> <td>久米郁男・川出良枝ほか</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 政治学 | 久米郁男・川出良枝ほか | 有斐閣 | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 政治学 | 久米郁男・川出良枝ほか | 有斐閣 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>18歳から考える日本の政治</td> <td>五十嵐仁</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 18歳から考える日本の政治 | 五十嵐仁 | 法律文化社 | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 18歳から考える日本の政治 | 五十嵐仁 | 法律文化社 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 定期試験(約70%)と小テスト(約30%)で評価します。Aの取得率は、全受講者数の25%程度とします。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、政治・政治学についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 寝屋川キャンパス11号館10階 和田研究室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|----------------|
| 科目名 | 世界の政治 | 科目名 (英文) | World Politics |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 和田 泰一 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IS02316a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 世界の政治の主要な考え方としては、リアリズム (現実主義) とイデオリズム (理想主義) という二つの対照的な考え方がよく知られています。基本的に前者は、国際関係を国家が合理的に権力を行使する場と考えており、後者は、国際関係を国家内の合理的な法秩序が拡大された場と考えています。また前者は、ときに戦争に訴えつつ、国家は物理的な力の行使・圧力によって財・利益の独占を図りがちであると、後者は、戦争を回避しつつ、国家は正しい国際法・国際秩序によって財・利益の公正な配分を行いがちであると考えています。現代の世界の政治でも、リアリズムとイデオリズムという二つの考え方は、例えば日本でも「対話と圧力」という言葉が用いられたように、いまだに国家という政治的アクターが活動する際の行動指針となっています。国家の主権者である私たちは、戦争という最悪の事態を避けつつも、国際法・国際秩序の合理的な枠組みのなかで、自国の財・利益を最大化しようとする政権を選ばねばなりません。しかし主権者である私たちが正しい外交選択を行いうる政権を選出するためには、世界の政治の仕組みや歴史について基本的な知識・教養をあらかじめ知っておくことが必要不可欠です。したがってこの授業では、国際政治、日本外交史にあたる内容だけでなく、西洋政治思想史において国家観やイデオリズム・リベラリズムの思想的基礎に関わる部分を授業します。また時間があれば、学生の皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治・社会に関わる時事問題についても紹介し、解説します。 |
| 到達目標 | この授業を通じて学生の皆さんは、世界の政治の仕組み・歴史、日本外交の歴史と現状、西洋政治思想史について基本的な知識・教養を獲得することができます。またそうした知識・教養に基づき、実際の政治活動において①正しい国際関係とは何かを思考することができ、②外交・政治思想の観点から支持すべきより正しい政治的アクターや政策・法を判断することができ、③投票など政治活動を通じて自分の対外的意見を正しく表現することができます。 |
| 授業方法と留意点 | レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーにある政治問題について自問自答・議論した上で自分の意見を論理的に書いてもらったり、小テストに答えてもらったりすることもあります。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 公務員試験や就職活動において、世界の政治の知識・教養が一般常識として問われる場合があります。また一主権者として実際に政治活動するときには、そうした知識・教養について知っておく必要があります。そうした状況に上手く対応するために、世界の政治について正しい知識・教養を獲得し、個々の具体的な政策・法のメリット・デメリットを正しく判断し、最終的に自分の意見を政治活動を通じて正しく表現することができます。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------------|--|---|
| | | | |
| 1 | イントロダクションー国際政治とは何か? | イントロダクションとして、講義の内容と国際政治の基本的な考え方について授業します。 | 事前学習: 今まで勉強してきた歴史の教科書などを再読し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める (30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 2 | 国際政治の歴史①主権国家の形成とイデオリズム | 主権国家の誕生から平和的な超国家機構の構築に至る国際関係の歴史をイデオリズムの観点から授業します。 | 事前学習: 教科書の該当箇所 (『国際政治学』第二章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 3 | 国際政治の歴史②冷戦の勃発 | 第二次世界大戦後の冷戦の構造と歴史について授業します。 | 事前学習: 教科書の該当箇所 (『国際政治学』第二章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 4 | 対外政策ーリアリズムの諸理論 | モーゲンソーの理論を中心に、対外政策をリアリズムの観点から授業します。 | 事前学習: 教科書の該当箇所 (『国際政治学』第三章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 5 | 日本外交の歴史①日米安全保障条約と冷戦下の日本外交 | 日米安全保障条約や新日米安全保障条約の内容、冷戦下の日本外交について授業します。 | 事前学習: 教科書の該当箇所 (『国際政治学』第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 6 | 日本外交の歴史②冷戦の終結と湾岸戦争 | 冷戦の終結と湾岸戦争の勃発によって日本外交がいかなる転換を求められたのかについて授業します。 | 事前学習: 教科書の該当箇所 (『国際政治学』第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 7 | 日本外交の歴史③今世紀の日本外交 | 米国同時多発テロ、アフガニスタン戦争、イラク戦争、安全保障関連法によって生じた日本外交の転換について授業します。 | 事前学習: 教科書の該当箇所 (『国際政治学』第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 8 | 国家観の歴史的起源ープラトン、アリストテレス | 国際政治で前提にしている国家という政治的アクターについて考えるため、国家観の起源について授業します。 | 事前学習: 事前配布したレジュメの該当箇所 (第八回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 9 | 国家理性とリアリズムーマキアヴェッリ | マキアヴェッリ『君主論』を中心に、国際政治のリアリズムの起源としての国家理性の理論について授業します。 | 事前学習: 教科書の該当箇所 (『政治思想の知恵』第一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 10 | 戦争状態と国家ーホッブズ | ホッブズ『リヴァイアサン』を中心に、国内外の戦争状態と主権国家の諸理論について授業します。 | 事前学習: 教科書の該当箇所 (『政治思想の知恵』第二章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |

| | | | |
|----|---------------------|--|--|
| | | | 一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 11 | 民主的な国家観—ロック・ルソー | ロック『統治二論』、ルソー『社会契約論』を中心に、民主的な国家観について授業します。 | 事前学習：教科書の該当箇所 (『政治思想の知恵』第三章・第四章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 12 | アイデアリズムの起源—カント | カント『永遠平和のために』を中心に、国際政治のアイデアリズムの起源としてのカントの道徳観・国際秩序観について授業します。 | 事前学習：教科書の該当箇所 (『政治思想の知恵』第六章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 13 | リベラリズムの個人観・国家観—ミル | ミル『自由論』を中心に、国際政治のリベラリズムの個人観・国家観について授業します。 | 事前学習：教科書の該当箇所 (第八章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 14 | 今世紀の新しい国際秩序—ネグリ・ハート | ネグリ・ハート『帝国』を中心に、冷戦終結後の国際秩序について授業します。 | 事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。 |
| 15 | まとめ | 講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。 | 事前学習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。試験に向けて教科書やノート、レジュメを読み直す (時間の許す限り)。 |

関連科目 中学・高校の公民、日本史、世界史など。大学の日本外交史、国際政治、西洋政治思想史など。

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|------------------------|-------|-------|
| | 1 | 国際政治学 | 中西寛他 | 有斐閣 |
| | 2 | 政治思想の知恵—マキャベリからサンデルまで— | 仲正昌樹編 | 法律文化社 |
| | 3 | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

評価方法 (基準) 定期試験 (70%) と小テスト (30%) で評価します。A の取得率は、全受講者数の 25% 程度とします。

学生へのメッセージ 新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、現代の世界の政治についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。

担当者の研究室等 寝屋川キャンパス 11 号館 10 階 和田研究室

備考

| | | | |
|---------------|-----------|----------|------------------|
| 科目名 | 基礎英語 I a | 科目名 (英文) | Basic English Ia |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 西尾 優里 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN1323c1 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。 |
| 到達目標 | (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC, 英検等 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|---|---|
| | | | |
| 1 | Introduction | Orientation for this class | Follow orientation instructions. |
| 2 | Unit 1-1: When Do You Eat? -アフタヌーン・ティーってお茶の時間?- | Check the contents of Unit 1: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point | Follow instructions as provided in class. |
| 3 | Unit 1-2: When Do You Eat? -アフタヌーン・ティーってお茶の時間?- | Writing and Speaking Session of Unit 1: Sharing your writing and asking questions (based on HW topics). | Follow instructions as provided in class. |
| 4 | Unit 2-1: Before You Go to England -イギリスはどこにあるのか- | Check the contents of Unit 2: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point | Follow instructions as provided in class. |
| 5 | Unit 2-2: Before You Go to England -イギリスはどこにあるのか- | Writing and Speaking Session of Unit 2: Sharing your writing and asking questions (based on HW topics). | Follow instructions as provided in class. |
| 6 | Unit 3-1: Future of the Shopping Mall -なんでも買えるお店はどこにある?- | Check the contents of Unit 3: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point | Follow instructions as provided in class. |
| 7 | Unit 3-2: Future of the Shopping Mall -なんでも買えるお店はどこにある?- | Writing and Speaking Session of Unit 3: Sharing your writing and asking questions (based on HW topics). | Follow instructions as provided in class. |
| 8 | Unit 4-1: Basic of Apartment Renting -世界の借家事情- | Check the contents of Unit 4: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point | Follow assessment instructions |
| 9 | Unit 4-2: Basic of Apartment Renting -世界の借家事情- | Writing and Speaking Session of Unit 4: Sharing your writing and asking questions (based on HW topics). | Follow assessment instructions. |
| 10 | Unit 5-1: Is That Really English? -それってホントに英語なの?- | Check the contents of Unit 5: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point | Follow instructions as provided in class. |
| 11 | Unit 5-2: Is That Really English? -それってホントに英語なの?- | Writing and Speaking Session of Unit 5: Sharing your writing and asking questions (based on HW topics). | Follow instructions as provided in class. |
| 12 | Unit 6-1: Dining Out: East and West -「私がおります」は失礼になる時もある?- | Check the contents of Unit 6: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point | Follow instructions as provided in class. |
| 13 | Unit 6-2: Dining Out: East and West -「私がおります」は失礼になる時もある?- | Writing and Speaking Session of Unit 6: Sharing your writing and asking questions (based on HW topics). | Follow instructions as provided in class. |
| 14 | Review for All Unites for Final Test | Review by yourselves and practice for Final Test | Follow assessment instructions. |
| 15 | Final Test | | Follow assessment instructions. |

| | | | | |
|------|----|--|------------------|-------|
| 関連科目 | | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | Know the Differences, Broaden Your World! -Short Readings and Basic Grammar for Cultural Literacy- | Nobumichi Kawada | 朝日出版社 |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集) | 西谷 恒志 | 成美堂 |
| | 3 | | | |
| 参考書 | | | | |

| | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|--|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|---------------|--|
| 評価方法 (基準) | <p>全学共通英語課題 (English Central) 20%</p> <p>授業への参加、貢献 (participation, speaking and communication skills, various written activities, such as paragraphs, interaction and reflection reports) 80%</p> <p>評価の詳細は、初回授業に説明します。必ず参加すること。</p> |
| 学生への メッセージ | <p>Hi, everyone! I am Yuri Nishio and this year is my second year of teaching in Setsunan University.</p> <p>We will discuss any topics by using video materials included the textbook.</p> <p>I'm looking forward to teaching you this year.</p> <p>Please participate fully in p</p> |
| 担当者の 研究室等 | 非常勤講師室 (7号館2階) または email |
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行うこと。その他の質問等は出講時に非常勤講師室やメールにて対応する。 |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|------------------|
| 科目名 | 基礎英語 I b | 科目名 (英文) | Basic English Ib |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 有本 好一郎 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN1324c1 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身に付けること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。 |
| 到達目標 | (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC, 英検等 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------------------------|-----------------------------|-----------------------------------|
| | | | |
| 1 | ガイダンス、TOEICの説明、英語クロスワードパズルなど | 授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明 | 教科書の予習(次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記 |
| 2 | 自己紹介についての文章を通して名詞の学習(固有名詞、複数形など) | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記 |
| 3 | 家族、ペットについての文章を通して動詞の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記 |
| 4 | 趣味についての文章を通して主語+動詞への学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記 |
| 5 | 大学生活についての文章を通して人称代名詞の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記 |
| 6 | 食物についての文章を通して疑問詞の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記 |
| 7 | コンサートについての文章を通してHow+形容詞、副詞の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記 |
| 8 | 中間試験 | 試験後、答え合わせを行い弱点を復習 | 教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記 |
| 9 | 道案内についての文章を通して助動詞の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記 |
| 10 | 日本文化についての文章を通して助動詞の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記 |
| 11 | ジェスチャーについての文章を通して前置詞の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記 |
| 12 | 観光案内についての文章を通して時制の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記 |
| 13 | ネットショッピングについての文章を通して進行形の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記 |
| 14 | E-mail についての文章を通して数字の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習(今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記 |
| 15 | 9-14回のまとめテストと復習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | まとめテストの準備 |

| | |
|------|--------|
| 関連科目 | 他の英語科目 |
|------|--------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|--|--------------------------------|----------------|------|
| | 1 | Forerunner to Power-Up English | JACET リスニング研究会 | 南雲堂 |
| 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition (指定の単語集) | 西谷 恒志 | 成美堂 | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|----------|--|
| 評価方法(基準) | 全学共通英語課題 20% まとめテスト50%、小テスト30%で評価を行う。 |
|----------|--|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。英語が得意なら未来が明るくなります。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|---------------|
| 担当者の研究室等 | 非常勤講師室(7号館2階) |
|----------|---------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |
|----|---|

| | | | |
|----------------|----------|----------|-------------------|
| 科目名 | 基礎英語Ⅱ a | 科目名 (英文) | Basic English IIa |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 西尾 優里 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IE1325c1 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。 |
| 到達目標 | (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC, 英検等 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---|--|---|
| | | | |
| 1 | Introduction | Orientation for this class | Follow orientation instructions. |
| 2 | Unit 7-1: Careers and Promotions 一年功序列と実力主義、どちらがいい?— | Check the contents of Unit 7: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point | Follow instructions as provided in class. |
| 3 | Unit 7-2: Careers and Promotions 一年功序列と実力主義、どちらがいい?— | Writing and Speaking Session of Unit 7: Sharing your writing and asking questions (based on HW topics). | Follow instructions as provided in class. |
| 4 | Unit 8-1: Bath or Shower? —あなたは風呂派?それともシャワー派?— | Check the contents of Unit 8: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point | Follow instructions as provided in class. |
| 5 | Unit 8-2: Bath or Shower? —あなたは風呂派?それともシャワー派?— | Writing and Speaking Session of Unit 8: Sharing your writing and asking questions (based on HW topics). | Follow instructions as provided in class. |
| 6 | Unit 9-1: White=Right? —美白の魔力、白い肌が美しいというのは世界の共通か?— | Check the contents of Unit 9: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point | Follow instructions as provided in class. |
| 7 | Unit 9-2: White=Right? —美白の魔力、白い肌が美しいというのは世界の共通か?— | Writing and Speaking Session of Unit 9: Sharing your writing and asking questions (based on HW topics). | Follow instructions as provided in class. |
| 8 | Unit 10-1: Money and Modern Weddings —経済力と結婚の厳しい現実— | Check the contents of Unit 10: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point | Follow assessment instructions |
| 9 | Unit 10-2: Money and Modern Weddings —経済力と結婚の厳しい現実— | Writing and Speaking Session of Unit 10: Sharing your writing and asking questions (based on HW topics). | Follow assessment instructions. |
| 10 | Unit 11-1: Subway Around the World —世界の地下鉄を乗りこなそう— | Check the contents of Unit 11: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point | Follow instructions as provided in class. |
| 11 | Unit 11-2: Subway Around the World —世界の地下鉄を乗りこなそう— | Writing and Speaking Session of Unit 11: Sharing your writing and asking questions (based on HW topics). | Follow instructions as provided in class. |
| 12 | Unit 12-1: Work Hours —生きるために働くのか、働くために生きるのか— | Check the contents of Unit 12: Reading contents, Vocabulary, Grammatical Point | Follow instructions as provided in class. |
| 13 | Unit 12-2: Work Hours —生きるために働くのか、働くために生きるのか— | Writing and Speaking Session of Unit 12: Sharing your writing and asking questions (based on HW topics). | Follow instructions as provided in class. |
| 14 | Review for All Unites for Final Test | Review by yourselves and practice for Final Test | Follow assessment instructions. |
| 15 | Final Test | | Follow assessment instructions. |

| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|---|--|------------------|-------|------|---|--|------------------|-------|---|--|-------|-----|---|--|--|--|
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Know the Differences, Broaden Your World! -Short Readings and Basic Grammar for Cultural Literacy-</td> <td>Nobumichi Kawada</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | Know the Differences, Broaden Your World! -Short Readings and Basic Grammar for Cultural Literacy- | Nobumichi Kawada | 朝日出版社 | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集) | 西谷 恒志 | 成美堂 | 3 | | | |
| | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | |
| | 1 | Know the Differences, Broaden Your World! -Short Readings and Basic Grammar for Cultural Literacy- | Nobumichi Kawada | 朝日出版社 | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集) | 西谷 恒志 | 成美堂 | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|--|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|---------------|--|
| 評価方法 (基準) | <p>全学共通英語課題 (English Central) 20%</p> <p>授業への参加、貢献 (participation, speaking and communication skills, various written activities, such as paragraphs, interaction and reflection reports) 80%</p> <p>評価の詳細は、初回授業に説明します。必ず参加すること。</p> |
| 学生への メッセージ | <p>Hi, everyone! I am Yuri Nishio and this year is my second year of teaching in Setsunan University.</p> <p>We will discuss any topics by using video materials included the textbook.</p> <p>I'm looking forward to teaching you this year.</p> <p>Please participate fully in p</p> |
| 担当者の 研究室等 | 非常勤講師室 (7号館 2階) または email |
| 備考 | <p>このクラスを受講希望者は必ず初回授業に参加すること。第1回目の授業に不参加の場合、特別な理由を除き、基本的に受講は認めません。</p> <p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行うこと。その他の質問等は出講時に非常勤講師室やメールにて対応します。</p> |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-------------------|
| 科目名 | 基礎英語 II b | 科目名 (英文) | Basic English IIB |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 有本 好一郎 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN1326c1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。 |
| 到達目標 | (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とす |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC, 英検等 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------------------|-----------------------------|-----------------------|
| | | | |
| 1 | ガイダンス、TOEIC の説明、英語クロスワードパズルなど | 授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明 | 教科書の予習、クロスワードパズルの暗記 |
| 2 | 機内放送についての文章を通して、天候や時の表現の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 |
| 3 | 空港で放送される文章を通して接続詞の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 |
| 4 | ホテルで使われる文章を通して不定詞の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 |
| 5 | レストランで使われる文章を通して形容詞の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 |
| 6 | 買い物で使われる文章を通して頻度を表す副詞の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 |
| 7 | 野球についての文章を通して比較級の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 |
| 8 | 中間試験 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 |
| 9 | ミュージカル鑑賞についての文章を通して完了形の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 |
| 10 | 旅行案内についての文章を通して受動態の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 |
| 11 | 問題解決についての文章を通して受動態の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 |
| 12 | 体調不良についての文章を通して分詞の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 |
| 13 | 電話の会話についての文章を通して動名詞の学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 |
| 14 | 別れの手紙の文章を通してセンテンスの学習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 |
| 15 | 9-14 回のまとめテストと復習 | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して | まとめテストの準備 |

| | |
|------|--------|
| 関連科目 | 他の英語科目 |
|------|--------|

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|--|----------------|------|
| | | | |
| 1 | Forerunner to Power-Up English | JACET リスニング研究会 | 南雲堂 |
| 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition (指定の単語集) | 西谷 恒志 | 成美堂 |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| | | | |
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| | |
|-----------|-----------------------------|
| 評価方法 (基準) | 小テスト 40%、まとめテスト 60% で評価を行う。 |
|-----------|-----------------------------|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。英語が得意なら未来が明るくなります。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|-------------------|
| 担当者の研究室等 | 非常勤講師室 (7 号館 2 階) |
|----------|-------------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |
|----|---|

| | | | |
|---------------|-----------|----------|----------------------|
| 科目名 | 実践英語 I a | 科目名 (英文) | Practical English Ia |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | ① |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 山本 尚子 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN2327c1 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 |
| 到達目標 | 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC、英検等 |

| | | | | |
|------|----|--------------------|--|--------------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション | 授業についての注意事項や進め方の説明をした後プリント教材を使った授業を行う。 | テキストを購入して、目を通しておくこと。 |
| | 2 | College Sports (1) | アメリカの大学スポーツについて読む。現在時制の使い方をチェックする。 | テキストの予習 予習をしながら単語帳を作る(以下同様) |
| | 3 | College Sports (2) | アメリカの大学スポーツについて読む。現在時制の使い方をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| | 4 | Hip Hop Music (1) | ヒップホップミュージックの成り立ちについて読む。過去時制の使い方をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| | 5 | Hip Hop Music (2) | ヒップホップミュージックの成り立ちについて読む。過去時制の使い方をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| | 6 | Travel (1) | 人がなぜ旅に出るのかについて読む。進行形の使い方をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| | 7 | Travel (2) | 人がなぜ旅に出るのかについて読む。進行形の使い方をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| | 8 | Video Games (1) | テレビゲームの功罪について読む。完了形の使い方をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| | 9 | Video Games (2) | テレビゲームの功罪について読む。完了形の使い方をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| | 10 | Recycling (1) | リサイクルによる環境保全について読む。冠詞、代名詞の使い方をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| | 11 | Recycling (2) | リサイクルによる環境保全について読む。冠詞、代名詞の使い方をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| | 12 | Fast Food (1) | ファーストフードの問題点について読む。可算名詞、不可算名詞をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| | 13 | Fast Food (2) | ファーストフードの問題点について読む。可算名詞、不可算名詞をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| | 14 | TOEICの練習 | プリント教材を使って、TOEICの練習問題を行う。 | テキストの復習 |
| | 15 | 復習、まとめテスト | 前期の内容の復習をし、まとめテストを行う。 | 前期の復習 |

| | |
|------|--------|
| 関連科目 | 他の英語科目 |
|------|--------|

| | | | | |
|-----|----|---|----------------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | English Indicator 3 | Joshua Cohen 他 | 南雲堂 |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | 西谷 恒志 | 成美堂 |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|----------|--|
| 評価方法(基準) | 全学共通英語課題 (English Central) 20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 80% |
|----------|--|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 毎回予習復習をして、積極的に授業に参加することを心がけてください。授業中はしっかりメモを取り、わからないことがあれば必ず質問するようにしてください。予習をチェックする課題提出を求めますので、長文は事前に必ず読んで内容を把握しておいてください。毎回の予定は目安であり多少の変更もあり得ますので、授業中の説明をよく聞いておいてください。皆さんの積極的な授業参加を期待しています。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|-------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階非常勤講師室 |
|----------|-------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ |
|----|---|

| | |
|--|--|
| | そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |
|--|--|

| | | | |
|----------------|-----------|----------|----------------------|
| 科目名 | 実践英語 I a | 科目名 (英文) | Practical English Ia |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | ② |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 東野 厚子 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN2327c1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 |
| 到達目標 | 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC, 英検等 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---|---|--|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション Unit 1 Eating Out. 文法: 動詞 (1) | 授業の進め方、評価方法等の説明 単語の確認 TOEIC 問題演習 | 事前学習: テキストを準備し、Unit1 の知らない単語を確認しておく 事後学習: 知らない単語・イディオムの暗記と指示された英文の音読をする |
| 2 | Unit 2 Travel 文法: 動詞 (2) | 小テスト (Unit1) 単語の確認 TOEIC 問題演習 | 事前学習: Unit2 の知らない単語を確認し、演習問題をしておく 事後学習: 知らない単語・イディオムの暗記と指示された英文の音読をする |
| 3 | Unit 3 Amusement 文法: 品詞 | 小テスト (Unit2) 前回の小テストの解答と説明 単語の確認 TOEIC 問題演習 | 事前学習: Unit3 の知らない単語を確認し、演習問題をしておく 事後学習: 知らない単語・イディオムの暗記と指示された英文の音読をする |
| 4 | Unit 4 Meetings 文法: 分詞 | 小テスト (Unit3) 前回の小テストの解答と説明 単語の確認 TOEIC 問題演習 | 事前学習: Unit4 の知らない単語を確認し、演習問題をしておく 事後学習: 知らない単語・イディオムの暗記と指示された英文の音読をする |
| 5 | Unit 5 Personnel 文法: 不定詞と動名詞 (1) | 小テスト (Unit4) 前回の小テストの解答と説明 単語の確認 TOEIC 問題演習 | 事前学習: Unit5 の知らない単語を確認し、演習問題をしておく 事後学習: 知らない単語・イディオムの暗記と指示された英文の音読をする |
| 6 | Unit 6 Shopping 文法: 不定詞と動名詞 (2) | 小テスト (Unit5) 前回の小テストの解答と説明 単語の確認 TOEIC 問題演習 | 事前学習: Unit6 の知らない単語を確認し、演習問題をしておく 事後学習: 知らない単語・イディオムの暗記と指示された英文の音読をする |
| 7 | Unit 7 Advertisement 文法: 仮定法 | 小テスト (Unit6) 前回の小テストの解答と説明 単語の確認 TOEIC 問題演習 | 事前学習: Unit7 の知らない単語を確認し、演習問題をしておく 事後学習: 知らない単語・イディオムの暗記と指示された英文の音読をする |
| 8 | Unit 8 Daily Life 文法: 受動態 | 小テスト (Unit7) 前回の小テストの解答と説明 単語の確認 TOEIC 問題演習 | 事前学習: Unit8 の知らない単語を確認し、演習問題をしておく 事後学習: 知らない単語・イディオムの暗記と指示された英文の音読をする |
| 9 | Unit 9 Office Work 文法: 代名詞 | 小テスト (Unit8) 前回の小テストの解答と説明 単語の確認 TOEIC 問題演習 | 事前学習: Unit9 の知らない単語を確認し、演習問題をしておく 事後学習: 知らない単語・イディオムの暗記と指示された英文の音読をする |
| 10 | Unit 10 Business 文法: 数量詞・比較 | 小テスト (Unit9) 前回の小テストの解答と説明 単語の確認 TOEIC 問題演習 | 事前学習: Unit10 の知らない単語を確認し、演習問題をしておく 事後学習: 知らない単語・イディオムの暗記と指示された英文の音読をする |
| 11 | Unit 11 Traffic 文法: 接続詞 | 小テスト (Unit10) 前回の小テストの解答と説明 単語の確認 TOEIC 問題演習 | 事前学習: Unit11 の知らない単語を確認し、演習問題をしておく 事後学習: 知らない単語・イディオムの暗記と指示された英文の音読をする |
| 12 | Unit 12 Finance and Banking 文法: 前置詞 | 小テスト (Unit11) 前回の小テストの解答と説明 単語の確認 TOEIC 問題演習 | 事前学習: Unit12 の知らない単語を確認し、演習問題をしておく 事後学習: 知らない単語・イディオムの暗記と指示された英文の音読をする |
| 13 | Unit 13 Media 文法: 語彙 | 小テスト (Unit12) 前回の小テストの解答と説明 単語の確認 TOEIC 問題演習 | 事前学習: Unit13 の知らない単語を確認し、演習問題をしておく 事後学習: 知らない単語・イディオムの暗記と指示された英文の音読をする |
| 14 | Unit 14 Health and Welfare | 小テスト (Unit13) 前回の小テストの解答と説明 単語の確認 TOEIC 問題演習 | 事前学習: Unit14 の知らない単語を確認し、演習問題をしておく 事後学習: 知らない単語・イディオムの暗記と指示された英文の音読をする |
| 15 | まとめテスト | Unit1~14の単語、文法事項の確認とテスト | 事前学習: テキスト (Unit1-14)の復習, 今までの学習した単語、文法事項を整理し、小テストの間違いは必ず確認しておく |

| | | | | |
|---------------|---|--|-------|-----------------------|
| | | | | 事後学習：知らない単語、文法事項は暗記する |
| 関連科目 | | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | Step-up Skills for the TOEIC Listening and Reading Test 2 | 北尾泰幸他 | 朝日出版 |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition- | 西垣恒志 | 成美堂 |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 全学共通課題 (English Central) 20% 授業への参加、貢献(課題、小テスト、まとめテスト等を含む) 80% 原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。授業への参加・貢献とは、授業中の質問や指名に対する回答状況、授業への集中度、課題提出状況、小テストとまとめテストへの取り組みをさす。 詳しくは第1回目に授業で説明する。 | | | |
| 学生への メッセージ | <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト(教科書)を忘れた場合、また、携帯電話の使用、私語などの授業妨害行為、許可のない途中退室などの行為があった場合は、当日の授業態度における評価点をゼロとして扱います。その他の詳細は、第1回目の授業で詳しく説明します。受講予定者は必ず初回から出席してください。 ・実践的な英語力を身につけるため、TOEIC 試験などを積極的に受験しましょう。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 非常勤講師室 (7号館2階) | | | |
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。質問等は学内メールにて対応する。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画は進度によって変わる場合があります。 ・小テスト等は授業中にフィードバックする。 | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|----------------------|
| 科目名 | 実践英語 I a | 科目名 (英文) | Practical English Ia |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | ③ |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 西谷 継治 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN2327c1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 |
| 到達目標 | 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、ある |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC Test の得点アップにつなげる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------------|-------------------------------|---|
| | | | |
| 1 | Introduction | 授業内容の詳しい解説 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 2 | 読解、文法、語彙 品詞 | TOEIC 文法・読解演習 主要品詞 | 単語小テスト No. 0001-0040 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 3 | 読解、文法、語彙 動詞の形 1 | TOEIC 文法・読解演習 時制 | 単語小テスト No. 0041-0080 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 4 | 読解、文法、語彙 動詞の形 2 | TOEIC 文法・読解演習 能動態と受動態 | 単語小テスト No. 0081-0120 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 5 | 読解、文法、語彙 前置詞 | TOEIC 文法・読解演習 前置詞の役割 | 単語小テスト No. 0121-0160 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 6 | 読解、文法、語彙 接続詞 | TOEIC 文法・読解演習 接続詞の役割 | 単語小テスト No. 0161-0200 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 7 | Review | 前半の復習 | 単語小テスト No. 0201-0240 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 8 | 臨時試験 | 前半の試験 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 9 | 臨時試験評価 | 臨時試験の解説及び評 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 10 | 読解、文法、語彙 可算名詞と不可算名詞 | TOEIC 文法・読解演習 名詞の数について | 単語小テスト No. 0241-0280 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 11 | 読解、文法、語彙 主語・動詞の呼応 | TOEIC 文法・読解演習 主語と動詞の一致について | 単語小テスト No. 0281-0320 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 12 | 読解、文法、語彙 関係詞 | TOEIC 文法・読解演習 関係代名詞の用法 | 単語小テスト No. 0321-0360 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 13 | 読解、文法、語彙 名詞節 | TOEIC 文法・読解演習 名詞節の用法 | 単語小テスト No. 0361-0438 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 14 | 読解、文法、語彙 副詞節 | TOEIC 文法・読解演習 副詞節の用法 | 教科書 P. 55-60 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 15 | Review | 後半の復習 | Unit 16- 20 質問準備 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |

| | |
|------|-----------------------|
| 関連科目 | TOEIC, 英検ほか、英語関連の資格一般 |
|------|-----------------------|

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|---|------------------------|----------|
| | | | |
| 1 | Seize the Essence of the TOEIC Test | Masako Yasumaru et al. | KINSEIDO |
| 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | NISHIYA Koji | 成美堂 |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| | | | |
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80% |
| 学生へのメッセージ | 図書館やPC等を利用し日頃から英語に親しんでください。 |
| 担当者の研究室等 | 非常勤講師室 (前期3号館2階/後期7号館2階) |
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|----------------------|
| 科目名 | 実践英語 I a | 科目名 (英文) | Practical English Ia |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | ④ |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 内山 知美 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN2327c1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 |
| 到達目標 | 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、ある |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC, 英検等 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------|-----------------|-----------------------|
| | | | |
| 2 | 電話に対応する | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 3 | Eメールを読む | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 4 | 正確な情報を得る | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 5 | ビジネスレターを読む | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 6 | 受付の英語 | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 7 | ウェブサイトを閲覧する | 読解演習 (確認クイズ) | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 8 | 会社について説明する | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 9 | 仕事の英語 | 映像 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 10 | 新製品広告を読み解く | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 11 | 自分の仕事を説明する | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 12 | 製品の仕様書を確認する | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 13 | 将来の展望について話す | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 14 | 操作マニュアルを理解する | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 15 | 前期のまとめ | まとめ まとめの試験 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |

| | |
|------|--|
| 関連科目 | |
|------|--|

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|--|--------|------|
| 1 | Getting Global! 将来のキャリアに活かす 大学生のためのコミュニケーション英語 | 辻本智子 他 | 金星堂 |
| 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集) | 西谷 恒志 | 成美堂 |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80% |
| 学生へのメッセージ | 図書館やPC等を利用し日頃から英語に親しんでください。 |
| 担当者の研究室等 | 非常勤講師室 (7号館2階) |
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|----------------------|
| 科目名 | 実践英語 I b | 科目名 (英文) | Practical English Ib |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | ① |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 梅田 尋道 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | 1EN2328c1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 |
| 到達目標 | 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC, 英検等 |

| | | | | |
|------|----|---|---|---|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション | 授業の進め方・評価方法などについて説明する。 | 第2週目の授業に間に合うように教科書を購入する。 |
| | 2 | New Directions first viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。 |
| | 3 | New Directions second viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。 |
| | 4 | What's the Other Option? first viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。 |
| | 5 | What's the Other Option? second viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。 |
| | 6 | You're Leaving Us? first viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。 |
| | 7 | You're Leaving Us? second viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。 |
| | 8 | Midterm Exam | これまでの復習を併せて行う。 | Midterm Exam の準備 |
| | 9 | Don't Stop Believing first viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。 |
| | 10 | Don't Stop Believing second viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。 |
| | 11 | He's Not Coming first viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。 |
| | 12 | He's Not Coming second viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。 |
| | 13 | I Want In first viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。 |
| | 14 | I Want In second viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2, 3回音読する。 |
| | 15 | まとめのテスト | これまでの復習を併せて行う。 | テストの準備 |

| | |
|------|--------|
| 関連科目 | 他の英語科目 |
|------|--------|

| | | | | |
|-----|----|---|----------------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | Communicate in English with glee 1 | Simon Capper 他 | 松柏社 |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- | 西谷 恒志 | 成美堂 |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80% |
|-----------|---|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | "Failure is instructive. The person who really thinks learns quite as much from his failures as from his successes." — John Dewey 失敗を重ねて成長してください！ |
|-----------|--|

| | |
|----------|--|
| 担当者の研究室等 | 非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階） |
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 教科書を持ってこない、居眠りをする、スマホを使う、私語をする、途中退出するなどして授業参加しない場合、各授業で 3～5 点減点します。 |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|----------------------|
| 科目名 | 実践英語 I b | 科目名 (英文) | Practical English Ib |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | ② |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 関 初海 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN2328c1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 |
| 到達目標 | 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC, 英検等 |

| | | | | |
|------|-----|-------------------------|---|------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション | 授業の進め方・評価方法などについて説明 | Unit 1 予習 |
| | 2 | Unit 1 Travel | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング (プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 1 復習・予習 |
| | 3 | Unit 1 Travel | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング (プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 1 復習 Unit 2 予習 |
| | 4 | Unit 2 Dining Out | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング (プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 2 復習・予習 |
| | 5 | Unit 2 Dining Out | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング (プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 2 復習 Unit 3 予習 |
| | 6 | Unit 3 Shopping | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング (プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 3 復習・予習 |
| | 7 | Unit 3 Shopping | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング (プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 3 復習 Unit 4 予習 |
| | 8 | Unit 4 Entertainment | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング (プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 4 復習・予習 |
| | 9 | Unit 4 Entertainment | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング (プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 4 復習 Unit 5 予習 |
| | 10 | Unit 5 Advertising | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング (プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 5 復習・予習 |
| | 11 | Unit 5 Advertising | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング (プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 5 復習 Unit 6 予習 |
| | 12 | Unit 6 Events | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング (プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 6 復習・予習 |
| | 13 | Unit 6 Events | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング (プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 6 復習・予習 |
| | 14 | Unit 6 Events | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング (プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 6 復習 |
| 15 | まとめ | 総まとめ | 総復習 | |

| | | | | |
|------|--------|---|-------|------|
| 関連科目 | 他の英語科目 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST BEGINNER | 早川幸治他 | 金星堂 |

| | | | | |
|---------------|---|--|-------|------|
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- | 西谷 恒志 | 成美堂 |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 全学共通英語課題 20% 定期試験 60% 授業への参加、貢献 (小テスト等を含む) 20% | | | |
| 学生への メッセージ | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 非常勤講師室 | | | |
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|----------|----------------------|
| 科目名 | 実践英語 I b | 科目名 (英文) | Practical English Ib |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | ③ |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 藤澤 宜広 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN2328c1 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 |
| 到達目標 | 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC、英検等 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---|--------------------------------|---|
| | | | |
| 1 | シラバスの説明 Workers and the Workplaces 1. Job and Career Advancement (導入) | 授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など | 次回講義 (1. Job and Career Advancement) の予習 |
| 2 | 1. Job and Career Advancement | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (1. Job and Career Advancement) の復習及び予習 (2. On the Job Health and Safety) |
| 3 | 2. On the Job Health and Safety | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (2. On the Job Health and Safety) の復習及び予習 (3. Support Systems for Injured Workers) |
| 4 | 3. Support Systems for Injured Workers | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (3. Support Systems for Injured Workers) の復習及び予習 (4. Supervisors and Teamwork) |
| 5 | 4. Supervisors and Teamwork | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (4. Supervisors and Teamwork) の復習及び予習 (5. Managing Family Life) |
| 6 | Housing and Family Life 5. Managing Family Life | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (5. Managing Family Life) の復習及び予習 (6. Using Information Services) |
| 7 | 6. Using Information Services | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (6. Using Information Services) の復習及び予習 (7. Accessing Services) |
| 8 | 7. Accessing Services | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (7. Accessing Services) の復習及び予習 (8. Men's Changing Roles) |
| 9 | 8. Men's Changing Roles | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (8. Men's Changing Roles) の復習及び予習 (9. Dealing with Taxes) |
| 10 | Taxes, Law and Community Issues 9. Dealing with Taxes | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (9. Dealing with Taxes) の復習及び予習 (10. Dealing with the Law) |
| 11 | 10. Dealing with the Law | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (10. Dealing with the Law) の復習及び予習 (11. Discussing Community Issues) |
| 12 | 11. Discussing Community Issues | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (11. Discussing Community Issues) の復習及び予習 (12. Civic Participation) |
| 13 | 12. Civic Participation | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (12. Civic Participation) の復習及び予習 (13. Parenting in the United States) |
| 14 | Parenting and Workplace Roles 13. Parenting in the United States | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (13. Parenting in the United States) の復習及び予習 (1. Job and Career Advancement ~13. Parenting in the United States) |
| 15 | 1. Job and Career Advancement ~ 13. Parenting in the United States | 既習範囲の総復習 課題・レポートの準備 | 課題・レポートの準備 |

| | |
|------|--------|
| 関連科目 | 他の英語科目 |
|------|--------|

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|---|-------|------|
| | | | |
| 1 | プリント教材 | | |
| 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition (改訂版) | 西谷 恒志 | 成美堂 |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|--|--|-----------------------------|
| | | | |
| 1 | Business Partner A2+ Coursebook with Digital Resources | Margaret O'Keefe, Lewis Lansford, et al. | Pearson Education |
| 2 | Intelligent Business Coursebook Elementary | Irene Barrall and Nikolas Barrall | Pearson Education |
| 3 | Mastering the American Accent, 2nd. ed. | Lisa Mojsin | Barron's Educational Series |

| | |
|----------|--|
| 評価方法(基準) | 全学共通英語課題 (EnglishCentral) ...20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) ...80% |
|----------|--|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし) にあるように英語学習に王道 (= easy way) などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and steady wins the race. (急がば回れ) を心に留め、ゆっくりでも着 |
|-----------|---|

| | |
|----------|---|
| | 実に学習を続けることです。予習、復習、只管筆写、英語多読を含め英語に触れる絶対量を増やせば、英語の力は必ず上達します。頑張りましょう！Keep your chin up |
| 担当者の研究室等 | 非常勤講師室（7号館2階） |
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|----------------------|
| 科目名 | 実践英語 I b | 科目名 (英文) | Practical English Ib |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | ④ |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 土田 智佳子 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN2328c1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を |
| 到達目標 | 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC, 英検等 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------------------|--|---------------------------------|
| | | | |
| 1 | ガイダンス | 授業の進め方、注意事項の説明 | 事前：シラバスの確認。教科書に目を通しておく。 |
| 2 | Unit 1 Meeting New People | 単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 1 を学習する。 | 事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題 |
| 3 | Unit 2 School Life | 単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 2 を学習する。 | 事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題 |
| 4 | Unit 3 Seeing a Doctor | 単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 3 を学習する。 | 事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題 |
| 5 | Unit 4 Expressing Yourself | 単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 4 を学習する。 | 事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題 |
| 6 | Unit 5 Getting Around | 単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 5 を学習する。 | 事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題 |
| 7 | Unit 6 Talking about the Time | 単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 6 を学習する。 | 事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題・中間テスト勉強 |
| 8 | 中間テスト | Unit 1-6 | 事後：復習・課題 |
| 9 | Unit 7 Eating Out | 単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 7 を学習する。 | 事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題 |
| 10 | Unit 8 At the Supermarket | 単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 8 を学習する。 | 事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題 |
| 11 | Unit 9 Hobbies | 単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 9 を学習する。 | 事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題 |
| 12 | Unit 10 Shop Till You Drop | 単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 10 を学習する。 | 事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題 |
| 13 | Unit 11 Going on Vacation | 単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 11 を学習する。 | 事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題 |
| 14 | Unit 12 Sports | 単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 12 を学習する。 | 事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題 |
| 15 | まとめテスト | Unit 7-12 | 事前：まとめテストの勉強 |

| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|--|--|---------|------|------|---|--------------------------------|---------|-----|---|--|-------|-----|---|--|--|--|
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Live Escalate Book1: Base Camp</td> <td>角山 照彦 他</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition (指定の単語集)</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | Live Escalate Book1: Base Camp | 角山 照彦 他 | 成美堂 | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition (指定の単語集) | 西谷 恒志 | 成美堂 | 3 | | | |
| | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | |
| | 1 | Live Escalate Book1: Base Camp | 角山 照彦 他 | 成美堂 | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition (指定の単語集) | 西谷 恒志 | 成美堂 | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
|-----|--|-----|-----|------|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | |
| | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | |
|-----------------------------|--|----------|-----|-----------------------------|-----|
| 評価方法 (基準) | <table border="1"> <tr> <td>全学共通英語課題</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む)</td> <td>80%</td> </tr> </table> | 全学共通英語課題 | 20% | 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) | 80% |
| 全学共通英語課題 | 20% | | | | |
| 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) | 80% | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 皆さんが社会に旅立つ頃には世界はさらに多様化が進み、海外で働くことや英語を話す同僚と仕事をする機会が増えるでしょう。TOEICを学習することでビジネスシーンで使われる語彙や表現、取引の仕組みなどを学ぶことができます。さあ未来への準備を始めましょう！ |
|-----------|--|

| | |
|----------|---|
| 担当者の研究室等 | 非常勤講師室 (7号館2階) |
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-----------------------|
| 科目名 | 実践英語Ⅱ a | 科目名 (英文) | Practical English IIa |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | ① |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 山本 尚子 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN2329c1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 |
| 到達目標 | 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC, 英検等 |

| | | | | |
|------|----|---------------------|---------------------------------------|----------------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | 前期の復習 | 前期の内容の復習の課題 | テキストの予習 |
| | 2 | Extreme Weather (1) | 異常気象について読む。形容詞、副詞の使い方をチェックする。 | テキストの予習 予習をしながら単語帳を作ること(以下同様) |
| | 3 | Extreme Weather (2) | 異常気象について読む。形容詞、副詞の使い方をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| | 4 | Medical Tourism (1) | 医療ツーリズムのリスクについて読む。比較表現の使い方をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| | 5 | Medical Tourism (2) | 医療ツーリズムのリスクについて読む。比較表現の使い方をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| | 6 | Advertising (1) | 広告の影響について読む。前置詞、接続詞をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| | 7 | Advertising (2) | 広告の影響について読む。前置詞、接続詞をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| | 8 | Business Travel (1) | 出張の準備とコツについて読む。不定詞、動名詞をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| | 9 | Business Travel (2) | 出張の準備とコツについて読む。不定詞、動名詞をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| | 10 | Coffee Shop (1) | コーヒーチェーン店について読む。受動態の使い方をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| | 11 | Coffee Shops (2) | コーヒーチェーン店について読む。受動態の使い方をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| | 12 | E-Commerce (1) | オンラインショッピングの利便性について読む。助動詞の使い方をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| | 13 | E-Commerce (2) | オンラインショッピングの利便性について読む。助動詞の使い方をチェックする。 | テキストの予習・復習 |
| | 14 | SNS | 様々なSNSについて読む。関係詞の使い方をチェックする。 | テキストの復習 |
| | 15 | まとめテスト、復習 | 後期の内容のまとめのテスト、復習 | 後期の内容の復習 |

| | |
|------|--------|
| 関連科目 | 他の英語科目 |
|------|--------|

| | | | | |
|-----|----|--|----------------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | English Indicator 3 | Joshua Cohen 他 | 南雲堂 |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition- | 西谷 恒志 | 成美堂 |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 全学共通英語課題 (English Central) 20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテストなども含む) 80% |
|-----------|---|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 辞書を持参して必ず毎回出席するように心がけてください。わからないことがあれば、授業中または授業後に必ず質問するようにしてください。長文は必ず事前に読んで内容を把握しておいてください。毎回の予定は目安であり多少の変更もあり得ますので、授業中の説明をよく聞いておいてください。皆さんの積極的な授業参加を期待しています。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|-------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階非常勤講師室 |
|----------|-------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |
|----|---|

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-----------------------|
| 科目名 | 実践英語Ⅱ a | 科目名 (英文) | Practical English IIa |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | ② |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 東野 厚子 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN2329c1 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 |
| 到達目標 | 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 4回以上（正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く）授業を欠席した場合、成績評価の対象外とします（単位が取得できる見込みはありません）。 |
| 科目学習の効果（資格） | TOEIC、英検等 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|---|--|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション Unit 1 It's a pleasure to meet you. ビジネスで大切な第一印象 | 授業の進め方、評価方法等の説明 文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題 | テキストを準備し、知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく。学習後は、知らない単語・イディオムを暗記する |
| 2 | Unit 1 It's a pleasure to meet you. | 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題 | 事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する |
| 3 | Unit 3 Culture Skills 異文化理解で真の交流 | 小テスト (Unit1) 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題 | 事前学習：Unit 3 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する |
| 4 | Unit 3 Culture Skills | 前回の小テストの解答と解説 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題 | 事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する |
| 5 | Unit 4 More than Just Words インパクトのあるボディランゲージ | 小テスト (Unit3) 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題 | 事前学習：Unit4 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する |
| 6 | Unit 4 More than Just Words | 前回の小テストの解答と解説 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題 | 事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する |
| 7 | Unit 8 The Modern Workplace より良い職場環境のために | 小テスト (Unit4) 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題 | 事前学習：Unit8 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する |
| 8 | Unit 8 The Modern Workplace | 前回の小テストの解答と解説 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題 | 事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する |
| 9 | Unit 11 The Modern Office いつでもどこでも仕事 | 小テスト (Unit8) 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題 | 事前学習：Unit11 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する |
| 10 | Unit 11 The Modern Office | 前回の小テストの解答と解説 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題 | 事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する |
| 11 | Unit 12 Socializing with a Purpose 出会いから夢の実現に | 小テスト (Unit11) 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題 | 事前学習：Unit12 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する |
| 12 | Unit 12 Socializing with a Purpose | 前回の小テストの解答と解説 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題 | 事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する |
| 13 | Unit 13 The Business Trip 出張の達人 | 小テスト (Unit12) 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題 | 事前学習：Unit13 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する |
| 14 | Unit 13 The Business Trip | 前回の小テストの解答と解説 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題 | 事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する |
| 15 | 全体のまとめ 単語・文法事項の復習 | 単語、文法事項の確認 まとめテスト | 事前学習：単語、文法事項を整理し、小テストの間違いは必ず確認しておく 事後学習：知らない単語を暗記し、文法問題を確認する。 |

| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|---|--|------------------|------|------|---|---------------------|------------------|-----|---|--|------|-----|---|--|--|--|
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English Indicator 4</td> <td>Alison Kitzman 他</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-</td> <td>西垣恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | English Indicator 4 | Alison Kitzman 他 | 南雲堂 | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition- | 西垣恒志 | 成美堂 | 3 | | | |
| | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | |
| | 1 | English Indicator 4 | Alison Kitzman 他 | 南雲堂 | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition- | 西垣恒志 | 成美堂 | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | |
|---------------|---|--|--|--|
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 全学共通課題 (English Central) 20% 授業への参加、貢献 (課題、小テスト、まとめテスト等を含む) 80% 原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。授業への参加・貢献とは、授業中の質問や指名に対する回答状況、授業への集中度、課題提出状況、小テストとまとめテストへの取り組みをさす。 詳しくは第1回目に授業で説明する。 | | | |
| 学生への メッセージ | <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト (教科書) を忘れた場合、また、携帯電話の使用、私語などの授業妨害行為、許可のない途中退室などの行為があった場合は、当日の授業態度における評価点をゼロとして扱います。その他の詳細は、第1回目の授業で詳しく説明します。受講予定者は必ず初回から出席してください。 ・実践的な英語力を身につけるため、TOEIC 試験などを積極的に受験しましょう。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 非常勤講師室 (7号館2階) | | | |
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。質問等は学内メールにて対応する。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画は進度によって変わる場合があります。 ・小テスト等は授業中にフィードバックする。 | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|----------|-----------------------|
| 科目名 | 実践英語Ⅱ a | 科目名 (英文) | Practical English IIa |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | ③ |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 西谷 継治 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN2329c1 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 |
| 到達目標 | 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果(資格) | 理工系英語の基本を固め、専門英語とTOEIC Testの得点アップにつなげる。 |

| | | | | |
|------|----|--------------|----------------|--|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | Introduction | 授業内容の詳しい解説 | 教科書のUnit構成を把握しておく。事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 2 | 読解、文法、語彙 | TOEIC 文法・読解演習 | 単語小テスト NO.0809-0880 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 3 | 読解、文法、語彙 | TOEIC 文法・読解演習 | 単語小テスト NO.0881-0950 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 4 | 読解、文法、語彙 | TOEIC 文法・読解演習 | 単語小テスト NO.0951-1020 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 5 | 読解、文法、語彙 | TOEIC 文法・読解演習 | 単語小テスト NO.1021-1090 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 6 | 読解、文法、語彙 | TOEIC 文法・読解演習 | 単語小テスト NO.1091-1160 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 7 | Review | 前半の復習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 8 | 前半のまとめ | 前半のまとめも文法・読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 9 | 前半試験返却及び解説 | 前半試験返却及び解説 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 10 | 読解、文法、語彙 | TOEIC 文法・読解演習 | 単語小テスト NO.1161-1230 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 11 | 読解、文法、語彙 | TOEIC 文法・読解演習 | 単語小テスト NO.1231-1300 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 12 | 読解、文法、語彙 | TOEIC 文法・読解演習 | 単語小テスト NO.1301-1370 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 13 | 読解、文法、語彙 | TOEIC 文法・読解演習 | 単語小テスト NO.1371-1440 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 14 | 読解、文法、語彙 | TOEIC 文法・読解演習 | 単語小テスト NO.1441-1500 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 15 | Review | 後半復習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |

| | |
|------|-----------------------|
| 関連科目 | TOEIC, 英検ほか、英語関連の資格一般 |
|------|-----------------------|

| | | | | |
|-----|----|--|-----------------------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | New Steps to Success in the TOEIC Test Grammar & Reading 550 | David E. Bramley/中井弘一 | 松柏社 |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition | NISHIYA Koji | 成美堂 |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | |
|----------|--------------------------------|-----|
| 評価方法(基準) | 全学共通英語課題 課題提出状況及び課題の正解率 80% | 20% |
|----------|--------------------------------|-----|

| | |
|-----------|-----------------------------|
| 学生へのメッセージ | 図書館やPC等を利用し日頃から英語に親しんでください。 |
|-----------|-----------------------------|

| | |
|----------|----------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 (非常勤講師室) |
|----------|----------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |
|----|---|

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-----------------------|
| 科目名 | 実践英語Ⅱ a | 科目名 (英文) | Practical English IIa |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | ④ |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 内山 知美 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN2329c1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 |
| 到達目標 | 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC, 英検等 |

| | | | | |
|------|----|-----------------|-----------------|-----------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | Introduction | 後期授業の説明 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 2 | 時事的会話を楽しむ | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 3 | 英字新聞の構成 | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 4 | 観光地を案内する | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 5 | 標識の英語に慣れる | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 6 | 食事の席での歓談 | 読解演習 (中間クイズ) | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 7 | 仕事の英語 | 映像 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 8 | 論文アブストラクトを読む | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 9 | 会議の準備をする | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 10 | グラフを解説する | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 11 | プレゼンテーションで役立つ表現 | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 12 | スライドを活用する | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 13 | 依頼に対応する | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 14 | 特殊明細書の様式 | 読解演習 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 15 | まとめ | まとめ 後期まとめの試験 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |

| | | | | |
|------|----|--|--------|------|
| 関連科目 | | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | Getting Global! 将来のキャリアに活かす 大学生のためのコミュニケーション英語 | 辻本智子 他 | 金星堂 |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集) | 西谷 恒志 | 成美堂 |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 全学共通英語課題 (EnglishCentral) ...20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) ...80% |
| 学生へのメッセージ | 図書館やPC等を利用し日頃から英語に親しんでください。 |
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 (非常勤講師室) |
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |

| | | | |
|---------------|-----------|----------|-----------------------|
| 科目名 | 実践英語Ⅱ b | 科目名 (英文) | Practical English IIb |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | ① |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 梅田 尋道 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN2330c1 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 |
| 到達目標 | 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC、英検等 |

| | | | | |
|------|----|---|---|--|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション | 授業の進め方・評価方法などについて説明する。 | 後期から受講する学生は事前に教科書を購入する。 |
| | 2 | Where Is Everybody? first viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習としてVocabulary Quizの準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2、3回音読する。 |
| | 3 | Where Is Everybody? second viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習としてVocabulary Quizの準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2、3回音読する。 |
| | 4 | You Inspire People first viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習としてVocabulary Quizの準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2、3回音読する。 |
| | 5 | You Inspire People second viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習としてVocabulary Quizの準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2、3回音読する。 |
| | 6 | He Doesn't Belong Here first viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習としてVocabulary Quizの準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2、3回音読する。 |
| | 7 | He Doesn't Belong Here second viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習としてVocabulary Quizの準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2、3回音読する。 |
| | 8 | Midterm Exam | これまでの復習を併せて行う。 | Midterm Examの準備 |
| | 9 | So Be It first viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習としてVocabulary Quizの準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2、3回音読する。 |
| | 10 | So Be It second viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習としてVocabulary Quizの準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2、3回音読する。 |
| | 11 | It's a Win-Win for Both of Us first viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習としてVocabulary Quizの準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2、3回音読する。 |
| | 12 | It's a Win-Win for Both of Us second viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習としてVocabulary Quizの準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2、3回音読する。 |
| | 13 | Thanks for Telling Me first viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習としてVocabulary Quizの準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2、3回音読する。 |
| | 14 | Thanks for Telling Me second viewing | 読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary作成・単語の復習を各自で行う。 | 事前学習としてVocabulary Quizの準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を2、3回音読する。 |
| | 15 | まとめのテスト | これまでの復習を併せて行う。 | テストの準備 |

| | |
|------|--------|
| 関連科目 | 他の英語科目 |
|------|--------|

| | | | | |
|-----|----|--|----------------|------------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | Communicate in English with glee 1 | Simon Capper 他 | Shohakusha |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- | 西谷 恒志 | 成美堂 |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|----------|--|
| 評価方法(基準) | 全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 80% |
|----------|--|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | "Failure is instructive. The person who really thinks learns quite as much from his failures as from his successes." — John Dewey 失敗を重ねて成長してください! |
|-----------|--|

| | |
|----------|--|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階非常勤講師室 |
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 対面の場合、教科書を持ってこない、居眠りをする、スマホを使う、私語をする、途中退出するなどして授業参加しない場合、各授業で3～5点減点します。 |

| | | | |
|---------------|-----------|----------|-----------------------|
| 科目名 | 実践英語Ⅱ b | 科目名 (英文) | Practical English IIb |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | ② |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 関 初海 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN2330c1 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 |
| 到達目標 | 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC、英検等 |

| | | | | |
|------|----|---------------------------------|--|--------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション | 授業の進め方・評価方法などについて説明 | Unit 7 予習 |
| | 2 | Unit 7 Daily Life | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング(プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 7 復習 Unit 8 予習 |
| | 3 | Unit 8 Media | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング(プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 8 復習 Unit 9 予習 |
| | 4 | Unit 9 Recruiting | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング(プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 9 復習 Unit 10 予習 |
| | 5 | Unit 10 Production and Sales | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング(プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 10 復習 Unit 11 予習 |
| | 6 | Unit 11 Meetings | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング(プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 11 復習 Unit 12 予習 |
| | 7 | Unit 12 Offices | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング(プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 12 復習・予習 |
| | 8 | Unit 12 Offices | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング(プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 12 復習 Unit 13 予習 |
| | 9 | Unit 13 Personnel | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング(プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 13 復習・予習 |
| | 10 | Unit 13 Personnel | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング(プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 13 復習 Unit 14 予習 |
| | 11 | Unit 14 Business Activities | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング(プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 14 復習・予習 |
| | 12 | Unit 14 Business Activities | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング(プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 14 復習 Unit 15 予習 |
| | 13 | Unit 15 Finance | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング(プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 15 復習・予習 |
| | 14 | Unit 15 Finance | 単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング(プレゼンテーション形式)・ライティング活動 | Unit 15 復習 |
| | 15 | まとめ | 総まとめ | 総復習 |

| | | | | |
|------|--------|---|-------|------|
| 関連科目 | 他の英語科目 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST BEGINNER | 早川幸治他 | 金星堂 |

| | | | | |
|---------------|---|--|-------|------|
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- | 西谷 恒志 | 成美堂 |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 全学共通英語課題 20% 定期試験 60% 授業への参加、貢献 (小テスト等も含む) 20% | | | |
| 学生への メッセージ | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 非常勤講師室 | | | |
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-----------------------|
| 科目名 | 実践英語Ⅱ b | 科目名 (英文) | Practical English IIb |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | ③ |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 藤澤 宜広 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN2330c1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 |
| 到達目標 | 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC, 英検等 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---|------------------------|--|
| | | | |
| 2 | 14. Women's Changing Roles | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (14. Women's Changing Roles) の復習及び予習 (15. Women's Work Issues) |
| 3 | 15. Women's Work Issues | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (15. Women's Work Issues) の復習及び予習 (16. Women in Non-Traditional Roles) |
| 4 | 16. Women in Non-Traditional Roles | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (16. Women in Non-Traditional Roles) の復習及び予習 (17. Accessing Learning Opportunities) |
| 5 | Education and Information 17. Accessing Learning Opportunities | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (17. Accessing Learning Opportunities) の復習及び予習 (18. Involvement in Children's Education) |
| 6 | 18. Involvement in Children's Education | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (18. Involvement in Children's Education) の復習及び予習 (19. Transferring Professional Degrees) |
| 7 | 19. Transferring Professional Degrees | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (19. Transferring Professional Degrees) の復習及び予習 (20. Learning to Learn) |
| 8 | 20. Learning to Learn | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (20. Learning to Learn) の復習及び予習 (21. Housing) |
| 9 | Practice English and Reading 21. Housing | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (21. Housing) の復習及び予習 (22. Renters' Rights) |
| 10 | 22. Renters' Rights | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (22. Renters' Rights) の復習及び予習 (23. Law and Government) |
| 11 | 23. Law and Government | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (23. Law and Government) の復習及び予習 (24. Officers May Be Required to Work Out) |
| 12 | 24. Officers May Be Required to Work Out | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (24. Officers May Be Required to Work Out) の復習及び予習 (25. Money) |
| 13 | 25. Money | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (25. Money) の復習及び予習 (26. Ready, Click, Spend) |
| 14 | 26. Ready, Click, Spend | 内容把握、語彙・発音、練習問題 | 既習範囲 (26. Ready, Click, Spend) の復習及び予習 (14. Women's Changing Roles～26. Ready, Click, Spend) |
| 15 | 14. Women's Changing Roles～26. Ready, Click, Spend | 既習範囲の総復習 課題・レポートの準備 | 課題・レポートの準備 |

| | |
|------|--------|
| 関連科目 | 他の英語科目 |
|------|--------|

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|---|-------|------|
| | | | |
| 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (改訂版) | 西谷 恒志 | 成美堂 |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|--|-----------------------------------|-----------------------------|
| | | | |
| 2 | Intelligent Business Coursebook Elementary | Irene Barrall and Nikolas Barrall | Pearson Education |
| 3 | Mastering the American Accent, 2nd. ed. | Lisa Mojsin | Barron's Educational Series |

| | |
|-----------|--|
| 評価方法 (基準) | 全学共通英語課題 (EnglishCentral) ...20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) ...80% |
|-----------|--|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし) にあるように英語学習に王道 (= easy way) などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and steady wins the race. (急がば回れ) を心に留め、ゆっくりでも着 |
|-----------|---|

| | |
|----------|---|
| | 実に学習を続けることです。予習、復習、只管筆写、英語多読を含め英語に触れる絶対量を増やせば、英語の力は必ず上達します。頑張りましょう！Keep your chin up |
| 担当者の研究室等 | 非常勤講師室（7号館2階） |
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |

| | | | |
|---------------|-----------|----------|-----------------------|
| 科目名 | 実践英語Ⅱ b | 科目名 (英文) | Practical English IIb |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | ④ |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 土田 智佳子 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IEN2330c1 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 |
| 到達目標 | 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から |
| 授業方法と留意点 | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC、英検等 |

| | | | | |
|------|----|-----------------------------------|---|----------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | ガイダンス | 授業の進め方、評価方法、課題のやり方とその効果について | 教科書の予習 次週の単語テスト勉強 |
| | 2 | Unit 1 Occupations | 単語テスト Listening、Reading、会話、文法などをUnit 1 と通し学習する。 | 教科書の予習復習(課題提出) 単語テスト勉強 |
| | 3 | Unit 2 At the Dinner Table | 単語テスト Listening、Reading、会話、文法などをUnit 2 と通し学習する。 | 教科書の予習復習(課題提出) 単語テスト勉強 |
| | 4 | Unit 3 Sports | 単語テスト Listening、Reading、会話、文法などをUnit 3 と通し学習する。 | 教科書の予習復習(課題提出) 単語テスト勉強 |
| | 5 | Unit 4 Health | 単語テスト Listening、Reading、会話、文法などをUnit 4 と通し学習する。 | 教科書の予習復習(課題提出) 単語テスト勉強 |
| | 6 | Unit 5 What's on your Playlist? | 単語テスト Listening、Reading、会話、文法などをUnit 5 と通し学習する。 | 教科書の予習復習(課題提出) 単語テスト勉強 |
| | 7 | Unit 6 At the Movies | 単語テスト Listening、Reading、会話、文法などをUnit 6 と通し学習する。 | 教科書の予習復習(課題提出) 中間テスト勉強 |
| | 8 | 中間テスト | Unit 1-6の復習テスト | 教科書の予習復習(課題提出) 単語テスト勉強 |
| | 9 | Unit 7 Technology in Daily Life | 単語テスト Listening、Reading、会話、文法などをUnit 7 と通し学習する。 | 教科書の予習復習(課題提出) 単語テスト勉強 |
| | 10 | Unit 8 Social Network | 単語テスト Listening、Reading、会話、文法などをUnit 8 と通し学習する。 | 教科書の予習復習(課題提出) 単語テスト勉強 |
| | 11 | Unit 9 Looking on the Bright Side | 単語テスト Listening、Reading、会話、文法などをUnit 9 と通し学習する。 | 教科書の予習復習(課題提出) 単語テスト勉強 |
| | 12 | Unit 10 Love Affairs | 単語テスト Listening、Reading、会話、文法などをUnit 10 と通し学習する。 | 教科書の予習復習(課題提出) 単語テスト勉強 |
| | 13 | Unit 11 Storytelling | 単語テスト Listening、Reading、会話、文法などをUnit 11 と通し学習する。 | 教科書の予習復習(課題提出) 単語テスト勉強 |
| | 14 | Unit 12 The Power of words | 単語テスト Listening、Reading、会話、文法などをUnit 12 と通し学習する。 | 教科書の予習復習(課題提出) まとめテスト勉強 |
| | 15 | Review Test | Unit 7-12の復習テスト | 事前学習 復習テスト勉強 |

| | |
|------|--------|
| 関連科目 | 他の英語科目 |
|------|--------|

| | | | | |
|-----|----|--|---------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | Live Escalate Book 2 : Trekking | 角山 照彦 他 | 成美堂 |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition | 西谷 恒志 | 成美堂 |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|----------|---|
| 評価方法(基準) | 全学共通英語課題 20% 担当教員の評価 80% |
| 学生への | 皆さんが社会に旅立つ頃には世界はさらに多様化が進み、海外で働くことや英語を話す同僚と仕事をする機会が増えるでしょう。TOEICを学習す |

| | |
|----------|--|
| メッセージ | ることでビジネスシーンで使われる語彙や表現、取引の仕組みなどを学ぶ事ができます。さあ未来への準備を始めましょう！ |
| 担当者の研究室等 | 7号館2階非常勤講師室 |
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 *授業で使用する教科書、ノートは毎回必ず持参すること。教科書未購入の場合単位認定されないことがあります、気をつけましょう。 |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-----------------------|
| 科目名 | 日本語表現 I | 科目名 (英文) | Japanese Expression I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 上島 誠司 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IJA1344a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | <p>まだまだコロナ禍の影響は否めませんが、学びの歩みを止めてはいけません。コロナなんかには負けず頑張りましょう。</p> <p>文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。</p> |
| 到達目標 | <p>大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章 (特にレポート・論文) の書き方を習得する。 適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。</p> |
| 授業方法と留意点 | <p>講義に基づいて、練習問題や課題に取り組む。 原則毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。 毎回の授業は教科書に沿って講義を進める。</p> |
| 科目学習の効果 (資格) | 授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------------------|--------------------------------------|----------------------------|
| | | | |
| 1 | 導入 文章の書き方 1 | 授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ | 1 時間 |
| 2 | 文章の書き方 2 | わかりやすい文章の書き方を学ぶ | 前回の復習 事前事後あわせて 1 時間 |
| 3 | 事実と意見 | 事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ | 前回の復習 事前事後あわせて 1 時間 |
| 4 | 【課題 1】 説明文 | ある事物について、論理的に説明する文章を書く | 前回の復習 事前事後あわせて 1 時間 |
| 5 | 構成 | レポートなどの文章構成を学ぶ | これまでの復習 事前事後あわせて 1 時間 |
| 6 | 要約 | 要旨の要約の作成方法を学ぶ | 前回の復習 事前事後あわせて 1 時間 |
| 7 | フィードバック | 課題 1 のフィードバック | 課題 1 を見直す 事前事後あわせて 1 時間 |
| 8 | 文章を引用する | 文章を引用する方法を学ぶ | 前回の復習 事前事後あわせて 1 時間 |
| 9 | 図表を引用する 意見を述べる | 図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ | 前回の復習 事前事後あわせて 1 時間 |
| 10 | 【課題 2】 論説文 | 資料を引用して意見を述べる文章を書く | 前回の復習 事前事後あわせて 1 時間 |
| 11 | レポートの書き方 1 | レポート作成の方法と体裁について学ぶ 【課題 3】 レポートの説明 | これまでの復習 事前事後あわせて 1 時間 |
| 12 | フィードバック | 課題 2 のフィードバック | 前回の復習 事前事後あわせて 1 時間 |
| 13 | レポートの書き方 2 | レポート作成の方法と体裁について学ぶ | 課題 2 を見直す 事前事後あわせて 1 時間 |
| 14 | 【課題 3】 レポートの提出 小テストの復習テスト | 提出レポートのチェック 小テスト全体の講評 | 小テストの復習 事前事後あわせて 1 時間 |
| 15 | レポートの講評 | 【課題 3】 レポートについて具体的にフィードバック | 課題レポートの復習 事前事後あわせて 1 時間 |

| | |
|------|-------------------|
| 関連科目 | すべての授業の日本語による課題作成 |
|------|-------------------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-------------|--------------------|------|
| | 1 | 大学生の日本語文章表現 | 摂南大学教育イノベーションセンター編 | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | <p>課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。</p> <p>課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。</p> |
|-----------|---|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | <p>コロナ禍はまだまだ終息する気配がありません。希望に胸膨らませて入学してこられた皆さんにとっては戸惑うことが多いと思います。しかしながら、憂いていても事態は好転しません。しっかり学び、将来に備えましょう。我々教員はそんな皆さんを応援します。</p> <p>日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。</p> <p>※授業中は教員を含む他人に迷惑をかける行為はやめてください。たとえば、私語や携帯電話は厳禁、寝る</p> |
|-----------|---|

| | |
|--------------|---|
| 担当者の 研究室等 | 非常勤講師室 学習支援センター |
| 備考 | 事前事後学習の総時間の目安は15時間。 課題提出については、授業中にフィードバックをします。 |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|------------------------|
| 科目名 | 日本語表現Ⅱ | 科目名 (英文) | Japanese Expression II |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 長谷川 雄高 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IJA1345a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会生活で必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらおうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。 |
| 到達目標 | 適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。 |
| 授業方法と留意点 | 講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------------|-----------------------------------|--|
| | | | |
| 1 | はじめに | 講義の説明 | 教科書を読み返す (60分) |
| 2 | プリント資料の解説と前期の復習 (前半) | 前期の内容を復習する | プリント資料を読む (60分) |
| 3 | プリント資料の解説と前期の復習 (後半) | 課題①のテキスト (プリント資料) の解説を行う | プリント資料を読み、課題①を作成する準備を行う (150分) |
| 4 | 課題①「論説文」の作成 | 各人で、ディスカッションの素材となる課題①論説文を作成する | — |
| 5 | ディスカッションとは | ディスカッションの技法・類型などについて | ディスカッションの準備を行う (60分) |
| 6 | ディスカッションについて | 本授業におけるディスカッションのやり方についての説明、グループ分け | ディスカッションの準備を行う (60分) |
| 7 | ディスカッション① | グループ・ディスカッションを行う | 【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する (60分) 【それ以外】 ディスカッションの準備をする (60分) |
| 8 | ディスカッション② | グループ・ディスカッションを行う | 【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する (60分) 【それ以外】 ディスカッションの準備をする (60分) |
| 9 | ディスカッション③ | グループ・ディスカッションを行う | 【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する (60分) 【それ以外】 ディスカッションの準備をする (60分) |
| 10 | プレゼンテーションとは | プレゼンテーションの技法・類型などについて | プレゼンテーション資料の作成準備を行う (60分) |
| 11 | プレゼンテーションについて | 本授業におけるプレゼンテーションのやり方や資料作成について | プレゼンテーション資料の作成・推敲やリハーサルを行う (150分) |
| 12 | プレゼンテーション① | グループによる発表・質疑を行う | 【発表者】 質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う (60分) 【それ以外】 プレゼンテーション時の当番役の準備を行う (60分) |
| 13 | プレゼンテーション② | グループによる発表・質疑を行う | 【発表者】 質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う (60分) 【それ以外】 プレゼンテーション時の当番役の準備を行う (60分) |
| 14 | 課題③「プレゼンテーション要旨」の作成 | 各人で発表内容をまとめた文章 (要旨) を作成する | — |
| 15 | おわりに | 課題③の返却・講評など | — |

| | |
|------|-------------------|
| 関連科目 | すべての授業の日本語による課題作成 |
|------|-------------------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-------------|--------------------|------|
| | 1 | 大学生の日本語文章表現 | 摂南大学教育イノベーションセンター編 | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|------|---|
| 評価方法 | 課題3回 (20%、20%、30%)、授業態度 (呼应状態・積極性)・小テスト (30%) により評価する。課題を一度でも提出しない場合は不合格と |
|------|---|

| | |
|-----------|---|
| (基準) | なる。 |
| 学生へのメッセージ | 前期の内容に加え、ディスカッションやプレゼンテーションという新たな日本語表現に挑戦してみましょう。 |
| 担当者の研究室等 | 7号館2階（非常勤講師室） |
| 備考 | 事前事後学習の総時間の目安は15時間となる。 提出課題については、添削および授業中のコメントを通して、フィードバックを行う。 質問等は、出講時および非常勤講師室において対応する。 |

| | | | |
|----------------|------------|----------|-------------------|
| 科目名 | キャリアデザイン I | 科目名 (英文) | Career Planning I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 水野 武, 横山 孝文 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | ICA1349a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | <p>この授業を通じて学生には</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 <p>ようになることが期待される。 なお、講義は担当講師の人材業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p> |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考え、他者と共有できるようになる。(DP6) 3) 調べる・考える・発表するための技能及びコミュニケーションの重要性についての理解を深めることを講義目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | <p>講義には積極的な態度で受講すること。 なお、学籍番号により担当教員が異なるため、各自自身の担当教員・クラスを確認すること。 また、教員により課題の提出方法が異なることもあるので注意すること。</p> |
| 科目学習の効果 (資格) | <p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p> |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------------------|---|---|
| | | | |
| 2 | さあ始めよう！大学生活を | <ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身につける ・他者とのコミュニケーションの重要性を知る | <ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶ意味について考えること(事前：0.5時間) |
| 3 | 摂南大学 | <ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・学生生活における目標を考える | <ul style="list-style-type: none"> ・摂南大生として、建学の精神と教育理念を理解すること(0.5時間) ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(事後：0.5時間) ・大学生活での目標を考えること(0.5時間) |
| 4 | 自己効力感を高めよう | <ul style="list-style-type: none"> ・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション | <ul style="list-style-type: none"> ・設定された個人ワークに取り組むこと(事後：2時間) |
| 5 | SDGs について考えよう グループ課題の設定 | <ul style="list-style-type: none"> ・SDGs に対する理解を深める ・協働行為、コミュニケーションに対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える | <ul style="list-style-type: none"> ・SDGs とは何かについて予習しておくこと(事前：0/5時間) ・グループで課題に取り組むこと(2時間) |
| 6 | 社会は君を待っている | <ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える | <ul style="list-style-type: none"> ・社会で求められる人材について考えること(事後：0.5時間) |
| 7 | 社会の仕組み① | <ul style="list-style-type: none"> ・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える | <ul style="list-style-type: none"> ・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(事後：0.5時間) |
| 8 | 社会の仕組み② | <ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション | <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(事後：0.5時間) |
| 9 | 自分づくり① | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(事前：0.5時間) |
| 10 | 自分づくり② | <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定 | <ul style="list-style-type: none"> ・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(事後：0.5時間) |
| 11 | スケジューリング術 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる | <ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を実践する方法を考えること(事後：0.5時間) |
| 12 | ビブリオバトル | <ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する | <ul style="list-style-type: none"> ・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(事前：1時間) |
| 13 | グループ課題の発表会 | グループ課題の発表会 | <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること(事前：0.5時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5時間) |
| 14 | グループ課題の発表会 | ・グループごとのプレゼンテーション | <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5時間) |
| 15 | 講義のおさらい | <ul style="list-style-type: none"> ・講義 4 で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り | <ul style="list-style-type: none"> ・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5時間) |

| | | | | |
|---------------|---|-----|-----|-----------------------|
| | | | | ・期末レポートを作成すること(1.5時間) |
| 関連科目 | キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 平常点(30%)、グループ課題(20%)、最終レポート(50%)で総合的に評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館3階 教育イノベーションセンター(上野山) 7号館3階 教育イノベーションセンター(水野) | | | |
| 備考 | 必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 なお、課題の提出方法は教員により異なる(MoodleかWebフォルダー等)ので各教員の指示に従うこと。 | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|--------------------|
| 科目名 | キャリアデザインⅡ | 科目名 (英文) | Career Planning II |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 上野山 裕士, 横山 孝文 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | ICA1350a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 SDGs. 4-4 SDGs. 8-6 |
| 到達目標 | 将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。講義内で行われるグループディスカッションを通じて、他者理解及びコミュニケーションの必要性を理解する。 |
| 授業方法と留意点 | 講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。受講クラスは学籍番号によって異なるので注意すること。 ※2021年度以前の学生は再履修クラスで受講すること。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------|---|--|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション | ・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法 | ・大学生生活1年目で経験したことを思い出しておくこと(事前:1時間) ・配布したレジюмеを見直すこと(事後:0.5時間) |
| 2 | 社会を知る① | ・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ | ・人はなぜ働くのかについて仕事をしている一にインタビューしててまとめ、グループ討議の準備をしておくこと(事後:2時間) |
| 3 | 社会を知る② | ・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション | ・グループ討議の内容を振り返ること(0.5時間) |
| 4 | 社会を知る③ | ・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解 | ・配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べる(事後:0.5時間) |
| 5 | 社会を知る④ | ・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える | ・配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べる(0.5時間) |
| 6 | 自分を知る① | ・特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ | ・自身の特性について考えること(事前:0.5時間) ・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること(事後1時間) |
| 7 | 自分を知る② | ・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える | ・自身の学生生活を振り返ること(事前:0.5時間) ・配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること(0.5時間) |
| 8 | 自分を高める① | ・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する | ・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること(事後:0.5時間) |
| 9 | 自分を高める② | ・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する | ・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること(事後:0.5時間) |
| 10 | 自分を高める③ | ・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ | ・講義の内容を日常生活で実践すること(1.5時間) |
| 11 | 自分を知る③ | ・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する | ・自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える(事前:0.5時間) ・自身の「やる気の源泉」を言語化すること(0.5時間) |
| 12 | 社会を知る⑤ | ・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る | ・配付資料を見直し、自らの将来について考えること(0.5時間) |
| 13 | 自分を高める⑤ | ・講義⑩⑪⑫の実践報告の共有と発表 | ・発表及びグループ討議の準備をしておくこと(事前:1時間) |
| 14 | 社会を知る⑥ | ・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える | ・日本を取り巻く課題について調べる(事前:0.5時間) |
| 15 | 授業のおさらい | ・講義のおさらい | ・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(0.5時間) |

関連科目 キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップ

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

評価方法 (基準) グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。

学生への 来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加す

| | |
|--------------|--------------|
| メッセージ | ること。 |
| 担当者の 研究室等 | 7号館3階 上野山研究室 |
| 備考 | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-------------------|
| 科目名 | スポーツと健康 | 科目名 (英文) | Sports and Health |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 谷 めぐみ |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IPH2360a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 人とスポーツのかかわりは、単に「する」ことだけに限らない。スポーツを「みる」ことは、人々の生活にとって欠かすことのできない楽しみの一つであり、スポーツ大会やイベントを「ささえる」ことや興味・関心のあるスポーツについて「しらべる」こと、スポーツの魅力や面白さを「つたえる」ことも大切な関わり方の一つである。講義では、現代におけるスポーツの新たな価値を多角的に捉え、様々な楽しみ方や関わり方があることを見ていく。また、健康でアクティブな人生を送るための運動・スポーツに取り組むための態度を養い、生涯スポーツの観点から自身のスポーツライフを成熟化するための基礎知識を獲得することを目的とする。 |
| 到達目標 | ①現代社会におけるスポーツの社会・文化的な意義と役割について、多角的に考察できる。 ②人々とスポーツの関係を理解し、生涯スポーツ社会に活かすことのできる教養と態度を身につける。 ③運動やスポーツ実施を通じて健康になるためのプランを作成し、実践することができる。 ④これらの知識をもとに、スポーツと健康の関わりについて他者に伝えることができる。 |
| 授業方法と留意点 | 講義形式で授業を進める。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 資料配布、パワーポイントによるスライドや板書等を用いて要点を示す講義を主とする。図表データや映像資料等を使用することで、具体的な事例を示す。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 | |
|----|-----------------|--|------------------|--------------------|
| | | | 事前 | 事後 |
| 1 | ガイダンス | オリエンテーションと授業計画・授業方法の説明、スポーツと健康の関係性について学ぶ | 事前：シラバスの確認 (30分) | 事後：講義のふりかえり (30分) |
| 2 | ライフステージと生涯スポーツ | 各年代のスポーツ参加動向を概観する | 事前：事前資料の確認 (30分) | 事後：講義のふりかえり (30分) |
| 3 | スポーツ政策 | 骨格筋・脳・神経系などの構造や機能について | 事前：事前資料の確認 (30分) | 事後：講義のふりかえり (30分) |
| 4 | 国内外のスポーツイベント | スポーツイベントを通じたアクティブ人口の拡大について理解する | 事前：事前資料の確認 (30分) | 事後：講義のふりかえり (30分) |
| 5 | スポーツ産業 | 人々のスポーツ需要と経済的な活動について考察する | 事前：事前資料の確認 (30分) | 事後：講義のふりかえり (30分) |
| 6 | スポーツボランティア | ささえるスポーツの形態について学ぶ | 事前：事前資料の確認 (30分) | 事後：講義のふりかえり (30分) |
| 7 | スペクテイタースポーツ | みるスポーツの現状と関わり方を考察する | 事前：事前資料の確認 (30分) | 事後：講義のふりかえり (30分) |
| 8 | エリートスポーツ・プロスポーツ | 競技スポーツのマネジメントについて理解する | 事前：事前資料の確認 (30分) | 事後：講義のふりかえり (30分) |
| 9 | レジャー行動と生涯スポーツ | 現代の余暇活動について理解する | 事前：事前資料の確認 (30分) | 事後：講義のふりかえり (30分) |
| 10 | 青少年のスポーツ参加 | 青少年期におけるスポーツの現状と課題を考える | 事前：事前資料の確認 (30分) | 事後：講義のふりかえり (30分) |
| 11 | 成人期以降のスポーツライフ | 中高齢期のスポーツ活動の多様性とマーケットを理解する | 事前：事前資料の確認 (30分) | 事後：講義のふりかえり (30分) |
| 12 | 障がい者のスポーツ参加 | アダプテッド・スポーツ、パラスポーツの現状を理解する | 事前：事前資料の確認 (30分) | 事後：講義のふりかえり (30分) |
| 13 | 健康づくりと運動プログラム | 運動やスポーツを習慣化するためのアプローチを学ぶ | 事前：事前資料の確認 (30分) | 事後：講義のふりかえり (30分) |
| 14 | 生涯スポーツとヘルスマーシェン | アクティブなライフスタイルの創造と提供 | 事前：事前資料の確認 (30分) | 事後：講義のふりかえり (30分) |
| 15 | まとめ | 授業の総括と理解度の確認 | 事前：事前資料の確認 (30分) | 事後：今後についての検討 (30分) |

| | |
|------|-------------------------|
| 関連科目 | スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ 生涯スポーツ実習 |
|------|-------------------------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|------------------------------|----------------------------|----------|----------|
| | 1 | スポーツ白書 2020-2030年のスポーツのすがた | 笹川スポーツ財団 | 笹川スポーツ財団 |
| 2 | 生涯スポーツ実践論-生涯スポーツを学ぶ人たちに-改訂4版 | 川西正志・野川春夫 (編著) | 市村出版 | |
| 3 | これからの健康とスポーツの科学 第5版 | 安部 孝・琉子友男 (編著) | 講談社 | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 毎回の小レポート (30%) と期末レポート (30%)、小テスト (40%) で評価し、60%以上で合格とする。 |
|-----------|---|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 質問等がある場合は、事前にアポイントメントをとり、総合体育館事務室に来ること |
|-----------|--|

| | |
|----------|--|
| 担当者の研究室等 | 5号館1階 共同研究室もしくは総合体育館スポーツ振興センター事務室 メールアドレス: megumi.tani@setsunan.ac.jp |
|----------|--|

| | |
|----|---|
| 備考 | 初めのガイダンスには必ず出席のこと。 欠席を5回以上した際の単位取得は認めない。 |
|----|---|

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-------------------------------------|
| 科目名 | 数的能力開発 I | 科目名 (英文) | Development of Arithmetic Ability I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 山岡 亮太 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IKY2369a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 数的分野 (算数・数学) を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。 |
| 到達目標 | 授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと |
| 授業方法と留意点 | まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行うことがあります。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。 |

| | | | | |
|------|----|--------------------|-----------------|---|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション 実力テスト | 講義概要説明、実力テストの実施 | 実力テストの復習 30分以上を目安とする |
| | 2 | 計数問題① | 割合と比 | 事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする |
| | 3 | 計数問題② | 割合の応用問題 | 事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする |
| | 4 | 計数問題③ | 損益算 | 事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする |
| | 5 | 計数問題④ | 速度算① | 事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする |
| | 6 | 計数問題⑤ | 速度算② | 事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする |
| | 7 | 総復習① | 計数問題復習 | 今まで学習した問題全てを事前に復習 30分～1時間程度を目安とする |
| | 8 | 中間テスト | 中間テスト | 今まで学習した問題全てを事前に復習 30分～1時間程度を目安とする |
| | 9 | 論理問題① | 集合 | 事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする |
| | 10 | 論理問題② | 場合の数 | 事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする |
| | 11 | 論理問題③ | 確率 | 事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする |
| | 12 | 論理問題④ | 表の読み取り | 事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする |
| | 13 | 論理問題⑤ | 推論① | 事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする |
| | 14 | 論理問題⑥ | 推論② | 事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする |
| | 15 | 総復習② | 論理問題復習 | 今まで学習した問題全てを事前に復習 30分～1時間程度を目安とする |

| | |
|------|----------|
| 関連科目 | キャリアデザイン |
|------|----------|

| | | | | |
|-----|----|----------------|----------|----------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 厳選！数学的リテラシー問題集 | PS 出版事業部 | PS 出版事業部 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|---------------------------------------|
| 評価方法 (基準) | 小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10% |
|-----------|---------------------------------------|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週1時間程度の予習復習を必ず行ってください。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|----------------------------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館3階 教育イノベーションセンター |
| 備考 | Teams コードは、コピー&ペーストでの入力をオススメします。 |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-------------------------------------|
| 科目名 | 数的能力開発 I | 科目名 (英文) | Development of Arithmetic Ability I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2 年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 橋本 朗子 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IKY2369a1 | | |

授業概要・目的
 数的分野 (算数・数学) を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。前期は、数的能力の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。

到達目標
 授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと

授業方法と留意点
 まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。後期に開講される数的能力開発 II では、応用が必要となる実践的な内容を扱います。I・II の両科目の履修を推奨します。なお、履修者数によっては、2 回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。

科目学習の効果 (資格)
 大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------|-----------------|---|
| 1 | オリエンテーション 実力テスト | 講義概要説明、実力テストの実施 | 実力テストの復習 (1 時間) |
| 2 | 計数問題① | 割合と比 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと (10 分) 講義で取り扱った問題の復習 (1 時間) |
| 3 | 計数問題② | 割合の応用問題 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと (10 分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1 時間) |
| 4 | 計数問題③ | 損益算 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと (10 分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1 時間) |
| 5 | 計数問題④ | 速度算① | 事前にテキストの問題を読んでおくこと (10 分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1 時間) |
| 6 | 計数問題⑤ | 速度算② | 事前にテキストの問題を読んでおくこと (10 分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1 時間) |
| 7 | 総復習① | 計数問題復習 | 今まで学習した問題全てを事前に復習 (2 時間) |
| 8 | 中間テスト | 中間テスト | 今まで学習した問題全てを事前に復習 (2 時間) |
| 9 | 論理問題① | 集合 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと (10 分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1 時間) |
| 10 | 論理問題② | 場合の数 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと (10 分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1 時間) |
| 11 | 論理問題③ | 確率 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと (10 分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1 時間) |
| 12 | 論理問題④ | 表の読み取り | 事前にテキストの問題を読んでおくこと (10 分) と ・講義で取り扱った問題の復習 (1 時間) |
| 13 | 論理問題⑤ | 推論① | 事前にテキストの問題を読んでおくこと (10 分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1 時間) |
| 14 | 論理問題⑥ | 推論② | 事前にテキストの問題を読んでおくこと (10 分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1 時間) |
| 15 | 総復習② | 論理問題復習 | 全ての問題を事前に復習 (2 時間) |

関連科目
 数的能力開発 II、キャリアデザイン II

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|----------------|----------|----------|
| 1 | 厳選！数学的リテラシー問題集 | PS 出版事業部 | PS 出版事業部 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

評価方法 (基準)
 小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%

学生へのメッセージ
 社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週 1 時間程度の予習復習を必ず行ってください。

担当者の研究室等
 7 号館 3 階 教育イノベーションセンター

備考
 Teams コードは、コピー&ペーストでの入力をオススメします。

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-------------------------------------|
| 科目名 | 数的能力開発 I | 科目名 (英文) | Development of Arithmetic Ability I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 津村 忠 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IKY2369a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | <p>数的分野 (算数・数学) を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。</p> <p>前期は、数的能力の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。</p> |
| 到達目標 | 授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと |
| 授業方法と留意点 | <p>まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。</p> <p>毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。</p> <p>後期に開講される数的能力開発 II では、応用力が必要となる実践的な内容を扱います。I・IIの両科目の履修を推奨します。</p> <p>なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。</p> |
| 科目学習の効果 (資格) | 大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------|-----------------|---|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション 実力テスト | 講義概要説明、実力テストの実施 | 事前：シラバスを熟読する (10分) 事後：実力テストを振り返り、自身の強化ポイントを把握する (30分) |
| 2 | 計数問題① | 割合と比 | 事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上) |
| 3 | 計数問題② | 割合の応用問題 | 事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上) |
| 4 | 計数問題③ | 損益算 | 事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上) |
| 5 | 計数問題④ | 速度算① | 事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上) |
| 6 | 計数問題⑤ | 速度算② | 事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上) |
| 7 | 総復習① | 計数問題復習 | 事前：学習範囲の問題を確認し、理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上) |
| 8 | 中間テスト | 中間テスト | 事前：今まで学習した問題全てを復習しておく (120分) 事後：自身の弱点を把握し、今後に向けての自主学習計画を立案する (60分) |
| 9 | 論理問題① | 集合 | 事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上) |
| 10 | 論理問題② | 場合の数 | 事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上) |
| 11 | 論理問題③ | 確率 | 事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上) |
| 12 | 論理問題④ | 表の読み取り | 事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上) |
| 13 | 論理問題⑤ | 推論① | 事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上) |
| 14 | 論理問題⑥ | 推論② | 事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上) |
| 15 | 総復習② | 論理問題復習 | 事前：学習範囲の問題を確認し、理解度を把握しておく (15分) |

| | | | | |
|---------------|--|----------------|----------|--------------------------------------|
| | | | | 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する（30分以上） |
| 関連科目 | 数的能力開発Ⅱ、キャリアデザインⅡ | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 厳選！数学的リテラシー問題集 | PS 出版事業部 | PS 出版事業部 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10% | | | |
| 学生への メッセージ | 社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週 1 時間程度の予習復習を必ず行ってください。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7 号館 3 階 教育イノベーションセンター | | | |
| 備考 | Teams コードは、コピー&ペーストでの入力をオススメします。 | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|----------------------------------|
| 科目名 | 産業技術史 | 科目名 (英文) | History of Industrial Technology |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 照元 弘行 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | INA3321a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 様々な産業で用いられる技術を「産業技術」という。この「産業技術」は、どのような経路をたどりながら、何を原動力として発展してきたかという問題について考える。本講義では、様々な「産業技術」の変遷を体系的に捉え、地球規模での産業技術の役割について考え、これまでに築かれてきた技術を学習・理解することで、今後、独創的な技術を生み出していく手がかりを提供する。 |
| 到達目標 | 幅広い教養と地球的視野をもった技術者になるための基礎を身につけることである。具体的には、それぞれの産業技術の歴史を学習・理解することで、技術者として幅広い教養を、また、情報社会の世界情勢や地球環境問題を学ぶことで、物事を地球的視点から多面的に捉える能力と素養を身につけることを到達目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 講義の資料・レポートなどは全て「moodle」を利用して入手してください。レポートの提出も同様です。産業技術をできるだけわかりやすく理解してもらうために、可能な限りできるだけ多くの資料と視聴覚教材を用いて解説する予定である。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 現在の産業技術社会は、膨大な情報と知識の専門化が進んでおり、この産業技術の世界を系統的に学ぶ機会は、一般教養科目を学ぶ以外の時期には少なくなる傾向にあり、他分野の知識の吸収には、自分自身で常に努力していく必要がある。それゆえ、できるだけ早い時期に産業技術の源を学んでおくことは、多くの分野に興味をもつための一助になると考えている。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------------------|--|-----------|
| | | | |
| 1 | 産業技術史を学ぶにあたって/特許から見た産業発展史 | 産業技術史を学ぶ意味を考える。明治時代の近代日本創生から現代のプロパテント時代まで、日本の産業発展に特許制度が果たした役割を理解し、我が国の歴史から産業発展と特許制度の関係を学ぶ。 | 課題レポート提出① |
| 2 | 製鉄・鉄鋼産業の技術史①: たたら製鉄の技術 | 金属材料の基礎について学ぶ。伝統の日本製鉄法「たたら」について学ぶ。 | 課題レポート提出② |
| 3 | 製鉄・鉄鋼産業の技術史②: 近代製鋼法の技術 | 製鉄・鉄鋼産業の技術発展史とその公害・環境対策について学ぶ。 | 課題レポート提出③ |
| 4 | 製鉄・鉄鋼産業の技術史③: 高炉の技術 | 製鉄所のシンボルである高炉について学ぶ。 | 課題レポート提出④ |
| 5 | 製鉄・鉄鋼産業の技術史④: 新素材の技術 | 国産技術で育てた画期的な次世代の鉄「超鉄鋼」、「超電導材料」などについて学ぶ。 | 課題レポート提出⑤ |
| 6 | 自動車産業の歴史①: 自動車産業のあけぼの | 国産自動車トヨタ AA 型の開発を事例にして、日本の自動車産業を学ぶ。 | 課題レポート提出⑥ |
| 7 | 自動車産業の歴史②: 自動車産業の基礎技術 | 自動車産業の生産技術およびエンジン、ブレーキ、タイヤなどの基本技術を学ぶ。 | 課題レポート提出⑦ |
| 8 | 自動車産業の歴史③: 低公害自動車「CVCC エンジン」の技術 | 自動車産業の公害・環境問題について学ぶ。ここでは、低公害エンジン「CVCC」を事例にして学ぶ。 | 課題レポート提出⑧ |
| 9 | 自動車産業の歴史④: ハイブリッドカー・電気自動車の技術 | 自動車産業の公害・環境問題について学ぶ。ここでは、「ハイブリッドカー」、「電気自動車」を事例にして学ぶ。 | 課題レポート提出⑨ |
| 10 | 自動車産業の歴史⑤: 燃料電池自動車の技術 | 自動車産業の公害・環境問題について学ぶ。ここでは、燃料電池の技術と「究極のエコカー」である燃料電池自動車について学ぶ。 | 課題レポート提出⑩ |
| 11 | 鉄道産業の歴史①: 高速鉄道のかかえる社会的問題 | 国と地方の問題から「新幹線問題」について学ぶ。 | 課題レポート提出⑪ |
| 12 | 鉄道産業の歴史②: 新幹線の技術 | 高速鉄道「新幹線」の開発の歴史とその主要技術について学ぶ。新幹線を作る様々な技術(町工場がもつアナログ的な技術)を学ぶ。 | 課題レポート提出⑫ |
| 13 | 鉄道産業の歴史③: リニアモーターカーの技術 | 未来の高速鉄道「リニアモーターカー」について学ぶ。また、これからの鉄道の公害・環境対策技術、安全対策技術について学ぶ。 | 課題レポート提出⑬ |
| 14 | 公害・環境対策の技術史 | 産業競争力強化の重要な柱の1つである「ISO14001」の認証取得の事例を解説する。 | 課題レポート提出⑭ |
| 15 | 世界の産業技術 | 産業技術の未来への取り組みについて、子どもたちへの活動を通して考える。 | 課題レポート提出⑮ |

関連科目 産業技術史は、多面的で複合的な科目であることから、大学において、できるだけ数多くの科目を習得すれば、必ず役立つと思います。

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |

| | | | | |
|---------------|---|--|--|--|
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 各授業毎の課題レポート(全15枚)を100点配分で評価する。なお、評価の基準は、すべての課題レポートを提出し、それぞれのレポートの内容について、題意把握・内容理解、論理構成・考察力、表現・文字の正確さなどから総合的に評価し、60点以上を合格とする。なお、課題レポートのフィードバックは、「moodle」を利用する予定である。上記に加えて後期末試験を100点配分を実施し、60点以上を合格とする。最終評価は、レポートが50%、後期末試験が50%配分の100点満点で総合評価し、60点以上を合格とする。 | | | |
| 学生への メッセージ | 各授業毎の課題レポートは、全て期限内に提出してください。レポートの作成においては、レポート課題の理解、課題にそった解答、内容の正確な理解、専門用語の正確な理解、論理的でわかりやすい展開、自分なりの視点で課題を考察、独創性の芽が感じられる内容を書けるように整理し、文章にまとめる力をつけてください。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | | | | |
| 備考 | 講義のキーワードとして、「特許」、「公害・環境問題」、「アナログ的な技術・デジタル的な技術」などを示しておく。 事前事後学習時間は、毎講義当たり、レポート作成、予習、復習の学習時間として2時間程度である。 | | | |

| | | | |
|----------------|-------------|----------|-----------------|
| 科目名 | コミュニケーション I | 科目名 (英文) | Communication I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 津村 忠 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IJA2346a1 | | |

| | |
|----------|--|
| 授業概要・目的 | 社会に必要なコミュニケーションスキルを習得するための授業です。読む・書く・話す・聴くの4技能は常に求められるスキルですが、それらは「技術」として認識し、訓練することによってより実践的なものに高めることが可能です。この授業では毎回「こちらの意図を的確に伝える」技術や「相手の意図を十分に理解する」技術、すなわち「話す」「聴く」技術を高める練習をします。普段、ディスカッションをしたり、プレゼンテーションを練習する機会はあまりありません。講義を通じてこれら社会で求められる力を身につけたい人は受講をお勧めします。講師陣はそれぞれが、人材採用・社会人教育の frontline で長年実務を経験したり、航空業界で多種多様な価値観に触れた経験や、様々な業界で実務経験を持ち、「話す」「聴く」技術を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使えるコミュニケーション能力の獲得を目指します。 |
| 到達目標 | 高度なコミュニケーションスキルを身につけることを目標とします。具体的には社会活動において、自らが望む相応の結果を出すためのスキルを身につけることが目標です。 SDGs4 SDGs10 |
| 授業方法と留意点 | 授業は理論と実践で構成されています。コミュニケーション能力は理論を知ったうえで、アウトプットする訓練が必要です。実践については授業の性質上、ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーションになることもあります。対面時は必ずマスク着用、適度な距離を保つことに留意してください。基本はオンライン (同時双方向)、状況によっては対面になることもあります。情報は Microsoft Teams に発信しますので、必ず確認するようにしてください。 |

| | |
|--------------|--|
| 科目学習の効果 (資格) | |
|--------------|--|

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------|--|--|
| | | | |
| 1 | コミュニケーションとは | コミュニケーションの本質を考える。 | 事前：シラバスを熟読する (15分) 事後：講義を振り返り、通期受講を検証する (15分) |
| 2 | 傾聴力、質問力を高める | 聴くための技術の基本的な方法と聞いた内容を深めるための質問方法について学ぶ。 | 事前：講義資料に目を通し、講義の概要を把握しておく (15分) 事後：講義内容を復習し、社会生活で実践する (30分以上) |
| 3 | ロジカルコミュニケーション | 論理的に会話するための基礎を学ぶ。 | 事前：講義資料に目を通し、講義の概要を把握しておく (15分) 事後：講義内容を復習し、社会生活で実践する (30分以上) |
| 4 | コミュニケーションの技法 | 相手により伝わるための非言語コミュニケーションについて学ぶ。 | 事前：講義資料に目を通し、講義の概要を把握しておく (15分) 事後：講義内容を復習し、社会生活で実践する (30分以上) |
| 5 | プレゼンテーション① | プレゼンテーションの基礎について学ぶ。 | 事前：講義資料に目を通し、講義の概要を把握しておく (15分) 事後：講義内容を復習し、社会生活で実践する (30分以上) |
| 6 | プレゼンテーション② | プレゼンテーション (個人プレゼンの準備) | 事前：講義資料に目を通し、講義の概要を把握しておく (15分) 事後：講義内容を復習し、社会生活で実践する (30分以上) |
| 7 | プレゼンテーション③ | プレゼンテーション (個人プレゼン完成) ※評定あり | 事前：講義資料に目を通し、講義の概要を把握しておく (15分) 事後：講義内容を復習し、社会生活で実践する (30分以上) |
| 8 | 言語理解① | 社会で必要とされる言語理解の基礎について学ぶ。 | 事前：講義資料に目を通し、講義の概要を把握しておく (15分) 事後：講義内容を復習し、習得した知識の定着に努める (30分以上) |
| 9 | 言語理解② | 社会で必要とされる言語理解の応用について学ぶ。 | 事前：講義資料に目を通し、講義の概要を把握しておく (15分) 事後：講義内容を復習し、習得した知識の定着に努める (30分以上) |
| 10 | 言語理解③ | 社会で必要とされる言語理解の基礎と応用の演習問題を解く。 ※評定あり | 事前：講義資料に目を通し、講義の概要を把握しておく (15分) 事後：講義内容を復習し、習得した知識の定着に努める (30分以上) |
| 11 | グループディスカッション① | グループディスカッションの基礎について学ぶ。 | 事前：講義資料に目を通し、講義の概要を把握しておく (15分) 事後：講義内容を復習し、社会生活で実践する (30分以上) |
| 12 | グループディスカッション② | グループディスカッションの演習 (基本編) で学ぶ。 | 事前：講義資料に目を通し、講義の概要を把握しておく (15分) 事後：講義内容を復習し、社会生活で実践する (30分以上) |
| 13 | 面接技術 | 面接技術を学ぶ。 ※評定あり | 事前：講義資料に目を通し、講義の概要を把握しておく (15分) 事後：講義内容を復習し、社会生活で実践する (30分以上) |
| 14 | ダイバーシティ・コミュニケーション | 多様性社会の中、求められるコミュニケーションスキルを学ぶ。 | 事前：講義資料に目を通し、講義の概要を把握しておく (15分) 事後：講義内容を復習し、社会生活で実践する (30分) |

| | 15 | 総合演習 | これまで実施した授業の内容を踏まえ、自分を的確に且つ効果的に表現すること学び、実践する。 ※評定あり | 分以上) 事前：講義資料に目を通し、講義の概要を把握しておく (15分) 事後：講義全体を復習し、社会生活で実践する (30分以上) | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------|--|------|---|--|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 関連科目 | キャリアデザインⅡ, 数的能力開発 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 毎回の小レポート 30 点、プレゼンテーション 15 点、言語理解 20 点、グループディスカッション 10 点、総合演習もしくはレポート 25 点 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | 人間は「社会的動物」です。他者との関係の中で生きていかねばなりません。他者との関係性を良好に保つことは、豊かな人生を送るための重要な条件になります。そのために求められるものが「コミュニケーション能力」と言われており、これはビジネスシーンにおいても同様です。コミュニケーションを楽しみながら、適切に行えるようになっていきましょう。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|----------|---------------------|
| 科目名 | キャリアデザインⅢ | 科目名 (英文) | Career Planning III |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 水野 武 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | ICA3351a1 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 本講義は就職活動に関する知識と実践技法も学ぶための講義である。 この科目を通じて、学生は、学生生活での学びを活かし、社会で求められ、活躍できる人材(人財)になるために何をすべきかを考えられるようになることが期待される。 なお、授業担当者の人材業界での業務経験・起業経験を講義に活かす講義の内容となる。 |
| 到達目標 | 自分を振り返り、社会をよく知り、選択肢を発見し、自分の特性や強みについて、他者に伝えられることができる。 その結果、満足のいく就職活動、進路選択ができるようになる。 |
| 授業方法と留意点 | 講義では教員と学生、学生同士で対話をしながら進行をするので、能動的な姿勢が求められる。 |
| 科目学習の効果(資格) | 授業を通して自分の成長に気づき、人に自分の意志が伝えられるようになる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------|---|---|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション | ・講義の目標、進め方、評価方法の解説 ・就職活動のスケジュールを知る | 事前学修：自身の進路について考えること(0.25時間) 事後学修：配付資料を熟読すること(0.25時間) |
| 2 | ビジネス研究① | ・業界・会社・職種を知る | 事前学修：自身の希望業種について考えること(0.25時間) 事後学修：配付資料を熟読し、どんな業界があるのかを調べること(0.25時間) |
| 3 | ビジネス研究② | ・成長企業のキーワード ・会社研究について | 事前学修：自身の興味のある企業について調べること(0.25時間) 事後学修：配付資料を熟読し、どんな会社があるのかを調べること(0.25時間) |
| 4 | ビジネス研究④ | ・会社の経営理念について考える ・ブラック企業問題について考える ・いい会社とは何かについて考える | 事前学修：自身に合った会社とはどのような組織7日について考えること(0.25時間) 事後学修：配付資料を熟読し、自分のワークスタイルを考えること(0.25時間) |
| 5 | ビジネス研究⑤ | ・事業立案のフレームを学ぶ ・グループでビジネスプランを立てる | 事前学修：自身が起業するとしたらどのような業態が良いのか考えること(0.5時間) 事後学修：配付資料を熟読し、グループワークに取り組むこと(1時間) |
| 6 | 営業思考を身につける | ・どのような仕事に従事するでも役に立つ営業思考の基本を身につける | 事前学修：営業職についてイメージすることを言語化しておくこと(0.5時間) 事後学修：7回目に向けてプレゼンテーションの準備をしておくこと(1時間) |
| 7 | ビジネス研究⑦ | ・グループでプレゼンテーションを行う | 事前学修：プレゼンテーションの準備をしておくこと(0.5時間) 事後学修：他グループのプレゼンテーションを振り返ること(0.5時間) |
| 8 | 自分を知る① | ・自分の将来を描いてみる | 事前学修：自身の将来について考えること(0.25時間) 事後学修：配付資料を熟読し、自分の未来について考えること(0.25時間) |
| 9 | 自分を知る② | ・自分の強み、学生生活を振り返る | 事前学修：自身の学生生活での取り組みについて考えること(0.5時間) 事後学修：配付資料を熟読し、自分について振り返ること(0.5時間) |
| 10 | 自分を知る③ | ・ワークシートを使って自分の特性を確認する | 事前学修：自身の強み、行動特性について考えること(0.5時間) 事後学修：配付資料を熟読し、自分の特性について考えること(0.5時間) |
| 11 | 自分のことを伝える | ・エントリーシートとは何かを知る ・読み手の着眼点を理解する | 事前学修：エントリーシートとは何かについて調べること(0.5時間) 事後学修：エントリーシートを作成する準備をしておくこと(1時間) |
| 12 | グループでのコミュニケーション① | ・グループディスカッションの種類を知る ・グループディスカッションを実際に体験してみる | 事前学修：グループディスカッションとはなにかについて調べること(0.25時間) 事後学修：配付資料を熟読し、自身のグループへの貢献の仕方を考えること(0.25時間) |
| 13 | グループでのコミュニケーション② | ・議論を進めるためのファシリテーション術を学ぶ | 事前学修：今までに経験したミーティングや会議での自身の振る舞いについて思い出しておくこと(0.5時間) 事後学修：配付資料を熟読し、グループへの貢献の仕方を考えること(0.5時間) |
| 14 | 面接における対人コミュニケーション | ・面接における対人コミュニケーションについて考える ・面接のメカニズムを知る | 事前学修：企業はなぜ面接を行うのかについて考えること(0.5時間) 事後学修：配付資料を熟読し、対面での対人コミュニケーションについて考えること(0.5時間) |
| 15 | 講義のまとめ | ・成果を上げるための行動計画立案 ・講義のまとめ | 事前学修：ここまでの講義を振り返ること(0.5時間) 事後学修：期末レポートを作成すること。提出物など、出し忘れが無い確認すること(2時間) |

| | | | | |
|---------------|--|-----|-----|------|
| 関連科目 | ・キャリアデザイン、インターンシップ基礎、ビジネスマナーⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ、教的能力開発、コミュニケーション能力開発、エンプロイメントデザインⅠ・Ⅱ | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 講義での提出物(30%)、グループ課題(20%)、期末レポート(50%)を総合的に評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | みなさんの将来のことを一緒に考えましょう。なお、履修人数の増減に伴うグループワーク時のグループ数により講義内容の一部に変更が生ずる可能性があるので注意すること。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館3階 教育イノベーションセンター(水野研究室) | | | |
| 備考 | 参考文献・書籍は必要に応じて適宜提示する。 | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|----------------------------|
| 科目名 | ビジネス実務 | 科目名 (英文) | Practical Business Studies |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 奥田 和子 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | ICA3355a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、またキャリア支援デザイナーとしての観点から人間関係について話をします。 |
| 到達目標 | クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | テキストはWeb上にアップロードするので、各自で事前に準備すること。授業は、講義中心で進めるが、ペアワーク、グループワークも実施する。毎回、学修課題の提出があるのできちんと取り組むこと。提出した課題については、授業内にてフィードバックを行う。質問等は授業中に受け付ける。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------|--|--|
| | | | |
| 2 | 仕事の進め方と組織活動 | <ul style="list-style-type: none"> 定型業務と非定型業務 コスト意識とエコ活動 仕事の基本の8つの意識 話し方と聞き方 | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 企業のエコ活動について調べる(30分) 事後学修: 仕事とは何か、まとめること(60分) |
| 3 | 目標設定とPDCAサイクル | <ul style="list-style-type: none"> 目標設定(MBO) PDCAとは チームと個人の役割 | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修: PDCAについて調べる(30分) 事後学修: あなたの日常生活におけるMBOとPDCAを考え、まとめること(60分) |
| 4 | スケジュールと出張業務 | <ul style="list-style-type: none"> スケジュールの作り方 業務としての出張-YTT方式- | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修: あなたの1週間予定表を作成すること(30分) 事後学修: あなたの予定表作成について振り返り、まとめること(60分) |
| 5 | ビジネスの場での敬語表現 | <ul style="list-style-type: none"> 基本的な敬語表現の復習 ビジネスの場での使用方法-TP0をもとに- | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 敬語プリント①をすること(30分) 事後学修: ケーススタディプリントをすること(60分) |
| 6 | 電話応対 | <ul style="list-style-type: none"> ビジネスフォンの扱い方 5W2Hから6W3Hへ 簡潔メモの作り方 不在処理と伝言 | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 電話応対プリントをすること(30分) 事後学修: ロールプレイングを繰り返すこと(60分) |
| 7 | 来客応対 | <ul style="list-style-type: none"> 組織図と対応 簡単な応対から不在処理や重複処理まで 名刺交換 ※対面授業に切り替え | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 来客応対プリント①をすること(30分) 事後学修: 来客応対プリント②をすること(60分) |
| 8 | ハウ・レン・ソウ | <ul style="list-style-type: none"> ビジネスにおける「報連相」 指示の受け方 業務の優先順位 | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 報告・連絡・相談の重要性について調べる(30分) 事後学修: ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をすること(60分) |
| 9 | ビジネス文書の基本① | <ul style="list-style-type: none"> 社外文書が基本 商取引文書と社交文書の相違 社内文書と社外文書の種類 ファイリング | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修: ビジネス文書始める前にをすること(30分) 事後学修: ビジネス文書②をすること(60分) |
| 10 | ビジネス文書の基本② | <ul style="list-style-type: none"> 実践 | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修: ビジネス文書③をすること(30分) 事後学修: ビジネス文書④をすること(60分) |
| 11 | ビジネス通信の基本 | <ul style="list-style-type: none"> 通信手段(電子メール、ファックス等)の選択 作成上の注意点 郵便・宅配便の知識 | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 郵便の知識プリント①をすること(30分) 事後学修: メール文書を作成すること(60分) |
| 12 | 法的業務 | <ul style="list-style-type: none"> 押印と印鑑の意味 内容証明 個人情報保護(Pマーク) コンプライアンス | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修: コンプライアンスについて調べる(30分) 事後学修: 個人情報保護法についてレポートを作成すること(60分) |
| 13 | 設営の基本 | <ul style="list-style-type: none"> YTT方式からの業務遂行 確認の必要性 他部署とのコミュニケーションの必要性 | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめること(30分) 事後学修: 設営事例をまとめること(60分) |
| 14 | 慶弔と贈答 | <ul style="list-style-type: none"> 慶弔時の基本的マナー 「式」について 業務としての贈答 | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 慶弔・贈答プリント①をすること(30分) 事後学修: 弔・贈答プリント②をすること(60分) |
| 15 | 協働とコミュニケーション | <ul style="list-style-type: none"> 外国人同僚・異文化への対応 働き方とキャリア開発 公共の場でのマナー | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修: グローバル社会へ対応するためには何が必要かについて考えること(30分) 事後学修: 共生関係について自らの考えをまとめること(60分) |

| | | | | |
|------|-------------------------|-----|-----|------|
| 関連科目 | キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |

| | | | | |
|---------------|---|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 定期試験 40%、ワーク・授業内課題等 30%、複数回のレポート課題 30%を総合的に判断する。 ただし、出席不良者（欠席6回以上）は評価できないことがある。 | | | |
| 学生への メッセージ | 近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館5階 キャリア教育推進室（石井） | | | |
| 備考 | 予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。質問等は、メールやチャットにて受け付けます。 | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|--------------------------------------|
| 科目名 | 北河内を知る | 科目名 (英文) | Introduction to Kita-kawachi Studies |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 地域志向系 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 増田 知也, 小林 基 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: A○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01453a1, L科: LL01355a1, D科・S科: IL01362a1, P科: YL01418a2, J科: JL01364a1, W科: WL01343a1, N科: NL01344a1 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | <p>摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の市町村の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」から、地方自治体の現状と課題をグループディスカッションを行いながら学び、地域との関わり方を考える。</p> <p>授業では、自らが問題意識や疑問をもちながら地域の現状を分析し、多くの疑問点（質問）をだすこと。さらに疑問点（質問）に優先順位をつけ、それに基づいた学修・調査・研究を行うことのトレーニングを行う。</p> <p>またグループワークで互いに議論しながら、ひとつの方向性を見出す大切さを経験する。</p> <p>この授業は授業担当者として、北河内7市の「行政実務者」が担当する。</p> |
| 到達目標 | 北河内地域の歴史、文化、産業、まちづくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。さらに地域における課題を発見し解決できる能力に必要な「考える力、判断する力、表現する力」を身につける。 |
| 授業方法と留意点 | 北河内地域の市町村の行政実務者をを学外講師とするオムニバス講義である。授業は、土曜日に集中的に実施し、毎回の授業で「自己学習・グループ学習」「質疑」「グループワーク・成果物のプレゼンテーション」を行う。 |
| 科目学習の効果（資格） | ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、地域の課題を発見して解決する能力を身につけることに努力する。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|---|---|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション 9月10日(土) 1限 | 授業の進め方、成績評価方法 グループワークの進め方等を学ぶ | 事前課題: 北河内について調べる(30分) 事後課題: 授業の進め方について確認する(30分) |
| 2 | チームビルディング 9月10日(土) 2, 3限 | チームをつくり、相互理解を深める。 | 事前課題: チームでの取組が円滑に行くにはどのようなことが大切か考える。 事後課題: チームビルディングの成果をまとめる(30分) |
| 3 | 北河内地域に関する講演 9月24日(土) 1限 | 北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。 | 事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間) |
| 4 | 北河内地域に関する講演 9月24日(土) 2限 | 北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。 | 事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間) |
| 5 | グループワーク・プレゼンテーション 9月24日(土) 3限 | 北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する | 事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分) |
| 6 | 北河内地域に関する講演 10月1日(土) 1限 | 北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。 | 事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間) |
| 7 | 北河内地域に関する講演 10月1日(土) 2限 | 北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。 | 事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間) |
| 8 | グループワーク・プレゼンテーション 10月1日(土) 3限 | 北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する | 事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分) |
| 9 | 北河内地域に関する講演 10月22日(土) 1限 | 北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。 | 事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間) |
| 10 | 北河内地域に関する講演 10月22日(土) 2限 | 北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。 | 事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分) |
| 11 | グループワーク・プレゼンテーション 10月22日(土) 3限 | 北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する。 | 事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分) |
| 12 | 北河内地域に関する講演 11月19日(土) 1限 | 北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。 | 事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間) |
| 13 | グループワーク・プレゼンテーション 最終発表会について 11月19日(土) 2限 | 北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する。 また、最終発表会についての説明を行う。 | 事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分) |
| 14 | 最終発表会 12月3日(土) 1限 | アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う | 事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う(10時間) |
| 15 | 最終発表会 12月3日(土) 2限 | アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う | 事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う(10時間) |

関連科目 ソーシャルイノベーション副専攻科目

| | | | | |
|---------------|---|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 個人レポートの評価(40%)、グループごとの聴講および討議の態度のルーブリック評価(30%)、グループワークの成果物(30%)。欠席・遅刻の場合には当該項目の評価は「0」とする。 | | | |
| 学生への メッセージ | 地域創生の第一歩を踏み出してみませんか？ | | | |
| 担当者の 研究室等 | 増田知也(法学部・法律学科) 11号館10階 | | | |
| 備考 | 学外講師のご都合により、授業計画の内容や実施日、順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。 | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|---------------------------|
| 科目名 | ソーシャル・イノベーション実務総論 | 科目名 (英文) | Social Innovation Studies |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 地域志向系 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 石井 三恵 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: A○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01454a1, L科: LL01356a1, D科・S科: IL01363a1, P科: YL01419a2, J科: JL01365a1, W科: WL01344a1, N科: NL01345a1 | | |

| | | | | |
|--------------|--|-----------------------------------|--|---|
| 授業概要・目的 | <p>この授業を通じて学生には、以下の4点のようになることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ICT部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきていることを理解する。 2) ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ないことを理解する。 3) グローバル社会において必要とされるビジネス実務ならびにビジネス実務能力とは何かを学ぶ。 4) 変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを發揮する自らの職業観を確立する。 <p>なお、講義は担当講師の民間企業、自治体、NPO法人での業務及び高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs-9</p> | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1) ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身につける必要性を学ぶ。 2) 社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化 (多様性) を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」(3つの力)を理解できる。 | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。</p> <p>また、座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関してのプレゼンテーションを行うこともある。</p> | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | <p>2019年度以前の入学生においては、「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。</p> | | | |
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション | <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 自己紹介の原案を考えること (2時間) ・事後学修: 「ビジネスのイメージは?」というテーマでルールを守って自由に書くこと (2時間) |
| | 2 | ビジネスの定義 | <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返される理由について考察する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめること (2時間) ・事後学修: ソーシャルイノベーションカンパニーの実例を調べる (2時間) |
| | 3 | 組織の種類 - 営利組織と非営利組織- | <ul style="list-style-type: none"> ・阪神淡路大震災後、急速に進化したNPO組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: NPOについて調べる (2時間) ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成すること (2時間) |
| | 4 | ビジネス環境をとらえる① - 経済のグローバル化と高度情報化- | <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化の明暗について考察する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集めること (2時間) ・事後学修: 日本のグローバル化に関する小レポートを作成すること (2時間) |
| | 5 | ビジネス環境をとらえる② - 地球環境問題と少子高齢社会- | <ul style="list-style-type: none"> ・地球環境問題とジェンダーエンパワメント指数について考察する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: ジェンダーエンパワメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめること (2時間) ・事後学修: 地球市民として考えたことをまとめること (2時間) |
| | 6 | ビジネス現場をとらえる - オフィスからワークプレイスへ | <ul style="list-style-type: none"> ・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 将来の働き方をイメージし、まとめること (2時間) ・事後学修: グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成すること (2時間) |
| | 7 | ビジネス実務能力 | <ul style="list-style-type: none"> ・「働くために必要な能力とは」、というテーマで考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身につけるかを自身の優先順位、番号をつけた 個条書きにすること (2時間) ・事後学修: ・自分に必要な「ビジネス実務能力」をノートにまとめること (2時間) |
| | 8 | ビジネス実務の基本① - 仕事の進め方 | <ul style="list-style-type: none"> ・企業等のビジネス組織が必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。 ・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身につけるかをまとめること。問題プリント①を解くこと (2時間) ・事後学修: 自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめること。問題プリント②を解くこと (2時間) |
| | 9 | ビジネス実務の基本② - ビジネスと諸活動- | <ul style="list-style-type: none"> ・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: CSRについて調べ、まとめること (2時間) ・事後学修: 一企業のCSRを選び、レポートを作成すること (2時間) |
| | 10 | ビジネス実務の基本③ - ビジネスと経営資源- | <ul style="list-style-type: none"> ・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 男女共同参画社会に関して調べ、まとめること (2時間) ・事後学修: ・人的資源としてのヒト、あなたの目標を書いてみる (2時間) |
| | 11 | 自己実現とキャリアプランニング - セルフマネジメントと自己啓発- | <ul style="list-style-type: none"> ・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: ・テキストの指定箇所 (pp. 164-174) を熟読し、ノートにまとめること (2時間) ・事後学修: 再度自己振り返りシートを作成し直し、職業を通じた自己意識をレポートにまとめる。 (2時間) |

| | 12 | ビジネス実務の基本④ービジネスと PDCA サイクル/マーケティング活動とコストパフォーマンスー | <ul style="list-style-type: none"> PDCA サイクルを理解する。 マーケティングとコストの関係について理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修：業界内の 2 社の CM を比較し、その特徴をノートにまとめること（2 時間） 事後学修：次回のグループワークのために、3 つの NPO の資料（スライド 12～13）をしっかりと読み込むこと（2 時間） | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|---|--|---|--|----|-----|-----|------|---|---------------------|------------|--------------|---|---------------|-------------|---------|---|--------------------|----------------------------|---------|
| | 13 | ビジネスプラン①ー起業への意識と「寄付の教室」ー | <ul style="list-style-type: none"> 寄付行為の意味を考える。 | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修：寄付の意味を考え、まとめること（2 時間） 事後学修：寄付行為を行う基準を考えること（2 時間） | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 14 | ビジネスプラン②ープレゼンテーション | <ul style="list-style-type: none"> 作成したビジネスプランに基づいて発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修：各自がテーマを見つけ、企画書を作成し、発表練習すること（2 時間） 事後学修：ビジネスプランの再考をする（2 時間） | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15 | ビジネスプラン②ープレゼンテーション発表と授業の総まとめ | <ul style="list-style-type: none"> イノベーションの意味を再考する。 VUCA の時代において、新たなビジネスの創出について考える。 | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修：この授業の学びをまとめること（2 時間） 事後学修を：新たな発見をすること（2 時間） | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 2019 年度以前の学生においては、「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の科目。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ビジネス実務総論</td> <td>全国大学実務教育協会</td> <td>紀伊国屋書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | ビジネス実務総論 | 全国大学実務教育協会 | 紀伊国屋書店 | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | ビジネス実務総論 | 全国大学実務教育協会 | 紀伊国屋書店 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>20 歳のときに知っておきたかったこと</td> <td>ティナ・シーリグ</td> <td>阪急コミュニケーションズ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>イノベーションと企業家精神</td> <td>P. F. ドラッカー</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「デザイン思考」を超えるデザイン思考</td> <td>DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 20 歳のときに知っておきたかったこと | ティナ・シーリグ | 阪急コミュニケーションズ | 2 | イノベーションと企業家精神 | P. F. ドラッカー | ダイヤモンド社 | 3 | 「デザイン思考」を超えるデザイン思考 | DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部 | ダイヤモンド社 |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 20 歳のときに知っておきたかったこと | ティナ・シーリグ | 阪急コミュニケーションズ | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | イノベーションと企業家精神 | P. F. ドラッカー | ダイヤモンド社 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 「デザイン思考」を超えるデザイン思考 | DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部 | ダイヤモンド社 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | <ul style="list-style-type: none"> グループワーク（30%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（40%）を総合的に評価する。 毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンを繰り返す予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | <p>私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7 号館 5 階 教育イノベーションセンター（石井） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 予習・復習に毎回 2 時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|----------|
| 科目名 | 日本語読解 F I | 科目名 (英文) | |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 佐々木 成美 |
| ディプロマポリシー (DP) | V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△0 : DP8○ | | |
| 科目ナンバリング | FF01314a1 | | |

| 授業概要・目的 | この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|--|----------------------|--------------------------------|----|-------|---------|-----------|---|----------------------------------|----------------------|-------------------|---|-------------|-------------------|-------------------|---|---------|-------------------|-------------------|---|----------|---------|-------------------|---|----------|----------------------|--------------------------------|---|------------|---------|-------------------|---|------------|----------------------|------------|---|---------|-------------|-------------------|---|--------|---------|-------------------|----|--------|----------------------|--------------------------------|----|----------|---------|-------------------|----|----------|----------------------|------------|----|------------|---------|-------------------|----|------------|----------------------|--------------------------------|----|-----|-----|-------------------|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法及び留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有) ・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・小テストのFB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | 専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td> <td>授業の進め方の説明 読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>渡り鳥はなぜ迷わない？</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>フリーズする脳</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「科学」の定義①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「科学」の定義②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>現代の若者のマナー①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>現代の若者のマナー②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>親孝行な男の子</td> <td>読解、内容理解、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>言語と文化①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>言語と文化②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ローソクの進化①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ローソクの進化②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>「割り勘」は当然？①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>「割り勘」は当然？②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table> | | | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | 1 | オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち | 授業の進め方の説明 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 2 | 渡り鳥はなぜ迷わない？ | 読解、内容理解、内容をまとめる練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 3 | フリーズする脳 | 読解、内容理解、内容をまとめる練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 4 | 「科学」の定義① | 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 5 | 「科学」の定義② | 語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク | 授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認 | 6 | 現代の若者のマナー① | 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 7 | 現代の若者のマナー② | 語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク | 語彙テストの内容確認 | 8 | 親孝行な男の子 | 読解、内容理解、タスク | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 9 | 言語と文化① | 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 10 | 言語と文化② | 語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク | 授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認 | 11 | ローソクの進化① | 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 12 | ローソクの進化② | 語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク | 語彙テストの内容確認 | 13 | 「割り勘」は当然？① | 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 14 | 「割り勘」は当然？② | 語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク | 授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認 | 15 | 総復習 | 総復習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 |
| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち | 授業の進め方の説明 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 渡り鳥はなぜ迷わない？ | 読解、内容理解、内容をまとめる練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | フリーズする脳 | 読解、内容理解、内容をまとめる練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 「科学」の定義① | 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 「科学」の定義② | 語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク | 授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 現代の若者のマナー① | 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 現代の若者のマナー② | 語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク | 語彙テストの内容確認 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 親孝行な男の子 | 読解、内容理解、タスク | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 言語と文化① | 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 言語と文化② | 語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク | 授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | ローソクの進化① | 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | ローソクの進化② | 語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク | 語彙テストの内容確認 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 「割り勘」は当然？① | 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 「割り勘」は当然？② | 語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク | 授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 総復習 | 総復習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 日本語読解 F II | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週 1 時間。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|----------|
| 科目名 | 日本語読解FⅡ | 科目名(英文) | |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 佐々木 成美 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:EO,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△○:DP8○ | | |
| 科目ナンバリング | FF02315a1 | | |

| 授業概要・目的 | この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|--|----------------------|-------------------------------|----|-------|--------|-----------|---|-----------|----------------------|-------------------|---|--------|--------------------|-------------------|---|--------|-----------------|-------------------------------|---|------|---------|-------------------|---|------|---------------------|-------------------------------|---|---------|---------|-------------------|---|---------|---------------------|-----------|---|----------|---------|-------------------|---|----------|---------------------|-----------|----|----------|---------|-------------------|----|----------|---------------------|-------------------------------|----|----------|---------|-------------------|----|----------|---------------------|-------------------------------|----|-------------|---------|-------------------|----|-----|-----|-------------------|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法及び留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有) ・Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目学習の効果(資格) | 専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の進め方の説明 読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>統計と数字①</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめ(話す)</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>統計と数字②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(話す)</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>背理法①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>背理法②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>「待つ」こと①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「待つ」こと②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク</td> <td>語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ついでに何を？①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ついでに何を？②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク</td> <td>語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ウイルス発見！①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ウイルス発見！②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>大学で学ぶこと①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>大学で学ぶこと②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>何のために「学ぶ」のか</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table> | | | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 | 1 | オリエンテーション | 授業の進め方の説明 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 2 | 統計と数字① | 読解、内容理解、内容をまとめ(話す) | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 3 | 統計と数字② | 語彙テスト、内容まとめ(話す) | 授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認 | 4 | 背理法① | 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 5 | 背理法② | 語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク | 授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認 | 6 | 「待つ」こと① | 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 7 | 「待つ」こと② | 語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク | 語彙テスト内容確認 | 8 | ついでに何を？① | 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 9 | ついでに何を？② | 語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク | 語彙テスト内容確認 | 10 | ウイルス発見！① | 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 11 | ウイルス発見！② | 語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク | 授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認 | 12 | 大学で学ぶこと① | 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 13 | 大学で学ぶこと② | 語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク | 授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認 | 14 | 何のために「学ぶ」のか | 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 15 | 総復習 | 総復習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 |
| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 授業の進め方の説明 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 統計と数字① | 読解、内容理解、内容をまとめ(話す) | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 統計と数字② | 語彙テスト、内容まとめ(話す) | 授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 背理法① | 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 背理法② | 語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク | 授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 「待つ」こと① | 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 「待つ」こと② | 語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク | 語彙テスト内容確認 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | ついでに何を？① | 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | ついでに何を？② | 語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク | 語彙テスト内容確認 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | ウイルス発見！① | 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | ウイルス発見！② | 語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク | 授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | 大学で学ぶこと① | 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 大学で学ぶこと② | 語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク | 授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 何のために「学ぶ」のか | 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 総復習 | 総復習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 日本語読解FⅠ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|----------|
| 科目名 | 日本語表現作文F I | 科目名 (英文) | |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 佐々木 成美 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△○: DP8○ | | |
| 科目ナンバリング | FF01318a1 | | |

| 授業概要・目的 | この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|---|---------------------------|---------------------------|----|-------|---------|-----------|---|---------------------|---------------------------|-------------------|---|------------|-------------------|-------------------|---|--------|-----------------|-------------------|---|-----|------------|-------------------|---|-----|------|---------------------------|---|-------|-------------|-------------------|---|-------|------|---------------------------|---|----|-----------------|-------------------|---|----|-----------|-------------------|----|-------|------|---------------------------|----|----|-----------|-------------------|----|-----|-----------|-------------------|----|-----|------|---------------------------|----|-------|------------|-------------------|----|-----|-----|-------------------|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。 ・Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | レポートや論文を書くための基礎力を身につける。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table> | | | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | 1 | オリエンテーション 日本語の文体 | 授業についての説明 日本語の文体について学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 2 | レポート・論文の文体 | レポート・論文に使われる文体を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 3 | 記号の使い方 | 句読点、各種記号の使い方を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 4 | 段落① | 段落構成について学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 5 | 段落② | 実践練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題 | 6 | 経過説明① | 経過説明の書き方を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 7 | 経過説明② | 実践練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題 | 8 | 分類 | 「分類」をする文の書き方を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 9 | 定義 | 定義の書き方を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 10 | 分類・定義 | 実践練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題 | 11 | 引用 | 引用の書き方を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 12 | 要約① | 要約の書き方を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 13 | 要約② | 実践練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題 | 14 | 資料の利用 | 資料の利用方法を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 15 | 総復習 | 総復習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 |
| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | オリエンテーション 日本語の文体 | 授業についての説明 日本語の文体について学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | レポート・論文の文体 | レポート・論文に使われる文体を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 記号の使い方 | 句読点、各種記号の使い方を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 段落① | 段落構成について学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 段落② | 実践練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 経過説明① | 経過説明の書き方を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 経過説明② | 実践練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 分類 | 「分類」をする文の書き方を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 定義 | 定義の書き方を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 分類・定義 | 実践練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 引用 | 引用の書き方を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | 要約① | 要約の書き方を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 要約② | 実践練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 資料の利用 | 資料の利用方法を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 総復習 | 総復習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 日本語表現作文F II | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週 1 時間。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|----------|
| 科目名 | 日本語表現作文F II | 科目名 (英文) | |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 佐々木 成美 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△○: DP8○ | | |
| 科目ナンバリング | FF02319a1 | | |

| 授業概要・目的 | この授業では、実際にレポートを作成することを通して、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|---|------------------------------|-------------------|----|-------|---------|-----------|---|--------------------|-----------------------------|------------------|---|------------|------------------------|-------------------|---|---------|------------|-------------------|---|------------|-----------------------|--------|---|---------|------------|-------------------|---|--------|------------------|-------------------|---|-----|--------------------------|-------------------|---|-----|-------|-------------------|---|-----|--------------------------|-------------------|----|-----|-------------------------|-------------------|----|-----|-------|-------------------|----|-----|------------------------------|-------------------|----|-----|-------|-------------------|----|------|-------------------|-------------------|----|------|------------------|------------|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・レポート・論文の書き方を守って書ける。 ・アウトラインに沿って書ける。 ・信頼性の高い資料を集められる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。 ・オンライン授業になった場合、プリントはパワーポイントに変更する。 ・提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | レポートが書けるようになる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 前期の復習</td> <td>授業についての説明 前期の学習内容についての復習</td> <td>前期で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポートの言葉と表現</td> <td>レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>レポートの構成</td> <td>レポートの構成を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>テーマ決め・資料収集</td> <td>テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ</td> <td>資料を集める</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>資料を整理する</td> <td>集めた資料を整理する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>アウトライン</td> <td>レポートのアウトラインを作成する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>序論①</td> <td>序論の内容と書き方 (課題、目的の提示) を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>序論②</td> <td>序論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>本論①</td> <td>本論の内容と書き方 (データ、意見提示) を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>本論②</td> <td>本論の内容と書き方 (考察、結論提示) を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>本論③</td> <td>本論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>結論①</td> <td>結論の内容と書き方 (全体のまとめ、今後の課題) を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>結論②</td> <td>結論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>まとめ①</td> <td>レポートを推敲し、完成稿を作成する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ②</td> <td>作成したレポートを元に発表を行う</td> <td>発表のFBを元に復習</td> </tr> </tbody> </table> | | | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | 1 | オリエンテーション 前期の復習 | 授業についての説明 前期の学習内容についての復習 | 前期で使用したプリントを使い復習 | 2 | レポートの言葉と表現 | レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 3 | レポートの構成 | レポートの構成を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 4 | テーマ決め・資料収集 | テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ | 資料を集める | 5 | 資料を整理する | 集めた資料を整理する | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 6 | アウトライン | レポートのアウトラインを作成する | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 7 | 序論① | 序論の内容と書き方 (課題、目的の提示) を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 8 | 序論② | 序論を書く | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 9 | 本論① | 本論の内容と書き方 (データ、意見提示) を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 10 | 本論② | 本論の内容と書き方 (考察、結論提示) を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 11 | 本論③ | 本論を書く | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 12 | 結論① | 結論の内容と書き方 (全体のまとめ、今後の課題) を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 13 | 結論② | 結論を書く | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 14 | まとめ① | レポートを推敲し、完成稿を作成する | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 15 | まとめ② | 作成したレポートを元に発表を行う | 発表のFBを元に復習 |
| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | オリエンテーション 前期の復習 | 授業についての説明 前期の学習内容についての復習 | 前期で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | レポートの言葉と表現 | レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | レポートの構成 | レポートの構成を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | テーマ決め・資料収集 | テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ | 資料を集める | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 資料を整理する | 集めた資料を整理する | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | アウトライン | レポートのアウトラインを作成する | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 序論① | 序論の内容と書き方 (課題、目的の提示) を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 序論② | 序論を書く | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 本論① | 本論の内容と書き方 (データ、意見提示) を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 本論② | 本論の内容と書き方 (考察、結論提示) を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 本論③ | 本論を書く | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | 結論① | 結論の内容と書き方 (全体のまとめ、今後の課題) を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 結論② | 結論を書く | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | まとめ① | レポートを推敲し、完成稿を作成する | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | まとめ② | 作成したレポートを元に発表を行う | 発表のFBを元に復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 日本語表現作文F I | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう！ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 (非常勤講師室) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|---|----------|----------|
| 科目名 | 日本語文法 F I | 科目名 (英文) | |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 佐々木 成美 |
| ディプロマポリシー (DP) | V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8○, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△○: DP8○ | | |
| 科目ナンバリング | FF01316a1 | | |

| 授業概要・目的 | この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|---|-------------------------|------------------------------|----|-------|---------|-----------|---|----------------------------------|-------------------------|-------------------|---|-------------|------------|-------------------|---|---------|------------|-------------------|---|----------|------------|-------------------|---|----------|------------|-------------------|---|------------|------------|-------------------|---|------------|------------|-------------------|---|---------|------------|-------------------|---|--------|------------|-------------------|----|--------|------------|-------------------|----|----------|------------|-------------------|----|----------|------------|-------------------|----|------------|------------|-------------------|----|------------|------------|-------------------|----|-----|-----|------------------------------|
| 到達目標 | 中上級～上級の文法項目が運用できる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 ・Teams を使用する場合、授業内プリントはパワーポイントに変更する。 ・小テストのFB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | 高度な日本語運用能力 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td> <td>授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>渡り鳥はなぜ迷わない?</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>フリーズする脳</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「科学」の定義①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「科学」の定義②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>現代の若者のマナー①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>現代の若者のマナー②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>親孝行な男の子</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>言語と文化①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>言語と文化②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ローソクの進化①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ローソクの進化②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>「割り勘」は当然?①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>「割り勘」は当然?②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table> | | | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | 1 | オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち | 授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 2 | 渡り鳥はなぜ迷わない? | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 3 | フリーズする脳 | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 4 | 「科学」の定義① | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 5 | 「科学」の定義② | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 6 | 現代の若者のマナー① | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 7 | 現代の若者のマナー② | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 8 | 親孝行な男の子 | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 9 | 言語と文化① | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 10 | 言語と文化② | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 11 | ローソクの進化① | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 12 | ローソクの進化② | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 13 | 「割り勘」は当然?① | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 14 | 「割り勘」は当然?② | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 15 | 総復習 | 総復習 | 第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習 |
| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち | 授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 渡り鳥はなぜ迷わない? | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | フリーズする脳 | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 「科学」の定義① | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 「科学」の定義② | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 現代の若者のマナー① | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 現代の若者のマナー② | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 親孝行な男の子 | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 言語と文化① | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 言語と文化② | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | ローソクの進化① | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | ローソクの進化② | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 「割り勘」は当然?① | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 「割り勘」は当然?② | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 総復習 | 総復習 | 第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 日本語文法 F II、日本語読解 F I | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう! | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週 1 時間。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|----------|
| 科目名 | 日本語文法FⅡ | 科目名(英文) | |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 佐々木 成美 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:EO,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△0:DP8○ | | |
| 科目ナンバリング | FF02317a1 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。 |
| 到達目標 | 中上級～上級の文法項目が運用できる。 |
| 授業方法と留意点 | <ul style="list-style-type: none"> 主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 オンライン授業に変更になった場合、プリントの代わりにパワーポイントを使用する。 小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。 |
| 科目学習の効果(資格) | 高度な日本語運用能力 |

| | | | | |
|------|----|----------------|-------------------------|-------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション 涙 | 授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 |
| | 2 | 統計と数字① | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 |
| | 3 | 統計と数字② | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 |
| | 4 | 背理法① | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 5 | 背理法② | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 |
| | 6 | 「待つ」こと① | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 |
| | 7 | 「待つ」こと② | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 |
| | 8 | ついでに何を？① | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 |
| | 9 | ついでに何を？② | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 |
| | 10 | ウイルス発見！① | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 |
| | 11 | ウイルス発見！② | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 |
| | 12 | 大学で学ぶこと① | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 |
| | 13 | 大学で学ぶこと② | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 |
| | 14 | 何のために「学ぶ」のか | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 |
| | 15 | 総復習 | 総復習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 |

| | |
|------|-----------------|
| 関連科目 | 日本語文法FⅠ、日本語読解FⅡ |
|------|-----------------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|----------|-----------------------------------|
| 評価方法(基準) | 授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%) |
|----------|-----------------------------------|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！ |
|-----------|---|

| | |
|----------|---------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) |
|----------|---------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認(復習)。目安は毎週1時間。 |
|----|---|

| | | | |
|----------------|---|----------|----------|
| 科目名 | 日本事情 F I | 科目名 (英文) | |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 門脇 薫 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○ | | |
| 科目ナンバリング | FF01312a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。 |
| 到達目標 | 日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします |
| 授業方法と留意点 | 各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------|---------------------|---|
| | | | |
| 1 | ガイダンス・日本語レベルのチェック | 授業の概要・進め方について・スピーチ | テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間) |
| 2 | 映画 1 : テーマ「大学生生活」 | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間) |
| 3 | 映画 1 : テーマ「大学生生活」 | 内容理解、タスク | テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間) |
| 4 | 映画 1 : テーマ「大学生生活」 | タスク、ディスカッション | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間) |
| 5 | 映画 2 : テーマ「職業」 | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間) |
| 6 | 映画 2 : テーマ「職業」 | 内容理解、タスク | テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間) |
| 7 | 映画 2 : テーマ「職業」 | タスク、ディスカッション | プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間) |
| 8 | テーマ 1・2 に関する発表 | 発表、質疑応答、ディスカッション | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間) |
| 9 | 映画 3 : テーマ「子どもと社会」 | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間) |
| 10 | 映画 3 : テーマ「子どもと社会」 | 内容理解、タスク | テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間) |
| 11 | 映画 3 : テーマ「子どもと社会」 | タスク、ディスカッション | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間) |
| 12 | 映画について発表 (1) | 発表、質疑応答 | 各自発表準備、フィードバック (計 2 時間) |
| 13 | 映画について発表 (2) | 発表、質疑応答 | 各自発表準備、フィードバック (計 2 時間) (計 2 時間) |
| 14 | 映画について発表 (3) | 発表、質疑応答 | 原稿修正、レポート (計 2 時間) |
| 15 | 総まとめ | ディスカッション | サイトに投稿する (計 2 時間) |

| | |
|------|---------------------------------|
| 関連科目 | 日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話 |
|------|---------------------------------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----------------|-------|-----------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 映画でジャパニーズ | 窪田守弘編 | 南雲堂フェニックス |
| | 2 | 映画で日本文化を学ぶ人のために | 窪田守弘編 | 世界思想社 |
| | 3 | | | |

| | |
|---------------|--|
| 評価方法 (基準) | 各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。 |
| 学生への メッセージ | 映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。 |
| 担当者の 研究室等 | 7号館4階(門脇研究室) |
| 備考 | |

| | | | |
|----------------|---|----------|----------|
| 科目名 | 日本事情F II | 科目名 (英文) | |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 門脇 薫 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○ | | |
| 科目ナンバリング | FF02313a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。 |
| 到達目標 | 日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします |
| 授業方法と留意点 | ・各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴: 内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------|----------------------|--|
| | | | |
| 1 | ガイダンス・日本語レベルのチェック | 授業の概要・進め方について・スピーチ | テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間) |
| 2 | 映画1: テーマ「家族」 | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間) |
| 3 | 映画1: テーマ「家族」 | 内容理解、タスク | テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間) |
| 4 | 映画1: テーマ「家族」 | タスク、ディスカッション | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2 時間) |
| 5 | 映画2: テーマ「教育」 | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2 時間) |
| 6 | 映画2: テーマ「教育」 | 内容理解、タスク | テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間) |
| 7 | 映画2: テーマ「教育」 | タスク、ディスカッション | プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計2 時間) |
| 8 | テーマ1・2に関する発表 | 発表、質疑応答、ディスカッション | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2 時間) |
| 9 | 映画3: テーマ「言葉」 | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2 時間) |
| 10 | 映画3: テーマ「言葉」 | 内容理解、タスク | テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間) |
| 11 | 映画3: テーマ「言葉」 | タスク、ディスカッション | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2 時間) |
| 12 | 日本での経験 | 内容について検討 | テーマを考える、内容について調べる (計1.5 時間) |
| 13 | 日本での経験 | ディスカッション、文章作成 | 受講生の文章にコメントする (計1.5 時間) |
| 14 | 日本での経験 | 作文内容についてグループワーク、文章修正 | 文章修正、発表準備 (計1.5 時間) |
| 15 | 発表 (新聞に投稿する) | 発表、質疑応答、 | 文章修正、投稿する (計1.5 時間) |

| | |
|------|---------------------------------|
| 関連科目 | 日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話 |
|------|---------------------------------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----------------|-------|-----------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 映画でジャパニーズ | 窪田守弘編 | 南雲堂フェニックス |
| | 2 | 映画で日本文化を学ぶ人のために | 窪田守弘編 | 世界思想社 |
| | 3 | | | |

| | |
|---------------|---|
| 評価方法 (基準) | 各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。 |
| 学生への メッセージ | 映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。 |
| 担当者の 研究室等 | 7号館4階(門脇研究室) |
| 備考 | |

| | | | |
|----------------|---|----------|---------------|
| 科目名 | 日本語総合F I | 科目名 (英文) | |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 鎌田 美保, 古川 由理子 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○ | | |
| 科目ナンバリング | FF01320a1 | | |

| | | | | |
|--------------|---|---------------------|----------------------------------|--------------------------------|
| 授業概要・目的 | 講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。 | | | |
| 到達目標 | まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。 | | | |
| 授業方法と留意点 | さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 課題のフィードバックは授業中に行う。 | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | | | | |
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | 授業概要説明 ウォーミングアップ | 授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ | 自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する |
| | 2 | トピック 1-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える |
| | 3 | トピック 1-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する |
| | 4 | トピック 2-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える |
| | 5 | トピック 2-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する |
| | 6 | トピック 3-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える |
| | 7 | トピック 3-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する |
| | 8 | トピック 4-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える |
| | 9 | トピック 4-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する |
| | 10 | トピック 5-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える |
| | 11 | トピック 5-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する |
| | 12 | 発表資料の作り方 | 発表資料の作り方について学ぶ | 発表テーマを決めておく |
| | 13 | 発表準備 1 | 発表資料の作成 | 発表資料の作成 (残り) |
| | 14 | 発表準備 2 | 発表資料の修正 | 発表練習 (文体に気を付ける) |
| 15 | 口頭発表 | 発表 質疑応答 振り返り | 質疑応答の仕方について復習する | |
| 関連科目 | | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。 *オンライン授業になった場合は、毎回の課題提出により評価する。 | | | |
| 学生へのメッセージ | 受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。 | | | |
| 担当者の研究室等 | 2号館 2階 グローバル教育センター | | | |
| 備考 | 事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|---------------|
| 科目名 | 日本語総合FⅡ | 科目名(英文) | |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 鎌田 美保, 古川 由理子 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:EO,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△0:DP8○ | | |
| 科目ナンバリング | FF02321a1 | | |

| | | | | |
|-------------|---|---------------------|----------------------------------|-------------------------------|
| 授業概要・目的 | 講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。 | | | |
| 到達目標 | まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。 | | | |
| 授業方法と留意点 | さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 課題のフィードバックは授業中に行う。 | | | |
| 科目学習の効果(資格) | | | | |
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | 授業概要説明 ウォーミングアップ | 授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ | 自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する |
| | 2 | トピック 1-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える |
| | 3 | トピック 1-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する |
| | 4 | トピック 2-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える |
| | 5 | トピック 2-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する |
| | 6 | トピック 3-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える |
| | 7 | トピック 3-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する |
| | 8 | トピック 4-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える |
| | 9 | トピック 4-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する |
| | 10 | トピック 5-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える |
| | 11 | トピック 5-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する |
| | 12 | 発表資料の作り方 | 発表資料の作り方について学ぶ | 発表テーマを決めておく |
| | 13 | 発表準備 1 | 発表資料の作成 | 発表資料の作成(残り) |
| | 14 | 発表準備 2 | 発表資料の修正 | 発表練習(文体に気を付ける) |
| 15 | 口頭発表 | 発表 質疑応答 振り返り | 質疑応答の仕方について復習する | |
| 関連科目 | | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法(基準) | 授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。 | | | |
| 学生へのメッセージ | 受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。 | | | |
| 担当者の研究室等 | 2号館2階 グローバル教育センター | | | |
| 備考 | 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|----------|
| 科目名 | 専門日本語 F I | 科目名 (英文) | |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 塩谷 尚子 |
| ディプロマポリシー (DP) | V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△0 : DP8○ | | |
| 科目ナンバリング | FF01322a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。 |
| 到達目標 | ・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。 |
| 授業方法と留意点 | 授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。 ハンドアウトを使用する。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。 |

| | | | | |
|------|----|-----------|----------------------------|-------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション | 授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用 | 様々なコミュニケーションの形式の復習 |
| | 2 | Eメールの書き方1 | Eメールの基本 | Eメールで使われる形式、表現等の復習 |
| | 3 | Eメールの書き方2 | レポート提出のメール | レポート提出に必要な語彙、表現の復習 |
| | 4 | Eメールの書き方3 | 依頼メール1 | 依頼メールに必要な語彙、表現の復習 |
| | 5 | Eメールの書き方4 | 依頼メール2 | 依頼メールの書き方の復習 |
| | 6 | Eメールの書き方5 | 問い合わせ／質問メール | 問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習 |
| | 7 | 話し方1 | 話題の変え方 | 話題を変える時に必要な語彙、表現の復習 |
| | 8 | 話し方2 | 話の終わらせ方 | 話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習 |
| | 9 | 話し方3 | 話の広げ方 | 話の広げ方で必要な語彙、表現の復習 |
| | 10 | 自己PR1 | 自己PRとは何か | 自己PRで必要な項目を復習 |
| | 11 | 自己PR2 | 自己PR例の検討、修正1 | 自己PRで必要な語彙、表現の復習 |
| | 12 | 自己PR3 | 自己PR例の検討、修正2 | 自己PRで必要な語彙、表現の復習 |
| | 13 | 自己PR4 | 自分の自己PRを書く1 | 自己PRで必要な形式、書き方の復習 |
| | 14 | 自己PR5 | 自分の自己PRを書く2 | 自己PRの書き方の復習 |
| | 15 | 総復習 | 総復習 | 今学期で学んだことを振り返る。 |

| | |
|------|------------|
| 関連科目 | 専門日本語 F II |
|------|------------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 授業内での取り組み、課題の提出物等 (40%)、定期試験 (60%) により総合的に判断する。 |
|-----------|---|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 またその際に必要な表現をしっかりと確認してください。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|----------------|
| 担当者の研究室等 | 非常勤講師室 (7号館2階) |
|----------|----------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 |
|----|---|

| | | | |
|----------------|--|----------|----------|
| 科目名 | 専門日本語 F II | 科目名 (英文) | |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 新谷 知佳 |
| ディプロマポリシー (DP) | V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△0 : DP8○ | | |
| 科目ナンバリング | FF02323a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目指す。ビジネス場面で使用する日本語表現、異文化ビジネスコミュニケーションについて学ぶ。 |
| 到達目標 | 相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができる。ビジネス場面で使用する日本語表現を理解し、使用することができる。異文化ビジネスコミュニケーションについて理解できる。 |
| 授業方法と留意点 | 教師が準備した資料及びタスクシートをもとに講義、ディスカッション等を行う。 |
| 科目学習の効果 (資格) | ビジネス日本語・ビジネスマナー・日本の会社についての知識を得ることによって日本での就職活動及び就職に必要な知識やスキルを身につけることができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------------|--------------------------------------|---|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション 日本語のレベルチェック | 授業の説明 | 授業で確認した語彙、表現の復習 |
| 2 | ビジネス日本語 1 聞く・話す | ビジネス場面の会話 表現、敬語 | ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題 |
| 3 | ビジネス日本語 2 聞く・話す | ビジネス場面の会話 表現、敬語 | ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題 |
| 4 | ビジネス日本語 3 聞く・話す | ビジネス場面の会話 表現、敬語 | ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題 |
| 5 | ビジネス日本語 4 読む | 速読、精読 内容理解 | 文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題 |
| 6 | ビジネス日本語 5 読む | 速読、精読 内容理解 | 文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題 |
| 7 | ビジネス日本語 6 書く | ビジネス文書の書き方 | ビジネス文書の形式、表現の復習 授業で提示した課題 |
| 8 | ビジネス日本語 7 書く | Eメールの書き方 | ビジネスにおけるEメールに必要な形式、書き方の復習 授業で提示した課題 |
| 9 | ビジネス日本語 8 | 履歴書の書き方 | 履歴書を書く時に必要な表現の復習 授業で提示した課題 |
| 10 | ビジネスマナー | 異文化ビジネスコミュニケーション | 異文化ビジネスコミュニケーションに必要な項目、表現の復習 授業で提示した課題 |
| 11 | 日本の会社 1 | 日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション | 授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題 |
| 12 | 日本の会社 2 | 日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション | 授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題 |
| 13 | 日本の会社 3 | 日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション | 授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題 |
| 14 | 日本の会社と仕事 | 仕事に関するドラマを視聴し、内容をまとめる。また、内容について話し合う。 | 授業で確認した語彙、表現等の復習 |
| 15 | 総復習 | 総復習 | 今学期で学んだことを振り返る。 |

| | |
|------|-----------|
| 関連科目 | 専門日本語 F I |
|------|-----------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 授業内での取り組み、課題の提出物等 (50%)、定期試験 (50%) により総合的に判断する。 |
|-----------|---|

| | |
|-----------|------------------------|
| 学生へのメッセージ | 授業では積極的に発言することが求められます。 |
|-----------|------------------------|

| | |
|----------|-----------------|
| 担当者の研究室等 | 非常勤講師室 (7号館 2階) |
|----------|-----------------|

| | |
|----|--|
| 備考 | (1) 事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 (2) 授業進度及び参加学生のニーズによって授業内容が多少変更することがある。 (3) 授業外の質問等には、メールで対応する。 |
|----|--|

| | | | |
|----------------|--|----------|----------|
| 科目名 | 日本語会話F I | 科目名 (英文) | |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 茶園 直人 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: IIIo, IVo, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: Eo, C科: IIIo, VIo, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0: DP8○ | | |
| 科目ナンバリング | FF01324a1 | | |

| 授業概要・目的 | <p>この授業は大学の授業や日常生活に必要な会話の能力を身につけることを目的としています。特に、「身近な話題についてディスカッションを行い、適切な結論が導けるようになること」を目指します。</p> <p>授業の概要は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生同士のディスカッションを行う。 ・身の回りのテーマを中心に扱う。 <p>主に留学生同士の会話になりますが、教員が適宜フィードバックを行い、他の授業で日本人を相手に日本語でディスカッションを行うことができるようになることを目指します。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|---|--|----------------------------------|----|-------|---------|-----------|---|------------------------------------|-------------|----------------------------------|---|-------------|----------|---------------------|---|-------------|------|---------------------|---|-----------|-------------|---------------------|---|-----------|-------------|---------------------|---|-----------|---------------------------|---------------------|---|-----------|---------------|---------------------|---|-----------|--|---------------------|---|-----------|----------------------|---------------------|----|-----------|---------------------|---------------------|----|-----------|--------|---------------------|----|-----------|----------------------|---------------------|----|-----------|-------------|---------------------|----|-----------|---------------|---------------------|----|-----------|---------------|---------------------|
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 身近な話題について、根拠を示して説得力のある意見を述べるができる 2. 身近な話題について、自分とは異なる意見であっても尊重し、適切に理解することができる。また、必要に応じて質問をして、理解を補うことができる 3. 身近な話題について、グループで協力して、論点を整理し、適切に結論を導くことができる 4. ディスカッションの方法や姿勢、マナーを身につける | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>ペアワークなどを通して、受講生が「話す」ことを中心とする。</p> <p>教材はプリントを配布する。</p> <p>教員は適宜フィードバックを行う。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業概要説明 ウォーミングアップ ディスカッションの基本</td> <td>授業の進め方、自己紹介</td> <td>自己紹介の準備。(自分の興味関心について話せるようにしておく。)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ディスカッションの基本</td> <td>意見と根拠を言う</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ディスカッションの基本</td> <td>質問する</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ディスカッション①</td> <td>自分の意見を整理する。</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ディスカッション①</td> <td>意見を整理して報告する</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ディスカッション①</td> <td>整理した意見をもとにディスカッションの練習を行う。</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ディスカッション①</td> <td>ディスカッションの小テスト</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ディスカッション②</td> <td>テーマについてメリット・デメリットを挙げる テーマについて意見と根拠をまとめる</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ディスカッション②</td> <td>意見と根拠に対して質問する/質問に答える</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ディスカッション②</td> <td>意見と根拠に対して反論する/再反論する</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ディスカッション②</td> <td>結論を出す。</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ディスカッション②</td> <td>ディスカッションにおける役割について学ぶ</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>ディスカッション②</td> <td>ディスカッションの練習</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>ディスカッション②</td> <td>ディスカッションの小テスト</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>ディスカッション②</td> <td>ディスカッションの振り返り</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> </tbody> </table> | | | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | 1 | 授業概要説明 ウォーミングアップ ディスカッションの基本 | 授業の進め方、自己紹介 | 自己紹介の準備。(自分の興味関心について話せるようにしておく。) | 2 | ディスカッションの基本 | 意見と根拠を言う | 授業中に配布したプリントを完成させる。 | 3 | ディスカッションの基本 | 質問する | 授業中に配布したプリントを完成させる。 | 4 | ディスカッション① | 自分の意見を整理する。 | 授業中に配布したプリントを完成させる。 | 5 | ディスカッション① | 意見を整理して報告する | 授業中に配布したプリントを完成させる。 | 6 | ディスカッション① | 整理した意見をもとにディスカッションの練習を行う。 | 授業中に配布したプリントを完成させる。 | 7 | ディスカッション① | ディスカッションの小テスト | 授業中に配布したプリントを完成させる。 | 8 | ディスカッション② | テーマについてメリット・デメリットを挙げる テーマについて意見と根拠をまとめる | 授業中に配布したプリントを完成させる。 | 9 | ディスカッション② | 意見と根拠に対して質問する/質問に答える | 授業中に配布したプリントを完成させる。 | 10 | ディスカッション② | 意見と根拠に対して反論する/再反論する | 授業中に配布したプリントを完成させる。 | 11 | ディスカッション② | 結論を出す。 | 授業中に配布したプリントを完成させる。 | 12 | ディスカッション② | ディスカッションにおける役割について学ぶ | 授業中に配布したプリントを完成させる。 | 13 | ディスカッション② | ディスカッションの練習 | 授業中に配布したプリントを完成させる。 | 14 | ディスカッション② | ディスカッションの小テスト | 授業中に配布したプリントを完成させる。 | 15 | ディスカッション② | ディスカッションの振り返り | 授業中に配布したプリントを完成させる。 |
| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 授業概要説明 ウォーミングアップ ディスカッションの基本 | 授業の進め方、自己紹介 | 自己紹介の準備。(自分の興味関心について話せるようにしておく。) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | ディスカッションの基本 | 意見と根拠を言う | 授業中に配布したプリントを完成させる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | ディスカッションの基本 | 質問する | 授業中に配布したプリントを完成させる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | ディスカッション① | 自分の意見を整理する。 | 授業中に配布したプリントを完成させる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | ディスカッション① | 意見を整理して報告する | 授業中に配布したプリントを完成させる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | ディスカッション① | 整理した意見をもとにディスカッションの練習を行う。 | 授業中に配布したプリントを完成させる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | ディスカッション① | ディスカッションの小テスト | 授業中に配布したプリントを完成させる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | ディスカッション② | テーマについてメリット・デメリットを挙げる テーマについて意見と根拠をまとめる | 授業中に配布したプリントを完成させる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | ディスカッション② | 意見と根拠に対して質問する/質問に答える | 授業中に配布したプリントを完成させる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | ディスカッション② | 意見と根拠に対して反論する/再反論する | 授業中に配布したプリントを完成させる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | ディスカッション② | 結論を出す。 | 授業中に配布したプリントを完成させる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | ディスカッション② | ディスカッションにおける役割について学ぶ | 授業中に配布したプリントを完成させる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | ディスカッション② | ディスカッションの練習 | 授業中に配布したプリントを完成させる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | ディスカッション② | ディスカッションの小テスト | 授業中に配布したプリントを完成させる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | ディスカッション② | ディスカッションの振り返り | 授業中に配布したプリントを完成させる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 課題 30%、授業への取り組み 30%、小テスト (2回) 40%で判断する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 非常勤講師室 (7号館 2階) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 試験はディスカッション形式とし、適宜フィードバックを行なう。 授業時間外の相談はメールにて行すが、必要に応じて別途指示する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|----------|
| 科目名 | 日本語会話 F II | 科目名 (英文) | |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 加藤 恵美子 |
| ディプロマポリシー (DP) | V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△0 : DP8○ | | |
| 科目ナンバリング | FF02325a1 | | |

| | |
|----------|---|
| 授業概要・目的 | 講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。 |
| 到達目標 | まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。 |
| 授業方法と留意点 | さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 オンライン授業になった場合は授業中はカメラを ON にすることを求めます。 カメラのない学生は、必ず事前に用意しておくこと。 課題のフィードバックは授業中に行う。 |

| | |
|------------------|--|
| 科目学習の 効果 (資格) | |
|------------------|--|

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------|----------------------------------|---------------------------------|
| | | | |
| 2 | トピック 1-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える |
| 3 | トピック 1-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する |
| 4 | トピック 2-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える |
| 5 | トピック 2-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する |
| 6 | トピック 3-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える |
| 7 | トピック 3-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する |
| 8 | トピック 4-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える |
| 9 | トピック 4-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する |
| 10 | トピック 5-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える |
| 11 | トピック 5-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する |
| 12 | 発表資料の作り方 | 発表資料の作り方について学ぶ | 発表テーマを決めておく |
| 13 | 発表準備 1 | 発表資料の作成 | 発表資料の作成 (残り) |
| 14 | 発表準備 2 | 発表資料の修正 | 発表練習 (文体に気を付ける) |
| 15 | 口頭発表 | 発表 質疑応答 振り返り | 質疑応答の仕方について復習する |

| | |
|------|--|
| 関連科目 | |
|------|--|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 評価方法 (基準) | 授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。 |
|-----------|--|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|-------------------|
| 担当者の研究室等 | 非常勤講師講師室 (7号館 2階) |
|----------|-------------------|

| | |
|----|--|
| 備考 | 事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 口頭発表は、最終授業日に行なう。 |
|----|--|

| | | | |
|----------------|----------|----------|---------------------------------|
| 科目名 | 日本事情 F I | 科目名 (英文) | Japanese Culture and Society FI |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | | | | |
|--------------|----|-------|---------|-----------|
| 授業概要・目的 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 授業方法と留意点 | | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | | | | |
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| | 4 | | | |
| | 5 | | | |
| | 6 | | | |
| | 7 | | | |
| | 8 | | | |
| | 9 | | | |
| | 10 | | | |
| | 11 | | | |
| | 12 | | | |
| | 13 | | | |
| | 14 | | | |
| | 15 | | | |
| 関連科目 | | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | | | | |
| 学生へのメッセージ | | | | |
| 担当者の研究室等備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|----------|----------|----------------------------------|
| 科目名 | 日本事情 FII | 科目名 (英文) | Japanese Culture and Society FII |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | | | | |
|--------------|----|-------|---------|-----------|
| 授業概要・目的 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 授業方法と留意点 | | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | | | | |
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| | 4 | | | |
| | 5 | | | |
| | 6 | | | |
| | 7 | | | |
| | 8 | | | |
| | 9 | | | |
| | 10 | | | |
| | 11 | | | |
| | 12 | | | |
| | 13 | | | |
| | 14 | | | |
| | 15 | | | |
| 関連科目 | | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | | | | |
| 学生へのメッセージ | | | | |
| 担当者の研究室等備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|---------------------|
| 科目名 | 日本語読解 F I | 科目名 (英文) | Japanese Reading FI |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | | | | |
|--------------|----|-------|---------|-----------|
| 授業概要・目的 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 授業方法と留意点 | | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | | | | |
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| | 4 | | | |
| | 5 | | | |
| | 6 | | | |
| | 7 | | | |
| | 8 | | | |
| | 9 | | | |
| | 10 | | | |
| | 11 | | | |
| | 12 | | | |
| | 13 | | | |
| | 14 | | | |
| | 15 | | | |
| 関連科目 | | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | | | | |
| 学生へのメッセージ | | | | |
| 担当者の研究室等備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|----------------------|
| 科目名 | 日本語読解 FII | 科目名 (英文) | Japanese Reading FII |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | | | | |
|--------------|----|-------|---------|-----------|
| 授業概要・目的 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 授業方法と留意点 | | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | | | | |
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| | 4 | | | |
| | 5 | | | |
| | 6 | | | |
| | 7 | | | |
| | 8 | | | |
| | 9 | | | |
| | 10 | | | |
| | 11 | | | |
| | 12 | | | |
| | 13 | | | |
| | 14 | | | |
| | 15 | | | |
| 関連科目 | | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | | | | |
| 学生へのメッセージ | | | | |
| 担当者の研究室等備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|---------------------|
| 科目名 | 日本語文法 F I | 科目名 (英文) | Japanese Grammar FI |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | | | | |
|--------------|----|-------|---------|-----------|
| 授業概要・目的 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 授業方法と留意点 | | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | | | | |
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| | 4 | | | |
| | 5 | | | |
| | 6 | | | |
| | 7 | | | |
| | 8 | | | |
| | 9 | | | |
| | 10 | | | |
| | 11 | | | |
| | 12 | | | |
| | 13 | | | |
| | 14 | | | |
| | 15 | | | |
| 関連科目 | | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | | | | |
| 学生へのメッセージ | | | | |
| 担当者の研究室等備考 | | | | |

| | | | |
|---------------|----------|---------|----------------------|
| 科目名 | 日本語文法FII | 科目名(英文) | Japanese Grammar FII |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | | | | |
|-------------|----|-------|--------|-----------|
| 授業概要・目的 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 授業方法と留意点 | | | | |
| 科目学習の効果(資格) | | | | |
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| | 4 | | | |
| | 5 | | | |
| | 6 | | | |
| | 7 | | | |
| | 8 | | | |
| | 9 | | | |
| | 10 | | | |
| | 11 | | | |
| | 12 | | | |
| | 13 | | | |
| | 14 | | | |
| | 15 | | | |
| 関連科目 | | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法(基準) | | | | |
| 学生へのメッセージ | | | | |
| 担当者の研究室等備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|-------------|----------|---------------------------------|
| 科目名 | 日本語表現作文 F I | 科目名 (英文) | Japanese Reading and Writing FI |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | | | | |
|--------------|----|-------|---------|-----------|
| 授業概要・目的 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 授業方法と留意点 | | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | | | | |
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| | 4 | | | |
| | 5 | | | |
| | 6 | | | |
| | 7 | | | |
| | 8 | | | |
| | 9 | | | |
| | 10 | | | |
| | 11 | | | |
| | 12 | | | |
| | 13 | | | |
| | 14 | | | |
| | 15 | | | |
| 関連科目 | | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | | | | |
| 学生へのメッセージ | | | | |
| 担当者の研究室等備考 | | | | |

| | | | |
|---------------|------------|---------|----------------------------------|
| 科目名 | 日本語表現作文FII | 科目名(英文) | Japanese Reading and Writing FII |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | | | | |
|-------------|----|-------|--------|-----------|
| 授業概要・目的 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 授業方法と留意点 | | | | |
| 科目学習の効果(資格) | | | | |
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| | 4 | | | |
| | 5 | | | |
| | 6 | | | |
| | 7 | | | |
| | 8 | | | |
| | 9 | | | |
| | 10 | | | |
| | 11 | | | |
| | 12 | | | |
| | 13 | | | |
| | 14 | | | |
| | 15 | | | |
| 関連科目 | | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法(基準) | | | | |
| 学生へのメッセージ | | | | |
| 担当者の研究室等備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|---------------------------|
| 科目名 | 日本語総合 F I | 科目名 (英文) | Comprehensive Japanese FI |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | | | | |
|--------------|----|-------|---------|-----------|
| 授業概要・目的 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 授業方法と留意点 | | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | | | | |
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| | 4 | | | |
| | 5 | | | |
| | 6 | | | |
| | 7 | | | |
| | 8 | | | |
| | 9 | | | |
| | 10 | | | |
| | 11 | | | |
| | 12 | | | |
| | 13 | | | |
| | 14 | | | |
| | 15 | | | |
| 関連科目 | | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | | | | |
| 学生へのメッセージ | | | | |
| 担当者の研究室等備考 | | | | |

| | | | |
|---------------|----------|---------|----------------------------|
| 科目名 | 日本語総合FII | 科目名(英文) | Comprehensive Japanese FII |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | | | | |
|-------------|----|-------|--------|-----------|
| 授業概要・目的 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 授業方法と留意点 | | | | |
| 科目学習の効果(資格) | | | | |
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| | 4 | | | |
| | 5 | | | |
| | 6 | | | |
| | 7 | | | |
| | 8 | | | |
| | 9 | | | |
| | 10 | | | |
| | 11 | | | |
| | 12 | | | |
| | 13 | | | |
| | 14 | | | |
| | 15 | | | |
| 関連科目 | | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法(基準) | | | | |
| 学生へのメッセージ | | | | |
| 担当者の研究室等備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-----------------------------------|
| 科目名 | 専門日本語 F I | 科目名 (英文) | Japanese for Specific Purposes FI |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | | | | |
|--------------|----|-------|---------|-----------|
| 授業概要・目的 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 授業方法と留意点 | | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | | | | |
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| | 4 | | | |
| | 5 | | | |
| | 6 | | | |
| | 7 | | | |
| | 8 | | | |
| | 9 | | | |
| | 10 | | | |
| | 11 | | | |
| | 12 | | | |
| | 13 | | | |
| | 14 | | | |
| | 15 | | | |
| 関連科目 | | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | | | | |
| 学生へのメッセージ | | | | |
| 担当者の研究室等備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|------------------------------------|
| 科目名 | 専門日本語 FII | 科目名 (英文) | Japanese for Specific Purposes FII |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | | | | |
|--------------|----|-------|---------|-----------|
| 授業概要・目的 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 授業方法と留意点 | | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | | | | |
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| | 4 | | | |
| | 5 | | | |
| | 6 | | | |
| | 7 | | | |
| | 8 | | | |
| | 9 | | | |
| | 10 | | | |
| | 11 | | | |
| | 12 | | | |
| | 13 | | | |
| | 14 | | | |
| | 15 | | | |
| 関連科目 | | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | | | | |
| 学生へのメッセージ | | | | |
| 担当者の研究室等備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|--------------------------|
| 科目名 | 日本語会話 F I | 科目名 (英文) | Japanese Conversation FI |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | | | | |
|--------------|----|-------|---------|-----------|
| 授業概要・目的 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 授業方法と留意点 | | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | | | | |
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| | 4 | | | |
| | 5 | | | |
| | 6 | | | |
| | 7 | | | |
| | 8 | | | |
| | 9 | | | |
| | 10 | | | |
| | 11 | | | |
| | 12 | | | |
| | 13 | | | |
| | 14 | | | |
| | 15 | | | |
| 関連科目 | | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | | | | |
| 学生へのメッセージ | | | | |
| 担当者の研究室等備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|---------------------------|
| 科目名 | 日本語会話 FII | 科目名 (英文) | Japanese Conversation FII |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | | | | |
|--------------|----|-------|---------|-----------|
| 授業概要・目的 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 授業方法と留意点 | | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | | | | |
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| | 4 | | | |
| | 5 | | | |
| | 6 | | | |
| | 7 | | | |
| | 8 | | | |
| | 9 | | | |
| | 10 | | | |
| | 11 | | | |
| | 12 | | | |
| | 13 | | | |
| | 14 | | | |
| | 15 | | | |
| 関連科目 | | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | | | | |
| 学生へのメッセージ | | | | |
| 担当者の研究室等備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|---|----------|--------|
| 科目名 | 日本語読解R | 科目名 (英文) | |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 帰国学生対象 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 佐々木 成美 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○ | | |
| 科目ナンバリング | RRE1328a1 | | |

| 授業概要・目的 | この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|---|----------------------|--------------------------------|----|-------|---------|-----------|---|----------------------------------|----------------------|-------------------|---|-------------|-------------------|-------------------|---|---------|-------------------|-------------------|---|----------|---------|-------------------|---|----------|---------------------|--------------------------------|---|------------|---------|-------------------|---|------------|---------------------|------------|---|---------|-------------|-------------------|---|--------|---------|-------------------|----|--------|---------------------|--------------------------------|----|----------|---------|-------------------|----|----------|---------------------|------------|----|------------|---------|-------------------|----|------------|---------------------|--------------------------------|----|-----|-----|-------------------|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有) ・Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | 専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td> <td>授業の進め方の説明 読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>渡り鳥はなぜ迷わない？</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>フリーズする脳</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「科学」の定義①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「科学」の定義②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>現代の若者のマナー①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>現代の若者のマナー②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク</td> <td>語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>親孝行な男の子</td> <td>読解、内容理解、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>言語と文化①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>言語と文化②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ローソクの進化①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ローソクの進化②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク</td> <td>語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>「割り勘」は当然？①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>「割り勘」は当然？②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table> | | | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | 1 | オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち | 授業の進め方の説明 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 2 | 渡り鳥はなぜ迷わない？ | 読解、内容理解、内容をまとめる練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 3 | フリーズする脳 | 読解、内容理解、内容をまとめる練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 4 | 「科学」の定義① | 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 5 | 「科学」の定義② | 語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク | 授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認 | 6 | 現代の若者のマナー① | 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 7 | 現代の若者のマナー② | 語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク | 語彙テストの内容確認 | 8 | 親孝行な男の子 | 読解、内容理解、タスク | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 9 | 言語と文化① | 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 10 | 言語と文化② | 語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク | 授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認 | 11 | ローソクの進化① | 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 12 | ローソクの進化② | 語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク | 語彙テストの内容確認 | 13 | 「割り勘」は当然？① | 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 14 | 「割り勘」は当然？② | 語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク | 授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認 | 15 | 総復習 | 総復習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 |
| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち | 授業の進め方の説明 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 渡り鳥はなぜ迷わない？ | 読解、内容理解、内容をまとめる練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | フリーズする脳 | 読解、内容理解、内容をまとめる練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 「科学」の定義① | 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 「科学」の定義② | 語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク | 授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 現代の若者のマナー① | 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 現代の若者のマナー② | 語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク | 語彙テストの内容確認 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 親孝行な男の子 | 読解、内容理解、タスク | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 言語と文化① | 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 言語と文化② | 語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク | 授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | ローソクの進化① | 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | ローソクの進化② | 語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク | 語彙テストの内容確認 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 「割り勘」は当然？① | 読解、内容理解 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 「割り勘」は当然？② | 語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク | 授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 総復習 | 総復習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 日本語読解FII | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 非常勤講師室 (前期 3号館 2階/後期 7号館 2階) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週 1 時間。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|--------|
| 科目名 | 日本語表現作文R | 科目名 (英文) | |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 帰国学生対象 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 佐々木 成美 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△○: DP8○ | | |
| 科目ナンバリング | RRE1330a1 | | |

| 授業概要・目的 | この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|---|---------------------------|---------------------------|----|-------|---------|-----------|---|---------------------|---------------------------|-------------------|---|------------|-------------------|-------------------|---|--------|-----------------|-------------------|---|-----|------------|-------------------|---|-----|------|---------------------------|---|-------|-------------|-------------------|---|-------|------|---------------------------|---|----|-----------------|-------------------|---|----|-----------|-------------------|----|-------|------|---------------------------|----|----|-----------|-------------------|----|-----|-----------|-------------------|----|-----|------|---------------------------|----|-------|------------|-------------------|----|-----|-----|-------------------|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。 ・Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | レポートや論文を書くための基礎力を身につける。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table> | | | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | 1 | オリエンテーション 日本語の文体 | 授業についての説明 日本語の文体について学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 2 | レポート・論文の文体 | レポート・論文に使われる文体を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 3 | 記号の使い方 | 句読点、各種記号の使い方を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 4 | 段落① | 段落構成について学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 5 | 段落② | 実践練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題 | 6 | 経過説明① | 経過説明の書き方を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 7 | 経過説明② | 実践練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題 | 8 | 分類 | 「分類」をする文の書き方を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 9 | 定義 | 定義の書き方を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 10 | 分類・定義 | 実践練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題 | 11 | 引用 | 引用の書き方を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 12 | 要約① | 要約の書き方を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 13 | 要約② | 実践練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題 | 14 | 資料の利用 | 資料の利用方法を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | 15 | 総復習 | 総復習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 |
| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | オリエンテーション 日本語の文体 | 授業についての説明 日本語の文体について学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | レポート・論文の文体 | レポート・論文に使われる文体を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 記号の使い方 | 句読点、各種記号の使い方を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 段落① | 段落構成について学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 段落② | 実践練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 経過説明① | 経過説明の書き方を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 経過説明② | 実践練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 分類 | 「分類」をする文の書き方を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 定義 | 定義の書き方を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 分類・定義 | 実践練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 引用 | 引用の書き方を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | 要約① | 要約の書き方を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 要約② | 実践練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 資料の利用 | 資料の利用方法を学ぶ | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 総復習 | 総復習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 日本語表現作文FII | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 非常勤講師室 (前期 3号館 2階/後期 7号館 2階) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週 1 時間。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|---|----------|--------|
| 科目名 | 日本語文法R | 科目名 (英文) | |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 帰国学生対象 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 佐々木 成美 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○ | | |
| 科目ナンバリング | RRE1329a1 | | |

| | |
|----------|--|
| 授業概要・目的 | この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。 |
| 到達目標 | 中上級～上級の文法項目が運用できる。 |
| 授業方法と留意点 | <ul style="list-style-type: none"> 主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 オンライン授業に変更になった場合、プリントの代わりにパワーポイントを使用する。 小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。 |

| | |
|--------------|------------|
| 科目学習の効果 (資格) | 高度な日本語運用能力 |
|--------------|------------|

| | | | | |
|------|----|----------------|-------------------------|-------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション 涙 | 授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 |
| | 2 | 統計と数字① | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 |
| | 3 | 統計と数字② | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 |
| | 4 | 背理法① | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 5 | 背理法② | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 |
| | 6 | 「待つ」こと① | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 |
| | 7 | 「待つ」こと② | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 |
| | 8 | ついでに何を？① | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 |
| | 9 | ついでに何を？② | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 |
| | 10 | ウイルス発見！① | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 |
| | 11 | ウイルス発見！② | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 |
| | 12 | 大学で学ぶこと① | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 |
| | 13 | 大学で学ぶこと② | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 |
| | 14 | 何のために「学ぶ」のか | 文法項目の解説と練習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 |
| | 15 | 総復習 | 総復習 | 授業内で使用したプリントを使い復習 |

| | |
|------|----------------------|
| 関連科目 | 日本語文法 F I、日本語読解 F II |
|------|----------------------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|--------------------------------------|
| 評価方法 (基準) | 授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%) |
|-----------|--------------------------------------|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！ |
|-----------|---|

| | |
|----------|----------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 (非常勤講師室) |
|----------|----------------|

| | |
|----|--|
| 備考 | (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週1時間。 |
|----|--|

| | | | |
|---------------|--|----------|--------|
| 科目名 | 日本事情 R I | 科目名 (英文) | |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 帰国学生対象 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 門脇 薫 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科:III○,IV○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:EO,C科:III○,VI○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△0:DP8○ | | |
| 科目ナンバリング | RRE1326a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。 |
| 到達目標 | 日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします |
| 授業方法と留意点 | 各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------|---------------------|---|
| | | | |
| 1 | ガイダンス・日本語レベルのチェック | 授業の概要・進め方について・スピーチ | テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間) |
| 2 | 映画 1 : テーマ「大学生生活」 | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間) |
| 3 | 映画 1 : テーマ「大学生生活」 | 内容理解、タスク | テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間) |
| 4 | 映画 1 : テーマ「大学生生活」 | タスク、ディスカッション | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間) |
| 5 | 映画 2 : テーマ「職業」 | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間) |
| 6 | 映画 2 : テーマ「職業」 | 内容理解、タスク | テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間) |
| 7 | 映画 2 : テーマ「職業」 | タスク、ディスカッション | プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間) |
| 8 | テーマ 1・2 に関する発表 | 発表、質疑応答、ディスカッション | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間) |
| 9 | 映画 3 : テーマ「子どもと社会」 | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間) |
| 10 | 映画 3 : テーマ「子どもと社会」 | 内容理解、タスク | テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間) |
| 11 | 映画 3 : テーマ「子どもと社会」 | タスク、ディスカッション | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間) |
| 12 | 映画について発表 (1) | 発表、質疑応答 | 各自発表準備、フィードバック (計 2 時間) |
| 13 | 映画について発表 (2) | 発表、質疑応答 | 各自発表準備、フィードバック (計 2 時間) (計 2 時間) |
| 14 | 映画について発表 (3) | 発表、質疑応答 | 原稿修正、レポート (計 2 時間) |
| 15 | 総まとめ | ディスカッション | サイトに投稿する (計 2 時間) |

関連科目 日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|-----------------|-----------|-------|-----------|
| | 1 | 映画でジャパニーズ | 窪田守弘編 | 南雲堂フェニックス |
| 2 | 映画で日本文化を学ぶ人のために | 窪田守弘編 | 世界思想社 | |
| 3 | | | | |

| | |
|---------------|--|
| 評価方法 (基準) | 各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。 |
| 学生への メッセージ | 映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。 |
| 担当者の 研究室等 | 7号館4階(門脇研究室) |
| 備考 | |

| | | | |
|----------------|---|----------|--------|
| 科目名 | 日本事情R II | 科目名 (英文) | |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 帰国学生対象 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 門脇 薫 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○ | | |
| 科目ナンバリング | RRE2327a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。 |
| 到達目標 | 日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします |
| 授業方法と留意点 | ・各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------|----------------------|--|
| | | | |
| 1 | ガイダンス・日本語レベルのチェック | 授業の概要・進め方について・スピーチ | テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間) |
| 2 | 映画1：テーマ「家族」 | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間) |
| 3 | 映画1：テーマ「家族」 | 内容理解、タスク | テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間) |
| 4 | 映画1：テーマ「家族」 | タスク、ディスカッション | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2 時間) |
| 5 | 映画2：テーマ「教育」 | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2 時間) |
| 6 | 映画2：テーマ「教育」 | 内容理解、タスク | テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間) |
| 7 | 映画2：テーマ「教育」 | タスク、ディスカッション | プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計2 時間) |
| 8 | テーマ1・2に関する発表 | 発表、質疑応答、ディスカッション | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2 時間) |
| 9 | 映画3：テーマ「言葉」 | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2 時間) |
| 10 | 映画3：テーマ「言葉」 | 内容理解、タスク | テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間) |
| 11 | 映画3：テーマ「言葉」 | タスク、ディスカッション | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2 時間) |
| 12 | 日本での経験 | 内容について検討 | テーマを考える、内容について調べる (計1.5 時間) |
| 13 | 日本での経験 | ディスカッション、文章作成 | 受講生の文章にコメントする (計1.5 時間) |
| 14 | 日本での経験 | 作文内容についてグループワーク、文章修正 | 文章修正、発表準備 (計1.5 時間) |
| 15 | 発表 (新聞に投稿する) | 発表、質疑応答、 | 文章修正、投稿する (計1.5 時間) |

| | |
|------|---------------------------------|
| 関連科目 | 日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話 |
|------|---------------------------------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----------------|-------|-----------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 映画でジャパニーズ | 窪田守弘編 | 南雲堂フェニックス |
| | 2 | 映画で日本文化を学ぶ人のために | 窪田守弘編 | 世界思想社 |
| | 3 | | | |

| | |
|---------------|---|
| 評価方法 (基準) | 各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。 |
| 学生への メッセージ | 映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。 |
| 担当者の 研究室等 | 7号館4階(門脇研究室) |
| 備考 | |

| | | | |
|----------------|---|----------|---------------|
| 科目名 | 日本語総合R | 科目名 (英文) | |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 帰国学生対象 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 鎌田 美保, 古川 由理子 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○ | | |
| 科目ナンバリング | RRE1331a1 | | |

| | | | | |
|--------------|---|---------------------|----------------------------------|--------------------------------|
| 授業概要・目的 | 講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。 | | | |
| 到達目標 | まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。 | | | |
| 授業方法と留意点 | さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 課題のフィードバックは授業中に行う。 | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | | | | |
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | 授業概要説明 ウォーミングアップ | 授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ | 自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する |
| | 2 | トピック 1-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える |
| | 3 | トピック 1-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する |
| | 4 | トピック 2-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える |
| | 5 | トピック 2-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する |
| | 6 | トピック 3-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える |
| | 7 | トピック 3-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する |
| | 8 | トピック 4-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える |
| | 9 | トピック 4-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する |
| | 10 | トピック 5-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える |
| | 11 | トピック 5-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する |
| | 12 | 発表資料の作り方 | 発表資料の作り方について学ぶ | 発表テーマを決めておく |
| | 13 | 発表準備 1 | 発表資料の作成 | 発表資料の作成 (残り) |
| | 14 | 発表準備 2 | 発表資料の修正 | 発表練習 (文体に気を付ける) |
| 15 | 口頭発表 | 発表 質疑応答 振り返り | 質疑応答の仕方について復習する | |
| 関連科目 | | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。 | | | |
| 学生へのメッセージ | 受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。 | | | |
| 担当者の研究室等 | 2号館2階 グローバル教育センター | | | |
| 備考 | 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 | | | |

| | | | |
|----------------|---|----------|--------|
| 科目名 | 専門日本語R | 科目名 (英文) | |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 帰国学生対象 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 塩谷 尚子 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○ | | |
| 科目ナンバリング | RRE1332a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。 |
| 到達目標 | ・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。 |
| 授業方法と留意点 | 授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。 ハンドアウトを使用する。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。 |

| | | | | |
|------|----|-----------|----------------------------|-------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション | 授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用 | 様々なコミュニケーションの形式の復習 |
| | 2 | Eメールの書き方1 | Eメールの基本 | Eメールで使われる形式、表現等の復習 |
| | 3 | Eメールの書き方2 | レポート提出のメール | レポート提出に必要な語彙、表現の復習 |
| | 4 | Eメールの書き方3 | 依頼メール1 | 依頼メールに必要な語彙、表現の復習 |
| | 5 | Eメールの書き方4 | 依頼メール2 | 依頼メールの書き方の復習 |
| | 6 | Eメールの書き方5 | 問い合わせ／質問メール | 問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習 |
| | 7 | 話し方1 | 話題の変え方 | 話題を変える時に必要な語彙、表現の復習 |
| | 8 | 話し方2 | 話の終わらせ方 | 話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習 |
| | 9 | 話し方3 | 話の広げ方 | 話の広げ方で必要な語彙、表現の復習 |
| | 10 | 自己PR1 | 自己PRとは何か | 自己PRで必要な項目を復習 |
| | 11 | 自己PR2 | 自己PR例の検討、修正1 | 自己PRで必要な語彙、表現の復習 |
| | 12 | 自己PR3 | 自己PR例の検討、修正2 | 自己PRで必要な語彙、表現の復習 |
| | 13 | 自己PR4 | 自分の自己PRを書く1 | 自己PRで必要な形式、書き方の復習 |
| | 14 | 自己PR5 | 自分の自己PRを書く2 | 自己PRの書き方の復習 |
| | 15 | 総復習 | 総復習 | 今学期で学んだことを振り返る。 |

| | |
|------|----------|
| 関連科目 | 専門日本語FII |
|------|----------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 授業内での取り組み、課題の提出物等 (40%)、定期試験 (60%) により総合的に判断する。 |
|-----------|---|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 またその際に必要な表現をしっかりと確認してください。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|----------------|
| 担当者の研究室等 | 非常勤講師室 (7号館2階) |
|----------|----------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 |
|----|---|

| | | | |
|----------------|--|----------|--------|
| 科目名 | 日本語会話R | 科目名 (英文) | |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 帰国学生対象 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 加藤 恵美子 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0: DP8○ | | |
| 科目ナンバリング | RRE1333a1 | | |

| | |
|----------|--|
| 授業概要・目的 | 講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。 |
| 到達目標 | まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。 |
| 授業方法と留意点 | さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 オンライン授業になった場合は授業中はカメラをONにすることを求めます。 カメラのない学生は、必ず事前に用意をしておくこと。 課題のフィードバックは授業中に行う。 |

| | |
|------------------|--|
| 科目学習の 効果 (資格) | |
|------------------|--|

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------|----------------------------------|--------------------------------|
| | | | |
| 2 | トピック 1-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える |
| 3 | トピック 1-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する |
| 4 | トピック 2-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える |
| 5 | トピック 2-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する |
| 6 | トピック 3-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える |
| 7 | トピック 3-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する |
| 8 | トピック 4-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える |
| 9 | トピック 4-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する |
| 10 | トピック 5-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える |
| 11 | トピック 5-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する |
| 12 | 発表資料の作り方 | 発表資料の作り方について学ぶ | 発表テーマを決めておく |
| 13 | 発表準備 1 | 発表資料の作成 | 発表資料の作成 (残り) |
| 14 | 発表準備 2 | 発表資料の修正 | 発表練習 (文体に気を付ける) |
| 15 | 口頭発表 | 発表 質疑応答 振り返り | 質疑応答の仕方について復習する |

| | |
|------|--|
| 関連科目 | |
|------|--|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 評価方法 (基準) | 授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。 |
|-----------|--|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|-------------------|
| 担当者の研究室等 | 非常勤講師講師室 (7号館 2階) |
|----------|-------------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 事前事後学習時間の目安は毎週 1時間。 口頭発表は、最終授業日に行なう。 |
|----|---|

| | | | |
|----------------|-------|----------|------------------------|
| 科目名 | 教育社会学 | 科目名 (英文) | Sociology of Education |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 大野 順子 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 近年、学校教育現場では様々な問題を抱えるようになってきました。一般的に私たちはそうした問題に対し、学校教育内部でのみ対処し解決しようとする傾向があります。しかしながら、そうした問題の多くは、時に関係のないような社会的、経済的、政治的、そして文化的なシステムと密接な関係性をもっていることが多々あります。そこで本講義では、教育現場で生じている諸問題を、特に社会学的観点からとらえ、検討していくことを目標とします。特に、最近社会問題化している子どもの貧困や教育格差・学力格差問題、ジェンダーにかかわる問題等を扱いながら、体系的に現代社会と教育の関係性について学び、教育社会学の理論や概念を学んでいきます。 |
| 到達目標 | 本講義の到達目標は以下の通りです。 1. 教育社会学の基礎理論と概念について学習する。 2. 現代社会における様々な教育問題について理解する。 3. 教育に関わる諸問題を社会学的観点からとらえ、論理的に思考し、分析し、検討する力を養う。 4. 様々な教育問題に対して、それぞれ意見発表を行い、他者と議論し、解決の方向を見出せる力をつける。 |
| 授業方法と留意点 | ○準備学習の具体的な方法 本授業は指定している教科書を購入し、事前に講義で扱うテーマに該当する部分(章)を読み要約する(事前学習)。また、日頃から新聞・雑誌等で教育に関する記事を読み、どのような問題が教育界では話題になっているのかについて情報を収集しておく。授業の基本的な進め方については、毎時間、授業テーマに入る前に授業開始5分を利用して教育社会学キーワードテストを行うので、そのための事前学習も必要となる。さらに授業テーマの展開については、グループワークやワークショップ、ディスカッション等の参加型学習方法も積極的に取り入れるため、受講生の皆さんの主体的な授業への参加が求められる。 |
| 科目学習の効果(資格) | (1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------|---|--|
| | | | |
| 1 | イントロダクション 教育社会学とは | 教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。 | 事前課題：教科書の序章を読み、疑問点についてまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。 |
| 2 | 近代学校教育制度 | 近代国民国家が求めた「学校教育制度」の意義や性格について考える。 | 事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。 |
| 3 | 教師と子ども | 教師-生徒の関係性」という視点から、学校における教育活動全般を考えていく。 | 事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。 |
| 4 | 校則・体罰・校内暴力 | 学校が抱える諸問題(体罰等)が発生する背景や要因について考え、これら問題が発生した際の危機管理や学校対応等について考える。 | 事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。 |
| 5 | いじめについて | 学校病理問題の一つである「いじめ」について社会学的観点からいじめが発生する構造について明らかにし、いじめが発生した際の危機管理や対応等について考える。 | 事前課題：いじめの現状について調べ、その内容についてまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。 |
| 6 | 不登校について | 学校病理問題の一つである「不登校」問題について社会学的観点から迫り、解釈する。 | 事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。 |
| 7 | 教育格差・階層問題 I | 貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考える。 | 事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。 |
| 8 | 教育格差・階層問題 II | 格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて考える。 | 事前課題：格差解消に向けた取り組みについて調べまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。 |
| 9 | 国の教育政策：海外との比較 | 教育政策、教育費、制度等の観点から日本の教育と海外の教育について比較検討する。 | 事前課題：日本、及び諸外国(例：米英中韓等)それぞれの学校教育制度、教育政策について調べまとめてくる。事後、各国の状況について要約する。 |
| 10 | 地域と学校 I | 地域社会の変容、それに伴う、学校のあり方について検討する。また、連携をする際、何か不測の事態が起こった場合の危機管理や子どもたちの安全等についても考える。 | 事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。 |
| 11 | 地域と学校 II | 地域連携、学社融合の取り組みについての事例研究を行うとともに、学校安全の観点から連携の事例を検討し、よりよい連携のあり方について検討する。 | 事前課題：地域連携の具体例について調べまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。 |
| 12 | ジェンダーと教育 | 学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考える。 | 事前課題：ジェンダー問題を扱った資料(読み物)を読み、その内容についてまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。 |
| 13 | 国家と教育 | 教育の政治化と学校現場において子どもたちや教師たちが直面する問題について考える。 | 事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。 |
| 14 | 在日外国人の子どもたち | 学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の状況について考える。 | 事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。 |
| 15 | 総括 | 「教育改革」をキーワードにこれからの | 事前課題：最終レポートの作成、及びまとめ試験(予 |

| | | | |
|---------------|--|-----------------------|-----------|
| | | 教育のあり方について考える | 定)の準備。 |
| 関連科目 | 「教育原理」「教育社会学」「道德教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」 | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 |
| | 1 | 教師教育テキストシリーズ『教育社会学』 | 久富善之、長谷川裕 |
| | 2 | | |
| | 3 | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 |
| | 1 | 現代教育社会学 | 岩井八郎、近藤博之 |
| | 2 | 新版『教育社会学を学ぶ人のために』 | 石戸教嗣 |
| | 3 | ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー | プレイディみかこ |
| 評価方法 (基準) | 小テスト(30%)、課題(30%)、発表(40%)より総合的に評価する。 ※試験は実施しない予定ではあるが状況により変更する場合がある。 | | |
| 学生への メッセージ | 本講義は、毎週、授業を始める前に小テストを行います。内容については第一回目の授業で説明します。 | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館3階(大野順子研究室) ※メールで連絡してください。アドレスは j-oono@arc.setsunan.ac.jp です。 | | |
| 備考 | 本授業は総授業時間(30時間)に加えて、各回の事前事後学習(課題・レポートの作成も含めて)に各2時間(全15回×4時間=60時間)を要する。 | | |

| | | | |
|----------------|-------|----------|---------------------------------------|
| 科目名 | 教育経営論 | 科目名 (英文) | Studies of Educational Administration |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 朝日 素明 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 本科目では、現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識、および学校や教育行政の組織構造・機能・関係に関する基礎的知識を身につけ、経営の観点から理解するとともに、そこに内在する課題を理解します。そのために、公教育システムに関してなじみの深い事象を参照し、その原理や構造・機能、それに関する政策や法制度、理論や論争、実態や課題を検討していきます。 |
| 到達目標 | 私たちにとってはあたりまえで意識することもないうような、学校教育を中心とした公教育システムのあり方について視野が広がり、理解が深まります。例えば「学校では何を学ぶのか」「学校ではどのように教えられるのか」という内容・方法的な事柄についても、さまざまな制度やその運用によって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がり理解できるようになります。 |
| 授業方法と留意点 | プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------|---|---|
| | | | |
| 2 | 教育権の構造 | 「教育をする権利」「教育を受ける権利」 「学習する権利」 | テキスト第6章を読んでくる。 |
| 3 | 教育を受ける権利の保障 | 教育権論争について簡単なグループワーク 公教育の制度原理 | 教育権についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 |
| 4 | 学校体系のしくみ | 段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者 | テキスト第4章を読んでくる。 |
| 5 | 学校体系の現代的課題 | 「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク 選別・分離と接続・統合 | 教育の制度原理についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 |
| 6 | 教育条件整備の法制度と新しい動向 | 「選抜・選別」について簡単なグループワーク 公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか | 学校の機能に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 |
| 7 | 中央教育行政の組織構造 | 各省庁・審議会 | テキスト第8章を読んでくる。 |
| 8 | 地方教育行政の組織構造 | 教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 首長部局と教育委員会 | テキスト第9章を読んでくる。 |
| 9 | 中央・地方教育行政の関係構造 | 教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク 監督行政と指導行政 教育行政関係の新しい動向 | 教育委員会制度の動向に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 |
| 10 | 指導行政と教育内容行政 | 学習指導要領、研究指定・研究開発、教科書行政 | テキスト第11章を読んでくる。 |
| 11 | 教育課程経営 | 学力低下論争をめぐる簡単なグループワーク カリキュラムマネジメント 学力論争と教育評価論 | 学力低下論争に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第15章を読んでくる。 |
| 12 | 人事行政と教職員管理 | 教職員の資格・身分・服務管理、教育労働管理 | テキスト第10章を読んでくる。 |
| 13 | 学校の組織管理と組織編制 | 教職員配置、学校・学級の「適正規模」「適正配置」 学校評議員制度、学校運営協議会制度 | テキスト第16章、第19章を読んでくる。 |
| 14 | 学校経営の組織構造 | 学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク 学校の組織特性、学校経営の組織と過程 (学校と地域との連携含む) | 学校統廃合に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第14章を読んでくる。 |
| 15 | 学校の安全管理と安全教育 | 安全管理の領域 安全教育の方法 | テキスト第18章を読んでくる。 |

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|---------------|-----|---------|
| | 1 | 公教育経営概説 (改訂版) | 堀内孜 | 学術図書出版社 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |

| | | | |
|---------------|--|--|--|
| | 3 | | |
| 評価方法 (基準) | 定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー10%。定期試験を受験しなかった場合は評価をしません。 | | |
| 学生への メッセージ | 教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。 | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館3階 朝日研究室 | | |
| 備考 | ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。 | | |

| | | | |
|----------------|-------|----------|-----------------------------------|
| 科目名 | 教育課程論 | 科目名 (英文) | Studies of Curriculum Development |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 大野 順子 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | (1) 教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 (2) わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。 |
| 到達目標 | 本講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 学校教育における教育課程の意義について理解できる。 (2) 将来、教職に就いた際、適切な教育課程(カリキュラム)を計画・編成し、かつ、実践、評価し、改善できる資質が身につく。 |
| 授業方法と留意点 | 本授業は、授業全体を通して、みなさん一人一人の授業への主体的な参加が求められます。また、各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を熟読し、さらに、それぞれが取得する免許教科の「学習指導要領」(文部科学省ホームページでダウンロード可能)を入手し、熟読しておいてください。 |
| 科目学習の効果(資格) | 教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目:教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項:教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。) |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------------------------|--|---|
| | | | |
| 1 | 教育課程とは何か/オリエンテーション | 学校教育のもつ機能について。 | 課題:シラバスに挙げている教科書を購入手、授業テーマに該当する分を読み、まとめる。 |
| 2 | 日本における教育課程の歴史的変遷Ⅰ | 戦前から戦後(経験主義～系統主義:高度経済成長期)の教育課程変遷について。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 3 | 日本における教育課程の歴史的変遷Ⅱ | 1970年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 4 | 教育課程(カリキュラム)の概念と構造、および教育課程編成について | 教育課程の編成要素(内部要因と外部要因)について。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 5 | 教育評価 その1 | 子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 6 | 教育評価 その2 | 教育課程評価について。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 7 | 『総合的な学習の時間』について | 導入の背景とそのねらいについて。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 8 | 新しい教育課程 その1 | 「キャリア教育」について。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 9 | 新しい教育課程 その2 | 「アクティブラーニング」について。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 10 | 新しい教育課程 その3 | 「社会に開かれた教育課程」について。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 11 | 教育課程と教育改革 その1 | 特色のある学校づくり=小中高編。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 12 | 教育課程と教育改革 その2 | カリキュラム・マネジメントについて。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 13 | 教育課程と教育格差 その1 | 学力格差と学力低下問題について。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 14 | 教育課程と教育格差 その2 | 教育格差に抗する学校の取り組みについて。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 15 | 総括:教育課程をめぐる諸問題 | 海外の学校教育課程の動向、及び、キー・コンピテンシー(OECD)について。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読み、最終レポートを作成する。 |

| | |
|------|---|
| 関連科目 | 教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。 |
|------|---|

| | | | | |
|-----|----|-----------------|-------|--------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 新しい時代の教育課程(第4版) | 田中耕治他 | 有斐閣アルマ |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|--------------------------|----------|----------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 新教育課程ライブラリ(Vol.1~Vol.12) | (株)ぎょうせい | (株)ぎょうせい |
| | 2 | ワークで学ぶ教育課程論 | 尾崎博美他 | ナカニシヤ出版 |
| | 3 | | | |

| | |
|----------|---------------------------------------|
| 評価方法(基準) | 事前課題及びレポート(30%)と最終試験(70%)により総合的に評価する。 |
|----------|---------------------------------------|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 指定している「教科書」を活用し、毎時間、事前事後学習をしっかりと行ってください。レポート等の提出物に関しては期日までに提出すること。期日以降の提出は原則認めません。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|--|
| 担当者の研究室等 | 7号館3階(大野順子研究室) 連絡先: j-oono@arc.setsunan.ac.jp |
|----------|--|

| | |
|----|---|
| 備考 | 2009年度以前入学生は、(高校)教免取得上選択 授業計画に記載している授業テーマは授業の進捗状況により少々前後することがあります。 授業で用いる資料等については、適宜印刷し、配布します |
|----|---|

事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

| | | | |
|----------------|---------|----------|----------------------------|
| 科目名 | 道徳教育の研究 | 科目名 (英文) | Studies of Moral Education |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 谷口 雄一 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|---------|---|
| 授業概要・目的 | この授業では、中学校において「特別の教科 道徳」(以下、道徳科)の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。 |
| 到達目標 | 受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の道徳科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになることを目標とします。 |

| | |
|----------|--|
| 授業方法と留意点 | 本授業は道徳科の授業づくりについて実践的に学ぶ内容のため対面で行います。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して道徳教育や道徳科の授業についての学びを進めていきます。また、後半には、学習指導案作成等の演習や受講者のみなさんによる模擬授業等を適宜取り入れます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができるように配慮します。 |
|----------|--|

| | |
|--------------|--|
| 科目学習の効果 (資格) | 中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：道徳の理論及び指導法 |
|--------------|--|

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------------------|---|--|
| | | | |
| 1 | ガイダンス：道徳科の授業について考える | ・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める4つのアプローチについて概観する。 | (事前)自身が学校教育においてが受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。 (事後)テキスト2のP.8～17を精読しておく。 |
| 2 | 日本の道徳教育の歴史 | ・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。 | (事前)テキスト1のP.6～12を精読しておく。 (事後)日本の道徳教育の歴史や信念対立について整理しておく。 |
| 3 | よい道徳教育とは何か | よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。 | (事前)テキスト1のP.12～25を精読しておく。 (事後)道徳の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。 |
| 4 | 道徳の授業の多様な指導方法の特徴 | 道徳の授業のねらいに基づく8類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。 | (事前)テキスト1のP.26～35及びテキスト2のP.26～29を精読しておく。 (事後)道徳の授業のねらいに基づく8類型について整理しておく。 |
| 5 | 道徳の授業の発問の構成法 | 「特別の教科 道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。 | (事前)テキスト1のP.36～48及びテキスト2のP.30～33を精読しておく。 (事後)ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。 |
| 6 | 道徳の授業の学習指導案の作成法 | 「特別の教科 道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。 | (事前)テキスト1のP.49～58及びテキスト2のP.34～37を精読しておく。 (事後)道徳の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。 |
| 7 | 道徳の授業の評価 | 「特別の教科 道徳」における評価の内容や方法について考える。 | (事前)テキスト1のP.59～68及びテキスト2のP.38～41を精読しておく。 (事後)道徳の授業の評価の内容や方法について整理しておく。 |
| 8 | 各授業類型のねらいと発問の特徴 | 教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。 | (事前)テキスト1のP.71～85及びテキスト2のP.42～45を精読しておく。 (事後)教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。 |
| 9 | 教材分析の視点 | 教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。 | (事前)テキスト1のP.86～95及びテキスト2のP.46～49を精読しておく。 (事後)教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。 |
| 10 | 発問分析による授業づくりの視点 | 発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。 | (事前)テキスト1のP.96～106及びテキスト2のP.50～53を精読しておく。 (事後)問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。 |
| 11 | 授業づくりの実際①：カリキュラム・マネジメント、テーマ発問 | カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。 | (事前)テキスト1のP.107～130及びテキスト2のP.54～57を精読しておく。 (事後)カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について整理しておく。 |
| 12 | 授業づくりの実際②：問題解決的な学習、探究型学習 | 問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。 | (事前)テキスト1のP.131～152及びテキスト2のP.58～61を精読しておく。 (事後)問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について整理しておく。 |
| 13 | 学習指導案の作成 | これまでの講義内容をふまえ、第9回で選択し教材分析した教材を用いた道徳の授業について、学習指導案を作成する。 | (事前)テキスト2のP.62～65を精読しておく。 (事後)グループ毎に模擬授業の準備をしておく。 |
| 14 | 模擬授業と事後検討会① | 模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。 | (事前)テキスト2のP.66～69を精読しておく。 (事後)グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備 |

| | 15 | 模擬授業と事後検討会② まとめ： 道徳科の授業について再び 考える | ・模擬授業を行い、授業改善のための検 討を行う。 ・道徳科の授業づくりについてまとめ る。 | をしておく。 (事前) グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備 をしておく。 (事後) 「よい道徳科の授業」について考えをまと める。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|---|--|--|---|----|-----|-----|------|---|------------------------------------|-------------|---------|---|--|-----------|--------|---|--|--|--|
| 関連科目 | 教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>道徳科 初めての授業づくり</td> <td>吉田誠・木原一彰 編著</td> <td>大学教育出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の 教科 道徳編</td> <td>文部科学省</td> <td>教育出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 道徳科 初めての授業づくり | 吉田誠・木原一彰 編著 | 大学教育出版 | 2 | 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の 教科 道徳編 | 文部科学省 | 教育出版 | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 道徳科 初めての授業づくり | 吉田誠・木原一彰 編著 | 大学教育出版 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の 教科 道徳編 | 文部科学省 | 教育出版 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の 教科 道徳編</td> <td>文部科学省</td> <td>廣済堂あかつき</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新 発問パターン大全集</td> <td>『道徳教育』編集部</td> <td>明治図書出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の 教科 道徳編 | 文部科学省 | 廣済堂あかつき | 2 | 『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新 発問パターン大全集 | 『道徳教育』編集部 | 明治図書出版 | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の 教科 道徳編 | 文部科学省 | 廣済堂あかつき | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新 発問パターン大全集 | 『道徳教育』編集部 | 明治図書出版 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート (One Page Portfolio シート) の内容や授業中の学習の様子 (30%)、作成した道徳科学習指導案 (20%)、学期末試験の結果 (50%) 等をもとに、総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | 授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館4階(谷口研究室) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|---------|----------|----------------------------|
| 科目名 | 道徳教育の研究 | 科目名 (英文) | Studies of Moral Education |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 谷口 雄一 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | この授業では、中学校において「特別の教科 道徳」(以下、道徳科)の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。 |
| 到達目標 | 受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の道徳科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになることを目標とします。 |
| 授業方法と留意点 | 本授業は道徳科の授業づくりについて実践的に学ぶ内容のため対面で行います。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して道徳教育や道徳科の授業についての学びを進めていきます。また、後半には、学習指導案作成等の演習や受講者のみなさんによる模擬授業等を適宜取り入れます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができるように配慮します。 |
| 科目学習の効果(資格) | 中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：道徳の理論及び指導法 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------------------|---|--|
| | | | |
| 1 | ガイダンス：道徳科の授業について考える | ・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める4つのアプローチについて概観する。 | (事前)自身が学校教育においてが受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。 (事後)テキスト2のP.8～17を精読しておく。 |
| 2 | 日本の道徳教育の歴史 | ・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。 | (事前)テキスト1のP.6～12を精読しておく。 (事後)日本の道徳教育の歴史や信念対立について整理しておく。 |
| 3 | よい道徳教育とは何か | よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。 | (事前)テキスト1のP.12～25を精読しておく。 (事後)道徳の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。 |
| 4 | 道徳の授業の多様な指導方法の特徴 | 道徳の授業のねらいに基づく8類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。 | (事前)テキスト1のP.26～35及びテキスト2のP.26～29を精読しておく。 (事後)道徳の授業のねらいに基づく8類型について整理しておく。 |
| 5 | 道徳の授業の発問の構成法 | 「特別の教科 道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。 | (事前)テキスト1のP.36～48及びテキスト2のP.30～33を精読しておく。 (事後)ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。 |
| 6 | 道徳の授業の学習指導案の作成法 | 「特別の教科 道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。 | (事前)テキスト1のP.49～58及びテキスト2のP.34～37を精読しておく。 (事後)道徳の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。 |
| 7 | 道徳の授業の評価 | 「特別の教科 道徳」における評価の内容や方法について考える。 | (事前)テキスト1のP.59～68及びテキスト2のP.38～41を精読しておく。 (事後)道徳の授業の評価の内容や方法について整理しておく。 |
| 8 | 各授業類型のねらいと発問の特徴 | 教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。 | (事前)テキスト1のP.71～85及びテキスト2のP.42～45を精読しておく。 (事後)教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。 |
| 9 | 教材分析の視点 | 教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。 | (事前)テキスト1のP.86～95及びテキスト2のP.46～49を精読しておく。 (事後)教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。 |
| 10 | 発問分析による授業づくりの視点 | 発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。 | (事前)テキスト1のP.96～106及びテキスト2のP.50～53を精読しておく。 (事後)問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。 |
| 11 | 授業づくりの実際①：カリキュラム・マネジメント、テーマ発問 | カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。 | (事前)テキスト1のP.107～130及びテキスト2のP.54～57を精読しておく。 (事後)カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について整理しておく。 |
| 12 | 授業づくりの実際②：問題解決的な学習、探究型学習 | 問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。 | (事前)テキスト1のP.131～152及びテキスト2のP.58～61を精読しておく。 (事後)問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について整理しておく。 |
| 13 | 学習指導案の作成 | これまでの講義内容をふまえ、第9回で選択し教材分析した教材を用いた道徳の授業について、学習指導案を作成する。 | (事前)テキスト2のP.62～65を精読しておく。 (事後)グループ毎に模擬授業の準備をしておく。 |
| 14 | 模擬授業と事後検討会① | 模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。 | (事前)テキスト2のP.66～69を精読しておく。 (事後)グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備 |

| | 15 | 模擬授業と事後検討会② まとめ： 道徳科の授業について再び 考える | ・模擬授業を行い、授業改善のための検 討を行う。 ・道徳科の授業づくりについてまとめ る。 | をしておく。 (事前) グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備 をしておく。 (事後) 「よい道徳科の授業」について考えをまと める。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|---|--|--|---|----|-----|-----|------|---|------------------------------------|-------------|---------|---|--|-----------|--------|---|--|--|--|
| 関連科目 | 教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>道徳科 初めての授業づくり</td> <td>吉田誠・木原一彰 編著</td> <td>大学教育出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の 教科 道徳編</td> <td>文部科学省</td> <td>教育出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 道徳科 初めての授業づくり | 吉田誠・木原一彰 編著 | 大学教育出版 | 2 | 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の 教科 道徳編 | 文部科学省 | 教育出版 | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 道徳科 初めての授業づくり | 吉田誠・木原一彰 編著 | 大学教育出版 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の 教科 道徳編 | 文部科学省 | 教育出版 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の 教科 道徳編</td> <td>文部科学省</td> <td>廣済堂あかつき</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新 発問パターン大全集</td> <td>『道徳教育』編集部</td> <td>明治図書出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の 教科 道徳編 | 文部科学省 | 廣済堂あかつき | 2 | 『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新 発問パターン大全集 | 『道徳教育』編集部 | 明治図書出版 | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の 教科 道徳編 | 文部科学省 | 廣済堂あかつき | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新 発問パターン大全集 | 『道徳教育』編集部 | 明治図書出版 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート (One Page Portfolio シート) の内容や授業中の学習の様子 (30%)、作成した道徳科学習指導案 (20%)、学期末試験の結果 (50%) 等をもとに、総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | 授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館4階(谷口研究室) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|------------|----------|---|
| 科目名 | 特別活動の理論と方法 | 科目名 (英文) | Theories and Methods for Special Activities |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 松浦 正典 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。 総合的な学習（探求）の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探究的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。 |
| 到達目標 | 1 教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。 2 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。 3 合意形成に向けた学級での話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 4 総合的な学習（探求）の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成する |
| 授業方法と留意点 | 講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。 |
| 科目学習の効果（資格） | 教職科目 特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法は、教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。 |

| | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------------------|--|--|--|
| | 1 | オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習（探求）の時間の意義と課題 | 学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量 | 特別活動テキスト第1章、講義資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をする（2時間）。 |
| 2 | 特別活動の目標・内容・方法 | 教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動 学級活動に役立つワーク 1 | 特別活動テキスト第2章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習する（2時間）。 | |
| 3 | 学級活動・ホームルーム活動① | 学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画 学級活動に役立つワーク 2 | 特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 | |
| 4 | 学級活動・ホームルーム活動② | 人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直 学級活動に役立つワーク 3 | 特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 | |
| 5 | 生徒会活動・児童会活動、学校行事 | 生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点 学級活動に役立つワーク 4 | 特別活動テキスト第3章第2・3節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をする（2時間）。 | |
| 6 | 体験活動・体験的な学びの意義 | 特別活動・総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通じた学びの重要性と計画的な指導の重要性 学級活動に役立つワーク 5 | 講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 | |
| 7 | 特別活動の歴史 | 学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがひ 学級活動に役立つワーク 6 | 講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 | |
| 8 | 特別活動と学級経営 | 学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動 学級活動に役立つワーク 7 | 講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 | |
| 9 | 特別活動と生徒指導 学級活動に役立つワーク 8 | 生徒指導との関連、積極的な生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成 学級活動に役立つワーク 8 | 講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 | |
| 10 | 特別活動の指導計画と評価 | 全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用 学級活動に役立つワーク 9 | 特別活動テキスト第4章第1・2・5節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 | |
| 11 | 特別活動と総合的な学習（探求）の時間の共通点と相違点 | 特別活動と総合的な学習（探求）の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性 学級活動に役立つワーク 10 | 講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 | |
| 12 | 総合的な学習（探求）の時間の目標・内容・原理 | 総合的な学習（探求）の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 学級活動に役立つワーク 11 | 総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 | |
| 13 | 総合的な学習（探求）の時間の学習活動と学習指導 | 生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び 学級活動に役立つワーク 12 | 総合的な学習の時間のテキスト第2・7章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 | |
| 14 | 総合的な学習（探求）の時間の指導計画・評価・校内体制 | 全体計画、年間計画、単元計画の作成、生徒の学習状況の評価 学級活動に役立つワーク 13 | 総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 | |
| 15 | 補足とまとめ/最終レポートについて | 補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。 | 特別活動のテキスト第4章第2・3・4節、総合的な学習の時間のテキスト第9章、講義資料を事前に読ん | |

| | | | | |
|-----------|--|--------------------------------|-------|---|
| | | | | でおく(2時間)。講義資料を参考に復習をするともにも最終レポートを作成する(2時間)。 |
| 関連科目 | すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことに関連づけるともに、教育方法論、生徒指導論、道徳教育論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 中学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示 | 文部科学省 | 東山書房 |
| | 2 | 中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 平成29年告示 | 文部科学省 | 東山書房 |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 高等学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示 | 文部科学省 | 東京書籍 |
| | 2 | 高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編 平成29年告示 | 文部科学省 | 学校図書 |
| | 3 | | | |
| 評価方法(基準) | 授業への参加状況及び課題(40%)、中間レポート(30%)、最終レポート(30%)を総合的に評価する。 | | | |
| 学生へのメッセージ | 学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだというのが言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。 | | | |
| 担当者の研究室等 | 寝屋川キャンパス7号館3F松浦研究室 | | | |
| 備考 | 授業外学習総時間を60時間とする。 | | | |

| | | | |
|----------------|------------|----------|---|
| 科目名 | 特別活動の理論と方法 | 科目名 (英文) | Theories and Methods for Special Activities |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 松浦 正典 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。 総合的な学習（探求）の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探究的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。 |
| 到達目標 | 1 教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。 2 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。 3 合意形成に向けた学級での話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 4 総合的な学習（探求）の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成する |
| 授業方法と留意点 | 講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 教職科目 特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法は、教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。 |

| | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------------------|--|--|--|
| | 1 | オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習（探求）の時間の意義と課題 | 学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量 | 特別活動テキスト第1章、講義資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をする（2時間）。 |
| 2 | 特別活動の目標・内容・方法 | 教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動 学級活動に役立つワーク 1 | 特別活動テキスト第2章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習する（2時間）。 | |
| 3 | 学級活動・ホームルーム活動① | 学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画 学級活動に役立つワーク 2 | 特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 | |
| 4 | 学級活動・ホームルーム活動② | 人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直 学級活動に役立つワーク 3 | 特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 | |
| 5 | 生徒会活動・児童会活動、学校行事 | 生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点 学級活動に役立つワーク 4 | 特別活動テキスト第3章第2・3節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をする（2時間）。 | |
| 6 | 体験活動・体験的な学びの意義 | 特別活動・総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通じた学びの重要性と計画的な指導の重要性 学級活動に役立つワーク 5 | 講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 | |
| 7 | 特別活動の歴史 | 学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがひ 学級活動に役立つワーク 6 | 講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 | |
| 8 | 特別活動と学級経営 | 学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動 学級活動に役立つワーク 7 | 講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 | |
| 9 | 特別活動と生徒指導 学級活動に役立つワーク 8 | 生徒指導との関連、積極的な生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成 学級活動に役立つワーク 8 | 講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 | |
| 10 | 特別活動の指導計画と評価 | 全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用 学級活動に役立つワーク 9 | 特別活動テキスト第4章第1・2・5節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 | |
| 11 | 特別活動と総合的な学習（探求）の時間の共通点と相違点 | 特別活動と総合的な学習（探求）の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性 学級活動に役立つワーク 10 | 講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 | |
| 12 | 総合的な学習（探求）の時間の目標・内容・原理 | 総合的な学習（探求）の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 学級活動に役立つワーク 11 | 総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 | |
| 13 | 総合的な学習（探求）の時間の学習活動と学習指導 | 生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び 学級活動に役立つワーク 12 | 総合的な学習の時間のテキスト第2・7章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 | |
| 14 | 総合的な学習（探求）の時間の指導計画・評価・校内体制 | 全体計画、年間計画、単元計画の作成、生徒の学習状況の評価 学級活動に役立つワーク 13 | 総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 | |
| 15 | 補足とまとめ/最終レポートについて | 補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。 | 特別活動のテキスト第4章第2・3・4節、総合的な学習の時間のテキスト第9章、講義資料を事前に読ん | |

| | | | | |
|-----------|--|--------------------------------|-------|---|
| | | | | でおく(2時間)。講義資料を参考に復習をするともにも最終レポートを作成する(2時間)。 |
| 関連科目 | すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるともに、教育方法論、生徒指導論、道徳教育論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 中学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示 | 文部科学省 | 東山書房 |
| | 2 | 中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 平成29年告示 | 文部科学省 | 東山書房 |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 高等学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示 | 文部科学省 | 東京書籍 |
| | 2 | 高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編 平成29年告示 | 文部科学省 | 学校図書 |
| | 3 | | | |
| 評価方法(基準) | 授業への参加状況及び課題(40%)、中間レポート(30%)、最終レポート(30%)を総合的に評価する。 | | | |
| 学生へのメッセージ | 学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだというのが言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。 | | | |
| 担当者の研究室等 | 寝屋川キャンパス7号館3F松浦研究室 | | | |
| 備考 | 授業外学習総時間を60時間とする。 | | | |

| | | | |
|----------------|------------|----------|---|
| 科目名 | 特別活動の理論と方法 | 科目名 (英文) | Theories and Methods for Special Activities |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 松浦 正典 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。 総合的な学習（探求）の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探究的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。 |
| 到達目標 | 1 教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。 2 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。 3 合意形成に向けた学級での話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 4 総合的な学習（探求）の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成する |
| 授業方法と留意点 | 講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 教職科目 特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法は、教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。 |

| | 回数 | | | 回数 | | | | | |
|------|----|-------------------------------------|--|--|----|----------------------------|--|--|--|
| | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 | |
| 授業計画 | 1 | オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習（探求）の時間の意義と課題 | 学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量 | 特別活動テキスト第1章、講義資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をする（2時間）。 | 2 | 特別活動の目標・内容・方法 | 教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動 学級活動に役立つワーク 1 | 特別活動テキスト第2章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習する（2時間）。 | |
| | 3 | 学級活動・ホームルーム活動① | 学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画 学級活動に役立つワーク 2 | 特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 | 4 | 学級活動・ホームルーム活動② | 人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直 学級活動に役立つワーク 3 | 特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 | |
| | 5 | 生徒会活動・児童会活動、学校行事 | 生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点 学級活動に役立つワーク 4 | 特別活動テキスト第3章第2・3節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をする（2時間）。 | 6 | 体験活動・体験的な学びの意義 | 特別活動・総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通じた学びの重要性と計画的な指導の重要性 学級活動に役立つワーク 5 | 講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 | |
| | 7 | 特別活動の歴史 | 学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがひ 学級活動に役立つワーク 6 | 講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 | 8 | 特別活動と学級経営 | 学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動 学級活動に役立つワーク 7 | 講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 | |
| | 9 | 特別活動と生徒指導 学級活動に役立つワーク 8 | 生徒指導との関連、積極的な生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成 学級活動に役立つワーク 8 | 講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 | 10 | 特別活動の指導計画と評価 | 全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用 学級活動に役立つワーク 9 | 特別活動テキスト第4章第1・2・5節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 | |
| | 11 | 特別活動と総合的な学習（探求）の時間の共通点と相違点 | 特別活動と総合的な学習（探求）の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性 学級活動に役立つワーク 10 | 講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 | 12 | 総合的な学習（探求）の時間の目標・内容・原理 | 総合的な学習（探求）の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 学級活動に役立つワーク 11 | 総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 | |
| | 13 | 総合的な学習（探求）の時間の学習活動と学習指導 | 生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び 学級活動に役立つワーク 12 | 総合的な学習の時間のテキスト第2・7章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 | 14 | 総合的な学習（探求）の時間の指導計画・評価・校内体制 | 全体計画、年間計画、単元計画の作成、生徒の学習状況の評価 学級活動に役立つワーク 13 | 総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 | |
| | 15 | 補足とまとめ/最終レポートについて | 補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。 | 特別活動のテキスト第4章第2・3・4節、総合的な学習の時間のテキスト第9章、講義資料を事前に読ん | | | | | |

| | | | | |
|-----------|--|--------------------------------|-------|---|
| | | | | でおく(2時間)。講義資料を参考に復習をするともにも最終レポートを作成する(2時間)。 |
| 関連科目 | すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことに関連づけるともに、教育方法論、生徒指導論、道徳教育論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 中学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示 | 文部科学省 | 東山書房 |
| | 2 | 中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 平成29年告示 | 文部科学省 | 東山書房 |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 高等学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示 | 文部科学省 | 東京書籍 |
| | 2 | 高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編 平成29年告示 | 文部科学省 | 学校図書 |
| | 3 | | | |
| 評価方法(基準) | 授業への参加状況及び課題(40%)、中間レポート(30%)、最終レポート(30%)を総合的に評価する。 | | | |
| 学生へのメッセージ | 学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだというのが言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。 | | | |
| 担当者の研究室等 | 寝屋川キャンパス7号館3F松浦研究室 | | | |
| 備考 | 授業外学習総時間を60時間とする。 | | | |

| | | | |
|----------------|----------------------|----------|-------------------|
| 科目名 | 教育相談 (カウンセリングの基礎を含む) | 科目名 (英文) | School Counseling |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 吉田 佐治子 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

授業概要・目的
 教育相談は、幼児児童生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児児童生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識 (カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む) を身に付ける。
 特に、学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的な意義を解説し、カウンセリングの基礎知識及びその実践的な手法を紹介する。併せて生徒理解と“問題”への対応について、実践的な取り組み方を考える。

到達目標
 教育相談の基本的な考え方や、カウンセリングの基礎、生徒理解と“問題”への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。

授業方法と留意点
 講義と演習を組み合わせて行う。演習は、グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。

科目学習の効果 (資格)
 教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」4単位のうち2単位を充足。
 【免許法施行規則に定める科目区分】
 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
 各科目に含める必要事項：教育相談 (カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。) の理論及び方法

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------|---|--|
| | | | |
| 1 | 教育相談とは何か | 教育相談の意義、教師としての立場、カウンセリングマインド | テキスト第1講、配付資料を用いた予習・復習 |
| 2 | カウンセリングの基礎 | カウンセリングの基本的な考え方や、カウンセリングの技法 | テキスト第2講・第3講、配付資料を用いた予習・復習 |
| 3 | グループ発表の準備 | グループワーク (アイスブレイク含む) | 検討したいテーマについてよく考えておく グループ発表の準備 |
| 4 | 学校教育相談の全体像 | 校内での役割分担と協力体制、専門機関との連携とその方法 | テキスト第10講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備 |
| 5 | 学校におけるカウンセリング活動1 | カウンセリング活動のいろいろ(1)..... 治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動 | テキスト第2講、第10講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備 |
| 6 | 学校におけるカウンセリング活動2 | カウンセリング活動のいろいろ(2)..... 開発的カウンセリング活動 | テキスト第2講・第10講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備 |
| 7 | パーソナリティ理解 | パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの | テキスト第11講・第12講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備 |
| 8 | “問題”の理解と対応1 | “問題”とは何か、その原因・背景と対応、適応過程 | テキスト第9講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備 |
| 9 | “問題”の理解と対応2 | ストレス、欲求不満、葛藤 | テキスト第9講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備 |
| 10 | 心の発達と“問題” | 青年期の発達 (認知、自己意識、道徳性、仲間関係等) | テキスト第9講、配付資料を用いた予習・復習 教育心理学の復習 グループ発表の準備 |
| 11 | 相談援助活動の実際1 | 不登校.....その理解と対応 (グループ発表) | テキスト第4講、配付資料を用いた予習・復習 |
| 12 | 相談援助活動の実際2 | いじめ.....その理解と対応 (グループ発表) | テキスト第4講、配付資料を用いた予習・復習 |
| 13 | 相談援助活動の実際3 | 授業崩壊・学級崩壊.....その理解と対応 (グループ発表) | テキスト第5講、配付資料を用いた予習・復習 |
| 14 | 相談援助活動の実際4 | 反社会的行動.....その理解と対応 (グループ発表) | テキスト第7講、配付資料を用いた予習・復習 |
| 15 | これからの教育相談 | 新たな課題、教師のメンタルヘルス、さらなる連携 | テキスト第15講、配付資料を用いた予習・復習 |

関連科目 教職課程の科目全般

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----------------------|-----------------|---------|
| | 1 | よくわかる! 教職エクササイズ3 教育相談 | 森田健宏・吉田佐治子 (編著) | ミネルヴァ書房 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

評価方法 (基準) グループ発表 50%、期末試験 50%

学生へのメッセージ これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。

担当者の研究室等 7号館3階 (吉田研究室)

備考 グループ発表について、他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。グループ内ではピア評価を行います。

事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

Moodle コース名と登録キー

月曜 2 限：2022 教育相談（月 2）あるいは 22 教育相談（月 2） 2022ECMON2

火曜 2 限：2022 教育相談（火 2）あるいは 22 教育相談（火 2） 2022ECTUE2

木曜 1 限：2022 教育相談（木 1）あるいは 22 教育相談（木 1） 2022ECTHU1

木曜 4 限：202

| | | | |
|----------------|----------------------|----------|-------------------|
| 科目名 | 教育相談 (カウンセリングの基礎を含む) | 科目名 (英文) | School Counseling |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 吉田 佐治子 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

授業概要・目的
 教育相談は、幼児児童生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児児童生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識 (カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む) を身に付ける。
 特に、学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的な意義を解説し、カウンセリングの基礎知識及びその実践的な手法を紹介する。併せて生徒理解と“問題”への対応について、実践的な取り組み方を考える。

到達目標
 教育相談の基本的な考え方や、カウンセリングの基礎、生徒理解と“問題”への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。

授業方法と留意点
 講義と演習を組み合わせて行う。演習は、グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。

科目学習の効果 (資格)
 教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」4単位のうち2単位を充足。
 【免許法施行規則に定める科目区分】
 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
 各科目に含める必要事項：教育相談 (カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。) の理論及び方法

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------|--|--|
| | | | |
| 1 | 教育相談とは何か | 教育相談の意義、教師としての立場、カウンセリングマインド | テキスト第1講、配付資料を用いた予習・復習 |
| 2 | カウンセリングの基礎 | カウンセリングの基本的な考え方や、カウンセリングの技法 | テキスト第2講・第3講、配付資料を用いた予習・復習 |
| 3 | グループ発表の準備 | グループワーク (アイスブレイク含む) | 検討したいテーマについてよく考えておく グループ発表の準備 |
| 4 | 学校教育相談の全体像 | 校内での役割分担と協力体制、専門機関との連携とその方法 | テキスト第10講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備 |
| 5 | 学校におけるカウンセリング活動1 | カウンセリング活動のいろいろ (1)..... 治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動 | テキスト第2講、第10講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備 |
| 6 | 学校におけるカウンセリング活動2 | カウンセリング活動のいろいろ (2)..... 開発的カウンセリング活動 | テキスト第2講・第10講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備 |
| 7 | パーソナリティ理解 | パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの | テキスト第11講・第12講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備 |
| 8 | “問題”の理解と対応1 | “問題”とは何か、その原因・背景と対応、適応過程 | テキスト第9講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備 |
| 9 | “問題”の理解と対応2 | ストレス、欲求不満、葛藤 | テキスト第9講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備 |
| 10 | 心の発達と“問題” | 青年期の発達 (認知、自己意識、道徳性、仲間関係等) | テキスト第9講、配付資料を用いた予習・復習 教育心理学の復習 グループ発表の準備 |
| 11 | 相談援助活動の実際1 | 不登校.....その理解と対応 (グループ発表) | テキスト第4講、配付資料を用いた予習・復習 |
| 12 | 相談援助活動の実際2 | いじめ.....その理解と対応 (グループ発表) | テキスト第4講、配付資料を用いた予習・復習 |
| 13 | 相談援助活動の実際3 | 授業崩壊・学級崩壊.....その理解と対応 (グループ発表) | テキスト第5講、配付資料を用いた予習・復習 |
| 14 | 相談援助活動の実際4 | 反社会的行動.....その理解と対応 (グループ発表) | テキスト第7講、配付資料を用いた予習・復習 |
| 15 | これからの教育相談 | 新たな課題、教師のメンタルヘルス、さらなる連携 | テキスト第15講、配付資料を用いた予習・復習 |

関連科目 教職課程の科目全般

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----------------------|-----------------|---------|
| | 1 | よくわかる! 教職エクササイズ3 教育相談 | 森田健宏・吉田佐治子 (編著) | ミネルヴァ書房 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

評価方法 (基準) グループ発表 50%、期末試験 50%

学生へのメッセージ これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。

担当者の研究室等 7号館3階 (吉田研究室)

備考 グループ発表について、他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。グループ内ではピア評価を行います。

事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

Moodle コース名と登録キー

月曜 2 限：2022 教育相談（月 2）あるいは 22 教育相談（月 2） 2022ECMON2

火曜 2 限：2022 教育相談（火 2）あるいは 22 教育相談（火 2） 2022ECTUE2

木曜 1 限：2022 教育相談（木 1）あるいは 22 教育相談（木 1） 2022ECTHU1

木曜 4 限：202

| | | | |
|----------------|----------------------|----------|-------------------|
| 科目名 | 教育相談 (カウンセリングの基礎を含む) | 科目名 (英文) | School Counseling |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 吉田 佐治子 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

授業概要・目的
 教育相談は、幼児児童生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児児童生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識 (カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む) を身に付ける。
 特に、学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的な意義を解説し、カウンセリングの基礎知識及びその実践的な手法を紹介する。併せて生徒理解と“問題”への対応について、実践的な取り組み方を考える。

到達目標
 教育相談の基本的な考え方や、カウンセリングの基礎、生徒理解と“問題”への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。

授業方法と留意点
 講義と演習を組み合わせて行う。演習は、グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。

科目学習の効果 (資格)
 教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」4単位のうち2単位を充足。
 【免許法施行規則に定める科目区分】
 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
 各科目に含める必要事項：教育相談 (カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。) の理論及び方法

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------|---|--|
| | | | |
| 1 | 教育相談とは何か | 教育相談の意義、教師としての立場、カウンセリングマインド | テキスト第1講、配付資料を用いた予習・復習 |
| 2 | カウンセリングの基礎 | カウンセリングの基本的な考え方や、カウンセリングの技法 | テキスト第2講・第3講、配付資料を用いた予習・復習 |
| 3 | グループ発表の準備 | グループワーク (アイスブレイク含む) | 検討したいテーマについてよく考えておく グループ発表の準備 |
| 4 | 学校教育相談の全体像 | 校内での役割分担と協力体制、専門機関との連携とその方法 | テキスト第10講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備 |
| 5 | 学校におけるカウンセリング活動1 | カウンセリング活動のいろいろ(1)..... 治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動 | テキスト第2講、第10講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備 |
| 6 | 学校におけるカウンセリング活動2 | カウンセリング活動のいろいろ(2)..... 開発的カウンセリング活動 | テキスト第2講・第10講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備 |
| 7 | パーソナリティ理解 | パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの | テキスト第11講・第12講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備 |
| 8 | “問題”の理解と対応1 | “問題”とは何か、その原因・背景と対応、適応過程 | テキスト第9講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備 |
| 9 | “問題”の理解と対応2 | ストレス、欲求不満、葛藤 | テキスト第9講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備 |
| 10 | 心の発達と“問題” | 青年期の発達 (認知、自己意識、道徳性、仲間関係等) | テキスト第9講、配付資料を用いた予習・復習 教育心理学の復習 グループ発表の準備 |
| 11 | 相談援助活動の実際1 | 不登校.....その理解と対応 (グループ発表) | テキスト第4講、配付資料を用いた予習・復習 |
| 12 | 相談援助活動の実際2 | いじめ.....その理解と対応 (グループ発表) | テキスト第4講、配付資料を用いた予習・復習 |
| 13 | 相談援助活動の実際3 | 授業崩壊・学級崩壊.....その理解と対応 (グループ発表) | テキスト第5講、配付資料を用いた予習・復習 |
| 14 | 相談援助活動の実際4 | 反社会的行動.....その理解と対応 (グループ発表) | テキスト第7講、配付資料を用いた予習・復習 |
| 15 | これからの教育相談 | 新たな課題、教師のメンタルヘルス、さらなる連携 | テキスト第15講、配付資料を用いた予習・復習 |

関連科目 教職課程の科目全般

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----------------------|-----------------|---------|
| | 1 | よくわかる! 教職エクササイズ3 教育相談 | 森田健宏・吉田佐治子 (編著) | ミネルヴァ書房 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

評価方法 (基準) グループ発表 50%、期末試験 50%

学生へのメッセージ これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。

担当者の研究室等 7号館3階 (吉田研究室)

備考 グループ発表について、他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。グループ内ではピア評価を行います。

事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

Moodle コース名と登録キー

月曜 2 限：2022 教育相談（月 2）あるいは 22 教育相談（月 2） 2022ECMON2

火曜 2 限：2022 教育相談（火 2）あるいは 22 教育相談（火 2） 2022ECTUE2

木曜 1 限：2022 教育相談（木 1）あるいは 22 教育相談（木 1） 2022ECTHU1

木曜 4 限：202

| | | | |
|----------------|--------|----------|------------------------------------|
| 科目名 | 教育実習 I | 科目名 (英文) | Teaching Practice I |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 松浦 正典, 吉田 佐治子 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | (1) 教育実習の実際についての情報を提供する。それらに基づき、受講者は、演習や実習を行う。(2) 教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、学級・ホームルーム経営、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、効果的な指導をできるようにする。(3) 教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的心がまえについて理解を深める。 |
| 到達目標 | 教育実習の目的や意義、内容等を理解し、教育実習へ向けての十分な準備ができるようになる。そのことにより、自信をもって教育実習に臨めるようになる。 |
| 授業方法と留意点 | 講義 (体験報告を含む)、演習 (文献購読、発表、討議を含む)、実習 (指導案作成、模擬授業を含む) を行う。対面授業を基本とする。実習生として主体的・能動的な姿勢・態度で参加すること。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育実習」5単位あるいは3単位のうち「教育実習に係る事前及び事後指導」1単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】教育実践に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：教育実習 (教育実習に係る事前及び事後指導) |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------------|---|-----------|
| | | | |
| 2 | 実習中の勤務の要領 | 学校の日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について | 授業時に指示する |
| 3 | 授業の方法と技術 | 授業のスタイルとスキル、教材研究、学習評価の観点について | 授業時に指示する |
| 4 | 授業の記録と評価 | 授業研究の意義、授業分析の方法、授業評価について | 授業時に指示する |
| 5 | 生徒理解・生徒指導と学級・ホームルーム経営 | 生徒理解・生徒指導の方法、個別指導・集団指導、学級・ホームルームの指導について | 授業時に指示する |
| 6 | 学校における人権教育 | 人権教育の現状と課題について、学校保健と安全指導について | 授業時に指示する |
| 7 | 特別支援教育の現状と課題 | 障がいの種類と配慮事項、障がい児理解と交流教育について | 授業時に指示する |
| 8 | 指導案の作成 (1) | 授業の準備と配慮事項、学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案、板書計画の作成 | 授業時に指示する |
| 9 | 指導案の作成 (2) | 学級 (ホームルーム) 活動等の指導案について | 授業時に指示する |
| 10 | 模擬授業 (1) | 作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換 | 授業時に指示する |
| 11 | 模擬授業 (2) | 作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換 | 授業時に指示する |
| 12 | 模擬授業 (3) | 作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換 | 授業時に指示する |
| 13 | 模擬授業 (4) | 作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換 | 授業時に指示する |
| 14 | 教育実習の実際 (1) | 教職フォーラムへの出席、教育実習体験発表の聴講と討議 | 授業時に指示する |
| 15 | 教育実習の実際 (2) | 教育実習総括講義への出席、教育実習の課題テーマについて討議 | 授業時に指示する |

関連科目 教職課程で学んだ全科目

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|--------------|-----------|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 『新編 教育実習の常識』 | 教育実習を考える会 | 蒼丘書林 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

評価方法 (基準) 課題の提出状況とその内容、指導案と模擬授業、授業における積極性・貢献度、期末レポート等によって総合的に評価する。

学生へのメッセージ 教育実習はこれまで学んできたことの総まとめです。よい実習ができるよう、十分に準備してください。

担当者の研究室等 吉田研究室・松浦研究室・大野研究室・朝日研究室 (7号館3階)
谷口研究室 (7号館4階)

備考 教職フォーラム (10月最終土曜日)、教育実習総括講義 (11月最終土曜日) には必ず出席すること。
ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を必ずすること。
担当者により、授業の具体的な内容・方法が若干異なる場合がある。
事前・事後学習総時間はおよそ30時間程度となる。

| | | | |
|----------------|--------------|----------|------------------------------------|
| 科目名 | 教職実践演習 (中・高) | 科目名 (英文) | Practicum in Prospective Teachers |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 4年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 谷口 雄一, 朝日 素明, 大野 順子, 松浦 正典, 吉田 佐治子 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | <p>○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や実践的な力量について確認する。</p> <p>○中学・高校での現場体験学習をもとに、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。</p> <p>○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。</p> <p>○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。</p> |
| 到達目標 | <p>免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。</p> |
| 授業方法と留意点 | <p>○教職課程の専任教員5名による全体指導と、各専任教員ごとのグループ学習を中心に進める。1グループは10名程度。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねるなかで、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。</p> <p>○大学の教科に関する科目の担当者・指導主事・現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。</p> |
| 科目学習の効果 (資格) | <p>○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目 (教職実践演習を除く) の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するものである。</p> <p>○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。</p> |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------------------|--|--|
| | | | |
| 1 | 「教職実践演習」の全体ガイダンス | <ul style="list-style-type: none"> ・本講義の目的、内容方法についての確認。 ・受講者各自の教育実習後の課題についての確認。 ・2回目以降に行われるグループ学習の各課題の確認。 | 教育実習ノートの点検と再確認 |
| 2 | いじめの現状 | <p>問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。</p> <p>配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。</p> | (事前) 配布資料の熟読 (事後) 小レポートの提出 |
| 3 | いじめ問題への取り組み | <p>日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。</p> <p>配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。</p> | (事前) 配布資料の熟読 (事後) 小レポートの提出 |
| 4 | ジェンダーと教育 (1) | ジェンダーと教育に関する視聴覚教材の視聴、及び、問題点についてまとめる。 | 特にないが、各自事前にジェンダーに関する問題について身の回りの問題、ネットや新聞記事等から見つけ出しておく。 |
| 5 | ジェンダーと教育 (2) | 第一回目のまとめを全体で共有し、そこからジェンダーに関する問題点をひとつ取り上げ全体で議論する。 | 特にないが、各自事前にジェンダーに関する問題について身の回りの問題、ネットや新聞記事等から見つけ出しておく。 |
| 6 | 学校の危機管理 (1): 学校管理下の事件・事故 | 学校管理下における事件・事故発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。 | (事前) 学校管理下の事件・事故に関する配布資料を読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。 |
| 7 | 学校の危機管理 (2): 災害 | 災害発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。 | (事前) 災害発生時の学校の対応に関する配布資料を読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。 |
| 8 | 通常学級での特別支援教育 (1) | <ul style="list-style-type: none"> ・場の教育とニーズによる教育の違いを整理する。 ・個別支援とアセスメント・個別支援の最適化について理解する。 | (事前) 教育実習で気になった生徒について、その生徒の特長・担任等の支援の状況をまとめておく。 (事後) 講義の内容をもとに対象となる生徒の特長と支援について改良案を考える。 |
| 9 | 通常学級での特別支援教育 (2) | 前時の授業を踏まえ、「授業のユニバーサルデザイン」の概要・目指すものについて理解する。 | (事前) 前時の授業内容を復習しておく。 (事後) 講義や教科書を元に学習内容をまとめる。 |
| 10 | カウンセリングマインドと生徒対応 | カウンセリングの技法を生徒への対応、保護者への対応に応用する。 | (事前) カウンセリングマインドについての復習。中学生あるいはその親のもつ「悩み」を3つあげる。 (事後) 小レポート |
| 11 | 「自分」を知る | 教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための1方法としてのエゴグラム作成を行う。 | (事前) 「自分」について考える。 (事後) 小レポート |
| 12 | 生徒指導・進路指導 (中学校現場での実地学習) (1) | 地元市教委との連携協力のもとに、中学校現場をグループごとに参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。 | 中学校における集団づくりと個別指導 (生徒指導・進路指導のあり方) についてレポートにまとめる |
| 13 | 生徒指導・進路指導 (中学校現場での実地学習) (2) | 地元市教委との連携協力のもとに、中学校現場をグループごとに参観し、教科指導上の実践課題を知る。 | 中学校における集団づくりと個別指導 (教科指導のあり方) についてレポートにまとめる |
| 14 | 専攻科目における実践上の課題 (1) | 専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野に関する受講者各自の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。 | 専攻教科における分野ごとの課題を整理する |
| 15 | 専攻科目における実践上の | 専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門 | 専攻教科における分野ごとの課題を整理する |

| | | | | |
|---------------|--|---|-----|------|
| | 課題（２） | 分野における実践上の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。 | | |
| 関連科目 | 全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科ごとの必修科目 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | グループ学習が中心であり、それぞれについて課題が出される。それらの評価を総合し、最終的な評価とする。 | | | |
| 学生への メッセージ | 教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察すること。そのなかで、問題点を見出し、諸課題を自ら設定し、この科目を軸にしながら、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力を身に付けること。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館3階（朝日、大野、松浦、吉田） 7号館4階（谷口） | | | |
| 備考 | 事前・事後総学習時間は、60時間程度である。 | | | |

| | | | |
|----------------|--------|----------|-----------------------|
| 科目名 | 職業指導 I | 科目名 (英文) | Vocational Guidance I |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 水野 武 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化と職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。 |
| 到達目標 | 職業教育の理論への理解を深めることを講義の目標とします。 |
| 授業方法と留意点 | 講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で意見を出し合ってください。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 商業科における職業指導の基礎知識が身に付きます。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------|--|---|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション | ・授業概要の説明、職業の定義、職業指導の概念整理 | 事前学習：本科目のシラバスを熟読すること（1時間） 事後学習：年間の学びの計画を立てること（3時間） |
| 2 | 職業指導の基礎理論 | ・職業指導における基本的な考え方、手法 | 事前学習：職業指導及びキャリアの基礎理論について調べておくこと（2時間） 事後学習：職業指導に関する資料を熟読すること（2時間） |
| 3 | 職業指導の歴史① | ・アメリカ・ヨーロッパを中心に職業指導の経緯を知る | 事前学習：欧米の職業指導に関して調査すること（3時間） 事後学習：講義の内容を振り返ること（1時間） |
| 4 | 日本の産業構造の変化 | ・日本の産業、雇用事情の変化を知る | 事前学習：日本の産業の変遷について市調しておくこと（3時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（1時間） |
| 5 | 職業指導の歴史② | ・日本の戦後の教育改革について | 事前学習：日本の戦後の教育改革について調べておくこと（2時間） 事後学習：配布資料を熟読し、講義内容を振り返ること（1時間） |
| 6 | 日本型雇用と職業指導 | ・日本における雇用システムの変容と職業指導の関わり | 事前学習：日本型雇用について発表資料を作成すること（3時間） 事後学習：発表及びディスカッションの内容を振り返ること（1時間） |
| 7 | 新規高卒就職システム | ・新規高卒労働市場の変容と現状 | 事前学習：高卒労働市場に関して調べておくこと（2時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（2時間） |
| 8 | 高等学校における職業指導 | ・各種学校における職業指導の在り方について | 事前学習：高校の職業指導の事例について調査・発表資料を作成すること（3時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（1時間） |
| 9 | 「労働すること」を考える | ・仕事をするものの意義を考える | 事前学習：仕事をする意味について意見をまとめておくこと（2時間） 事後学習：自らの労働観について考えること（2時間） |
| 10 | 職業指導の領域 | ・学校、家庭、地域コミュニティ、公的機関等職業指導がなされる「場」について考える | 事前学習：職業指導領域に関する資料を事前に熟読すること（2時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（2時間） |
| 11 | キャリア教育の基礎理論① | ・キャリアデザインにおける基礎理論を知る | 事前学習：自己について考えておくこと（2時間） 事後学習：キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること（2時間） |
| 12 | キャリア教育の基礎理論② | ・キャリアデザインにおける基礎理論を知る | 事前学習：児童・生徒の発達について考えておくこと（3時間） 事後学習：キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること（1時間） |
| 13 | 授業内容立案 | ・高校生向けの職業指導・キャリア教育に関する授業内容を立案する | 事前学習：高校でのキャリア教育の事例について調べておくこと（1時間） 事後学習：模擬授業の準備をすること（3時間） |
| 14 | 模擬授業 | ・講義13で立案した内容で模擬授業を実施 | 事前学習：模擬授業の準備をすること（2時間） 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること（2時間） |
| 15 | 講義の振り返り | ・講義の振り返り、最終レポートの提出 | 事前学習：前期のレポートを作成すること（3時間） 事後学習：講義全体を振り返ること（1時間） |

| | |
|------|--|
| 関連科目 | 教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。また「特別活動論」にも近接します。 |
|------|--|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |

| | | | |
|---------------|---|--|--|
| | 3 | | |
| 評価方法 (基準) | <p>講義内での課題、提出物、レポート、授業への積極的参加、レポートの提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。</p> <p>平常点(30%)、(授業課題20%)、期末レポート(50%) また、前期最終時にレポートを実施します。</p> | | |
| 学生への メッセージ | <p>「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。特に後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。なお、講義は科目担当者の人材業界での業務経験・及び起業経験を元にしたお話も交えて進行します。</p> | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館3階 教育イノベーションセンター (水野) | | |
| 備考 | | | |

| | | | |
|---------------|-------|---------|------------------------|
| 科目名 | 職業指導Ⅱ | 科目名(英文) | Vocational Guidance II |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 水野 武 |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化とそれが職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。 |
| 到達目標 | 職業教育の理論、面談する際の技法への理解を深めることを講義の目標とします。 |
| 授業方法と留意点 | 講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。 |
| 科目学習の効果(資格) | 商業科における職業指導の基礎知識が身に付く |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------|--|--|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション | ・授業概要の説明 | 事前学習：本科目のシラバスを再度熟読すること(1時間)。 事後学習：後期の学習計画を立てること(3時間) |
| 2 | 商業教育と職業指導 | ・商業高校における職業指導の事例を知る | 事前学習：商業高校の職業指導事例に関して調査すること(2時間)。 事後学習：講義の内容を振り返ること(2時間) |
| 3 | 工業教育と職業指導 | ・工業高校における職業指導の事例を知る | 事前学習：工業高校の職業指導事例に関して調査すること(2時間)。 事後学習：講義の内容を振り返ること(2時間) |
| 4 | 普通科高校と職業指導 | ・普通科高校における職業指導について | 事前学習：普通科高校の職業指導事例に関して調査すること(2時間)。 事後学習：講義の内容を振り返ること(2時間) |
| 5 | フリータートニートについて | グループ(またはペア)でフリーター・ニート対策を考える | 事前学習：フリーター・ニート問題に関して調査し、ディスカッションできるよう準備すること(2時間)。 事後学習：講義内容を振り返ること(2時間) |
| 6 | 職業指導・キャリア教育の実例 | ・地方も含めた職業指導の事例紹介 | 事前学習：発表の準備をすること(2時間)。 事後学習：他者及び自らの発表の内容を振り返ること(2時間) |
| 7 | キャリアデザインとは何か | キャリアデザインとは何かを考える | 事前学習：自らの人生の節目について考えること(2時間)。 事後学習：講義内容を振り返ること(2時間) |
| 8 | 高校生の就業力について職業適性とは何か | ・新規高卒者に求められる基本的な能力 ・職業適性、アセスメントについて | 事前学習：大卒と高卒の就職システムの違いについて調査すること(2時間)。 事後学習：自らの適性の活かし方考えること(2時間)。 |
| 9 | 人権教育としての職業指導 | ・職業指導の国際基準、ハンディキャップがある生徒への職業指導 | 事前学習：ILOの提唱する「人間らしい働き方」について調査すること(2時間)。 事後学習：配布資料を精読すること(2時間) |
| 10 | 未来の働き方を考える | ・日本の課題、それにより想像される未来における働き方を考える | 事前学習：AIによる仕事の代替可能性について調査すること(2時間)。 事後学習：講義内容を振り返ること(2時間) |
| 11 | 就業力向上企画を立案① | 高校生の就業力向上のための企画・授業を考える | 事前学習：発表の準備をすること(3時間)。 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること(1時間) |
| 12 | 就業力向上計画立案② | 11回目まで考えた内容を発表する | 事前学習：発表の準備をすること(3時間)。 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること(1時間) |
| 13 | キャリアカウンセリング理論① | 自己概念・環境との相互作用・学習理論からのアプローチ | 事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと(2時間)。 事後学習：講義の内容について振り返ること(1時間) |
| 14 | キャリアカウンセリング理論② | カウンセリングマインドについて | 事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと(1時間)。 事後学習：講義の内容について振り返ること(2時間) |
| 15 | まとめ/講義の振り返り | 提出物の確認、授業内容に関する質疑応答 | 事前学習：期末レポートを作成すること(4時間)。 事後学習：講義全体を振り返ること(2時間) |

関連科目 教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。「特別活動論」にも近接します。

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | | | | |

| | | | |
|--------------------|---|--|--|
| | 3 | | |
| 評価方法 (基準) | レポートを実施します。その他、授業への積極的参加、その他課題の提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。 平常点(20%)、調査・プレゼンテーション課題(30%)、期末レポート(50%) | | |
| 学生への メッセージ | 「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。 後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。 なお、講義では担当者の実務経験にもとづいて議論を進めることもあります。 | | |
| 担当者の 研究室等 備考 | 7号館3階 教育イノベーションセンター (水野) | | |

| | | | |
|----------------|------|----------|------------------------|
| 科目名 | 教育原理 | 科目名 (英文) | Educational Principles |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 谷口 雄一・疋田 祥人 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | <p>教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語るすることができます。しかし、「教育とは一体何だろう?」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないのでしょうか。</p> <p>この授業では、「教育とは一体何だろう?」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。</p> <p>これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。</p> <p>授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。</p> |
| 到達目標 | <p>教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。</p> |
| 授業方法と留意点 | <p>本授業は「教育とは何か?」という本質的な問いについて受講者のみなさん一人一人が考え、自身の教育観を再構築していけるようにします。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して教育についての学びを進めていきます。</p> <p>そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、教育について多面的・多角的に考えることができるように配慮します。</p> <p>第8回と第10回には非常勤講師による講義を行い、西洋の教育思想についてより専門的な内容を学ぶことができますようにします。</p> |
| 科目学習の効果 (資格) | <p>(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状 の取得 (3) 学芸員資格 の取得に必要です。</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教育の基礎的理解に関する科目</p> <p>各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p> |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|---|---|
| | | | |
| 1 | ガイダンス： 教育について考える | 本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。 | (事前) テキスト P. 3 を精読しておく。 (事後) 「教育とは一体何だろう?」という問いについて自分の考えをまとめておく。 |
| 2 | 教育の基礎理論①： 教育の必要性 | なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。 | (事前) テキスト P. 59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の必要性について自分の考えを整理しておく。 |
| 3 | 教育の基礎理論②： 教育の目的 | 前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。 | (事前) テキスト P. 59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の目的について自分の考えを整理しておく。 |
| 4 | 教育の基礎理論③： 子どもの発見 | 「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。 | (事前) テキスト P. 76～85 を精読しておく。 (事後) 子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。 |
| 5 | 教育の基礎理論④： 教師とは何か | 教師という職業や、その教育的役割について考える。 | (事前) テキスト P. 69～73 を精読しておく。 (事後) 教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。 |
| 6 | 教育の基礎理論⑤： 近代の学校の誕生 | 近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。 | (事前) テキスト P. 93～97 を精読しておく。 (事後) 近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。 |
| 7 | 教育の基礎理論⑥： 家庭と教育 | 家庭において子どもはどのように扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。 | (事前) テキスト P. 86～90 を精読しておく。 (事後) 家庭における教育について整理しておく。 |
| 8 | 西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ その1 ※疋田先生が御担当 | 「教育とは何か」について、コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの教育思想から考察する。 | (事前) コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの人物像について調べる。 (事後) 授業プリントを読み直し、学習内容について整理する。 |
| 9 | 西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ その2 | 前回取り上げた教育思想家4名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。 | (事前) 第8回で取り上げた4名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物1名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 (事後) 授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。 |
| 10 | 西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ その1 ※疋田先生が御担当 | 「教育とは何か」について、フレーベル・デューイ・モンテッソーリの教育思想から考察する。 | (事前) フレーベル・デューイ・モンテッソーリの人物像について調べる。 (事後) 授業プリントを読み直し、学習内容について整理する。 |
| 11 | 西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ その2 | 前回取り上げた教育思想家4名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。 | (事前) 第10回で取り上げた3名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物1名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 (事後) 授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。 |
| 12 | 現代の教育理論： 20世紀の教育理論 | 20世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。 | (事前) テキスト P. 29～32 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。 |
| 13 | 現在の教育課題①： 学力問題 | 現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。 | (事前) テキスト P. 50～54 を精読しておく。 (事後) 学力問題について整理しておく。 |
| 14 | 現在の教育課題②： | 現在の教育課題の一つである生涯学習 | (事前) テキスト P. 147～151 を精読しておく。 |

| | | | | |
|---------------|--|------------------------|------------------------------|--|
| | | 生涯学習の思想 | について概観し、考察を加える。 | (事後)生涯学習の思想について整理しておく。 |
| | 15 | まとめ： 今後の教育について考える | 教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。 | (事前)テキストP.169～178を精読しておく。 (事後)「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。 |
| 関連科目 | 教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみるのが大切です。 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 哲学する教育原理 | 伊藤潔志 編著 | 教育情報出版 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) | 文部科学省 | 東山書房 |
| | 2 | 高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示) | 文部科学省 | 東山書房 |
| | 3 | 哲学する学校経営 | 伊藤潔志 編著 | 教育情報出版 |
| 評価方法 (基準) | 毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート (One Page Portfolio シート) の内容や授業中の学習の様子 (60%) や学期末試験の結果 (40%) 等をもとに総合的に評価します。 また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。 | | | |
| 学生への メッセージ | 授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 寝屋川キャンパス 7 号館 4 階 (谷口研究室) | | | |
| 備考 | 事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。 | | | |

| | | | |
|----------------|------|----------|------------------------|
| 科目名 | 教育原理 | 科目名 (英文) | Educational Principles |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 谷口 雄一・疋田 祥人 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | <p>教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語るすることができます。しかし、「教育とは一体何だろう?」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないのでしょうか。</p> <p>この授業では、「教育とは一体何だろう?」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。</p> <p>これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。</p> <p>授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。</p> |
| 到達目標 | <p>教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。</p> |
| 授業方法と留意点 | <p>本授業は「教育とは何か?」という本質的な問いについて受講者のみなさん一人一人が考え、自身の教育観を再構築していけるようにします。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して教育についての学びを進めていきます。</p> <p>そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、教育について多面的・多角的に考えることができるように配慮します。</p> <p>第8回と第10回には非常勤講師による講義を行い、西洋の教育思想についてより専門的な内容を学ぶことができるようにします。</p> |
| 科目学習の効果 (資格) | <p>(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状 の取得 (3) 学芸員資格 の取得に必要です。</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教育の基礎的理解に関する科目</p> <p>各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p> |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|---|---|
| | | | |
| 1 | ガイダンス： 教育について考える | 本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。 | (事前) テキスト P.3 を精読しておく。 (事後) 「教育とは一体何だろう?」という問いについて自分の考えをまとめておく。 |
| 2 | 教育の基礎理論①： 教育の必要性 | なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。 | (事前) テキスト P.59~63 を精読しておく。 (事後) 教育の必要性について自分の考えを整理しておく。 |
| 3 | 教育の基礎理論②： 教育の目的 | 前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。 | (事前) テキスト P.59~63 を精読しておく。 (事後) 教育の目的について自分の考えを整理しておく。 |
| 4 | 教育の基礎理論③： 子どもの発見 | 「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。 | (事前) テキスト P.76~85 を精読しておく。 (事後) 子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。 |
| 5 | 教育の基礎理論④： 教師とは何か | 教師という職業や、その教育的役割について考える。 | (事前) テキスト P.69~73 を精読しておく。 (事後) 教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。 |
| 6 | 教育の基礎理論⑤： 近代の学校の誕生 | 近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。 | (事前) テキスト P.93~97 を精読しておく。 (事後) 近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。 |
| 7 | 教育の基礎理論⑥： 家庭と教育 | 家庭において子どもはどのように扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。 | (事前) テキスト P.86~90 を精読しておく。 (事後) 家庭における教育について整理しておく。 |
| 8 | 西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ その1 ※疋田先生が御担当 | 「教育とは何か」について、コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの教育思想から考察する。 | (事前) コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの人物像について調べる。 (事後) 授業プリントを読み直し、学習内容について整理する。 |
| 9 | 西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ その2 | 前回取り上げた教育思想家4名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。 | (事前) 第8回で取り上げた4名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物1名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 (事後) 授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。 |
| 10 | 西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ その1 ※疋田先生が御担当 | 「教育とは何か」について、フレーベル・デューイ・モンテッソーリの教育思想から考察する。 | (事前) フレーベル・デューイ・モンテッソーリの人物像について調べる。 (事後) 授業プリントを読み直し、学習内容について整理する。 |
| 11 | 西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ その2 | 前回取り上げた教育思想家4名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。 | (事前) 第10回で取り上げた3名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物1名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 (事後) 授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。 |
| 12 | 現代の教育理論： 20世紀の教育理論 | 20世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。 | (事前) テキスト P.29~32 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。 |
| 13 | 現在の教育課題①： 学力問題 | 現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。 | (事前) テキスト P.50~54 を精読しておく。 (事後) 学力問題について整理しておく。 |
| 14 | 現在の教育課題②： | 現在の教育課題の一つである生涯学習 | (事前) テキスト P.147~151 を精読しておく。 |

| | | | | |
|---------------|--|------------------------|------------------------------|--|
| | | 生涯学習の思想 | について概観し、考察を加える。 | (事後) 生涯学習の思想について整理しておく。 |
| | 15 | まとめ： 今後の教育について考える | 教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。 | (事前) テキストP.169～178を精読しておく。 (事後) 「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。 |
| 関連科目 | 教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみるのが大切です。 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 哲学する教育原理 | 伊藤潔志 編著 | 教育情報出版 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) | 文部科学省 | 東山書房 |
| | 2 | 高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示) | 文部科学省 | 東山書房 |
| | 3 | 哲学する学校経営 | 伊藤潔志 編著 | 教育情報出版 |
| 評価方法 (基準) | 毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート (One Page Portfolio シート) の内容や授業中の学習の様子 (60%) や学期末試験の結果 (40%) 等をもとに総合的に評価します。 また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。 | | | |
| 学生への メッセージ | 授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 寝屋川キャンパス 7 号館 4 階 (谷口研究室) | | | |
| 備考 | 事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。 | | | |

| | | | |
|----------------|------|----------|------------------------|
| 科目名 | 教育原理 | 科目名 (英文) | Educational Principles |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 谷口 雄一・疋田 祥人 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | <p>教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語るすることができます。しかし、「教育とは一体何だろう?」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないのでしょうか。</p> <p>この授業では、「教育とは一体何だろう?」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。</p> <p>これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。</p> <p>授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。</p> |
| 到達目標 | <p>教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。</p> |
| 授業方法と留意点 | <p>本授業は「教育とは何か?」という本質的な問いについて受講者のみなさん一人一人が考え、自身の教育観を再構築していけるようにします。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して教育についての学びを進めていきます。</p> <p>そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、教育について多面的・多角的に考えることができるように配慮します。</p> <p>第8回と第10回には非常勤講師による講義を行い、西洋の教育思想についてより専門的な内容を学ぶことができるようにします。</p> |
| 科目学習の効果 (資格) | <p>(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状 の取得 (3) 学芸員資格 の取得に必要です。</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教育の基礎的理解に関する科目</p> <p>各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p> |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|---|---|
| | | | |
| 1 | ガイダンス： 教育について考える | 本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。 | (事前) テキスト P. 3 を精読しておく。 (事後) 「教育とは一体何だろう?」という問いについて自分の考えをまとめておく。 |
| 2 | 教育の基礎理論①： 教育の必要性 | なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。 | (事前) テキスト P. 59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の必要性について自分の考えを整理しておく。 |
| 3 | 教育の基礎理論②： 教育の目的 | 前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。 | (事前) テキスト P. 59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の目的について自分の考えを整理しておく。 |
| 4 | 教育の基礎理論③： 子どもの発見 | 「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。 | (事前) テキスト P. 76～85 を精読しておく。 (事後) 子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。 |
| 5 | 教育の基礎理論④： 教師とは何か | 教師という職業や、その教育的役割について考える。 | (事前) テキスト P. 69～73 を精読しておく。 (事後) 教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。 |
| 6 | 教育の基礎理論⑤： 近代の学校の誕生 | 近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。 | (事前) テキスト P. 93～97 を精読しておく。 (事後) 近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。 |
| 7 | 教育の基礎理論⑥： 家庭と教育 | 家庭において子どもはどのように扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。 | (事前) テキスト P. 86～90 を精読しておく。 (事後) 家庭における教育について整理しておく。 |
| 8 | 西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ その1 ※疋田先生が御担当 | 「教育とは何か」について、コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの教育思想から考察する。 | (事前) コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの人物像について調べる。 (事後) 授業プリントを読み直し、学習内容について整理する。 |
| 9 | 西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ その2 | 前回取り上げた教育思想家4名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。 | (事前) 第8回で取り上げた4名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物1名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 (事後) 授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。 |
| 10 | 西洋の教育思想②：フレーベル・デュイ・モンテッソーリ その1 ※疋田先生が御担当 | 「教育とは何か」について、フレーベル・デュイ・モンテッソーリの教育思想から考察する。 | (事前) フレーベル・デュイ・モンテッソーリの人物像について調べる。 (事後) 授業プリントを読み直し、学習内容について整理する。 |
| 11 | 西洋の教育思想②：フレーベル・デュイ・モンテッソーリ その2 | 前回取り上げた教育思想家4名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。 | (事前) 第10回で取り上げた3名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物1名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 (事後) 授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。 |
| 12 | 現代の教育理論： 20世紀の教育理論 | 20世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。 | (事前) テキスト P. 29～32 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。 |
| 13 | 現在の教育課題①： 学力問題 | 現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。 | (事前) テキスト P. 50～54 を精読しておく。 (事後) 学力問題について整理しておく。 |
| 14 | 現在の教育課題②： | 現在の教育課題の一つである生涯学習 | (事前) テキスト P. 147～151 を精読しておく。 |

| | | | | |
|---------------|--|------------------------|------------------------------|--|
| | | 生涯学習の思想 | について概観し、考察を加える。 | (事後)生涯学習の思想について整理しておく。 |
| | 15 | まとめ： 今後の教育について考える | 教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。 | (事前)テキストP.169～178を精読しておく。 (事後)「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。 |
| 関連科目 | 教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみる事が大切です。 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 哲学する教育原理 | 伊藤潔志 編著 | 教育情報出版 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) | 文部科学省 | 東山書房 |
| | 2 | 高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示) | 文部科学省 | 東山書房 |
| | 3 | 哲学する学校経営 | 伊藤潔志 編著 | 教育情報出版 |
| 評価方法 (基準) | 毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート (One Page Portfolio シート) の内容や授業中の学習の様子 (60%) や学期末試験の結果 (40%) 等をもとに総合的に評価します。 また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。 | | | |
| 学生への メッセージ | 授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 寝屋川キャンパス 7 号館 4 階 (谷口研究室) | | | |
| 備考 | 事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。 | | | |

| | | | |
|----------------|------|----------|-------------------|
| 科目名 | 教師論 | 科目名 (英文) | Teacher Education |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 朝日 素明 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようにになっているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。 |
| 到達目標 | 学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分どのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。 |
| 授業方法と留意点 | 講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。) |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------|---|--------------------------------|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション 教職への道 | 科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等 についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味 | 本科目のシラバスの熟読 |
| 2 | 教職の成立とその意義 | 公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成 | 戦前の教員養成制度に関する配布資料 |
| 3 | 教師教育と教職の専門性 (1) | 教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立 | 戦後の教員養成制度に関する配布資料 |
| 4 | 教師教育と教職の専門性 (2) | 教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験 | 教員免許制度に関する配布資料 |
| 5 | 教師教育と教職の専門性 (3) | 教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系 | 学び続ける教師に関する配布資料 |
| 6 | 教師教育と教職の専門性 (4) | 法定研修 教員の自己研修 | 教員研修体系に関する配布資料 |
| 7 | 文献・映像に基づく教師像の探究 (1) | 戦前・戦後の教師像 憧れの教師 | 教師像に関する配布資料 |
| 8 | 文献・映像に基づく教師像の探究 (2) | 「不良教師」と「熱血教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク | 「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出 |
| 9 | 文献・映像に基づく教師像の探究 (3) | 「人間教師」と「プロ教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク | 「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出 |
| 10 | 文献・映像に基づく教師像の探究 (4) | 教師としての資質能力のあり方 | 教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料 |
| 11 | 教員の役割・職務 (1) | 学校・教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務 | 授業・カリキュラムと教師に関する配布資料 |
| 12 | 教員の役割・職務 (2) | 学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務 | 教職員構成と校務分掌に関する配布資料 |
| 13 | 教員の役割・職務 (3) | 学校内外の連携の視点からみた教員の役割・職務 (チーム学校運営への対応を含む) | 「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する配布資料 |
| 14 | 教員の役割・職務 (4) | 教員の任用と身分 教員の服務と身分保障 | 教員の任用・服務等に関する配布資料 |
| 15 | 教員の役割・職務 (5) | 教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト | 教員の勤務実態とメンタルヘルスに関する配布資料 |

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

評価方法 (基準) 定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー 10%

学生へのメッセージ 教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。
遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。

| | |
|----------|--|
| 担当者の研究室等 | 7号館3階 朝日研究室 |
| 備考 | ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ60時間程度です。 |

| | | | |
|----------------|-------|----------|------------------------|
| 科目名 | 教育心理学 | 科目名 (英文) | Educational Psychology |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 吉田 佐治子 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになることを目標とする。 |
| 到達目標 | 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。 |
| 授業方法と留意点 | 講義中心で行う。事前に資料を moodle 上で配付するので、各自入手しておくこと。 必要に応じて、簡易実験やグループディスカッション等を行う。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」10単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------|--|--|
| | | | |
| 1 | 発達と教育と心理学と1 | 教育に対して心理学ができること、発達と教育 | テキスト第0章1, 配付資料による本時の予習と復習 |
| 2 | 発達と教育と心理学と2 | 発達の要因, 主な発達理論の概観 | テキスト第8章1, 配付資料による本時の予習と復習 |
| 3 | こどもの発達1 | 乳幼児期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達 | テキスト第8章2・第9章, 配付資料による本時の予習と復習 |
| 4 | こどもの発達2 | 児童期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達 | テキスト第8章2・第10章・第11章, 配付資料による本時の予習と復習 |
| 5 | こどもの発達3 | 青年期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達 | テキスト第8章2・第10章・第11章・第12章, 配付資料による本時の予習と復習 |
| 6 | 学習を支える認知機能1 | 思考.....人間の思考の特徴, メタ認知の機能と発達 | テキスト第7章1, 配付資料による本時の予習と復習 |
| 7 | 学習を支える認知機能2 | 言語.....言語の機能, 言語理解と言語産出とその発達 | テキスト第11章, 配付資料による本時の予習と復習 |
| 8 | 学習を支える認知機能3 | 記憶.....記憶のメカニズムと発達 | テキスト第4章・第5章, 配付資料による本時の予習と復習 |
| 9 | こどもの学び1 | さまざまな学習①.....学習とは何か, 主な学習理論の概観, 条件づけ | テキスト第1章, 配付資料による本時の予習と復習 |
| 10 | こどもの学び2 | さまざまな学習②.....観察学習, 自己制御学習 | テキスト第1章・第6章, 配付資料による本時の予習と復習 |
| 11 | 学習を支える動機づけ1 | 意欲とは何か.....動機づけ過程, 動機づけ理論 | テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習 |
| 12 | 学習を支える動機づけ2 | さまざまな意欲.....外発的動機づけ・内発的動機づけ, その他の視点, 意欲の発達 | テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習 |
| 13 | 学習を支える動機づけ3 | 意欲を育む.....こどもの発達と意欲, 意欲を育む教育のあり方, 学習と評価 | テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習 |
| 14 | 学校における人間関係 | 教師-生徒の関係, 生徒-生徒の関係, 教師-教師の関係, 集団としての学級 | テキスト第0章2・第10章, 配付資料による本時の予習と復習 |
| 15 | 個に応じた教育 | 個人差の理解と教育.....ATI, 学習方略 | テキスト第0章3・第6章・第7章2, 配付資料による本時の予習と復習 |

関連科目 教職課程におけるすべての科目

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|--------------------------|-----------|---------|
| 1 | 絶対役立つ教育心理学—実践の理論, 理論を实践— | 藤田哲也 (編著) | ミネルヴァ書房 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

評価方法 (基準) 小テスト 30%, 期末試験 70%

学生へのメッセージ これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。

担当者の研究室等 7号館3階 (吉田研究室)

| | |
|----|--|
| 備考 | Moodle コース名と登録キー 火曜5限: 2022教育心理学 (火5) あるいは 22教心 (火5) 2022EPTUE5 木曜1限: 2022教育心理学 (木1) あるいは 22教心 (木1) 2022EPTU1 木曜5限: 2022教育心理学 (木5) あるいは 22教心 (木5) 2022EPTU5 金曜5限: 2022教育心理学 (金5) あるいは 22教心 (金5) 2022EPPRI5 ・期末試験は希望者に返却します。 ・事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。 |
|----|--|

| | | | |
|----------------|---------|----------|------------------------------------|
| 科目名 | 特別支援教育論 | 科目名 (英文) | Studies of Special Needs Education |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 松浦 正典 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 通常の学級にも在籍している発達障害や知的障害をはじめとする様々な障害者等により特別な支援を必要とする子ども達が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身につけていけるよう、子どもの学習上または生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の職員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。 |
| 到達目標 | ①インクルーシブ教育システムにおける特別支援教育に関する理念や仕組みについて理解する。 ②視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・発達障害を含むさまざまな障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について理解する。 ③発達障害や知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童・生徒の心身の発達、心理的特性、障害の場合はその特性について理解する。 ④個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成する意義と方法について理解する。 ⑤管理職・特別支援教育コーディネーターをはじめとするチーム |
| 授業方法と留意点 | 1 授業は対面式で行う。状況によってはオンラインで行うこともありうる。ICT ツールは Teams を使用する。 2 講義資料等は「ファイル」に各授業回別のフォルダをつくり、そこに掲載する。電子ファイルとして、もしくはプリントアウトして各自で管理すること。 3 Teams で「課題」の提出を求めるので遅滞なく提出すること。なお発表資料は発表の1週間前までに提出することとする。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 教職科目 特別支援教育論は、教員免許 (小学校・中学校・高等学校) 取得上必修科目である。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------------------|---|---|
| | | | |
| 1 | 特別支援教育を学ぶ意義と本授業のガイダンス | ・なぜ特別支援教育学を学ばなければならないか理解する。・グループ学習のやり方について説明を聞き、グループ分けを行う。 | ・授業計画及び教科書第1章を読み、今後の学習について見通しを持つ (2時間)・グループでの役割に応じて4回目授業での発表準備を進める (2時間) |
| 2 | 特別支援教育の歴史と現行制度について | ・特殊教育・特別支援教育の歴史の概要を知る。 ・特別支援教育を支える仕組みについて理解する。 | ・教科書第2章をよく読み、質問をまとめておく。(2時間)・グループでの役割に応じて4回目の授業での発表準備を進める (2時間) |
| 3 | 支援システムの構築と法的整備 | ・校内支援システムの構築や他職種等の連携を知り、チーム学校について理解する。 | ・教科書第3章をよく読み、質問をまとめておく。(2時間)・ペアでの役割に応じて、4回目の授業での発表の資料をA4一枚程度(両面可)にまとめ、提出する。(2時間) |
| 4 | 視覚障害・聴覚障害について | ・視覚障害・聴覚障害の概要・必要な支援・教育について教えあう。 | ・教科書第11章をよく読むとともに、自分の担当部分をペアに説明する準備を行う。(2時間)・講義やペア学習、教科書を元に学習内容をまとめる。(2時間) |
| 5 | 肢体不自由・病弱・身体虚弱・重度重複について | ・肢体不自由・病弱・身体虚弱・重度重複の概要・必要な支援・教育について理解する。 | ・教科書第10章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・グループでの役割に応じて、7回目の授業での発表資料をA4二枚以内(両面可)にまとめ、提出する。(2時間) |
| 6 | 情緒障害・言語障害について | ・情緒障害・言語障害の概要及びタイプ、指導・支援方法等について学ぶ。 | ・教科書第8章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2時間) |
| 7 | 知的障害・発達障害について (1) | ・知的障害・発達障害についてグループで発表を行い、質疑応答をする。・障害別に担当者が集まり、お互いの内容を補完し、疑問点を解決する。 | ・自分の発表部分について、よく伝わるように練習しておく。教科書を読んで概要を理解しておく。(2時間) 授業で学んだことを整理し、発表資料を訂正し、提出する。(2時間) |
| 8 | 知的障害・発達障害について (2) | ・7回目終了後に提出した資料をもとに2回目のグループ発表を行う。代表者にまとめた発表をしてもらい、感想をまとめる。 | ・自分の発表部分について、よく伝わるように練習しておく。教科書を読んで概要を理解しておく。(2時間) 授業で学んだことを整理し、教科書を再読する。(2時間) |
| 9 | LGBT 等特別な教育的支援が必要な子どもの理解と指導・支援 | ・学習困難・ギフテッド・LGBT・不登校・いじめなど教育的支援が必要な児童について学び、学級での支援の方法について理解する。 | ・教科書第12章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2時間) |
| 10 | 個別の指導計画と個別の教育支援計画 | ・ICFモデル・特別支援教育への転換について知る。 ・合理的配慮と個別の支援計画・個別の指導計画について理解し、実際に個別の指導計画を作成してみる。 | ・教科書第5章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2時間) |
| 11 | 通常学級での特別支援教育 (1) | ・場の教育とニーズによる教育の違いを整理する。 ・個別支援とアセスメント・個別支援の最適化について理解する。 | ・第2回の授業内容について教科書やノートで復習しておく (2時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2時間) |
| 12 | 通常学級での特別支援教育 (2) | ・前時の授業をもとに、授業のユニバーサルデザインで目指すものとユニバーサルデザインの概要について理解する。 | ・前時の授業内容を復習しておく (2時間)・講義を元に学習内容をまとめる (2時間) |
| 13 | 保護者との連携・専門機関・地域との連携 | ・特別な教育的支援を必要とする子どもや親を支える専門機関の種類と役割を理解する ・地域での生活を送るうえでの支援と課題を理解する。 | ・特別な教育的支援を必要とする子ども・教科書第13章・14章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・教科書と講義を元に学習内容をまとめる (2時間) |
| 14 | 早期支援と就労支援 | ・早期発見システムについて学び、早期支援について考える。 ・進路支援・就労支援の実際を知り、問題点を明らかにする。 | ・教科書第15・第16章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2時間) |

| | 15 | 発達障害等に対する指導技法 まとめ | <ul style="list-style-type: none"> ・応用行動分析の考え方を理解する。 ・特別支援教育学の講義全体を見直し、課題と解決方法について、自分なりの考えを持つ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・配布した資料に目を通しておく。今まで学習した内容を教科書やノートで振り返る。(2時間) ・今までの学修をふりかえる(2時間)・当日出題される課題に取り組み、提出する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|---|-------------------|--|---|----|-----|-----|------|---|---------------------------|-------|--------|---|---------------------------------------|-------|-------|---|------------------------|-------|-------|
| 関連科目 | 教職科目全般と関連性をもつ。特に、教師論、教育心理学、特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法、教育方法論、教育課程論、教育社会学、教育相談での学習内容と関連させて理解を深めることが大切である。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>はじめての特別支援教育 教職を目指す大学生のために</td> <td>柘植雅義他</td> <td>有斐閣アルマ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | はじめての特別支援教育 教職を目指す大学生のために | 柘植雅義他 | 有斐閣アルマ | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | はじめての特別支援教育 教職を目指す大学生のために | 柘植雅義他 | 有斐閣アルマ | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>みんなで考える特別支援教育</td> <td>梅永雄二他</td> <td>北樹出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>特別支援学校幼稚園部教育要領小学校・中学部学習指導要領 平成29年4月告示</td> <td>文部科学省</td> <td>海文堂出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>中学校学習指導要領(平成29年告示) 総則編</td> <td>文部科学省</td> <td>海文堂出版</td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | みんなで考える特別支援教育 | 梅永雄二他 | 北樹出版 | 2 | 特別支援学校幼稚園部教育要領小学校・中学部学習指導要領 平成29年4月告示 | 文部科学省 | 海文堂出版 | 3 | 中学校学習指導要領(平成29年告示) 総則編 | 文部科学省 | 海文堂出版 |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | みんなで考える特別支援教育 | 梅永雄二他 | 北樹出版 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 特別支援学校幼稚園部教育要領小学校・中学部学習指導要領 平成29年4月告示 | 文部科学省 | 海文堂出版 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 中学校学習指導要領(平成29年告示) 総則編 | 文部科学省 | 海文堂出版 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 授業への参加状況【課題等】(40%)、中間レポート(30%)、最終レポート(30%)を総合的に評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 本科目を受講することで、障害のある児童生徒をはじめ、特別な支援を必要とする児童生徒への理解が進み、1人ひとりの教育ニーズに応じた教育が展開できるようになってほしい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 寝屋川キャンパス7号館3階松浦研究室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 授業外総学習時間を60時間とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|-------|----------|-----------------------------------|
| 科目名 | 教育課程論 | 科目名 (英文) | Studies of Curriculum Development |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 大野 順子 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | (1) 教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 (2) わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。 |
| 到達目標 | 本講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 学校教育における教育課程の意義について理解できる。 (2) 将来、教職に就いた際、適切な教育課程(カリキュラム)を計画・編成し、かつ、実践、評価し、改善できる資質が身につく。 |
| 授業方法と留意点 | 本授業は、授業全体を通して、みなさん一人一人の授業への主体的な参加が求められます。また、各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を熟読し、さらに、それぞれが取得する免許教科の「学習指導要領」(文部科学省ホームページでダウンロード可能)を入手し、熟読しておいてください。 |
| 科目学習の効果(資格) | 教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目:教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項:教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。) |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------------------------|--|---|
| | | | |
| 1 | 教育課程とは何か/オリエンテーション | 学校教育のもつ機能について。 | 課題:シラバスに挙げている教科書を購入手、授業テーマに該当する分を読み、まとめる。 |
| 2 | 日本における教育課程の歴史的変遷Ⅰ | 戦前から戦後(経験主義～系統主義:高度経済成長期)の教育課程変遷について。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 3 | 日本における教育課程の歴史的変遷Ⅱ | 1970年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 4 | 教育課程(カリキュラム)の概念と構造、および教育課程編成について | 教育課程の編成要素(内部要因と外部要因)について。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 5 | 教育評価 その1 | 子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 6 | 教育評価 その2 | 教育課程評価について。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 7 | 『総合的な学習の時間』について | 導入の背景とそのねらいについて。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 8 | 新しい教育課程 その1 | 「キャリア教育」について。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 9 | 新しい教育課程 その2 | 「アクティブラーニング」について。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 10 | 新しい教育課程 その3 | 「社会に開かれた教育課程」について。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 11 | 教育課程と教育改革 その1 | 特色のある学校づくり=小中高編。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 12 | 教育課程と教育改革 その2 | カリキュラム・マネジメントについて。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 13 | 教育課程と教育格差 その1 | 学力格差と学力低下問題について。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 14 | 教育課程と教育格差 その2 | 教育格差に抗する学校の取り組みについて。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 15 | 総括:教育課程をめぐる諸問題 | 海外の学校教育課程の動向、及び、キー・コンピテンシー(OECD)について。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読み、最終レポートを作成する。 |

| | |
|------|---|
| 関連科目 | 教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。 |
|------|---|

| | | | | |
|-----|----|-----------------|-------|--------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 新しい時代の教育課程(第4版) | 田中耕治他 | 有斐閣アルマ |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|--------------------------|----------|----------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 新教育課程ライブラリ(Vol.1~Vol.12) | (株)ぎょうせい | (株)ぎょうせい |
| | 2 | ワークで学ぶ教育課程論 | 尾崎博美他 | ナカニシヤ出版 |
| | 3 | | | |

| | |
|----------|---------------------------------------|
| 評価方法(基準) | 事前課題及びレポート(30%)と最終試験(70%)により総合的に評価する。 |
|----------|---------------------------------------|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 指定している「教科書」を活用し、毎時間、事前事後学習をしっかりと行ってください。レポート等の提出物に関しては期日までに提出すること。期日以降の提出は原則認めません。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|--|
| 担当者の研究室等 | 7号館3階(大野順子研究室) 連絡先: j-oono@arc.setsunan.ac.jp |
|----------|--|

| | |
|----|---|
| 備考 | 2009年度以前入学生は、(高校)教免取得上選択 授業計画に記載している授業テーマは授業の進捗状況により少々前後することがあります。 授業で用いる資料等については、適宜印刷し、配布します |
|----|---|

事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

| | | | |
|----------------|-------|----------|----------------------------|
| 科目名 | 道徳教育論 | 科目名 (英文) | Studies of Moral Education |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 谷口 雄一 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | この授業では、中学校において「特別の教科 道徳」(以下、道徳科)の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を受ける「立場」からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。 |
| 到達目標 | 受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の道徳科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになることを目標とします。 |
| 授業方法と留意点 | 本授業は道徳科の授業づくりについて実践的に学ぶ内容のため対面で行います。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して道徳教育や道徳科の授業についての学びを進めていきます。また、後半には、学習指導案作成等の演習や受講者のみなさんによる模擬授業等を適宜取り入れます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができるように配慮します。 |
| 科目学習の効果(資格) | 中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：道徳の理論及び指導法 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------------------|---|--|
| | | | |
| 1 | ガイダンス：道徳科の授業について考える | ・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める4つのアプローチについて概観する。 | (事前)自身が学校教育においてが受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。 (事後)テキスト2のP.8～17を精読しておく。 |
| 2 | 日本の道徳教育の歴史 | ・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。 | (事前)テキスト1のP.6～12を精読しておく。 (事後)日本の道徳教育の歴史や信念対立について整理しておく。 |
| 3 | よい道徳教育とは何か | よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。 | (事前)テキスト1のP.12～25を精読しておく。 (事後)道徳の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。 |
| 4 | 道徳の授業の多様な指導方法の特徴 | 道徳の授業のねらいに基づく8類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。 | (事前)テキスト1のP.26～35及びテキスト2のP.26～29を精読しておく。 (事後)道徳の授業のねらいに基づく8類型について整理しておく。 |
| 5 | 道徳の授業の発問の構成法 | 「特別の教科 道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。 | (事前)テキスト1のP.36～48及びテキスト2のP.30～33を精読しておく。 (事後)ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。 |
| 6 | 道徳の授業の学習指導案の作成法 | 「特別の教科 道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。 | (事前)テキスト1のP.49～58及びテキスト2のP.34～37を精読しておく。 (事後)道徳の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。 |
| 7 | 道徳の授業の評価 | 「特別の教科 道徳」における評価の内容や方法について考える。 | (事前)テキスト1のP.59～68及びテキスト2のP.38～41を精読しておく。 (事後)道徳の授業の評価の内容や方法について整理しておく。 |
| 8 | 各授業類型のねらいと発問の特徴 | 教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。 | (事前)テキスト1のP.71～85及びテキスト2のP.42～45を精読しておく。 (事後)教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。 |
| 9 | 教材分析の視点 | 教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。 | (事前)テキスト1のP.86～95及びテキスト2のP.46～49を精読しておく。 (事後)教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。 |
| 10 | 発問分析による授業づくりの視点 | 発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。 | (事前)テキスト1のP.96～106及びテキスト2のP.50～53を精読しておく。 (事後)問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。 |
| 11 | 授業づくりの実際①：カリキュラム・マネジメント、テーマ発問 | カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。 | (事前)テキスト1のP.107～130及びテキスト2のP.54～57を精読しておく。 (事後)カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について整理しておく。 |
| 12 | 授業づくりの実際②：問題解決的な学習、探究型学習 | 問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。 | (事前)テキスト1のP.131～152及びテキスト2のP.58～61を精読しておく。 (事後)問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について整理しておく。 |
| 13 | 学習指導案の作成 | これまでの講義内容をふまえ、第9回で選択し教材分析した教材を用いた道徳の授業について、学習指導案を作成する。 | (事前)テキスト2のP.62～65を精読しておく。 (事後)グループ毎に模擬授業の準備をしておく。 |
| 14 | 模擬授業と事後検討会① | 模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。 | (事前)テキスト2のP.66～69を精読しておく。 (事後)グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備 |

| | 15 | 模擬授業と事後検討会② まとめ： 道徳科の授業について再び 考える | ・模擬授業を行い、授業改善のための検 討を行う。 ・道徳科の授業づくりについてまとめ る。 | をしておく。 (事前) グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備 をしておく。 (事後) 「よい道徳科の授業」について考えをまと める。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|--|--|--|---|----|-----|-----|------|---|-------------------------------------|-------------|---------|---|--|-----------|--------|---|--|--|--|
| 関連科目 | 教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>道徳科 初めての授業づくり</td> <td>吉田誠・木原一彰 編著</td> <td>大学教育出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の 教科 道徳編</td> <td>文部科学省</td> <td>教育出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 道徳科 初めての授業づくり | 吉田誠・木原一彰 編著 | 大学教育出版 | 2 | 中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の 教科 道徳編 | 文部科学省 | 教育出版 | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 道徳科 初めての授業づくり | 吉田誠・木原一彰 編著 | 大学教育出版 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の 教科 道徳編 | 文部科学省 | 教育出版 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の 教科 道徳編</td> <td>文部科学省</td> <td>廣済堂あかつき</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新 発問パターン大全集</td> <td>『道徳教育』編集部</td> <td>明治図書出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の 教科 道徳編 | 文部科学省 | 廣済堂あかつき | 2 | 『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新 発問パターン大全集 | 『道徳教育』編集部 | 明治図書出版 | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の 教科 道徳編 | 文部科学省 | 廣済堂あかつき | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新 発問パターン大全集 | 『道徳教育』編集部 | 明治図書出版 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート (One Page Portfolio シート) の内容や授業中の学習の様子 (30%)、作成した道徳科学習指導案 (20%)、学期末試験の結果 (50%) 等をもとに、総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | 授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館4階(谷口研究室) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|-----------------------|----------|--|
| 科目名 | 特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法 | 科目名 (英文) | Methodology of Special Activities and Integrated Studies |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 松浦 正典 |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。 総合的な学習（探求）の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探究的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。 |
| 到達目標 | 1 教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。 2 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。 3 合意形成に向けた学級での話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 4 総合的な学習（探求）の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成する |
| 授業方法と留意点 | 講義はテキストやプリント教材、視覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。 |
| 科目学習の効果（資格） | 教職科目 特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法は、教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。 |

| | 授業計画 | | | |
|--|------|-------------------------------------|--|--|
| | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習（探求）の時間の意義と課題 | 学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量 | 特別活動テキスト第1章、講義資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をする（2時間）。 |
| | 2 | 特別活動の目標・内容・方法 | 教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動 学級活動に役立つワーク 1 | 特別活動テキスト第2章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習する（2時間）。 |
| | 3 | 学級活動・ホームルーム活動① | 学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画 学級活動に役立つワーク 2 | 特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 |
| | 4 | 学級活動・ホームルーム活動② | 人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直 学級活動に役立つワーク 3 | 特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 |
| | 5 | 生徒会活動・児童会活動、学校行事 | 生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点 学級活動に役立つワーク 4 | 特別活動テキスト第3章第2・3節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をする（2時間）。 |
| | 6 | 体験活動・体験的な学びの意義 | 特別活動・総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通じた学びの重要性と計画的な指導の重要性 学級活動に役立つワーク 5 | 講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 |
| | 7 | 特別活動の歴史 | 学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがひ 学級活動に役立つワーク 6 | 講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 |
| | 8 | 特別活動と学級経営 | 学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動 学級活動に役立つワーク 7 | 講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 |
| | 9 | 特別活動と生徒指導 学級活動に役立つワーク 8 | 生徒指導との関連、積極的な生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成 学級活動に役立つワーク 8 | 講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 |
| | 10 | 特別活動の指導計画と評価 | 全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用 学級活動に役立つワーク 9 | 特別活動テキスト第4章第1・2・5節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 |
| | 11 | 特別活動と総合的な学習（探求）の時間の共通点と相違点 | 特別活動と総合的な学習（探求）の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性 学級活動に役立つワーク 10 | 講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 |
| | 12 | 総合的な学習（探求）の時間の目標・内容・原理 | 総合的な学習（探求）の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 学級活動に役立つワーク 11 | 総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 |
| | 13 | 総合的な学習（探求）の時間の学習活動と学習指導 | 生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び 学級活動に役立つワーク 12 | 総合的な学習の時間のテキスト第2・7章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 |
| | 14 | 総合的な学習（探求）の時間の指導計画・評価・校内体制 | 全体計画、年間計画、単元計画の作成、生徒の学習状況の評価 学級活動に役立つワーク 13 | 総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。 |
| | 15 | 補足とまとめ/最終レポートについて | 補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。 | 特別活動のテキスト第4章第2・3・4節、総合的な学習の時間のテキスト第9章、講義資料を事前に読ん |

| | | | | |
|-----------|---|--------------------------------|-------|---|
| | | | | でおく(2時間)。講義資料を参考に復習をするともにも最終レポートを作成する(2時間)。 |
| 関連科目 | すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことに関連づけるともに、教育方法論、生徒指導論、道徳教育論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 中学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示 | 文部科学省 | 東山書房 |
| | 2 | 中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 平成29年告示 | 文部科学省 | 東山書房 |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 高等学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示 | 文部科学省 | 東京書籍 |
| | 2 | 高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編 平成29年告示 | 文部科学省 | 学校図書 |
| | 3 | | | |
| 評価方法(基準) | 授業への参加状況及び課題(40%)、中間レポート(30%)、最終レポート(30%)を総合的に評価する。 | | | |
| 学生へのメッセージ | 学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだということが言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。 | | | |
| 担当者の研究室等 | 寝屋川キャンパス7号館3F松浦研究室 | | | |
| 備考 | 授業外学習総時間を60時間とする。 | | | |

| | | | |
|---------------|-------|----------|-------------------------------|
| 科目名 | 教育方法論 | 科目名 (英文) | Studies of Educational Method |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 松浦 正典 |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | <p>教職課程「教育の方法及び技術」に対応する科目である。教師に求められる教育の方法と技術に関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけていくことを目指して授業を行う。内容としては、教育の方法と技術に関する歴史の変遷に触れ、現代求められている「主体的・対話的で深い学び」についての理解を深める。この授業を通してそれぞれが理想とする授業像・教師像を持ち、教員採用試験を突破できる基礎力を築く。</p> <p>また、授業形態としては、講義のほかにペア学習・グループに分かれてのアクティブラーニングを取り入れ、教える側にも立ち、学修を進める。</p> |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1 教育方法の基礎的理論と実践について理解している 2 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。 3 授業を行う上での基礎的な技術を身につける。 4 子供たちの情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解する。 |
| 授業方法と留意点 | <ol style="list-style-type: none"> 1 授業は対面式で行う。ICTツールはTeamsを使用する。 2 講義資料等は「ファイル」により各授業回別のフォルダを作り、そこに掲載する。電子ファイルとして、もしくはプリントアウトして各自で管理すること。 3 Teamsで「課題」の提出を求めるので遅滞なく提出すること。なお、発表資料は発表の1週間前までに提出すること。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 教職科目 教育方法論は、教員免許（小学校・中学校・高等学校）取得上必修科目である。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------------------------|---|---|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション、教職科目「教育方法論」について・授業経験の振り返り | <p>授業のオリエンテーション</p> <p>講義：今、なぜ教育方法の学なのか・教育方法学の論点と課題</p> <p>ペア学習：記憶に残る教師・授業について体験を発表する</p> | 教科書序章・第3章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する。(2時間) |
| 2 | 学習とは何か(学習論) | <p>講義：学習をめぐる3つの理論、学習理論にもとづく学習方法、学習における他者の役割・アクティブラーニングについて理解する。</p> <p>ペア学習：学びのピラミッドを理解する</p> | 教科書第5章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(2時間)。 |
| 3 | 子どもたちは何を学ぶのか(教育目標・内容論) | <p>講義：教育目標に関する基本的な考え方、教育目標と内容、教材・教具の違いについて理解する。</p> <p>グループ学習：グループに分かれ担当する課題を決める。</p> | 教科書第4章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく(2時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する。6から10回目の授業内容のうち担当する授業テーマについて発表の準備を進める。(2時間) |
| 4 | 欧米における授業の歴史(教授論の歴史①) | <p>講義：近代以前の教育、近代教育思想と教授法の成立、教育学の体系化と授業の組織化、カリキュラム研究の成立と展開について理解する。</p> <p>ミニ講座その1</p> | 教科書第1章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する。発表の準備を進める。(2時間) |
| 5 | 日本における授業の歴史(教授論の歴史②) | <p>講義：古代から近世の教育、近代学校制度と授業の成立、授業の定型化、授業改造の試みについて理解する</p> <p>ミニ講座その2</p> | 教科書第2章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 発表の準備を進める。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する。(2時間) |
| 6 | 学力をどう高めるか(学力論) | <p>グループ発表・講義：学力をどうとらえるか、「できる学力」を高める、「分かる学力」を高めるについて理解する。</p> | 教科書第6章をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。(2時間) |
| 7 | 授業をどうデザインするか(設計・デザイン論) | <p>グループ発表・講義：授業のデザイン、教科内容と子どもの学び、対話的・協同的な学び合い、学びのための指導・支援について理解する。</p> | 教科書第7章をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。(2時間) |
| 8 | 8 教育の道具・素材・環境(教材論) | <p>グループ発表・講義：教材づくりの発想、メディアとしての教材、教材概念の拡張、学習環境としての時空間について理解する。</p> | 教科書第8章をよく読んでおく。(2時間) 教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。(2時間) |
| 9 | 何をどう評価するか(評価論) | <p>グループ発表・講義：指導要録における教育評価観の変遷、目標に準拠した評価の意義と展開、形成的評価と自己評価、パフォーマンス評価とポートフォリオ評価、教育評価論としての「実践記録」について理解する。</p> | 教科書第9章をよく読んでおく。(2時間) 教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。(2時間) |
| 10 | 教科外教育活動を構想する | <p>グループ発表・講義：教科外活動の分野と方法、教育外活動の今日的な課題について理解する。</p> | 教科書10章をよく読んで、疑問点をまとめておく(2時間)。教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。(2時間) |
| 11 | 授業・学習へのICTの活用 | <p>講義：教育の情報化、教育の情報化の今日的意義、教育情報化の加速、ICTを活用した学びの実践、学校のICT環境整備、GIGAスクール構想について理解する</p> <p>ミニ講座3</p> | 講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 講義資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)。 |
| 12 | インクルーシブな授業をつくる(インクルーシブ教育論) | <p>講義：ICFへの転換と特殊教育から特別支援教育への転換、特別支援教育の理念と合理的配慮の考え方、授業における合理的配慮について理解する。</p> | 講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 講義資料を参考に学習内容を整理する。(2時間) |

| | | | ミニ講座 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|---|----------------------------------|---|---|----|-----|-----|------|---|--------------------------|-------|------|---|--|--|--|---|--|--|--|
| | 13 | ユニバーサルデザイン化した授業をつくる(ユニバーサルデザイン論) | 講義:バリアフリーとユニバーサルデザイン、教育のユニバーサルデザイン化、基礎的環境整備と合理的配慮の関係、教室環境のユニバーサルデザイン、授業のユニバーサルデザイン化と指導の三段構え ミニ講座 5 | 講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 講義資料を参考に学習内容を整理する。(2時間) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 14 | 今求められている学力を育てるために | 講義・ペア学習:なぜフィンランドは学力世界一になったかを理解する。 ・学習指導と学級経営の関係を理解する。 ミニ講座 6 | 講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 講義資料を参考に学習内容を整理する。(2時間) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15 | まとめ〜学び続ける教員像をめぐって | 講義:すぐれた教師・理想の教師になるために何をしていけばよいか2つの教師モデル等から理解する。 最終レポートの課題を知る。 | 教科書第11章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 教科書・講義資料を参考に学習内容を整理し、最終レポートを作成・提出する。(2時間) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新しい時代の教育方法 改訂版</td> <td>田中耕治他</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 新しい時代の教育方法 改訂版 | 田中耕治他 | 有斐閣 | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 新しい時代の教育方法 改訂版 | 田中耕治他 | 有斐閣 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中学校学習指導要領(平成29年度版)解説 総則編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 中学校学習指導要領(平成29年度版)解説 総則編 | 文部科学省 | 東山書房 | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 中学校学習指導要領(平成29年度版)解説 総則編 | 文部科学省 | 東山書房 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 授業への参加状況【課題等】(40%)、レポート(30%)、最終レポート(30%)により総合的に評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 「授業に参加するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 7号館3階(松浦研究室) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 授業外総学習時間を60時間とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|----------------|---------|------------------------------------|
| 科目名 | 生徒指導論（進路指導を含む） | 科目名（英文） | Studies of Guidance and Counseling |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 朝日 素明 |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めています。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されています。本科目では、生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義について理解を深め、実践を進める方法原理について基礎的な知識を獲得し、教職員や関係機関と協力して解決・改善を目指す素養を養います。 |
| 到達目標 | 学生は、生徒指導、進路指導、キャリア教育の意義と原理を理解し、学校の教育活動の核にこれを据え、全ての教職員および関係機関等と協力し、組織的に実践を進めていくために必要な知識やスキルを学び、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につけることができます。 |
| 授業方法と留意点 | 対面授業で、プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に進めます。また時折、レポートを課します。Teamsのチャネルを通してテキストや資料を配布します。また、レポート課題提示・提出受付はMoodleを通して行います。「事前・事後学習課題」はすべて事前課題です。事後課題については別途、指示します。 |
| 科目学習の効果（資格） | 教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------------------|--|-----------------------------------|
| 1 | オリエンテーション 教育課程と生徒指導・進路指導 | 科目概要について説明 自分の生徒指導上の体験のふりかえり | テキスト pp. 3-6、pp. 25-32、pp. 80-100 |
| 2 | 生徒指導の目標と意義 | 生徒指導の目標と意義 | テキスト pp. 6-17 |
| 3 | 生徒指導の実践 | 生徒指導の実践課題と領域 | テキスト pp. 17-24 |
| 4 | 生徒指導の理論 | 発達に関する理論 生徒指導における治療的支援に関する理論 相談理論など | テキスト pp. 32-42 |
| 5 | 生徒理解の進め方（1） | 生徒理解の意義と目的 生徒理解の方法 | テキスト pp. 43-52 |
| 6 | 生徒理解の進め方（2） | 生徒の自己理解の支援 教師の生徒認知のありよう | テキスト pp. 52-62 |
| 7 | 学級経営の進め方（1） | 学級経営の意義 学級集団の役割・機能 | テキスト pp. 63-68 |
| 8 | 学級経営の進め方（2） | 学級集団の力学 学級経営の方法 | テキスト pp. 68-79 |
| 9 | 生徒指導上の諸問題の理解と対応 | 生徒指導上の諸問題とは 最近の諸問題の動向 諸問題にどう対応するか | 生徒指導上の諸問題に関する配布資料 |
| 10 | 学校の生徒指導・進路指導体制と連携・協力 | 学校における指導体制 家庭との連携 専門機関との連携 | テキスト pp. 116-131 |
| 11 | 生徒の進路・キャリアに関する実態と課題 | 進路選択の実態と課題 キャリア適応 青少年の勤労観・職業観 勤労観・職業観の形成と変容 | テキスト pp. 176-195 |
| 12 | 進路指導・キャリア教育の目標と意義 | 進路指導・キャリア教育の意義 進路指導・キャリア教育の現代社会的課題 | テキスト pp. 135-159 |
| 13 | 進路指導・キャリア教育の理論 | キャリア発達に関する諸理論 キャリアカウンセリングに関する理論 | キャリア発達理論に関する配布資料 |
| 14 | 進路指導における「ガイダンスの機能」 | ガイダンスを活かした指導 | テキスト pp. 220-223 |
| 15 | 学校教育における進路指導の実践展開 | 進路指導実践の展開モデル | テキスト pp. 196-220、pp. 223-234 |

| | |
|------|---|
| 関連科目 | 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育心理学」「特別活動の理論と方法」「教育経営論」に関連する事柄を含みます。 |
|------|---|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|---------------------|-------|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 中学校学習指導要領（平成29年告示） | 文部科学省 | |
| | 2 | 高等学校学習指導要領（平成30年告示） | 文部科学省 | |
| | 3 | 生徒指導提要 | 文部科学省 | |

| | |
|----------|---|
| 評価方法（基準） | 定期試験 60%、レポート 40%。定期試験を受験しなかった場合、評価はしません。 |
|----------|---|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 生徒指導、進路指導を学ぶ原資になる自らの体験は大事です。さらに自らの体験を対象化して考える習慣をつけましょう。そのために、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。 授業への遅刻、無断欠席・早退等は厳禁です。生徒指導を行おうとする者としての適格性が問われます。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|-------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館3階 朝日研究室 |
|----------|-------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | <p>必ず自分が履修登録をした曜日時限の Teams チームおよび Moodle コースにメンバー登録をしてください。自分が履修登録した曜日時限以外の Teams チームおよび Moodle コースにメンバー登録をしたものは成績評価対象外です（全欠席扱いとし、単位認定しません）。</p> <p>また、ポータルシステムを通じて講義連絡、学生呼出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。</p> <p>事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。</p> |
|----|---|

| | | | |
|---------------|-----------|---------|---|
| 科目名 | 地域連携教育活動Ⅰ | 科目名(英文) | Community-Based Education Support ActivitiesⅠ |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 吉田 佐治子, 朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 松浦 正典 |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 本科目はサービスマーケティングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。 |
| 到達目標 | 実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ確かなコミュニケーション能力を持つこと。 |
| 授業方法と留意点 | 原則として、履修申請が可能な学生は、前年度に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、はじめて「地域連携教育活動Ⅰ」を履修する学生を対象とする。 |
| 科目学習の効果(資格) | 教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。 |

| | | | | |
|------|----|--------|-------------------------------|-----------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | 事前指導1 | 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備 | 活動のための準備 |
| | 2 | 事前指導2 | マナー講座・小中学校の教育現場について | 活動のための準備 |
| | 3 | 事前指導3 | 「守秘義務」の意味とその内容について | 活動のための準備 |
| | 4 | 活動準備 | 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する | 活動のための準備 |
| | 5 | 活動1～25 | 受け入れ校にて活動(活動業務日報・活動時間票の提出) | 各種活動の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成 |
| | 6 | 最終報告会 | 活動報告会 | 報告のための準備 |
| | 7 | | | |
| | 8 | | | |
| | 9 | | | |
| | 10 | | | |
| | 11 | | | |
| | 12 | | | |
| | 13 | | | |
| | 14 | | | |
| | 15 | | | |

| | |
|------|--------|
| 関連科目 | すべての科目 |
|------|--------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法(基準) | ①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポートの全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。 |
| 学生へのメッセージ | 大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。 |
| 担当者の研究室等 | 7号館3階(朝日研究室)、7号館3階(大野研究室)、7号館4階(谷口研究室)、7号館3階(松浦研究室)、7号館3階(吉田研究室) |
| 備考 | 事前指導・最終報告会の日程については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等かなりの時間を要します。1回の活動に対して、それぞれ1、2時間は必要です。 |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|---|
| 科目名 | 地域連携教育活動Ⅱ | 科目名 (英文) | Community-Based Education Support Activities II |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 吉田 佐治子, 朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 松浦 正典 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| 授業概要・目的 | 本科目はサービスマーケティングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|--|-------------------------------|-----------------------------|----|-------|--------|-----------|---|-------|-------------------------------|----------|---|-------|---------------------|----------|---|-------|--------------------|----------|---|------|-----------------------|----------|---|--------|-----------------------------|-----------------------------|---|-------|-------|----------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|----|--|--|--|----|--|--|--|----|--|--|--|----|--|--|--|----|--|--|--|----|--|--|--|
| 到達目標 | 実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ確かなコミュニケーション能力を持つこと。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 原則として、履修申請が可能な学生は、前年度に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」を既に履修した学生を対象とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | 教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>事前指導1</td> <td>活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備</td> <td>活動のための準備</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>事前指導2</td> <td>マナー講座・小中学校の教育現場について</td> <td>活動のための準備</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>事前指導3</td> <td>「守秘義務」の意味とその内容について</td> <td>活動のための準備</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>活動準備</td> <td>受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する</td> <td>活動のための準備</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>活動1～25</td> <td>受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出)</td> <td>各種活動の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>最終報告会</td> <td>活動報告会</td> <td>報告のための準備</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 | 1 | 事前指導1 | 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備 | 活動のための準備 | 2 | 事前指導2 | マナー講座・小中学校の教育現場について | 活動のための準備 | 3 | 事前指導3 | 「守秘義務」の意味とその内容について | 活動のための準備 | 4 | 活動準備 | 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する | 活動のための準備 | 5 | 活動1～25 | 受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出) | 各種活動の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成 | 6 | 最終報告会 | 活動報告会 | 報告のための準備 | 7 | | | | 8 | | | | 9 | | | | 10 | | | | 11 | | | | 12 | | | | 13 | | | | 14 | | | | 15 | | | |
| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 事前指導1 | 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備 | 活動のための準備 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 事前指導2 | マナー講座・小中学校の教育現場について | 活動のための準備 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 事前指導3 | 「守秘義務」の意味とその内容について | 活動のための準備 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 活動準備 | 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する | 活動のための準備 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 活動1～25 | 受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出) | 各種活動の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 最終報告会 | 活動報告会 | 報告のための準備 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | すべての科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | ①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポートの全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 7号館3階(朝日研究室)、7号館3階(大野研究室)、7号館4階(谷口研究室)、7号館3階(林研究室)、7号館3階(吉田研究室) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等かなりの時間を要します。1回の活動に対して、それぞれ1、2時間は必要です。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|------|----------|-------------------|
| 科目名 | 教師論 | 科目名 (英文) | Teacher Education |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 朝日 素明 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようにしているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。 |
| 到達目標 | 学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分どのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。 |
| 授業方法と留意点 | 講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。) |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------|---|--------------------------------|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション 教職への道 | 科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等 についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味 | 本科目のシラバスの熟読 |
| 2 | 教職の成立とその意義 | 公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成 | 戦前の教員養成制度に関する配布資料 |
| 3 | 教師教育と教職の専門性 (1) | 教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立 | 戦後の教員養成制度に関する配布資料 |
| 4 | 教師教育と教職の専門性 (2) | 教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験 | 教員免許制度に関する配布資料 |
| 5 | 教師教育と教職の専門性 (3) | 教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系 | 学び続ける教師に関する配布資料 |
| 6 | 教師教育と教職の専門性 (4) | 法定研修 教員の自己研修 | 教員研修体系に関する配布資料 |
| 7 | 文献・映像に基づく教師像の探究 (1) | 戦前・戦後の教師像 憧れの教師 | 教師像に関する配布資料 |
| 8 | 文献・映像に基づく教師像の探究 (2) | 「不良教師」と「熱血教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク | 「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出 |
| 9 | 文献・映像に基づく教師像の探究 (3) | 「人間教師」と「プロ教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク | 「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出 |
| 10 | 文献・映像に基づく教師像の探究 (4) | 教師としての資質能力のあり方 | 教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料 |
| 11 | 教員の役割・職務 (1) | 学校・教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務 | 授業・カリキュラムと教師に関する配布資料 |
| 12 | 教員の役割・職務 (2) | 学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務 | 教職員構成と校務分掌に関する配布資料 |
| 13 | 教員の役割・職務 (3) | 学校内外の連携の視点からみた教員の役割・職務 (チーム学校運営への対応を含む) | 「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する配布資料 |
| 14 | 教員の役割・職務 (4) | 教員の任用と身分 教員の服務と身分保障 | 教員の任用・服務等に関する配布資料 |
| 15 | 教員の役割・職務 (5) | 教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト | 教員の勤務実態とメンタルヘルスに関する配布資料 |

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

評価方法 (基準) 定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー 10%

学生へのメッセージ 教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養とともに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。

| | |
|----------|--|
| 担当者の研究室等 | 7号館3階 朝日研究室 |
| 備考 | ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ60時間程度です。 |

| | | | |
|----------------|------|----------|-------------------|
| 科目名 | 教師論 | 科目名 (英文) | Teacher Education |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 朝日 素明 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようにになっているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。 |
| 到達目標 | 学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分どのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。 |
| 授業方法と留意点 | 講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。) |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------|---|--------------------------------|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション 教職への道 | 科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等 についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味 | 本科目のシラバスの熟読 |
| 2 | 教職の成立とその意義 | 公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成 | 戦前の教員養成制度に関する配布資料 |
| 3 | 教師教育と教職の専門性 (1) | 教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立 | 戦後の教員養成制度に関する配布資料 |
| 4 | 教師教育と教職の専門性 (2) | 教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験 | 教員免許制度に関する配布資料 |
| 5 | 教師教育と教職の専門性 (3) | 教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系 | 学び続ける教師に関する配布資料 |
| 6 | 教師教育と教職の専門性 (4) | 法定研修 教員の自己研修 | 教員研修体系に関する配布資料 |
| 7 | 文献・映像に基づく教師像の探究 (1) | 戦前・戦後の教師像 憧れの教師 | 教師像に関する配布資料 |
| 8 | 文献・映像に基づく教師像の探究 (2) | 「不良教師」と「熱血教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク | 「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出 |
| 9 | 文献・映像に基づく教師像の探究 (3) | 「人間教師」と「プロ教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク | 「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出 |
| 10 | 文献・映像に基づく教師像の探究 (4) | 教師としての資質能力のあり方 | 教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料 |
| 11 | 教員の役割・職務 (1) | 学校・教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務 | 授業・カリキュラムと教師に関する配布資料 |
| 12 | 教員の役割・職務 (2) | 学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務 | 教職員構成と校務分掌に関する配布資料 |
| 13 | 教員の役割・職務 (3) | 学校内外の連携の視点からみた教員の役割・職務 (チーム学校運営への対応を含む) | 「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する配布資料 |
| 14 | 教員の役割・職務 (4) | 教員の任用と身分 教員の服務と身分保障 | 教員の任用・服務等に関する配布資料 |
| 15 | 教員の役割・職務 (5) | 教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト | 教員の勤務実態とメンタルヘルスに関する配布資料 |

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

評価方法 (基準) 定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー 10%

学生へのメッセージ 教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。
遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。

| | |
|----------|--|
| 担当者の研究室等 | 7号館3階 朝日研究室 |
| 備考 | ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ60時間程度です。 |

| | | | |
|----------------|-------|----------|------------------------|
| 科目名 | 教育心理学 | 科目名 (英文) | Educational Psychology |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 吉田 佐治子 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになることを目標とする。 |
| 到達目標 | 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。 |
| 授業方法と留意点 | 講義中心で行う。事前に資料を moodle 上で配付するので、各自入手しておくこと。 必要に応じて、簡易実験やグループディスカッション等を行う。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」10単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------|--|--|
| | | | |
| 1 | 発達と教育と心理学と1 | 教育に対して心理学ができること、発達と教育 | テキスト第0章1, 配付資料による本時の予習と復習 |
| 2 | 発達と教育と心理学と2 | 発達の要因, 主な発達理論の概観 | テキスト第8章1, 配付資料による本時の予習と復習 |
| 3 | こどもの発達1 | 乳幼児期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達 | テキスト第8章2・第9章, 配付資料による本時の予習と復習 |
| 4 | こどもの発達2 | 児童期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達 | テキスト第8章2・第10章・第11章, 配付資料による本時の予習と復習 |
| 5 | こどもの発達3 | 青年期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達 | テキスト第8章2・第10章・第11章・第12章, 配付資料による本時の予習と復習 |
| 6 | 学習を支える認知機能1 | 思考.....人間の思考の特徴, メタ認知の機能と発達 | テキスト第7章1, 配付資料による本時の予習と復習 |
| 7 | 学習を支える認知機能2 | 言語.....言語の機能, 言語理解と言語産出とその発達 | テキスト第11章, 配付資料による本時の予習と復習 |
| 8 | 学習を支える認知機能3 | 記憶.....記憶のメカニズムと発達 | テキスト第4章・第5章, 配付資料による本時の予習と復習 |
| 9 | こどもの学び1 | さまざまな学習①.....学習とは何か, 主な学習理論の概観, 条件づけ | テキスト第1章, 配付資料による本時の予習と復習 |
| 10 | こどもの学び2 | さまざまな学習②.....観察学習, 自己制御学習 | テキスト第1章・第6章, 配付資料による本時の予習と復習 |
| 11 | 学習を支える動機づけ1 | 意欲とは何か.....動機づけ過程, 動機づけ理論 | テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習 |
| 12 | 学習を支える動機づけ2 | さまざまな意欲.....外発的動機づけ・内発的動機づけ, その他の視点, 意欲の発達 | テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習 |
| 13 | 学習を支える動機づけ3 | 意欲を育む.....こどもの発達と意欲, 意欲を育む教育のあり方, 学習と評価 | テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習 |
| 14 | 学校における人間関係 | 教師-生徒の関係, 生徒-生徒の関係, 教師-教師の関係, 集団としての学級 | テキスト第0章2・第10章, 配付資料による本時の予習と復習 |
| 15 | 個に応じた教育 | 個人差の理解と教育.....ATI, 学習方略 | テキスト第0章3・第6章・第7章2, 配付資料による本時の予習と復習 |

関連科目 教職課程におけるすべての科目

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|--------------------------|-----------|---------|
| 1 | 絶対役立つ教育心理学—実践の理論, 理論を实践— | 藤田哲也 (編著) | ミネルヴァ書房 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

評価方法 (基準) 小テスト 30%, 期末試験 70%

学生へのメッセージ これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。

担当者の研究室等 7号館3階 (吉田研究室)

| | |
|----|---|
| 備考 | Moodle コース名と登録キー 火曜5限: 2022教育心理学 (火5) あるいは 22教心 (火5) 2022EPTU5 木曜1限: 2022教育心理学 (木1) あるいは 22教心 (木1) 2022EPTU1 木曜5限: 2022教育心理学 (木5) あるいは 22教心 (木5) 2022EPTU5 金曜5限: 2022教育心理学 (金5) あるいは 22教心 (金5) 2022EPPRI5 ・期末試験は希望者に返却します。 ・事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。 |
|----|---|

| | | | |
|----------------|------|----------|------------------------|
| 科目名 | 教育原理 | 科目名 (英文) | Educational Principles |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 谷口 雄一 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | <p>教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語るすることができます。しかし、「教育とは一体何だろう？」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないのでしょうか。</p> <p>この授業では、「教育とは一体何だろう？」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。</p> <p>これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。</p> <p>授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。</p> |
| 到達目標 | <p>教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。</p> |
| 授業方法と留意点 | <p>本授業は「教育とは何か？」という本質的な問いについて受講者のみなさん一人一人が考え、自身の教育観を再構築していけるようにします。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して教育についての学びを進めていきます。</p> <p>そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、教育について多面的・多角的に考えることができるように配慮します。</p> <p>第8回と第10回には非常勤講師による講義を行い、西洋の教育思想についてより専門的な内容を学ぶことができますようにします。</p> |
| 科目学習の効果 (資格) | <p>(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状 の取得 (3) 学芸員資格 の取得に必要です。</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教育の基礎的理解に関する科目</p> <p>各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p> |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|---|---|
| | | | |
| 1 | ガイダンス： 教育について考える | 本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。 | (事前) テキスト P. 3 を精読しておく。 (事後) 「教育とは一体何だろう？」という問いについて自分の考えをまとめておく。 |
| 2 | 教育の基礎理論①： 教育の必要性 | なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。 | (事前) テキスト P. 59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の必要性について自分の考えを整理しておく。 |
| 3 | 教育の基礎理論②： 教育の目的 | 前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。 | (事前) テキスト P. 59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の目的について自分の考えを整理しておく。 |
| 4 | 教育の基礎理論③： 子どもの発見 | 「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。 | (事前) テキスト P. 76～85 を精読しておく。 (事後) 子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。 |
| 5 | 教育の基礎理論④： 教師とは何か | 教師という職業や、その教育的役割について考える。 | (事前) テキスト P. 69～73 を精読しておく。 (事後) 教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。 |
| 6 | 教育の基礎理論⑤： 近代の学校の誕生 | 近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。 | (事前) テキスト P. 93～97 を精読しておく。 (事後) 近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。 |
| 7 | 教育の基礎理論⑥： 家庭と教育 | 家庭において子どもはどのように扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。 | (事前) テキスト P. 86～90 を精読しておく。 (事後) 家庭における教育について整理しておく。 |
| 8 | 西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ その1 ※足田先生が御担当 | 「教育とは何か」について、コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの教育思想から考察する。 | (事前) コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの人物像について調べる。 (事後) 授業プリントを読み直し、学習内容について整理する。 |
| 9 | 西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ その2 | 前回取り上げた教育思想家4名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。 | (事前) 第8回で取り上げた4名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物1名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 (事後) 授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。 |
| 10 | 西洋の教育思想②：フレーベル・デュイ・モンテッソーリ その1 ※足田先生が御担当 | 「教育とは何か」について、フレーベル・デュイ・モンテッソーリの教育思想から考察する。 | (事前) フレーベル・デュイ・モンテッソーリの人物像について調べる。 (事後) 授業プリントを読み直し、学習内容について整理する。 |
| 11 | 西洋の教育思想②：フレーベル・デュイ・モンテッソーリ その2 | 前回取り上げた教育思想家4名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。 | (事前) 第10回で取り上げた3名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物1名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 (事後) 授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。 |
| 12 | 現代の教育理論： 20世紀の教育理論 | 20世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。 | (事前) テキスト P. 29～32 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。 |
| 13 | 現在の教育課題①： 学力問題 | 現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。 | (事前) テキスト P. 50～54 を精読しておく。 (事後) 学力問題について整理しておく。 |
| 14 | 現在の教育課題②： | 現在の教育課題の一つである生涯学習 | (事前) テキスト P. 147～151 を精読しておく。 |

| | | | | |
|---------------|--|------------------------|------------------------------|--|
| | | 生涯学習の思想 | について概観し、考察を加える。 | (事後)生涯学習の思想について整理しておく。 |
| | 15 | まとめ： 今後の教育について考える | 教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。 | (事前)テキストP.169～178を精読しておく。 (事後)「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。 |
| 関連科目 | 教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみる事が大切です。 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 哲学する教育原理 | 伊藤潔志 編著 | 教育情報出版 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) | 文部科学省 | 東山書房 |
| | 2 | 高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示) | 文部科学省 | 東山書房 |
| | 3 | 哲学する学校経営 | 伊藤潔志 編著 | 教育情報出版 |
| 評価方法 (基準) | 毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート (One Page Portfolio シート) の内容や授業中の学習の様子 (60%) や学期末試験の結果 (40%) 等をもとに総合的に評価します。 また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。 | | | |
| 学生への メッセージ | 授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 寝屋川キャンパス 7 号館 4 階 (谷口研究室) | | | |
| 備考 | 事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。 | | | |

| | | | |
|----------------|-------|----------|-----------------------------------|
| 科目名 | 教育課程論 | 科目名 (英文) | Studies of Curriculum Development |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 大野 順子 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | (1) 教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 (2) わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。 |
| 到達目標 | 本講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 学校教育における教育課程の意義について理解できる。 (2) 将来、教職に就いた際、適切な教育課程(カリキュラム)を計画・編成し、かつ、実践、評価し、改善できる資質が身につく。 |
| 授業方法と留意点 | 本授業は、授業全体を通して、みなさん一人一人の授業への主体的な参加が求められます。また、各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を熟読し、さらに、それぞれが取得する免許教科の「学習指導要領」(文部科学省ホームページでダウンロード可能)を入手し、熟読しておいてください。 |
| 科目学習の効果(資格) | 教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目:教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項:教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。) |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------------------------|--|---|
| | | | |
| 1 | 教育課程とは何か/オリエンテーション | 学校教育のもつ機能について。 | 課題:シラバスに挙げている教科書を購入手、授業テーマに該当する分を読み、まとめる。 |
| 2 | 日本における教育課程の歴史的変遷Ⅰ | 戦前から戦後(経験主義～系統主義:高度経済成長期)の教育課程変遷について。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 3 | 日本における教育課程の歴史的変遷Ⅱ | 1970年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 4 | 教育課程(カリキュラム)の概念と構造、および教育課程編成について | 教育課程の編成要素(内部要因と外部要因)について。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 5 | 教育評価 その1 | 子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 6 | 教育評価 その2 | 教育課程評価について。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 7 | 『総合的な学習の時間』について | 導入の背景とそのねらいについて。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 8 | 新しい教育課程 その1 | 「キャリア教育」について。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 9 | 新しい教育課程 その2 | 「アクティブラーニング」について。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 10 | 新しい教育課程 その3 | 「社会に開かれた教育課程」について。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 11 | 教育課程と教育改革 その1 | 特色のある学校づくり=小中高編。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 12 | 教育課程と教育改革 その2 | カリキュラム・マネジメントについて。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 13 | 教育課程と教育格差 その1 | 学力格差と学力低下問題について。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 14 | 教育課程と教育格差 その2 | 教育格差に抗する学校の取り組みについて。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。 |
| 15 | 総括:教育課程をめぐる諸問題 | 海外の学校教育課程の動向、及び、キー・コンピテンシー(OECD)について。 | 課題:教科書の該当部分と事前配布する資料を読み、最終レポートを作成する。 |

| | |
|------|---|
| 関連科目 | 教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。 |
|------|---|

| | | | | |
|-----|----|-----------------|-------|--------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 新しい時代の教育課程(第4版) | 田中耕治他 | 有斐閣アルマ |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|--------------------------|----------|----------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 新教育課程ライブラリ(Vol.1~Vol.12) | (株)ぎょうせい | (株)ぎょうせい |
| | 2 | ワークで学ぶ教育課程論 | 尾崎博美他 | ナカニシヤ出版 |
| | 3 | | | |

| | |
|----------|---------------------------------------|
| 評価方法(基準) | 事前課題及びレポート(30%)と最終試験(70%)により総合的に評価する。 |
|----------|---------------------------------------|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 指定している「教科書」を活用し、毎時間、事前事後学習をしっかりと行ってください。レポート等の提出物に関しては期日までに提出すること。期日以降の提出は原則認めません。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|--|
| 担当者の研究室等 | 7号館3階(大野順子研究室) 連絡先: j-oono@arc.setsunan.ac.jp |
|----------|--|

| | |
|----|---|
| 備考 | 2009年度以前入学生は、(高校)教免取得上選択 授業計画に記載している授業テーマは授業の進捗状況により少々前後することがあります。 授業で用いる資料等については、適宜印刷し、配布します |
|----|---|

事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

| | | | |
|---------------|----------------|---------|------------------------------------|
| 科目名 | 生徒指導論（進路指導を含む） | 科目名（英文） | Studies of Guidance and Counseling |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 朝日 素明 |
| ディプロマポリシー（DP） | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めています。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されています。本科目では、生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義について理解を深め、実践を進める方法原理について基礎的な知識を獲得し、教職員や関係機関と協力して解決・改善を目指すという素養を養います。 |
| 到達目標 | 学生は、生徒指導、進路指導、キャリア教育の意義と原理を理解し、学校の教育活動の核にこれを据え、全ての教職員および関係機関等と協力し、組織的に実践を進めていくために必要な知識やスキルを学び、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につけることができます。 |
| 授業方法と留意点 | 対面授業で、プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に進めます。また時折、レポートを課します。Teamsのチャネルを通してテキストや資料を配布します。また、レポート課題提示・提出受付はMoodleを通して行います。「事前・事後学習課題」はすべて事前課題です。事後課題については別途、指示します。 |
| 科目学習の効果（資格） | 教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------------------|--|-----------------------------------|
| 1 | オリエンテーション 教育課程と生徒指導・進路指導 | 科目概要について説明 自分の生徒指導上の体験のふりかえり | テキスト pp. 3-6、pp. 25-32、pp. 80-100 |
| 2 | 生徒指導の目標と意義 | 生徒指導の目標と意義 | テキスト pp. 6-17 |
| 3 | 生徒指導の実践 | 生徒指導の実践課題と領域 | テキスト pp. 17-24 |
| 4 | 生徒指導の理論 | 発達に関する理論 生徒指導における治療的支援に関する理論 相談理論など | テキスト pp. 32-42 |
| 5 | 生徒理解の進め方（1） | 生徒理解の意義と目的 生徒理解の方法 | テキスト pp. 43-52 |
| 6 | 生徒理解の進め方（2） | 生徒の自己理解の支援 教師の生徒認知のありよう | テキスト pp. 52-62 |
| 7 | 学級経営の進め方（1） | 学級経営の意義 学級集団の役割・機能 | テキスト pp. 63-68 |
| 8 | 学級経営の進め方（2） | 学級集団の力学 学級経営の方法 | テキスト pp. 68-79 |
| 9 | 生徒指導上の諸問題の理解と対応 | 生徒指導上の諸問題とは 最近の諸問題の動向 諸問題にどう対応するか | 生徒指導上の諸問題に関する配布資料 |
| 10 | 学校の生徒指導・進路指導体制と連携・協力 | 学校における指導体制 家庭との連携 専門機関との連携 | テキスト pp. 116-131 |
| 11 | 生徒の進路・キャリアに関する実態と課題 | 進路選択の実態と課題 キャリア適応 青少年の勤労観・職業観 勤労観・職業観の形成と変容 | テキスト pp. 176-195 |
| 12 | 進路指導・キャリア教育の目標と意義 | 進路指導・キャリア教育の意義 進路指導・キャリア教育の現代社会的課題 | テキスト pp. 135-159 |
| 13 | 進路指導・キャリア教育の理論 | キャリア発達に関する諸理論 キャリアカウンセリングに関する理論 | キャリア発達理論に関する配布資料 |
| 14 | 進路指導における「ガイダンスの機能」 | ガイダンスを活かした指導 | テキスト pp. 220-223 |
| 15 | 学校教育における進路指導の実践展開 | 進路指導実践の展開モデル | テキスト pp. 196-220、pp. 223-234 |

| | |
|------|---|
| 関連科目 | 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育心理学」「特別活動の理論と方法」「教育経営論」に関連する事柄を含みます。 |
|------|---|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|---------------------|-------|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 中学校学習指導要領（平成29年告示） | 文部科学省 | |
| | 2 | 高等学校学習指導要領（平成30年告示） | 文部科学省 | |
| | 3 | 生徒指導提要 | 文部科学省 | |

| | |
|----------|---|
| 評価方法（基準） | 定期試験 60%、レポート 40%。定期試験を受験しなかった場合、評価はしません。 |
|----------|---|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 生徒指導、進路指導を学ぶ原資になる自らの体験は大事です。さらに自らの体験を対象化して考える習慣をつけましょう。そのために、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。 授業への遅刻、無断欠席・早退等は厳禁です。生徒指導を行おうとする者としての適格性が問われます。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|-------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館3階 朝日研究室 |
|----------|-------------|

| | |
|----|--|
| 備考 | 必ず自分が履修登録をした曜日時限の Teams チームおよび Moodle コースにメンバー登録をしてください。自分が履修登録した曜日時限以外の Teams チームおよび Moodle コースにメンバー登録をしたものは成績評価対象外です（全欠席扱いとし、単位認定しません）。また、ポータルシステムを通じて講義連絡、学生呼出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。 |
|----|--|

| | | | |
|----------------|-------|----------|---------------------------------------|
| 科目名 | 教育経営論 | 科目名 (英文) | Studies of Educational Administration |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 朝日 素明 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 本科目では、現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識、および学校や教育行政の組織構造・機能・関係に関する基礎的知識を身につけ、経営の観点から理解するとともに、そこに内在する課題を理解します。そのために、公教育システムに関してなじみの深い事象を参照し、その原理や構造・機能、それに関する政策や法制度、理論や論争、実態や課題を検討していきます。 |
| 到達目標 | 私たちにとってはあたりまえで意識することもないうような、学校教育を中心とした公教育システムのあり方について視野が広がり、理解が深まります。例えば「学校では何を学ぶのか」「学校ではどのように教えられるのか」という内容・方法的な事柄についても、さまざまな制度やその運用によって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がり理解できるようになります。 |
| 授業方法と留意点 | プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------|---|---|
| | | | |
| 2 | 教育権の構造 | 「教育をする権利」「教育を受ける権利」 「学習する権利」 | テキスト第6章を読んでくる。 |
| 3 | 教育を受ける権利の保障 | 教育権論争について簡単なグループワーク 公教育の制度原理 | 教育権についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 |
| 4 | 学校体系のしくみ | 段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者 | テキスト第4章を読んでくる。 |
| 5 | 学校体系の現代的課題 | 「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク 選別・分離と接続・統合 | 教育の制度原理についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 |
| 6 | 教育条件整備の法制度と新しい動向 | 「選抜・選別」について簡単なグループワーク 公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか | 学校の機能に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 |
| 7 | 中央教育行政の組織構造 | 各省庁・審議会 | テキスト第8章を読んでくる。 |
| 8 | 地方教育行政の組織構造 | 教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 首長部局と教育委員会 | テキスト第9章を読んでくる。 |
| 9 | 中央・地方教育行政の関係構造 | 教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク 監督行政と指導行政 教育行政関係の新しい動向 | 教育委員会制度の動向に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 |
| 10 | 指導行政と教育内容行政 | 学習指導要領、研究指定・研究開発、教科書行政 | テキスト第11章を読んでくる。 |
| 11 | 教育課程経営 | 学力低下論争をめぐる簡単なグループワーク カリキュラムマネジメント 学力論争と教育評価論 | 学力低下論争に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第15章を読んでくる。 |
| 12 | 人事行政と教職員管理 | 教職員の資格・身分・服務管理、教育労働管理 | テキスト第10章を読んでくる。 |
| 13 | 学校の組織管理と組織編制 | 教職員配置、学校・学級の「適正規模」「適正配置」 学校評議員制度、学校運営協議会制度 | テキスト第16章、第19章を読んでくる。 |
| 14 | 学校経営の組織構造 | 学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク 学校の組織特性、学校経営の組織と過程 (学校と地域との連携含む) | 学校統廃合に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第14章を読んでくる。 |
| 15 | 学校の安全管理と安全教育 | 安全管理の領域 安全教育の方法 | テキスト第18章を読んでくる。 |

| | |
|------|---|
| 関連科目 | 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。 |
|------|---|

| | | | | |
|-----|----|---------------|-----|---------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 公教育経営概説 (改訂版) | 堀内孜 | 学術図書出版社 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |

| | | | |
|---------------|--|--|--|
| | 3 | | |
| 評価方法 (基準) | 定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー10%。定期試験を受験しなかった場合は評価をしません。 | | |
| 学生への メッセージ | 教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。 | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館3階 朝日研究室 | | |
| 備考 | ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。 | | |

| | | | |
|----------------|-------|----------|------------------------|
| 科目名 | 教育社会学 | 科目名 (英文) | Sociology of Education |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 大野 順子 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 近年、学校教育現場では様々な問題を抱えるようになってきました。一般的に私たちはそうした問題に対し、学校教育内部でのみ対処し解決しようとする傾向があります。しかしながら、そうした問題の多くは、時に関係のないような社会的、経済的、政治的、そして文化的なシステムと密接な関係性をもっていることが多々あります。そこで本講義では、教育現場で生じている諸問題を、特に社会学的観点からとらえ、検討していくことを目標とします。特に、最近社会問題化している子どもの貧困や教育格差・学力格差問題、ジェンダーにかかわる問題等を扱いながら、体系的に現代社会と教育の関係性について学び、教育社会学の理論や概念を学んでいきます。 |
| 到達目標 | 本講義の到達目標は以下の通りです。 1. 教育社会学の基礎理論と概念について学習する。 2. 現代社会における様々な教育問題について理解する。 3. 教育に関わる諸問題を社会学的観点からとらえ、論理的に思考し、分析し、検討する力を養う。 4. 様々な教育問題に対して、それぞれ意見発表を行い、他者と議論し、解決の方向を見出せる力をつける。 |
| 授業方法と留意点 | ○準備学習の具体的な方法 本授業は指定している教科書を購入し、事前に講義で扱うテーマに該当する部分(章)を読み要約する(事前学習)。また、日頃から新聞・雑誌等で教育に関する記事を読み、どのような問題が教育界では話題になっているのかについて情報を収集しておく。授業の基本的な進め方については、毎時間、授業テーマに入る前に授業開始5分を利用して教育社会学キーワードテストを行うので、そのための事前学習も必要となる。さらに授業テーマの展開については、グループワークやワークショップ、ディスカッション等の参加型学習方法も積極的に取り入れるため、受講生の皆さんの主体的な授業への参加が求められる。 |
| 科目学習の効果(資格) | (1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------|---|--|
| | | | |
| 1 | イントロダクション 教育社会学とは | 教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。 | 事前課題：教科書の序章を読み、疑問点についてまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。 |
| 2 | 近代学校教育制度 | 近代国民国家が求めた「学校教育制度」の意義や性格について考える。 | 事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。 |
| 3 | 教師と子ども | 教師-生徒の関係性」という視点から、学校における教育活動全般を考えていく。 | 事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。 |
| 4 | 校則・体罰・校内暴力 | 学校が抱える諸問題(体罰等)が発生する背景や要因について考え、これら問題が発生した際の危機管理や学校対応等について考える。 | 事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。 |
| 5 | いじめについて | 学校病理問題の一つである「いじめ」について社会学的観点からいじめが発生する構造について明らかにし、いじめが発生した際の危機管理や対応等について考える。 | 事前課題：いじめの現状について調べ、その内容についてまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。 |
| 6 | 不登校について | 学校病理問題の一つである「不登校」問題について社会学的観点から迫り、解釈する。 | 事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。 |
| 7 | 教育格差・階層問題 I | 貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考える。 | 事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。 |
| 8 | 教育格差・階層問題 II | 格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて考える。 | 事前課題：格差解消に向けた取り組みについて調べまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。 |
| 9 | 国の教育政策：海外との比較 | 教育政策、教育費、制度等の観点から日本の教育と海外の教育について比較検討する。 | 事前課題：日本、及び諸外国(例：米英中韓等)それぞれの学校教育制度、教育政策について調べまとめてくる。事後、各国の状況について要約する。 |
| 10 | 地域と学校 I | 地域社会の変容、それに伴う、学校のあり方について検討する。また、連携をする際、何か不測の事態が起こった場合の危機管理や子どもたちの安全等についても考える。 | 事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。 |
| 11 | 地域と学校 II | 地域連携、学社融合の取り組みについての事例研究を行うとともに、学校安全の観点から連携の事例を検討し、よりよい連携のあり方について検討する。 | 事前課題：地域連携の具体例について調べまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。 |
| 12 | ジェンダーと教育 | 学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考える。 | 事前課題：ジェンダー問題を扱った資料(読み物)を読み、その内容についてまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。 |
| 13 | 国家と教育 | 教育の政治化と学校現場において子どもたちや教師たちが直面する問題について考える。 | 事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。 |
| 14 | 在日外国人の子どもたち | 学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の状況について考える。 | 事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。 |
| 15 | 総括 | 「教育改革」をキーワードにこれからの | 事前課題：最終レポートの作成、及びまとめ試験(予 |

| | | | |
|---------------|--|-----------------------|-----------|
| | | 教育のあり方について考える | 定)の準備。 |
| 関連科目 | 「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」 | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 |
| | 1 | 教師教育テキストシリーズ『教育社会学』 | 久富善之、長谷川裕 |
| | 2 | | |
| | 3 | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 |
| | 1 | 現代教育社会学 | 岩井八郎、近藤博之 |
| | 2 | 新版『教育社会学を学ぶ人のために』 | 石戸教嗣 |
| | 3 | ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー | プレイディみかこ |
| 評価方法 (基準) | 小テスト(30%)、課題(30%)、発表(40%)より総合的に評価する。 ※試験は実施しない予定ではあるが状況により変更する場合がある。 | | |
| 学生への メッセージ | 本講義は、毎週、授業を始める前に小テストを行います。内容については第一回目の授業で説明します。 | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館3階(大野順子研究室) ※メールで連絡してください。アドレスは j-oono@arc.setsunan.ac.jp です。 | | |
| 備考 | 本授業は総授業時間(30時間)に加えて、各回の事前事後学習(課題・レポートの作成も含めて)に各2時間(全15回×4時間=60時間)を要する。 | | |

| | | | |
|----------------|-------|----------|----------------------------|
| 科目名 | 道徳教育論 | 科目名 (英文) | Studies of Moral Education |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 谷口 雄一 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | この授業では、中学校において「特別の教科 道徳」(以下、道徳科)の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。 |
| 到達目標 | 受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の道徳科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになることを目標とします。 |
| 授業方法と留意点 | 本授業は道徳科の授業づくりについて実践的に学ぶ内容のため対面で行います。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して道徳教育や道徳科の授業についての学びを進めていきます。また、後半には、学習指導案作成等の演習や受講者のみなさんによる模擬授業等を適宜取り入れます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができるように配慮します。 |
| 科目学習の効果(資格) | 中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：道徳の理論及び指導法 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------------------|---|--|
| | | | |
| 1 | ガイダンス：道徳科の授業について考える | ・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める4つのアプローチについて概観する。 | (事前)自身が学校教育においてが受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。 (事後)テキスト2のP.8～17を精読しておく。 |
| 2 | 日本の道徳教育の歴史 | ・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。 | (事前)テキスト1のP.6～12を精読しておく。 (事後)日本の道徳教育の歴史や信念対立について整理しておく。 |
| 3 | よい道徳教育とは何か | よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。 | (事前)テキスト1のP.12～25を精読しておく。 (事後)道徳の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。 |
| 4 | 道徳の授業の多様な指導方法の特徴 | 道徳の授業のねらいに基づく8類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。 | (事前)テキスト1のP.26～35及びテキスト2のP.26～29を精読しておく。 (事後)道徳の授業のねらいに基づく8類型について整理しておく。 |
| 5 | 道徳の授業の発問の構成法 | 「特別の教科 道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。 | (事前)テキスト1のP.36～48及びテキスト2のP.30～33を精読しておく。 (事後)ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。 |
| 6 | 道徳の授業の学習指導案の作成法 | 「特別の教科 道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。 | (事前)テキスト1のP.49～58及びテキスト2のP.34～37を精読しておく。 (事後)道徳の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。 |
| 7 | 道徳の授業の評価 | 「特別の教科 道徳」における評価の内容や方法について考える。 | (事前)テキスト1のP.59～68及びテキスト2のP.38～41を精読しておく。 (事後)道徳の授業の評価の内容や方法について整理しておく。 |
| 8 | 各授業類型のねらいと発問の特徴 | 教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。 | (事前)テキスト1のP.71～85及びテキスト2のP.42～45を精読しておく。 (事後)教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。 |
| 9 | 教材分析の視点 | 教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。 | (事前)テキスト1のP.86～95及びテキスト2のP.46～49を精読しておく。 (事後)教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。 |
| 10 | 発問分析による授業づくりの視点 | 発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。 | (事前)テキスト1のP.96～106及びテキスト2のP.50～53を精読しておく。 (事後)問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。 |
| 11 | 授業づくりの実際①：カリキュラム・マネジメント、テーマ発問 | カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。 | (事前)テキスト1のP.107～130及びテキスト2のP.54～57を精読しておく。 (事後)カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について整理しておく。 |
| 12 | 授業づくりの実際②：問題解決的な学習、探究型学習 | 問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。 | (事前)テキスト1のP.131～152及びテキスト2のP.58～61を精読しておく。 (事後)問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について整理しておく。 |
| 13 | 学習指導案の作成 | これまでの講義内容をふまえ、第9回で選択し教材分析した教材を用いた道徳の授業について、学習指導案を作成する。 | (事前)テキスト2のP.62～65を精読しておく。 (事後)グループ毎に模擬授業の準備をしておく。 |
| 14 | 模擬授業と事後検討会① | 模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。 | (事前)テキスト2のP.66～69を精読しておく。 (事後)グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備 |

| | 15 | 模擬授業と事後検討会② まとめ： 道徳科の授業について再び 考える | ・模擬授業を行い、授業改善のための検 討を行う。 ・道徳科の授業づくりについてまとめ る。 | をしておく。 (事前) グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備 をしておく。 (事後) 「よい道徳科の授業」について考えをまと める。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|--|--|--|---|----|-----|-----|------|---|-------------------------------------|-------------|---------|---|--|-----------|--------|---|--|--|--|
| 関連科目 | 教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>道徳科 初めての授業づくり</td> <td>吉田誠・木原一彰 編著</td> <td>大学教育出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の 教科 道徳編</td> <td>文部科学省</td> <td>教育出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 道徳科 初めての授業づくり | 吉田誠・木原一彰 編著 | 大学教育出版 | 2 | 中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の 教科 道徳編 | 文部科学省 | 教育出版 | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 道徳科 初めての授業づくり | 吉田誠・木原一彰 編著 | 大学教育出版 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の 教科 道徳編 | 文部科学省 | 教育出版 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の 教科 道徳編</td> <td>文部科学省</td> <td>廣済堂あかつき</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新 発問パターン大全集</td> <td>『道徳教育』編集部</td> <td>明治図書出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の 教科 道徳編 | 文部科学省 | 廣済堂あかつき | 2 | 『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新 発問パターン大全集 | 『道徳教育』編集部 | 明治図書出版 | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の 教科 道徳編 | 文部科学省 | 廣済堂あかつき | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新 発問パターン大全集 | 『道徳教育』編集部 | 明治図書出版 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート (One Page Portfolio シート) の内容や授業中の学習の様子 (30%)、作成した道徳科学習指導案 (20%)、学期末試験の結果 (50%) 等をもとに、総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | 授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 寝屋川キャンパス 7 号館 4 階(谷口研究室) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|----------------------|----------|-------------------|
| 科目名 | 教育相談 (カウンセリングの基礎を含む) | 科目名 (英文) | School Counseling |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 吉田 佐治子 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

授業概要・目的
 教育相談は、幼児児童生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児児童生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識 (カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む) を身に付ける。
 特に、学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的意義を解説し、カウンセリングの基礎知識及びその実践的な手法を紹介する。併せて生徒理解と“問題”への対応について、実践的な取り組み方を考える。

到達目標
 教育相談の基本的な考え方や、カウンセリングの基礎、生徒理解と“問題”への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。

授業方法と留意点
 講義と演習を組み合わせて行う。演習は、グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。

科目学習の効果 (資格)
 教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」4単位のうち2単位を充足。
 【免許法施行規則に定める科目区分】
 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
 各科目に含める必要事項：教育相談 (カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。) の理論及び方法

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------|--|--|
| | | | |
| 1 | 教育相談とは何か | 教育相談の意義、教師としての立場、カウンセリングマインド | テキスト第1講、配付資料を用いた予習・復習 |
| 2 | カウンセリングの基礎 | カウンセリングの基本的な考え方や、カウンセリングの技法 | テキスト第2講・第3講、配付資料を用いた予習・復習 |
| 3 | グループ発表の準備 | グループワーク (アイスブレイク含む) | 検討したいテーマについてよく考えておく グループ発表の準備 |
| 4 | 学校教育相談の全体像 | 校内での役割分担と協力体制、専門機関との連携とその方法 | テキスト第10講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備 |
| 5 | 学校におけるカウンセリング活動1 | カウンセリング活動のいろいろ (1)..... 治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動 | テキスト第2講、第10講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備 |
| 6 | 学校におけるカウンセリング活動2 | カウンセリング活動のいろいろ (2)..... 開発的カウンセリング活動 | テキスト第2講・第10講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備 |
| 7 | パーソナリティ理解 | パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの | テキスト第11講・第12講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備 |
| 8 | “問題”の理解と対応1 | “問題”とは何か、その原因・背景と対応、適応過程 | テキスト第9講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備 |
| 9 | “問題”の理解と対応2 | ストレス、欲求不満、葛藤 | テキスト第9講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備 |
| 10 | 心の発達と“問題” | 青年期の発達 (認知、自己意識、道徳性、仲間関係等) | テキスト第9講、配付資料を用いた予習・復習 教育心理学の復習 グループ発表の準備 |
| 11 | 相談援助活動の実際1 | 不登校.....その理解と対応 (グループ発表) | テキスト第4講、配付資料を用いた予習・復習 |
| 12 | 相談援助活動の実際2 | いじめ.....その理解と対応 (グループ発表) | テキスト第4講、配付資料を用いた予習・復習 |
| 13 | 相談援助活動の実際3 | 授業崩壊・学級崩壊.....その理解と対応 (グループ発表) | テキスト第5講、配付資料を用いた予習・復習 |
| 14 | 相談援助活動の実際4 | 反社会的行動.....その理解と対応 (グループ発表) | テキスト第7講、配付資料を用いた予習・復習 |
| 15 | これからの教育相談 | 新たな課題、教師のメンタルヘルス、さらなる連携 | テキスト第15講、配付資料を用いた予習・復習 |

関連科目 教職課程の科目全般

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----------------------|-----------------|---------|
| | 1 | よくわかる! 教職エクササイズ3 教育相談 | 森田健宏・吉田佐治子 (編著) | ミネルヴァ書房 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

評価方法 (基準) グループ発表 50%、期末試験 50%

学生へのメッセージ これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。

担当者の研究室等 7号館3階 (吉田研究室)

備考 グループ発表について、他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。グループ内ではピア評価を行います。

事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

Moodle コース名と登録キー

月曜 2 限：2022 教育相談（月 2）あるいは 22 教育相談（月 2） 2022ECMON2

火曜 2 限：2022 教育相談（火 2）あるいは 22 教育相談（火 2） 2022ECTUE2

木曜 1 限：2022 教育相談（木 1）あるいは 22 教育相談（木 1） 2022ECTHU1

木曜 4 限：202

| | | | |
|----------------|--------|----------|---------------------|
| 科目名 | 教育実習 I | 科目名 (英文) | Teaching Practice I |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 吉田 佐治子, 谷口 雄一 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | (1) 教育実習の実際についての情報を提供する。それらに基づき、受講者は、演習や実習を行う。(2) 教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、学級・ホームルーム経営、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、効果的な指導をできるようにする。(3) 教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的心がまえについて理解を深める。 |
| 到達目標 | 教育実習の目的や意義、内容等を理解し、教育実習へ向けての十分な準備ができるようになる。そのことにより、自信をもって教育実習に臨めるようになる。 |
| 授業方法と留意点 | 講義 (体験報告を含む)、演習 (文献購読、発表、討議を含む)、実習 (指導案作成、模擬授業を含む) を行う。対面授業を基本とする。実習生として主体的・能動的な姿勢・態度で参加すること。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育実習」5単位あるいは3単位のうち「教育実習に係る事前及び事後指導」1単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】教育実践に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：教育実習 (教育実習に係る事前及び事後指導) |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------------|---|-----------|
| | | | 1 |
| 2 | 実習中の勤務の要領 | 学校の日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について | 授業時に指示する |
| 3 | 授業の方法と技術 | 授業のスタイルとスキル、教材研究、学習評価の観点について | 授業時に指示する |
| 4 | 授業の記録と評価 | 授業研究の意義、授業分析の方法、授業評価について | 授業時に指示する |
| 5 | 生徒理解・生徒指導と学級・ホームルーム経営 | 生徒理解・生徒指導の方法、個別指導・集団指導、学級・ホームルームの指導について | 授業時に指示する |
| 6 | 学校における人権教育 | 人権教育の現状と課題について、学校保健と安全指導について | 授業時に指示する |
| 7 | 特別支援教育の現状と課題 | 障がいの種類と配慮事項、障がい児理解と交流教育について | 授業時に指示する |
| 8 | 指導案の作成 (1) | 授業の準備と配慮事項、学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案、板書計画の作成 | 授業時に指示する |
| 9 | 指導案の作成 (2) | 学級 (ホームルーム) 活動等の指導案について | 授業時に指示する |
| 10 | 模擬授業 (1) | 作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換 | 授業時に指示する |
| 11 | 模擬授業 (2) | 作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換 | 授業時に指示する |
| 12 | 模擬授業 (3) | 作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換 | 授業時に指示する |
| 13 | 模擬授業 (4) | 作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換 | 授業時に指示する |
| 14 | 教育実習の実際 (1) | 教職フォーラムへの出席、教育実習体験発表の聴講と討議 | 授業時に指示する |
| 15 | 教育実習の実際 (2) | 教育実習総括講義への出席、教育実習の課題テーマについて討議 | 授業時に指示する |

| | |
|------|-------------|
| 関連科目 | 教職課程で学んだ全科目 |
|------|-------------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|--------------|-----------|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 『新編 教育実習の常識』 | 教育実習を考える会 | 蒼丘書林 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|--|
| 評価方法 (基準) | 課題の提出状況とその内容、指導案と模擬授業、授業における積極性・貢献度、期末レポート等によって総合的に評価する。 |
|-----------|--|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 教育実習はこれまで学んできたことの総まとめです。よい実習ができるよう、十分に準備してください。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|--|
| 担当者の研究室等 | 吉田研究室 (寝屋川キャンパス・7号館3階) 谷口研究室 (寝屋川キャンパス・7号館4階) |
|----------|--|

| | |
|----|--|
| 備考 | 教育実習体験発表会 (10月末土曜日)、教育実習総括講義 (11月末土曜日) には必ず出席すること。 ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインド設定と定期的なサイト確認を必ずすること。 担当者により、授業の具体的な内容・方法が若干異なる場合がある。 事前・事後学習総時間はおおよそ30時間程度となる。 |
|----|--|

| | | | |
|----------------|------------|----------|--|
| 科目名 | 地域連携教育活動 I | 科目名 (英文) | Community-Based Education Support Activities I |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 吉田 佐治子 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 本科目はサービラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。 |
| 到達目標 | 実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。 |
| 授業方法と留意点 | 原則として、履修申請が可能な学生は、前年度に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動 I」をはじめ履修する学生を対象とする。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。 |

| | | | | |
|------|----|---------|-------------------------------|-------------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | 事前指導 1 | 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備 | 活動のための準備 |
| | 2 | 事前指導 2 | マナー講座・小中学校の教育現場について | 活動のための準備 |
| | 3 | 事前指導 3 | 「守秘義務」の意味とその内容について | 活動のための準備 |
| | 4 | 活動準備 | 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する | 活動のための準備 |
| | 5 | 活動 1～25 | 受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出) | 各種活動の事前準備および活動後の報告書 (日報等) の作成 |
| | 6 | 最終報告会 | 活動報告会 | 報告のための準備 |
| | 7 | | | |
| | 8 | | | |
| | 9 | | | |
| | 10 | | | |
| | 11 | | | |
| | 12 | | | |
| | 13 | | | |
| | 14 | | | |
| | 15 | | | |

| | |
|------|--------|
| 関連科目 | すべての科目 |
|------|--------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | ①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。 |
|-----------|---|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|---|
| 担当者の研究室等 | 7号館3階 (朝日研究室)、7号館3階 (大野研究室)、7号館4階 (谷口研究室)、7号館3階 (松浦研究室)、7号館3階 (吉田研究室) |
|----------|---|

| | |
|----|--|
| 備考 | 事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等かなりの時間を要します。1回の活動に対して、それぞれ1、2時間は必要です。 |
|----|--|

| | | | |
|----------------|-----------|----------|---|
| 科目名 | 地域連携教育活動Ⅱ | 科目名 (英文) | Community-Based Education Support Activities II |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 吉田 佐治子 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 本科目はサービラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。 |
| 到達目標 | 実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。 |
| 授業方法と留意点 | 原則として、履修申請が可能な学生は、前年度に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」を既に履修した学生を対象とする。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。 |

| | | | | |
|------|----|---------|-------------------------------|-------------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | 事前指導 1 | 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備 | 活動のための準備 |
| | 2 | 事前指導 2 | マナー講座・小中学校の教育現場について | 活動のための準備 |
| | 3 | 事前指導 3 | 「守秘義務」の意味とその内容について | 活動のための準備 |
| | 4 | 活動準備 | 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する | 活動のための準備 |
| | 5 | 活動 1～25 | 受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出) | 各種活動の事前準備および活動後の報告書 (日報等) の作成 |
| | 6 | 最終報告会 | 活動報告会 | 報告のための準備 |
| | 7 | | | |
| | 8 | | | |
| | 9 | | | |
| | 10 | | | |
| | 11 | | | |
| | 12 | | | |
| | 13 | | | |
| | 14 | | | |
| | 15 | | | |

| | |
|------|--------|
| 関連科目 | すべての科目 |
|------|--------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | ①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。 |
|-----------|---|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|---|
| 担当者の研究室等 | 7号館3階 (朝日研究室)、7号館3階 (大野研究室)、7号館4階 (谷口研究室)、7号館3階 (松浦研究室)、7号館3階 (吉田研究室) |
|----------|---|

| | |
|----|--|
| 備考 | 事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等かなりの時間を要します。1回の活動に対して、それぞれ1、2時間は必要です。 |
|----|--|

| | | | |
|----------------|------|----------|------------------------|
| 科目名 | 教育原理 | 科目名 (英文) | Educational Principles |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 谷口 雄一・疋田 祥人 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | <p>教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語るすることができます。しかし、「教育とは一体何だろう？」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないのでしょうか。</p> <p>この授業では、「教育とは一体何だろう？」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。</p> <p>これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。</p> <p>授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。</p> |
| 到達目標 | <p>教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。</p> |
| 授業方法と留意点 | <p>本授業は「教育とは何か？」という本質的な問いについて受講者のみなさん一人一人が考え、自身の教育観を再構築していけるようにします。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して教育についての学びを進めていきます。</p> <p>そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、教育について多面的・多角的に考えることができるように配慮します。</p> <p>第8回と第10回には非常勤講師による講義を行い、西洋の教育思想についてより専門的な内容を学ぶことができますようにします。</p> |
| 科目学習の効果 (資格) | <p>(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状 の取得 (3) 学芸員資格 の取得に必要です。</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教育の基礎的理解に関する科目</p> <p>各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p> |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|---|---|
| | | | |
| 1 | ガイダンス： 教育について考える | 本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。 | (事前) テキスト P. 3 を精読しておく。 (事後) 「教育とは一体何だろう？」という問いについて自分の考えをまとめておく。 |
| 2 | 教育の基礎理論①： 教育の必要性 | なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。 | (事前) テキスト P. 59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の必要性について自分の考えを整理しておく。 |
| 3 | 教育の基礎理論②： 教育の目的 | 前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。 | (事前) テキスト P. 59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の目的について自分の考えを整理しておく。 |
| 4 | 教育の基礎理論③： 子どもの発見 | 「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。 | (事前) テキスト P. 76～85 を精読しておく。 (事後) 子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。 |
| 5 | 教育の基礎理論④： 教師とは何か | 教師という職業や、その教育的役割について考える。 | (事前) テキスト P. 69～73 を精読しておく。 (事後) 教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。 |
| 6 | 教育の基礎理論⑤： 近代の学校の誕生 | 近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。 | (事前) テキスト P. 93～97 を精読しておく。 (事後) 近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。 |
| 7 | 教育の基礎理論⑥： 家庭と教育 | 家庭において子どもはどのように扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。 | (事前) テキスト P. 86～90 を精読しておく。 (事後) 家庭における教育について整理しておく。 |
| 8 | 西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ その1 ※疋田先生が御担当 | 「教育とは何か」について、コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの教育思想から考察する。 | (事前) コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの人物像について調べる。 (事後) 授業プリントを読み直し、学習内容について整理する。 |
| 9 | 西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ その2 | 前回取り上げた教育思想家4名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。 | (事前) 第8回で取り上げた4名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物1名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 (事後) 授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。 |
| 10 | 西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ その1 ※疋田先生が御担当 | 「教育とは何か」について、フレーベル・デューイ・モンテッソーリの教育思想から考察する。 | (事前) フレーベル・デューイ・モンテッソーリの人物像について調べる。 (事後) 授業プリントを読み直し、学習内容について整理する。 |
| 11 | 西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ その2 | 前回取り上げた教育思想家4名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。 | (事前) 第10回で取り上げた3名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物1名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 (事後) 授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。 |
| 12 | 現代の教育理論： 20世紀の教育理論 | 20世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。 | (事前) テキスト P. 29～32 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。 |
| 13 | 現在の教育課題①： 学力問題 | 現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。 | (事前) テキスト P. 50～54 を精読しておく。 (事後) 学力問題について整理しておく。 |
| 14 | 現在の教育課題②： | 現在の教育課題の一つである生涯学習 | (事前) テキスト P. 147～151 を精読しておく。 |

| | | | | |
|---------------|--|------------------------|------------------------------|--|
| | | 生涯学習の思想 | について概観し、考察を加える。 | (事後)生涯学習の思想について整理しておく。 |
| | 15 | まとめ： 今後の教育について考える | 教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。 | (事前)テキストP.169～178を精読しておく。 (事後)「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。 |
| 関連科目 | 教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみるのが大切です。 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 哲学する教育原理 | 伊藤潔志 編著 | 教育情報出版 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) | 文部科学省 | 東山書房 |
| | 2 | 高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示) | 文部科学省 | 東山書房 |
| | 3 | 哲学する学校経営 | 伊藤潔志 編著 | 教育情報出版 |
| 評価方法 (基準) | 毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート (One Page Portfolio シート) の内容や授業中の学習の様子 (60%) や学期末試験の結果 (40%) 等をもとに総合的に評価します。 また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。 | | | |
| 学生への メッセージ | 授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 寝屋川キャンパス 7 号館 4 階 (谷口研究室) | | | |
| 備考 | 事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。 | | | |

| | | | |
|----------------|------|----------|------------------------|
| 科目名 | 教育原理 | 科目名 (英文) | Educational Principles |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 谷口 雄一・疋田 祥人 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | <p>教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語るすることができます。しかし、「教育とは一体何だろう?」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないのでしょうか。</p> <p>この授業では、「教育とは一体何だろう?」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。</p> <p>これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。</p> <p>授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。</p> |
| 到達目標 | <p>教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。</p> |
| 授業方法と留意点 | <p>本授業は「教育とは何か?」という本質的な問いについて受講者のみなさん一人一人が考え、自身の教育観を再構築していけるようにします。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して教育についての学びを進めていきます。</p> <p>そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、教育について多面的・多角的に考えることができるように配慮します。</p> <p>第8回と第10回には非常勤講師による講義を行い、西洋の教育思想についてより専門的な内容を学ぶことができるようにします。</p> |
| 科目学習の効果 (資格) | <p>(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状 の取得 (3) 学芸員資格 の取得に必要です。</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教育の基礎的理解に関する科目</p> <p>各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p> |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|---|---|
| | | | |
| 1 | ガイダンス： 教育について考える | 本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。 | (事前) テキスト P. 3 を精読しておく。 (事後) 「教育とは一体何だろう?」という問いについて自分の考えをまとめておく。 |
| 2 | 教育の基礎理論①： 教育の必要性 | なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。 | (事前) テキスト P. 59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の必要性について自分の考えを整理しておく。 |
| 3 | 教育の基礎理論②： 教育の目的 | 前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。 | (事前) テキスト P. 59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の目的について自分の考えを整理しておく。 |
| 4 | 教育の基礎理論③： 子どもの発見 | 「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。 | (事前) テキスト P. 76～85 を精読しておく。 (事後) 子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。 |
| 5 | 教育の基礎理論④： 教師とは何か | 教師という職業や、その教育的役割について考える。 | (事前) テキスト P. 69～73 を精読しておく。 (事後) 教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。 |
| 6 | 教育の基礎理論⑤： 近代の学校の誕生 | 近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。 | (事前) テキスト P. 93～97 を精読しておく。 (事後) 近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。 |
| 7 | 教育の基礎理論⑥： 家庭と教育 | 家庭において子どもはどのように扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。 | (事前) テキスト P. 86～90 を精読しておく。 (事後) 家庭における教育について整理しておく。 |
| 8 | 西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ その1 ※疋田先生が御担当 | 「教育とは何か」について、コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの教育思想から考察する。 | (事前) コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの人物像について調べる。 (事後) 授業プリントを読み直し、学習内容について整理する。 |
| 9 | 西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ その2 | 前回取り上げた教育思想家4名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。 | (事前) 第8回で取り上げた4名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物1名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 (事後) 授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。 |
| 10 | 西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ その1 ※疋田先生が御担当 | 「教育とは何か」について、フレーベル・デューイ・モンテッソーリの教育思想から考察する。 | (事前) フレーベル・デューイ・モンテッソーリの人物像について調べる。 (事後) 授業プリントを読み直し、学習内容について整理する。 |
| 11 | 西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ その2 | 前回取り上げた教育思想家4名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。 | (事前) 第10回で取り上げた3名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物1名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 (事後) 授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。 |
| 12 | 現代の教育理論： 20世紀の教育理論 | 20世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。 | (事前) テキスト P. 29～32 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。 |
| 13 | 現在の教育課題①： 学力問題 | 現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。 | (事前) テキスト P. 50～54 を精読しておく。 (事後) 学力問題について整理しておく。 |
| 14 | 現在の教育課題②： | 現在の教育課題の一つである生涯学習 | (事前) テキスト P. 147～151 を精読しておく。 |

| | | | | |
|---------------|--|------------------------|------------------------------|--|
| | | 生涯学習の思想 | について概観し、考察を加える。 | (事後)生涯学習の思想について整理しておく。 |
| | 15 | まとめ： 今後の教育について考える | 教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。 | (事前)テキストP.169～178を精読しておく。 (事後)「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。 |
| 関連科目 | 教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみるのが大切です。 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 哲学する教育原理 | 伊藤潔志 編著 | 教育情報出版 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) | 文部科学省 | 東山書房 |
| | 2 | 高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示) | 文部科学省 | 東山書房 |
| | 3 | 哲学する学校経営 | 伊藤潔志 編著 | 教育情報出版 |
| 評価方法 (基準) | 毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート (One Page Portfolio シート) の内容や授業中の学習の様子 (60%) や学期末試験の結果 (40%) 等をもとに総合的に評価します。 また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。 | | | |
| 学生への メッセージ | 授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 寝屋川キャンパス 7 号館 4 階 (谷口研究室) | | | |
| 備考 | 事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。 | | | |

| | | | |
|----------------|------|----------|------------------------|
| 科目名 | 教育原理 | 科目名 (英文) | Educational Principles |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 谷口 雄一・疋田 祥人 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | <p>教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語るすることができます。しかし、「教育とは一体何だろう?」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないのでしょうか。</p> <p>この授業では、「教育とは一体何だろう?」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。</p> <p>これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。</p> <p>授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。</p> |
| 到達目標 | <p>教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。</p> |
| 授業方法と留意点 | <p>本授業は「教育とは何か?」という本質的な問いについて受講者のみなさん一人一人が考え、自身の教育観を再構築していけるようにします。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して教育についての学びを進めていきます。</p> <p>そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、教育について多面的・多角的に考えることができるように配慮します。</p> <p>第8回と第10回には非常勤講師による講義を行い、西洋の教育思想についてより専門的な内容を学ぶことができるようにします。</p> |
| 科目学習の効果 (資格) | <p>(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状 の取得 (3) 学芸員資格 の取得に必要です。</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教育の基礎的理解に関する科目</p> <p>各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p> |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|---|---|
| | | | |
| 1 | ガイダンス： 教育について考える | 本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。 | (事前) テキスト P. 3 を精読しておく。 (事後) 「教育とは一体何だろう?」という問いについて自分の考えをまとめておく。 |
| 2 | 教育の基礎理論①： 教育の必要性 | なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。 | (事前) テキスト P. 59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の必要性について自分の考えを整理しておく。 |
| 3 | 教育の基礎理論②： 教育の目的 | 前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。 | (事前) テキスト P. 59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の目的について自分の考えを整理しておく。 |
| 4 | 教育の基礎理論③： 子どもの発見 | 「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。 | (事前) テキスト P. 76～85 を精読しておく。 (事後) 子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。 |
| 5 | 教育の基礎理論④： 教師とは何か | 教師という職業や、その教育的役割について考える。 | (事前) テキスト P. 69～73 を精読しておく。 (事後) 教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。 |
| 6 | 教育の基礎理論⑤： 近代の学校の誕生 | 近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。 | (事前) テキスト P. 93～97 を精読しておく。 (事後) 近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。 |
| 7 | 教育の基礎理論⑥： 家庭と教育 | 家庭において子どもはどのように扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。 | (事前) テキスト P. 86～90 を精読しておく。 (事後) 家庭における教育について整理しておく。 |
| 8 | 西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ その1 ※疋田先生が御担当 | 「教育とは何か」について、コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの教育思想から考察する。 | (事前) コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの人物像について調べる。 (事後) 授業プリントを読み直し、学習内容について整理する。 |
| 9 | 西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ その2 | 前回取り上げた教育思想家4名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。 | (事前) 第8回で取り上げた4名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物1名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 (事後) 授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。 |
| 10 | 西洋の教育思想②：フレーベル・デュイ・モンテッソーリ その1 ※疋田先生が御担当 | 「教育とは何か」について、フレーベル・デュイ・モンテッソーリの教育思想から考察する。 | (事前) フレーベル・デュイ・モンテッソーリの人物像について調べる。 (事後) 授業プリントを読み直し、学習内容について整理する。 |
| 11 | 西洋の教育思想②：フレーベル・デュイ・モンテッソーリ その2 | 前回取り上げた教育思想家4名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。 | (事前) 第10回で取り上げた3名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物1名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 (事後) 授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。 |
| 12 | 現代の教育理論： 20世紀の教育理論 | 20世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。 | (事前) テキスト P. 29～32 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。 |
| 13 | 現在の教育課題①： 学力問題 | 現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。 | (事前) テキスト P. 50～54 を精読しておく。 (事後) 学力問題について整理しておく。 |
| 14 | 現在の教育課題②： | 現在の教育課題の一つである生涯学習 | (事前) テキスト P. 147～151 を精読しておく。 |

| | | | | |
|---------------|--|------------------------|------------------------------|--|
| | | 生涯学習の思想 | について概観し、考察を加える。 | (事後) 生涯学習の思想について整理しておく。 |
| | 15 | まとめ： 今後の教育について考える | 教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。 | (事前) テキストP.169～178を精読しておく。 (事後) 「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。 |
| 関連科目 | 教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみる事が大切です。 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 哲学する教育原理 | 伊藤潔志 編著 | 教育情報出版 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) | 文部科学省 | 東山書房 |
| | 2 | 高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示) | 文部科学省 | 東山書房 |
| | 3 | 哲学する学校経営 | 伊藤潔志 編著 | 教育情報出版 |
| 評価方法 (基準) | 毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート (One Page Portfolio シート) の内容や授業中の学習の様子 (60%) や学期末試験の結果 (40%) 等をもとに総合的に評価します。 また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。 | | | |
| 学生への メッセージ | 授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 寝屋川キャンパス 7 号館 4 階 (谷口研究室) | | | |
| 備考 | 事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。 | | | |

| | | | |
|----------------|---|----------|--------|
| 科目名 | 身近な犯罪から自分、家族、まちを守る | 科目名 (英文) | |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | | クラス | |
| 単位数 | | 履修区分 | |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 中沼 丈晃 |
| ディプロマポリシー (DP) | V 科 : II◎, R 科 : A◎, A 科 : A◎, M 科 : A1○, E 科 : B△, C 科 : II◎, L 科 : DP2◎, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, J 科 : DP1◎, W 科 : DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1~TT01465a1, L 科 : LT01366a1~LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1~IT01375a1, J 科 : JT01374a1~JT01378a1, W 科 : WT01352a1~WT01356a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：工学部 [A]、理工学部 [II] |
| 到達目標 | この授業を通じて学生には、自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようになることが期待される。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよい。 |
| 授業方法と留意点 | とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。*遠隔の場合、リアルタイム配信で行う。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守れるようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------------------------|--|--|
| | | | |
| 1 | 昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか？ | 昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。 | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間) |
| 2 | 犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか？ | 刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。1件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。 | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間) |
| 3 | 犯罪はなぜ起こるのか？ どうやって減らすのか？ | 悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。 | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間) |
| 4 | 大阪の治安はどのくらい悪いのか？ どのように防犯対策を進めているのか？ | 大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト1を返上する取り組みを紹介する。 | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間) |
| 5 | 街頭犯罪――ひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に | 一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。 | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間) |
| 6 | 住宅への空き巣、忍び込み、居空き | 泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最近の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。 | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間) |
| 7 | 性犯罪――街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ | 大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。 | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間) |
| 8 | 子どもをねらった犯罪 | 子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。 | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間) |
| 9 | ストーカー、DV (配偶者からの暴力) | ストーカーやDVは、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まささが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。 | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間) |
| 10 | 詐欺――高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など | 昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。 | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間) |
| 11 | サイバー犯罪――子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪 | 子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでのID、パスワード盗難など、身近なサイバー犯 | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間) |

| | | | 罪を取り上げる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|--|--------------|--|--|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| | 12 | 違法ドラッグの実態と対策 | 違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。 | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 13 | 防犯カメラの普及と効果 | 急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。 | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 14 | 防犯ボランティアの活動 | 近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青バト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。 | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15 | 警察官の仕事の実際 | 犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。 | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 期末課題(70%)、講義毎回の確認ペーパー(30%)の合計によって評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | 勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できるところからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえと思う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 11号館9階 中沼研究室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 講義毎回の課題正解の提示などは Teams を通じて行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|---|----------|-----------------------|
| 科目名 | マーケティングと歴史 | 科目名 (英文) | Marketing and History |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 武居 奈緒子 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1～TT01465a1, L科: LT01366a1～LT01370a1, D科・S科: IT01371a1～IT01375a1, J科: JT01374a1～JT01378a1, W科: WT01352a1～WT01356a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。 |
| 到達目標 | マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。 |
| 授業方法と留意点 | 講義形式 |
| 科目学習の効果 (資格) | マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------|--|---|
| | | | |
| 1 | ガイダンス | マーケティングについて解説していきます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 2 | 製品政策 | ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 3 | 価格政策 | 価格の設定方法について考えます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、価格政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 4 | 流通チャネル政策 | 商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通チャネル政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 5 | 販売促進政策 | 商品のアピールの仕方について考えます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、販売促進政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 6 | マーケティングのSTPアプローチ | 市場細分化について考えます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、STPアプローチに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 7 | 消費行動 | 消費者の購買意思決定過程について考えます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 8 | マーケティングの歴史的研究と三井越後屋 | マーケティングにおける歴史的研究と三井越後屋の商法について説明していきます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、三井越後屋に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 9 | 呉服商の流通機構 | 呉服商の流通機構について、概説していきます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、呉服商の流通機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 10 | 越後屋の仕入機構 (1) | 三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 11 | 越後屋の仕入機構 (2) | 三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 12 | いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構 | いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、いとう松坂屋・大丸屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 13 | 呉服商から百貨店へ | 呉服商から百貨店への変遷について概説します。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店化に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 14 | 百貨店業態の成立 | 百貨店について、説明していきます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店業態に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 15 | まとめ | 全体のまとめをします。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと歴史の総復習をしておきましょう。(所要時間1時間) |

関連科目

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-------------------------------------|--------|------|
| | 1 | 大規模呉服商の流通革新と進化—三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷— | 武居 奈緒子 | 千倉書房 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|---------|-------------|-------|-------|
| | 1 | 史料が語る三井のあゆみ | 三井文庫編 | 吉川弘文館 |
| 2 | 消費行動 新版 | 武居 奈緒子 | 晃洋書房 | |
| 3 | | | | |

評価方法 期末レポート (80%)、中間レポート (20%)

| | |
|---------------|--------------|
| (基準) | |
| 学生への メッセージ | |
| 担当者の 研究室等 | 11号館8階 武居教授室 |
| 備考 | |

| | | | |
|---------------|---|----------|------------------------------|
| 科目名 | 全学部生のための刑事法 | 科目名 (英文) | Introduction to Criminal Law |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 小野 晃正 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1 | | |

| | |
|---------|---|
| 授業概要・目的 | <ul style="list-style-type: none"> ・全国的にみて大学生活を通じて学生による犯罪現象が散見される。 ・たとえば、保護責任者遺棄致死事案（サークル仲間の酩酊学生放置）、あるいは、未成年者誘拐や児童福祉法違反（SNS上での出会い）、職業安定期法違反（バイトでの風俗あっせん）、ストーカー行為規制法違反（25通程度のメッセージ送信）、偽造と詐欺（定期券改ざん）、偽計業務妨害（カンニング）の事案など枚挙にいとまがない。 ・これらの犯罪は、おそらく大学生本人は犯罪だと思って実行したものでないであろう。しかし、こうした犯罪知識を身につけておかなければ知らぬ間に罪人とされ、実名報道により学生本人の将来の芽を摘み取ることになりかねない。 ・他方、これらの犯罪の被害者になりかねない学生も相当数いるであろう。犯罪被害者になったとき、迅速な対処法が被害を軽減するが、こうした知識を身につける機会が全学生にあまりない。 <p>本講座では、「転ばぬ先の杖」として学生時代に身につけておくべき犯罪とその被害対処法を提供し、全学生に安全な学生生活と社会人となった後も有用な刑事法教育を提供することを目的とする。</p> |
|---------|---|

| | |
|------|--|
| 到達目標 | <p>この授業を通じて学生には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・刑法の謙抑性、罪刑法定主義、犯罪の成立要件および刑罰制度について説明できる ・薬物犯罪をはじめとする学生にとくに身近な犯罪現象の内容について説明できる ・犯罪被害者となった場合の対処方法について説明できる <p>ようになることが期待される。</p> |
|------|--|

| | |
|----------|--|
| 授業方法と留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICTツールとしてMicrosoft社のteamsを用いる。 ・課題提示や資料配布などはMicrosoft社teamsを通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を必ず持参すること。 |
|----------|--|

| | |
|-------------|---|
| 科目学習の効果（資格） | <ul style="list-style-type: none"> ・「刑法総論」および「刑法各論」をしっかり受講すれば、法学検定、地方公務員上級職採用試験、労働基準監督官採用試験（大卒）、裁判所事務官採用試験、および、司法書士試験で出題される「刑法総論」の問題を確実に処理することができるようになる。 |
|-------------|---|

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------------|--|---|
| | | | |
| 1 | ガイダンス 刑法とは何か | <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方と文献紹介 ・刑法の意義 ・刑法の機能 ・刑法学とは何か | <p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p> |
| 2 | 刑法の基礎 | <ul style="list-style-type: none"> ・古典学派と近代学派 ・わが国の刑法思想 ・刑罰の正当化根拠（なぜ国家による死刑をはじめとする刑罰執行は正当化されるのか） | <p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p> |
| 3 | 刑法の解釈 | <ul style="list-style-type: none"> ・罪刑法定主義 ・刑法の法源 ・刑法の解釈 | <p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p> |
| 4 | 犯罪の基本概念 | <ul style="list-style-type: none"> ・犯罪の成立要件 | <p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p> |
| 5 | 薬物犯罪 | <ul style="list-style-type: none"> ・覚せい剤取締法 ・大麻取締法 ・向精神薬取締法 | <p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p> |
| 6 | カンニング行為と偽計業務妨害 | <ul style="list-style-type: none"> ・阪大入試問題漏洩事件 ・明治大学替え玉入試事件 ・京大2次試験問題ヤフー知恵袋漏洩事件 ・大学入試共通テスト問題漏洩事件 | <p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p> |
| 7 | 飲み会と保護責任者遺棄罪 | <ul style="list-style-type: none"> ・飲み会において生じうる犯罪現象 | <p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p> |
| 8 | 定期券の偽造と詐欺罪 | <ul style="list-style-type: none"> ・有価証券偽造罪と詐欺罪の関係 | <p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p> |
| 9 | ストーカー行為規制法 | <ul style="list-style-type: none"> ・ストーカーにならないために ・ストーカーの被害者にならないために | <p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p> |
| 10 | DVとデートDV | <ul style="list-style-type: none"> ・違法性とは何か ・正当行為と正当業務行為 | <p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p> |
| 11 | 性犯罪、家出と未成年者誘拐罪および児童福祉法違反 | <ul style="list-style-type: none"> ・各種性犯罪 ・家出と誘拐の関連 | <p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p> |
| 12 | 少年犯罪と「特定少年」制度の発足 | <ul style="list-style-type: none"> ・少年法の厳罰化 ・20歳未満の実名報道 | <p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p> |
| 13 | 犯罪被害者救済① | <ul style="list-style-type: none"> ・告訴と被害届 ・証拠保全の重要性 | <p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p> |
| 14 | 犯罪被害者救済② | <ul style="list-style-type: none"> ・被害者に対する種々の救済制度 ・被害者の実名報道と被害者バッシング問題 | <p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p> |

| | | | | |
|---------------|---|--------------------|---------------|--|
| | 15 | まとめ | これまでの講義内容の総復習 | 事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間） |
| 関連科目 | 刑事法概論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 入門刑事法（第8版） | 三井誠 | 有斐閣 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 開講時に各種判例・補助教材を紹介する | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | ・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信し、その回答内容を合算して評価対象とする（講義の理解度5%+課題の得点95%）。 | | | |
| 学生への メッセージ | <ul style="list-style-type: none"> ・法律学の学習は予習よりも問題演習を中心とした復習が効果的です。 ・刑事事件に関心なる人はぜひ受講してください。 ・新聞、テレビ、ラジオ、ネットなど媒体は問いませんが、刑法に関する面白いネタがたくさん落ちていきますので、なるべくニュースに接するようにしましょう。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 11号館10階 小野教授室 | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|---|----------|-----------------------------|
| 科目名 | 現代韓国論 | 科目名 (英文) | Contemporary Korean Society |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 田中 悟 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 日本社会に生きる者にとって、似通っているようで異なる、また異なっているようで似通っている、そんな存在である韓国。本授業では、日韓関係の変遷を手がかりとし、現代の韓国社会における変化を中長期的な視点から理解することを目指す。 |
| 到達目標 | 本授業を通じて、現代韓国社会についての理解を深めていく。具体的には、次の各項目を目標とする。 ・韓国現代史について、とりわけポスト冷戦時代の日韓関係史を軸として、概観できるようになる。 ・ポスト「バブル経済」時代における日本社会についての理解を踏まえて、ポスト「民主化」の時代における韓国社会についての理解を深める。 |
| 授業方法と留意点 | 1. 韓国現代史の基礎的事実関係を踏まえつつ、基本的には教科書に基づいて授業を進める。 2. 授業は、①講義、②Moodleを通じたレジュメの配信および課題等の提出、という2つの手段を適宜組み合わせで行なう。 3. 授業進捗の調整によって、授業の進行スケジュールに変更が生じる可能性がある。 4. 本授業に関するフィードバックは、必要に応じて授業内で行なうこととする。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 韓国現代史および現代の日韓関係に関する基礎的な理解 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------------|---|---|
| | | | |
| 1 | イントロダクション | 授業の目指すところ、テキストの内容について概説する。 (「まえがき」「プロローグ」についてはここで取り上げる。) | テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと |
| 2 | 第I部 相互信頼から相互不信へ | 第1章 盧泰愚来日と天皇訪韓構想 (1) | [事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分) |
| 3 | 第I部 相互信頼から相互不信へ | 第1章 盧泰愚来日と天皇訪韓構想 (2) | [事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分) |
| 4 | 第I部 相互信頼から相互不信へ | 第2章 慰安婦問題の展開 (1) | [事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分) |
| 5 | 第I部 相互信頼から相互不信へ | 第2章 慰安婦問題の展開 (2) | [事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分) |
| 6 | 第I部 相互信頼から相互不信へ | 第3章 村山談話と靖国問題 (1) | [事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分) |
| 7 | 第I部 相互信頼から相互不信へ | 第3章 村山談話と靖国問題 (2) | [事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分) |
| 8 | 第I部 相互信頼から相互不信へ | 第4章 「小春日和」の時代 | [事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分) |
| 9 | 第II部 対立激化への展開 | 第5章 領土問題の相克と定着化 (1) | [事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分) |
| 10 | 第II部 対立激化への展開 | 第5章 領土問題の相克と定着化 (2) | [事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分) |
| 11 | 第II部 対立激化への展開 | 第6章 民主党政権と李明博政権 (1) | [事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分) |
| 12 | 第II部 対立激化への展開 | 第6章 民主党政権と李明博政権 (2) 第7章 外交争点としての「慰安婦」問題 (1) | [事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分) |
| 13 | 第II部 対立激化への展開 | 第7章 外交争点としての「慰安婦」問題 (2) | [事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分) |
| 14 | 第II部 対立激化への展開 | 第8章 文在寅政権の転換 | [事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分) |
| 15 | 「平成時代の日韓関係」から何が見えるのか | 韓国現代史と現代韓国社会 (講義のまとめと補遺) | [事前学習] 提示する資料を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 提示した資料を参照しながら、テキス |

| | | | | |
|---------------|--|------------------------|-----------------|-----------------------|
| | | | | トを読み返しておくこと（目安時間：60分） |
| 関連科目 | | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 平成時代の日韓関係―楽観から悲観への三〇年― | 木村幹・田中悟・金容民〔編著〕 | ミネルヴァ書房 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 韓国現代史 | 木村幹 | 中公新書 |
| | 2 | 日韓歴史認識問題とは何か | 木村幹 | ミネルヴァ書房 |
| | 3 | | | |
| 評価方法 （基準） | 定期試験は実施せず、授業内で提示する課題に対する提出物に基づく総合評価（100%）を実施する。 （課題の提示および提出は、Moodleを通じて行なう。） | | | |
| 学生への メッセージ | 韓国語の能力は不要です。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館4階 田中研究室 | | | |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業のスケジュール・進行形式については、出席者の状況によって調整する可能性もある。 ・なお、2019年度まで開講していた「現代韓国事情」を履修し、単位を取得済みの者は、本講義を履修することはできない。 | | | |

| | | | |
|----------------|---|----------|--------------------|
| 科目名 | 役立つ金融知力 | 科目名 (英文) | Financial Literacy |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 大西 史一 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 金融・経済の自由化やグローバル化が進展し、多様な金融商品やサービスが登場するなど消費者の選択肢が拡大して、これまで以上に利便性や収益機会が得られるようになりました。その一方、私たちに自らの判断と責任において金融取引を行うべきとする、「自己責任」が求められる時代になっています。自立した個人として、実際の問題に対処して自身で合理的な選択や意思決定を行うために必要な知識基盤を身につけることが今、大切です。こうした知識や能力は豊かな暮らしや社会の実現に欠かせないばかりか、さまざまな金銭・金融トラブルから私たちの身を守ることに役立ちます。 この授業では、自身のライフデザインにもつづいた資金計画をはじめ、金融資産の基本的なしくみや特性・リスクとリターン、その活用方法、企業研究など実社会で役立つ金融リテラシー(知力)を広く身につけることを目的とします。 |
| 到達目標 | ライフステージの重要な意思決定の場面で、的確な行動やより良い判断へと導くリテラシーを養うことを目標に、金融やその背景となる経済知識について、基礎的な内容から実務の入口までをわかりやすく解説します。 具体的には ①金融や市場のさまざまな働きを知り、社会や自分との関わりについて理解を深めることができる ②金融リテラシーを習得し、自ら主体的に判断し活用していく能力が身につく ③自己のライフプランに基づく資金計画を作成し、課題を発見して適切な解決策を考えることができる 以上を到達目標とします。 |
| 授業方法と留意点 | 基本的に対面による講義形式で授業を進めます。各回のテーマ毎にレジュメを配布します。 授業では、重要と思われるところを積極的に聴き取りメモをとり、「なぜ」と自分の頭で考える訓練をしてください。 また、日頃から、経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持ってください。 課題への参加や提出物は期限を厳守してください。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 日々、刻々と変わるマーケットを理解し、中長期の経済トレンドを理解することができる可能性があります。 金融商品の基礎知識を取得することにより、少なからず将来の資産形成に役立つことでしょう。 また、ファイナンシャルプランナー資格 (民間資格) や、ファイナンシャル・プランニング技能士 (国家資格) の資格にも役立つでしょう。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------------|---|---|
| | | | |
| 1 | ガイダンス 金融知力リテラシーの必要性 | 講義内容と成績評価等について説明した後、これからの時代、「金融リテラシー (知力)」を身につけなければならない必要性について説明します。 | 経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持ってください。 |
| 2 | 金融・経済の基礎① | 是非とも知っておいていただきたい金融と経済の基本について説明します。また、マーケットの視点で注目度の高い経済統計などの話もします。 | 経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持ってください。 |
| 3 | 金融・経済の基礎② | 物価と金利の関係や、金融政策や財政政策など経済と金融のかかわり、そして世界経済・日本経済の実情とその将来を解説します。 | 経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持ってください。 |
| 4 | ライフプランニング① | ライフプラン上の夢や希望をかなえるには、お金の問題が常に関わります。ライフイベント表・キャッシュフロー表作成の重要性を解説します。 | 自分の夢、今後の人生における最優先課題を考えてみる。 |
| 5 | ライフプランニング② | 人生に不可欠な「三大資金」を理解し、ライフプラン実現のために必要な資金計画の大切さを解説します。 | 課題①として、大学卒業後のライフイベントを設定し、キャッシュフロー表を作成してもらいます。 |
| 6 | 金融商品の基礎/貯蓄型商品 | 金融商品の特性について説明した後、預貯金などの貯蓄型商品の種類、特徴とリスク、金利について解説します。 | 経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持ってください。 |
| 7 | リスクとリターン | 投資は利益 (リターン) をあげることが目的とする行為ですが、必ずリスクを伴います。このリスクとリターンの関係や、リスクの低減手法、いわゆるリスクマネジメントについて解説します。 | 経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持ってください。 |
| 8 | アセットクラスの基礎知識 / 株式① | 株式投資の魅力とリスクについて説明します。また、実際の取引の仕組みや、株式投資を行う際に留意点などについて解説します。 ※アセットクラス: 資産クラス、資産の種類のこと | 課題②として、株式投資ゲームに参加してもらいます。 |
| 9 | アセットクラスの基礎知識 / 株式② | 株価の要因について説明します。また、株価のファンダメンタルズ分析手法や、株価チャート、テクニカル分析の基礎についても紹介します。 | 経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持ってください。 |
| 10 | アセットクラスの基礎知識 / 債券① | 債券とは何かから始め、多岐にわたる種類や特徴・リスクを説明します。また、利回りや「格付け」についても学びます。 | 財務省のHPで20年度予算の概要を確認 |
| 11 | アセットクラスの基礎知識 / 債券② | 債券の利率と利回り、債券価格と金利の関係について学びます。合わせて、現在のわが国の財政構造などの時事問題を理解してもらいます。 | 経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持ってください。 |
| 12 | アセットクラスの基礎知識 / 投資信託 | 皆さんにとって最も身近になる金融商品です。投資信託の仕組みや特長、メリットとリスク、効率的な商品選択を紹介します。 | 経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持ってください。 |

| | 13 | 外為市場・外貨建て商品 | 外国為替市場の仕組みや取引について解説した後、代表的な外貨建て商品をリスクも併せて紹介します。 | 日経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|---|----------------------|--|--------------------------------|----|-----|-----|------|---|--------------|------------|-------------|---|--|--|--|---|--|--|--|
| | 14 | 証券化商・デリバティブ／セーフティネット | 派生商品の概要について紹介します。そのあと、預金者および投資家を保護するための法令等について説明します。 | 経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15 | 講義のまとめ | これまでの講義を振り返り、ポイントを整理します。定期試験対策としての位置づけでもあります。 | 必ずレジュメを復習し、理解できるようにしてください。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学 など | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>金融経済と資産運用の基礎</td> <td>日興リサーチセンター</td> <td>ブイツーソリューション</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 金融経済と資産運用の基礎 | 日興リサーチセンター | ブイツーソリューション | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 金融経済と資産運用の基礎 | 日興リサーチセンター | ブイツーソリューション | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 定期試験 : 60% 課題①キャッシュフロー表 : 25% 課題②株式投資ゲーム参加 : 10% 講義への取り組み姿勢 : 5% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | 長年の実務経験をベースに、より実践的かつ現実的な話を、体験談も踏まえて分かりやすくお伝えしたいと思っています。 皆さんのこれからの時代は、金融・経済の知識、そして金融商品の知識があるのとないのとでは、将来の人生設計が大きく変わる可能性があります。是非、資産形成について一緒に学んでいきましょう。 なお、授業計画は変更される場合があります | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 11号館1階(教務課) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | オフィスアワー : 授業の前後に対応します。 その他、質問等は onishi_fumikazu3@nrc.nikko.co.jp までメールをしてください。 この講義は、SMB C日興証券グループによる「寄附講座」です。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|---|----------|--|
| 科目名 | SDG s で読み解く淀川流域 | 科目名 (英文) | The Yodo-gawa river region and SDGs |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 後藤 和子, 赤澤 春彦, 朝田 康禎, 石田 裕子, 郭 進, 加嶋 章博, 小林 健治, 手代木 功基, 鳥谷部 壤, 中塚 華奈, 増田 知也 |
| ディプロマポリシー (DP) | V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ◎, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎ | | |
| 科目ナンバリング | V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1~TT01465a1, L 科 : LT01366a1~LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1~IT01375a1, J 科 : JT01374a1~JT01378a1, W 科 : WT01352a1~WT01356a1 | | |

授業概要・目的
この科目は、琵琶湖の源流域から大阪湾までの淀川流域に着目し、人々の多様な暮らしや経済・文化・環境等について、SDGs の視点から学びを深め、淀川流域の多様性と持続可能な発展を考える教養科目です。本科目は、今、多くの企業からも注目を集めている SDGs について、淀川流域を素材としながら、グローバルに考え行動するという社会人・企業人として必要な教養を身に付けることを目的とします。

到達目標
(1) 大阪をはじめとする関西地域の暮らしと密接な関わりを持つ淀川流域について、いかなる社会的課題が存在するかを、第三者に分かりやすく説明できる。
(2) SDGs について理解を深め、上記 (1) の社会的課題について、SDGs との関連性を説明できる。
(3) 地域のニーズや社会的課題を発見し、本講義で得られた知見を基に、その解決策を検討することができる。

授業方法と留意点
この授業では、摂南大学の近傍を流れる「淀川」の社会・歴史・文化・経済・環境等について、SDGs (2030 年までの世界の目標) との関連性を意識しながら、学部の垣根を越えて、地域の課題を学びます。
毎回の授業は、基本的に教科書に沿って行われます。なお、理解促進のために、必要に応じて、レジュメあるいは補足資料を配布します。

科目学習の効果 (資格)
大学生に必要な教養の知識が身につく、それを基に地域の社会的課題について討議できる。

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | |
|----|----------------------------|---|-------------------------|--------------------------|
| | | | 事前 | 事後 |
| 1 | ガイダンス—淀川流域のいま・過去・未来と SDG s | 科目全体のガイダンス (担当: 朝田康禎) | 事前: 教科書[序章]を読んでおくこと | 事後: 講義内容の確認 |
| 2 | 巨椋池遊水地化構想による淀川流域の治水と環境保全 | 将来の淀川流域の洪水対策としてできることは何か? [関連 SDGs 13・6] (担当: 石田裕子) | 事前: 教科書[第 1 章]を読んでおくこと | 事後: 講義内容の確認 |
| 3 | 淀川左岸地域を中心とした水辺整備と流域連携活動 | 水辺を楽しく利用するためにはどうすればいいか? [関連 SDGs 9・17] (担当: 石田裕子) | 事前: 教科書[第 2 章]を読んでおくこと | 事後: 講義内容の確認 |
| 4 | 淀川流域の洪水対策 | 淀川上流に新たなダムは必要なのか? [関連 SDGs 7・16] (担当: 鳥谷部壤) | 事前: 教科書[第 14 章]を読んでおくこと | 事後: 講義内容の確認 |
| 5 | 些細なことでも豊かになる淀川流域の生活 | なぜ人は水辺に集まるのか? [関連 SDG 15] (担当: 小林健治) | 事前: 教科書[第 5 章]を読んでおくこと | 事後: 講義内容の確認 |
| 6 | 淀川水系にみる文化と観光の経済学 | 文化と経済の相乗効果とは? [関連 SDGs 3・12] (担当: 後藤和子) | 事前: 教科書[第 6 章]を読んでおくこと | 事後: 講義内容の確認 |
| 7 | 地域資源としての淀川の記憶 | 淀川の風景遺産とは何だろうか? [関連 SDG 11] (担当: 加嶋章博) | 事前: 教科書[第 7 章]を読んでおくこと | 事後: 講義内容の確認 |
| 8 | 淀川流域の名所化と文化遺産 | 淀川流域の文化遺産をいかに活用すべきか? [関連 SDG 11] (担当: 赤澤春彦) | 事前: 教科書[第 8 章]を読んでおくこと | 事後: 講義内容の確認 |
| 9 | 所得格差と教育問題 | 淀川の左岸と右岸とでどう違う? [関連 SDGs 1・4・11] (担当: 八木紀一郎) | 事前: 教科書[第 9 章]を読んでおくこと | 事後: 講義内容の確認 |
| 10 | 都市農業の歴史的遺産と公益的機能 | 淀川流域の都市農業の特徴とは? [関連 SDG 2] (担当: 中塚華奈) | 事前: 教科書[第 10 章]を読んでおくこと | 事後: 講義内容の確認 |
| 11 | 人口移動や通勤流動でみる地域経済 | 淀川は人の流れや経済にどのような影響を与えるのか? [関連 SDG 5] (担当: 朝田康禎) | 事前: 教科書[第 11 章]を読んでおくこと | 事後: 講義内容の確認 |
| 12 | 産業連関分析 | 淀川流域における 3 市 (門真市・寝屋川市・枚方市) の経済・産業構造はどう違うのか? [関連 SDGs 8・9] (担当: 郭進) | 事前: 教科書[第 12 章]を読んでおくこと | 事後: 講義内容の確認 |
| 13 | 住民が主役の広報戦略 | 淀川流域の魅力を発信するにはどうすればいいか? [関連 SDG 17] (担当: 増田知也) | 事前: 教科書[第 13 章]を読んでおくこと | 事後: 講義内容の確認 |
| 14 | 滋賀県朽木地域の森林利用の変遷 | 淀川源流の森はどのように変化してきたのか? [関連 SDG 15] (担当: 手代木功基) | 事前: 教科書[第 3 章]を読んでおくこと | 事後: 講義内容の確認 |
| 15 | プラスチックごみの発生源抑制対策 | 大阪湾はお魚よりもプラスチックごみのほうが多いって本当? [関連 SDGs 14・12] (担当: 鳥谷部壤) | 事前: 教科書[第 4 章]を読んでおくこと | 事後: 講義内容の総復習・レポート課題に取り組む |

関連科目 摂南大学で開講されている科目のすべて

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

評価方法 (基準) 第 2 回目~15 回目までの授業内で実施される理解度確認 (クイズ or 簡単な小レポートなど) (いずれも 5 点満点、14 回分で計 70 点) と、期末のレポート (30 点) の合計 100 点満点で評価する。なお、期末のレポートは、最終回の授業時に各担当教員によって提示される課題一覧の中から、

| | |
|-----------|--|
| | いずれか1つを選択し、A4 2枚程度のレポート作成に取り組む。 |
| 学生へのメッセージ | 今、企業や地方自治体からも注目を集め、全世界で取り組んでいる SDGs について、身近な地域を素材と一緒に考えましょう。就活や社会人となってからも、この経験はきっと役に立つはず。他学部の教員から、多様な視点を学べるのも魅力です。 |
| 担当者の研究室等 | 1号館 7階 後藤研究室 |
| 備考 | SDGs の 17 の目標とその内容は次の通り。SDG1 (貧困をなくそう)、SDG2 (飢餓をゼロに)、SDG3 (すべての人に健康と福祉を)、SDG4 (質の高い教育をみんなに)、SDG5 (ジェンダー平等を実現しよう)、SDG6 (安全な水とトイレを世界中に)、SDG7 (エネルギーをみんなに そしてクリーンに)、SDG8 (働きがいも経済成長も)、SDG9 (産業と技術革新の基盤をつくろう)、SDG10 (人や国の不平等をなくそう)、SDG11 (住み続けられるまちづくりを)、SDG12 (つくる責任 つかう責任)、SDG13 |

| | | | |
|----------------|---|----------|---------------------|
| 科目名 | 脳の情報処理 | 科目名 (英文) | Processing in Brain |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 寺内 睦博 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 人間の知的活動の中核である脳における諸機能の理解を通して、認識、思考、判断、注意などの人間の諸活動に関わる基礎知識を獲得し、専門分野に活かす。 |
| 到達目標 | 脳における情報処理の基礎事項の理解とそれらを自身の生活に活かすこと。 |
| 授業方法と留意点 | 毎回、関連映像を視聴し、講義内でミニッツペーパーおよび質問作成して提出する。復習のための課題レポートの提出を必要とする。 |
| 科目学習の効果 (資格) | |

| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|------|----|--------------|---|--------------|
| | 1 | イントロダクション | 脳について学習する上で知っておくべき用語や概念を説明する | 講義プリントを用いた復習 |
| | 2 | 脳の構造 | 大脳は頭部にある様々な器官と連携してはたらいっている。それぞれの器官の構造と役割を概説する | 講義プリントを用いた復習 |
| | 3 | 学習: シナプスと可塑性 | 脳による認識・記憶・学習の基本となる神経細胞のシナプスにおける信号伝達の変化(可塑性)について概説する | 講義プリントを用いた復習 |
| | 4 | 視覚 | 感覚情報の大部分を占める視覚の情報処理について概説する | 講義プリントを用いた復習 |
| | 5 | 錯視・錯覚 | 認識戦略におけるわれわれの積極的な推測による副作用である錯視や錯覚から、人間の認識手法を知る | 講義プリントを用いた復習 |
| | 6 | 男女の脳 | 生理学的な脳の男女の差から男女の心理行動の違いについて考える | 講義プリントを用いた復習 |
| | 7 | 注意と選択 | 認識をはじめとする脳の情報処理は、意識の注がれるところに集中的に作用する。その現象を説明する | 講義プリントを用いた復習 |
| | 8 | 聴覚と言語 | コミュニケーションや情緒の表現に使用される音楽や音声の取扱いの違いや意味の取扱いが、いかになされるかを概説する | 講義プリントを用いた復習 |
| | 9 | 感覚の連合 | 複数の感覚からひとつの概念が形成されることを情報の流れを通じて説明する | 講義プリントを用いた復習 |
| | 10 | 運動 | 大脳のさまざまな部位での情報処理と小脳および周辺器官の連携による、運動の生成および運動の学習について概説する | 講義プリントを用いた復習 |
| | 11 | 思考と推論 | 高度に発達した人間の特徴のひとつである思考と推論について概説する | 講義プリントを用いた復習 |
| | 12 | 構造と認知 | ゲシュタルト心理等の構造の知覚および認知について概説する | 講義プリントを用いた復習 |
| | 13 | 記憶 | 大脳と辺縁系による記憶の定着と再現のしくみについて概説する | 講義プリントを用いた復習 |
| | 14 | 人間関係 | 人間の社会性における自他の区別や共通性、自我や感情について脳の機能を中心に考える | 講義プリントを用いた復習 |
| | 15 | 総括 | まとめ | 期末試験に向けて復習する |

関連科目

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|------------|-------------------------|------------|
| | 1 | MIND HACKS | Tom Stafford, Matt Webb | オライリー・ジャパン |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

評価方法 (基準) ミニッツペーパー等の平素の活動を含めた授業態度・クイズと課題レポート 60%、試験 40% を総合して判断する。

学生へのメッセージ 誰もが有しており、最も身近な未知の高度情報処理機構である脳について、さまざまな角度から見ていきましょう。

担当者の研究室等 11号館10階 寺内研究室

備考 本人確認のため、メールで連絡する場合には大学のアドレスから送信してください。

| | | | |
|----------------|---|----------|---------------------|
| 科目名 | 使えるデータサイエンス | 科目名 (英文) | Useful Data Science |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 久保 貞也, 朝田 康禎, 植杉 大 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | これからの社会では実務のさまざまな場面でデータを適切に扱い、分析するデータサイエンスのスキルが重視される。データサイエンスのスキルはどの分野でも重要視されている「情報を扱う力」であり、すべての学生が対象となる。ビジネスの現場では顧客情報の分析による、商品開発やサービスの提案などにおける意思決定プロセスなどでも大きな力を発揮する。これからの進路を決めたり、日常の行動で判断にも役立つものとなる。本科目では理系・文系に関わらず大学生から社会人において役立つデータ収集と分析スキルを基礎から学べる状況を作り、さらに AI を含む実践的な応用についても多方面の事例を通じてわかりやすく学ぶ。 |
| 到達目標 | この講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 現代社会でのデータサイエンスの重要性と限界を説明できる (2) データサイエンスのために必要な EXCEL 等汎用ソフトの基礎的な操作法を身に付けている (3) インターンシップや卒業研究レベルのデータ分析の手順が設計できる |
| 授業方法と留意点 | 本科目ではすべての学部学生が興味を持てるように、心理学、経済学、工学、教育学などの多方面の教員によるオムニバス形式で講義、演習を行う。実際に PC を操作してデータ収集、データ分析を行うため、毎回の出席が必要である。授業時間以外にも利用できるオンラインコンテンツ (履修者のみがアクセス可能) を使って、データサイエンスの利用シーンやビジネスに繋がる知識も学ぶ。また、本科目では【履修生を 50 人に限定】し、有償の e-Learning 教材を提供する。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 社会で役立つ実践的なデータ処理能力、AI を活用する力、卒業研究、調査報告書作成、分析ソフトウェアの操作 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------------------|---|--|
| | | | |
| 1 | データサイエンスが必要とされる理由 (オリエンテーション) | 開講にあたってのポイント説明、受講生の期待調査、Society 5.0 時代のデータの価値について C科 伊藤教授、S科 牧野准教授、久保准教授 | e-Learning 教材:「第 1 回 データサイエンスとは」 |
| 2 | データ活用の最新事例 | データサイエンスを学ぶためのハード、ソフト両面の説明、AI を前提とした社会のあり方 S科 久保准教授 | e-Learning 教材:「第 2 回 社会で起きている変化」 |
| 3 | データ分析の準備 | Excel によるデータ整理、基本統計量からわかる事柄 S科 牧野准教授 | e-Learning 教材:「第 9 回 データを読む (1)」 |
| 4 | Excel でできるデータ分析 | ピボットテーブルの有効活用 S科 橋本講師 | e-Learning 教材:「第 11 回 データを説明する」 |
| 5 | Excel でできる統計分析 | データの関係がわかる関数 S科 橋本講師 | e-Learning 教材:「第 10 回 データを読む (2)」 |
| 6 | オープンデータの収集と活用 | RESAS (地域経済分析システム) によるオープンデータの分析 W科 植杉教授 | e-Learning 教材:「第 3 回 社会で活用されているデータ」 |
| 7 | Excel で行える高度な分析 | Excel によるオープンデータの研究活動への活用方法 W科 朝田准教授 | e-Learning 教材:「第 12 回 データを扱う」 |
| 8 | 商品企画につながる分析実習 | 統計分析ソフトウェア (SPSS) によるデータ整理 S科 牧野准教授 | e-Learning 教材:「第 6 回 データ活用とは」 |
| 9 | 優良顧客を見つける方法 | SPSS による統計分析の実習 S科 牧野准教授 | e-Learning 教材:「第 4 回 データ・AI の活用領域」 |
| 10 | データから相性を評価する | ビジネスデータ分析の実際 S科 牧野准教授 | e-Learning 教材:「第 13 回 データ・AI を扱う上での留意事項 (1)」 |
| 11 | スマホでできるアンケート調査 | GoogleForms の便利な使い方 S科 牧野准教授 | e-Learning 教材:「第 14 回 データ・AI を扱う上での留意事項 (2)」 |
| 12 | データの整理から分析までの連動 | オープンデータから FileMaker Pro での整理、R での統計分析の実習 S科 久保准教授 | e-Learning 教材:「第 14 回 データ・AI を扱う上での留意事項 (2)」 |
| 13 | ロボティクスで利用されるデータ | ロボットを動かすデータ処理 E科 片田准教授 | e-Learning 教材:「第 7 回 データ・AI 利活用の現場」 |
| 14 | 広告効果のデータ分析 | FileMaker Pro によるフィールドワークノートづくり S科 久保准教授 | e-Learning 教材:「第 8 回 データ・AI 利活用の最新動向」 |
| 15 | データサイエンスの知識を今後に活かす | スモールグループディスカッション (ELSI、データの活用、人間中心の新しい社会) CEI 石井教授、S科 久保准教授 | e-Learning 教材:「第 15 回 データを守る上での留意事項とまとめ」 |

| | |
|------|-------------------------------|
| 関連科目 | 情報リテラシーI、情報リテラシーII、データサイエンス展開 |
|------|-------------------------------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|------------------------|-------|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | AI・データサイエンス ～リテラシーレベル～ | 三谷慶一郎 | |

| | | | | |
|---------------|--|---------------------------|--|--|
| | | e-learning 教材 (受講者のみ利用可能) | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 授業での課題 50%、e-Learning 教材 40%、事前事後の学修進捗度 (アンケート) 5%、学修ノート 5%、以上を総合して 60%以上を合格とする。なお、無断欠席が 20%以上の場合は成績評価の対象外とするので注意すること。 | | | |
| 学生への メッセージ | 商品企画や心理テスト、世論調査などわたしたちの普段の生活でデータは分析され、活用されています。みなさんが「自分の専門」プラス「データサイエンス」の力をつけると大きな可能性が拓けます。日常生活から研究活動、ビジネスの現場でも活用できるデータサイエンスを総合大学ならではの環境で学びましょう。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 1号館3階 伊藤教授室、11号館7階 久保准教授室、牧野准教授室、11号館8階 橋本講師室、1号館7階 植杉教授室、朝田准教授室、1号館4階 片田准教授室、7号館5階 石井教授室 | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|---|----------|-----------------------------|
| 科目名 | ダイバーシティとコミュニケーション | 科目名 (英文) | Diversity and Communication |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 石井 三恵 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1 | | |

| | |
|---------|--|
| 授業概要・目的 | <p>この授業を通じて学生には、以下の4点を理解することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れていることを知り、ジェンダー視点で俯瞰する。 2) 「境界線」も一つの視野では理解できないことから、ジェンダーの基本的理解はもちろん、主な思潮を通して社会を読む。 3) さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ (多様性) を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。 4) 日常生活やビジネスの場面でのコミュニケーションの必要性を理解し、アサーティブコミュニケーションの理論を知る。 <p>なお、講義は担当講師の民間企業社員、自治体職員として業務経験及び、NPO 法人の理事、高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs-5</p> |
|---------|--|

| | |
|------|---|
| 到達目標 | ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。 |
|------|---|

| | |
|----------|--|
| 授業方法と留意点 | 第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。 |
|----------|--|

| | |
|--------------|--|
| 科目学習の効果 (資格) | <ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーシティマネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。 ・2019年度までの入学生で「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」を取得希望者にとっては、「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。 |
|--------------|--|

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------|---|--|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション | <ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーシティの世界へようこそ ・政策提言へ向けて | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: ダイバーシティに関して、調べること (1時間) ・事後学修: 身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成すること (3時間) |
| 2 | ダイバーシティと境界線 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウチとソトの感覚 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 私たちの周りにおける伝統や習慣について箇条書きにしておくこと (2時間) ・事後学修: SDGs # 5 がなぜ日本に問われているのか、その理由について、具体的な数字を入れてレポートを書くこと (2時間) |
| 3 | ジェンダー視点 | <ul style="list-style-type: none"> ・フェミニズム×女性学+男性学=人間学 ・ジェンダーギャップ指数 ・シモース・ド・ボーボワール ・性別役割分業観 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べること (2時間) ・事後学修: 日本が抱える問題 について、具体的な数字を入れてレポートを書くこと (2時間) |
| 4 | 日本の近代化 | <ul style="list-style-type: none"> ・大正期の白樺派と女権拡張運動 ・明治の落とし物 ・第5次男女共同参画基本計画 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 明治・大正・昭和の歴史年表を作成すること (2時間) ・事後学修: 第五次男女共同参画基本計画を読み、興味関心をもった項目についてレポートを書くこと (2時間) |
| 5 | 国際統計比較 | <ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダーギャップ、ジェンダーエンパワーメント指数などのデータから日本をみる | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えること (2時間) ・事後学修: 国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成すること (2時間) |
| 6 | 性役割の形成① | <ul style="list-style-type: none"> ・性役割と発達段階における「刷り込み」 ・性自認 ・GID と SOGI と人権 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 性役割を理解し、幼児期から振り返ること (2時間) ・事後学修: テキスト P40~52 と、授業を受けて理解できたことなどをまとめたレポートを作成 (2時間) |
| 7 | 性役割の形成② | <ul style="list-style-type: none"> ・性自認と家族 ・親役割 ・性的指向 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: ハラスメントの事例の一つ探し、具体的内容をレポートする 準備をすること (2時間) ・事後学修: 結婚と母性信仰に関して、レポートを作成 (2時間) |
| 8 | 「らしさ」とセクシャル・ポリティクス | <ul style="list-style-type: none"> ・6名の女性に関するグループワークとプレゼン ・セクシュアリティ | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 6名の女性に関するプレゼン (2時間) ・事後学修: 6名の女性から学んだことのレポート作成 (2時間) |
| 9 | ワークライフバランスとビジネス組織 | <ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダーマネジメント ・働き方改革 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 日本と世界を比較しながら、女性労働について考えること (2時間) ・事後学修: M字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成すること (2時間) |
| 10 | アサーティブコミュニケーション① | <ul style="list-style-type: none"> ・アサーティブとは何か ・世界中でアサーティブネスが用いられる理由 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: アサーティブネスについて調べること (2時間) ・事後学修: アサーティブネススキルを用いて問題解決事例を考える (2時間) |
| 11 | アサーティブコミュニケーション② | <ul style="list-style-type: none"> ・スキルの必要性を理解し、身に付けることを試みる | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考えること (2時間) ・事後学修: ワークシート#11 (2時間) |
| 12 | リプロダクティブ・ヘルス&ライツ | <ul style="list-style-type: none"> ・リプロの正しい意味を理解する ・リプロの歴史と現状の課題を確認する ・DV、デート DV について現状を理解す | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: リプロの意味と現状を調べる (2時間) ・事後学修: ワークシート#12 (2時間) |

| | | | | |
|---------------|--|-------------------|-------------------------|---|
| | | | る | |
| | 13 | DV とデート DV | ・企業比較から政策提言へ | ・事前学修：DV とデート DV に関してレポートを作成（2 時間） ・事後学修：ワークシート#13（2 時間） |
| | 14 | プレゼンテーション | ・政策提言プレゼンテーション ・自由討議 | ・事前学修：事例研究した内容をプレゼンテーションできるよう練習すること（2 時間） ・事後学修各プレゼンテーションについての報告書作成（2 時間） |
| | 15 | まとめ | ・まとめ | ・事前学修：まとめのワークシート（2 時間） ・事後学修：ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめること（2 時間） |
| 関連科目 | 2019 年度以前入学生の「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 共に学ぶ女性学 | 石井三恵 | 泉文堂 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | ジェンダーで学ぶ社会学 | 伊藤公男 | 世界思想社 |
| | 2 | よくわかるジェンダー・スタディーズ | 木村 涼子 他 | ミネルヴァ書房 |
| | 3 | 性と法律 | 角田 由紀子 | 岩波新書 |
| 評価方法 (基準) | ロールプレイ（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | みなさんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論、そしてダイバーシティにあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7 号館 5 階 教育イノベーションセンター（石井） | | | |
| 備考 | 予習・復習に毎回 2 時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。 | | | |

| | | | |
|----------------|---|----------|----------------------------|
| 科目名 | データサイエンス展開 | 科目名 (英文) | Revelation of Data Science |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 伊藤 謙 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | <p>インターネットの利用が日常化し、ITによる人とのつながりが増えるとともに、影響を受ける場面が飛躍的に増加している。これからの社会においては情報化の特徴を理解した上で、生活を豊かにしていくデータリテラシーを身に付けていることが必要となっている。</p> <p>しかしながら、データの価値に対する理解や、Society 5.0で謳われているような分野横断的な連携、社会の変革につながる方向性を伝える教育は十分には行われていない。</p> <p>摂南大学ではこれまで学部横断のPBLプロジェクトや地域社会と海外に向けた副専攻課程を設置するなど、大学の知を社会の豊かさとなるような成果に結びつける試みを展開してきた。2020年度より全学の初年次情報科目を統一化し、さらに、2021年度からは全学開講科目として、3年次に「使えるデータサイエンス」を開講し、卒業と就職を控えた学生に、より実践的なデータ利用を目指す教育体制を構築し、ITの利点を引き出せる人材育成を進めている。</p> <p>この流れの中でさらに、初年次と卒業時をつなぐ、2年次にさらに情報社会で活躍する社会人を育成するために文理を問わず全学を対象とした「データサイエンス展開」を開講する。</p> |
| 到達目標 | <p>(1) 数理・データサイエンス・AIは、現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであること、また、それが自らの生活と密接に結びついているものであることを理解し説明できる。</p> <p>(2) 数理・データサイエンス・AIが対象とする「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得ることを理解し説明できる。</p> <p>(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され</p> |
| 授業方法と留意点 | <p>授業は担当講師がプレゼンツール、板書やグループワーク等のアクティブラーニングで実施する。また、事前学習として予習シート、事後学習としてふりかえりシートを課する。それらの提出には教員の指定するICTツールを活用する。</p> |
| 科目学習の効果 (資格) | <p>AI/データサイエンスの実際を様々な分野の実務家や研究者から学ぶことで、視野を広め、今後の自身のキャリア構築や就職活動に役立てることができる。</p> |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------------------|--|---|
| | | | |
| 1 | 第1回 大学人としてのデータサイエンス | 本講義の目的、オリエンテーション、教育効果測定のためのアンケート | 事後学修：ふりかえりシート (30分) |
| 2 | 第2回 社会を豊かにするデータサイエンス | Society5.0に向けた発展状況を知る。オープンデータの活用による社会活動、研究活動への期待を理解する。 | 事前学習：予習シート作成 (60分) 事後学修：ふりかえりシート (30分) |
| 3 | 第3回 政策とデータサイエンス | 政策立案におけるデータ収集から意思決定、評価への流れを知る。Withコロナ時代の産業振興策の現状と課題について学ぶ。 | 事前学習：予習シート作成 (60分) 事後学修：ふりかえりシート (30分) |
| 4 | 第4回 教育とデータサイエンス | 数理・データサイエンス・AI教育が目指すものとこれからの社会へのインパクトについて知る。GIGAスクール構想から大学のデジタルゼーションまで教育のDXについて広く学ぶ。 | 事前学習：予習シート作成 (60分) 事後学修：ふりかえりシート (30分) |
| 5 | 第5回 まちづくりとデータサイエンス | 自治体行政の情報化の変遷とその評価について学ぶ。住民視点の行政評価の仕組みその課題を知る。 | 事前学習：予習シート作成 (60分) 事後学修：ふりかえりシート (30分) |
| 6 | 第6回 プロダクト・イノベーションとデータサイエンス | 新商品開発におけるデータの活用と生産プロセスでのデータ活用について学ぶ。 | 事前学習：予習シート作成 (60分) 事後学修：ふりかえりシート (30分) |
| 7 | 第7回 居住空間とデータサイエンス | 照明のITソリューションに関する最新事例を学ぶ。生活リズムに合わせた照明技術のあり方、生活のデザインへのデータ活用について知る。 | 事前学習：予習シート作成 (60分) 事後学修：ふりかえりシート (30分) |
| 8 | 第8回 広告とデータサイエンス | 広告とデータの関係について歴史的に学ぶ。Webやデジタルサイネージなどの新しい形の広告媒体の可能性について視野を広げる。 | 事前学習：予習シート作成 (60分) 事後学修：ふりかえりシート (30分) |
| 9 | 第9回 ミュージアムとデータサイエンス | ミュージアムのデジタルゼーションの現状や課題を知る。高度な測量・分析を用いた研究活動の可能性を学ぶ。 | 事前学習：予習シート作成 (60分) 事後学修：ふりかえりシート (30分) |
| 10 | 第10回 言語とデータサイエンス | コーパス言語学の概要について学ぶ。言語とデータ化についての歴史や課題を知る。 | 事前学習：予習シート作成 (60分) 事後学修：ふりかえりシート (30分) |
| 11 | 第11回 福祉とデータサイエンス | 医療、福祉におけるデータ活用の実態と課題について学ぶ。コミュニティの連携と交流関係を豊かにする活動の要諦を知る。 | 事前学習：予習シート作成 (60分) 事後学修：ふりかえりシート (30分) |
| 12 | 第12回 生命科学とデータサイエンス | 医薬品開発、医薬品流通におけるデータの重要性と課題を知る。コロナ以降の医薬業界のDXへの期待について学ぶ。 | 事前学習：予習シート作成 (60分) 事後学修：ふりかえりシート (30分) |
| 13 | 第13回 スポーツとデータサイエンス | 戦術におけるデータ活用の歴史と最近の事例を知る。選手のコンディションや戦況を加味した新しいデータ活用の利点と課題を学ぶ。 | 事前学習：予習シート作成 (60分) 事後学修：ふりかえりシート (30分) |
| 14 | 第14回 人間関係とデータサイエンス | 人との関わりでの心理影響のデータ化技術について知る。ライフワークバランスを実現するためのIT支援技術の現状を理解する。 | 事前学習：予習シート作成 (60分) 事後学修：ふりかえりシート (30分) |
| 15 | 第15回 社会人としてデータサイエンス | 社会人として身につけておくべきDX思考、情報倫理、協働姿勢などをグループ | 事前学習：予習シート作成 (60分) 事後学修：ふりかえりシート (30分) |

| | | | | |
|---------------|--|-----|---------|------|
| | | | ワークで学ぶ。 | |
| 関連科目 | 情報系科目すべて | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 予習シート (20%)、課題・授業メモ (50%)、ふりかえりシート (30%) の総合点の 60%以上を合格とする。 なお、出席率 80%以上を成績評価の前提とする。出席に関する不正行為やネガティブな姿勢は関係する学生全員の責任とする。 | | | |
| 学生への メッセージ | 社会で注目されている AI・データサイエンス活用の最前線で活躍している講師陣から学んでください。社会に対する視野を広げることができ、就職活動においても選択肢を増やすことになり有利です。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館 2F 非常勤講師室 1号館 3F 伊藤教授室 | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|---|----------|------------------|
| 科目名 | ビジネスマナー | 科目名 (英文) | Business Manners |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年度 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 奥田 和子 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、またキャリア支援デザイナーとしての観点から人間関係について話をします。 |
| 到達目標 | クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | テキストはWeb上にアップロードするので、各自で事前に準備すること。授業は、講義中心で進めるが、ペアワーク、グループワークも実施する。毎回、学修課題の提出があるのできちんと取り組むこと。提出した課題については、授業内にてフィードバックを行う。質問等は授業中に受け付ける。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|------|-------------------------------|---|--|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション -あいさつの重要性(理論と実践) | ・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ | ・事前学修: ビジネスマナーとは何かを考えること(30分) ・事後学修: ビジネスマナーとは何か、400字でまとめること(60分) |
| 2 | 仕事の進め方と組織活動 | ・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の8つの意識 ・話し方と聞き方 | ・事前学修: 企業のエコ活動について調べること(30分) ・事後学修: 仕事とは何か、まとめること(60分) |
| 3 | 目標設定とPDCAサイクル | ・目標設定(MBO) ・PDCAとは ・チームと個人の役割 | ・事前学修: PDCAについて調べること(30分) ・事後学修: あなたの日常生活におけるMBOとPDCAを考え、まとめること(60分) |
| 4 | スケジュールと出張業務 | ・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT方式- | ・事前学修: あなたの1週間予定表を作成すること(30分) ・事後学修: あなたの予定表作成について振り返り、まとめること(60分) |
| 5 | ビジネスの場での敬語表現 | ・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TP0をもとに- | ・事前学修: 敬語プリント①をすること(30分) ・事後学修: ケーススタディプリントをすること(60分) |
| 6 | 電話対応 | ・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2Hから6W3Hへ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言 | ・事前学修: 電話対応プリントをすること(30分) ・事後学修: ロールプレイングを繰り返すこと(60分) |
| 7 | 来客対応 | ・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換 ※対面授業に切り替え | ・事前学修: 来客対応プリント①をすること(30分) ・事後学修: 来客対応プリント②をすること(60分) |
| 8 | ハウ・レン・ソウ | ・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位 | ・事前学修: 報告・連絡・相談の重要性について調べること(30分) ・事後学修: ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をすること(60分) |
| 9 | ビジネス文書の基本① | ・社外文書が基本 ・商取引文書と社外文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング | ・事前学修: ビジネス文書始める前にをすること(30分) ・事後学修: ビジネス文書②をすること(60分) |
| 10 | ビジネス文書の基本② | ・実践 | ・事前学修: ビジネス文書③をすること(30分) ・事後学修: ビジネス文書④をすること(60分) |
| 11 | ビジネス通信の基本 | ・通信手段(電子メール、ファックス等)の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識 | ・事前学修: 郵便の知識プリント①をすること(30分) ・事後学修: メール文書を作成すること(60分) |
| 12 | 法的業務 | ・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護(Pマーク) ・コンプライアンス | ・事前学習: コンプライアンスについて調べること(30分) ・事後学修: 個人情報保護法についてレポートを作成すること(60分) |
| 13 | 設営の基本 | ・YTT方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性 | ・事前学修: 同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめること(30分) ・事後学修: 設営事例をまとめること(60分) |
| 14 | 慶弔と贈答 | ・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答 | ・事前学修: 慶弔・贈答プリント①をすること(30分) ・事後学修: 弔・贈答プリント②をすること(60分) |
| 15 | 協働とコミュニケーション | ・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー | ・事前学修: グローバル社会へ対応するためには何が必要かについて考えること(30分) ・事後学修: 共生関係について自らの考えをまとめること(60分) |
| 関連科目 | キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ | | |
| 教科書 | | | |

| | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
|---------------|--|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | <p>定期試験 40%、ワーク・授業内課題等 30%、複数回のレポート課題 30%を総合的に判断する。 ただし、無断欠席が4回以上ある場合には成績評価しない。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | <p>近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | <p>7号館5階 キャリア教育推進室（石井）</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | <p>予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。質問等は、メールやチャットにて受け付けます。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|---|----------|--|
| 科目名 | SDGs に学ぶ世界の課題 | 科目名 (英文) | Learning Global Issues from SDGs |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 伊藤 譲, 大塚 正人, 喜多 大三, 久保 廣正, 佐藤 大作, 白鳥 武, 田中 鉄二, 鳥谷部 壘 |
| ディプロマポリシー (DP) | V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎ | | |
| 科目ナンバリング | V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1~TT01465a1, L 科 : LT01366a1~LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1~IT01375a1, J 科 : JT01374a1~JT01378a1, W 科 : WT01352a1~WT01356a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | この科目は、学部の枠を越えた教養応用科目で、大学教養入門・実践のステップアップの講座としての位置づけられています。科目のテーマである SDGs (持続可能な開発目標) とは、国連が定めた 2030 年までに達成を目指す 17 の目標で、わが国でもビジネス界のキーワードのひとつになっています。つまり、この科目は SDGs の全体像を主体的に学ぶ、本格的なアクティブラーニング型教養科目です。反転学習により獲得した基礎知識をグループワーク、ABD と振り返りにより生きた知識として定着させます。さらに、法学、経済学、環境工学、建築学、農学のその分野の第一人者の講義・問題提起から討議を深め、獲得した知識を生きた教養として身に付けることができます。このような流れを通じて、大学生として必要な、SDGs を理解するための教養 (特に、社会、経済、環境等) を身につけ、その知識をもとに考え、自分の意見を持ち、討議ができるようになります。 |
| 到達目標 | (1) 世界の目標 SDGs (2030 年までの世界の目標) について知り、説明と討議をすることができる。 (2) 現代世界の課題について知り、SDGs との関係の説明をすることができる。 (3) 課題に対して、自ら主体的に取り組むことができる。 (4) 自分やチームの考えが効果的に伝わるプレゼンテーションをすることができる。 |
| 授業方法と留意点 | ABD 読書法と様々な ICT ツールを活用するなど、アクティブラーニングの手法を駆使するので、極めて密度の高い授業となります。授業開始時には、事前学習における知識の定着を確認するため、ICT ツールによるクイズ、ミニプレゼンを行い、中盤から後半部で各テーマをとりあげます。学生は解説時にはメモをとり、主としてグループワークにより課題に取り組みます。授業最後には、振り返りシートに授業のふりかえりをまとめます。また、授業資料の管理状態も評価対象です。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 社会課題を議論するための教養として SDGs (2030 年までの世界の目標) を知る。自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる。ABD による SDGs の主体的学び、各分野における第一人者によるテーマの解説、多様なメンバーとの討論により、自分の考えを持ち、討論ができるようになる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---|---|---|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション、授業の進め方 | 事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る CHAP 1 を協働でサマリ作成体験 リレープレゼン 振り返りシート | 事後 : CHAP 1 を復習して、復習シートを作成する |
| 2 | SDGs とは何か | 理解度確認テスト CHAP2 リレープレゼン、対話 理解度確認テスト、振り返りシート | 事前 : CHAP2 を学び、ABD サマリを作成する |
| 3 | 気候変動に関する諸問題 1 | 理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート | 事前 1 : 目標 13 を学び、ABD サマリを作成する 事前 2 : 下記動画を視聴し、関連する話題に関して説明できるようになっておくこと。 ・気候変動とは https://www.youtube.com/watch?v=WVLDtd5nviw |
| 4 | 気候変動に関する諸問題 2 | 理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート | 事前 1 : 目標 14, 15 を学び、ABD サマリを作成する 事前 2 : 下記動画を視聴し、関連する話題に関して説明できるようになっておくこと。 ・適応と緩和 https://www.youtube.com/watch?v=dTF9YoQPzjE |
| 5 | 地球共生デザインを考える I : 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える~その 1 | 理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート | 事前 1 : 目標 16, 10 (特に 10.2, 10.3)、5 (特に 5.1, 5.2)、6 (特に 6.3, 6.6)、11 (11.1, 11.2) を学び、ABD サマリを作成する 事前 2 : 以下の動画、資料等から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、図にまとめてみる。 https://www.youtube.com/watch?v=kDz6h8ZhhnQ |
| 6 | 地球共生デザインを考える II : 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える~その 2 | 理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート | 事前 1 : 目標 16, 10 (特に 10.2, 10.3)、4 (特に 4.5, 4.7)、6 (特に 6.3, 6.6)、11 (11.1, 11.2) を学び、ABD サマリを作成する 事前 2 : 以下の動画、資料等から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、図にまとめてみる。 https://www.ff-ainu.or.jp/web/learn/culture/history/files/syougakusei.pdf |
| 7 | 日本の食文化 1 | 理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート | 事前 1 : 目標 2, 3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2 : 日本の食文化 1 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。 |
| 8 | 日本の食文化 2 | 理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート | 事前 1 : CHAP3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2 : 日本の食文化 2 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。 事後 : 第 1 回レポート |
| 9 | 日本の国際貢献 1 | 理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート | 事前 1 : 目標 6, 9, 13 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2 : 以下の Web 記事を読み、世界の水問題の現状と課題、日本が果たすべき役割について、要点を 300 字程度にまとめる。 https://www.jica.go.jp/aboutoda/ikegami/01/index.html |
| 10 | 日本の国際貢献 2 | 理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート | 事前 1 : 目標 16, 11, 10 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2 : 以下の Web 記事を読み、スーダンの現状と日本の復興支援の特徴について、要点を 300 字程度にまとめる。 https://www.jica.go.jp/aboutoda/ikegami/02/index.html |
| 11 | 食糧安全保障 1 | 理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 | 事前 1 : 目標 2 (2.4, 2.c) を学び、ABD サマリを作成する 事前 2 : 食料安全保障とバイオ燃料の関連性を理解する。(※日本語字幕を選択する。) |

| | | | | |
|----|-----------------|---|---------|---|
| | | | 振り返りシート | The State of Food Security and Nutrition in the World 2020 : https://www.youtube.com/watch?v=64KLuGzGxEQ&ab_channel=FoodandAgricultureOrganizationoftheUnitedNations Introduction t |
| 12 | 食糧安全保障 2 | 理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート | | 事前1：目標：2(2.4,2.c)を学び、ABD サマリを作成する 事前2：フードロスとその日本の現状について理解する。 (※日本語字幕を選択する。) REDUCE THE FOOD LOSS : https://www.youtube.com/watch?v=60rb07dGHNQ&ab_channel=Cauz.jp , London's rubbish problem : https://www.youtube.com/watch?v=ccR2zK6yn8o&ab_channel=BBCLondon |
| 13 | SDGs と ESG 投資 1 | 理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート | | 事前1：目標：8,9,12,17を学び、ABD サマリを作成する 事前2：ESG 投資とは何かを理解する。 https://www.youtube.com/watch?v=IZJ5FYtfcFE https://www.youtube.com/watch?v=9oIVX_sD76c |
| 14 | SDGs と ESG 投資 1 | 理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート | | 事前1：CHAP5を学び、ABD サマリを作成する 事前2：SDGs 達成のために ESG 投資が果たす役割について理解する。 https://www.youtube.com/watch?v=VnCeFZYVPY8&t=436s https://www.youtube.com/watch?v=f71tA61EpUc 事後：第2回レポート |
| 15 | 成果発表 | 理解度確認テスト 全体を通しての学びの整理、共有、 プレゼンテーション、振り返り 事後アンケート | | 事前：SDGs1-17の復習 事後：第2回レポート |

関連科目 摂南大学で開講されている科目のすべて

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|---|------|-------|
| 1 | 「SDGs の考え方と取り組みが、これ一冊で しっかりわかる教科書」(1680 円+税) | バウンド | 技術評論社 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

評価方法 (基準)
 ・理解度確認クイズ (個人：10%)
 ・事前・事後学習課題・ABD サマリ (個人：15%)
 ・取組み姿勢 (チーム：20%)
 ・成果発表・プレゼンテーション1回 (チーム：10%)
 ・振り返りシート (個人：20%)、レポート2回 (個人：20%)、授業資料管理 (個人：5%)
 ※以上の合計で60%以上の学生を合格とする。また、出席率80%未満は成績評価の対象としない。期末試験は実施しない。

学生へのメッセージ
 この授業では、摂南大学のすべての学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてSDGs 実現のために必要な幅広い教養、コミュニケーション力、ファシリテーション力、学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。

担当者の研究室等
 大塚教授 (薬学部 11 号館 5F)、久保教授・学事顧問 (7 号館 8F)、伊藤教授 (1 号館 3F)、喜多教授 (農学部 1 8 号館 2F)、白鳥准教授 (1 2 号館 7 階)、佐藤准教授 (1 号館 3F)、田中准教授 (1 号館 7F)、鳥谷部講師 (11 号館)

備考
 この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践からつながる科目で、教養を身につけながら学習法を修得することを目指しています。

| | | | |
|----------------|---|----------|--|
| 科目名 | SDGs に学ぶ世界の課題 | 科目名 (英文) | Learning Global Issues from SDGs |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 伊藤 譲, 大塚 正人, 喜多 大三, 久保 廣正, 佐藤 大作, 白鳥 武, 田中 鉄二, 鳥谷部 壘 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | この科目は、学部の枠を越えた教養応用科目で、大学教養入門・実践のステップアップの講座としての位置づけられています。科目のテーマである SDGs (持続可能な開発目標) とは、国連が定めた 2030 年までに達成を目指す 17 の目標で、わが国でもビジネス界のキーワードのひとつになっています。つまり、この科目は SDGs の全体像を主体的に学ぶ、本格的なアクティブラーニング型教養科目です。反転学習により獲得した基礎知識をグループワーク、ABD と振り返りにより生きた知識として定着させます。さらに、法学、経済学、環境工学、建築学、農学のその分野の第一人者の講義・問題提起から討議を深め、獲得した知識を生きた教養として身に付けることができます。このような流れを通じて、大学生として必要な、SDGs を理解するための教養 (特に、社会、経済、環境等) を身につけ、その知識をもとに考え、自分の意見を持ち、討議ができるようになります。 |
| 到達目標 | (1) 世界の目標 SDGs (2030 年までの世界の目標) について知り、説明と討議をすることができる。 (2) 現代世界の課題について知り、SDGs との関係を説明することができる。 (3) 課題に対して、自ら主体的に取り組むことができる。 (4) 自分やチームの考えが効果的に伝わるプレゼンテーションをすることができる。 |
| 授業方法と留意点 | ABD 読書法と様々な ICT ツールを活用するなど、アクティブラーニングの手法を駆使するので、極めて密度の高い授業となります。授業開始時には、事前学習における知識の定着を確認するため、ICT ツールによるクイズ、ミニプレゼンを行い、中盤から後半部で各テーマをとりあげます。学生は解説時にはメモをとり、主としてグループワークにより課題に取り組みます。授業最後には、振り返りシートに授業のふりかえりをまとめます。また、授業資料の管理状態も評価対象です。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 社会課題を議論するための教養として SDGs (2030 年までの世界の目標) を知る。自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる。ABD による SDGs の主体的学び、各分野における第一人者によるテーマの解説、多様なメンバーとの討論により、自分の考えを持ち、討論ができるようになる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|---|---|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション、授業の進め方 | 事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る CHAP 1 を協働でサマリ作成体験 リレープレゼン 振り返りシート | 事後: CHAP 1 を復習して、復習シートを作成する |
| 2 | SDGs とは何か | 理解度確認テスト CHAP2 リレープレゼン、対話 理解度確認テスト、振り返りシート | 事前: CHAP2 を学び、ABD サマリを作成する |
| 3 | 気候変動に関する諸問題 1 | 理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート | 事前 1: 目標 13 を学び、ABD サマリを作成する 事前 2: 下記動画を視聴し、関連する話題に関して説明できるようになっておくこと。 ・気候変動とは https://www.youtube.com/watch?v=WVLDtd5nvw |
| 4 | 気候変動に関する諸問題 2 | 理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート | 事前 1: 目標 14, 15 を学び、ABD サマリを作成する 事前 2: 下記動画を視聴し、関連する話題に関して説明できるようになっておくこと。 ・適応と緩和 https://www.youtube.com/watch?v=dTF9YoQPzjE |
| 5 | 地球共生デザインを考える I: 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える~その 1 | 理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート | 事前 1: 目標 16, 10 (特に 10.2, 10.3)、5 (特に 5.1, 5.2)、6 (特に 6.3, 6.6)、11 (11.1, 11.2) を学び、ABD サマリを作成する 事前 2: 以下の動画、資料等から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、図にまとめてみる。 https://www.youtube.com/watch?v=kDz6h8ZhhnQ |
| 6 | 地球共生デザインを考える II: 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える~その 2 | 理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート | 事前 1: 目標 16, 10 (特に 10.2, 10.3)、4 (特に 4.5, 4.7)、6 (特に 6.3, 6.6)、11 (11.1, 11.2) を学び、ABD サマリを作成する 事前 2: 以下の動画、資料等から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、図にまとめてみる。 https://www.ff-ainu.or.jp/web/learn/culture/history/files/syougakusei.pdf |
| 7 | 日本の食文化 1 | 理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート | 事前 1: 目標 2, 3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2: 日本の食文化 1 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。 |
| 8 | 日本の食文化 2 | 理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート | 事前 1: CHAP3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2: 日本の食文化 2 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。 事後: 第 1 回レポート |
| 9 | 日本の国際貢献 1 | 理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート | 事前 1: 目標 6, 9, 13 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2: 以下の Web 記事を読み、世界の水問題の現状と課題、日本が果たすべき役割について、要点を 300 字程度にまとめる。 https://www.jica.go.jp/aboutoda/ikegami/01/index.html |
| 10 | 日本の国際貢献 2 | 理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート | 事前 1: 目標 16, 11, 10 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2: 以下の Web 記事を読み、スーダンの現状と日本の復興支援の特徴について、要点を 300 字程度にまとめる。 https://www.jica.go.jp/aboutoda/ikegami/02/index.html |
| 11 | 食糧安全保障 1 | 理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 | 事前 1: 目標 2 (2.4, 2.c) を学び、ABD サマリを作成する 事前 2: 食料安全保障とバイオ燃料の関連性を理解する。(※日本語字幕を選択する。) |

| | | | | |
|----|-----------------|---|---------|--|
| | | | 振り返りシート | The State of Food Security and Nutrition in the World 2020 : https://www.youtube.com/watch?v=64KLuGzGxEQ&ab_channel=FoodandAgricultureOrganizationoftheUnitedNations Introduction t |
| 12 | 食糧安全保障 2 | 理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート | | 事前1：目標：2 (2.4, 2.c) を学び、ABD サマリを作成する 事前2：フードロスとその日本の現状について理解する。 (※日本語字幕を選択する。) REDUCE THE FOOD LOSS : https://www.youtube.com/watch?v=60rb07dGHNQ&ab_channel=Cauz.jp , London's rubbish problem : https://www.youtube.com/watch?v=ccR2zK6yn8o&ab_channel=BBCLondon |
| 13 | SDGs と ESG 投資 1 | 理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート | | 事前1：目標：8, 9, 12, 17 を学び、ABD サマリを作成する 事前2：ESG 投資とは何かを理解する。 https://www.youtube.com/watch?v=IZJ5FYtfcFE https://www.youtube.com/watch?v=9oIVX_sD76c |
| 14 | SDGs と ESG 投資 1 | 理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート | | 事前1：CHAP5 を学び、ABD サマリを作成する 事前2：SDGs 達成のために ESG 投資が果たす役割について理解する。 https://www.youtube.com/watch?v=VnCeFZYVPY8&t=436s https://www.youtube.com/watch?v=f71tA61EpUc 事後：第2回レポート |
| 15 | 成果発表 | 理解度確認テスト 全体を通しての学びの整理、共有、 プレゼンテーション、振り返り 事後アンケート | | 事前：SDGs1-17 の復習 事後：第2回レポート |

関連科目 摂南大学で開講されている科目のすべて

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|---|------|-------|
| 1 | 「SDGs の考え方と取り組みが、これ一冊で しっかりわかる教科書」(1680 円+税) | バウンド | 技術評論社 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

評価方法 (基準)
 ・理解度確認クイズ (個人：10%)
 ・事前・事後学習課題・ABD サマリ (個人：15%)
 ・取組み姿勢 (チーム：20%)
 ・成果発表・プレゼンテーション1回 (チーム：10%)
 ・振り返りシート (個人：20%)、レポート2回 (個人：20%)、授業資料管理 (個人：5%)
 ※以上の合計で60%以上の学生を合格とする。また、出席率80%未満は成績評価の対象としない。期末試験は実施しない。

学生へのメッセージ
 この授業では、摂南大学のすべての学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてSDGs 実現のために必要な幅広い教養、コミュニケーション力、ファシリテーション力、学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。

担当者の研究室等
 大塚教授 (薬学部 11 号館 5F)、久保教授・学事顧問 (7 号館 8F)、伊藤教授 (1 号館 3F)、喜多教授 (農学部 1 8 号館 2F)、白鳥准教授 (1 2 号館 7 階)、佐藤准教授 (1 号館 3F)、田中准教授 (1 号館 7F)、鳥谷部講師 (11 号館)

備考
 この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践からつながる科目で、教養を身につけながら学習法を修得することを目指しています。

| | | | |
|----------------|--|----------|--------------------------------|
| 科目名 | まちづくり入門 | 科目名 (英文) | introduction to Urban Planning |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期集中 | 授業担当者 | 熊谷 樹一郎, 野長瀬 裕二, 野村 佳子 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | これからの社会において「まち」の役割は重要になっている。まちを発展、維持していくために行政、団体、民間企業などさまざまな主体が計画を立て、課題を克服する活動が続いている。さらに今後は市民、学生が新たな担い手として期待されている。本講義では文理それぞれの観点から講演者を招き実践的な活動について知るとともに、大学の幅広い学術的知見を活用して摂南大学生が貢献するまちづくりの在り方を学び、検討を行う。 |
| 到達目標 | (1) まちづくりの課題を多面的に理解できる (2) 大学生が行えるまちづくりの可能性と限界を理解する (3) 主体性と責任を持ってまちづくりに参加する知識と意識を持っている |
| 授業方法と留意点 | 本授業ではまちづくりに関係する多様な講師によって構成される。行政経験者、民間での実務経験、コンサルティング経験者、および、市民活動の主催や支援、社会貢献の実行者などがそれぞれの専門的知見から「まちづくりとはなにか」を講義する。毎回の授業に予習と復習のための主体的な学びを設定する。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 学生として大学の知識、技術を総動員して地域問題解決に当たる気持ちを涵養する。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------------|--|----------------------------------|
| | | | |
| 2 | 国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (2) | 交通とまちづくり 京阪ホールディングス枚方プロジェクト推進室 部長 大浅田 寛 氏 他 | 授業担当者から指示する |
| 3 | 国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (3) | 都心とまちづくり 大阪市立大学大学院都市経営研究科 佐藤 道彦 教授 (元堺市副市長、元大阪市都市計画局長) | 授業担当者から指示する |
| 4 | 国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (4) | グループ発表、討論会 C科 伊藤教授・熊谷教授 | 授業担当者から指示する |
| 5 | 民間団体が関わるまちづくり (1) | 産業とまちづくり W科 野長瀬教授 | 授業担当者から指示する |
| 6 | 民間団体が関わるまちづくり (2) | 商業とまちづくり S科 久保准教授 | 授業担当者から指示する |
| 7 | 民間団体が関わるまちづくり (3) | 空き家とまちづくり R科 稲地准教授 | 授業担当者から指示する |
| 8 | 民間団体が関わるまちづくり (4) | 観光とまちづくり W科 野村教授 | 授業担当者から指示する |
| 9 | 民間団体が関わるまちづくり (5) | グループ発表、討論会 C科 伊藤教授・熊谷教授 | 授業担当者から指示する |
| 10 | 市民 (大学生) が関わるまちづくり (1) | まちづくりの担い手としての市民 J科 増田講師 | 授業担当者から指示する |
| 11 | 市民 (大学生) が関わるまちづくり (2) | 福祉とまちづくり CEI 上野山講師 | 授業担当者から指示する |
| 12 | 市民 (大学生) が関わるまちづくり (3) | 文化資源とまちづくり L科 古矢講師 | 授業担当者から指示する |
| 13 | 市民 (大学生) が関わるまちづくり (4) | 歴史・文化とまちづくり A科 加嶋教授 | 授業担当者から指示する |
| 14 | 市民 (大学生) が関わるまちづくり (5) | 防災とまちづくり A科 池内教授 | 授業担当者から指示する |
| 15 | 大学生がまちづくりで担う役割 | グループ発表、討論会 教務部長 C科 伊藤教授 C科 熊谷教授 | 事前: これまでの講義の振り返り 事後: 振り返りレポート |

関連科目

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

評価方法 (基準) 各回の事後レポート

学生へのメッセージ ソーシャル・イノベーションを成立させるためには広い視野と深い洞察が必要となります。受講生による総合大学の社会貢献活動が実践的なものになるように多面的に学修してください。

担当者の研究室等 1号館3階 伊藤教室、1号館4階 熊谷教室

| | | | |
|----------------|--|----------|-----------------------------------|
| 科目名 | グローバル・シチズンシップ論 (入門) | 科目名 (英文) | Global Citizenship (Introductory) |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期集中 | 授業担当者 | 大塚 正人・鎌田 美保 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP1◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1 | | |

| | | | | |
|--------------|---|--|---|--------------------------|
| 授業概要・目的 | <p>一つの地球社会に対して、未来を創る担い手として参画する市民、これからの多様化する社会において主体的に活動する市民を育成するという取組みをグローバル・シチズンシップ教育 (GCED) という。これは、地球社会という国の枠組みを超えた概念であり、近年は日本だけではなく、他国においても注目され、徐々に基礎教育等に導入され始めている。</p> <p>この科目は、グローバル・シチズンシップ副専攻課程修了のための必修科目である。当該副専攻課程を履修する最初の学期に履修することが望ましい。</p> <p>受講者は、グローバル・シチズンシップ (GC) および GCE) の基礎的な概念を理解し、これらの概念が必要とされるに至ったグローバルな歴史的背景と、現在まで続く課題について、基礎的な知識を獲得する。また獲得した知識と理解について、説明できるようになることを目的とする。</p> <p>この講義は、GC と GCED にくついでに授業であると同時に、授業自体が GCED の一環である。GCED では、一方的な講義ではなく、受講生の主体的な学習と対話による学びが重視される。受講生には、この講義を通じて GCED を体験的に学びつつ、自らが GCED のファシリテーターとなり、この授業の内外で GCED の実践者となってゆく姿勢が求められる。</p> | | | |
| 到達目標 | <p>到達目標は以下の通りである</p> <ul style="list-style-type: none"> ●グローバル時代に必要な知識が習得されている ●グローバルな環境下で成功できるスキルを身につけている ●世界とつながっている <p>具体的には以下のようなコンピテンシーが求められる</p> <ul style="list-style-type: none"> ●異なる文化、地域にいる人々への共感、深い共感 ●人的、制度的、規範的相互依存への理解 ●自分の行動が他者に影響しているという意識 (ローカルがグローバルに与える影響) ●世界を知り、探求していく力 ●様々な視点を咀嚼する力 ●行動力 ●アイデアを共有していくこと ●グ | | | |
| 授業方法と留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ●いわゆる「実習」ではなく、知識と理解を身につけることを主目標とする授業であるが、アクティブ・ラーニングは GCED の根幹である。 ●教員からの一方向の情報伝達は最小限に留め、受講する学生が自ら資料を読み、考え、他の学生および教員と対話しながら知識をつけ、理解を深めてゆく。 ●学生には、自律的な予習と復習、情報検索やファクトチェック、ディスカッションと質疑への積極的な参加が求められる。 ●教員によるファシリテーション、学生の質疑やディスカッションなどは原則として日本語で行う。 ●教材の入手、クラスメートや学外の協力者とのコミュニケーション、課題の作成および提出等、授業のあらゆる面において、一般的なオフィスソフトウェア、Teams、Moodle をはじめとする ICT ツールを活用することが必須となる。自身の環境、機器、スキルが不十分と感じる学生は、自ら積極的に大学からのサポートを求め、改善に努めること。 ●その他、履修にあたって不明の点は、グローバル教育センターまで問い合わせること。 | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | | | | |
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | イントロダクション (1) 4月16日(土) 3限目 | オリエンテーション、受講上の注意、スケジュール確認ほか | 指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う |
| | 2 | イントロダクション (2) 4月16日(土) 4限目 | チーム・ビルディング | 指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う |
| | 3 | 「グローバル・シチズンシップ」の概念 (1) 4月23日(土) 3限目 | ABD 読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。 | 指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う |
| | 4 | 「グローバル・シチズンシップ」の概念 (2) 4月23日(土) 4限目 | 与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。 | 指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う |
| | 5 | 貧困問題、飢餓問題について 4月30日(土) 3限目 | ABD 読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。 | 指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う |
| | 6 | 健康と福祉の格差問題について、教育の格差問題について 4月30日(土) 3限目 | 与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。 | 指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う |
| | 7 | ジェンダー問題について、水の問題について 5月7日(土) 3限目 | ABD 読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。 | 指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う |
| | 8 | エネルギー問題について、経済格差について 5月7日(土) 4限目 | 与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。 | 指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う |
| | 9 | 社会基盤の問題について、人権等の不平等に関する問題について | ABD 読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。 | 指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う |

| | 5月14日(土) 3限目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|--|---|---------|----------------------------|----|-----|-----|------|---|--------------------------------|----------|---------|---|--------------|--------------|------|---|------------|------------|-------|
| 10 | まち(都市)の抱える問題について、持続可能な消費と生産について 5月14日(土) 4限目 | 与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。 | | 指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 気候変動の問題について、水産資源の問題について 5月21日(土) 3限目 | ABD読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。 | | 指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | 森林破壊等の問題について、平和と公正に対する問題について 5月21日(土) 4限目 | 与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。 | | 指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | グローバル・シチズンシップ教育について(1) 5月28日(土) 3限目 | ABD読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。 | | 指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | グローバル・シチズンシップ教育について(2) 5月28日(土) 4限目 | 与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。 | | 指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 総括 6月4日(土) 3限目 | 授業全体の振り返りワーク | | 指定指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | SDGsで学ぶ世界の課題、グローバル・シチズンシップ論(応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)、グローバル・シチズンシップ海外実習(応用)、Topics in Global Citizenship(EMI)、摂南大学PBLプロジェクトIなど | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>知っていますか?SDGs ユニセフとめざす2030年のゴール</td> <td>日本ユニセフ協会</td> <td>さ・え・ら書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 知っていますか?SDGs ユニセフとめざす2030年のゴール | 日本ユニセフ協会 | さ・え・ら書房 | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 知っていますか?SDGs ユニセフとめざす2030年のゴール | 日本ユニセフ協会 | さ・え・ら書房 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>SDGs時代の教育</td> <td>北村友人他</td> <td>学文社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>SDGs時代の学びづくり</td> <td>かながわ開発教育センター</td> <td>明石書店</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>貧しい人を助ける理由</td> <td>デイビッド・ヒューム</td> <td>日本評論社</td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | SDGs時代の教育 | 北村友人他 | 学文社 | 2 | SDGs時代の学びづくり | かながわ開発教育センター | 明石書店 | 3 | 貧しい人を助ける理由 | デイビッド・ヒューム | 日本評論社 |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | SDGs時代の教育 | 北村友人他 | 学文社 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | SDGs時代の学びづくり | かながわ開発教育センター | 明石書店 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 貧しい人を助ける理由 | デイビッド・ヒューム | 日本評論社 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 平常評価 80% (小テスト、平常の提出物、グループワークや質疑への貢献を総合的に評価する) プレゼンテーション課題 20% (作成過程を含む) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | グローバル・シチズンシップ副専攻で価値ある学びの場を一緒に作りましょう。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 摂南大学枚方キャンパス薬学部1号館5階生命融合化学分野 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックにかかる時間、自発的な英語のトレーニングや、グローバル教育センター主催の学習イベントに参加する時間等も全て合算し、週平均で4時間程度、総計で60時間程度の授業外学修時間を確保すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|---|----------|-------------------------------|
| 科目名 | グローバル・シチズンシップ論 (応用) | 科目名 (英文) | Global Citizenship (Advanced) |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期集中 | 授業担当者 | 鎌田 美保, 大塚 正人, 谷口 葉子 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | <p>グローバル・シチズンシップ副専攻課程修了のための必修科目である。グローバル・シチズンシップ論 (入門) 履修後に履修することが望ましい。</p> <p>本科目はグローバル・シチズンシップ論 (入門) で学んだ知識や概念等をもとに、日本国内における社会課題 (多文化共生、外国人労働者、SDGs など) に焦点を当て、グローバルとローカルのつながりについて学ぶものである。授業自体がグローバル・シチズンシップ教育の一環であり、受講者自身が授業を通じ体験的に学び、実践者として行動していく姿勢が求められる。</p> |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 日本国内における社会課題について、歴史的背景、現状等が理解できる さまざまな分野での実践者の経験から、実践上の留意点を理解できる 身近にある社会課題について分析し、課題解決の方策の提案ができる |
| 授業方法及び留意点 | <ul style="list-style-type: none"> いわゆる一方的な講義ではなく、学んだことをもとにグループでディスカッションしたり、関心のある課題について調査、発表するなど、主体的に取り組む形式が多い。 取り扱う課題により、外部講師を招聘し、実践に関する講義やワークショップ等も実施する。 <p>・本科目は2022年度後期90分授業 x 2・3コマの集中講義で実施される予定である。詳細なスケジュールは決定次第、ポータルサイト等で連絡をする。</p> <p>初回授業以降は担当教員からの連絡を常に受け取れるようにしておく必要がある。</p> <p>・その他、履修にあたって不明の点は、グローバル教育センターまで問い合わせること。</p> |
| 科目学習の効果 (資格) | |

| | | | | |
|------|----|----------------------------|--|------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | イントロダクション | 授業概要、受講方法、注意点の確認 日本におけるグローバルシチズンシップ | 指定された教材の読解、課題を行う |
| | 2 | グローバルシチズンシップと海外への支援、国内での支援 | ゲストレクチャー 海外に向けてできること、国内でできること、実態、可能性を探る | 指定された教材の読解、課題を行う |
| | 3 | グローバルシチズンシップと人権① | ゲストレクチャー | 指定された教材の読解、課題を行う |
| | 4 | グローバルシチズンシップと人権② | マジョリティ、特権のある人間が考えるべきこと | 指定された教材の読解、課題を行う |
| | 5 | グローバルシチズンシップと経済① | ゲストレクチャー | 指定された教材の読解、課題を行う |
| | 6 | グローバルシチズンシップと経済② | 自らの消費行動が社会にどのような影響を与えるのか | 指定された教材の読解、課題を行う |
| | 7 | グローバルシチズンシップと起業① | ゲストレクチャー (パネルディスカッション) 社会課題の解決のために起業をした人たちのきっかけ、思い、現状などを知る | 指定された教材の読解、課題を行う |
| | 8 | グローバルシチズンシップと起業② | 同上 | 指定された教材の読解、課題を行う |
| | 9 | 学生団体との意見交換会① | 他大学の学生が行っている活動を知り、今の自分たちの状況の中で何ができるか考える機会とする | 指定された教材の読解、課題を行う |
| | 10 | 学生団体との意見交換会② | 他大学の学生が行っている活動を知り、今の自分たちの状況の中で何ができるか考える機会とする | 指定された教材の読解、課題を行う |
| | 11 | 実践に向けて① | これまでの学びを生かし、自ら課題と感じたことの解決に向けてグループで活動を行う | 指定された教材の読解、課題を行う |
| | 12 | 実践に向けて② | 同上 | 指定された教材の読解、課題を行う |
| | 13 | 実践に向けて③ | 同上 | 指定された教材の読解、課題を行う |
| | 14 | 発表 | 11回目から3回目で話し合ってきたことを発表する | 指定された教材の読解、課題を行う |
| | 15 | まとめ | 全体のまとめ、ふりかえり | 指定された教材の読解、課題を行う |

関連科目 グローバル・シチズンシップ論 (入門)、グローバル・シチズンシップ海外実習、摂南大学 PBL プロジェクトなど

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

評価方法 (基準) 平常評価 60% (平常の提出物、課題への取り組み等総合的に評価)
プレゼンテーション課題 40% (作成過程を含む)

学生への 身近な場所で自ら行動が起こらせるきっかけになればと思っています。受講生同士の関わりからも多くのことも学んでもらいたいと思いますので、

| | |
|--------------|---------------|
| メッセージ | 積極的に参加してください。 |
| 担当者の 研究室等 | |
| 備考 | |

| | | | |
|---------------|---|----------|------------------------------------|
| 科目名 | Topics in Global Citizenship (EMI) | 科目名 (英文) | Topics in Global Citizenship (EMI) |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期集中 | 授業担当者 | カーティス チュウ |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1 | | |

| | |
|---------|--|
| 授業概要・目的 | This course is compulsory for those who are taking the Global Citizenship Minor Program. The main goal of this course is for students to understand the necessary knowledge, skills, and attitudes to become a global citizen. Students are expected to have learned basic concepts of global citizenship in グローバル・シチズンシップ論 (入門). This course discusses several specific topics on SDGs, human rights and equality, war and peace, politics and citizenship, economic justice, global environment, and cultural rights. Students will also be empowered and encouraged to take on the responsibilities of global citizenship. Through a problem posing approach, students will be challenged to rethink about dominant ideologies and how they contradict with the ideas of global citizenship. Additionally, there will be opportunities to engage in discussions with students in a foreign country, which will allow students to learn perspectives from those who have with different cultural values. This course will also be using collaborative online international learning (COIL) to learn together with students in different countries. |
|---------|--|

| | |
|------|---|
| 到達目標 | 1. Increase intercultural communicative competency with opportunities to communicate across cultures. 2. Increase knowledge of both historical and recent global events. 3. Acquire necessary skills and behaviors to become a global citizen. 4. Acquire pr |
|------|---|

| | |
|----------|--|
| 授業方法と留意点 | This course will be taught entirely in English, and the reading materials will also be in English. Students are often required to research for information to expand their knowledge, so that discussions in class will be more informative and in depth. The course will also challenge students to rethink about their inherent ideas and values that are tied to their cultural environment. Additionally, building from the contents students should have learned from グローバル・シチズンシップ論 (入門), students will communicate their ideas with students abroad to expand their knowledge about global citizenship. *本科目の履修申請にあたっては以下の事項に留意すること。 - 本格目はグローバル・シチズンシップ副専攻を履修している2年次以上の学生を主な対象としているが、寝屋川キャンパスの2年次以上の学生であれば履修申込が可能である。 - 全て英語で実施される科目なので、履修者には少なくともTOEIC500点程度の英語力をあらかじめ備えていることが期待される。履修申請時には現在所持しているTOEICスコア等、自身の英語力を自己申告する必要がある。グローバル・シチズンシップ副専攻の履修者以外の学生については、履修の可否について選考が行われる場合がある。 - 本科目の開講曜日、時限は、履修登録後に登録済学生の各所属学部での時間割に配慮しつつ調整、決定されるので、平日の5限または6限といった遅い時間帯の開講となる可能性がある。 - そのほか、履修に関する留意事項について不明の点があれば2号館2階グローバル教育センター(旧・国際交流センター)に相談すること。 |
|----------|--|

| | |
|-------------|--|
| 科目学習の効果(資格) | |
|-------------|--|

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|---|--|
| | | | |
| 1 | Course introduction. | Introduction to course outline and materials | |
| 2 | Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs) | Lecture, pair work, group work | 1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of global citizenship |
| 3 | Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs) | Lecture, pair work, group work | 1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of SDGs |
| 4 | Human rights and equality | Lecture, pair work, group work | 1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of human rights |
| 5 | War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change) | Lecture, pair work, group work, Collaborative Online International Learning | 1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change) |
| 6 | War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change) | Lecture, pair work, group work, Collaborative Online International Learning | 1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change) |
| 7 | War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change) | Lecture, pair work, group work, Collaborative Online International Learning | 1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change) |
| 8 | War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change) | Lecture, pair work, group work, Collaborative Online International Learning | 1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change) |

| | 9 | Politics and the role of citizens | Lecture, pair work, group work | 1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of citizens participating in politics 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change) | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|---|--|---|---|----|-----|-----|------|---|---|---------------|-------------|---|--|--|--|---|--|--|--|
| | 10 | Economic justice | Lecture, pair work, group work | 1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of economic justice 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 11 | Global environment | Lecture, pair work, group work | 1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of local environmental issues | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 12 | Poverty Collaboration with students at Schoolcraft College (date might change) | Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning | 1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 13 | Poverty Collaboration with students at Schoolcraft College (date might change) | Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning | 1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 14 | Poverty Collaboration with students at Schoolcraft College (date might change) | Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning | 1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15 | Poverty Collaboration with students at Schoolcraft College (date might change) | Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning | 1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | グローバル・シチズンシップ論 (入門) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Global Citizenship: Engage in the Politics of a Changing World 【※注意 この教科書は大学のブックセンターで取扱いません。担当教員の指示する方法で購入して下さい。不明の際は教員まで連絡して下さい】</td> <td>Julie Knutson</td> <td>Nomad Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | Global Citizenship: Engage in the Politics of a Changing World 【※注意 この教科書は大学のブックセンターで取扱いません。担当教員の指示する方法で購入して下さい。不明の際は教員まで連絡して下さい】 | Julie Knutson | Nomad Press | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | Global Citizenship: Engage in the Politics of a Changing World 【※注意 この教科書は大学のブックセンターで取扱いません。担当教員の指示する方法で購入して下さい。不明の際は教員まで連絡して下さい】 | Julie Knutson | Nomad Press | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | Attendance and participation: 30% Completion of assignments: 30% Presentations: 40% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | Students are encouraged to use English in the classroom to share your ideas with each other. We will be working with students in the United States to learn about the common war history and poverty together through online video exchanges. This will be a | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 2号館2階グローバル教育センター (旧:国際交流センター) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|----------|--|
| 科目名 | グローバル・シチズンシップ海外実習 (応用) | 科目名 (英文) | Overseas Study for Global Citizenship (Advanced) |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 鎌田 美保 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1 | | |

| | |
|---------|---|
| 授業概要・目的 | <p>本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMPは、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン(地球市民)の育成を目指す副専攻である。GCMPは、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標4.7「2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目を履修する学生は「グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)」または同等の科目を履修済でなければならない。履修者は、グローバル教育センターが主催する海外派遣プログラムのいずれかに参加し、これまでの副専攻および各学部での学びを生かした応用レベルの活動を行う。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この科目での学びをGCMPの集大成とする成果報告を行い、各学部での卒業研究や進路決定に活用することが期待される。</p> <p>なお、事前に承認された活動(例:協定校への長期留学を利用した社会貢献プロジェクト)の成果報告をもって本科目の単位を認定する場合がある。</p> |
|---------|---|

| | |
|------|---|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有し、当該の派遣プログラムの主題となる社会課題との関連を説明できる。 当該の派遣プログラムの主題となる社会課題について、課題の概要と解決への取り組みを実体験に基づいて説明できる。また、日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通を行い、相互理解と信頼関係を築く。 異なる言語、文化が混在するチームで課題に取り組み、必要 |
|------|---|

| | |
|----------|--|
| 授業方法と留意点 | <ul style="list-style-type: none"> 事前授業、現地派遣、事後授業の3つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合(アルバイト、旅行等)による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 年度末にあたる2~3月に現地派遣される海外派遣プログラムに参加する場合、単位が認定される年度は翌年度となる。 |
|----------|--|

| | |
|-------------|--|
| 科目学習の効果(資格) | |
|-------------|--|

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------|--------|-----------|
| | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |
| 4 | | | |
| 5 | | | |
| 6 | | | |
| 7 | | | |
| 8 | | | |
| 9 | | | |
| 10 | | | |
| 11 | | | |
| 12 | | | |
| 13 | | | |
| 14 | | | |
| 15 | | | |

| | |
|------|--|
| 関連科目 | |
|------|--|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|---------------|--|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合) 現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価) | | | |
| 学生への メッセージ | | | | |
| 担当者の 研究室等 | | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|---|----------|--|
| 科目名 | 大学教養入門 | 科目名 (英文) | Introduction to Liberal Arts |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 寺内 睦博. 浅野 慎一. 石井 三恵. 伊藤 謙. 木下 和紗. 瀬川 智広. 瀧 千波. 堀田 裕子 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1458a1, L科: LKY1360a1, D科・S科: IKY1367a1, J科: JKY1369a1, W科: WKY1348a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身につけることを目指します。 |
| 到達目標 | (1) 大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 (2) ABDによる読書法を身につけている。 (3) チームワーク能力を身につけ、対話を通じた協働学習をすることができる。 (4) SDGs と UNAI について基礎的な知識を身につけている。 (5) 読書が好きで、意義を理解して読書習慣を身につけている。 (6) コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。 (7) 自主的、計画的に学ぶ学習習慣を身につけている。 |
| 授業方法と留意点 | 授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術を修得します。教養の入門書として一般書を教材として、ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や ICT ツールを活用して、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を一方的に伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることが特徴です。したがって、諸君が積極的に参加することが大切です。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 大学生に必要な教養の基礎知識、ABD 法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法、自主学習の習慣などが身につく。学習における ICT ツールの活用方法を知ることができる。 |

| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|------|--|--|--|---------------------------------|
| | 1 | ガイダンス 『おとなの教養』序章 私たちはどこから来て、何処へ行くのか | アイスブレイク 事前アンケート 本科目で、どのような力が身につくのか 「教養とは何か?」、理解度確認クイズ、振り返り ABD の体験 | 事前学習: 『おとなの教養』 序章を読む (1.5 時間以上) |
| 2 | 教養入門: 第一章 宗教 | 教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABD による学習の進め方の説明 ABD 法に挑戦「第一章 宗教」 理解度確認クイズ、振り返り | 事前学習: 教科書 第一章を読む (1.5 時間以上) | |
| 3 | 教養入門: 第三章 人類の旅路 | 解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り | 事前学習: 教科書 第三章を読む (1.5 時間以上) | |
| 4 | 教養入門: 第四章 人間と病気 | 解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り | 事前学習: 教科書 第四章を読み事前学習シートを作成する (1.5 時間以上) | |
| 5 | 教養入門: 第五章 経済 | 解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定 | 事前学習: 教科書 第五章を読事前学習シートを作成する (1.5 時間以上) | |
| 6 | 教養入門: 中間成果発表 | ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り | 事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (3 時間以上) 事後学習: 第 1 回レポート | |
| 7 | 世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ | SDGs の概要 SDGs とは何か 理解度確認クイズ、振り返り | 事前学習: SDGs とは何か、指定した資料を調べる (3 時間以上) | |
| 8 | 世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ | SDGs を考える ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ、振り返り | 事前学習: SDGs とは何か、図書館、ネット等で調べる。自分の意見を持つ。 (1.5 時間以上) | |
| 9 | 世界を知る教養: 国連アカデミックインパクト | 国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ、振り返り | 事前学習: UNAI とは何かを調べる 事後学習: 第 2 回レポート | |
| 10 | 自分を知る教養: 岸見著『アドラー性格を変える心理学』序章 「性格は変わらない」は本当か? 第一章 虚栄心・嫉妬・憎しみ | 教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り | 事前学習: 『アドラー性格を変える心理学』序章・第一章を読み事前学習シートを作成する (1.5 時間以上) | |
| 11 | 自分を知る教養: 第二章 控え目・不安・臆病 | 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り | 事前学習: 教科書 第二章を読み事前学習シートを作成する (1.5 時間以上) | |
| 12 | 自分を知る教養: 第三章 快活・かたくな・気分屋 | 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り | 事前学習: 教科書 第三章を読み事前学習シートを作成する (1.5 時間以上) | |
| 13 | 自分を知る教養: 第四章 怒り・悲しみ・羞恥心 | 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定 | 事前学習: 教科書 第四章を読み事前学習シートを作成する (1.5 時間以上) | |
| 14 | 自分を知る教養: 中間成果発表 | ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り | 事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (3 時間以上) | |

| | | | | |
|---------------|--|-----------------------------|-------------------------|--------|
| | | | 事後学習：第3回レポート (2時間以上) | |
| 15 | 大学教養入門：まとめ | グループワーク「教養とは何か？」 事後アンケート | 事後学習：第4回レポート (2時間以上) | |
| 関連科目 | 摂南大学で開講されている科目のすべて | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | おとなの教養 | 池上彰 | NHK 出版 |
| | 2 | アドラー性格を変える心理学 | 岸見一郎 | NHK 出版 |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | <ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢 (チーム：20%) ・中間発表・まとめ (チーム：20%) ・レポート 4回 (個人：20%) ・振り返りシート (個人：15%) ・理解度確認クイズ (個人：15%) ・事前学習シート (個人：5%) ・授業資料の管理 (個人：5%) <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、原則として出席率80%以上の学生を合格者の対象とする。</p> | | | |
| 学生への メッセージ | この科目は摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部 of 学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 伊藤 譲 (1号館 3F), 寺内 睦博 (11号館 10F), 石井 三恵 (7号館 5F), 木下 和沙 (11号館 7F), 瀬川 智広 (スポ振), 瀧 千波 (スポ審), 浅野 慎一 (7号館 5F), 堀田 裕子 (5号館 1F) | | | |
| 備考 | この科目は、入学式～キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけることもできます。 | | | |

| | | | |
|----------------|---|----------|--|
| 科目名 | 大学教養入門 | 科目名 (英文) | Introduction to Liberal Arts |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 寺内 睦博・浅野 慎一・伊藤 謙・小都 晶子・堀田 裕子・柳沢 学・羅 鵬飛 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1458a1, L科: LKY1360a1, D科・S科: IKY1367a1, J科: JKY1369a1, W科: WKY1348a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身につけることを目指します。 |
| 到達目標 | (1)大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 (2)ABDによる読書法を身につけている。 (3)チームワーク能力を身につけ、対話を通じた協働学習をすることができる。 (4)SDGsとUNAIについて基礎的な知識を身につけている。 (5)読書が好きで、意義を理解して読書習慣を身につけている。 (6)コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。 (7)自主的、計画的に学ぶ学習習慣を身につけている。 |
| 授業方法と留意点 | 授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術を修得します。教養の入門書として一般書を教材として、ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や ICT ツールを活用して、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を一方向的に伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることが特徴です。したがって、諸君が積極的に参加することが大切です。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 大学生に必要な教養の基礎知識、ABD 法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法、自主学習の習慣などが身につく。学習における ICT ツールの活用方法を知ることができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|---|---|
| | | | |
| 1 | ガイダンス 『おとなの教養』序章 私たちはどこから来て、何処へ行くのか | アイスブレイク 事前アンケート 本科目で、どのような力が身につくのか「教養とは何か？」 ABD の体験 | 事前学習:『おとなの教養』 序章を読む(1.5時間以上) |
| 2 | 教養入門:第一章 宗教 | 教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABD による学習の進め方の説明 ABD 法に挑戦「第一章 宗教」 | 事前学習:教科書 第一章を読む(1.5時間以上) |
| 3 | 教養入門:第三章 人類の旅路 | 解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り | 事前学習:教科書 第三章を読む(1.5時間以上) |
| 4 | 教養入門:第四章 人間と病気 | 解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り | 事前学習:教科書 第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上) |
| 5 | 教養入門:第五章 経済 | 解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定 | 事前学習:教科書 第五章を読事前学習シートを作成する(1.5時間以上) |
| 6 | 教養入門:中間成果発表 | ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り | 事前学習:中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案(3時間以上) 事後学習:第1回レポート |
| 7 | 世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ | SDGsの概要 SDGsとは何か 理解度確認クイズ、振り返り | 事前学習:SDGsとは何か、指定した資料を調べる(3時間以上) |
| 8 | 世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ | SDGsを考える ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ、振り返り | 事前学習:SDGsとは何か、図書館、ネット等で調べる。自分の意見を持つ。(1.5時間以上) |
| 9 | 世界を知る教養:国連アカデミックインパクト | 国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ、振り返り | 事前学習:UNAIとは何かを調べる 事後学習:第2回レポート |
| 10 | 自分を知る教養:岸見著『アドラー性格を変える心理学』序章「性格は変わらない」は本当か? 第一章 虚栄心・嫉妬・憎しみ | 教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り | 事前学習:『アドラー性格を変える心理学』序章・第一章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上) |
| 11 | 自分を知る教養:第二章 控え目・不安・臆病 | 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り | 事前学習:教科書 第二章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上) |
| 12 | 自分を知る教養:第三章 快活・かたくな・気分屋 | 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り | 事前学習:教科書 第三章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上) |
| 13 | 自分を知る教養:第四章 怒り・悲しみ・羞恥心 | 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定 | 事前学習:教科書 第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上) |
| 14 | 自分を知る教養:中間成果発表 | ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り | 事前学習:中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案(3時間以上) 事後学習:第3回レポート(2時間以上) |

| | | | | |
|---------------|--|---------------|-----------------------------|-------------------------|
| | 15 | 大学教養入門：まとめ | グループワーク「教養とは何か？」 事後アンケート | 事後学習：第4回レポート (2時間以上) |
| 関連科目 | 摂南大学で開講されている科目のすべて | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | おとなの教養 | 池上彰 | NHK 出版 |
| | 2 | アドラー性格を変える心理学 | 岸見一郎 | NHK 出版 |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | <ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢 (チーム：20%) ・中間発表・まとめ (チーム：20%) ・レポート 4回 (個人：20%) ・振り返りシート (個人：15%) ・理解度確認クイズ (個人：15%) ・事前学習シート (個人：5%) ・授業資料の管理 (個人：5%) <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、原則として出席率80%以上の学生を合格者の対象とする。</p> | | | |
| 学生への メッセージ | この科目は摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部・学科の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 伊藤譲 (1号館3F)、寺内睦博 (11号館10F)、柳沢学 (8号館3F)、小都晶子 (7号館3F)、羅鵬飛 (1号館7F)、浅野慎一 (7号館5F)、堀田裕子 (5号館1F) | | | |
| 備考 | この科目は、入学式～キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけることもできます。 | | | |

| | | | |
|----------------|---|----------|--|
| 科目名 | 大学教養入門 | 科目名 (英文) | Introduction to Liberal Arts |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 寺内 睦博, 浅野 慎一, 伊藤 譲, 高間 佐知子, 寺本 俊太郎, 柳沢 学 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1458a1, L科: LKY1360a1, D科・S科: IKY1367a1, J科: JKY1369a1, W科: WKY1348a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身につけることを目指します。 |
| 到達目標 | (1) 大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 (2) ABDによる読書法を身につけている。 (3) チームワーク能力を身につけ、対話を通じた協働学習をすることができる。 (4) SDGs と UNAI について基礎的な知識を身につけている。 (5) 読書が好きで、意義を理解して読書習慣を身につけている。 (6) コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。 (7) 自主的、計画的に学ぶ学習習慣を身につけている。 |
| 授業方法と留意点 | 授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術を修得します。教養の入門書として一般書を教材として、ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や ICT ツールを活用して、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を一方向的に伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることが特徴です。したがって、諸君が積極的に参加することが大切です。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 大学生に必要な教養の基礎知識、ABD 法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法、自主学習の習慣などが身につく。学習における ICT ツールの活用方法を知ることができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|---|---|
| | | | |
| 1 | ガイダンス 『おとなの教養』序章 私たちはどこから来て、何処へ行くのか | アイスブレイク 事前アンケート 本科目で、どのような力が身につくのか「教養とは何か？」 ABD の体験 | 事前学習: 『おとなの教養』 序章を読む (1.5 時間以上) |
| 2 | 教養入門: 第一章 宗教 | 教科書の紹介, 概要 チーム作り, 授業の約束事 ABD による学習の進め方の説明 ABD 法に挑戦「第一章 宗教」 | 事前学習: 教科書 第一章を読む (1.5 時間以上) |
| 3 | 教養入門: 第三章 人類の旅路 | 解説 協働学習, 対話 理解度確認クイズ, 振り返り | 事前学習: 教科書 第三章を読む (1.5 時間以上) |
| 4 | 教養入門: 第四章 人間と病気 | 解説 協働学習, 対話 理解度確認クイズ, 振り返り | 事前学習: 教科書 第四章を読み事前学習シートを作成する (1.5 時間以上) |
| 5 | 教養入門: 第五章 経済 | 解説 協働学習, 対話 理解度確認クイズ, 振り返り 中間発表テーマの決定 | 事前学習: 教科書 第五章を読み事前学習シートを作成する (1.5 時間以上) |
| 6 | 教養入門: 中間成果発表 | ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り | 事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (3 時間以上) 事後学習: 第 1 回レポート |
| 7 | 世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ | SDGs の概要 SDGs とは何か 理解度確認クイズ, 振り返り | 事前学習: SDGs とは何か, 指定した資料を調べる (3 時間以上) |
| 8 | 世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ | SDGs を考える ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ, 振り返り | 事前学習: SDGs とは何か, 図書館, ネット等で調べる。自分の意見を持つ。(1.5 時間以上) |
| 9 | 世界を知る教養: 国連アカデミックインパクト | 国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ, 振り返り | 事前学習: UNAI とは何かを調べる 事後学習: 第 2 回レポート |
| 10 | 自分を知る教養: 岸見著『アドラー性格を変える心理学』序章 「性格は変わらない」は本当か? 第一章 虚栄心・嫉妬・憎しみ | 教科書の紹介, はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ, 振り返り | 事前学習: 『アドラー性格を変える心理学』序章・第一章を読み事前学習シートを作成する (1.5 時間以上) |
| 11 | 自分を知る教養: 第二章 控え目・不安・臆病 | 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ, 振り返り | 事前学習: 教科書 第二章を読み事前学習シートを作成する (1.5 時間以上) |
| 12 | 自分を知る教養: 第三章 快活・かたくな・気分屋 | 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ, 振り返り | 事前学習: 教科書 第三章を読み事前学習シートを作成する (1.5 時間以上) |
| 13 | 自分を知る教養: 第四章 怒り・悲しみ・羞恥心 | 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ, 振り返り 中間発表テーマの決定 | 事前学習: 教科書 第四章を読み事前学習シートを作成する (1.5 時間以上) |
| 14 | 自分を知る教養: 中間成果発表 | ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り | 事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (3 時間以上) 事後学習: 第 3 回レポート (2 時間以上) |

| | | | | |
|---------------|--|---------------|-----------------------------|-------------------------|
| | 15 | 大学教養入門：まとめ | グループワーク「教養とは何か？」 事後アンケート | 事後学習：第4回レポート (2時間以上) |
| 関連科目 | 摂南大学で開講されている科目のすべて | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | おとなの教養 | 池上彰 | NHK 出版 |
| | 2 | アドラー性格を変える心理学 | 岸見一郎 | NHK 出版 |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | <ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢 (チーム：20%) ・中間発表・まとめ (チーム：20%) ・レポート 4回 (個人：20%) ・振り返りシート (個人：15%) ・理解度確認クイズ (個人：15%) ・事前学習シート (個人：5%) ・授業資料の管理 (個人：5%) <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、原則として出席率80%以上の学生を合格者の対象とする。</p> | | | |
| 学生への メッセージ | この科目は摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 伊藤譲 (1号館3F)、寺内睦博 (11号館10F)、柳沢学 (8号館3F)、寺本俊太郎 (1号館3F)、高間佐知子 (11号館10F)、浅野慎一 (7号館5F)、堀田裕子 (5号館1F) | | | |
| 備考 | この科目は、入学式～キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけることもできます。 | | | |

| | | | |
|----------------|---|----------|--|
| 科目名 | 大学教養実践 | 科目名 (英文) | Practical Learning of Liberal Arts |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 寺内 睦博, 浅野 慎一, 東 武大, 石井 三恵, 伊藤 謙, 上野山 裕士, 堀田 裕子 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1458a1, L科: LKY1360a1, D科・S科: IKY1367a1, J科: JKY1369a1, W科: WKY1348a1 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | この科目は、チームで協働して読書を行い、プレゼンテーションと対話を通じて、学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です。前期開講の大学教養入門のステップアップの講座としての位置づけです。 本科目の目的は、大学生として必要な教養として、文学、社会学や経済学の入門的知識を身につけ、その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します。そして、知識としての教養を実社会での実践にむすびつけることを目指します。 |
| 到達目標 | (1)大学生として必要な教養レベルを身につけ、実践的に討議することができる。 (2)ABDによる読書法の基礎(要約、プレゼンテーション、対話)を身につけている。 (3)自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができる。 (4)チームワーク能力やリーダーシップを身につけている。 (5)わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる。 (6)テーマにそった対話(感想、質疑応答)を行うことができる。 (7)自主学習の習慣を身につけている。 |
| 授業方法と留意点 | 授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。大学生として必要な教養を身につけ、身につけた教養、知識をもとに、社会課題の解決策を協働学習により検討します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。 |
| 科目学習の効果(資格) | 大学生に必要な教養の知識が身につく、それを元に社会課題について討議できる。ABDやQFT等の協働学習の方法が身につく。 |

| | | | | |
|------|----|--|---|---|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | ガイダンス 私たちはいま、どこにいるのか? | アイスブレイク 事前アンケート 授業のルール 解説(教科書、ABDとは) 協働学習(p.18-47:要約、プレゼン、対話)、振り返りシート | 『おとなの教養2』序章を読み、事前学習シートを作成する。 |
| | 2 | 私たちはいま、どこにいるのか? 第一章「AIとビッグデータ」 | チーム分け、役割分担、確認試験 解説(振り返りシート) 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート | 教科書第一章を読み、事前学習シートを作成する。 |
| | 3 | 私たちはいま、どこにいるのか? 第二章「キャッシュレス社会と仮想通貨」 | 解説(事前学習シート)、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート | 教科書第二章を読み、事前学習シートを作成する。 |
| | 4 | 私たちはいま、どこにいるのか? 第三章「想像の共同体」 | 解説(事前学習シート)、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) 投票と表彰、振り返りシート | 教科書第三章を読み、事前学習シートを作成する。 ポスター・プレゼンの準備を行う(2時間程度) |
| | 5 | 私たちはいま、どこにいるのか? 中間発表1回目、振り返り | ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート | 教科書第四章～第六章を読み、事前学習シートを作成する。 事後学習:第1回レポート |
| | 6 | このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか?: 第一章「独裁国家はパンデミックに強いのか」 | 解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート | 『コロナ後の世界』第一章を読み、事前学習シートを作成する。 |
| | 7 | このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか?: 第二章「AIで人類はレジリエントになれる」 | QFT(質問づくり) 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート | 教科書第二章を読み、事前学習シートを作成する。 |
| | 8 | このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか?: 第三章「ロックダウンで生まれた新しい働き方」 | 解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート | 教科書第三章を読み、事前学習シートを作成する。 |
| | 9 | このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか?: 第四章「認知バイアスが感染症対策を遅らせた」 | 解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート | 教科書第四章を読み、事前学習シートを作成する。 |
| | 10 | このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか? 中間発表2回目、振り返り | ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート | ポスター・プレゼンの準備を行う(2時間程度) 事後学習:第2回レポート |
| | 11 | 教養として文学作品に触れる:『星の王子さま』 | 解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート | 『星の王子さま』1~10章を読み、事前学習シート(要約、感想)を作成する(2時間程度) |
| | 12 | 教養として文学作品に触れる:『星の王子さま』 | 解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート | 教科書11~20章を読み、事前学習シートを作成する |
| | 13 | 教養として文学作品に触れる:『星の王子さま』 | 解説、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) | 教科書21~27章を読み、事前学習シートを作成する |

| | | | 振り返りシート | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|---|----------------------------|---|--|----|-----|-----|------|---|---------|-----|--------|---|--------|-----------|------|---|---------|---------|------|
| | 14 | 教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』 | 解説、確認試験 協働学習（要約、プレゼン、対話） QFT（中間発表のテーマ出し） 振り返りシート | 教科書あとがきを読み、事前学習シートを作成する | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15 | 教養として文学作品に触れる：中間発表3回目、振り返り | ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート 事後アンケート | ポスター・プレゼンの準備を行う（2時間程度） 事後学習：第3回レポート | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 摂南大学で開講されている科目のすべて | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>おとなの教養2</td> <td>池上彰</td> <td>NHK 出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>星の王子さま</td> <td>サン＝テグジュペリ</td> <td>新潮文庫</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>コロナ後の世界</td> <td>大野和基（編）</td> <td>文春新書</td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | おとなの教養2 | 池上彰 | NHK 出版 | 2 | 星の王子さま | サン＝テグジュペリ | 新潮文庫 | 3 | コロナ後の世界 | 大野和基（編） | 文春新書 |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | おとなの教養2 | 池上彰 | NHK 出版 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 星の王子さま | サン＝テグジュペリ | 新潮文庫 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | コロナ後の世界 | 大野和基（編） | 文春新書 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | <ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢／ルーブリック（チーム：15%）、・ファイリング（個人：5%） ・ポスター発表（チーム：20%） ・レポート 3回（個人：30%）、・振り返りシート（個人：10%） ・理解度確認クイズ（個人：10%） ・事前学習シート（個人：10%） <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | この授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎、コミュニケーション力、ファシリテーション力、と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 伊藤譲（1号館3F）、寺内睦博（11号館10F）、石井三恵（7号館5F）、上野山裕士（7号館3F）、東武大（5号館1F）、浅野慎一、堀田裕子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | この科目は前期の大学教養入門と同じスタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。この授業は原則的に対面で実施します。やむを得ず、遠隔授業やハイブリッドで実施する場合も顔が見えることを出席の条件とします。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|---|----------|--|
| 科目名 | 大学教養実践 | 科目名 (英文) | Practical Learning of Liberal Arts |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 寺内 睦博, 浅野 慎一, 石井 三恵, 伊藤 謙, 上野山 裕士, 堀田 裕子 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1458a1, L科: LKY1360a1, D科・S科: IKY1367a1, J科: JKY1369a1, W科: WKY1348a1 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | この科目は、チームで協働して読書を行い、プレゼンテーションと対話を通じて、学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です。前期開講の大学教養入門のステップアップの講座としての位置づけです。 本科目の目的は、大学生として必要な教養として、文学、社会学や経済学の入門的知識を身につけ、その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します。そして、知識としての教養を実社会での実践にむすびつけることを目指します。 |
| 到達目標 | (1)大学生として必要な教養レベルを身につけ、実践的に討議することができる。 (2)ABDによる読書法の基礎（要約、プレゼンテーション、対話）を身に付けている。 (3)自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができる。 (4)チームワーク能力やリーダーシップを身に付けている。 (5)わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる。 (6)テーマにそった対話（感想、質疑応答）を行うことができる。 (7)自主学習の習慣を身に付けている。 |
| 授業方法と留意点 | 授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。大学生として必要な教養を身につけ、身につけた教養、知識をもとに、社会課題の解決策を協働学習により検討します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。 |
| 科目学習の効果（資格） | 大学生に必要な教養の知識が身につく、それを元に社会課題について討議できる。ABDやQFT等の協働学習の方法が身につく。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---|---|---|
| | | | |
| 1 | ガイダンス 私たちはいま、どこにいるのか？ | アイスブレイク 事前アンケート 授業のルール 解説（教科書、ABDとは） 協働学習（p.18-47：要約、プレゼン、対話）、振り返りシート | 『おとなの教養2』序章を読み、事前学習シートを作成する。 |
| 2 | 私たちはいま、どこにいるのか？ 第一章「AIとビッグデータ」 | チーム分け、役割分担、確認試験 解説（振り返りシート） 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習（要約、プレゼン、対話） 振り返りシート | 教科書第一章を読み、事前学習シートを作成する。 |
| 3 | 私たちはいま、どこにいるのか？ 第二章「キャッシュレス社会と仮想通貨」 | 解説（事前学習シート）、確認試験 協働学習（要約、プレゼン、対話） 振り返りシート | 教科書第二章を読み、事前学習シートを作成する。 |
| 4 | 私たちはいま、どこにいるのか？ 第三章「想像の共同体」 | 解説（事前学習シート）、確認試験 協働学習（要約、プレゼン、対話） 投票と表彰、振り返りシート | 教科書第三章を読み、事前学習シートを作成する。 ポスター・プレゼンの準備を行う（2時間程度） |
| 5 | 私たちはいま、どこにいるのか？ 中間発表1回目、振り返り | ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート | 教科書第四章～第六章を読み、事前学習シートを作成する。 事後学習：第1回レポート |
| 6 | このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？ 第一章「独裁国家はパンデミックに強いのか」 | 解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート | 『コロナ後の世界』第一章を読み、事前学習シートを作成する。 |
| 7 | このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？ 第二章「AIで人類はレジリエントになれる」 | QFT（質問づくり） 協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート | 教科書第二章を読み、事前学習シートを作成する。 |
| 8 | このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？ 第三章「ロックダウンで生まれた新しい働き方」 | 解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート | 教科書第三章を読み、事前学習シートを作成する。 |
| 9 | このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？ 第四章「認知バイアスが感染症対策を遅らせた」 | 解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート | 教科書第四章を読み、事前学習シートを作成する。 |
| 10 | このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？ 中間発表2回目、振り返り | ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート | ポスター・プレゼンの準備を行う（2時間程度） 事後学習：第2回レポート |
| 11 | 教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』 | 解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習（要約、プレゼン、対話） 振り返りシート | 『星の王子さま』1～10章を読み、事前学習シート（要約、感想）を作成する（2時間程度） |
| 12 | 教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』 | 解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習（要約、プレゼン、対話） 振り返りシート | 教科書11～20章を読み、事前学習シートを作成する |
| 13 | 教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』 | 解説、確認試験 協働学習（要約、プレゼン、対話） | 教科書21～27章を読み、事前学習シートを作成する |

| | | | 振り返りシート | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|---|----------------------------|---|--|----|-----|-----|------|---|---------|-----|--------|---|--------|-----------|------|---|---------|---------|------|
| | 14 | 教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』 | 解説、確認試験 協働学習（要約、プレゼン、対話） QFT（中間発表のテーマ出し） 振り返りシート | 教科書あとがきを読み、事前学習シートを作成する | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15 | 教養として文学作品に触れる：中間発表3回目、振り返り | ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート 事後アンケート | ポスター・プレゼンの準備を行う（2時間程度） 事後学習：第3回レポート | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 摂南大学で開講されている科目のすべて | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>おとなの教養2</td> <td>池上彰</td> <td>NHK 出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>星の王子さま</td> <td>サン＝テグジュペリ</td> <td>新潮文庫</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>コロナ後の世界</td> <td>大野和基（編）</td> <td>文春新書</td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | おとなの教養2 | 池上彰 | NHK 出版 | 2 | 星の王子さま | サン＝テグジュペリ | 新潮文庫 | 3 | コロナ後の世界 | 大野和基（編） | 文春新書 |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | おとなの教養2 | 池上彰 | NHK 出版 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 星の王子さま | サン＝テグジュペリ | 新潮文庫 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | コロナ後の世界 | 大野和基（編） | 文春新書 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 （基準） | <ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢／ルーブリック（チーム：15%）、・ファイリング（個人：5%） ・ポスター発表（チーム：20%） ・レポート 3回（個人：30%）、・振り返りシート（個人：10%） ・理解度確認クイズ（個人：10%） ・事前学習シート（個人：10%） <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | この授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎、コミュニケーション力、ファシリテーション力、と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。？ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 伊藤譲（1号館3F）、寺内睦博（11号館10F）、石井三恵（7号館5F）、上野山裕士（7号館3F）、浅野慎一、堀田裕子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | この科目は前期の大学教養入門と同じスタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。この授業は原則的に対面で実施します。やむを得ず、遠隔授業やハイブリッドで実施する場合も顔が見えることを出席の条件とします。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|-------------------------------------|
| 科目名 | 就職実践基礎 | 科目名 (英文) | Practical Math for Employment Exams |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 山岡 亮太 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~1JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は広告出版業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。 |
| 到達目標 | 数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。 |
| 授業方法と留意点 | 授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input量が多いので、予習・復習が大切です。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------|-------------------|--|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション・実力テスト | 講座の目的・意義の確認、実力テスト | シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分) |
| 2 | 数的思考① | 割合の活用① | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| 3 | 数的思考② | 割合の活用② | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| 4 | 数的思考③ | 速度算 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| 5 | 数的思考④ | 集合 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| 6 | 数的思考⑤ | 場合の数と確率① | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| 7 | 数的思考⑥ | 場合の数と確率② | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| 8 | 中間テスト | 中間テスト | 今まで学習した問題全てを事前に復習 |
| 9 | 資料解釈① | 表の読み取り① | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| 10 | 資料解釈② | 表の読み取り② | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| 11 | 資料解釈③ | 表の読み取り③ | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| 12 | 論理推論① | 命題・順序・位置関係 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| 13 | 論理推論② | 金銭問題・内訳・平均・対応関係 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| 14 | 論理推論③ | 濃度と密度・複数選択・整数問題 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| 15 | 総復習 | 今までの問題の復習 | 全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間) |

| | |
|------|----------------------|
| 関連科目 | コミュニケーション能力開発、数的能力開発 |
|------|----------------------|

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----------------|----------|----------|
| 1 | 厳選! 数学的リテラシー問題集 | PS 出版事業部 | PS 出版事業部 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 小テスト (30%)、中間テスト (20%)、期末テスト (40%)、SmartSPI (10%) |
|-----------|---|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|---------------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館3階 教育イノベーションセンター |
|----------|---------------------|

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | |
|----------------|--|----------|-------------------------------------|
| 科目名 | 就職実践基礎 | 科目名 (英文) | Practical Math for Employment Exams |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 山岡 亮太 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~1JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は広告出版業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。 |
| 到達目標 | 数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。 |
| 授業方法と留意点 | 授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input量が多いので、予習・復習が大切です。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------|-------------------|--|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション・実力テスト | 講座の目的・意義の確認、実力テスト | シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分) |
| 2 | 数的思考① | 割合の活用① | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| 3 | 数的思考② | 割合の活用② | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| 4 | 数的思考③ | 速度算 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| 5 | 数的思考④ | 集合 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| 6 | 数的思考⑤ | 場合の数と確率① | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| 7 | 数的思考⑥ | 場合の数と確率② | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| 8 | 中間テスト | 中間テスト | 今まで学習した問題全てを事前に復習 |
| 9 | 資料解釈① | 表の読み取り① | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| 10 | 資料解釈② | 表の読み取り② | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| 11 | 資料解釈③ | 表の読み取り③ | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| 12 | 論理推論① | 命題・順序・位置関係 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| 13 | 論理推論② | 金銭問題・内訳・平均・対応関係 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| 14 | 論理推論③ | 濃度と密度・複数選択・整数問題 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| 15 | 総復習 | 今までの問題の復習 | 全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間) |

| | |
|------|----------------------|
| 関連科目 | コミュニケーション能力開発、数的能力開発 |
|------|----------------------|

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----------------|----------|----------|
| 1 | 厳選! 数学的リテラシー問題集 | PS 出版事業部 | PS 出版事業部 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 小テスト (30%)、中間テスト (20%)、期末テスト (40%)、SmartSPI (10%) |
|-----------|---|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|---------------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館3階 教育イノベーションセンター |
|----------|---------------------|

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | |
|----------------|--|----------|-------------------------------------|
| 科目名 | 就職実践基礎 | 科目名 (英文) | Practical Math for Employment Exams |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 寺内 睦博, 津村 忠 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~1JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は広告出版業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。 |
| 到達目標 | 数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。 |
| 授業方法と留意点 | 授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input量が多いので、予習・復習が大切です。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する |

| | | | | |
|------|----|-----------------|-------------------|--|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション・実力テスト | 講座の目的・意義の確認、実力テスト | シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分) |
| | 2 | 数的思考① | 割合の活用① | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| | 3 | 数的思考② | 割合の活用② | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| | 4 | 数的思考③ | 速度算 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| | 5 | 数的思考④ | 集合 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| | 6 | 数的思考⑤ | 場合の数と確率① | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| | 7 | 数的思考⑥ | 場合の数と確率② | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| | 8 | 中間テスト | 中間テスト | 今まで学習した問題全てを事前に復習 |
| | 9 | 資料解釈① | 表の読み取り① | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| | 10 | 資料解釈② | 表の読み取り② | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| | 11 | 資料解釈③ | 表の読み取り③ | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| | 12 | 論理推論① | 命題・順序・位置関係 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| | 13 | 論理推論② | 金銭問題・内訳・平均・対応関係 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| | 14 | 論理推論③ | 濃度と密度・複数選択・整数問題 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| | 15 | 総復習 | 今までの問題の復習 | 全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間) |

| | |
|------|----------------------|
| 関連科目 | コミュニケーション能力開発、数的能力開発 |
|------|----------------------|

| | | | | |
|-----|----|-----------------|----------|----------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 厳選! 数学的リテラシー問題集 | PS 出版事業部 | PS 出版事業部 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 小テスト (30%)、中間テスト (20%)、期末テスト (40%)、SmartSPI (10%) |
|-----------|---|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|---------------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館3階 教育イノベーションセンター |
|----------|---------------------|

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | |
|----------------|--|----------|-------------------------------------|
| 科目名 | 就職実践基礎 | 科目名 (英文) | Practical Math for Employment Exams |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 津村 忠 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~1JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は広告出版業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。 |
| 到達目標 | 数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。 |
| 授業方法と留意点 | 授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input量が多いので、予習・復習が大切です。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する |

| | | | | |
|------|----|-----------------|-------------------|--|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション・実力テスト | 講座の目的・意義の確認、実力テスト | シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分) |
| | 2 | 数的思考① | 割合の活用① | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| | 3 | 数的思考② | 割合の活用② | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| | 4 | 数的思考③ | 速度算 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| | 5 | 数的思考④ | 集合 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| | 6 | 数的思考⑤ | 場合の数と確率① | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| | 7 | 数的思考⑥ | 場合の数と確率② | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| | 8 | 中間テスト | 中間テスト | 今まで学習した問題全てを事前に復習 |
| | 9 | 資料解釈① | 表の読み取り① | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| | 10 | 資料解釈② | 表の読み取り② | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| | 11 | 資料解釈③ | 表の読み取り③ | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| | 12 | 論理推論① | 命題・順序・位置関係 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| | 13 | 論理推論② | 金銭問題・内訳・平均・対応関係 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| | 14 | 論理推論③ | 濃度と密度・複数選択・整数問題 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| | 15 | 総復習 | 今までの問題の復習 | 全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間) |

| | |
|------|----------------------|
| 関連科目 | コミュニケーション能力開発、数的能力開発 |
|------|----------------------|

| | | | | |
|-----|----|-----------------|----------|----------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 厳選! 数学的リテラシー問題集 | PS 出版事業部 | PS 出版事業部 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 小テスト (30%)、中間テスト (20%)、期末テスト (40%)、SmartSPI (10%) |
|-----------|---|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|---------------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館3階 教育イノベーションセンター |
|----------|---------------------|

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | |
|----------------|--|----------|-------------------------------------|
| 科目名 | 就職実践基礎 | 科目名 (英文) | Practical Math for Employment Exams |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 津村 忠 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~1JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は広告出版業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。 |
| 到達目標 | 数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。 |
| 授業方法と留意点 | 授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input量が多いので、予習・復習が大切です。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する |

| | | | | |
|------|----|-----------------|-------------------|--|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション・実力テスト | 講座の目的・意義の確認、実力テスト | シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分) |
| | 2 | 数的思考① | 割合の活用① | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| | 3 | 数的思考② | 割合の活用② | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| | 4 | 数的思考③ | 速度算 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| | 5 | 数的思考④ | 集合 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| | 6 | 数的思考⑤ | 場合の数と確率① | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| | 7 | 数的思考⑥ | 場合の数と確率② | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| | 8 | 中間テスト | 中間テスト | 今まで学習した問題全てを事前に復習 |
| | 9 | 資料解釈① | 表の読み取り① | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| | 10 | 資料解釈② | 表の読み取り② | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| | 11 | 資料解釈③ | 表の読み取り③ | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| | 12 | 論理推論① | 命題・順序・位置関係 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| | 13 | 論理推論② | 金銭問題・内訳・平均・対応関係 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| | 14 | 論理推論③ | 濃度と密度・複数選択・整数問題 | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
| | 15 | 総復習 | 今までの問題の復習 | 全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間) |

| | |
|------|----------------------|
| 関連科目 | コミュニケーション能力開発、数的能力開発 |
|------|----------------------|

| | | | | |
|-----|----|-----------------|----------|----------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 厳選! 数学的リテラシー問題集 | PS 出版事業部 | PS 出版事業部 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 小テスト (30%)、中間テスト (20%)、期末テスト (40%)、SmartSPI (10%) |
|-----------|---|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|---------------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館3階 教育イノベーションセンター |
|----------|---------------------|

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | |
|----------------|------------|----------|-----------------------------|
| 科目名 | 簿記入門 | 科目名 (英文) | Introduction to Bookkeeping |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 三木 僚祐 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS1004a0 | | |

| | |
|----------|---|
| 授業概要・目的 | 簿記とは、企業などの経済活動をお金の動きで捉え記録・整理する技術的な手法である。本講義では、簿記の基本的な仕組みから簿記一巡の手続きまでわかりやすく解説し、練習問題を多く解くことによって受講者が容易に理解し、簿記の基礎的能力を身に付けることを目的とする。 |
| 到達目標 | ① 簿記の基本的な仕組みについて理解する。(DP2) ② 簿記一巡の手続きについて理解し、日商簿記3級試験に合格できる程度の知識を身に付ける。(DP2) |
| 授業方法と留意点 | 講義形式で対面授業を行う。授業計画に従い、各回の授業テーマについての解説を行う。毎回解説を行ったうえで、授業後半20分程度を使ってその日にやったテーマに関する小テストを実施する。小テストの答え合わせは、次の回の授業の最初に行う。小テスト解答の際には、電卓が必要になるので、授業には必ず電卓を持ってくること。 また、授業に関する連絡や補足資料の配布を行うために、TeamsやMoodleを使う。 新型コロナの感染状況によっては、オンライン授業に切り替える可能性がある。 |

科目学習の効果 (資格) 日本商工会議所簿記検定、公認会計士試験、税理士試験を受験するためには必要不可欠な科目である。

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 | |
|----|---------------------|--|--------------------------------|--------------------------------|
| | | | 事前 | 事後 |
| 1 | 簿記の基礎① | 簿記の目的、資産・負債・資本、収益・費用 | 事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 | 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1時間)。 |
| 2 | 簿記の基礎② | 取引と勘定 | 事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 | 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1時間)。 |
| 3 | 簿記の基礎③ | 仕訳と転記 | 事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 | 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1時間)。 |
| 4 | 簿記の基礎④ | 試算表 | 事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 | 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1時間)。 |
| 5 | 簿記の基礎⑤ | 決算の意味と手続き | 事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 | 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1時間)。 |
| 6 | 簿記の基礎⑥ | 損益計算書及び貸借対照表の作成 | 事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 | 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1時間)。 |
| 7 | まとめ | 第1回から第6回の授業内容の復習 | 事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(3時間)。 | 事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(3時間)。 |
| 8 | 現金・預金① | 現金・現金過不足 | 事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 | 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1時間)。 |
| 9 | 現金・預金② | 当座預金・当座借越、小口現金 | 事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 | 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1時間)。 |
| 10 | 商品売買 | 三分法による商品売買取引の記帳、返品 の処理、売上原価の算定 | 事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 | 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1時間)。 |
| 11 | 商品有高帳 | 先入先出法、移動平均法 | 事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 | 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1時間)。 |
| 12 | 売掛金・買掛金 | 売掛金元帳、買掛金元帳 | 事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 | 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1時間)。 |
| 13 | 貸し倒れと貸倒引当金 | 貸倒引当金の処理 | 事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 | 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1時間)。 |
| 14 | 手形・クレジット売掛金 | 手形の種類、約束手形の記帳、電子記録 債権・債務、クレジット売掛金 | 事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 | 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1時間)。 |
| 15 | その他の債権・債務① | 貸付金・借入金、未収入金・未払金、前 払金・前受金 | 事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 | 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1時間)。 |
| 16 | その他の債権・債務② | 立替金・預り金、仮払金・仮受金、差入 保証金、受取商品券 | 事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 | 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1時間)。 |
| 17 | 有形固定資産 | 有形固定資産の取得・減価償却・売却 | 事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 | 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1時間)。 |
| 18 | 営業費・法定福利費・税金 | 営業費・法定福利費の記帳、税金の分類、 法人税等・消費税の記帳 | 事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 | 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1時間)。 |
| 19 | まとめ | 第8回から第18回の授業内容の復習 | 事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(3時間)。 | 事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(3時間)。 |
| 20 | 決算① | 費用の前払い・収益の前受け | 事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 | 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1時間)。 |
| 21 | 決算② | 費用の未払い・収益の未収 | 事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 | 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1時間)。 |
| 22 | 決算③ | 試算表の作成1(合計残高試算表の作成) | 事前：教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 | 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(2時間)。 |
| 23 | 決算④ | 試算表の作成2(合計残高試算の作成及 び売掛金明細表・買掛金明細表の作成) | 事前：教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 | 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(2時間)。 |
| 24 | 決算⑤ | 精算表の作成 | 事前：教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 | 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(2時間)。 |
| 25 | 財務諸表の作成 | 損益計算書の作成、貸借対照表の作成 | 事前：教科書の該当箇所を読んでおく(2時間)。 | 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(2時間)。 |
| 26 | 伝票 | 伝票の意味、3伝票制、一部現金取引 | 事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 | 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1時間)。 |
| 27 | 株式の発行、剰余金の配 当と処分 | 株式会社の純資産、株式の発行・増資、 剰余金の配当・処分 | 事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1時間)。 | 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1時間)。 |

| | | | | |
|---------------|---|-------------------------|------------------------|--|
| | 28 | まとめ | 第 20 回から第 27 回の授業内容の復習 | 事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(3 時間)。 事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(3 時間)。 |
| | 29 | 日商簿記検定問題① | 仕訳、帳簿の問題 | 事前：教科書の仕訳、帳簿の問題を解く(3 時間)。 事後：間違えた問題を再度解く(3 時間) |
| | 30 | 日商簿記検定問題② | 試算表、精算表の問題 | 事前：教科書の試算表、精算表の問題を解く(3 時間)。 事後：間違えた問題を再度解く(3 時間) |
| 関連科目 | 財務諸表論入門、財務会計論、管理会計論等。 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 最新段階式 日商簿記検定問題集 3 級 四訂版 | | 実教出版 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 小テスト 30%、定期試験 70% | | | |
| 学生への メッセージ | 簿記は借方・貸方などの専門用語があつて最初はややこしく感じるかもしれませんが、慣れれば足し算・引き算のみで決して難しいものではありません。基本的な知識をしっかりと身に付けて、簿記力を積み上げていきましょう。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 11 号館 7 階(三木准教授室) | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|----------|------------|
| 科目名 | インターンシップ | 科目名 (英文) | Internship |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年 | 授業担当者 | 石井 三恵 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | ICA3354a1 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | <p>この科目を通じて、学生は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に 1) 仕事の社会における役割 2) 仕事の成果とは 3) 仕事の責任と充実感を直接肌で感じることが期待される。前期の講義では事前学修として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。</p> <p>なお、講義では担当者の民間企業、自治体、NPO 法人での業務及び海外を含む高等教育での教育ならびに経営の経験に基づいて議論を進めることもある。</p> <p>SDG s 4-4 SDG s 8-6</p> |
| 到達目標 | <p>就職活動の流れとインターンシップの位置づけ、意義について説明することができる。</p> <p>インターンシップへ意欲的に自信を持って参加するためのマナーと心がまえを身につける。</p> <p>インターンシップ先出の実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択しや可能性について主体的に考えることができる。</p> <p>講義や実習を通じて、職業観を形成し、それを他者に伝えることができる。</p> |
| 授業方法と留意点 | インターンシップの現場につながる講義（演習を含む）であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。 |
| 科目学習の効果（資格） | インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。 企業等、実務の現場で実習を行うことで、自らの職業観の形成ができる。 |

| | | | | |
|------|----|-----------------|---|--|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | インターンシップとは | <ul style="list-style-type: none"> ・授業オリエンテーション ・学生と社会人の違いを理解する ・インターンシップの目的を考える ※以降、スーツ着用、またはそれに準じる洋装 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：インターンシップとは何かについて考えること(0.5時間) ・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること(0.5時間) |
| | 2 | 企業組織・ビジネスの理解 | <ul style="list-style-type: none"> ・組織の形態を知る ・ビジネスへの理解を深める | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：自らの興味のあるビジネスについて調べておくこと(0.5時間) ・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること(0.5時間) |
| | 3 | 実習参加企業について | <ul style="list-style-type: none"> ・産業の分類を知る ・業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：興味のある会社や自治体などの組織について調べること(0.5時間) ・事後学修：インターン受入企業等の組織のリストに目を通し、希望する実習先を吟味すること(0.5時間) |
| | 4 | 効果的なプレゼンテーションとは | <ul style="list-style-type: none"> ・効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：効果的なプレゼンテーションについて考えること(0.5時間) ・事後学修：配付された資料を見直し講義を振り返ること(0.5時間) |
| | 5 | 課題のプレゼンテーション① | <ul style="list-style-type: none"> ・第4回目の課題をプレゼンテーションする | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：第4回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修：プレゼンテーションのポイントをまとめる(0.5時間) |
| | 6 | 社会人のマナー① | <ul style="list-style-type: none"> ・社会人としての心構えを知る ・身だしなみ | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：マナーがなぜ大切なのかを考えること(0.5時間) ・事後学修：配付されたテキストを精読すること(0.5時間) |
| | 7 | 社会人のマナー② | <ul style="list-style-type: none"> ・文書でのコミュニケーション | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること(0.5時間) ・事後学修：授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みる(0.5時間) |
| | 8 | 社会人のマナー③ | <ul style="list-style-type: none"> ・口頭でのコミュニケーション | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること(0.5時間) ・事後学修：マナーの大切さを再度考えること(0.5時間) |
| | 9 | 履歴書を記入する | <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ用の履歴書を記入する | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：履歴書を書く準備をしておくこと(0.5時間) ・事後学修：講義を振り返り、履歴書を下書きすること(0.5時間) |
| | 10 | グループワーク① | <ul style="list-style-type: none"> ・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：グループ内の自分の役割を考えること(0.5時間) ・事後学修：グループで課題に取り組み(0.5時間) |
| | 11 | グループワーク② | <ul style="list-style-type: none"> ・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：グループでプレゼンテーションを行う準備をすること(0.5時間) ・事後学修：自グループ及び他グループのプレゼンテーションを振り返ること(0.5時間) |
| | 12 | 事前訪問について | <ul style="list-style-type: none"> ・事前訪問のマナーと準備について | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べる(0.5時間) ・事後学修：訪問時のマナーについておさらいをすること(0.5時間) |
| | 13 | 課題のプレゼンテーション② | <ul style="list-style-type: none"> ・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること(0.5時間) |

| | | | |
|----|--------------------------|---|--|
| 14 | 課題のプレゼンテーション③ | ・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション | ・事前学修: プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修: プレゼンテーションの内容を内省すること(0.5時間) |
| 15 | 振り返りとまとめ | ・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する | ・事前学修: インターンシップIで学んだことをまとめること(0.5時間) ・事後学修: インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること(0.5時間) |
| 16 | 直前学修① 6月18日(土) 3限(予定) | ・インターンシップの心構え ・今後のスケジュールの確認 ※スーツ着用、またはそれに準じる洋装 | ・事前学修: 社会人を意識したスーツを着用し、身だしなみを自分なりに整えてくること(0.5時間) |
| 17 | 直前学修② 6月18日(土) 4限(予定) | ・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション | ・事前学修: マナーについて考えること(0.5時間) ・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間) |
| 18 | インターンシップ実習 | ・夏季休暇中に10日間以上(原則) | ・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間) |
| 19 | インターンシップ実習 | ・夏季休暇中に10日間以上(原則) | ・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間) |
| 20 | インターンシップ実習 | ・夏季休暇中に10日間以上(原則) | ・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間) |
| 21 | インターンシップ実習 | ・夏季休暇中に10日間以上(原則) | ・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間) |
| 22 | インターンシップ実習 | ・夏季休暇中に10日間以上(原則) | ・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間) |
| 23 | インターンシップ実習 | ・夏季休暇中に10日間以上(原則) | ・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間) |
| 24 | 体験報告書の作成 | ・報告書提出 ・インターンシップ担当教員における報告書チェックと指導 ・(担当教員への提出と教務課へ電子データを提出) | ・事後学修: 直前学習②の通りに報告書を作成し、提出前に必ず推敲を行い、提出期限を厳守すること(0.5時間) |
| 25 | 事後学修① 9月17日(土) 3限(予定) | ・インターンシップ体験報告(個人発表)及びプレゼン指導 ※この回以降、スーツ着用、またはそれに準じる洋装 | ・事前学修: 個人発表要のスライドを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(0.5時間) |
| 26 | 事後学修② 9月17日(土) 4限(予定) | ・インターンシップ体験報告(個人発表)及びプレゼン指導 | ・事前学修: 個人発表要のスライドを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(0.5時間) |
| 27 | 事後学修③ 9月24日(土) 3限(予定) | ・事後学修①②で選出されたグループ代表による体験報告 | ・事前学修: 代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修: 聴講者は他者の発表を振り返ること(0.5時間) |
| 28 | 事後学修④ 9月24日(土) 4限(予定) | ・事後学修①②で選出されたグループ代表による体験報告 | ・事前学修: 代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修: 聴講者は他者の発表を振り返ること(0.5時間) |
| 29 | 事後学修⑤ 10月1日(土) 3限(予定) | ・インターンシップ全体を振り返る(実習記録簿の提出) | ・事前学修: 実習記録簿を見直してくること(0.5時間) |
| 30 | 事後学修⑥ 10月1日(土) 4限(予定) | ・インターンシップ全体を振り返る | ・事後学修: インターンシップの講義の全体を振り返り、今後のキャリア形成にどのように活かしたいのかについて考えること(0.5時間) |

関連科目 キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ・キャリアデザインⅢ

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

評価方法(基準) 平常点30%、提出物・プレゼンテーション等50%、企業からの評価表20%、を総合的に評価する。

| | |
|-----------------------|--|
| <p>学生への メッセージ</p> | <p>インターシッブの流れは以下のとおりである。 ※4月下旬にリスト公開→5月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→5月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→6月末頃に事前訪問→8月上旬からインターンシップ開始（予定）</p> <p>※インターンシップ先の都合により、日程等スケジュールが変更する場合もある。 また、COVID-19の影響により先方都合で実習が中止になることもある。</p> |
| <p>担当者の 研究室等</p> | <p>7号館5階 教育イノベーションセンター（石井）</p> |
| <p>備考</p> | <p>教科書・・・必要に応じてレジメを配布 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示 服 装・・・立ち居振る舞いを学ぶために、原則、スーツ着用が好ましい。</p> <p>※予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。グループワーク、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。</p> <p>※インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。</p> |

| | | | |
|---------------|--------|---------|---------------------------|
| 科目名 | 商業科教育法 | 科目名(英文) | Business Education Method |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 通年 | 授業担当者 | 久井 孝則 |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | <p>前期は、高等学校の商業教育全般についての理論・制度・実践を学びます。中心的なテーマのひとつは、高等学校教育の多様性と商業高校の教育課程の特徴について理解すること。いまひとつは、現代の経済社会が求めている職業能力や経営リテラシーを明らかにし、それを獲得するためのビジネス教育の内容や方法について理解することです。</p> <p>後期は、受講生全員が学習指導案を作成した上で模擬授業を行います。模擬授業において生徒役の学生は授業を受けながら、同時に評価者として評価シートを記入し、授業終了後、履修者全員で良かった点と改善すべき点を合評することによって、授業展開の適否について考えます。この過程を通じて、授業者は教育実習の心構えや資質・能力が形成されるとともに、生徒役の学生は授業の観察眼を養い、自らの授業展開に役立てることが出来ます。</p> |
| 到達目標 | <p>①商業科教員としての基本的かつ幅広い知識を習得する。</p> <p>②学習指導計画の立案ならびに模擬授業を行い、実践的な能力を体得する。</p> <p>③ビジネス教育のあり方について考え、将来の方向性について理解を深める。</p> |
| 授業方法と留意点 | <p>前期は、商業教育の目的、商業教育の歴史、教育課程の変遷、現行学習指導要領における教科・科目の構造について学びます。</p> <p>後期は、高等学校学習指導要領に基づき、高等学校における商業教育について、その目的や内容、指導計画の作成、指導方法について理解を深め、実践力を身につけることによって、商業科教員としての資質を養います。</p> |
| 科目学習の効果(資格) | <p>本講座は、高等学校教職員免許状「商業」を取得するための必修科目です。商業高校では、様々な分野の専門科目(ビジネス基礎・マーケティング・簿記・情報処理・総合実践など)を担当する可能性があり、そのための基本的な知識・技能を習得することが出来ます。</p> |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------------|---|---|
| | | | |
| 2 | 商業教育の意義と必要性 | (1)商業教育の基本理念 (2)商業教育で育む資質・能力 (3)商業科担当教員への期待 | 〔事前〕教科書の当該章を熟読してくこと(60分) |
| 3 | 我が国における商業教育の歩み | (1)明治期の商業教育 (2)大正期・昭和 20(1945)年以前の商業教育 (3)新教育制度と商業教育 (4)科目構成、科目名の変遷 | 〔事前〕教科書の当該章を熟読してくこと。(60分) |
| 4 | 高等学校学習指導要領と商業教育 | (1)学習指導要領の法的位置づけ (2)学習指導要領の理念 (3)時代の進展等と商業科の改善 (4)商業科の構造 (5)商業科の学習指導を考える文脈 | 〔事前〕教科書の当該章を熟読してくこと。また平成30年3月告示の新学習指導要領について調べてくること(90分) |
| 5 | 商業科の教育課程の編成と実施 | (1)教育課程の意義 (2)専門性の深化 (3)カリキュラム・マネジメント (4)専門学科における各教科・科目の履修 (5)文科省検定済教科用図書等の使用義務 (6)職業資格とのつながり (7)各学科で育成する人材像と教育課程 | 〔事前〕教科書の当該章を熟読してくこと。また出身高校の教育課程をインターネットで検索し、プリントアウトして持参すること。(90分) |
| 6 | 商業科の学習指導 | (1)商業科教育における学習指導の理念と方向性 (2)商業科教育における主体的・対話的で深い学び | 〔事前〕教科書の当該章を熟読してくこと(60分) |
| 7 | 各分野の学習指導① | (1)基礎的科目 (2)マーケティング分野 (3)マネジメント分野 | 〔事前〕教科書の当該章を熟読してくこと(60分) |
| 8 | 各分野の学習指導② | (1)会計分野 (2)ビジネス情報分野 (3)総合的科目 | 〔事前〕教科書の当該章を熟読してくこと(60分) |
| 9 | 指導計画の理念と作成 | (1)指導計画の意義と作成 (2)指導計画の実施・評価・改善 | 〔事前〕教科書の当該章を熟読してくこと(60分) |
| 10 | 学習評価の理念と実際 | (1)評価の目的 (2)目標に準拠した評価と評価の観点(3)評価方法の工夫 | 〔事前〕教科書の当該章を熟読してくこと(60分) |
| 11 | 魅力ある商業教育① | (1)これからの商業科教育 | 〔事前〕教科書の当該章を熟読してくこと(60分) |
| 12 | 魅力ある商業教育② | (1)体系的な商業教育の意義 | 〔事前〕教科書の当該章を熟読してくこと(60分) |
| 13 | 魅力ある商業教育③ | (1)魅力あるの商業教育を目指して | 〔事前〕教科書の当該章を熟読してくこと(60分) |
| 14 | 商業教育推進のしくみ | 「公益財団法人全商協会の事業展開」 | 〔事前〕教科書の当該章を熟読してくこと(60分) |
| 15 | 前期のまとめ | 前期の講義を振り返り、商業教育についてそれぞれのレポートを作成 | 〔事前〕これまでの講義ノート等に目を通しておく(60分) |
| 16 | ガイダンス「模擬授業演習の進め方」 | 後期の授業の進め方及び模擬授業の進め方 | |
| 17 | 学習指導計画の作成「学習指導計画案の作成①」 | (1)学力などの実態を踏まえた授業設計の方法 (2)情報機器および教材の活用 | 〔事前〕学習指導案の素案を作成してくこと(90分) |
| 18 | 学習指導計画の作成「学習指導計画案の作成②」 | (1)評価の観点、学習評価の方法 (2)情報機器および教材の活用 | 〔事前〕学習指導案の完成版を作成してくこと(90分) |
| 19 | 基礎的科目「ビジネス基礎」の模擬授業 | (1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成 | 〔事前〕当該科目の学習指導案を作成し、模擬授業のシミュレーションをしていくこと(60分) |

| | | | (3)発表 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|---|-----------------------------|-------------------------------------|---|----|-----|-----|------|---|----------------------|----------|----------|---|--|--|--|---|--|--|--|
| | 20 | 基礎的科目「基礎的科目の教育の進め方」 | (1)基本的視点と指導法 | 〔事前〕 前回の模擬授業のレポートを書いてくること(60分) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 21 | ビジネス情報分野「情報処理」の模擬授業 | (1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成 (3)発表 | 〔事前〕 当該科目の学習指導案を作成し、模擬授業のシミュレーションをしてくること(60分) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 22 | ビジネス情報分野「ビジネス情報分野の教育の進め方」 | (1)基本的視点と指導法 | 〔事前〕 前回の模擬授業のレポートを書いてくること(60分) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 23 | 会計分野「簿記」の模擬授業 | (1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成 (3)発表 | 〔事前〕 当該科目の学習指導案を作成し、模擬授業のシミュレーションをしてくること(60分) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 24 | 会計分野「会計分野の教育の進め方」 | (1)基本的視点と指導法 | 〔事前〕 前回の模擬授業のレポートを書いてくること(60分) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 25 | ビジネス経済分野「経済活動と法」の模擬授業 | (1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成 (3)発表 | 〔事前〕 当該科目の学習指導案を作成し、模擬授業のシミュレーションをしてくること(60分) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 26 | ビジネス経済分野「ビジネス経済分野の教育の進め方」 | (1)基本的視点と指導法 | 〔事前〕 前回の模擬授業のレポートを書いてくること(60分) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 27 | マーケティング分野「マーケティング」の模擬授業 | (1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成 (3)発表 | 〔事前〕 当該科目の学習指導案を作成し、模擬授業のシミュレーションをしてくること(60分) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 28 | マーケティング分野「マーケティング分野の教育の進め方」 | (1)基本的視点と指導法 | 〔事前〕 前回の模擬授業のレポートを書いてくること(60分) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 29 | 総合的科目「総合的科目の教育の進め方」 | (1)基本的視点と指導法 | 〔事前〕 当該科目の内容について調べてくること(60分) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 30 | 後期のまとめ | 商業科教育法を学んで感じたこと、及び自身が描く教員像について発表する | 〔事前〕 商業科教育法のまとめ(発表資料)を作成してくること(60分) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 大学の経営学部や経営情報学部で学ぶ専門科目は、商業科の専門科目として活かせる魅力があります。簿記、会計、原価計算、管理会計、情報処理、電子商取引、経営学、経済学、マーケティング、民法、会社法、ベンチャービジネス論など、幅広く履修しておくことが大切です。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>商業科教育論</td> <td>日本商業教育学会</td> <td>実教出版株式会社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 商業科教育論 | 日本商業教育学会 | 実教出版株式会社 | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 商業科教育論 | 日本商業教育学会 | 実教出版株式会社 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>高等学校学習指導要領解説 商業編 最新版</td> <td>文部科学省</td> <td>実教出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 高等学校学習指導要領解説 商業編 最新版 | 文部科学省 | 実教出版 | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 高等学校学習指導要領解説 商業編 最新版 | 文部科学省 | 実教出版 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 課題・レポート50%、授業への参加度(学習意欲、事前学習、発表等)50%とし、総合的に判断して評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 商業科教員採用試験では、日本商工会議所簿記検定2級程度の問題が出題されるので、在学中の取得を目指して欲しい。また、新聞やインターネットの政治・経済や教育に関する記事を日頃から読み、社会の変化に興味・関心を持ち、幅広いビジネスに関する知識を有する商業科教員を目指そう。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 質問等はメール等で対応します。 課題については、随時評価します。 事後学習については、特に表記していませんが、事前学習と合わせた総時間は120時間程度です。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|--------|----------|--|
| 科目名 | 情報科教育法 | 科目名 (英文) | Instruction Method for Information and Communication Science |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 通年 | 授業担当者 | 柘木 紀哉 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 高等学校普通教科「情報」の教員免許を取得するために必修となる講義である。「情報科」成立の経緯および教科内容について理解し、情報教育のあり方について、学習目標、指導方法、評価方法などの視点から考え、担当教員に必要な基礎的知識や資質を養う。また、指導案の作成、模擬授業の実施を通して、授業を展開できる能力を身につけることを目指す。 |
| 到達目標 | 教科「情報」の教育目標や位置づけについて知り、教員に求められる幅広い知識を身につけるとともに教育指導技術の向上を図る。また、教科「情報」の授業を行う上で必要となる技能について、授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。 |
| 授業方法と留意点 | テキストおよび配付資料を中心に、スライドを使って説明を行う。教員免許に関する科目であり、意見交換を行いながら学習指導案、学習教材などを作成するため、主体的・積極的な受講を求める。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 教科「情報」の免許科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目区分：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------------|------------------------------------|--|
| | | | |
| 1 | イントロダクション | 授業の進め方、情報技術の進展と情報教育の役割 | 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (150分) 次回の内容を確認する (90分) |
| 2 | 情報教育の意義と役割 | 情報教育の実践と教育の情報化、共通教科情報科と専門教科情報科について | 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (150分) 次回の内容を確認する (90分) |
| 3 | 共通教科情報科の構成 | 共通必修科目「情報Ⅰ」と選択科目「情報Ⅱ」の内容構成 | 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (150分) 次回の内容を確認する (90分) |
| 4 | 共通必修科目「情報Ⅰ」の内容 | 「情報Ⅰ」で何を学ぶか、教育方法 | 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (150分) 次回の内容を確認する (90分) |
| 5 | 共通必修科目「情報Ⅰ」の学習内容 (1) | 情報社会の問題解決の学習内容 | 情報社会の問題解決について調べまとめる (150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (90分) |
| 6 | 共通必修科目「情報Ⅰ」の学習内容 (2) | コミュニケーションと情報デザインの学習内容 | コミュニケーションと情報デザインについて調べまとめる (150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (90分) |
| 7 | 共通必修科目「情報Ⅰ」の学習内容 (3) | コンピュータとプログラミングの学習内容 | コンピュータとプログラミングについて調べまとめる (150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (90分) |
| 8 | 共通必修科目「情報Ⅰ」の学習内容 (4) | 情報通信ネットワークとデータの活用の学習内容 | 情報通信ネットワークとデータの活用について調べまとめる (150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (90分) |
| 9 | 情報教育の指導方法 (1) | 年間指導計画書の作成、学習目標の明確化 | 年間指導計画書の作成、学習目標の明確化についてまとめる (150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (90分) |
| 10 | 情報教育の指導方法 (2) | 課題分析の方法、進め方 | 課題分析の方法についてまとめる (150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (90分) |
| 11 | 情報教育の指導方法 (3) | 評価の目的と対象、評価対象の具体化 | 評価の目的と対象についてまとめる (150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (90分) |
| 12 | 情報教育の指導方法 (4) | 学習課題に応じた評価方法の種類と特徴 | 学習課題に応じた評価方法についてまとめる (150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (90分) |
| 13 | 模擬授業：情報Ⅰ (1) | 学習目標の明確化、学習指導案の書き方 | 学習目標の明確化、学習指導案の作成をする (150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (90分) |
| 14 | 模擬授業：情報Ⅰ (2) | 教材研究の方法、授業分析 | 模擬授業の準備をする (150分) 教材研究、授業分析を行う (90分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (60分) |
| 15 | 前期のまとめと学力診断テスト | 前半の振り返り、確認テストと解説 | 前半の内容を整理する (180分) |
| 16 | 選択科目「情報Ⅱ」の内容 | 「情報Ⅱ」で何を学ぶか、教育方法 | 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (150分) 次回の内容を確認する (90分) |
| 17 | 選択科目「情報Ⅱ」の学習内容 (1) | 情報社会の進展と情報技術の学習内容 | 情報社会の進展と情報技術について調べまとめる (150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (90分) |
| 18 | 選択科目「情報Ⅱ」の学 | コミュニケーションとコンテンツの学習 | コミュニケーションとコンテンツについて調べまとめ |

| | | 習内容 (2) | 内容 | る (150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (90分) | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|---|--------------------|-----------------------------------|--|----|-----|-----|------|---|-------------------------------------|---------------|------|---|---------------------|---------|------|---|-----------------------------|-------|-------|
| | 19 | 選択科目「情報Ⅱ」の学習内容 (3) | 情報とデータサイエンスの学習内容 | 情報とデータサイエンスについて調べまとめる (150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (90分) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 20 | 選択科目「情報Ⅱ」の学習内容 (4) | 情報システムとプログラミングの学習内容 | 情報システムとプログラミングについて調べまとめる (150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (90分) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 21 | 選択科目「情報Ⅱ」の学習内容 (5) | 情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探求の学習内容 | 情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探求について調べまとめる (150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (90分) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 22 | 模擬授業：情報Ⅱ (1) | 学習目標の明確化、学習指導案の作成 | 学習目標の明確化、学習指導案の作成をする (150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (90分) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 23 | 模擬授業：情報Ⅱ (2) | 教材研究、授業分析 | 模擬授業の準備をする (150分) 教材研究、授業分析を行う (90分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (60分) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 24 | 模擬授業の展開 (1) | 学習目標の明確化、学習指導案の作成、教材研究 | 学習目標の明確化、学習指導案の作成をする (150分) 教材研究を行う (90分) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 25 | 模擬授業の展開 (2) | 相互評価、模擬授業の振り返り | 模擬授業の振り返りをする (150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (90分) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 26 | 専門教科情報科の構成 | 専門教科情報科の内容構成、教育方法、共通教科情報科との差異 | 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (150分) 今回の内容を確認する (90分) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 27 | 魅力ある授業の展開 (1) | 学習意欲を高める方法、内発的動機付けと外発的動機付け | 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (150分) 今回の内容を確認する (90分) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 28 | 魅力ある授業の展開 (2) | 学習者の協同と活動、ワークショップとプロジェクト学習 | 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (150分) 今回の内容を確認する (90分) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 29 | 魅力ある授業の展開 (3) | ICT 活用の実際、授業の記録・分析の方法 | 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (150分) 今回の内容を確認する (90分) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 30 | 全体のまとめと学力診断テスト | 全体の振り返り、確認テストと解説、これからの教師に求められる授業力 | 後半の内容を整理する (180分) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 情報関連科目全般 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>情 I 706 図説情報 I</td> <td>監修：渡辺美智子</td> <td>実教出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>情 I706 図説情報 I 学習ノート</td> <td>実教出版編集部</td> <td>実教出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>高等学校学習指導要領 (平成30年告示) 解説 情報編</td> <td>文部科学省</td> <td>開隆堂出版</td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 情 I 706 図説情報 I | 監修：渡辺美智子 | 実教出版 | 2 | 情 I706 図説情報 I 学習ノート | 実教出版編集部 | 実教出版 | 3 | 高等学校学習指導要領 (平成30年告示) 解説 情報編 | 文部科学省 | 開隆堂出版 |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 情 I 706 図説情報 I | 監修：渡辺美智子 | 実教出版 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 情 I706 図説情報 I 学習ノート | 実教出版編集部 | 実教出版 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 高等学校学習指導要領 (平成30年告示) 解説 情報編 | 文部科学省 | 開隆堂出版 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ICT 活用指導力アップ！教育の情報化-教員になるための情報教育入門-</td> <td>監修：梅田恭子、齋藤ひとみ</td> <td>実教出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | ICT 活用指導力アップ！教育の情報化-教員になるための情報教育入門- | 監修：梅田恭子、齋藤ひとみ | 実教出版 | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | ICT 活用指導力アップ！教育の情報化-教員になるための情報教育入門- | 監修：梅田恭子、齋藤ひとみ | 実教出版 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 学習指導案などの成果物等 (50%)、学力診断テスト (40%)、授業への取組姿勢 (10%) をもとに総合的に評価演習が中心となるため、継続的な授業への出席が必要です。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 学習者に対して授業を行うためには、周到な準備が必要になります。目的意識を持ち積極的に授業に出席して下さい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館6階 (経営学部非常勤講師室) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 必要に応じて資料を配布します。 授業に関する質疑応答は、メールを使用します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|------------|----------|--|
| 科目名 | 経営学特講 I | 科目名 (英文) | Up-to-date Topics of Business Administration I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 佐藤 秀昭 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP2◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS1048a0 | | |

| 授業概要・目的 | <p>本学では、将来グローバル、あるいは、地域で活躍する力を身につけた知的職業人の育成を目指している。そのためには、他者と自分の違いを理解し、相手を尊重するという姿勢が必要である。このような態度は国内においても修得可能であるが、日本とは異なる文化、経済事情、生活習慣、価値観などをもつ海外においてインターンシップを体験することにより、相手を正しく理解し、尊重する姿勢、柔軟な発想力の必要性を実感し修得できる。この海外インターンシップでは、ダイバーシティ社会の中で、自分の考えを相手に伝え、また相手の考えを理解できるコミュニケーション能力と自己の責任で自ら考え行動する自律心を育成する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本とベトナムの歴史、文化、経済等の違いを理解し、異なる文化、価値観等を尊重する姿勢を修得する。そして、それらの能力を活かして、企業が抱えている問題について多角的な観点から思考・判断し、当該問題の解決のための計画を立案・実行に移す問題解決力を身につける (DP4) ・将来、グローバルに活躍するために、自分に欠けているものは何か、大学生活で何を学ぶべきか、体得する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>※ベトナム現地企業とのオンラインインターンシップ研修を通し、講義・グループワーク・プレゼンテーションの実施を予定している。 ※現地大学生と英語・日本語で協働する。 ※参加を予定している方は、募集説明会の動画を確認すること (詳細は、ポータルにて発信予定)。 ※下記の備考を確認すること。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題・交流 schedule 案内/チーム編成発表/事前課題の案内/リサーチ方法等についての講義 ・オンラインインターンシップ研修 (2022年8月頃を予定) Day1. レクチャー/事前課題発表/エースコック様よりプロジェクト紹介/チーム活動準備 [6日間] Online チーム活動 Day2. 中間プレゼンテーション [エースコック様向け] /振り返り・チーム活動準備 [6日間] Online チーム活動 Day3. 最終プレゼンテーション [エースコック様向け] /講評・修了式 ※上記は予定です。変更になる場合は、事前学習時等にお伝えします。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 事前学習を含め、全体の出席状況、参加態度等を考慮し、総合的に評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館8階佐藤研究室 11号館8階樋口研究室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | <p>※履修年次は2回生以上。 ※ 疫病・災害・テロ等の発生によって実施困難と判断された場合は、講義自体が不開講となり、単位を認定できない可能性がある。また、最低興行人数に満たなかった場合も不開講となる。ただし、実施できない場合は、履修登録を取り消し GPA 算定上不利にならないように処理を行う。 ※事前学習を受講するにあたり、準備(予習)や学びに対する復習が必要になる。 ※募集人数を超える場合、面談等の評価によって履修者を決定する。 ※その他留意点等は、募集説明会時に伝える。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|------------------|---------|-------------------|
| 科目名 | 基礎演習 | 科目名(英文) | Reference Studies |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | A |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 樋口 友紀 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP3○, DP4○, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS1054a0 | | |

| 授業概要・目的 | 基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的知識の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。 一斉連絡などは teams を使って行うようにします。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 大学生としての修学に必要な基本的知識を修得すること（DP2） | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスカッション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | 経営学部における勉学のためのガイダンスを行います。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートを取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学びます。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 「専門基礎演習」、各コースの専門科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法（基準） | 大学生としての修学に必要な基本的知識を修得できているか、すなわち課題へ取り組む積極的姿勢があるか、協働できているか、また、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・討論の内容等を総合的に評価します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されています。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館8階 樋口研究室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|------------------|---------|-------------------|
| 科目名 | 基礎演習 | 科目名(英文) | Reference Studies |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | B |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 牧野 幸志 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP3○, DP4○, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS1054a0 | | |

| 授業概要・目的 | 基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的知識の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。一斉連絡などは teams を使って行うようにします。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 大学生としての修学に必要な基本的知識を修得すること（DP2） | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスカッション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行います。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | 経営学部における勉学のためのガイダンスを行います。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートを取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学びます。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 「専門基礎演習」、各コースの専門科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法（基準） | 大学生としての修学に必要な基本的知識を修得できているか、すなわち課題へ取り組む積極的姿勢があるか、協働できているか、また、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・討論の内容等を総合的に評価します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されています。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 牧野(幸)准教授室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|------------------|---------|-------------------|
| 科目名 | 基礎演習 | 科目名(英文) | Reference Studies |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | C |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 鶴坂 貴恵 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP3○, DP4○, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS1054a0 | | |

| 授業概要・目的 | 基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的知識の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。 一斉連絡などは teams を使って行うようにします。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 大学生としての修学に必要な基本的知識を修得すること（DP2） | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスカッション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | 経営学部における勉学のためのガイダンスを行います。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートを取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学びます。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 「専門基礎演習」、各コースの専門科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法（基準） | 平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、協同できているか、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されています。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館7階（鶴坂研究室） | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|------------------|---------|-------------------|
| 科目名 | 基礎演習 | 科目名(英文) | Reference Studies |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | D |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 橋本 はる美 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP3○, DP4○, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS1054a0 | | |

| 授業概要・目的 | 基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的知識の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。一斉連絡などは teams を使って行うようにします。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 大学生としての修学に必要な基本的知識を修得すること（DP2） | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスカッション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行います。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | 経営学部における勉学のためのガイダンスを行います。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートを取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学びます。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 「専門基礎演習」、各コースの専門科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法（基準） | 大学生としての修学に必要な基本的知識を修得できているか、すなわち課題へ取り組む積極的姿勢があるか、協働できているか、また、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・討論の内容等を総合的に評価します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されています。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館8階 橋本講師室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|------------------|---------|-------------------|
| 科目名 | 基礎演習 | 科目名(英文) | Reference Studies |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | E |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 武居 奈緒子 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP3○, DP4○, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS1054a0 | | |

| 授業概要・目的 | 基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的知識の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。一斉連絡などは teams を使って行うようにします。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 大学生としての修学に必要な基本的知識を修得すること（DP2） | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスカッション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行います。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | 経営学部における勉学のためのガイダンスを行います。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートを取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学びます。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 「専門基礎演習」、各コースの専門科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法（基準） | 大学生としての修学に必要な基本的知識を修得できているか、すなわち課題へ取り組む積極的姿勢があるか、協働できているか、また、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・討論の内容等を総合的に評価します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されています。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館8階 武居教授室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|------------------|---------|-------------------|
| 科目名 | 基礎演習 | 科目名(英文) | Reference Studies |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | F |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 堀井 千夏 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP3○, DP4○, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS1054a0 | | |

| 授業概要・目的 | 基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的知識の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。一斉連絡などは teams を使って行うようにします。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 大学生としての修学に必要な基本的知識を修得すること（DP2） | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスカッション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行います。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | 経営学部における勉学のためのガイダンスを行います。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートを取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学びます。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 「専門基礎演習」、各コースの専門科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法（基準） | 大学生としての修学に必要な基本的知識を修得できているか、すなわち課題へ取り組む積極的姿勢があるか、協働できているか、また、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・討論の内容等を総合的に評価します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されています。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館8階 堀井教授室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|------------------|---------|-------------------|
| 科目名 | 基礎演習 | 科目名(英文) | Reference Studies |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | G |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 久保 貞也 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP3○, DP4○, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS1054a0 | | |

| 授業概要・目的 | 基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的知識の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。 一斉連絡などは teams を使って行うようにします。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 大学生としての修学に必要な基本的知識を修得すること（DP2） | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスカッション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | 経営学部における勉学のためのガイダンスを行います。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートを取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学びます。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 「専門基礎演習」、各コースの専門科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法（基準） | 大学生としての修学に必要な基本的知識を修得できているか、すなわち課題へ取り組む積極的姿勢があるか、協働できているか、また、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・討論の内容等を総合的に評価します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されています。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館7階 久保准教授室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|------------------|---------|-------------------|
| 科目名 | 基礎演習 | 科目名(英文) | Reference Studies |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | H |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 針尾 大嗣 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP3○, DP4○, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS1054a0 | | |

| 授業概要・目的 | 基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的知識の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。一斉連絡などは teams を使って行うようにします。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 大学生としての修学に必要な基本的知識を修得すること（DP2） | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスカッション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行います。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | 経営学部における勉学のためのガイダンスを行います。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートを取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学びます。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 「専門基礎演習」、各コースの専門科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法（基準） | 大学生としての修学に必要な基本的知識を修得できているか、すなわち課題へ取り組む積極的姿勢があるか、協働できているか、また、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・討論の内容等を総合的に評価します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されています。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館7階 針尾教授室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|------------------|---------|---------------------|
| 科目名 | 専門基礎演習 | 科目名(英文) | Information Seminar |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | A |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 樋口 友紀 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP3○, DP4○, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS1055a0 | | |

| 授業概要・目的 | 専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定しています。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 大学生としての修学に必要な知識の修得をさらに推し進め、学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出せるようになる(DP2) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に速やかに担当教員まで連絡して下さい。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | 経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援します。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談のり、適切なアドバイスをを行います。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導します。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 各コースの専門科目 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 課題へ取り組み姿勢、レポート・レジメの達成度、プレゼンテーション・ディスカッションの内容等を総合的に評価します。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されます。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら、実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席し、不明な点があれば積極的に質問してください。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館8階 樋口研究室 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|------------------|---------|---------------------|
| 科目名 | 専門基礎演習 | 科目名(英文) | Information Seminar |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | B |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 牧野 幸志 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP3○, DP4○, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS1055a0 | | |

| 授業概要・目的 | 専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定しています。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 大学生としての修学に必要な知識の修得をさらに推し進め、学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出せるようになる(DP2) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に速やかに担当教員まで連絡して下さい。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | 経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援します。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談のり、適切なアドバイスを行います。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導します。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 各コースの専門科目 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 課題へ取り組み姿勢、レポート・レジメの達成度、プレゼンテーション・ディスカッションの内容等を総合的に評価します。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されます。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら、実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席し、不明な点があれば積極的に質問してください。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 牧野(幸)准教授室 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|------------------|---------|---------------------|
| 科目名 | 専門基礎演習 | 科目名(英文) | Information Seminar |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | C |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 鶴坂 貴恵 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP3○, DP4○, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS1055a0 | | |

| 授業概要・目的 | 専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定しています。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 大学生としての修学に必要な知識の修得をさらに推し進め、学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出せるようになる(DP2) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に速やかに担当教員まで連絡して下さい。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | 経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援します。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談のり、適切なアドバイスを行います。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導します。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 各コースの専門科目 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 課題へ取り組み姿勢、レポート・レジメの達成度、プレゼンテーション、ディスカッションの内容等を総合的に評価する。値します。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されます。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら、実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席し、不明な点があれば積極的に質問してください。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館7階(鶴坂研究室) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|------------------|---------|---------------------|
| 科目名 | 専門基礎演習 | 科目名(英文) | Information Seminar |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | D |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 橋本 はる美 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP3○, DP4○, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS1055a0 | | |

| 授業概要・目的 | 専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定しています。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 大学生としての修学に必要な知識の修得をさらに推し進め、学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出せるようになる(DP2) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に速やかに担当教員まで連絡して下さい。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | 経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援します。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談のり、適切なアドバイスを行います。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導します。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 各コースの専門科目 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 課題へ取り組み姿勢、レポート・レジメの達成度、プレゼンテーション・ディスカッションの内容等を総合的に評価します。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されます。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら、実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席し、不明な点があれば積極的に質問してください。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等備考 | 11号館8階 橋本講師室 | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|------------------|---------|---------------------|
| 科目名 | 専門基礎演習 | 科目名(英文) | Information Seminar |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | E |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 武居 奈緒子 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP3○, DP4○, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS1055a0 | | |

| 授業概要・目的 | 専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定しています。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 大学生としての修学に必要な知識の修得をさらに推し進め、学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出せるようになる(DP2) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に速やかに担当教員まで連絡して下さい。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | 経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援します。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談のり、適切なアドバイスを行います。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導します。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 各コースの専門科目 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 課題へ取り組み姿勢、レポート・レジメの達成度、プレゼンテーション・ディスカッションの内容等を総合的に評価します。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されます。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら、実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席し、不明な点があれば積極的に質問してください。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館8階 武居教授室 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|------------------|---------|---------------------|
| 科目名 | 専門基礎演習 | 科目名(英文) | Information Seminar |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | F |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 堀井 千夏 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP3○, DP4○, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS1055a0 | | |

| 授業概要・目的 | 専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定しています。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 大学生としての修学に必要な知識の修得をさらに推し進め、学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出せるようになる(DP2) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に速やかに担当教員まで連絡して下さい。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | 経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援します。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談のり、適切なアドバイスを行います。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導します。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 各コースの専門科目 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 課題へ取り組み姿勢、レポート・レジメの達成度、プレゼンテーション・ディスカッションの内容等を総合的に評価します。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されます。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら、実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席し、不明な点があれば積極的に質問してください。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館8階 堀井教授室 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|------------------|---------|---------------------|
| 科目名 | 専門基礎演習 | 科目名(英文) | Information Seminar |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | G |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 久保 貞也 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP3○, DP4○, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS1055a0 | | |

| 授業概要・目的 | 専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定しています。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 大学生としての修学に必要な知識の修得をさらに推し進め、学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出せるようになる(DP2) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に速やかに担当教員まで連絡して下さい。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | 経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援します。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談のり、適切なアドバイスを行います。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導します。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 各コースの専門科目 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 課題へ取り組み姿勢、レポート・レジメの達成度、プレゼンテーション・ディスカッションの内容等を総合的に評価します。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されます。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら、実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席し、不明な点があれば積極的に質問してください。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等備考 | 11号館7階 久保准教授室 | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|------------------|----------|-----------|
| 科目名 | 演習 I | 科目名 (英文) | Seminar I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 通年 | 授業担当者 | 針尾 大嗣 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS2056a0 | | |

| 授業概要・目的 | 企業のメディア戦略の目的・課題理解及び顧客データ活用に必要な基本的知識及びフレームワークを身につけることを目的として、主に以下の2つの内容について学ぶ。 1. 企業のメディア戦略の取り組み事例 2. 消費者行動・心理学の基本理論及びフレームワーク | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 研究倫理を遵守し、企業を取り巻く情報環境に関わる経営問題に関心を寄せ、ゼミの一員として互いの立場を尊重し積極的に他者との協働関係を築き、その問題の解決に主体的に取り組む意欲や態度を身につけることができる。(DP5) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 【すすめ方】 ・グループワークによる資料作成、発表が中心(グループ作業に必要な基本的設備については研究室にて準備) ・他学年ゼミ生を含めた合同演習(年2回予定)とゼミ合宿を実施し、ゼミ生間の交流を深めながら、研究・学習の質を高めていく。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前・事後学習課題 | 主に以下の内容に取り組む。 <前期> 1回: イントロダクション(演習1前期の進め方) 2回: ITマーケティングと調査事例対象の説明(班分け、文献紹介) 3-5回: リサーチ(文献等調査) 6-7回: 事業内容の理解(市場、顧客、商品・サービスの特徴等) 8-9回: ITマーケティング戦略の理解(ウェブ事業の内容、導入アプリの仕組み等) 11-12回: 発表準備(発表資料作成) 13-14回: 発表(プレゼンテーション) 15回: まとめ(総括、ゼミ合宿の準備) <後期> 1回: イントロダクション(演習1後期の進め方) 2回: インターネットと消費者(班分け、文献紹介) 3-5回: 消費者行動論(1) 6回: 発表 7-9回: 消費者行動論(2) 10回: 発表 11-13回: 消費者行動論(3) 14回: 発表 15回: まとめ(総括、ゼミ合宿の準備) 加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 出席状況、参加姿勢(発言、資料準備)、提出物 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館7階 針尾教授室 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 【学生へのメッセージ】 グループワークが中心ですので、時間や約束事をしっかり守って誠実に取り組んでください。 | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|------------------|----------|-----------|
| 科目名 | 演習 I | 科目名 (英文) | Seminar I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 通年 | 授業担当者 | 堀井 千夏 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS2056a0 | | |

| 授業概要・目的 | 経営分野で活用する情報技術をテーマとした演習を行っていく。情報化社会で活躍するために必要な情報活用能力や技術を習得することが目的である。演習 I では、その基礎となる技術や知識を学んでいく。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 卒業研究に向けて、その土台となる技術や知識を習得する (DP 5)。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | ICT を活用しながらゼミ形式の授業を実施し、グループ討論を交えながら課題についての資料収集や分析、発表などを行う。資料はホームページを通じて PDF ファイルで随時配布する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>経営分野における情報技術をテーマとして演習課題を与え、取り組んだ結果を議論する。主な授業内容は以下である。</p> <p>(1) 情報化社会におけるインターネットの活用技術 (2) ネットビジネスを取り巻く情報技術の基礎知識 (3) 効果的なプレゼンテーション方法</p> <p>加えて、情報処理分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導・教育する。</p> <p>[事前学習] 各回の指定教材を予め通読のうえ、要点を整理しておくこと (各 30 分)。</p> <p>[事後学習] 当該演習終了後、自らの考えをまとめておき、発表およびレポートの作成に備えること (各 1 時間)。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 基礎演習、専門基礎演習、演習 II、卒業研究 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 平常点 (授業への参加意欲、課題の提出状況、発表内容) により総合的に評価する。授業への参加態度が悪い者、課題が未提出な者、発表しない者については適宜減点する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 特に予備知識は必要としないが、理解に必要なことは授業で順を追って説明するので、毎回出席を心掛けて欲しい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11 号館 8 階 堀井教授室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 課題やレポートについては、実施した次の授業で講評する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|------------------|----------|-----------|
| 科目名 | 演習 I | 科目名 (英文) | Seminar I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 通年 | 授業担当者 | 久保 貞也 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS2056a0 | | |

| 授業概要・目的 | <p>ゼミでは、研究活動を通じて、実践力の高い情報技術と専門知識の修得、グループでの取組みによる人間力の向上、ならびに、課題設定から問題解決へとつなげる統合力の養成を目指す。また、総合的な研究・教育を目指すために、自治体、地元企業、団体などと積極的に交流を行い、活動の場を広げる。</p> <p>演習 I では、プレゼンテーションの実習と各自が興味のある分野についての自学自習の実践などを行う。調査の仕方や計画の立て方、PDCA サイクルの回し方などを実践的に学び、主体性を持った学習者の素養を磨く。</p> <p>SDGs-4, 8, 9, 11, 12</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <p>演習 I では次の事柄を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 興味のある事柄に関する情報収集を適切に行える (2) プレゼンテーションを時間通りに行える (3) 自ら学習する目的を立てられる (4) 研究倫理を理解し、専門技術者として多様な社会での課題解決に向かう態度を育てる (DP5) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>授業は学生参画型であり、予習・復習は必須である。自発的に学ぶ姿勢で出席すること。</p> <p>前期はプレゼンテーションを行う。聴講者は質問することで授業に参加する。</p> <p>後期は各自が主体的に計画を立てて学び、その学びのプロセスを共有する。</p> <p>また、見学会や講演会などを随時、企画していく。</p> <p>なお、大学構内での対面授業が困難な場合は、課題提供型授業とオンライン型授業 (一方向・双方向) などを組み合わせて実施する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>前期は、各自でテーマを決め、プレゼンテーションを行う。後期は、個人、グループのいずれかで学習するテーマを決め、学習計画を立てる。そして、学習計画に沿って学びを実施し、PDCA サイクルを回しながら主体性のある学びの姿勢を構築する。</p> <p>加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | <p>演習中の発表内容、議論での積極性と内容を中心に評価する。</p> <p>発表内容 70%、その他 30%</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | <p>ゼミでの活動においては、知識、技術、そして、心を鍛えていきます。自らが「経営情報」の最先端で学んでいる者として誇りを持って、課題に挑んでください。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 久保准教授室 (11 号館 7 階) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|------------------|----------|-----------|
| 科目名 | 演習 I | 科目名 (英文) | Seminar I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 通年 | 授業担当者 | 武居 奈緒子 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS2056a0 | | |

| 授業概要・目的 | 近年の成熟市場環境下における企業間競争の激化によって、マーケティングの重要性がますます高まっています。この演習では、企業の存続・成長にとって必要不可欠なマーケティングについて研究します。マーケティングは、身近な学問なので、どこからでも課題の研究が始められます。この演習を通じて、マーケティングの基本的知識とマーケティングを学ぶことの楽しさを理解してもらいたいと思います。全体連絡は、teamsで行います。要件がある場合、緊急の場合は、武居の携帯電話に連絡して下さい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|----------------|------|----|-----|-----|------|---|----------------|----------------|------|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 研究倫理を遵守し、マーケティング・流通に関する問題に関心を示し、ゼミメンバーで互いにコミュニケーションを図る等の協働関係を構築し、問題解決に向けて、主体的に取り組む意欲にあふれ、積極的な態度を身につけることができる。(DP5) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 対面授業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | マーケティングの基本的概念について学習します。ケーススタディのアプローチ。ゼミで与えられた課題には、真摯に取り組むように。加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マーケティング戦略論 第6版</td> <td>和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | マーケティング戦略論 第6版 | 和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦 | 有斐閣 | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | マーケティング戦略論 第6版 | 和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦 | 有斐閣 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>消費行動 第3版</td> <td>武居 奈緒子</td> <td>晃洋書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 消費行動 第3版 | 武居 奈緒子 | 晃洋書房 | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 消費行動 第3版 | 武居 奈緒子 | 晃洋書房 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | レポート (80%)、授業への取り組み (20%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 毎日、ポータルサイト、teams、ホームページをチェックするようにしましょう。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等備考 | 11号館8階 武居教授室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|------------------|----------|-----------|
| 科目名 | 演習 I | 科目名 (英文) | Seminar I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 通年 | 授業担当者 | 鶴坂 貴恵 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS2056a0 | | |

| 授業概要・目的 | <p>マーケティングのゼミである。</p> <p>知的専門職業人として活躍するために必要なマーケティングの基礎的知識をしっかりと身に付けることが大切であり、その定着を目指す。そのために、フィールドワークを行い、課題発見、解決方法の策定、実行などに取り組んでもらい、マーケティングの知識の不足部分を補ってもらおう。</p> <p>これらを通じて、マーケティング的な視点で事象をとらえることができることを目的とする。</p> <p>さらに学生自らが主体的にゼミを運営することでポジティブな姿勢を身に付けることを目的とする。</p> <p>まちづくりの実践や中小企業の経営革新等の支援を行ってきた担当者により、課題解決にむけた実践的な指導を行う。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <p>①知的専門職業人として活躍するために必要なマーケティングの基礎的知識を身につけて実践できる。(DP 5)</p> <p>②フィールドワークを通じて、マーケティングの知識を応用できる力が身につく。(DP 5)</p> <p>③チームで活動することで、自分の役割を認識し果たすことで、チームの成果を最大化する力が身に付く。(DP 5)</p> <p>④コミュニケーション能力と情報・データの活用を通じた表現の向上を図る。(DP 5)</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | マーケティング関連の講義を行いながらグループワークに取り組む。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>[授業テーマ]</p> <p>マーケティング論の定着と応用</p> <p>[内容]</p> <p>ゼミとしてのチームビルディングを行い、相互理解や自己理解・他者への配慮の大切さを学ぶ。</p> <p>グループごとの作業を通じ、チームで目的を達成することの実際を体験し、その重要性を学ぶ。</p> <p>マーケティングの基礎的な知識を課題を通じて検討する。</p> <p>フィールドワークを通じて、マーケティング課題の把握と解決策の構築等を行う。</p> <p>当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | マーケティング関連授業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 平常の取組姿勢、学習状況、報告内容、レポートなどにより総合的に評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | <p>基本チームで動きますので、欠席をするとほかのメンバーに迷惑がかかります。そのためには必ずゼミやゼミで取り組むことには参加してください。</p> <p>ゼミ学習を有効なものにするのもしないのも、本人次第です。受け身ではなく、主体的にゼミに参画することで学ぶことの楽しさを知ってほしいと思います。</p> <p>さらにチームのなかのひとりに負担が偏らないように、他者への配慮を忘れず自分の役割を果たすことを心掛けてください。</p> <p>これらができないと、ゼミ自体の運営に支障をきたしますので、自覚の上、授業を受けてください</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等備考 | 11号館7階 鶴坂教授室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|------------------|----------|-----------|
| 科目名 | 演習 I | 科目名 (英文) | Seminar I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 通年 | 授業担当者 | 山本 圭三 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS2056a0 | | |

| 授業概要・目的 | 本ゼミでは、大きく2つのテーマに沿って学習していく。1つは「仕事、労働、職業を主題とした社会学的研究」である。なぜ人は働くのか、働くことは人々にとってどのような意味をもつのか、などについてじっくり考えていく。もう1つは「社会調査に関わる種々の知識・技術」である。様々な場面で求められる「調査」の能力の獲得を目指す。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 正確な知識に基づき、論理的な思考ができる。 物事を多面的に理解し豊かな発想で議論できる。 正確な文章が書ける。 日常的な問題について社会学の知識を用いた解釈ができる (DP5)。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | テキスト等の読解を中心とする。受講生はテキストの指定された担当部分についてレジュメにまとめ、プレゼンをおこなう。他の受講生は報告者に対し質疑応答をおこなうとともに、報告者を含め全体で内容をさらに展開させるためのディスカッションをおこなう。データ収集や分析の実習もおこなうことになるが、基本的な形式は先のものに準ずる。また、論文やレポートの書き方についての指導は適宜行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題 | <p>【テーマ・内容】 社会学一般および社会調査の基礎知識 今後の研究の土台となる知識の獲得を目指す。</p> <p>【方法】 担当者によるプレゼンテーションと全体でのディスカッション</p> <p>【事前・事後課題】 (事前) プレゼン時の質疑応答を円滑にするために、テキスト以外の文献も通読する (0.5時間) (事後) プレゼン・質疑応答の内容のうち、自らの関心分野に関わる内容を文章としてまとめる (0.5時間)</p> <p>【補足】 演習内では、社会科学分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 授業への参加状況 (出席、発言、資料) 50%、提出物 (内容の正確さ、文章の論理性、内容をふまえた展開) 50% | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 「物事をじっくり考える」姿勢をもち、積極的に参加してほしい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館7階 山本准教授室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 提出されたレポートは、後の授業時に資料として使用する。その際には、教員および他の受講生による講評に基づいた作業をおこなう。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|------------------|----------|-----------|
| 科目名 | 演習 I | 科目名 (英文) | Seminar I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 通年 | 授業担当者 | 牧野 幸志 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS2056a0 | | |

| 授業概要・目的 | <p>牧野(幸)ゼミは経営に関する心理を学ぶゼミである。演習 I では、基本的な心理学の知識とマーケティングの知識を身につける。担当者が教科書の内容をまとめて、プレゼン発表し、参加者と質疑応答を行う。一般心理学、経営に関する消費者心理、組織の中の人間関係などの基礎を学ぶことを目的とする。</p> <p>SDGs-3, 4, 8, 9, 10, 12</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|-------|----|-----|-----|------|---|-----------------|-----|-------|---|-----------|-----|-------|---|--|--|--|
| 到達目標 | <p>一般的な心理学、経営における心理の基礎知識を身につけることができる。社会科学の研究法について知識を得ることができる。その後、自分自身でテーマを探し、心理学の研究手法を基に解決方法を身につけることができる。</p> <p>問題発見能力、分析力を身につける。計画性を身につける。また、知的専門職業人として活躍するための前提となるコミュニケーション能力と情報・データの活用を通じた表現力を身につける。</p> <p>研究倫理を遵守し、心理学、消費者行動を中心とした経営・経済問題に関心を寄せ、ゼミの一員として互いの立場を尊重し積極的に他者</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>2022年度は、基本的に対面授業を行う。</p> <p>新型コロナが感染が拡大している場合、あるいは、収束していない場合、にはオンライン授業を行う。</p> <p>オンライン授業の場合には、受講生は、必ず毎週各自 PC やスマホなどを利用して、teams や Moodle にアクセスすること。</p> <p>演習 I では、心理学の基礎知識を身につける。前期は心理学の概論書を使って担当者と一緒にディスカッションを行う。演習の方法は、毎回担当者が PP による資料を作成し、プレゼンテーションを行い、他の学生とディベートを行う。後期は専門書の内容をまとめてプ</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題 | <p>授業テーマ・内容：一般心理学、経営における消費者心理、社会における人間関係、交渉術、説得テクニックなどについて</p> <p>方法：担当学生がパワーポイントを用いてプレゼンを行う。参加者は必ず質問か発言を行い、グループワークに参加すること。</p> <p>事前学習課題：授業の下調べおよび学生同士のディスカッションをしておくこと(1時間)</p> <p>事後学習課題：授業終了後に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)</p> <p>さらに、経営学、心理学分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導・教育する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 「心理学 I ・ II 」、「市場調査入門」、「経営統計学」を受講しておくことが望ましい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ミニマムエッセンス 社会心理学</td> <td>和田実</td> <td>北大路書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>男と女の対人心理学</td> <td>和田実</td> <td>北大路書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | ミニマムエッセンス 社会心理学 | 和田実 | 北大路書房 | 2 | 男と女の対人心理学 | 和田実 | 北大路書房 | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | ミニマムエッセンス 社会心理学 | 和田実 | 北大路書房 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 男と女の対人心理学 | 和田実 | 北大路書房 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | <p>演習 I へは遅刻せずに出席すること(オンラインを含む)を評価対象の最低条件とする。演習中の発表(50%)、授業への積極的参加度(30%)、事前事後学習課題(20%)の評価などで総合的に判断する。ディスカッション、グループワーク、反転授業などのアクティブ・ラーニングを行います。遅刻、欠席は減点の対象となります。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | <p>演習 I には必ず遅刻せずに、出席し、積極的に発言すること(オンラインを含む)。アクティブ・ラーニングを取り入れているので、自主的・主体的に活動すること。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館7階 牧野(幸)准教授室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | <p>牧野(幸)ゼミは、経営学部で心理学を学ぶゼミである。プレゼンテーションを行うことが多いため、Word, Excel, PowerPoint などの技術を修得してください。人としての心理を大切にするゼミであるので、“時間を守る、約束を守る、授業中私語をしない、寝ない、不必要なときにスマホなどを触らない”など人としての最低限のマナーは必ず守ること。ゼミは、アクティブ・ラーニングの活動です。主体的・積極的に発言すること。</p> <p>授業内で課された課題に対しては、その後のゼミの中で評価・解説を行い、フィードバックをする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|------------------|----------|-----------|
| 科目名 | 演習 I | 科目名 (英文) | Seminar I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 通年 | 授業担当者 | 橋本 はる美 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS2056a0 | | |

| 授業概要・目的 | 情報通信技術の変遷について勉強し、その意義とあり方について学ぶ。授業ではパソコンを使用し、オフィスソフト (Word, Excel, PowerPoint) を使って演習する。データの分析やプログラミングを学習し、情報通信技術を自由に使いこなせるように練習をする。また、レポート作成における不正防止のための研究倫理について学習する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 情報通信技術の変遷について知識を得る。社会の情報通信技術の利活用の事例について学び、情報社会の諸問題について関心を寄せ、グループディスカッションする。Excel でのデータ処理、分析の演習、プログラミングの演習を通して、パソコンを必要に応じて活用できる技術を身につける。(DP5) パソコンの演習を通して、情報通信技術を実践的に活用できる能力を身につける。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 授業は、パソコンを使った演習形式で行う。学習した内容やデータの分析結果等について発表する機会とグループでディスカッションする機会を持つ。遅刻や欠席は授業進行に影響するため、時間厳守で出席のこと。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>情報通信技術の歴史についての内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマの決定と資料の収集 ・発表資料の作成と発表 (質問と質問に対する回答も重要) ・ディスカッション <p>パソコンを使った演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Excel を使ったデータの集計と分析の練習 ・分析結果と考察の発表資料の作成、発表 ・簡単なプログラミングの演習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | ビジネス情報処理 I、II、演習 II | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 課題の提出 (50%)、授業中の発表、授業の取り組み姿勢 (50%) を総合して評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 真面目に積極的に取り組んでください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11 号館 8 階 (橋本講師室) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|------------------|----------|-----------|
| 科目名 | 演習 I | 科目名 (英文) | Seminar I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 通年 | 授業担当者 | 岩坪 加紋 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS2056a0 | | |

| 授業概要・目的 | <p>ファイナンス（金融）で扱う事象は、わたしたちの身の回りにあります。端的に言えばお金に関する事で、財布の中の現金をはじめ、銀行や証券会社、保険会社、国債、株式、資産運用、キャッシュレス、フィンテック、企業の資金調達等々、社会にはお金に関する多様な問題を体系的に論じるのが学問としてのファイナンスです。日頃の生活はもちろん、ビジネスとも密接な関係にあります。本ゼミでは、そのようなお金に関する問題を『研究・探究』し、ファイナンス（金融）の考え方を修得するとともに、客観的な根拠に基づき主張する能力の修得を目的とします。本ゼミ希望者には成績の良し悪しは問いませんが、ゼミ仲間と協働しつつ関心を持って意欲的に主体的に参加し、態度として示してくれることに期待します。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <p>研究倫理を遵守し、ファイナンス（金融）を中心とした経営・経済問題に関心を寄せ、ゼミの一員として互いの立場を尊重し積極的に他者との協働関係を築き、その問題の解決に主体的に取り組む意欲や態度を身につけることができる。(DP5)</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>原則として学生による発表・質疑応答形式（プレゼンテーション）で進めます。発表者だけでなく聴き手学生にも積極性を求めます。ゼミを単位取得のための「がまん大会」にしてはなりません。不幸にして欠席・遅刻しそうな場合は、教員に速やかに連絡すること。また年末には卒研究生（4回生）の卒論をルーブリック評価に基づき評価してもらう予定であり、これは皆さんへの評価に直結します。なお、2022年度は原則対面式ですが、新型コロナウイルス感染症状況を鑑み、オンライン式に切り替えることもあります。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>本演習では所定の書籍をもとに発表・質疑応答形式（プレゼンテーション）で進めます。発表者が発表準備をするのは当然ですが、聞き手学生も書籍の発表箇所を事前に読み、質問を考えておくこと。また、適宜レポートも課します。加えて該当する分野に関連する不正防止のための研究倫理についても合わせて取り上げ、指導・教育する予定です。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 経営学、経済学入門、ICT概論、ミクロ経済学、マクロ経済学、ファイナンス、コーポレートファイナンス等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法（基準） | <p>ゼミ活動に関心を持って意欲的に参加し、態度として示しているか否かで評価します。例えば、発表の準備を仲間と協働しつつ率先して行い、多面的視点で熟慮の跡が見られる態度は大きな加点の対象となります。年末の4年生卒論の評価も皆さんの評価の対象です。一方、ゼミの欠席、特に発表者にも関わらず、無断で欠席する行為は大きな減点の対象となる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | <p>企業が学生に求める能力は依然として高いと思います。易きに流れるのは世の常ですが、後悔するのは自分自身です。この点、重々承知のこと。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館8階（岩坪教授室） | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|------------------|----------|-----------|
| 科目名 | 演習 I | 科目名 (英文) | Seminar I |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 通年 | 授業担当者 | 樋口 友紀 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS2056a0 | | |

| 授業概要・目的 | <p>本ゼミでは、様々なマーケティングデータの分析を中心に、客観的事実に基づいた論文の書き方を学んでいくことになります。演習 I ではマーケティングに関する基礎知識の習得に加え、各種のデータ分析手法の基礎を学習します。前期はデータ分析の基礎について講義を中心に進めますが、後期はゼミ生中心に多変量解析手法について学習内容のまとめや発表をしてもらうことになりますので、主体性を持ってゼミに取り組んでください。その他、学生の希望によりテーマなどを選択し、適宜扱いますので、講義中、時間外を問わず、やりたいことがある場合は積極的に意見するようにして下さい。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 4年生時の卒業論文作成を見据え、必要となるであろうマーケティングに関する情報の収集・分析の能力を習得する。 2. 多変量解析手法について学習し、手法や結果の解釈に関する知識を企業社会における問題解決に適応する、問題解決力を身につける。 3. 情報・データの活用を通じた適切な表現力を身につけるとともに、その知識について発表の機会を設けることで、主体的に学習に取り組む意欲や態度を養う。(DP5) 4. 学生同士でのグループワークや教員とのディスカッションを通して、コミュニケーション能力を向上させる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 適宜、ゼミ生による学習結果のまとめや発表、演習を実施します。そのため、出来る限り欠席は避けるようにしてください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>本ゼミでは、マーケティングおよびデータの分析を主たるテーマとして扱います。演習 I では、マーケティングにおける基礎知識およびデータ分析手法の基礎について、習得を目指します。随時ゼミ生中心にまとめや発表を行いますので、欠席を避け、発表などゼミ内で課した課題は必ず行うようにしてください。また、研究に関連する不正防止のための研究倫理について指導します。不正防止のための研究倫理の指針・ガイドライン等を十分理解した上で、研究活動に取り組んでください。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 課題や発表の内容、授業態度などにより総合的に判断します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館8階 樋口研究室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|------------------|----------|------------|
| 科目名 | 演習 II | 科目名 (英文) | Seminar II |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 通年 | 授業担当者 | 堀井 千夏 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS3057a0 | | |

| 授業概要・目的 | 経営分野で活用する情報技術をテーマとした演習を行っていく。情報化社会で活躍するために必要な情報活用能力や技術を実践的に習得することが目的である。演習 II では、演習 I を土台として、さまざまな最新のテーマについて知識や技術を学んでいく。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 卒業研究に向けて、その土台となる技術や知識を習得する (DP 5)。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | ICT を活用しながらゼミ形式の授業を実施し、グループ討論を交えながら課題についての資料収集や分析、発表などを行う。資料はホームページを通じて PDF ファイルで随時配布する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>経営分野における情報技術をテーマとして演習課題を与え、取り組んだ結果を議論する。主な授業内容は以下である。</p> <p>(1) ネットビジネスのプランニングと試作システム (2) インターネットと WEB 統合技術 (3) 実践的なプレゼンテーション方法</p> <p>加えて、情報処理分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導・教育する。</p> <p>[事前学習] 各回の指定教材を予め通読のうえ、要点を整理しておくこと (各 30 分)。</p> <p>[事後学習] 当該演習終了後、自らの考えをまとめておき、発表およびレポートの作成に備えること (各 1 時間)。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 基礎演習、専門基礎演習、演習 I、卒業研究 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 平常点 (授業への参加意欲、課題の提出状況、発表内容) により総合的に評価する。授業への参加態度が悪い者、課題が未提出な者、発表しない者については適宜減点する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 特に予備知識は必要としないが、理解に必要なことは授業で順を追って説明するので、毎回出席を心掛けてほしい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11 号館 8 階 堀井教授室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 課題やレポートについては、実施した次の授業で講評する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|------------------|----------|------------|
| 科目名 | 演習 II | 科目名 (英文) | Seminar II |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 通年 | 授業担当者 | 久保 貞也 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS3057a0 | | |

| 授業概要・目的 | <p>ゼミでは、研究活動を通じて、実践力の高い情報技術と専門知識の修得、グループでの取組みによる人間力の向上、ならびに、課題設定から問題解決へとつなげる統合力の養成を目指す。また、総合的な研究・教育を目指すために、自治体、地元企業、団体などと積極的に交流を行い、活動の場を広げる。</p> <p>演習 II の前半では、正確な文章の書き方、公正なデータの扱い方、および、表現について実習形式で学ぶ。後半は、研究テーマに関する調査や課題設定、および、その解決策の検討や実習を行い、協調作業の重要性や研究活動の意義を学ぶ。作業計画を立てて、進捗を管理し、状況に応じて調整しながら目標を達成する実践的活動も行う。日頃から経営や情報に関する情報収集に努め、ディスカッションでの発言を増やすことが重要である。</p> <p>SDGs-4, 8, 9, 11, 12</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <p>演習 II での目標は以下のとおりです。</p> <p>(1) 正確な意見表明ができる文章能力の修得</p> <p>(2) 社会貢献を意識した課題の設定 (DP5)</p> <p>(3) 研究倫理の必要性の理解 (DP5)</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>地域での実践や外部の評価を受けることを念頭に置いて、調査活動や製作活動を行う。また、活動の内容を正確に伝えるための文章力やプレゼンテーション能力の充実を図る。</p> <p>卒業研究のテーマにつなげる学習を展開し、専門科目への興味を高めることも目的に含まれる。</p> <p>なお、大学構内での対面授業が困難な場合は、課題提供型授業とオンライン型授業（一方向・双方向）などを組み合わせて実施する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>演習 II では、卒業研究で取り扱うテーマを選定したり、実践的な課題に挑戦するための技術的な学習のためにグループによる輪読やプログラミング実習、および、発表を行う。研究の技術を身に付けた上で、卒業研究を遂行するために必要となる専門知識の修得を目指す。個人、グループにわかれて、卒業研究のテーマを選定し、研究の背景・意義・計画について、発表、議論を行う。加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | <p>演習中の発表内容、議論での積極性と内容を中心に評価する。</p> <p>発表内容や活動内容 70%、その他 30%</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | <p>ゼミでの活動においては、知識、技術、そして、心を鍛えていきます。自らが「経営情報」の最先端で学んでいる者として誇りを持って、課題に挑んでください。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | <p>久保准教授室 (11 号館 7 階)</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|------------------|---------|------------|
| 科目名 | 演習Ⅱ | 科目名(英文) | Seminar II |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 通年 | 授業担当者 | 武居 奈緒子 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS3057a0 | | |

| 授業概要・目的 | マーケティングについて、理論面と実態面の両側面から理解を深めることを目的とする。2回生で習得した専門用語、概念をさらに深化させていくとともに、実態分析にも力をそそいでいく。全体連絡は、teamsで行います。要件がある場合、緊急の場合は、武居の携帯電話に連絡して下さい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----------------|------|-----|------|---|-----------------|-----------------|-----|---|--|--|--|---|--|--|--|--|--|
| 到達目標 | 研究倫理を遵守し、マーケティング・流通に関する問題に関心を示し、ゼミメンバーでお互いにコミュニケーションを図る等の協働関係を構築し、問題解決に向けて、主体的に取り組む意欲にあふれ、積極的な態度を身につけることができる。(DP5) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 対面授業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | マーケティングの知識を深めたり、企業の成功要因について分析します。ケーススタディのアプローチ。ゼミで与えられた課題には、真摯に取り組むように。加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>グローバル・マーケティング戦略</td> <td>三浦俊彦・丸谷雄一郎・犬飼知徳</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | グローバル・マーケティング戦略 | 三浦俊彦・丸谷雄一郎・犬飼知徳 | 有斐閣 | 2 | | | | 3 | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | グローバル・マーケティング戦略 | 三浦俊彦・丸谷雄一郎・犬飼知徳 | 有斐閣 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | レポート(80%)、授業への取り組み(20%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 毎日、ポータルサイト、teams、ホームページをチェックするようにしましょう。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館8階 武居教授室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|------------------|---------|------------|
| 科目名 | 演習Ⅱ | 科目名(英文) | Seminar II |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 通年 | 授業担当者 | 針尾 大嗣 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS3057a0 | | |

| 授業概要・目的 | 企業のメディア戦略の目的・課題理解及び顧客データ活用に必要な基本的知識及びフレームワークを身につけることを目的として、主に以下の2つの内容について学ぶ。 1. 消費者行動・心理情報の分析モデル 2. 消費者行動・心理データの分析方法 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 研究倫理を遵守し、企業を取り巻く情報環境に関わる経営問題に関心を寄せ、ゼミの一員として互いの立場を尊重し積極的に他者との協働関係を築き、その問題の解決に主体的に取り組む意欲や態度を身につけることができる。(DP5) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 【すすめ方】 ・グループワークによる資料作成、発表が中心 ・他学年ゼミ生を含めた合同演習(年2回予定)とゼミ合宿を実施し、ゼミ学生間の交流を深めながら、研究・学習の質を高めていく。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前・事後学習課題 | 主に以下の内容に取り組む。 <前期> 1回: イントロダクション(演習2前期の進め方) 2回: アクイジションとリテンション(班分け、文献紹介) 3-5回: メディア戦略論(ITマーケティング、タッチポイント、顧客体験) 6-7回: 顧客行動分析の方法(文献学習) 8-9回: 顧客行動分析(カスタマージャーニーマップを用いた分析) 11-12回: 発表準備(発表資料作成) 13-14回: 発表(プレゼンテーション) 15回: まとめ(総括、ゼミ合宿の準備) <後期> 1回: イントロダクション(演習2後期の進め方) 2回: 顧客データの扱い(班分け、文献紹介) 3-5回: 回帰分析、判別分析(1) 6回: 発表 7-9回: クラスタ分析、数量化理論三類(2) 10回: 発表 11-13回: 因子分析(3) 14回: 発表 15回: まとめ(総括、ゼミ合宿の準備) 加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 出席状況、参加姿勢(発言、資料準備)、提出物 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館7階 針尾教授室 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 【学生へのメッセージ】 グループワークが中心ですので、時間や約束事をしっかり守って誠実に取り組んでください。 | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|------------------|----------|------------|
| 科目名 | 演習 II | 科目名 (英文) | Seminar II |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 通年 | 授業担当者 | 梅原 喜政 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS3057a0 | | |

| 授業概要・目的 | 日々、様々な情報処理技術が開発され、高度な AI が次々に登場しています。ゼミでは、そういった情報処理技術を上手く活用し、企業や社会が抱える課題を解消できる力を養成します。具体的には、学生同士でグループを形成し、課題の発見、その課題を解消するための要素技術の調査、ビジネスプランへの提案、民間企業との共同研究等を通して、課題を発見する洞察力と、課題を解消する提案力を身につけることを目指します。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 様々な企業や社会が抱える課題を見出し、それらを解消するために上手く情報処理技術を活用できるマインドを持てるようになること。 ゼミ活動を通して、伝えたいことを論理的に説明できるようになること。 自身の役割分担を意識してチームとして協働できるようになること。(DP5) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | ゼミでは、座学だけでなく、パソコンを使った実習を多く取り入れます。実際に、最新の情報処理技術に触れて、それらを上手く活用する能力を身に付けてもらいます。その後、類似した研究テーマごとにチームに分かれ、設定課題の詳細分析を行い、課題解消に向けた提案を行ってもらいます。 ゼミへの主体的かつ積極的な参加を期待します。授業形式としては、原則として対面形式としますが、状況に応じてオンライン型（リアルタイム配信）で行う場合もあります。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | ゼミ活動では、学生同士のチームを形成し、グループによる協同活動を通じて、様々な提案を行っていきます。そのためにも、まず、ゼミ内でのディスカッションを通じて、社会のニーズを捉え、それらに応えるための最新技術（シーズ）を分析してもらいます。その後、チームで協同し、ビジネスプランの提案、民間企業との協同研究に取り組んでもらいます。 ゼミでは、大きなマイルストーンは提示しますが、そこからは学生が細かなスケジュールを自ら考えて設定し、チームで目標達成に向かうことを基本とします。なお、研究の進捗度合いが悪い場合やコンテンツの締切前などは、講義時間外の学習時間が長くなる場合があります。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 演習 I、卒業研究 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 課題への取組姿勢、プレゼンテーション、ゼミ内討議への参加意欲で総合的に評価します。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | ゼミでの活動では、知識や技術の獲得のみならず、常に考えながらチームで協同することを重視します。この経験は、社会に出てからも大いに役に立ちます。ゼミへの自主的かつ積極的な参加を期待します。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館7階（梅原研究室） | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|------------------|---------|------------|
| 科目名 | 演習Ⅱ | 科目名(英文) | Seminar II |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 通年 | 授業担当者 | 鶴坂 貴恵 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS3057a0 | | |

| 授業概要・目的 | <p>マーケティングのゼミである。 マーケティングの基礎的知識をしっかりと身に着けることが大切であり、その定着を目指す。 そのために、フィールドワークを行い、課題発見、解決方法の策定、実行などに取り組んでもらい、マーケティングの知識の不足部分を補ってもらおう。 これらを通じて、知的専門職業人として活躍するために必要なマーケティング的な視点で事象をとらえることができることを目的とする。 さらに学生自らが主体的にゼミを運営することでポジティブな姿勢を身に着けることを目的とする。 まちづくりの実践や中小企業の経営革新等の支援を行ってきた担当者により、課題解決にむけた実践的な指導を行う。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <p>①フィールドワークを通じて、知的専門職業人として活躍するために必要なマーケティングの知識を応用できる。(DP5) ②チームで活動することで、自分の役割を認識し果たすことで、チームの成果を最大化する力が身に付く。(DP5) ③コミュニケーション能力と情報・データの活用を通じた表現力の向上を図り、主体性を身に付ける。(DP5) ④下の学年のゼミ生をとりまとめ、リーダーシップを発揮できる。(DP5)</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | マーケティング関連の講義を行いながらグループワークを実施する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>[授業テーマ] マーケティング論の定着と応用</p> <p>[内容] ゼミとしてのチームビルディングを行い、相互理解や自己理解・他者への配慮の大切さを学ぶ。 グループごとの作業を通じ、チームで目的を達成することの実際を体験し、その重要性を学ぶ。 マーケティングの知識を課題を通じて活用していく。 フィールドワークを通じて、マーケティング課題の把握と解決策の構築等を行う。 当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | マーケティング関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 平常の取組姿勢、学習状況、報告内容、レポートなどにより総合的に評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | <p>基本チームで動きますので、欠席をするとほかのメンバーに迷惑がかかります。そのためには必ずゼミやゼミで取り組むことには参加してください。 ゼミ学習を有効なものにするのもしないのも、本人次第です。受け身ではなく、主体的にゼミに参画することで学ぶことの楽しさを知ってほしいと思います。 さらにチームのなかのひとりに負担が偏らないように、他者への配慮を忘れず自分の役割を果たすことを心掛けてください。 これらができないと、ゼミ自体の運営に支障をきたしますので、自覚の上、授業を受けてください。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等備考 | 11号館7階 鶴坂教授室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|------------------|---------|------------|
| 科目名 | 演習Ⅱ | 科目名(英文) | Seminar II |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 通年 | 授業担当者 | 山本 圭三 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS3057a0 | | |

| 授業概要・目的 | 本ゼミでは、大きく2つのテーマに沿って学習していく。1つは「仕事、労働、職業を主題とした社会学的研究」である。なぜ人は働くのか、働くことは人々にとってどのような意味をもつのか、などについてじっくり考えていく。もう1つは「社会調査に関わる種々の知識・技術」である。様々な場面で求められる「調査」の能力の獲得を目指す。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <p>正確な知識に基づき、論理的な思考ができる。</p> <p>物事を多面的に理解し豊かな発想で議論できる。</p> <p>正確な文章が書ける。</p> <p>日常的な問題について社会学の知識を用いた解釈ができる (DP5)。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>テキスト等の読解を中心とする。受講生はテキストの指定された担当部分についてレジュメにまとめ、プレゼンをおこなう。他の受講生は報告者に対し質疑応答をおこなうとともに、報告者を含め全体で内容をさらに展開させるためのディスカッションをおこなう。データ収集や分析の実習もおこなうことになるが、基本的な形式は先のものに準ずる。また、論文やレポートの書き方についての指導は適宜行う。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>【テーマ・内容】 社会学一般および社会調査の知識獲得 より専門的な分野の文献通読をとおして、卒業研究に活かされる知識の獲得を目指す (例：職業社会学的研究、古典研究)</p> <p>【方法】 担当者によるプレゼンテーションと全体でのディスカッション</p> <p>【事前・事後課題】 (事前) プレゼン時の質疑応答を円滑にするために、テキスト以外の文献も通読する (0.5時間) (事後) プレゼン・質疑応答の内容のうち、自らの関心分野に関わる内容を文章としてまとめる (0.5時間)</p> <p>【補足】 社会科学分野に関連する不正防止のための研究倫理についても、演習Ⅰに継続して指導する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 授業への参加状況(出席、発言、資料)50%、提出物(内容の正確さ、文章の論理性、内容をふまえた展開)50% | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 卒業研究において自らの関心に基づいた研究を存分におこなえるよう、十分な知識を獲得したい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館7階 山本准教授室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 提出されたレポートは、後の授業時に資料として使用する。その際には、教員および他の受講生による講評に基づいた作業をおこなう。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|------------------|---------|------------|
| 科目名 | 演習Ⅱ | 科目名(英文) | Seminar II |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 通年 | 授業担当者 | 牧野 幸志 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS3057a0 | | |

| 授業概要・目的 | <p>牧野(幸)ゼミは経営に関する心理を学ぶゼミである。演習Ⅱでは、社会科学の研究手法と経営心理の専門知識を身につける。文献の内容をまとめて、発表しながら、討論を行う。経営に関する消費者心理、マーケティングにおける心理的効果などの基礎を学ぶことを目的とする。 SDGs-3, 4, 8, 9, 10, 12</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <p>演習Ⅱでは自分でテーマを決め、文献を購読し、科学的考察の意味を理解できるようになることができることを目標とする。その後、実際に心理学の手法と専門知識を習得することを目標とする。 問題発見能力や分析力を身につける。計画性を養う。また、知的専門職業人として活躍するための前提となるコミュニケーション能力と情報・データの活用を通した表現力を身につける。 研究倫理を遵守し、心理学、消費者行動を中心とした経営・経済問題に関心を寄せ、ゼミの一員として互いの立場を尊重し積極的に他者との協働関係を築き、その問題の解決</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>2022年度は、基本的に対面授業を行う。 新型コロナが感染が拡大している場合、あるいは、収束していない場合、にはオンライン授業を行う。 オンライン授業の場合には、受講生は、必ず毎週各自PCやスマホなどを利用して、teams や Moodle にアクセスすること。 演習Ⅱでは、各自が興味のある分野の文献を選び、発表し、ディスカッションを行う。演習の方法は、毎回担当者がPPによる資料を作成し、プレゼンテーションを行い、他の学生とディベートを行う。後期は専門書の内容をまとめてプレゼンテーションとディベート、</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題 | <p>授業テーマ・内容：経営における心理の専門知識とマーケティング実践 方法：各自文献を購読し、その内容をまとめてプレゼンテーションを行う。科学的な研究手法についても学ぶ。 事前学習課題：授業の下調べおよび学生同士のディスカッションをしておくこと(1時間) 事後学習課題：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) さらに、経営学、心理学分野に関連する不正防止のための研究倫理の習得にも引き続き務める。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 「市場調査入門」、「市場調査法」、「消費者心理学」などを受けていることが望ましい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 演習Ⅱは、遅刻せずに出席すること(オンラインを含む)を評価対象の最低条件とする。演習中の発表(50%)、授業への積極的参加度(30%)、事前事後学習課題(20%)の評価などで総合的に判断する。ディスカッション、グループワーク、反転授業などのアクティブ・ラーニングを行います。遅刻、欠席は減点の対象となります。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 演習Ⅱには必ず遅刻せずに、出席し、自主的・主体的に発言すること(オンラインを含む)。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館7階 牧野(幸)准教授室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 牧野(幸)ゼミは経営学部で心理学を学ぶゼミである。プレゼンテーションを行うことが多いため、Word, Excel, PowerPointなどの技術を習得する。何よりも人としての心理を大切に学ぶゼミであるので、“時間を守る、約束を守る、授業中私語をしない、寝ない、不必要なときにスマホを触らない”など人としての最低限のマナーは必ず守ること。 授業内で課された課題に対しては、その後のゼミの中で評価・解説を行い、フィードバックをする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|------------------|---------|------------|
| 科目名 | 演習Ⅱ | 科目名(英文) | Seminar II |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 通年 | 授業担当者 | 岩坪 加紋 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS3057a0 | | |

| 授業概要・目的 | ファイナンス(金融)で扱う事象は、わたしたちの身の回りにあります。端的に言えばお金に関する事で、財布の中の現金をはじめ、銀行や証券会社、保険会社、国債、株式、資産運用、キャッシュレス、フィンテック、企業の資金調達等々、社会にはお金に関する多様な問題を体系的に論じるのが学問としてのファイナンスです。日頃の生活はもちろん、ビジネスとも密接な関係にあります。本ゼミでは、そのようなお金に関する問題を『研究・探究』し、ファイナンス(金融)の考え方を修得するとともに、客観的な根拠に基づき主張する能力の修得を目的とします。本ゼミ希望者には成績の良し悪しは問いませんが、ゼミ仲間と協働しつつ関心を持って意欲的に主体的に参加し、態度として示してくれることに期待します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 研究倫理を遵守し、ファイナンス(金融)を中心とした経営・経済問題に関心を寄せ、ゼミの一員として互いの立場を尊重し積極的に他者との協働関係を築き、その問題の解決に主体的に取り組む意欲や態度を身につけることができる。(DP5) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 本演習では卒業論文の作成を行います。発表・質疑応答形式(プレゼンテーション)で進めます。発表の準備をする人はいうまでもありませんが、聞き手の学生にも積極性を求めます。問題意識に沿って資料収集と仮説設定を行い、教員や他の学生との討論を通して問題解決の“コツ”を掴んで欲しいと思います。また年末には4年生の卒論をルーブリック評価に基づき評価をしてもらう予定です。なお、2022年度は原則対面式で行いますが、新型コロナウイルス感染症防止のため、オンライン式に切り替えることもあります。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | 4月から6月にかけてテーマを選定し、順次作成します。12月末までに80%の完成を目指します。加えて該当する分野に関連する不正防止のための研究倫理についても合わせて取り上げ、指導・教育する予定です。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 経営学、経済学入門、ICT概論、ミクロ経済学、マクロ経済学、ファイナンス、コーポレートファイナンス等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | ゼミ活動に関心を持って意欲的に参加し、態度として示しているか否かで評価します。例えば、発表の準備を入念に行い、多面的視点で熟慮の跡が見られる態度は大きな加点の対象となります。また、他のゼミ生の発表に対して積極的に質問する態度も大きな加点の対象となる。一方、ゼミの欠席、特に発表者にも関わらず、無断で欠席する行為は大きな減点の対象となるのは想像がつくでしょう。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 企業が学生に求める能力は依然として高いと思います。易きに流れるは世の常ですが、後悔するのは自分自身です。この点、重々承知のこと。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館8階(岩坪教授室) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|------------------|----------|------------|
| 科目名 | 演習 II | 科目名 (英文) | Seminar II |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 通年 | 授業担当者 | 橋本 はる美 |
| ディプロマポリシー (DP) | DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS3057a0 | | |

| 授業概要・目的 | 演習 I で学習したデータの分析の他、テキストマイニングによる分析について学習する。インターネット上のデータを用いて、データの分析やアンケートデータの分析を行い、レポートを作成する。また、関連する文献や論文について調査をし、卒業研究に繋げるテーマを見つける。また、レポート作成における不正防止のための研究倫理について学習する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 教育現場や社会の情報通信技術の活用を理解し、情報社会の諸問題について関心を寄せ、グループディスカッションできる。Excel でのデータ処理、データの分析を通して、パソコンを使って発信することができる。(DP 5) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 授業は、パソコンを使った演習形式で行う。学習した内容やデータの分析結果等について発表する機会とグループでディスカッションする機会を持つ。遅刻や欠席は授業進行に影響するため、時間厳守で出席のこと。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>テキストマイニングによるデータの分析と演習</p> <p>関連する論文・文献の検索と整理</p> <p>レポート作成のための構成検討</p> <p>発表資料の作成</p> <p>発表とディスカッション</p> <p>レポート作成における不正防止のための研究倫理</p> <p>(事前・事後学習)</p> <p>授業時間中にできなかった内容については授業外の時間を使って完成する</p> <p>発表の場合は、事前に発表の練習をする</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 演習 I | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 課題の提出 (50%)、授業中の発表、授業の取り組み姿勢 (50%) を総合して評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 真面目に積極的に取り組んでください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11 号館 8 階 (橋本講師室) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|------------------|---------|---------------|
| 科目名 | 卒業研究 | 科目名(英文) | Senior Thesis |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 4年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 通年 | 授業担当者 | 堀井 千夏 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS4058a0 | | |

| 授業概要・目的 | 経営分野における情報技術をテーマとして取り組んできた演習 I および演習 II の内容を踏まえて、卒業研究では、情報化社会の実モデルを研究テーマとして一つ取り上げ、このテーマを題材に情報収集(サーベイ)や問題解決の演習を行っていく。最終的にはこの結果を卒業論文としてまとめ、プレゼンテーションやディスカッションの場を利用して情報発信能力を高めていく | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 1. 研究倫理を遵守し、情報と経営を中心とした問題に関心を寄せ、この問題の解決に主体的に取り組む意欲や態度を身につけることができる。(DP5) 2. 情報・データの収集・分析ができるようになる。(DP3) 3. 論理的思考を通して問題を発見し、その問題を解決できるようになる。(DP4) 4. コミュニケーション能力の向上ならびに多面的視点に基づき情報・データを活用した表現ができるようになる。(DP6) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | ICT を活用しながらゼミ形式の授業を行う。卒業論文の作成と就職活動について個別に指導していく。不正防止のための研究倫理を十分に踏まえた上で卒業論文を作成すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | 演習 I および演習 II で取り組んだ問題をさらに専門的な視点から解析する。この結果を卒業論文としてまとめる。また、卒業論文の内容を卒業研究報告会で発表する。卒業論文作成に当たっては、不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導・教育する。 [事前学習] 毎回必要となる知識の習得に努め、卒業論文の完成に向けて要点を整理しておくこと(各30分)。 [事後学習] 研究の進捗内容をまとめておき、卒業論文の作成に備えること(各1時間)。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 基礎演習、専門基礎演習、演習 I、演習 II | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 卒業論文(80%)および卒論発表(20%)の内容により総合的に評価する。ただし、卒業論文は経営学部のルーブリックに基づいて評価する。また、卒業論文について中間提出に間に合わない者、担当教員の添削を受けない者については適宜減点する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 卒業研究は卒業要件に関係するため、卒業論文の制作や提出に遅れが生じないように注意すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館8階 堀井教授室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 課題については実施した次の授業で講評する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|------------------|---------|---------------|
| 科目名 | 卒業研究 | 科目名(英文) | Senior Thesis |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 4年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 通年 | 授業担当者 | 久保 貞也 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS4058a0 | | |

| 授業概要・目的 | <p>ゼミでは、研究活動を通じて、実践力の高い情報技術と専門知識の修得、グループでの取組みによる人間力の向上、ならびに、課題設定から問題解決へとつなげる統合力の養成を目指す。また、総合的な研究・教育を目指すために、自治体、地元企業、団体などと積極的に交流を行い、活動の場を広げる。</p> <p>卒業研究において、大学4年間で学んだ知識や技術に裏付けられた主張を示し、研究論文、または、卒業制作としてまとめる。</p> <p>ゼミでは、研究という最高の知的活動を通じて、人としての成長を遂げることを目的としている。</p> <p>SDGs-3, 4, 5, 7, 8, 9, 11, 12</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <p>卒業研究においては以下の到達目標を設定する。</p> <p>(1) 研究テーマに対する説明責任を果たす (DP5)</p> <p>(2) QCDを意識したプロジェクト管理を行える (DP5)</p> <p>(3) 研究倫理を十分に理解した研究活動を実施できる (DP4)</p> <p>(4) 文章構成を意識したライティングが行える (DP6)</p> <p>(5) エビデンスに基づいた議論のためのデータ収集が行える (DP3)</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 適宜、全員進捗状況を報告する。中間報告、経過報告での議論とブラッシュアップを重視すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>大学における学びの集大成として、卒業研究もしくは卒業制作をおこなう。演習Ⅰ・演習Ⅱを通じて身に付けた専門知識を体系化し、自らが定めたテーマに関して研究を進める。研究、制作の成果は、卒業研究発表会において報告し、卒業研究論文を作成する。なお、卒業論文の作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は修得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 卒業研究論文の内容(中間報告、発表会、報告書のすべてを満たしていることが条件) 研究内容70%、ルーブリックによる評価10%、その他20% | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | ゼミでの活動においては、知識、技術、そして、心を鍛えていきます。自らが「経営情報」の最先端で学んでいる者として誇りを持って、課題に挑んでください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等備考 | 久保准教授室(11号館7階) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|------------------|---------|---------------|
| 科目名 | 卒業研究 | 科目名(英文) | Senior Thesis |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 4年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 通年 | 授業担当者 | 武居 奈緒子 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS4058a0 | | |

| 授業概要・目的 | 4年間の集大成である卒業論文を作成していくことを目的とします。 全体連絡は、teamsで行います。要件がある場合、緊急の場合は、武居の携帯電話に連絡して下さい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 研究倫理を遵守し、マーケティング・流通に関する問題に関心を示し、ゼミメンバーでお互いにコミュニケーションを図る等の協働関係を構築し、問題解決に向けて、主体的に取り組む意欲にあふれ、積極的な態度を身につけることができる。(DP5) 情報収集や分析ができ、論理的な思考を通して、問題を発見する能力を身につけることができる(DP3) 問題について、多面的な視点から判断して、計画立案、計画実行、実践し、問題解決できるようになる。(DP4) コミュニケーション能力を身につけ、情報やデータの活用による表現ができる | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 対面授業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | 卒業論文を作成し、提出するまでについて指導します。なお、卒業論文の作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は修得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 学部のルーブリック評価にしたがって、総合的に判断する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 毎日、ポータルサイト、teams、ホームページをチェックするようにしましょう。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館8階 武居教授室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|------------------|----------|---------------|
| 科目名 | 卒業研究 | 科目名 (英文) | Senior Thesis |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 4年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 通年 | 授業担当者 | 針尾 大嗣 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS4058a0 | | |

| 授業概要・目的 | 以下に関連する卒業研究テーマを決め、取り組む。 1. 企業の情報戦略（メディア戦略、ITビジネスモデル、サイバーセキュリティ等） 2. 顧客分析（ニーズ分析、行動分析等） | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 1. 研究倫理を遵守し、(先生のご専門分野名とか関心分野)を中心とした経営・経済問題に関心を寄せ、ゼミの一員として互いの立場を尊重し 積極的に他者との協働関係を築き、その問題の解決に主体的に取り組む意欲や態度を身につけることができる。(DP5) 2. 情報・データの収集・分析ができるようになる。(DP3) 3. 論理的思考を通して問題を発見し、その問題を解決できるようになる。(DP4) 4. コミュニケーション能力の向上ならびに多面的視点に基づき情報・データを活用した表現ができるようになる。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 【おすすめ方】 ・グループ及び個別研究指導 ・成果報告 ・他学年ゼミ生を含めた合同演習（年2回予定）とゼミ合宿を実施し、ゼミ生間の交流を深めながら、研究・学習の質を高めていく。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | 主に以下の内容に取り組む。 <前期> 1回：イントロダクション（卒研前期の進め方） 2回：テーマ発表 3-8回：グループ指導 9回：中間発表 10-14回：グループ指導 15回：まとめ（総括） <後期> 1回：イントロダクション（卒研後期の進め方） 2-8回：個別指導 9-11回：発表 12-13回：個別指導 14回：最終発表 15回：まとめ（総括、卒論提出） 加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法（基準） | 出席状況、参加姿勢（発言、資料準備）、提出物 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館7階 針尾教授室 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 【学生へのメッセージ】 グループワークが中心ですので、時間や約束事をしっかり守って誠実に取り組んでください。 | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|------------------|---------|---------------|
| 科目名 | 卒業研究 | 科目名(英文) | Senior Thesis |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 4年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 通年 | 授業担当者 | 栢木 紀哉 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS4058a0 | | |

| 授業概要・目的 | <p>演習Ⅰ・演習Ⅱを通して習得した以下のスキルをもとに卒業研究のテーマを設定し、研究活動を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マネジメントゲームを通じた経営的思考力、会計的思考力 2. プログラミングを通じた論理的思考力、問題解決力 3. 経営データの統計的分析手法 <p>これらのスキルを実践的に活用しながら各自の研究活動を進め、多面的視点に基づいて収集した情報・データを活用しつつ卒業論文としてまとめる。</p> <p>テーマは個別の興味・関心をもとに設定し、自主的に研究を進める。</p> <p>定期的にゼミの中で研究経過を相互に報告し、意見交換しながら卒業論文を完成させる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会人になるための準備として、自ら課題を設定し、その解決方法を探求できるようになることを目指す。(DP3、DP5) (2) 研究内容について、知識・理解を深め、論理的に説明できるようになることを目指す。 (3) 活動では、他のゼミ生とも協力しながら、多角的な視点から思考しつつ、計画立案力、課題解決力を身につける。(DP4、DP5) (4) 自分自身で設定した研究テーマに沿って卒業論文をまとめることで、知的専門職業人として活躍するためのコミュニケーション能力および情報・データ活用能力を通じた表現力を身 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>研究経過を定期的に報告することで、進捗状況を自己管理しながら計画的に卒業研究を進める。他のゼミ生の意見を参考にしながら、相互に協力し合い、他のゼミ生の知識・経験を高めることにも協力する。配布資料などを使った解説、ディスカッション、プレゼンテーションを適宜取り入れながら主体的に研究を進める。</p> <p>原則として対面型で授業を行う。ただし、活動内容に応じてオンライン型で行う場合もある。</p> <p>オンライン授業の形態としては、動画配信型授業(リアルタイム方式)で実施する。</p> <p>教材の配布、課題の提出等は、Moodleを使用す</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>各自が定めた研究テーマに基づいて、文献調査を行いながら研究内容を絞り込み、卒業論文にまとめる。その際、演習Ⅰ・Ⅱを通じて身につけた専門知識を取り入れながら、各自工夫しながら計画的に研究を進める。就職活動も伴うため、効率良い作業を求める。おおよその年間スケジュールは、以下の通りである。</p> <p>[前期]</p> <p>第1回：卒業研究について、年間計画の作成 第2～6回：文献検索、関連資料の整理 第7～9回：卒業研究の概要作成 第10～12：卒業研究に関連する基礎調査 第13～15：中間報告資料作成・発表</p> <p>[後期]</p> <p>第1回：休暇中の進捗報告 第2～5回：卒業論文の執筆 第6、7回：卒業論文の進捗報告 第8～11回：卒業論文の執筆 第12回：卒業論文の提出(修正前) 第13回：卒業論文の修正 第14回：卒業論文の提出(最終) 第15回：まとめ</p> <p>なお、卒業論文の作成に当たって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は修得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 演習Ⅰ、演習Ⅱ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | <p>定期的な進捗報告(20%)、中間・最終報告での発表(20%)、卒業研究に対するルーブリック評価(50%)、課題の提出状況(10%)をもとに総合的に評価します。</p> <p>卒業論文の作成が中心となるため、持続的な研究活動が求められます。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | <p>ゼミでの活動は、社会に出てからも大いに役に立ちます。知識・技能の修得だけでなく、どのようなことに対しても常に考えることを意識し、多くの経験を身につけてください。ゼミへの自主的な参加と積極的な提案を期待します。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館6階(経営学部非常勤講師室) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | <p>教科書や参考書については、演習の中で適宜紹介します。</p> <p>必要に応じて書籍を購入してもらった場合もあります。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|------------------|---------|---------------|
| 科目名 | 卒業研究 | 科目名(英文) | Senior Thesis |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 4年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 通年 | 授業担当者 | 鶴坂 貴恵 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS4058a0 | | |

| 授業概要・目的 | <p>マーケティングのゼミである。 これまでの学びの集大成を、卒業研究を通じて行う。 途中経過などのプレゼンテーションや質疑応答の実施を通じて、知的専門職業人として活躍するために必要なコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を養う。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 卒業研究を通じて、データ収集、分析、解釈の一連のステップを学び、身につける。(DP4) 課題を発見し、課題解決のための方法を多角的に分析した上で提案できる思考力を見つける(DP3) 知的専門職業人として活躍するために必要なコミュニケーション能力と情報・データの活用を通して表現力をみにつけ自分の伝えたいことを、正しく伝えることができる。(DP6) これまで学んだことの集大成として卒業研究を仕上げる(DP5) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 個人指導及び卒業研究内容のゼミでの発表を行う | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>[授業テーマ] マーケティング論を活用した卒業研究の制作</p> <p>[内容] 卒業研究テーマを設定し、適切な順序にもとづき卒業研究を進め、学士レベルの研究を行う 中間発表、および最終報告を行うにあたり、自分が行った卒業研究の内容を正しく伝える。 当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 経営学部全科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 卒業研究の取組み姿勢20%、内容(学部共通のルーブリック評価を活用します)60%、プレゼンテーション(中間・終了)20% | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | ゼミ学習を有効なものにするのもしないのも、本人次第です。受け身ではなく、主体的にゼミに参画することで学ぶことの楽しさを知ってほしいと思います。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館7階 鶴坂研究室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|------------------|---------|---------------|
| 科目名 | 卒業研究 | 科目名(英文) | Senior Thesis |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 4年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 通年 | 授業担当者 | 山本 圭三 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS4058a0 | | |

| 授業概要・目的 | 本ゼミにおける目標は、社会学に関するさまざまな知識を習得すること、各自で卒業論文を仕上げることである。本ゼミでは、3年次までの学習内容をふまえて、各自の関心に基づいた研究テーマを選択する。それぞれの研究テーマに沿って、もっとも適切な研究方法を選択し、それに基づいて分析をおこなう。分析を通して新たな知見を得て、それをまとめるかたちで論文を仕上げていく。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 独力で論文がまとめられる。 議論に必要なデータを独力で収集できる。 社会学的想像力をもって議論が展開できる。 正確な文章が書ける(DP3、DP4、DP5、DP6)。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 受講生は、それぞれの研究の進捗状況を授業時間内に報告する。報告担当以外のゼミ生は、教員とともに報告に対し意見を述べ、全体でディスカッションを行う。報告者はその内容をふまえて研究の作業を進める方針を定める。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>【授業内容】</p> <p>3年次までの学習内容などに基づき、卒業論文を完成させる。自身が設定した問題に関連する文献を幅広く参照すること、それをふまえて独自の分析をおこない、得られた知見をまとめて論文に仕上げる。</p> <p>【事前・事後学習】</p> <p>(事前) 授業内での報告をおこなうために、事前に文献通読・資料収集をおこないそれを整理しておく(1時間)</p> <p>(事後) 授業内でのコメントを精査し、事前資料とともに論文内の記述として文章にまとめる(1時間)</p> <p>【その他】</p> <p>なお、卒業論文の作成にあたっては、配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。受講生は修得した研究倫理を十分にふまえて卒業論文を作成する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 提出された論文(研究の着眼点、研究方法の適切さ、分析と成果のまとめ方の正確さ)、論文執筆に対する取り組み姿勢、報告時における姿勢、ディスカッションに対する参加程度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 他の受講生の報告内容から自分自身の研究のヒントを得ることもあるので、発表担当以外の日にも参加すること。無断欠席は厳禁とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館7階 山本准教授室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 提出された論文に基づいた諮問をおこなう。その作業を通して論文についての評価と改善点も提示する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|------------------|---------|---------------|
| 科目名 | 卒業研究 | 科目名(英文) | Senior Thesis |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 4年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 通年 | 授業担当者 | 牧野 幸志 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS4058a0 | | |

| 授業概要・目的 | 牧野(幸)ゼミは経営に関する心理を学ぶゼミである。卒業研究では、各自の興味に応じて研究テーマを決定し、卒業研究を実施していく。研究をまとめ、論文の書き方を学ぶことを目的とする。 SDGs-3, 4, 8, 9, 10, 12 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 卒業研究では、経営における心理、マーケティング、消費者心理、人間関係、組織行動などに関するテーマを自分で決め、前期は研究計画を立てることができることを目標とする。後期は、テーマに関する研究を実験、調査、面接などの手法を用いて研究を実施することができることを目標とする。最終的に、卒業論文を作成する。 具体的には、 1. 研究倫理を遵守し、(先生のご専門分野名とか関心分野)を中心とした 経営・経済問題に関心を寄せ、ゼミの一員として互いの立場を尊重し 積極的に他者との協働関係を築き、その問題の | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 2022年度は、基本的に対面授業を行う。 新型コロナが感染が拡大している場合、あるいは、収束していない場合、にはオンライン授業を行う。 オンライン授業の場合には、受講生は、必ず毎週各自PCやスマホなどを利用して、teams や Moodle にアクセスすること。 卒業研究では、各自のテーマに従い、研究の背景を調べ、その後、目的を明らかにした後で、実験や調査を行う。経営、心理学、マーケティングなどの分野の卒業研究をまとめていく。演習の方法は、毎回担当者がPPによる資料を作成し、プレゼンテーションを行い、 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | 授業テーマ・内容：経営における心理、人間関係、消費者心理、マーケティングなど 方法：各自のテーマの文献を購読し、研究計画を立て、研究を実施する。途中経過を発表する。論文をまとめる。 事前学習課題：設定したテーマについて文献を調べておく、発表の準備をしておく(1時間) 事後学習課題：当日指摘された箇所を改善しておく、次への課題をまとめておく(1時間) なお、卒業論文の作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 「消費者心理学」や「マーケティング」と関連する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 卒業論文は学部のルーブリック評価基準を用いて評価する。出席を必修とする。 授業での積極的活動(30%)、卒業研究の中間発表での評価(20%)、卒業研究の最終発表での評価(20%)、卒業研究の評価(30%)を総合的に判断する。 自分の研究を計画的に行い、卒業研究をまとめ、中間発表と最終発表を行うこと。 遅刻、欠席などは減点の対象となります。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 必ず出席し、卒業研究を着実に進めること(オンラインを含む)。 各締め切りを確実に守ること。中間報告と最終報告を必ず守ること。 2022年度は、新型コロナ感染拡大に注意しながら、対面授業を行う。 もし拡大した場合には、オンライン授業へ切り替える。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館7階 牧野(幸)研究室 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 牧野(幸)ゼミは、経営学部で心理学を学ぶゼミである。プレゼンテーションを行うことが多いため、Word, Excel, PowerPointなどを習得している必要がある。何よりも人としての心理を大切にせるゼミであるので、“時間を守る、約束を守る、授業中私語をしない、寝ない、不必要なときに、スマホを触らない”など人としての最低限のマナーは必ず守ること。卒業研究はアクティブ・ラーニングの場でもあるので、積極的に主体的に進めること。 授業内に課された課題に対しては、その後のゼミの中で評価・解説を行い、フィードバック | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|------------------|---------|---------------|
| 科目名 | 卒業研究 | 科目名(英文) | Senior Thesis |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 4年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 通年 | 授業担当者 | 樋口 友紀 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS4058a0 | | |

| 授業概要・目的 | <p>本ゼミでは、マーケティングや、マーケティングに関連する各種データの分析手法などを扱います。卒業研究では、演習Ⅰ・Ⅱで学んできた内容をもとに、卒業論文の完成を目指します。各自で選択した卒業論文のテーマを軸とし、資料の収集、調査票の設計、データ収集、分析や計算、考察などを通して卒業論文を作成してゆくこととなります。</p> <p>これまで以上に各自の責任が大きくなっていくため、卒業に向けてしっかりスケジュールをたて、計画的に作業を進めてください。また、卒業論文のテーマ選定には各自が興味を持つ諸問題が大きく関わってくるため、普段の生活の中でも常にデータやマーケティングを意識しておくよう努めてください。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業論文の執筆にあたり、情報の収集・分析の能力、論理的思考力を習得する。(DP3) 2. 卒業論文作成において、多様な社会における問題を発見し、解決する力を養う。(DP4) 3. 卒業論文作成時には、情報・データの活用を通じた表現力を身に着けるとともに、完成に向けて主体的に取り組む意欲や態度を養う。(DP5)(DP6) 4. 学生・教員とのディスカッションや卒業論文のプレゼンテーションを通して、コミュニケーション能力を向上させる。(DP6) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>演習Ⅰ・Ⅱで学んできた内容をもとに、卒業論文の完成を目指します。テーマについては、学生自身で興味のある内容を選択してもらうことになります。選択したテーマについて、どのように卒業論文をまとめあげていくかについては、教員による指導や、ゼミ生同士の話し合いを通して模索していきます。また、適宜ゼミ内の学生による卒論発表を実施します。そのため、出来る限り欠席は避けるようにしてください。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>卒業研究では、卒業論文の完成に向け、個別指導が中心となります。同時に、ゼミ内での卒業論文進捗発表などを適宜実施します。年度末にはゼミ生全員に各自の卒業論文をプレゼンテーションしてもらいますので、そのつもりで各自責任をもって作成に取り組むこと。また、設定された締切等は守るように努めること。卒業研究論文の作成の際、配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導します。不正防止のための研究倫理の指針・ガイドライン等を十分理解した上で、卒業論文の作成を進めることとなります。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | ループリック評価を前提に、出席率、授業態度、発表の内容などにより、総合的に判断します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 就職活動など各自の事情については考慮しますので、必ず連絡をするようにしてください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等備考 | 11号館8階(樋口研究室) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|------------------|---------|---------------|
| 科目名 | 卒業研究 | 科目名(英文) | Senior Thesis |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 4年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 通年 | 授業担当者 | 樋口 友紀 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS4058a0 | | |

| 授業概要・目的 | <p>本ゼミでは、マーケティングや、マーケティングに関連する各種データの分析手法などを扱います。卒業研究では、演習Ⅰ・Ⅱで学んできた内容をもとに、卒業論文の完成を目指します。各自で選択した卒業論文のテーマを軸とし、資料の収集、調査票の設計、データ収集、分析や計算、考察などを通して卒業論文を作成してゆくこととなります。</p> <p>これまで以上に各自の責任が大きくなっていくため、卒業に向けてしっかりスケジュールをたて、計画的に作業を進めてください。また、卒業論文のテーマ選定には各自が興味を持つ諸問題が大きく関わってくるため、普段の生活の中でも常にデータやマーケティングを意識しておくよう努めてください。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業論文の執筆にあたり、情報の収集・分析の能力、論理的思考力を習得する。(DP3) 2. 卒業論文作成において、多様な社会における問題を発見し、解決する力を養う。(DP4) 3. 卒業論文作成時には、情報・データの活用を通じた表現力を身に着けるとともに、完成に向けて主体的に取り組む意欲や態度を養う。(DP5)(DP6) 4. 学生・教員とのディスカッションや卒業論文のプレゼンテーションを通して、コミュニケーション能力を向上させる。(DP6) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>演習Ⅰ・Ⅱで学んできた内容をもとに、卒業論文の完成を目指します。テーマについては、学生自身で興味のある内容を選択してもらうことになります。選択したテーマについて、どのように卒業論文をまとめあげていくかについては、教員による指導や、ゼミ生同士の話し合いを通して模索していきます。また、適宜ゼミ内の学生による卒論発表を実施します。そのため、出来る限り欠席は避けるようにしてください。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>卒業研究では、卒業論文の完成に向け、個別指導が中心となります。同時に、ゼミ内での卒業論文進捗発表などを適宜実施します。年度末にはゼミ生全員に各自の卒業論文をプレゼンテーションしてもらいますので、そのつもりで各自責任をもって作成に取り組むこと。また、設定された締切等は守るように努めること。卒業研究論文の作成の際、配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導します。不正防止のための研究倫理の指針・ガイドライン等を十分理解した上で、卒業論文の作成を進めることとなります。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | ループリック評価を前提に、出席率、授業態度、発表の内容などにより、総合的に判断します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 就職活動など各自の事情については考慮しますので、必ず連絡をするようにしてください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等備考 | 11号館8階(樋口研究室) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|------------------|---------|---------------|
| 科目名 | 卒業研究 | 科目名(英文) | Senior Thesis |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 4年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 通年 | 授業担当者 | 橋本 はる美 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP3◎, DP4◎, DP5◎ | | |
| 科目ナンバリング | IDS4058a0 | | |

| 授業概要・目的 | これまでに学習した知識と技術を活用して卒業研究を行う。演習Ⅰ・Ⅱで用いた題材やこれまでに調べた情報技術の活用事例、情報技術による問題解決などをテーマとして、情報の収集、分析から、論理的なつながりを考えながら文章をまとめていく。卒業論文の作成にあたり不正防止のための研究倫理の教育も同時に実施する。最後にゼミで卒業論文発表会を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------|---|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | この授業を通じて学生には、①テーマに沿って主体的に考えて計画し、スケジュールに合わせて卒業研究ができること(DP4)、②テーマに沿った情報の収集と分析ができること(DP3)、③研究倫理を理解し、他者と情報交換を行いながら、自分の研究を進めること(DP5)、④ゼミ内で、プレゼンテーションなど情報発信をして、コミュニケーションがとれること(DP6)が期待される。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 卒業研究の手順(資料配付)に沿って進める。個別にテーマと方針を相談し、定期的にゼミ内で進捗確認と共有を行い、ディスカッションしながら次の段階に進む。課題や作業については、締め切り設定日までに必ず提出すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題 | <p>演習Ⅰ・Ⅱで使った事例や文献を参照しながら、情報・情報技術・企業(職種や内容など)をキーワードにしてテーマを考える。テーマが決まれば個別指導が中心となるが、定期的にゼミ内で共有しながら以下の内容で進める。卒業論文の作成にあたり不正防止のための研究倫理の教育も同時に実施する。</p> <p>前期</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業論文テンプレートの確認とWordで使う機能の確認 テーマの決定 構成の検討 スケジュールの作成 タイトルの検討 参考文献の収集・整理 論文の作成 <p>後期</p> <ul style="list-style-type: none"> 論文の作成 作成した論文の修正と調整 卒業論文の提出 発表会・発表の準備 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 演習Ⅰ・Ⅱ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 卒業研究の取り組み態度と提出状況(40%)、発表会の内容・準備状況(40%)、ループリック評価(20%) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 卒業研究は、授業以外の時間で考えたり作業をする時間が必要です。授業で他のゼミ生との情報共有や相談をしながら、スケジュールに合わせて進めていけるようにしたいです。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館8階(橋本講師室) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|----------------------------|
| 科目名 | 海外語学研修 | 科目名(英文) | Overseas Language Training |
| 学部 | 経営学部 | 学科 | 経営情報学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | カーティス チュウ |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | IE11335c1 | | |

| 授業概要・目的 | <p>本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMPは、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン(地球市民)の育成を目指す副専攻である。GCMPは、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標4.7「2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習(応用)での学びに生かすことが期待される。</p> <p>なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の履修者を想定し、GCMPの必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。 ・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。 ・事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前授業、現地派遣、事後授業の3つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合(アルバイト、旅行等)による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・グローバル・シチズンシップ副専攻課 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会～事前授業～現地派遣～事後授業のサイクルが、年間2回実施される。()内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の2～3月になる場合のスケジュールである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集説明会：4月中旬 (9月下旬～10月上旬) ・事前授業10回：6月中下旬～7月下旬 (11月～2月) ・現地派遣：2週間程度 8月中旬～9月上旬 (2月中下旬～3月下旬) ・事後授業5回(成果報告会含む)：9月～10月中旬 (3月～4月下旬) <p>【注意】新型コロナウイルス拡大の影響により、海外に渡航できない場合は、オンラインプログラムでの実施になる予定です。詳細は随時ポータルサイトで連絡します。</p> <p>本科目を受講する学生は、まずグローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのうちいずれかに参加申し込みをしないといけない。各派遣プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の2～3月に現地派遣されるプログラムの場合は、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。</p> <p>事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地で必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、グローバル教育センターが提供する英語ワークショップであるECW(English Conversation Workshop)、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALLの英語e-learningサービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。</p> <p>派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまっていけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるよう行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。</p> <p>事後授業では、現地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書(レポート)および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | グローバル・シチズンシップ論(入門)、グローバル・シチズンシップ論(応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習(応用)、Topics in Global Citizenship(EMI)、摂南大学PBLプロジェクトIなど | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合) 現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 在学中に一度は海外に行きましよう。いけるなら二度行きましよう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実習で二度行きましよう。 | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|--------------|---|
| 担当者の 研究室等 | 各海外派遣プログラムに関する相談、グローバル・シチズンシップ副専攻プログラム全体に関する相談は2号館2階グローバル教育センター (旧：国際交流センター)まで |
| 備考 | |

| | | | |
|----------------|--|----------|----------------------------------|
| 科目名 | 地域と私 | 科目名 (英文) | Introduction to Regional Science |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 地域志向系 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 上野山 裕士 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: A○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01452a1, L科: LL01354a1, D科・S科: IL01361a1, P科: YL01417a2, J科: JL01363a1, W科: WL01342a1, N科: NL01343a1 | | |

| | | | | |
|-----------------------|--|-----|-----|------|
| 授業概要・目的 | <p>地域に関わるさまざまな視点を学び、それについて他者と対話することを通じて、受講生一人ひとりがこれから地域とどのように向き合い、どのように行動していくかを考えていきます。 本講義は、対話、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に取り入れながら進めます。</p> <p>SDGs—1, 3, 4, 5, 7, 8, 9, 10, 11, 13, 14, 15, 17</p> | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域のことを学ぶ意義を理解する。 ・地域が抱えるさまざまな課題を把握する。 ・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。 ・グループにおける自分の役割を理解しながら活動できる。 ・地域の担い手としての自覚を持ち、自身と地域との今後の関わり方を具体的に描くことができる。 | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>グループでの対話や発表、レポートの作成といったグループワークが中心の授業です。 グループワークで学習を進めますので、グループのメンバーに迷惑がかけられないよう責任のある行動をしてください。</p> <p>講義は基本的に土曜日に不定期開催します。なお、講義の日程は変更となる場合があります。</p> | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p><4月9日(土) 1～3限> 第1回 「地域と私」への取り組み方; オリエンテーション 授業の進め方/ひとこと自己紹介 第2回 地域との関わり方 ～『調査されるという迷惑』を読む～ グループディスカッション/教室内での共有 第3回 地域のいまとその担い手 地域福祉の視点から概説/グループディスカッション/教室内での共有</p> <p><4月23日(土) 1～3限> 第4回 インタビューにチャレンジ ～聴く、掘り下げる、まとめる～ グループづくり/グループ内での相互インタビュー/インタビューで聴いた内容をメモする 第5回 質的データの分析にチャレンジ メモの内容を整理する/分析する 第6回 「身近な地域の課題解決・魅力磨き」をグループ、教室でシェアしよう 「身近な地域の課題解決・魅力磨き」について教室内プレゼンテーション&ディスカッション</p> <p><5月21日(土) 1, 2限> 第7回 地域に関するテーマを選定しよう 『地域』に関する文献の整理』についてのグループ内プレゼンテーション/グループで取り組むテーマの決定/グループワークの実施スケジュールの検討 第8回 グループワークについてシェアしよう グループワークテーマの教室内での共有・対話</p> <p><6月4日(土) 1, 2限> 第9回 グループワークに「具体的な地域」の視点を盛り込もう 「地域と防災」を例に考える/選定したテーマを「具体的な地域」から考える 第10回 グループワークに「担い手」の視点を盛り込もう テーマごとに「登場人物」を考える</p> <p><6月18日(土) 1, 2限> 第11回 グループワークの中間報告会 第12回 大学生は地域のためになにができるかを考えよう 地域と学生の協働的実践について概説/地域の担い手としての大学生の可能性/地域の担い手としての大学生の強みと弱みについて考える 個人ワーク/グループディスカッション/教室内での共有</p> <p><7月16日(土) 1～3限> 第13回 最終報告会① 第14回 最終報告会② 第15回 講義のふりかえり</p> | | | |
| 関連科目 | ソーシャル・イノベーション副専攻科目群 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法(基準) | <p>学びレポート(個人ワーク) 30%</p> <p>「身近な地域の課題解決・魅力磨き」『地域』に関する文献の整理」成果物(個人ワーク) 20%</p> <p>学びのグループワークレポート 30%</p> | | | |

| | |
|---------------|--|
| | 最終報告会でのプレゼンテーション 20% (ルーブリック評価) なお、60%で合格とする。 |
| 学生への メッセージ | 地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。 |
| 担当者の 研究室等 | 7号館3階 上野山研究室 |
| 備考 | |

| | | | |
|---------------|--|---------|--|
| 科目名 | 地域貢献実践演習 | 科目名(英文) | Practical Training for Social Innovation |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 地域志向系 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 水野 武, 植杉 大, 上野山 裕士, 小野 晃正, 橋本 はる美, 牧野 幸志 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: A○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL03457a1, L科: LL03366a1, D科・S科: TL03366a1, P科: YL03422a2, J科: JL03368a1, W科: WL0347a1, N科: NL03348a1 | | |

| 授業概要・目的 | この科目はソーシャル・イノベーション副専攻過程における実践科目です。4月・5月まではこれまでの講義やフィールドワークで見つけた学びを総合的に活かして、地域の課題により深く関与し、課題の解決を導くための計画策定から、実施、検証に至るまでを主体的に学ぶための準備を行います。6月(予定)からは連携先ご担当者様と密に連携しながら、課題の抽出、要因の理解、活動計画の立案を行い、課題解決・低減に向けて実践を行います。現地で実践と振り返りを繰り返しながら、当初立てた目標達成に向けた知識と技術の向上と責任ある行動を続けられる姿勢の確立を目的とします。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | SDGs 全般 ①これまで学んだ理論を実践に結びつけて、考察し行動することができる。 ②課題派遣から解決までのPDCAサイクルを回すことができる ③チームで活動することができる ④チーム内での役割を理解し協調的な行動ができる。 ⑤連携先の多様性、独自性などを理解した上で、解決策を提示することができる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 4月・5月までは座学とディスカッションを行うため、講義内で課題が出ることもある。 また前期の途中より各連携先のフィールドに赴き、活動を行う。 ※COVID-19の感染拡大状況により活動に制限がかかることもある。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | 1. オリエンテーション/副専攻修了者のイメージ、受講方法 : 4月20日(水)6限 ※2回目以降の講義の日は初回の講義にて提示する。なお開講日は水曜日6限になる。 2. 連携先様によるプレゼンテーションと質疑応答(4回目までに自身が希望する先を提出) 3. S科 橋本先生 公開情報を表計算ソフトで分析する/回帰分析、相関分析、平均の比較などを行う 4. S科 牧野先生 定量調査のためのアンケートフォームの作り方を学ぶ/マッチング結果の提示) 5. W科 植杉先生 オンライン・データベースを活用した分析手法を学ぶ 6. プレゼンテーション連携先について調べたことを報告 7. 以降は 現地に赴き、実践を繰り返す。 ※概ね3週間に一回、全員で集合し途中経過の報告会を行う。日時に関しては担当教員の指示に従うこと。 ※12月末(日時未定)に成果報告会を行う | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | ソーシャルイノベーション副専攻課程関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 課題提出物 30% 活動の取り組み状況 50% 最終報告等 20% | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 副専攻で学修した成果を実践勝つとどうで発揮しつつ、更に成長できるように主体的に取り組んでくんでほしい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 7号館3階 教育イノベーションセンター(水野) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|-------|---------|------------------------------------|
| 科目名 | 教育実習Ⅱ | 科目名(英文) | Teaching Practice II |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 4年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 松浦 正典, 吉田 佐治子 |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| 授業概要・目的 | 「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において10日間以上(80時間以上)の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----------|------|----|-----|-----|------|---|--------------------------|-----------|------|---|----------|-------|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | (1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>1 教育実習特別個人指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じる。</p> <p>2 教育実習事前指導(3月～4月) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個人指導(4月～7月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～7月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(8月～11月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教職フォーラム(育実習体験発表会)(10月) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(11月) 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 総括講義に出席後、総括レポートを作成、提出する。 「教育実習記録」を提出する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 教職関連科目全般 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td> <td>教育実習を考える会</td> <td>蒼丘書林</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学習指導要領解説</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項 | 教育実習を考える会 | 蒼丘書林 | 2 | 学習指導要領解説 | 文部科学省 | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項 | 教育実習を考える会 | 蒼丘書林 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 学習指導要領解説 | 文部科学省 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び事前指導・事後指導における課題提出物、教育実習記録による総合評価を行う。いずれか不十分なものは、単位を認定しない。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 7号館3階(朝日研究室、吉田研究室、松浦研究室、大野研究室) 7号館4階(谷口研究室) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 中学校教諭免許取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前指導および事後指導における事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|-------|---------|------------------------------------|
| 科目名 | 教育実習Ⅲ | 科目名(英文) | Teaching Practice III |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 4年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 松浦 正典, 吉田 佐治子 |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| 授業概要・目的 | 「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において15日間以上(120時間以上)の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----------|------|----|-----|-----|------|---|--------------------------|-----------|------|---|----------|-------|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | (1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>1 教育実習特別個人指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じること。</p> <p>2 教育実習事前指導(3月～4月) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個人指導(4月～7月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～7月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(8月～11月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教職フォーラム(教育実習体験発表会)(10月) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(11月) 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 総括講義出席後、総括レポートを作成、提出する。 「教育実習記録」を提出する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 教職関連科目全般 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td> <td>教育実習を考える会</td> <td>蒼丘書林</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学習指導要領解説</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項 | 教育実習を考える会 | 蒼丘書林 | 2 | 学習指導要領解説 | 文部科学省 | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項 | 教育実習を考える会 | 蒼丘書林 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 学習指導要領解説 | 文部科学省 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び各種提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 7号館3階(朝日研究室、吉田研究室、松浦研究室、大野研究室) 7号館4階(谷口研究室) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前指導および事後指導における事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|--|
| 科目名 | 地域実習 | 科目名 (英文) | Introductory Training for Regional Study |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 朝田 康禎, 古矢 篤史 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1～TT01465a1, L科: LT01366a1～LT01370a1, D科・S科: IT01371a1～IT01375a1, J科: JT01374a～JT01378a1, W科: WT01352a1～WT01356a1 | | |

| 授業概要・目的 | 地域での課題を発見し、それを解決できる力を養うには、まず「地域」というものを体験を通じ理解することから始まります。本科目は、ソーシャルイノベーション副専攻課程1年次の必修科目で、主としてフィールドワークを中心に授業を実施します。また、本科目は2年次の「摂南大学PBLプロジェクト」、3年次の「地域貢献実践演習」等の基礎となる科目として位置づけられています。地域の人々とのコミュニケーションや協働を通じて、目標の設定から達成までの過程を体験学習により学び、地域での課題等について理解を図ります。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | ①地域での実態を理解する。 ②チームで働く意義を理解する。 ③役割行動のあり方について理解する。 ④地域の方々とのコミュニケーションができるようになる。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 教室での授業とグループワーク、フィールドワークです。通年授業なので毎週、教室で授業があるのではなく、詳しいスケジュールは第1回授業で案内します。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題 | 1 チーム10名以内のチームを作り、地域での活動に取り組みます。 1. 年間計画を作成する。 2. 役割を決める。 3. 地域等で活動を行う。 4. 活動報告をまとめ、ふりかえる。 5. スケジュール管理をする。 6. 課題があれば、チームで話し合い解決に導く。 上記の1～6の活動を通じて自分たちの計画を自ら評価したり改善したりしながら、当初に設定した目標を達成できるよう、チームで協力して計画を実行していきます。第1回授業は4月12日(火)6時間目です。この時に詳しい内容やスケジュールを説明し、受講者がどの取組内容に参加するかなどを決定します。 この授業の実習先は寝屋川市の社会教育施設を予定しています。社会教育施設とは図書館、博物館、体育館、ホールなど市民なら誰でも学習にいくことのできる公的施設のことです。このような施設に実習にいくことによって市民が社会教育に参加する意義や運営の課題などを学んでいきます。 【前期】 開講時間はいずれも6時間目です。通年授業なので毎週教室で授業があるのではなく、前期は2週間に1回程度です。実習や実習先挨拶以外の日は学内教室での授業です。具体的な日には調整中ですので、第1回授業で案内します。 第1回「ガイダンス (授業概要の説明)」 第2回「寝屋川市の現状を考える(1)」 第3回「寝屋川市の現状を考える(2)」 第4回「寝屋川市まちあるき」(学外) 第5回「社会教育とは(1)」 第6回「社会教育とは(2)」 第7回「まちあるき報告会」 第8回「実習先挨拶」(学外) 第9回「実習先挨拶の結果報告とそのふりかえり」 第10回～第18回 「実習」(学外)(主に夏季休暇中に行います) 【後期】 後期の詳しい日程・発表方法等は改めてお知らせします。 第19回「実習ふりかえり(1)」 第20回「実習ふりかえり(2)」 第21回「全体報告会」 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | ソーシャルイノベーション副専攻課程科目 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 提出物(20%)、活動への参画の程度(40%)、最終報告プレゼンテーション(20%)、最終レポート(20%) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 地域創生の第一歩を踏み出してみましよう! | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等備考 | 朝田研究室 1号館7階 | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|---|
| 科目名 | グローバル・シチズンシップ海外実習(入門) | 科目名(英文) | Overseas Study for Global Citizenship(Introductory) |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 鎌田 美保 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B△,C科:II◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,J科:DP1◎,W科:DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,J科:JT01374a1~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1 | | |

| 授業概要・目的 | <p>本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMPは、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン(地球市民)の育成を目指す副専攻である。GCMPは、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標4.7「2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習(応用)での学びに生かすことが期待される。</p> <p>なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の履修者を想定し、GCMPの必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。 派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。 事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <ul style="list-style-type: none"> 事前授業、現地派遣、事後授業の3つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合(アルバイト、旅行等)による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 グローバル・シチズンシップ副専攻課 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会～事前授業～現地派遣～事後授業のサイクルが、年間2回実施される。()内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の2～3月になる場合のスケジュールである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 募集説明会:4月中旬(9月下旬～10月上旬) 事前授業10回:6月中下旬～7月下旬(11月～2月) 現地派遣:2週間程度8月中旬～9月上中旬(2月中下旬～3月下旬) 事後授業5回(成果報告会含む):9月～10月中旬(3月～4月下旬) <p>【注意】新型コロナウイルス拡大の影響により、海外に渡航できない場合は、オンラインプログラムでの実施になる予定です。詳細は随時ポータルサイトで連絡します。</p> <p>本科目を受講する学生は、まずグローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのうちいずれかに参加申し込みをしないといけない。各派遣プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の2～3月に現地派遣されるプログラムの場合、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。</p> <p>事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地が必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、グローバル教育センターが提供する英語ワークショップであるECW(English Conversation Workshop)、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALLの英語e-learningサービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。</p> <p>派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまっただけではいけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるように行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。</p> <p>事後授業では、現地地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書(レポート)および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | グローバル・シチズンシップ論(入門)、グローバル・シチズンシップ論(応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習(応用)、Topics in Global Citizenship(EMI)、摂南大学PBLプロジェクトIなど | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | <p>事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合)</p> <p>現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合)</p> <p>事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 在学中に一度は海外に行きましょう。いけるなら二度行きましょう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実習で二度行きましょう。 |
| 担当者の研究室等 | 各海外派遣プログラムに関する相談、グローバル・シチズンシップ副専攻プログラム全体に関する相談は2号館2階グローバル教育センター（旧：国際交流センター）まで |
| 備考 | |

| | | | |
|---------------|---|---------|----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクトI | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning I |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 浅野 英一・村瀬 憲昭 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B△,C科:II◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,J科:DP1◎,W科:DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1 | | |

| 授業概要・目的 | <p>市役所(町役場)の職員、自治会の役職者、市民(町民)などの組織・活動グループと学生が直接関わることで、学生の社会人基礎力やプロジェクトの推進・運営などの人間力の向上を図る。プロジェクトを推進し、積極的に行動する経験を基本に就業力の向上を目指す。また、学生のレベルや必要に応じて担当教員が必要な情報の収集方法や、技術の習得方法について指導を行う。実践で習得するものは「段取り」といわれるもので、プロジェクトの中長期的な役割や仕事について、締め切りを設定し、そこから逆算して、いつ何をやるべきか、仕事の道筋を立てる知識と技術、仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール(締切日)から逆算する。</p> <p>①調査:地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画:具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施:実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中で実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告:プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICTツールを活用した遠隔授業(非同期・非対面式)の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDFファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>社会人として必要な「主体性・実行力・課題発見力・発言力」を連携先との協働作業によって実践的に学ぶ。仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール(締切日)から逆算することで、これらのタスクをいつこなすべきなのかを明確にし、仕事を前倒しでやる習慣を身につける。</p> <p>具体的には①優先順位を付け、作業手順決定する、②仕事の全体像を把握する、③仕事の準備と計画など。役割分担された内容について、各グループで責任を持って実施し、自分たちで評価・改善ができるようにする。グループをまとめる役割の人は、リーダーシップ能力、その他の人はサポート者の重要性を体感する。</p> <p>活動対象の地方自治体および団体: 大阪府寝屋川市、交野市、和歌山県すさみ町、アクトバル宇治、寝屋川青年会議所</p> <p>SDGsゴール:9・11・17</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 7号館5階 浅野教授研究室 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。 | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|-----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクトII | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning II |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 浅野 英一・村瀬 憲昭 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1 | | |

| 授業概要・目的 | <p>市役所(町役場)の職員、自治会の役職者、市民(町民)などの組織・活動グループと学生が直接関わることで、学生の社会人基礎力やプロジェクトの推進・運営などの人間力の向上を図る。プロジェクトを推進し、積極的に行動する経験を基本に就業力の向上を目指す。また、学生のレベルや必要に応じて担当教員が必要な情報の収集方法や、技術の習得方法について指導を行う。実践で習得するものは「段取り」といわれるもので、プロジェクトの中長期的な役割や仕事について、締め切りを設定し、そこから逆算して、いつ何をやるべきか、仕事の道筋を立てる知識と技術、仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール(締切日)から逆算する。</p> <p>①調査: 地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画: 具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施: 実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中で実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告: プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICT ツールを活用した遠隔授業(非同期・非対面式)の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDFファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>社会人として必要な「主体性・実行力・課題発見力・発言力」を連携先との協働作業によって実践的に学ぶ。仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール(締切日)から逆算することで、これらのタスクをいつこなすべきなのかを明確にし、仕事を前倒しでやる習慣を身につける。</p> <p>具体的には①優先順位を付け、作業手順決定する、②仕事の全体像を把握する、③仕事の準備と計画など。役割分担された内容について、各グループで責任を持って実施し、自分たちで評価・改善ができるようにする。グループをまとめる役割の人は、リーダーシップ能力、その他の人はサポート者の重要性を体感する。</p> <p>活動対象の地方自治体および団体: 大阪府寝屋川市、交野市、和歌山県すさみ町、アクトバル宇治、寝屋川青年会議所</p> <p>SDGs ゴール: 9・11・17</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 参加態度 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表能力 20%で評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 7号館5階 浅野教授研究室 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。 | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクトI | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning I |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 田中 樹 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1 | | |

| 授業概要・目的 | <p>「ベトナム中部貧困地区での古絵本を活用する学習支援（ベトナム絵本プロジェクト）」</p> <p>概要： ベトナム・フエ外国語大学日本語学科の教員や学生らと協働し、フエ市の貧困地区での学習支援活動に取り組む。学習支援の内容には、日本での古絵本集めとベトナムへの送付、日本語学科学生らの翻訳作業のサポート（特に内容や言葉の意味の解釈）などが含まれる。また、ベトナム語会話を習得する機会を設ける。</p> <p>目的： (1) 貧困地区にある小学校に向けた絵本教材（日本の古絵本のベトナム語翻訳版）を作成し、図書教材の充実を図る (2) 貧困家庭に育った小学校低学年児童に向けた絵本の読み語りを通じて学習習慣を身に着ける支援を行う。 (3) 貧困地区での学習支援モデルを学生主導で形成する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|--------------------|-----------|-----|------|---|--------------------------|------|------|---|------------------------|--------------------|-----------|---|--|--|--|
| 到達目標 | 本プロジェクトでは、参加メンバーと学外の連携先（おもにフエ外国語大学の学生ら）との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身に着けるとともに、新しい価値の創造を目指す。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | この授業は、「座学（基礎講座）」と「ベトナム語基礎会話」、「日越学生交流（異文化理解、絵本の翻訳支援など）」、「成果発信（討論、成果品の作成、発表）」から構成される。ベトナム人学生とのコミュニケーションは、基本的には日本語で行われるが、授業が進むにつれ英語やベトナム語を取り込む。「ベトナム語基礎会話」と「日越学生交流（異文化理解、絵本の翻訳支援など）」は、Zoomを用いてのリモート形式となり、日時についてはベトナム側とも相談して設定する。 海外の学生との交流となるため、礼節と敬意ある振る舞いはもちろんの | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <ol style="list-style-type: none"> 1 基礎講座① オリエンテーション／事前学習：シラバスの理解 2 プロジェクトガイダンス プロジェクトの概要説明と自己紹介／事後学習：リアクションペーパー 3 ベトナム語基礎会話① 招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 4 日越学生交流① Zoomでのリモート交流会（自己紹介や活動紹介など）／事後学習：同上 5 基礎講座② 「執事のダンドリ手帳」からダンドリの基本を学ぶ／事後学習：同上 6 基礎講座③ 情報発信力を磨く／事後学習：同上 7 ベトナム語基礎会話② 招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 8 日越学生交流② Zoomでのリモート交流会（ベトナム中部の暮らしや文化の紹介）／事後学習：同上 9 基礎講座④ 会議を回せ！ーファシリテーションについて考える①ー／事後学習：同上 10 基礎講座⑤ 会議を回せ！ーファシリテーションについて考える②ー／事後学習：同上 11 ベトナム語基礎会話③ 招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 12 日越学生交流③ Zoomでのリモート交流会（日本語訳チェックや文化的背景の説明、ベトナム語会話）／事後学習：同上 13 基礎講座⑥ 活動内容をシェアしよう（中間報告会）／事後学習：同上 14 ベトナム語基礎会話④ 招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 15 日越学生交流④ Zoomでのリモート交流会（日本語訳チェックや文化的背景の説明、ベトナム語会話）／事後学習：同上 16 古絵本集め① 学内や父兄への古絵本寄贈の呼びかけ 17 古絵本集め② 寄贈された古絵本の梱包と発送 18 基礎講座⑦ オーディエンスを引き付けろ！ーポスターセッションの教室ー／事後学習：同上 19 ポスターセッション（摂大祭期間中） 20 ベトナム語基礎会話⑤ 招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 21 日越学生交流⑤ Zoomでのリモート交流会（日本語訳チェックや文化的背景の説明、ベトナム語会話）／事後学習：同上 22 ベトナム語基礎会話⑥ 招へい講師による基礎ベトナム語の授業／事後学習：同上 23 日越学生交流⑥ Zoomでのリモート交流会（日本語訳チェックや文化的背景の説明、ベトナム語会話）／事後学習：同上 24 日越学生交流⑦ Zoomでのリモート交流会（新たな課題の発掘と意見交換、ベトナム語会話）／事後学習：同上 25 基礎講座⑧ 活動を内省する／事後学習：同上 26 基礎講座⑨ プレゼンの教室／事後学習：同上 27 日越学生交流⑧ Zoomでのリモート交流会（新たな課題に関する活動案の作成、ベトナム語会話）／事後学習：同上 28 日越学生交流⑨ Zoomでのリモート交流会（新たな課題に関する活動案の作成、ベトナム語会話）／事後学習：同上 29 日越学生交流⑩ Zoomでのリモート交流会（活動の振り返りと総括、ベトナム語会話）／事後学習：同上 30 最終報告会 PBL科目報告会での発表 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>物語 ヴェトナムの歴史 一億人国家のダイナミズム</td> <td>小倉貞夫</td> <td>中公新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>旅の指差し会話 11 ベトナム（ベトナム語）</td> <td>池田浩明（著）、朝倉千夏（イラスト）</td> <td>情報センター出版局</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 物語 ヴェトナムの歴史 一億人国家のダイナミズム | 小倉貞夫 | 中公新書 | 2 | 旅の指差し会話 11 ベトナム（ベトナム語） | 池田浩明（著）、朝倉千夏（イラスト） | 情報センター出版局 | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 物語 ヴェトナムの歴史 一億人国家のダイナミズム | 小倉貞夫 | 中公新書 | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 旅の指差し会話 11 ベトナム（ベトナム語） | 池田浩明（著）、朝倉千夏（イラスト） | 情報センター出版局 | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法（基準） | 授業ごとのリアクションペーパー（60%）と中間発表および最終発表（各20%）で評価し、60%以上を合格とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | <p>(1) この取り組みは、学び（異文化理解、ベトナム語会話など）、実践活動（フエ市近郊の貧困地区での学習支援の一環）、価値創造（新たな取り組みの提案）などを含みます。大学での授業を通して実施可能な国際協力の事例づくりを目指します。</p> <p>(2) 本学では提供されていないベトナム語会話の授業が含まれます。設定された授業日以外にもフエ外国語大学の学生らと交流し、そのレベルを上げることが出来ます。</p> <p>(3) 受講する学生らの意向があれば、このシラバスに沿いながらも、授業内容を柔軟に変更します。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 枚方キャンパス 8号館（農学部棟）・環境農学研究室（213号室） | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|-----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクトII | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning II |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 田中 樹 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1 | | |

| 授業概要・目的 | <p>「ベトナム中部貧困地区での古絵本を活用する学習支援（ベトナム絵本プロジェクト）」</p> <p>概要： ベトナム・フエ外国語大学日本語学科の教員や学生らと協働し、フエ市の貧困地区での学習支援活動に取り組む。学習支援の内容には、日本での古絵本集めとベトナムへの送付、日本語学科学生らの翻訳作業のサポート（特に内容や言葉の意味の解釈）などが含まれる。また、ベトナム語会話を習得する機会を設ける。</p> <p>目的： (1) 貧困地区にある小学校に向けた絵本教材（日本の古絵本のベトナム語翻訳版）を作成し、図書教材の充実を図る (2) 貧困家庭に育った小学校低学年児童に向けた絵本の読み語りを通じて学習習慣を身に着ける支援を行う。 (3) 貧困地区での学習支援モデルを学生主導で形成する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|--------------------|-----------|-----|------|---|--------------------------|------|------|---|------------------------|--------------------|-----------|---|--|--|--|
| 到達目標 | 本プロジェクトでは、参加メンバーと学外の連携先（おもにフエ外国語大学の学生ら）との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身に着けるとともに、新しい価値の創造を目指す。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | この授業は、「座学（基礎講座）」と「ベトナム語基礎会話」、「日越学生交流（異文化理解、絵本の翻訳支援など）」、「成果発信（討論、成果品の作成、発表）」から構成される。ベトナム人学生とのコミュニケーションは、基本的には日本語で行われるが、授業が進むにつれ英語やベトナム語を取り込む。「ベトナム語基礎会話」と「日越学生交流（異文化理解、絵本の翻訳支援など）」は、Zoomを用いてのリモート形式となり、日時についてはベトナム側とも相談して設定する。 海外の学生との交流となるため、礼節と敬意ある振る舞いはもちろんの | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <ol style="list-style-type: none"> 1 基礎講座① オリエンテーション/事前学習：シラバスの理解 2 プロジェクトガイダンス プロジェクトの概要説明と自己紹介/事後学習：リアクションペーパー 3 ベトナム語基礎会話① 招へい講師による基礎ベトナム語の授業/事後学習：同上 4 日越学生交流① Zoomでのリモート交流会（自己紹介や活動紹介など）/事後学習：同上 5 基礎講座② 「執事のダンドリ手帳」からダンドリの基本を学ぶ/事後学習：同上 6 基礎講座③ 情報発信力を磨く/事後学習：同上 7 ベトナム語基礎会話② 招へい講師による基礎ベトナム語の授業/事後学習：同上 8 日越学生交流② Zoomでのリモート交流会（ベトナム中部の暮らしや文化の紹介）/事後学習：同上 9 基礎講座④ 会議を回せ！ーファシリテーションについて考える①ー/事後学習：同上 10 基礎講座⑤ 会議を回せ！ーファシリテーションについて考える②ー/事後学習：同上 11 ベトナム語基礎会話③ 招へい講師による基礎ベトナム語の授業/事後学習：同上 12 日越学生交流③ Zoomでのリモート交流会（日本語訳チェックや文化的背景の説明、ベトナム語会話）/事後学習：同上 13 基礎講座⑥ 活動内容をシェアしよう（中間報告会）/事後学習：同上 14 ベトナム語基礎会話④ 招へい講師による基礎ベトナム語の授業/事後学習：同上 15 日越学生交流④ Zoomでのリモート交流会（日本語訳チェックや文化的背景の説明、ベトナム語会話）/事後学習：同上 16 古絵本集め① 学内や父兄への古絵本寄贈の呼びかけ 17 古絵本集め② 寄贈された古絵本の梱包と発送 18 基礎講座⑦ オーディエンスを引き付けろ！ーポスターセッションの教室ー/事後学習：同上 19 ポスターセッション（摂大祭期間中） 20 ベトナム語基礎会話⑤ 招へい講師による基礎ベトナム語の授業/事後学習：同上 21 日越学生交流⑤ Zoomでのリモート交流会（日本語訳チェックや文化的背景の説明、ベトナム語会話）/事後学習：同上 22 ベトナム語基礎会話⑥ 招へい講師による基礎ベトナム語の授業/事後学習：同上 23 日越学生交流⑥ Zoomでのリモート交流会（日本語訳チェックや文化的背景の説明、ベトナム語会話）/事後学習：同上 24 日越学生交流⑦ Zoomでのリモート交流会（新たな課題の発掘と意見交換、ベトナム語会話）/事後学習：同上 25 基礎講座⑧ 活動を内省する/事後学習：同上 26 基礎講座⑨ プレゼンの教室/事後学習：同上 27 日越学生交流⑧ Zoomでのリモート交流会（新たな課題に関する活動案の作成、ベトナム語会話）/事後学習：同上 28 日越学生交流⑨ Zoomでのリモート交流会（新たな課題に関する活動案の作成、ベトナム語会話）/事後学習：同上 29 日越学生交流⑩ Zoomでのリモート交流会（活動の振り返りと総括、ベトナム語会話）/事後学習：同上 30 最終報告会 PBL科目報告会での発表 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>物語 ヴェトナムの歴史 一億人国家のダイナミズム</td> <td>小倉貞夫</td> <td>中公新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>旅の指差し会話 11 ベトナム（ベトナム語）</td> <td>池田浩明（著）、朝倉千夏（イラスト）</td> <td>情報センター出版局</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 物語 ヴェトナムの歴史 一億人国家のダイナミズム | 小倉貞夫 | 中公新書 | 2 | 旅の指差し会話 11 ベトナム（ベトナム語） | 池田浩明（著）、朝倉千夏（イラスト） | 情報センター出版局 | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 物語 ヴェトナムの歴史 一億人国家のダイナミズム | 小倉貞夫 | 中公新書 | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 旅の指差し会話 11 ベトナム（ベトナム語） | 池田浩明（著）、朝倉千夏（イラスト） | 情報センター出版局 | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法（基準） | 授業ごとのリアクションペーパー（60%）と中間発表および最終発表（各20%）で評価し、60%以上を合格とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | <p>(1) この取り組みは、学び（異文化理解、ベトナム語会話など）、実践活動（フエ市近郊の貧困地区での学習支援の一環）、価値創造（新たな取り組みの提案）などを含みます。大学での授業を通して実施可能な国際協力の事例づくりを目指します。</p> <p>(2) 本学では提供されていないベトナム語会話の授業が含まれます。設定された授業日以外にもフエ外国語大学の学生らと交流し、そのレベルを上げることが出来ます。</p> <p>(3) 受講する学生らの意向があれば、このシラバスに沿いながらも、授業内容を柔軟に変更します。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 枚方キャンパス 8号館（農学部棟）・環境農学研究室（213号室） | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクトI | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning I |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 石田 裕子 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1 | | |

| 授業概要・目的 | <p>授業概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。</p> <p>目的：寝屋川市自然体験学習室の活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の子どもの環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での環境保全活動や巨椋池ビオトープを題材に学習・調査を進める。プロジェクト</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>連携内容・方法：自然体験学習室では、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 寝屋川市自然体験学習室における環境学習支援 2. 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 環境保全活動（天然アユ復活、木津川での伝統工法を用いた環境改善）の学習 6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 <p>方法：授業のうち半分（月1回）は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分（月1回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（6月）、近畿水環境交流会（7月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。</p> <p>授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポート課題を課す。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | <p>自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C科）</p> <p>科学技術教養C1、C2</p> <p>教養特別講義「SDGsで読み解く淀川流域」</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法（基準） | <p>授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。（60%）</p> <p>水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。（40%）</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | <p>子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | <p>1号館3階 石田裕子准教授室</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|-----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクトⅡ | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning II |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 石田 裕子 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1 | | |

| 授業概要・目的 | <p>授業概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。</p> <p>目的：寝屋川市自然体験学習室の活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の子どもの環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での環境保全活動や巨椋池ビオトープを題材に学習・調査を進める。プロジェクト</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>連携内容・方法：自然体験学習室では、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 寝屋川市自然体験学習室における環境学習支援 2. 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 環境保全活動（天然アユ復活、木津川での伝統工法を用いた環境改善）の学習 6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 <p>方法：授業のうち半分（月1回）は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分（月1回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（6月）、近畿水環境交流会（7月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。</p> <p>授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポート課題を課す。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | <p>自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C科）</p> <p>科学技術教養C1、C2</p> <p>教養特別講義「SDGsで読み解く淀川流域」</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法（基準） | <p>授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。（60%）</p> <p>水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。（40%）</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | <p>子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | <p>1号館3階 石田裕子准教授室</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクトI | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning I |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 上野山 裕士 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科: S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1 | | |

| 授業概要・目的 | <p>テーマ: 地域の担い手としての大学生の役割を考え、実践する</p> <p>概要: 和歌山県海草郡紀美野町および大阪府寝屋川市などの地域をフィールドに、ひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験、その他の作業等を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。</p> <p>SDGs-3, 11, 17</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <p>①地域に暮らす人びとの生活を知り、地域生活やその課題の多様性について説明することができる</p> <p>②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について考えを述べることができる</p> <p>③地域における生活支援体制の構築にかかわる主体について説明することができる</p> <p>④「地域の見守り、支え合い」の担い手としての自覚と責任を身につける</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>文献、資料等を用いた学内研修と複数地域における現地調査を実施します。</p> <p>具体的には、学内研修(地域について学ぶ)→現地調査(地域について知る)→学内研修(地域について考える)→現地調査(地域のために活動する)→学内研修(活動を振り返り、評価する)というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>講義では以下の内容に取り組みます(進捗状況によって変更となる場合があります)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内研修: 活動地域の人口・産業・伝統・観光・その他の特性について、地域福祉の考え方について、日常生活支援体制の構築方法について、中間報告会および最終報告会に向けた準備について、等(週一回程度; 各回の実施に当たってはテーマに応じた自主学習(1時間程度)が求められます) ・地域での活動: 地域視察、地域住民との交流、日常生活支援体制構築に向けた実践、等(月一回程度; 学外研修後には活動成果の整理および実施意義の分析にかかる自主学習(2時間程度)が求められます) ・中間報告会、最終報告会: 他のプロジェクトと合同で実施(各一回) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | なし | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 学内研修および地域での活動への主体的な参加および中間/最終報告会に対する貢献度により評価します。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | <p>生きづらさを抱える人びとの生活に寄り添い、それらを解消するための方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。</p> <p>都会から離れた場所での生活を実際に体験し、くらしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか?</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等備考 | 7号館3階 上野山研究室 | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|-----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクトII | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning II |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 上野山 裕士 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1 | | |

| 授業概要・目的 | <p>テーマ: 地域の担い手としての大学生の役割を考え、実践する</p> <p>概要: 和歌山県海草郡紀美野町および大阪府寝屋川市などの地域をフィールドに、ひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験、その他の作業等を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。</p> <p>SDGs-3, 11, 17</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <p>①地域に暮らす人びとの生活を知り、地域生活やその課題の多様性について説明することができる</p> <p>②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について考えを述べるができる</p> <p>③地域における生活支援体制の構築にかかわる主体について説明することができる</p> <p>④「地域の見守り、支え合い」の担い手としての自覚と責任を身につける</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>文献、資料等を用いた学内研修と複数地域における現地調査を実施します。</p> <p>具体的には、学内研修(地域について学ぶ)→現地調査(地域について知る)→学内研修(地域について考える)→現地調査(地域のために活動する)→学内研修(活動を振り返り、評価する)というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>講義では以下の内容に取り組みます(進捗状況によって変更となる場合があります)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内研修: 活動地域の人口・産業・伝統・観光・その他の特性について、地域福祉の考え方について、日常生活支援体制の構築方法について、中間報告会および最終報告会に向けた準備について、等(週一回程度; 各回の実施に当たってはテーマに応じた自主学習(1時間程度)が求められます) ・地域での活動: 地域視察、地域住民との交流、日常生活支援体制構築に向けた実践、等(月一回程度; 学外研修後には活動成果の整理および実施意義の分析にかかる自主学習(2時間程度)が求められます) ・中間報告会、最終報告会: 他のプロジェクトと合同で実施(各一回) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | なし | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 学内研修および地域での活動への主体的な参加および中間/最終報告会に対する貢献度により評価します。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | <p>生きづらさを抱える人びとの生活に寄り添い、それらを解消するための方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。</p> <p>都会から離れた場所での生活を実際に体験し、くらしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか?</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等備考 | 7号館3階 上野山研究室 | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|---|---------|----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクトI | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning I |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 鎌田 美保 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B△,C科:II◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,J科:DP1◎,W科:DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1 | | |

| 授業概要・目的 | コンビニ、工場、飲食店など、日本で働く外国人が増えています。また日本で学ぶ留学生も増えています。外国人を受け入れ、共生するには、何が必要でしょうか？このプロジェクトでは、まずは、日本に住む外国人住民、外国人労働者、外国人研修生、留学生などと交流し、彼らの声に耳を傾けます。そして、「共生」するには何が必要なのかを考え、課題解決に向けて取り組みます。(プロジェクト参加にあたり、英語力などの語学力は不問です。) | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | ①多文化共生をめぐる課題や外国人住民、外国人労働者がかかえる現状と課題を理解し、課題を自分事としてとらえることができる。 ②多文化共生をめぐる課題や外国人住民、外国人労働者がかかえる課題の解決に向けて、具体的な行動計画を立てたうえで、提案し、実施することができる。 ③異なる文化的背景を持つ多様な人々と対話し、相手の意見を尊重しながら、自身の考えを構築し、説明し、一定の合意形成を図ることができる。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | グループでの活動が中心となり、外部機関(寝屋川市国際交流協会)とも連携し、活動を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生の現状と課題 ・やさしい日本語 ・在住外国人との交流、インタビュー活動 ・寝屋川市国際交流協会多文化共生フェスタへの参加 <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生の現状と課題、やさしい日本語：講義+演習形式 ・その他の内容：グループで話し合い、活動を行う <p>【事後学習】</p> <p>受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらう。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | グローバル・シチズンシップ論(入門)、グローバルシチズンシップ論(応用) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 各活動への貢献度60%、活動日誌・最終レポート40% | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|-----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクトⅡ | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning II |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 鎌田 美保 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1～TT01465a1, L科: LT01366a1～LT01370a1, D科・S科: IT01371a1～IT01375a1, J科: JT01374a～JT01378a1, W科: WT01352a1～WT01356a1 | | |

| 授業概要・目的 | コンビニ、工場、飲食店など、日本で働く外国人が増えています。また日本で学ぶ留学生も増えています。外国人を受け入れ、共生するには、何が必要でしょうか？このプロジェクトでは、まずは、日本に住む外国人住民、外国人労働者、外国人研修生、留学生などと交流し、彼らの声に耳を傾けます。そして、「共生」するには何が必要なのかを考え、課題解決に向けて取り組みます。(プロジェクト参加にあたり、英語力などの語学力は不問です。) | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | ①多文化共生をめぐる課題や外国人住民、外国人労働者がかかえる現状と課題を理解し、課題を自分事としてとらえることができる。 ②多文化共生をめぐる課題や外国人住民、外国人労働者がかかえる課題の解決に向けて、具体的な行動計画を立てたうえで、提案し、実施することができる。 ③異なる文化的背景を持つ多様な人々と対話し、相手の意見を尊重しながら、自身の考えを構築し、説明し、一定の合意形成を図ることができる。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | グループでの活動が中心となり、外部機関(寝屋川市国際交流協会)とも連携し、活動を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生の現状と課題 ・やさしい日本語 ・在住外国人との交流、インタビュー活動 ・寝屋川市国際交流協会多文化共生フェスタへの参加 <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生の現状と課題、やさしい日本語：講義+演習形式 ・その他の内容：グループで話し合い、活動を行う <p>【事後学習】</p> <p>受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらう。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | グローバル・シチズンシップ論(入門)、グローバルシチズンシップ論(応用) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 各活動への貢献度60%、活動日誌・最終レポート40% | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|---|---------|----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクトⅠ | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning I |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 吉田 佐治子・朝田 康禎 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B△,C科:II◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,J科:DP1◎,W科:DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1 | | |

| 授業概要・目的 | <p>プロジェクト名:音楽イベントを創ろう!</p> <p>【概要】 寝屋川市の地域交流センターであるアルカスホールの自主事業を企画から実施まで担当する。2022年度は、観客数50-60名程度の比較的小規模なコンサートについて、スタッフのご指導のもと、企画から出演者との交渉・経理・準備・実施・事後処理までを行う。</p> <p>【目的】 アルカスホールでは、毎年自主事業としてさまざまなイベントを企画・運営している。学生の発想・感覚を活かしたものにしたいとのことから、企画段階から学生の参画が求められている。指定管理者が行う自主事業運営に興味をもつ学生と現場スタッフが協働で事業を企画し、運営を行うことにより、企業がもつノウハウを学生が学ぶとともに、学生などの若い世代が参加できる自主事業を実現する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <p>【PBLプロジェクト到達目標(共通)】 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>上記に加えて、本プロジェクトでは以下のことも到達目標とする。 1. 市民のニーズを把握した上で自由な発想に基づき、新しい音楽イベントを企画・運営する。 2. 十分な準備を行った上でイベントを成功に導く。 3. イベント後の処理を適切に行う。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>連携先や学生同士など、人と関わりながら学ぶことが中心となる。積極的に関わることが求められる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>【授業計画】</p> <p>4月 ご挨拶 5月 企画会議 6月 自主事業内容の決定および出演交渉 7月 中間報告会 寝屋川市に報告、寝屋川市広報に記事掲載依頼 8月 チラシのデザイン作業 9月 チラシの印刷・配付およびチケット作成 10月 ポスターセッション チケット発売開始 11月 打ち合わせ(出演者、舞台スタッフ、学生関係者) 12月 最終報告会 準備および本番</p> <p>この他に「基礎講座」全9回を受講すること</p> <p>これらの活動を通じて、以下のことを身につける。 1. イベントがどのように企画・運営されているのか、体験的に知る。 2. 企画したイベントが実行されるまでのスケジュール管理を身につける。 3. 連携先・出演者との交渉をする中で、社会人として必要なマナーを身につける。 4. メンバー及び連携先とのディスカッションを通じて、「質の高い意思決定」ができるようになる。 5. 他のイベント等に活用可能な一般的な知識を得る。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | すべての科目 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 打ち合わせへの参加状況、プロジェクトへの貢献度、成果物などから総合的に判断する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | みなさまがこれからイベントを創り上げていくプロジェクトです。イベントの成功はみなさまにかかっています。主体的に取り組んでくださることを望みます。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 7号館3階(吉田) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|-----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクトⅡ | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning II |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 吉田 佐治子・朝田 康禎 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B△,C科:II◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,J科:DP1◎,W科:DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1 | | |

| 授業概要・目的 | <p>プロジェクト名:音楽イベントを創ろう!</p> <p>【概要】 寝屋川市の地域交流センターであるアルカスホールの自主事業を企画から実施まで担当する。2022年度は、観客数50-60名程度の比較的小規模なコンサートについて、スタッフのご指導のもと、企画から出演者との交渉・経理・準備・実施・事後処理までを行う。</p> <p>【目的】 アルカスホールでは、毎年自主事業としてさまざまなイベントを企画・運営している。学生の発想・感覚を活かしたものにしたいとのことから、企画段階から学生の参画が求められている。指定管理者が行う自主事業運営に興味をもつ学生と現場スタッフが協働で事業を企画し、運営を行うことにより、企業がもつノウハウを学生が学ぶとともに、学生などの若い世代が参加できる自主事業を実現する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <p>【PBLプロジェクト到達目標(共通)】 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>上記に加えて、本プロジェクトでは以下のことも到達目標とする。 1. 市民のニーズを把握した上で自由な発想に基づき、新しい音楽イベントを企画・運営する。 2. 十分な準備を行った上でイベントを成功に導く。 3. イベント後の処理を適切に行う。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>連携先や学生同士など、人と関わりながら学ぶことが中心となる。積極的に関わることが求められる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>【授業計画】</p> <p>4月 ご挨拶 5月 企画会議 6月 自主事業内容の決定および出演交渉 7月 中間報告会 寝屋川市に報告、寝屋川市広報に記事掲載依頼 8月 チラシのデザイン作業 9月 チラシの印刷・配付およびチケット作成 10月 ポスターセッション チケット発売開始 11月 打ち合わせ(出演者、舞台スタッフ、学生関係者) 12月 最終報告会 準備および本番</p> <p>この他に「基礎講座」全9回を受講すること</p> <p>これらの活動を通じて、以下のことを身につける。 1. イベントがどのように企画・運営されているのか、体験的に知る。 2. 企画したイベントが実行されるまでのスケジュール管理を身につける。 3. 連携先・出演者との交渉をする中で、社会人として必要なマナーを身につける。 4. メンバー及び連携先とのディスカッションを通じて、「質の高い意思決定」ができるようになる。 5. 他のイベント等に活用可能な一般的知識を得る。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | すべての科目 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 打ち合わせへの参加状況、プロジェクトへの貢献度、成果物などから総合的に判断する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | みなさまがこれからイベントを創り上げていくプロジェクトです。イベントの成功はみなさまにかかっています。主体的に取り組んでくださることを望みます。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 7号館3階(吉田) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|---|---------|----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクトI | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning I |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 増田 知也, 長田 武 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1 | | |

| 授業概要・目的 | 自治会等において、LINEによる情報共有が主流となりつつあるが、全員が活用できていない状況がある。本プロジェクトでは、学生が中心となってLINE等のSNS活用方法の説明会を開催し、地域コミュニティのデジタル化および世代間の交流を実現することを目指す。 SNSという新たなコミュニケーションの方法を活用することにより、コロナ禍における地域活動の閉塞状況を打開し、地域コミュニティの活性化につなげることが目的である。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------|--|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 定期的に会議を開催し、プロジェクトの進捗や課題について確認しながら、プロジェクトの目的達成を目指す。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題 | 4月 オリエンテーション 5月 寝屋川市・自治会との打ち合わせ 6~7月 説明会準備 8~9月 説明会実施 10月 ポスターセッション 11月 最終報告会準備 12月 最終報告会 説明会では、SNSの使い方やセキュリティについてプレゼンテーションを行った上で、参加者との座談会形式でSNSの使い方に親しんでもらう。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 主体性 25% 協調性 25% 課題発見・解決力 25% プロジェクトへの貢献 25% | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|---|---------|-----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクトII | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning II |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 増田 知也, 長田 武 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1 | | |

| 授業概要・目的 | 自治会等において、LINEによる情報共有が主流となりつつあるが、全員が活用できていない状況がある。本プロジェクトでは、学生が中心となってLINE等のSNS活用方法の説明会を開催し、地域コミュニティのデジタル化および世代間の交流を実現することを目指す。 SNSという新たなコミュニケーションの方法を活用することにより、コロナ禍における地域活動の閉塞状況を打開し、地域コミュニティの活性化につなげることが目的である。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------|--|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 定期的に会議を開催し、プロジェクトの進捗や課題について確認しながら、プロジェクトの目的達成を目指す。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題 | 4月 オリエンテーション 5月 寝屋川市・自治会との打ち合わせ 6~7月 説明会準備 8~9月 説明会実施 10月 ポスターセッション 11月 最終報告会準備 12月 最終報告会 説明会では、SNSの使い方やセキュリティについてプレゼンテーションを行った上で、参加者との座談会形式でSNSの使い方に親しんでもらう。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 主体性 25% 協調性 25% 課題発見・解決力 25% プロジェクトへの貢献 25% | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | |